

ブラジル日本商工会議所 70 年記録集

ブラジル日本商工会議所

70 周年記念委員会

はじめに

ブラジル日本商工会議所は、2010年5月29日に創立70周年を迎えました。今日まで、途中第二次大戦による10年間の活動休止など紆余曲折を経ながらも、海外で最も歴史のある日本商工会議所として今日まで活動を継続してきています。創立当初40社余りだった会員数も、2010年8月現在315社を超え、日本でのブラジル・ブームも手伝ってその活動は拡大の方向にあります。

ところが4分の3世紀近くにわたる活動も、現在までひとつの記録として纏められたことがなく、先輩諸氏の軌跡を振り返ることは容易ではありませんでした。こうした事情から、2009年6月の常任理事会において、創立から現在までの活動記録集の作成が最終的に決定されました。本件は、同年9月の臨時理事会兼総会で事業並びに予算の承認を経たのち、約1年をかけて当委員会および事務局で編纂作業をすすめ、このほど刊行にこぎつけたものです。

ただ、古い資料が残っていないケースや、あっても年代が明確ではないデータなどがあり、内容的には不十分な面があることは否めません。また、本記録はあくまでも各年の活動を一覧できるようにしたもので、各活動の背景、評価、考察などを加えて編集した所謂商工会議所史ではありません。その点はご了承ください。

なお、本冊子の構想段階でご協力頂きました田中信前会頭、特に活動歴、約40年の山田唯資前監事会議長には各種原本である「機関紙」や「事業報告書」等との照合チェックや校正および監修もお願いし、大変なご尽力を頂きました事に対し厚くお礼申し上げます。また、膨大な資料をわかりやすく整理、提供し側面的な校正および監修作業にも携わった柴田千鶴子事務局長補佐、平田藤義事務局長のご尽力に、さらに、編纂業務を引き受けていただきましたサンパウロ新聞社鈴木雅夫社長に感謝申し上げます。

2010年8月

ブラジル日本商工会議所
中山立夫会頭（ブラジル三井物産）
70周年記念委員会
和田亮委員長（ブラジル日本通運）
佐々木光前委員長（ジェットロ、2010年6月離任）
鈴木徹副委員長（電通）
檀上誠副委員長（日本経済新聞社）
原宏（ジェットロ）

1940年

1939年9月1日、ドイツ軍のポーランド侵攻で口火を切った第2次世界大戦は、世界中を巻き込む気配を濃厚にしていた。一方で、資源確保を急務とした日本政府は南米との貿易拡大を着々と進めていた。

そのきっかけとなったのが、関西経済界の重鎮だった平生釰三郎（ひらお・はちさぶろう）氏を団長とした経済使節団の来伯だった。1935年5月から6月にかけてブラジルを訪問した同使節団は、貿易拡大を目指し調査を行ない、綿輸入に活路を見いだした。

同経済使節団の帰国報告を聞き、日本から三井物産、兼松江商、伊藤忠、ブラスコット、ブラ拓商事、南米綿花などの企業がブラジルに進出し、綿の買付け、日本への輸出に力を注いだ。

その結果、ブラジルから日本への輸出額が、35年に15万8098ポンドだったものが36年168万3106ポンドと10倍に拡大、その後も37年212万2106ポンド、38年165万601ポンド、39年202万9583ポンドと飛躍的に伸長した。

こうした動きに対し、サンパウロの日系企業が団結し商業会議所設立の機運が盛り上がっていった。

『第1回総会蜂谷専一氏開会の辞 1940年8月16日』を一部抜粋

各位には、本夕御多忙中にも拘らず多数ご出席くださいます厚く御禮申し上げます。

創立されました商業会議所は従来の商工組合の改組強化されたものであります。

組合は1926年の暮、雑貨輸入商八軒が、同業者の親睦を深くし、商売上の軋轢を防ぎ協力して商業の発展を主旨として、梅田氏の斡旋に依りまして幹事の廻り持ちということにして誕生しました。27年に各商工業者の方々の賛意を得まして加入者の増加を見て、商工組合として毎月1回会合して組合員の団結を取って居りました。

35年の経済使節団平生釰三郎氏一行の来伯を契機とした日伯貿易の拡大と共に、機構を強化する必要を感じ、商業会議所の設立準備に着手し、本年（1940年）5月29日付聖州官報で公表され、直ちに登記手続きを完了いたしました。

また、ナショナリズムに高調されている折柄ですから万全を期するため木下弁護士を7月31日にリオに派遣いたします。司法省の意見を聞くため司法大臣秘書官ドートル・エルナニ・レース氏に面会して法的見地から商業会議所の機構について聞きましたところ、「本年1月提出した法的見地はもっともで

あり、自分もそれで同意である。商業会議所は外国人団体取締法の適用を何等受けるものではない。——（省略）——」との言明であって、以上何等の手続きを必要としない。

母国政府（日本政府）においても（商業会議所設立に）非常に乗気となり、「一日も早く速やかに実行に移して機能を発揮せよ、政府としても極力援助する」との申達に接しまして準備もこれで整い、創立の実行に決したような次第でございます。

事務所をブラッサ・ジョン・メンデス 154 の 5 階 51、52、53 の 3 室に借り入れて（8 月）12 日から事務を開始しました。

現役員は離職致しまして、選挙によって新役員を選任されたいと思います。

40年度役員名簿（1940年10月1日現在）

会頭	蜂谷専一（蜂谷輸出入商会）
副会頭	後藤武夫（カーザ東山）
第一会計理事	渡邊儀平
第二会計理事	杉本芳之助
機械金物部理事	高田透（三井物産会社）
繊維部理事	後藤武夫（カーザ東山）
綿花部理事	岡崎孝一（日伯綿花会社）
雑貨部理事	北川節也（小西商会）
仲買及小売業部理事	遠藤常八郎（遠藤兄弟商会）
工業部理事	大河内辰夫（大河内薬化学研究所）
交通運輸部理事	欠田豊次郎（大阪商船会社）
金融業部理事	加藤好之（ブラ拓商事部）

会員企業（1940年9月12日現在、51会員）

1. 蜂谷商会	28. 菅山商店
2. 日本毛織会社	29. 大原商会
3. 兼松商店	30. 越後山崎商会
4. 辻信一郎	31. 難波商会
5. 伊藤忠商事会社	32. 草野文具店
6. 波魔商会	33. 東洋書店
7. 杉本家具店	34. 市村観治
8. 原商会	35. 渡邊儀平
9. 日立製作所	36. 間宮商店
10. 太田・河野商店	37. 日伯綿花会社

11. 中尾熊善	38. 南部綿花会社
12. シヤ・リベイラ山西干男	39. ブラ拓商事部
13. 上坂健一商会	40. 日本綿花会社
14. 藤原久人事務所	41. 羽瀬商店
15. 大村商店	42. 西谷商会
16. 中村市司	43. 海興商事部
17. 小笠原太陽堂	44. 末崎商店
18. 北野ガラン	45. 梅田商店
19. 貿易幹旋所	46. 藤平運動具店
20. 小西商会	47. 南米堂書店
21. カーザ・東山	48. 大河内薬科学研究所
22. 三井物産会社	49. 富士屋運動具店
23. 大阪商船会社	50. シヤ・ツピー組合
24. 遠藤書店	51. 山本勝造
25. 國井商店	
26. 伊藤陽三商店	
27. 瀬木商会輸入部	

40年度事業報告

主な行事

- 5月29日 商議所設立許可が聖州官報で公表（同日または後日登記手続きは完了）
- 8月9日 理事会（おそらく、商工組合役員による）
- 8月12日 商議所の事務事業を開始
——サンパウロ市プラッサ・ジョン・メンデス 154 の5階 51、52、53号室に事務所を構える
- 8月16日 第1回総会（於・日本倶楽部）
- 9月16日 役員会（於・日本倶楽部）
- 9月27日 第1回臨時総会（於・日本倶楽部）
- 10月23日 伯亜協定対策綿布糸特殊部門会議
- 10月25日 名古屋中南米見本展示会出品者一行懇談会
- 10月29日 第2回役員会
- 12月16日 プラーク駐在の中村総領事中心懇談会

1941年

1941年6月のドイツによるソ連攻撃と12月の日本の英米との開戦によって、戦火は文字通り全世界に拡大した。このような状況下で日本政府は商工省が調査団を南米に派遣した。ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ各国の状況視察が主目的で、高吉友次氏を団長とした合計6人の調査団だった。

同調査団は3月初旬にブラジル入りし、連日のようにサンパウロ日本商業会議所と会議、懇談を重ねた。会議内容は、ブラジルの工業、農業、商業の現状からブラジルの貿易政策、金融及び為替、国家財政、外国投資の状況、移民に関する問題など幅広いテーマだった。

また、日伯両国間の貿易についても取り上げられ、「日本製品に対する欠陥や苦情、その防止策、将来性、日本製品の輸出開拓の可能性などについても討議された。

さらに、世界の時局を睨んだ意見交換も行なわれた。「欧州戦乱の影響とブラジルの現状」「欧州品市場に割り込みの具体案」「ブラジルを中心とした第三国貿易」「ブラジルへの進出具体案」などがテーマとして取り上げられた。

同使節団と本商業会議所の会議議事録が保存されており、その内容を読む限り3月の時点で日本が世界を相手に戦争に突入する切迫感が感じられない。それよりも、経済交流の進展を模索していることがうかがえる。

その一方で、日系社会にも戦争の足音が刻々と迫っていた。7月末から8月にかけてブラジルで発行されていた邦字新聞が相次いで停刊や廃刊に追い込まれ、12月初旬には日本からの最後の郵便物がまとまって到着するなどブラジルの日本人社会は風雲急を告げていた。

そして、12月7日（日本時間8日）、日本軍のハワイ真珠湾攻撃によって太平洋戦争に突入、本会議所の運営も停止状態に追い込まれた。

翌42年に入り、1月28日ブラジルはドイツ、イタリアと国交断絶し、連合軍への参加を決定した。2月にはドイツ潜水艦にブラジル商船が撃沈されたのを皮切りに次々と商船が攻撃され沈没したため、8月31日付けでブラジルは、日本、ドイツ、イタリアに宣戦布告し、戦争状態に突入した。

41年度事業報告

主な行事

1月29日	アルゼンチン駐在の細川通訳官懇談会
2月12日	地方代表懇談会
3月4日	商工省調査団歓迎会
月6日	商工省調査団協議会

3月7日	商工省調査団農畜産部門会議
3月7日	商工省調査団繊維部門会議
3月8日	商工省調査団化学薬品部門会議
3月10日	商工省調査団機械部門会議
3月10日	商工省調査団雑貨部門会議
3月13日	商工省調査団特殊部門会議
3月19日	商工省調査団総合会議

※ 太平洋戦争勃発のため1942年1月22日付の本会議所役員会の決定により商議所の活動は停止、1951年の再開まで空白期間。

1951年

第2次世界大戦によって中断されていた日伯貿易が終戦後再開され始めたのは1948年だった。当時、両国間には貿易に関した協定が何もなく、対日輸出は主に外国商社を通じて行なわれていたに過ぎず、対日輸入品も日本人移住者が購読していた書籍雑誌類程度であった。対日輸出品は、ひまし種子、綿花、雲母などが試験的に取り扱われていただけに過ぎない。

その後も両国間に貿易協定が無いまま推移したが、49年6月2日貿易支払暫定取決めが締結され、この後、貿易量が格段に多くなった。

50年、51年の日伯貿易は活発化し、ことに対日輸出が増加した。この理由は、日本が本格的にブラジル綿の購入を始めたからで、輸出産品の内訳は次のようになっている（数字の単位は1,000クルゼイロ）。綿花（191,966）、皮革類（5,974）、カルナウーバ蠟（588）、ココア豆（359）。この数字からわかるように、綿花が対日輸出額の96%を占めていた。

一方、対日輸入は、電気銅（8,481）、ミシン（4,681）、真鍮ならびに銅合金（1,014）、鉄管類（995）、アルミ塊（455）、鉛塊（715）、毛糸（659）、書籍雑誌類（637）、陶磁器類（465）、砒酸鉛（3,565）などで、戦前の対日輸入が生糸及び雑貨類で占められていたのに反し、機械類、金属製品などの増加が目立った。

51年に対日輸入が急増したのには理由がある。ブラジルが輸入統制の手を緩め、日本のみならず各国から大量の物資を購入したからだった。その結果、ブラジルは対外貿易において膨大なアンバランスを記録し、もちろん、対日貿易についてもブラジルの入超となって現れた。

ブラジルの対日貿易（1948年～51年）

（単位：1,000ドル）

年別	輸出（FOB）	輸入（CIF）	輸出対輸入%
1948年	875	28	+87
1949年	1,925	137	+92
1950年	10,847	1,287	+89
1951年	16,450	21,052	-32

（出所：ブラジル経済年鑑1957年版562頁・ブラジル日本商業会議所編）

会議所活動の再開

第 2 次世界大戦の影響で閉鎖状態にあったサンパウロ日本商業会議所は、1951 年、再開に向け動き出した。まず、再開の主導権を握ったのは、サンパウロ日本政府在外事務所（所長・野崎正勝氏）だった。同在外事務所は、サンパウロ市内の日系商社関係先に日伯貿易の振興と日本商業会議所に関する懇談会開催の通知書を 3 月 10 日付けで送付した。

3 月 14 日、同在外事務所で開催された同懇談会には商社関係者 29 人が出席した。懇談会では、出席者から商業会議所再開の意見陳述が述べられ、講和条約成立以前に再開することは時期尚早とする人が数人いたものの、出席者の大多数は時期尚早ではなく、むしろ遅いぐらいだと言う意見でまとまった。そして、この機会に基盤を堅固し再出発し、連絡調査機関としての使命の重要性が満場一致で採択され、5 人の準備委員が選ばれた。

選挙の結果、準備委員に就任したのは、宮坂国人、羽瀬作良、山本勝造、破魔六郎、橋本重喜の各氏。5 氏は懇談会終了後、直ちに準備委員会を開催し、名称を「日本商業会議所準備委員会」とすること、必要に応じて委員会を招集すること、設立時期は日伯貿易促進のため一日も早く設立すること、機構の内容は広範囲にわたり商工業者を包括し日伯合同の会員組織とすること、外国商業会議所の各定款を収集し、参考として定款を作成することの 5 項目を申し合わせ事項として確認した。事務所については、準備段階ということでサンパウロ日本政府在外事務所の一室を野崎所長の好意で借り受けた。また、会員獲得に動くため、会費は月額 100 クルゼイロと決定された。

同準備委員会は、3 月 16 日から加入会員の勧誘を始めると同時に外国商業会議所を訪問し、活動内容の調査とともに定款を収集した。4 月 27 日には第 2 回準備委員会を招集し、それまでに作成した定款の審議を行ない承認にこぎ付けた。

また、設立資金は、各委員が 2000 クルゼイロを拠出することで合意した。その後、定款を登録し、6 月 2 日付けサンパウロ州官報で公告され、サンパウロ日本商業会議所は正式に再発足した。

そして、6 月 27 日、第 1 回定期総会が 31 人の出席と 6 通の委任状で行なわれた。席上、準備委員会から正式発足までの経緯が報告され、6 月 22 日に事務所を在外事務所と同じビルの 8 階に賃貸料月額 1700 クルゼイロで借り上げたこと、会員数が 77 人（サンパウロ市内 68 人、地方 9 人）であることが発表された。

その後、役員選挙が行なわれ、役員が決まった。

役員名簿（1951年6月27日）

理事会

会 頭：宮坂国人（南米銀行）
副 会 頭：羽瀬作良（羽瀬商会）
理 事：破魔六郎（破魔商会）
理 事：山本勝造（山本商会）
理 事：城島慶次郎（城島商会）
第一会計：後藤武夫（カーザ東山）
第二会計：竹中儀助（竹中商会）

（1951 年 6 月 27 日開催の第 1 回定期総会議事録より）

5 1 年度事業報告

主な行事

3 月中旬 商業会議所の準備に着手
6 月 17 日 第 1 回総会開催
——役員選挙、定款作成など
7 月 18 日 第 1 回理事会
7 月 25 日 第 2 回理事会
8 月 外国商業会議所に加盟状を提出、後日加盟承認状が届く
8 月 第 1 回貿易対策委員会開催
11 月 12 日 第 2 回貿易対策委員会開催
12 月 11 日 日伯通商協定の具申書を提出

1952年

1952 年は、北東伯地域で大干ばつが続き、住民の多くが東南部の都市部に流入した。また、財政的インフレによる物価高騰が起こり、庶民の生活を圧迫し始めた年でもあった。

こうした中で日伯間の状況を見ると、日伯間支払取決めは、49 年 6 月 2 日、連合国最高司令官とブラジル銀行との間に締結された支払取決め条項を、52 年 4 月 2 日、平和条約発効後に適用することを暫定的に取り決めたものである。

その内容は、(1) 主にオープン勘定制運用に関する取決めで貿易計画を伴っていない、(2) 日本側の輸出先行主義を規定し、スイング条項もない、(3) 一勘定制でブラジル側が正勘定を保持している、など日本側にとって満足な取決めではなかった。

一方、日本と競争しているイギリス、ドイツ、イタリア、フランスなどがブラジルと対等な協定を締結し、ブラジル市場開拓に力を注いでいることを目の当たりにし、日伯間に正常な貿易及び支払取決めを早急に締結する必要性に迫られてきた。

このため、日本は平和条約の締結を待つことなく、係官をブラジルに派遣し、49 年 4 月 30 日以降ブラジル政府との間に協力協定締結交渉を開始した。そして、同年 9 月 12 日、貿易及び支払に関する両国間の通商協定が締結された。

貿易取決めに関しては、最初に貿易計画が検討され、日本側は当初少なくとも往復 9000 万ドル以上の計画を期待した。しかし、当時のブラジル物資割高による買い付け難などの諸事情を考慮して輸出 3300 万ドル、輸入 3560 万ドルの往復 6910 万ドルに落ち着いた。この計画は、旧勘定上の日本側出超分をブラジルからの輸入により 1 年間に相殺するように算定された日本側入超の不均衡貿易計画であった。

貿易取決めの規定については特に問題視された事項はなく、日本からの船舶、発電設備そのほか機械類に関する長期的契約の履行を確保するための特別規定を設けるなど、日本側の提案がほぼそのまま採択されている。

52 年の両国間貿易をみると、ブラジルの外貨事情が極度に悪化し、輸入規制をすることになった。しかし、前述のように日本とブラジルとの間には正式の貿易取決めがなく、対日輸出が増加しても対日輸入は一方向的に制限されると状況で、ブラジルの対日貿易バランスは次第に出超額を高めていった。

この結果、両国間のアンバランスを是正し、日伯貿易の正常化を図るために日伯通商協定が締結された。しかし、通商協定締結後も、対日輸入の統制は緩和されず、依然として同じ状態が続いた。一方、日本側は通商協定に基づく貿易計画を遵守し、正常な買い付けを続けた。その結果、52 年末の入超約 100

万ドルから、翌年の 53 年 6 月には一躍 1300 万ドルの出超に転じた。

役員名簿

理事会

会 頭：羽瀬作良（羽瀬商会）
副 会 頭：山本勝造（山本商会）
理 事：破魔六郎（破魔商会）
理 事：泉田行敏
理 事：今井繁義（今井商会）
会計理事：東山銀行
会計理事：南米銀行

5 2 年度事業報告

総 会

4 月 9 日 臨時総会
5 月 27 日 第 2 回定期総会

理 事 会

1 月 9 日 定例理事会
3 月 7 日 定例理事会（於・ファザーノ）
6 月 6 日 第 1 回理事会
——商議所の今後の運営方針について
7 月 2 日 定例理事会
——羽瀬会頭が日伯通商協定の状況について説明
8 月 21 日 定例理事会
——羽瀬会頭よりリオの事情について説明
10 月 2 日 定例理事会
11 月 7 日 定例理事会
12 月 5 日 定例理事会

主な行事

3 月 11 日 第 4 回貿易対策委員会
3 月 16 日 リオ見本市開会式
3 月 29 日 通商協定使節団との懇談会

4 月 15 日	貿易対策委員会開催
4 月 28 日	リオより来聖した工業使節団の歓迎会（於・トキワ）
9 月 12 日	原代理大使と伯国フォントーラ外相間に日伯通商協定に関する外交文書が交換され、日伯通商協定が成立する
9 月 29 日	君塚大使着伯、羽瀬会頭が出迎えへ
10 月 24 日	日伯促進貿易懇談会

1953年

1950年12月の選挙でブラジル史上最初の直接選挙で大統領に就任したゼツリオ・バルガスは、かつての独裁的な手法からポプリズモ的な左翼民族主義路線を敷いた。反帝国主義と経済の民族化を掲げ、53年10月には国営石油公社ペトロブラスを設立したことで知られる。

しかし、53年になり、1月早々に政治・社会秩序防衛法を成立させ、集会の自由を剥奪するなど強権を発動した。3月になってサンパウロの労働運動が激しくなり、騒然とした空気に包まれるようになった。3月10日、サンパウロで8000人の繊維労働者がデモ行進、同18日には物価上昇に抗議する6万人が空鍋を叩きながら行進、同26日には、繊維労働者6万人がゼネストを決行。4月に入って、9日に2万人が参加するデモ行進、ゼネスト支持を訴える。このとき、銃による弾圧により2000人が逮捕された。このことが引き金となり、10日には労働組合連絡会議が結成され、スト参加者は30万人に拡大した。

この労働運動を鎮圧するため、労相を更迭、グラールが労相に就任。アルゼンチンのペロンが行なった低賃金を倍増するなど急進的政策を実施した。

その一方で、通貨信用管理庁(SUMOC)、輸入為替競売制を導入し、輸入代替工業化を促進した。さらに、国家発展評議会を設置し、産業成長の強化策の検討を開始したが、慢性的インフレ、輸入超過と輸出停滞、低い生産性などで成果をあげることはできなかった。

日伯貿易に目を転じると、10月にSUMOCは指令70号を發布し、ブラジルの貿易政策に画期的な改変を加えたことで当時の日伯貿易のアンバランスが解消されるきっかけとなった。

また、53年は日本とブラジルにとってエポックメイキングの年となった。第2次世界大戦勃発後、途絶えていた日本からブラジルへの移住者送出が再開されたのである。日本政府は終戦後、いち早く海外移住を模索したが、米国駐留軍が認めず、再開が難航していた。しかし、民間ベースでの移住再開を目指し、ブラジルのアマゾン地域に居住していた辻小太郎氏、パラナ州在住の松原安太郎氏がゼツリオ・バルガス大統領との親交があったことからそれぞれ3000家族の移住枠をもらい、移住再開にこぎつけた。同年12月、辻小太郎氏がバルガス大統領との間に締結したアマゾン移民の第1陣53家族・145人が神戸港を出港し、新たな移住者の呼び寄せが始まった。

そして、移住者ばかりでなく、日本企業が進出を前提とした調査のためにブラジルを訪問するケースが増加しはじめた時期でもあった。サンパウロでは、すでに農産物加工、陶磁器製造、時計その他の機械工業などの分野で日本人の活躍が目立っていたが、資本と経験不足のため欧米系企業に比較し規模が小さ

く、中小企業の域を脱することができなかった。このため、日本企業のブラジル進出に関しては、ブラジル在住の日本人、日系人が熱望するような機運になっていた。

役員名簿

理事会

会 頭：羽瀬作良（羽瀬商会）

副 会 頭：山本勝造（山本商会）

会計理事：東山銀行

会計理事：南米銀行

※特定名称なき理事 3 名の氏名不詳

1954年

1954 年は政治危機に見舞われた。軍部内でゼツリオ・バルガス大統領への不満が高まり、2 月には陸軍クラブ議長選で反バルガス派が再び勝利。軍幹部 82 人が最低賃金法反対の意見書「佐官の声明」を国防相に手渡すなど、不穏な空気が広がっていった。

8 月に入り、反バルガス大統領派の急先鋒だったカルロス・ラセルダがバルガス大統領側近に襲われ、同行していたルーベンス・バス空軍少佐が射殺されるという事件が起こり、一挙に緊張が高まった。この直後、空軍将校らがバルガス大統領の退陣勧告を決議すると海軍もこれに呼応し、急速に反バルガス包囲網が活動を活発化させた。

こうした動きにバルガス大統領も 8 月 23 日辞任を決意、後任にカフエ・フイーリョ副大統領が大統領に就任した。翌 24 日、バルガスは大統領官邸内でピストル自殺を遂げた。バルガスの遺体はサントス・デュモン空港に運ばれたが、50 万人が葬儀デモに参加すると言う異例の事態に発展した。

一方、サンパウロでは、この年、市制 400 年を記念して様々な催しが行なわれ、各国の首脳が慶祝に訪れた。日本からは 10 月に岡崎勝男外務大臣がサンパウロ市制 400 年祭慶祝使節団団長として来伯した。また、第 1 回サンパウロ市国際見本市が開催され、日本からも次のような陣容で、同見本市に参加、出展した。出展商社数 73、出品点数 5,000、個数 459 箱、重量 578 トン、金額 285,000 ドル。展示面積はドイツ、イタリアについて第 3 位と力を入れていることがわかる。

日本からの来伯者も年々増加の一途を辿り、企業の市場調査が増加した。11 月には愛知県名古屋市の名古屋商工会議所が派遣した名古屋中南米派遣調査団が到着、ブラジル日本商工会議所とも懇談し、様々な角度から日伯貿易について意見交換を行なった。

こうした市場開拓を目的に来伯した人たちは、ブラジルは従来の消費財を中心とする輸出は永続性がないことを知った。すでに、欧米諸国の企業がブラジルに大挙して進出を図っていることからみて日本の企業も速やかに進出しなければその市場を失うことを知ったのである。

日伯貿易面から見ると、1954 年はこれまでにない活況をみた。これは、前年、ブラジルが実施した貿易政策の改変のためだった。1953 年末 900 万ドルを記録した対日出超は 1954 年 2 月にはわずか 400 万ドルの残高を残すのみとなった。つまり、日本品の対伯進出増大だった。7 月 14 日付臨時総会の決定で従来のサンパウロ日本商工会議所の名称をブラジル日本商工会議所に変更した。

役員名簿

顧問弁護士：平田進

理事会

会 頭：羽瀬作良（羽瀬商会）
副 会 頭：山本勝造（山本商会）
第一会計理事：深谷文雄（東山銀行）
第二会計理事：鷲塚時哉（南米銀行）
理 事：藤平正義（シブラン）
理 事：畠山道生
理 事：竹中正

5 4 年度事業報告

総 会

5 月 20 日 第 4 回定期総会
7 月 14 日 臨時総会
・ 定款の改正
・ 拡充強化に関する特別寄付
・ ブラジル経済情報の発行

理 事 会

8 月 3 日 第 5 回理事会
8 月 27 日 第 7 回理事会
10 月 2 日 第 8 回理事会
10 月 11 日 第 9 回理事会
10 月 13 日 岡崎外務大臣を団長とした聖市 400 年祭慶祝使節団来聖
10 月 29 日 第 10 回理事会

主な行事

8 月 5 日 聖市 400 年祭連絡会議
8 月 12 日 議員団歓迎懇談会（於・ニテロイ食堂）

9月3日	見本市懇談会
9月10日	大阪商船ぶらじる丸レセプション
9月22日	田中龍夫衆議院議員来訪
10月1日	第1回ブラジル経済情報（日本語版）を発行
11月6日	日本商工会議所に加入
11月15日～	第1回聖市国際見本市
12月19日	

機関誌『ブラジル経済情報』（54年主要記事）

10月1日	1号	輸出奨励金の制度の改正
10月15日	2号	金属対日輸入採算について一商談を阻むアジオの高騰一
11月1日	3号	北伯を救うもの「パウロ・アフォンソ発電所」
11月15日	4号	ブラジルの石油問題
12月1日	5号	サンパウロ州の鉄道
12月15日	6号	伯国産薄荷の市場条件

1955年

1955 年、サンパウロ市は首都リオデジャネイロを抜き、ブラジル最大の都市となった。商業都市として発展を続けるサンパウロへの人口流入が激しくなってきた証拠といえる。政治は相変わらず不安定で、共産党の台頭が目立っていた。こうした中で 10 月に大統領選挙が行なわれ、ジュセリーノ・クビチェックが次期大統領に当選した。

ブラジルは、慢性的なインフレに悩まされていたが、55 年は 50 年～54 年の 5 年間の平均をはるかに上回る物価高騰に悩まされた。政府はインフレ対策を打ち出さなくてはならなかったが、貨幣増発と供給される資材及び労務の量との不均衡の板ばさみに打つ手が無いというのが実情だった。

55 年度の財政をみると、収入は 556 億 7100 万クルゼイロで当初予算より 21 億 8900 万クルゼイロ収入増となった。支出額は 632 億 8700 万クルゼイロで予算額より 76 億 2000 万クルゼイロの減少となった。

対外貿易をみると、輸出は過去最高を記録した。輸出量総計は、618 万 6066 トン、価格 545 億クルゼイロ。この数字を前年と比較すると、輸出量においては 44%の増加で、価格面でも 27%増となった。しかし、ドルベースの収益を見ると、過去 3 年間のうち、最低となった（1953 年＝15 億 3900 万ドル、1954 年＝15 億 6100 万ドル、1955 年＝14 億 2300 万ドル）。この理由は、輸出のトン当たり平均価格が 364 ドルから 230 ドルと 37%下落したため。輸入をみると、輸入規制を厳しくしたことから減少した。もっとも減少したのは原料と装備資材で、原料輸入総量は対前年比 38%減となり、装備資材も 17%の減少となった。その一方で燃料、小麦などが輸入増となった。

日伯貿易に目を向けると、ブラジルの対日輸入額の総額は 4508 万ドル、対日輸出額は 5621 万 4000 ドルと出超だった。対日輸入の内訳は次の通り。1 位＝車両（753 万 4000 ドル）、2 位＝ブリキ板（467 万 4000 ドル）、3 位＝銅（373 万 6000 ドル）。続いて、鋼板、鋳鉄及び鋳鉄製品、ミシン付属品などとなっている。対日輸出の内訳は、1 位＝綿花（3340 万ドル）、2 位＝粗糖（1042 万 6000 ドル）、3 位＝大豆（423 万 6000 ドル）と圧倒的に綿花が多く、対日輸出の約 60%を占めていた。

日本企業は、進出のために市場調査を繰り返し、進出の機運が高まりつつあった。こうした中で、この年、ブラジルに進出したのは、ブラジル物産会社（三井物産系、後にブラジル物産有限公司、1 月）、東洋紡（Fiação Extra Fina de Algodão Ltda. を買収、4 月）、日本貿易振興会（ジェトロ、11 月）だった。

役員名簿（任期：55 年 5 月 23 日～）

顧問弁護士：平田進

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）
副 会 頭：竹中儀助（竹中商会）
会計理事：深谷文雄（東山銀行）
会計理事：鷺塚時哉（南米銀行）
理 事：畠山道生（プラスコット）
理 事：藤平正義（シブラン）
理 事：山本勝造（山本商会）
理 事：鈴木盛造（イッペー商会）
理 事：花城清安（花城商会）

55 年度事業報告

総 会

5 月 23 日 第 5 回定期総会

理 事 会

1 月 14 日 第 13 回理事会
2 月 25 日 第 14 回理事会
4 月 2 日 第 15 回理事会
5 月 9 日 第 16 回理事会
5 月 20 日 第 17 回理事会
5 月 27 日 第 1 回理事会（※以下番号システム変更）
7 月 22 日 第 2 回理事会
8 月 2 日 第 3 回理事会
9 月 21 日 第 4 回理事会

- ・ 見本市展示商品に対する手数料の件
- ・ 会議所引き受け見本市展示品の処分に関する件
- ・ 事務所移転の件
- ・ 職員の補充及び待遇に関する件
- ・ 邦文タイプライター購入に関する件

・ 山際輸出入銀行総裁の歓迎会に関する件
12月7日 第5回理事会

主な行事

1月6日 聖市第1回国際見本市閉会
6月4日 安東大使歓迎会（於・ニテロイ）
10月10日 日本輸出入銀行山際正道総裁との懇談会

機関誌『ブラジル経済情報』（55年主要記事）

1月1日	7号	55年度棉花最低価格問題
1月15日	8号	農業為替1億5千万ドル
2月1日	9号	伯国紡織工業の歩み
2月15日	10号	現行輸入許可制度の延期、ブラジル海運界の概貌
3月1日	11号	伯国工業界展望
3月15日	12号	石油製品の値上げ問題、ブラジル漁業現下の問題
4月1日	13号	伯米通商貿易の総勘定—35年間の差引残高20億ドル
4月15日	14号	1954年度伯国総輸出物資一覧表
5月1日	15号	ブラジル工業製品の輸出、ブラジルの綿花事情
5月15日	16号	金融抑制政策の変更—通貨信用管理局指令116号—
6月1日	17号	昨年度連邦実行予算、伯国主要物産輸出国表
6月11日	特別号	1954年の回顧—伯国経済財政展望—、日伯貿易概況
6月15日	18号	ブラジルのゴム工業、ブラジル米の買付は可能か
7月1日	19号	珈琲政策の基本問題、輸入商品表の全面的改正
7月15日	20号	伯独新通商協定締結成る＝多角貿易制の採用が重点
8月1日	21号	為替改革問題と新聞論調、伯独新通商協定の内容
8月15日	22号	伯国農業の実態調査、伯国コロンビア間、珈琲問題
9月1日	23号	大蔵省声明を巡る為替改革問題、商事会社の営業成績
9月15日	24号	ブラジルの交通問題、伯国の輸出を妨げるもの
10月1日	25号	伯国鉱産物の輸出状況
10月15日	26号	為替改革ならず—蔵相遂に辞任—、インフレイショ

ン下の投資

11 月 1 日	27 号	ブラジルの水上交通問題、ペトロブラスの実態
11 月 15 日	28 号	ブラジル綿の輸出問題、伯国重工業の経済的位置
12 月 1 日	29 号	伯国珈琲とその輸出業界、伯国鉱業の営業成績
12 月 15 日	30 号	国際市場と伯綿の現状、電源開発とグランデ河

1956年

ジュセリーノ・クビチェック次期大統領は年初早々、アメリカを皮切りにヨーロッパ諸国（イギリス、フランス、西ドイツ、オランダ、ベルギー、イタリア、スペイン、ポルトガル）を歴訪した。この訪問によってクビチェック次期大統領は工業化推進のために積極的に外資導入を打診した。

帰国後、クビチェック大統領は2月1日の就任式で「50年（の進歩）を5年で」というスローガンで外資導入と工業化を精力的に推進、新首都ブラジリア構想をうちあげた。施政方針は経済開発に重点がおかれ、開発計画の具体策は動力・交通運輸・食糧及び基礎工業の4部門に分かれ、36箇条に及ぶ膨大なものであった。これらの計画を実行するため、クビチェック大統領は大統領直轄の実務機関として専門家を結集した開発審議会を創設した。

日伯貿易をみると、ブラジルは日本の重工業製品に対する需要が高く、日本はブラジル物資（特に綿花）の買い付けに外貨割り当ての面で特別な考慮を払っているため、原則的には輸入先行の体制を堅持してきた。

こうした状況下で56年3月、ブラジル政府は同年6月末で満期日を迎える日伯通商支払協定の失効を機に同協定の破棄を通告し、新協定の締結を日本側に申し入れた。しかし、その後、ブラジル政府は新提案を提示しなかったことから従来の協定を暫定的に延長した。

数年前から活発になってきていた日本企業のブラジル進出が、56年も数多く実を結んだ。この年進出を果たした主な企業は次の通り。1月には鐘紡ブラジル創立（有限会社、11月に株式会社に改組）。2月には伯国三菱商事（本店サンパウロ市、支店ベロ・オリゾンテ市）が開設、4月にはパイロットペン伯国会社がサンパウロ市に進出を果たした。

7月にはブラジル豊和工業株式会社がサンパウロ市に本店を置き、モジ・ダス・クルーゼス市郊外に工場を建設した。続いて、同じく7月に伯国冷蔵株式会社はペルナンブコ州レシーフェ市で創業を開始し、9月にはブラジル農工株式会社（本社サンパウロ市、工場オウリーニョス市）が営業を開始した。

役員名簿（56年4月18日～57年5月28日）

顧問弁護士：平田進

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：秋元達雄（OSK）
副 会 頭：広庭祐夫（三菱商事）
会計理事：永田睦郎（東山銀行）
会計理事：鷺塚時哉（南米銀行）
理 事：畠山道生（プラスコット）
理 事：広川郁三（アストリア）
理 事：山本勝造（山本商会）
理 事：辻道三（東洋綿花）
理 事：大谷一二（東洋紡）
理 事：樋口博三（富士銀行）
理 事：藤平正義（シブラン）

5 6 年度事業報告

総 会

3 月 21 日 臨時総会
——定款一部改正
4 月 18 日 臨時総会
——定款一部改正、理事会改選
5 月 25 日 第 6 回定期総会

理 事 会

3 月 5 日 第 6 回理事会
3 月 27 日 第 7 回理事会
5 月 8 日 新役員による第 1 回理事会（新番号を採用）
6 月 14 日 第 2 回理事会
7 月 18 日 第 3 回理事会

主な行事

1 月 30 日 織機海外市場調査団との懇談会
3 月 7 日 船用内熱機関市場調査団歓迎カクテルパーティー
4 月 10 日 オープン・アカウント貿易勘定方式廃棄通告に対する業者の
対策懇談会
6 月 22 日 岡松成太郎日本商工会議所専務理事を迎えての経済懇談会
7 月 12 日 南米経済事情を NHK にて放送のためテープレコーダー収

	録	
9 月 10 日		中南米派遣車両使節団の歓迎カクテルパーティー
11 月 14 日		作業工具調査団との懇談会
11 月 18～ 22 日		伯国第 1 回貿易会議
12 月 4 日		無線通信機械工業会派遣調査団との懇談会

機関誌『ブラジル経済情報』（56 年主要記事）

1 月 1 日	31 号	サンパウロ州の電力開発計画、伯国商船院創設案の検討
1 月 15 日	32 号	ブラジルの電力事情、ブラジル労働法の要点
2 月 1 日	33 号	世界及び伯国珈琲界の現状、経済審議会年次報告に見る伯国労働政策
2 月 15 日	34 号	対米借款とクルップの進出、伯国の経済危機に就いての考察
3 月 1 日	35 号	伯国綿業現下の諸問題、日伯貿易の拡大とその対策
3 月 15 日	36 号	伯国財政に関する「秘密報告書」の内容＝「緊縮財政」か「偽装の繁栄」か
4 月 1 日	37 号	悪化を辿る伯国の為替事情、ブラジルの米穀生産事情
4 月 15 日	38 号	日伯支払協定停止と今後、聖州の砂糖生産状況
5 月 1 日	39 号	支払協定の廃止を繞る日伯貿易の打開策、伯国石油事業の進捗状況
5 月 15 日	40 号	聖フランシスコ流域開発計画、伯国の原子エネルギー問題
6 月 1 日	41 号	インフレ克服の困難性、ブラジルの小麦問題
6 月 15 日	42 号	伯国のインフレ昂進状況、ブラジルの製紙工業問題
7 月 1 日	43 号	昨年度の国立製鉄所実績、日本貿易の今後と伯国
7 月 15 日	44 号	伯国に於ける外資取扱事情、最低給与問題の基本的検討
8 月 1 日	45 号	インフレ抑圧の金融政策、伯国の電話事業の現状
8 月 15 日	46 号	1955 年度伯国鉱業動勢検討、伯国の化学繊維工業現状

9 月 1 日	47 号	外資導入に関する新指令草案、伯・仏通商支払協定の全貌
9 月 15 日	48 号	ブラジルの改正所得税法、日伯貿易の概況並びに現状
10 月 1 日	49 号	対伯投資に関する考察、ブラジル鉄道組織の現状
10 月 15 日	50 号	伯国の輸出と国際競争、バイア州の石油生産
11 月 1 日	51 号	対ラテン・アメリカ貿易現状、欧州に於ける伯国珈琲消費
11 月 15 日	52 号	ブラジル生肉市場現状、自動車工業計画の様相
12 月 1 日	53 号	経済開発 5 カ年計画、第 1 回伯国対外貿易会議「為替改革」を強調
12 月 15 日	54 号	珈琲価格と為替収入、ブラジル皮革と毛皮の現状

1957年

1957年の対外貿易をみると、コーヒー、綿花、カカオなどの主要輸出品の輸出減退によって貿易収支は赤字となった。輸入の増加も赤字の一因だった。輸入増加の要因は、無為替輸入や外国融資による機械類の輸入が顕著だったこと。金額では、輸出が13億9200万ドル（前年14億8200万ドル）、輸入14億8900万ドル（前年12億3400万ドル）で9700万ドルの入超となった。

しかし、この現象は国内工業化の進展による一時的な現象で、工業化が一段落すれば、工業製品の国内補給とその輸出により外貨事情は好転すると、本会議所では判断していた。

続いて日伯貿易をみると、日本からの輸入が激減したことが特徴として挙げられる。57年の日本からブラジルへの輸出総額は2591万7000ドルで前年の4735万4000ドルと比較すると、2143万7000ドルと約半額に減っている。この理由は、日本製品の国際競争力の弱さが挙げられている。一方、ブラジルの輸出をみると、3888万4000ドルで前年の3792万2000ドルに比較し、微増している。

57年は、日伯両国の経済協力という点においてエポック・メイキングの年となった。ミナス・ジェライスライス州イパチングでクビチェック大統領も出席してウジミナス製鉄所の定礎式が行われた。年間200万トンの生産をめざし、日本が40%を出資した製鉄所だった。紆余曲折があり、操業開始は62年10月と大幅に遅れたものの両国のビッグプロジェクトとして後世に引継がれている。

また、この年、日本の企業進出に拍車をかける大きな役割を果たしたのが、ブラジル経済開発銀行のルーカス・ローベス総裁の訪日だった。ローベス氏は日本政府の招聘を受け、4月に訪日した。日本では重工業を中心に視察し、日本側の経済人はじめ政府関係者などと親しく懇談し、ウジミナス製鉄やその後進出を果たした石川島播磨重工などへの道筋もつけた。

役員名簿（任期：57年5月28日～59年5月26日）

顧問弁護士：平田進

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：大谷一二（ブラジル東洋紡績会社）、広川郁三（アストリア輸出入会社）

会計理事：永田睦郎（東山銀行）、鷺塚時哉（南米銀行）

専任理事：畠山道生（ブラスコット）、山本勝造（山本商会）

5 7 年度理事会（出所：ブラジル経済情報 1957 年ページ 4）

1.	蜂谷商会	蜂谷専一
2.	ブラジル東洋紡	大谷一二
3.	アストリア輸出入	広川郁三
4.	東山銀行	永田睦郎
5.	南米銀行	鷺塚時哉
6.	土井商会	土井万七
7.	今井商会	今井繁義
8.	パウリスタ製菓	中久保益太郎
9.	イッペー商会	鈴木盛造
10.	山本商会	山本勝造
11.	城島商会	城島慶次郎
12.	ピロット通商	釘宮綾雄
13.	花城商会	花城清安
14.	ブラスコット	畠山道生
15.	アトラス商事	谷崎久衛
16.	プロットーレス倉庫会社	加藤好之
17.	味の素	杉本元男
18.	東洋綿花	山田一郎
19.	第一物産	藪真鐵
20.	鐘紡	延満三五郎
21.	丸紅飯田	星野恒夫
22.	三菱商事	力石誠之助
23.	日商	木村隆昭
24.	富士銀行	樋口博三
25.	新野村貿易	古谷綱俊
26.	日立電機 KK	野澤喜平
27.	パイロットペン	和田正一郎
28.	OSK	秋元達雄又は小林利一郎
29.	日綿実業	宮本慶郎

57年度事業報告

総 会

- 5月14日 臨時総会
・ 役員増員について
5月28日 第7回定期総会
——役員改選

理 事 会

- 1月17日 第4回理事会
1月22日 第5回理事会
1月30日 第6回理事会
・ ブラジル経済年鑑発行予算案について
4月12日 第7回理事会
4月26日 第8回理事会
5月6日 第9回理事会
6月14日 第1回理事会（番号順変更）
12月18日 第2回理事会

主な行事

- 2月14日 サンパウロ商業協会主催「アジオ・ミニモ変更に関する懇談会」
6月14日 リオ国際見本市協力の件についてジェットロ山田氏と協議
9月3日 渋澤大使を迎えての経済懇談会並びに歓迎晚餐会（於・ニテロイサロン）

機関誌『ブラジル経済情報』（57年主要記事）

- 1月1日 55号 伯国に於ける長期の導入外資、日伯貿易の推移と現況
1月15日 56号 ブラジルの関税改革に就いて、経済開発銀行の活動現況
2月15日 57号 増税と物価高騰問題、自動車組立工業と輸入
3月1日 58号 伯国将来の新首府ブラジリアの様相、ブラジルの農業改革問題

3月15日	59号	伯国主要輸出品の趨勢、聖州道路建設5ヵ年計画
4月1日	60号	1956年度伯国財界展望、ブラジルの労働趨勢
4月15日	61号	資本市場としての伯国、ブラジルの鉄鉱石—対日輸出に就いて—
5月1日	62号	日伯両国に於ける無為替輸入手続に就いて、無為替輸入明細表
5月15日	63号	伯国の関税改革代案、欧州共同市場設立—ブラジルへの影響—
6月1日	64号	関税改革代案付随税表、伯国の新電源計画
6月15日	65号	ブラジル日本商業会議所総会号（1956年度）
7月1日	66号	銀行改革及び中央銀行、ブラジルの鉄道工業
7月15日	67号	伯国に於ける交通問題と自動車及び部品の生産
8月1日	68号	伯国の珈琲保護政策、パルプ工業と基礎原料
8月15日	69号	伯国新関税法
9月1日	70号	ブラジル銀行年次報告による1956年度伯国財政経済概観（1）
9月15日	71号	ブラジル銀行年次報告による1956年度伯国財政経済概観（2）
10月1日	72号	渋沢移動大使を囲む経済懇談会
10月15日	73号	外国商業会議所評議会例会に於ける新関税法検討
11月1日	74号	伯国経済の種々相、珈琲のメキシコ協定
12月1日	76号	ラテン・アメリカと外国投資、サンパウロ工業界の草分け

1958年

1958年は、日伯両国にとり、ブラジル日本移民50周年という大きな節目の年だった。このため、6月18日にサンパウロで挙行された日本移民50年祭には三笠宮殿下ご夫妻が来伯され、盛大に祝典を催した。

一方、ブラジルは、コーヒーの国際価格が暴落し、加えてコーヒーの輸出不振に見舞われ、財政破綻の危機に直面した。また、インフレの激化により、庶民生活も圧迫され、不安定な状態が続いた。しかし、こうした状況にもかかわらず、国内市場拡大によって諸工業が発展し、困難を克服しながら成長を続けた。国民総生産は、前年度の4.5%に対し、今年度は4.7%の増加を示し、国民1人あたり約2.2%の増加率だった。

日伯貿易では、日伯貿易支払協定の改定が行なわれた。ブラジルの特殊事情を考慮した場合、現行の協定存続を誰もが強く望んだが、その要望に反し従来の清算勘定を廃止し、ポンドによる現金決済、日本側による輸入先行を規定した。10月15日付をもって日伯オープン・アカウントの廃止、同16日付で日伯新通商協定が発足、現金決済方式の貿易に移行した。同協定は、日本側がまずブラジル産品を購入しなければならないため、貿易額が伸びないという状況に陥った。これは、日本が景気悪化でブラジル産品の大量買付けが不可能な状態のため、翌年以降、局面打開は困難となった。

58年度においてすでに日伯貿易の主要対象物資の綿がなく、59年4月から始まる綿輸出開始時期まで約8ヶ月間日伯貿易が停止することを意味していた。

58年の両国の輸出入をみると、日本からブラジルへの輸出は4173万4000ドル（前年2591万7000ドル）、ブラジルから日本への輸出は2269万ドル（前年3888万4000ドル）と大幅に減少している。

この日伯貿易の不振を補う意味で日本からブラジルへの企業進出に大きな期待が寄せられた。ウジミナス製鉄所及び石川島造船の二大企業の進出は着々と軌道に乗りつつあり、また日系企業も種々の悪条件を克服して拡大の途を歩んでいる。

1月にはトヨタ・ド・ブラジルが設立されたのをはじめ、倉敷紡績がリオ・グランデ・ド・スール州ポルト・アレグレ市近郊のサプカイアに工場を建設（5月）。続いて、ユニチカ・ド・ブラジルが聖州アメリカーナ市に進出、ブラジル・フジ・フィルムがサンパウロに本社を置き、リオデジャネイロに支店を開設した。さらに、10月にはブラジル住友銀行が創立、リオデジャネイロイロ港内ポンタ・ド・カジュでブラジル石川島造船所の地鎮祭が行なわれるなど、進出ラッシュともいえる日本企業の進出が目立った年となった。

役員名簿（任期：57年5月28日～59年5月26日）

顧問弁護士：平田進

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：大谷一二（ブラジル東洋紡績会社）、広川郁三（アストリア輸出入会社）

会計理事：永田睦郎（東山銀行）、鷺塚時哉（南米銀行）

専任理事：畠山道生（ブラスコット）、山本勝造（山本商会）

58年度理事会社（出所：ブラジル経済情報 1957年ページ4）

1.	蜂谷商会	蜂谷専一
2.	ブラジル東洋紡	大谷一二
3.	アストリア輸出入	広川郁三
4.	東山銀行	永田睦郎
5.	南米銀行	鷺塚時哉
6.	土井商会	土井万七
7.	今井商会	今井繁義
8.	パウリスタ製菓	中久保益太郎
9.	イッペー商会	鈴木盛造
10.	山本商会	山本勝造
11.	城島商会	城島慶次郎
12.	ピロット通商	釘宮綾雄
13.	花城商会	花城清安
14.	ブラスコット	畠山道生
15.	アトラス商事	谷崎久衛
16.	プロットーレス倉庫会社	加藤好之
17.	味の素	杉本元男
18.	東洋綿花	山田一郎
19.	第一物産	藪真鐵
20.	鐘紡	延満三五郎

21.	丸紅飯田	星野恒夫
22.	三菱商事	力石誠之助
23.	日商	木村隆昭
24.	富士銀行	樋口博三
25.	新野村貿易	古谷綱俊
26.	日立電機 KK	野澤喜平
27.	パイロットペン	和田正一郎
28.	OSK	秋元達雄又は小林利一郎
29.	日綿実業	宮本慶郎
30.	竹中商会	竹中儀助

5 8 年度事業報告

総 会

5 月 27 日 第 8 回定期総会

理 事 会

1 月 20 日	第 3 回理事会
2 月 11 日	第 4 回理事会
3 月 10 日	第 5 回理事会
4 月 11 日	第 6 回理事会
5 月 20 日	第 7 回理事会
	・ 日伯通商協定改定問題の件
	・ 50 年祭参加の日本工業見本市出品に関する件
6 月 16 日	第 8 回理事会
8 月 8 日	第 9 回理事会
	・ 巡航見本市に関する件
9 月 24 日	第 10 回理事会
	・ 日伯通商協定に関する件
	・ 南米企業技術協力団に関する件

主な行事

1 月 29 日	東京銀行サンパウロ支店営業開始（2 月 1 日）に伴う開所式
5 月 13 日	肥料調査団を囲んだ現地業者との座談会（於・当会議所）
5 月 20 日	金井多喜男通産省為替課長、尾崎英二大蔵省財務調査官を囲んで歓迎会
6 月 15～	日本工業見本市 除幕式（15 日、於・イビラプエラ公園）

29 日

- 6 月 20 日 肥料調査団を囲んだ現地業者との座談会（於・当会議所）
9 月 12 日 工業見本市出品物処理の件に関しジェットロとの協議会
10 月 14 日 南米企業技術協力調査団を囲む懇談会
11 月 5 日 小委員会開催
・ 「O JAPÃO」誌に関する件
11 月 28 日 小委員会開催
・ 「O JAPÃO」誌に関する件
・ 日本産業見本市に関する件
・ ポ語経済情報に関する件

機関誌『ブラジル経済情報』（58 年主要記事）

- 2 月 15 日 80 号 珈琲国際機構協定成立、ブラジルの労働問題
3 月 1 日 81 号 サンパウロ州の電化計画、新関税法を巡る輸入税問題
3 月 15 日 82 号 伯国の造船所建設計画、伯国の砂糖生産と輸出
4 月 1 日 83 号 1957 年度の経済調査研究結果に見るブラジル工業の
発展状況

4 月 15 日 84 号 伯国経済の現在と将来、聖州の柑橘生産状況
5 月 1 日 85 号 生活費統計指数の検討、1957 年度工業生産概観
5 月 15 日 86 号 為替貿易及び外国投資に関する施行細則 42.820 号
6 月 1 日 87 号 ブラジル日本商業会議所総会号（1957 年度）
7 月 1 日 88 号 ラテン・アメリカ地域市場、自由為替市場の動向
7 月 15 日 89 号 為替政策変更に対する経済審議会の意見書
8 月 1 日 90 号 ブラジル銀行年次報告による 1957 年度伯国財政経済
概観（1）

8 月 15 日 91 号 ブラジル銀行年次報告による 1957 年度伯国財政経済
概観（2）

9 月 15 日 92 号 ブラジル銀行年次報告による 1957 年度伯国財政経済
概観（3）

10 月 1 日 93 号 伯国経済発展の諸問題—特に対伯投資に就いて—
10 月 15 日 94 号 日本伯国間通商支払協定、珈琲国際協定とその対策

1959年

1959年のブラジル経済は、政府の経済開発計画書を実現するため巨大な投資、信用供与のほかに地方自治体への融資の膨張に加え、コーヒー増産に伴う買付け資金の放出などを要因として未曾有の紙幣増発を余儀なくされた。このため、インフレの昂進率は史上最高を記録した。

連邦政府の歳出予算は1560億クルゼイロだったが、前年度よりの継続支出となる繰越事業費とその他信用放出分、さらに政府諸部門に対する融資の増大を加えると、実行予算合計は2170億クルゼイロにのぼった。一方、実行歳入は1580億クルゼイロで、差し引き590億クルゼイロという膨大な赤字となった。

しかし、国民総生産（PIB）の成長率は昨年の4.9%に対して5.4%と増加伸張した。さらに、国民一人当たりの生産指数も昨年度の2.5%から3%に上昇したことは、経済活動は各部門ともいずれも上昇を示して低調ではなかったことを意味している。

工業は、クビチェック大統領が打ち出した5カ年計画の4年目で著しい伸張をみた。特に石油工業及び自動車工業の成績は目覚しく、他の一般工業生産指数の平均増加率は11%となった。石油工業は、ペトロブラスの生産目標は計画量を超え、自動車工業も昨年の生産実績よりも25,000台も上昇し96,243台となった。化学工業、プラスチック工業もその原料生産は飛躍的に改善された。一般機械工業、特に工作機械の製造、セメント工業、製紙、セルロース工業いずれも生産量は新記録となった。

日伯貿易をみると、ブラジル国内の好調とは裏腹に多難な年となった。58年10月に両国間で締結された現金決済による日伯貿易協定が有効に機能しなかった。その大きな理由は対日為替競売が58年9月から59年5月まで中断されたことで、この中断も対日綿花輸出の見通しが確定したことにより再開された。

綿花の対日輸出が活発化されると、政府は5月からポンド建て対日為替競売を開始した。その額はサンパウロ及びリオ取引所でそれぞれ一般カテゴリー3万ポンド、特別カテゴリー800ポンドという小額に過ぎず、これを全国的にみると1週30万ドル内外で、過去に比較して微々たる額だった。

日本政府は、この両国間貿易の行き詰まりを打開しようと通商使節団を派遣したが効果はなかったものの、日伯貿易協定を延長することはできた。

日伯間の貿易額は次の通り。対伯輸出額は2208万4000ドル、対伯輸入額は3027万7000ドルで日本側の819万3000ドルの入超となった。これらの金額は対前年比著しい減退を示した。

役員名簿（任期：59年5月26日～61年4月30日）

顧問弁護士：平田進

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：力石誠之介（三菱商事）、広川郁三（兼松ブラジル）

専任理事：延満三五郎（鐘紡ブラジル）、山本勝造（山本商会）

財務理事：東山銀行、南米銀行

59年度理事会社（出所：ブラジル経済情報 1959年）

1.	蜂谷商会	蜂谷専一
2.	三菱商事	力石誠之介
3.	兼松ブラジル	広川郁三
4.	鐘紡ブラジル	延満三五郎
5.	山本商会	山本勝造
6.	東山銀行	
7.	南米銀行	
8.	ブラジル味の素	岡崎徹
9.	南米綿花会社	山田一郎
10.	ブラスコット	畠山道生
11.	伊藤忠商事	竹村貞三
12.	メンペル商会	辻三郎
13.	大洋漁業	大熊勝美
14.	三井物産	橋本巖
15.	城島商会	城島慶次郎
16.	大阪商船	小林利一郎
17.	竹中商会	竹中儀助
18.	東京銀行	高橋時中
19.	東洋紡績	富本幸夫
20.	富士銀行	樋口博三
21.	羽瀬商会	羽瀬作良

22.	日立製作所	西田修平
23.	丸紅飯田	島川太
24.	日商	島崎龍夫
25.	豊和工業	一色章
26.	岩井産業	西脇茂次
27.	トヨタ自動車	小出清恭
28.	ヤンマー・ジーゼル	佐藤仁
29.	住友銀行	村松市太郎
30.	日綿実業	宮本慶郎

5 9 年度事業報告

総 会

5 月 26 日 第 9 回定期総会

理 事 会

6 月 8 日 通常経費増収案の件
 6 月 16 日 日伯間新協定締切に関して
 7 月 2 日 日伯貿易新協定及び岸首相歓迎の件
 7 月 10 日 岸総理歓迎及び産業展示会に関する件
 9 月 11 日 日伯通商打開策について
 9 月 21 日 上記に関連して
 9 月 29 日 〃
 10 月 12 日 〃

主な行事

1 月 20 日 牛場外務省経済局長歓迎懇談会（於・中巴飯店）
 1 月 26 日 日伯貿易打開に関する協議会
 2 月 10 日 アトラス丸日本産業巡航見本市開催
 7 月 13 日 ブラジル進出企業協力会第 1 回会合
 7 月 18 日 ブラジル進出企業協力会第 2 回会合
 7 月 27 日 岸首相の在伯法人歓迎会（於・イビラプエラ公園、当会議所、文協共催）
 8 月 6 日 代議士石坂繁氏との経済懇談会（於・会議所サロン）
 8 月 14 日 代議士三木武夫、松浦周太郎両氏との経済・文化懇談会（於・ニテロイサロン）

10月9日	役員会 ・ 日伯通商協定について
11月11日	東京都南米派遣調査団との貿易経済懇談会（於・会議所サロン）
11月12日	日伯通商協定に関する協議会（於・会議所サロン）
11月20日	鈴木総領事帰国送別会（於・ニテロイ・サロン）
12月10日	石井総領事歓迎会（於・大正小学校サロン）

機関誌『ブラジル経済情報』（59年主要記事）

1月15日	97号	ラテン・アメリカ多角支払制、SUMOCの新指令—第174号及び第175号—
2月15日	98号	ブラジル経済の検討—北米に於けるロッセス蔵相の講演内容—
3月1日	99号	経済発展と為替の諸問題、日伯貿易打開に関する要請
3月15日	100号	クルゼイロ貨変動の種々相、伯国中南部地域の電力事情
4月1日	101号	ブラジル物産買付に関する調査書及び具申書
4月15日	102号	伯国財政経済の実態—政府の対策と将来の見通し—
5月1日	103号	伯国棉の輸出と為替制度の変更、伯国の国際収支の検討（1958年度）
6月1日	104号	ブラジル日本商業会議所総会号（1958年度）
7月1日	105号	物価高騰の検討、ブラジルに於ける「基礎工業」なる観念の検討
7月15日	106号	鉄鉱生産の諸問題、伯国と米国の生活費比較
8月15日	107号	ブラジル銀行年次報告による 1958 年度伯国財政経済概観（1）
9月15日	108号	ブラジル銀行年次報告による 1957 年度伯国財政経済概観（2）

10 月 15 日	109 号	ブラジル銀行年次報告による 1957 年度伯国財政経済概観（3）
11 月 1 日	110 号	原子力をつくる砂―伯国モナザイトの実情―
11 月 15 日	111 号	伯国工業化の展望―その起源から現在までの概観―
12 月 15 日	112 号	伯国製鉄工業の発展動向、1959 年度上半期伯国農工業の動勢

1960年

人口は30年前の3300万人から7000万人に増加し、ラテン・アメリカ総人口の1/3を占めるようになった。

1960年4月21日、ブラジルはリオデジャネイロからブラジリアに遷都、新時代を告げるかのようにこの年、経済成長率は8%を超えた。そして、自動車生産高は世界第8位に躍進し、世界第2位の食料輸出国となるなど飛躍的な成長を遂げた。その一方で外資導入策が年率40%というインフレを招く結果となった。

工業部門をみると、対前年比10%上回った。その主なものは、建築14%、鉱物14%、電力9%などが著しかった。さらに、ここ2、3年低調だった食料品工業、織物工業なども堅調に推移し、以前の水準に戻った。

国家財政は近年になく不均衡な年となった。歳入2200億クルゼイロ、歳出2950億クルゼイロで、国庫予算の赤字総額は759億クルゼイロに達した。このため、ブラジル銀行は政府財政に対し、大幅な援助を余儀なくされ、結果として515億クルゼイロの流通紙幣増発となった。同時にこの通貨膨張は市中銀行における当座預金ならびに短期預金額の増大となりその増額は1000億クルゼイロ以上に達した。

日伯間貿易を振り返ると、60年1月16日以来、自由貿易、多角決済制に基づいて行なわれるようになった。具体的にみると、ブラジルの日本からの輸入額は3274万2000ドル、ブラジルから日本への輸出額は2784万4000ドルとなり、ブラジル側の489万8000ドルの入超となった。

日本からの主な輸入品をみると、電気通信機械類(120万2000ドル)、船舶(770万1000ドル)、光学機械(72万ドル)、化学肥料(49万4000ドル)となっている。一方、ブラジルから日本へ輸出した主要品目は、穀物、食料、及び類似原料が55.6%を占め、昨年第1位だった繊維及び繊維原料は26.8%に落ちた。その一方で金属及び金属鉱物が12.6%に伸張し、昨年に比べ大きな変化を示した。

これらの数字をみても、60年度の日伯貿易額は現金決済制に基づいて行なわれていた昨年に比べてその差は非常に少なかった。これは、日本製品が国際市場で競争力を持っていることを証明したものだといえるだろう。

役員名簿（任期：59年5月26日～61年4月30日）

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：力石誠之介（三菱商事）、広川郁三（兼松ブラジル）

専任理事：延満三五郎（鐘紡ブラジル）、山本勝造（山本商会）

財務理事：黒柳のぶとし（東山銀行）、鷺塚時哉（南米銀行）

60年度理事会社

1.	蜂谷商会	蜂谷専一
2.	三菱商事	力石誠之介
3.	兼松ブラジル	広川郁三
4.	鐘紡ブラジル	延満三五郎
5.	山本商会	山本勝造
6.	東山銀行	黒柳のぶとし
7.	南米銀行	鷺塚時哉
8.	ブラジル味の素	河村芳朗
9.	南米綿花会社	山田一郎
10.	ブラスコット	畠山道生
11.	伊藤忠商事	竹村貞三
12.	メンペル商会	辻三郎
13.	大洋漁業	大熊勝美
14.	三井物産	橋本巖
15.	城島商会	城島慶次郎
16.	大阪商船	村井忠次郎
17.	竹中商会	竹中儀助
18.	東京銀行	俣木国義
19.	東洋紡績	山本利雄
20.	富士銀行	樋口博三
21.	羽瀬商会	羽瀬作良
22.	日立製作所	西田修平
23.	丸紅飯田	島川太
24.	日商	島崎龍夫
25.	豊和工業	一色章
26.	岩井産業	西脇茂次
27.	トヨタ自動車	小出清恭

28. ヤンマー・ジーゼル
 29. 住友銀行
 30. 日綿実業

佐藤仁
 村松市太郎
 宮本慶郎

60年度事業報告

総 会

5月24日 第10回定期総会

理 事 会

9月11日 日伯通商打開策について

主な行事

- 2月27日 上質紙中南米市場調査団一行を囲んでの経済懇談会
 3月3日 サンパウロ工業連盟訪日視察団送別カクテルパーティー
 4月18日 大阪商工会議所副会頭小田原大造氏歓迎懇談会
 4月26日 印刷製本機械調査団一行との懇談会
 6月22日 日本輸出入銀行副総裁の船山正吉氏歓迎懇談会（於・錦江飯店）
 7月12日 日伯貿易の進展及び企業進出の促進に関する協議会（於・会議所サロン）
 7月20日 リオ見本市終了問題に関する協議会（於・会議所サロン）
 8月5日 日本商工会議所、日本計量機工業連盟派遣団一行等歓迎懇談会
 11月22日 ラテン・アメリカ協会常務理事秋山玉吉氏歓迎懇談会
 11月30日 臨時総会
 ・ 会議所運営の件に関して

機関誌『ブラジル経済情報』（60年主要記事）

- 1月15日 113号 給料と生活費の問題—『ブラジリアン・ビジネス』誌の調査報告
 2月15日 114号 伯ソ協定の成立、ヒマシの生産とその工業化
 3月15日 115号 1959年度に於ける伯国為替・金融事情の回顧、ブラジルに於ける外国資本の功罪

4 月 1 日	116 号	伯国コーヒーの将来性、自由貿易地域を創設したモンテビデオ協定
4 月 15 日	117 号	生活費高騰の検討—1959 年度は 52%の高騰—
5 月 15 日	118 号	伯国非鉄金属の動勢、経済活動の新しい基盤
6 月 1 日	119 号	中南米自由貿易地域—その設置と条文の検討—
7 月 1 日	120 号	ブラジル日本商業会議所総会号(1959 年度)
7 月 15 日	121 号	伯国経済五カ年間の予想、サンパウロ駐在米国総領事の活動
8 月 15 日	122 号	ブラジル銀行年次報告による 1959 年度伯国財政経済概観（1）
9 月 15 日	123 号	ブラジル銀行年次報告による 1959 年度伯国財政経済概観（2）
11 月	特別号	伯国の現行為替制度解説、伯国法人の設立について、日本のブラジルからの輸入、日本のブラジルへの輸出
11 月 15 日	124 号	ブラジル銀行年次報告による 1959 年度伯国財政経済概観（3）
12 月 15 日	125 号	伯国の機械設備工業、生産コストの切り下げ問題

1961年

昨年、米ソ両国の冷戦は激化の様相を呈し、ドイツの問題をめぐり両国の核戦力の実験的示威の危機的緊張を招来した。

貧富の差の拡大に対する改革の試みの一つとして、中南米史上もっとも画期的な試みとして提起されたのが 61 年 8 月、ウルグアイのプンタ・デル・エステで開催された米州経済会議ののち採択された「プンタ・デル・エステ宣言」であった。

①10 年間に 200 億ドルの援助、②土地改革と税制改革など経済改革、③10 年間に一人あたり所得を 2.5%引き上げ、などを骨子とする内容。米国がこの制限を契機として、従来の民間投資主眼から政府借款中心に顕著な転換を見せたことの意味は大きい。現に「進歩のための同盟」の構想が初めて明らかにされた 61 年 3 月にケネディ演説を転換として、米国の援助は急ピッチに活発化しつつある。

60 年の中米共同市場に続き、61 年 6 月に L A F T A（ラテンアメリカ自由貿易連合）が発足。当初は加盟 7 カ国（アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ）にコロンビア、エクアドルをくわえて、広大な経済圏を作り出した。

ブラジルにおいてはクアドロス大統領の急進的国家経済施策実施。プンタ・デル・エステにおける米州経済機構会議への参加等を経て、クアドロス大統領の離任による突発的政治危機を迎えた。新たにジョンゴーラル大統領の就任と新内閣制度の採用を見渡して安定発展への建設的努力に全力をあげつつあり、目的達成を期待するものである。

ブラジルでは 61 年 2 月に大統領に就任したクアドロス氏（8 月に辞任）が、小麦、石油、新聞用紙などに適用されていた特惠輸入レートやアジオ競売制度の廃止などにより、従来の複雑な為替レートの単一化を断行した。これは、国民の耐乏生活を強く要望するもので、輸入商は旧制度では商品代金の 90%（アジオ購入）をまず用意すればよかったのに、3 月の輸入預託金 100%の創設（10 月にさらに 150%に引き上げ）により、代金の 200%（10 月以降は 250%）を用意しなければならなくなった。このような輸入制限措置にもかかわらず、ブラジルの 61 年 1～6 月の輸入は微増を示したが、これが各国の進出企業などによる輸入の急増が通常輸入の減退を大きくカバーしたからであった。

日本の対伯貿易において、輸出額では 61 年 1～9 月で 6646 万ドルと、前年同期の 3244 万ドルから実に 105%増を記録した。これは、ミナス製鉄所に対する日本ウジミナス社からの延べ払いによる機械設備の積み出しが本格化したからであり、同社の輸出のみで 4850 万ドルと、対ブラジル輸出の 73%を

占めている。この他進出企業による輸入もかなりの額に達すると見られるので、対ブラジル通常輸出は 1500 万ドル程度と推定されるにすぎず、依然として不振をかこっている。

ブラジルの総輸入に占める通常輸入の率は 78%といわれ、日本の場合はこの率が逆になっている。このような通常ベースの輸出不振は、商品の競争力欠如というよりも、日本の出先商社の資金が不足していることと、進出企業による原材料、半製品などの関連輸入が少ないことによるところが大きいとみられる。ブラジルの輸入制限による輸入金額負担の増大は、インフレ化の金詰まりと相まって一般に業者を圧迫しており、資金回転の遅い日本からの輸入は不利を免れない。

役員名簿（任期：61 年 5 月 23 日～63 年 4 月 30 日）

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：俣木国義（東京銀行）、広川郁三（兼松ブラジル）

専任理事：延満三五郎（鐘紡ブラジル）、山本勝造（山本商会）

財務理事：住友銀行、南米銀行

61 年度理事会社

1.	蜂谷商会	蜂谷専一
2.	東京銀行	俣木国義
3.	兼松ブラジル	広川郁三
4.	鐘紡ブラジル	延満三五郎
5.	山本商会	山本勝造
6.	住友銀行	
7.	南米銀行	
8.	丸紅飯田	
9.	日商	戸井得郎
10.	大阪商船	田宮頭太郎
11.	東山銀行	山口昇三郎
12.	物産ブラジレイラ	橋本巖
13.	三菱商事	小寺泰蔵
14.	ヤンマー・ジーゼル	佐藤仁

15.	城島商会	城島慶次郎
16.	東洋紡績	山本利雄
17.	日綿産業	久次米寛人
18.	大洋漁業	千田謙三
19.	南米綿花	小野村正
20.	パイロットペン	野呂整一
21.	コチア産組	井上忠志
22.	竹中商会	竹中正
23.	大日本紡績	市居誠一
24.	ブラスコット	畠山道生
25.	豊和工業	野崎信義
26.	羽瀬商会	羽瀬作良
27.	倉敷紡績	安田末治
28.	日立製作所	西田修平
29.	住友商事	黒川太郎
30.	丸久農業機械	岸田義夫

6 1 年度事業報告

総 会

5 月 23 日 第 11 回定期総会（会議所サロン）

理 事 会

4 月 26 日 ・ 安東大使送別会及び本年度定期総会について

主な行事

3 月 23 日 SUMOC 指令第 204 号についての説明会（於・会議所サロン）
6 月 2 日 役員会
・ 会議所創立 10 周年記念事業について
8 月 7～ 日本学生海外移住連盟派遣第 1 次南米学生実習調査団へのブラ
12 日 ジル事情ゼミナール
8 月 26 日 南條徳男衆議院議員団一行歓迎懇談会（於・イビラプエラ公園
日本館）
9 月 27 日 電気工業視察団らを迎えての経済懇談会（於・会議所サロン）
10 月 5 日 田付大使歓迎会（於・サンパウロ商業協会サロン）
10 月 20 日 役員会
・ 会議所定款改正の件

- 10月20日 日伯技術協会会員を対象とするブラジル事情セミナー開催（全7回、8月26日～）
- 12月5日 臨時総会
・定款改正並びに会費増額の件
- 12月23日 技術移住者研修会（11月4日～）

機関誌『ブラジル経済情報』（61年主要記事）

1月1日	126号	最近のブラジル事情、伯国の外資導入と財政経済
2月15日	127号	政府計画5カ年の実績、伯国のトラクター製造工場
3月15日	128号	クビチェック大統領の経済財政政策の実績（1）
4月15日	129号	クビチェック大統領の経済財政政策の実績（2）
5月15日	130号	伯国とガットとの関係、新首都ブラジリアの近況
6月15日	131号	ブラジル日本商業会議所総会号
7月15日	132号	ブラジル北東地域の開発、伯国の電源開発諸計画
9月15日	133号	ブラジル銀行年次報告による 1960年度伯国財政経済概観（1）
10月.11月	134- 135号	ブラジル銀行年次報告による 1960年度伯国財政経済概観（2）

1962年

1962 年は、一昨年後期におけるジャニオ・クアドロス大統領の辞任による政治混乱の余波がいまだ収まらず、これを除去整理するため政治重点の年であり、国家経済は第 2 次的な存在だったというのが経済人の実感だった。ただ、日伯間を考えると、ウジミナス製鉄所の生産開始により、日本商工業界に対するブラジル側の期待が高まり、今後ますます強まるものと考えられる。

中南米史上、初めて広域経済統合を形成した L A F T A と中米共同市場は、62 年から共に域内貿易の伸長と協調体制による工業化の促進を目指していよいよ現実の軌道に乗り始めている。L A F T A は 62 年 1 月、一般の予想を超えた大幅な域内関税の引き下げを実施したが、アルゼンチン、ブラジル、メキシコなど比較的工業化が進んだ国を中心に、自動車、計算機、ガラス、電気機具工業などの相互補完協定がすでに結ばれ、域内工業製品の交流もようやく活発な動きを見せ始めており、中米共同市場は 62 年 7 月から、対外共通関税と産業特化に向かって共同歩調をそろえている。

ケネディ米国大統領が提唱した「進歩のための同盟」計画が発足し、当初後進性からの脱却と経済成長の促進に重要な役割を果たす画期的な政策として中南米諸国から多大な期待を担って迎えられたが、1 年が経過し、それは「進歩」の代わりに「退歩」を与えたとする中南米諸国の失望は次第に高まっている。その理由は、米国の援助資金の供与額が計画額に対しはるかに下回っているからとみられる。

ブラジルにおいては、9 月に外国資本利潤送金制限法の成立があり、州政府による米国系電力会社の接收問題が発生しているなど米国の主要投資先において危険な動きが顕著となって来ており、新規投資の減少はもちろんとして既投資の流出はさらにペースを早める傾向にある。

また、62 年のブラジルの国際収支の悪化は著しく、上半期は 1 億 5000 万ドルの赤字を記録した。これは前年比 7000 万ドルの赤字に比べ約 2 倍にあたるが、その原因は、62 年初頭からクルゼイロ貨の為替レートが実勢よりも割高のままに固定され、これが輸出の不振と輸入の増加を招き、貿易収支が悪化したことによるもので、金・外貨保有高は 61 年末の 5 億 6000 万ドルから 62 年 6 月末には 5 億ドルに減少した。

このほか、外国資本に対する規制強化をする制限法が 62 年 9 月に成立したことで、外資の流入も激減、資本収支もまた悪化の一途をたどり、外貨資金繰りは極度に窮迫している。しかし、通貨信用管理局 (SUMOC) の規定で、新規企業を設立する場合、機械類の無為替輸入が認められ、SUMOC の許可を得られれば既存企業の合理化、または拡張のための機械設備の輸入にも適用さ

れている。

日本の対伯輸出は 62 年 1～9 月は 3100 万ドルにとどまり、前年同期比で半減した。これは、61 年にはウジミナス製鉄所向け製鉄機械・設備の積み出しが一段落したためである。しかし、これらの特殊要因を除けばボール・ベアリング、トランジスタ石、工業用ミシン、カメラなどのブラジル向け輸出は 62 年に入って大幅に伸びつつある。現地商社が自己のドル資金で輸入し、国内間として現地通貨で売りさばく「クルゼイロ売り」と称する販売方法が取られ、しかも最近ではその体制がしばらく完全なものに整備されてきた結果、大幅に伸びたといえよう。

役員名簿（任期：61 年 5 月 23 日～63 年 4 月 30 日）

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）

副 会 頭：俣木国義（東京銀行）、広川郁三（兼松ブラジル）

専任理事：延満三五郎（鐘紡ブラジル）、山本勝造（山本商会）

財務理事：住友銀行、南米銀行

62 年度理事会社

1.	蜂谷商会	蜂谷専一
2.	東京銀行	俣木国義
3.	兼松ブラジル	広川郁三
4.	鐘紡ブラジル	延満三五郎
5.	山本商会	山本勝造
6.	住友銀行	
7.	南米銀行	
8.	丸紅飯田	安村重正
9.	日商	戸井得郎
10.	大阪商船	田宮顕太郎
11.	東山銀行	山口昇三郎
12.	物産ブラジレイラ	橋本巖
13.	三菱商事	小寺泰蔵
14.	ヤンマー・ジーゼル	佐藤仁
15.	城島商会	城島慶次郎

16.	東洋紡績	山本利雄
17.	日綿産業	久次米寛人
18.	大洋漁業	千田謙三
19.	南米綿花	小野村正
20.	パイロットペン	野呂整一
21.	コチア産組	井上忠志
22.	竹中商会	竹中正
23.	大日本紡績	市居誠一
24.	ブラスコット	畠山道生
25.	豊和工業	野崎信義
26.	羽瀬商会	羽瀬作良
27.	倉敷紡績	安田末治
28.	日立製作所	西田修平
29.	住友商事	黒川太郎
30.	丸久農業機械	岸田義夫

6 2 年度事業報告

総 会

5 月 22 日 第 12 回定期総会（於・当会議所サロン）

主な行事

- 2 月 5 日 日本学生海外移住連盟派遣第 2 次南米学生に対するブラジル事情
ゼミナール
- 2 月 6 日 ゼミナール
テーマ：「中小企業進出について」
講 師：山本勝造（サドキン電球）
- 2 月 7 日 ゼミナール
テーマ：「ブラジルの貿易について」
講 師：橋本巖（物産ブラジレイラ）
- 2 月 8 日 ゼミナール
テーマ：「ブラジルの電気工業一般について」
講 師：西田修平（日立製作所）
- 2 月 9 日 ゼミナール
テーマ：「ブラジルの薬化学工業一般について」
講 師：吉間重一（大河内薬科学研究所技師）
- 2 月 23 日 第 1 回経済懇談会及び第 4 回日本外務省ラテン・アメリカ経済担

- 当会議報告会
- 3月9日 第2回経済懇談会
テーマ：「日伯貿易の現状について」
講師：大蔵公雄（リオ大使館一等書記官）
- 3月12日 蜂谷会頭送別会（於・新トキワ）
- 4月13日 第3回経済懇談会
テーマ：「伯国の政情とそのあり方」
講師：平田進（サンパウロ州議員）
- 5月4日 役員会
・ 吉田茂元総理歓迎会について
・ 定期総会について
- 5月11日 第4回経済懇談会（於・サンパウロ商業協会）
テーマ：「伯国の政治経済について」
講師：田村幸重（連邦代議士）
- 7月13日 経済懇談会（於・サンパウロ商業協会）
テーマ：「コロニアの社会性について」
講師：斉藤広志（博士）
- 7月13日 安東前大使の歓迎会（於・ニテロイサロン）
- 8月1日 第1回経済問題研究会調査グループ会合
テーマ：「外資法について」
- 8月10日 第7回経済懇談会、石井総領事送別会（於・サンパウロ商業協会サロン）
- 8月24日 横浜駐在ブラジル領事モアシル・モレイラ・マルチンス・フェレイラ氏歓迎会（サンパウロ商業協会サロン）
- 9月14日 第8回経済懇談会
テーマ：「ブラジルの電源開発について」
講師：山本弘志（工学士）
- 9月18日 鶴我新総領事歓迎会（於・イビラプエラ公園内日本館）

機関誌『ブラジル経済情報』（62年主要記事）

- 1月（日付 136号 伯国対共産圏諸国の貿易、伯国産棉花とその市場
無し）
- 2月1日 137号 南大河州の横顔—工業化躍進に踏み切るガウーショ
の国の展望—

2月15日	138号	ブラジルのセメント工業、サンパウロ州の小麦栽培
3月1日	139号	最近の外貨導入情勢、ブラジルの鉱物
4月1日	140号	ブラジルの造船工業、最近の伯国自動車工業
4月15日	141号	プンタ・デル・エステ憲章
5月15日	142号	ブラジル事情ゼミナール特集号
6月1日	143号	陸・海・空輸送機関の現況
7月15日	144号	ブラジル日本商工会議所総会号（1961年度）
8月15日	145号	ウルブプンガ発電所計画、最近のブラジル製鉄状況
9月1日	146号	ブラジル銀行年次報告による 1961 年度伯国財政 経済概観（1）
9月15日	147号	ブラジル銀行年次報告による 1961 年度伯国財政経済 概観（2）
10月1日	148号	ブラジル銀行年次報告による 1961 年度伯国財政経済 概観（3）
10月15日	149号	ブラジルの主要機械工業、各開発銀行に対する融資申 請の規則概要
11月1日	150号	1962 年度上半期ブラジル経済の動き、ココア生産国 ブラジル
11月15日	151号	リオ・ドセ会社の拡張計画
12月1日	152号	1961 年度ブラジル化学工業動勢、対ブラジル外国融 資一覧表
12月15日	153号	ブラジルの電力事情—消費の増大に追いつかぬ電力 生産

1963年

63年度のブラジル経済は、国家財政の不均衡、国際収支の赤字、インフレの高進率、輸出の不振と政治危機を伴って悲観的な様相を呈してきた。

しかし、最近の10年間におけるブラジルの国民総生産は年率5.2%の上昇を示し、人口の増加率は2.7%、国民一人当たりの所得増加が2.5%になっており、マイナスの経済現象を伴いながら相当の伸びを示している。

ブラジルは、鉄鋼の自給を目指して設備拡張に努力を払っており、ポルタ・レドンダ、ウジミナス、コジッパ各製鉄所が拡張計画中で、65年頃にはブラジルの生産能力が約450万トンに達し、需要をほぼ満たすものとみられる。

また、日本の対ブラジル向けの鉄鋼製品の輸出は堅調で、63年1～9月の226%増の1856万ドルと増加した。日本品の進出した理由は、60～61年にかけて行なわれた以上に開拓の努力が実を結び、大手のユーザーに日本品の品質が認識されたことのほか、62年に入って日本の国内事情から日本品の価格が大幅に下がったことにある。

そのほか、人造黒鉛電極の輸出は、62年に150万ドルを超え前年比87%と大幅に増加した。日本品のシェアも、61年の29%から45%へと上昇し、米国を抜いて1位となった。米国は日本に次いで2位になったとはいえ、61年と比べて21%増加し、シェアも40%を占め、依然強力な競争相手となっている。ブラジルにはまだ国産品がなく全て輸入に依存しており、輸入需要は極めて強く、61年の輸入は前年比4%増、62年にはさらに23%と年々急激に増大しており、今後も一層の増加が見込まれる。

ブラジルでは、為替レート（公定）が62年5、7、8、9月に引き続き、63年4月にはまたもや460～475クルゼイロから600～620クルゼイロに切り下げられ、また輸入預託金が63年10月中旬に100%へ、ついで同月末には特別カテゴリーと一部一般消費財（476品目）につき200%に引き上げられている。

63年6月に国産可能機械設備の無為替輸入許可の厳格化が行われている。

また、ソ連との新3カ年貿易協定により、その貿易量は63年に1億6000万ドルとなる予定である（62年の実績は7000万ドル）。この協定にもとづき、63年2月にはブラジル産品とソ連石油とのパートナー取引（2100万トン）が調印されている。しかし、ブラジルの輸出拠出金は63年4月、コーヒー、ココアおよびペースト、綿花につき、逆に引き上げ乃至新設もなされている。

さらに、EECの対外政策や共通農業政策に伴って、中南米のEEC諸国向け主要輸出品である一次産品の輸出が減少する恐れがあるため、中南米諸国はEEC各国に外交使節団を派遣したり、代表部を設置したりして、その対策に

努めている。ブラジルは、再三にわたり、主にコーヒーについてE E C諸国と共通関税の引き下げを交渉するとともに、E E C諸国向け輸出を開発借款の供与によって保証するよう要求している。

諸外国の企業が直接進出するばかりでなく、現地メーカーとの技術提携の形で進出する事例も増えている。ブラジルでは、61年7月までに諸外国の企業と現地メーカーの間に結ばれた技術援助契約は430件に達している。そのうち米国が213件と半分近くを占め、これに西独96件、スイス30件、英国24件、フランス23件、イタリア21件などと続いている。

役員名簿（63年6月15日現在）

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）
副 会 頭：広川郁三（兼松）、延満三五郎（鐘紡）
専任理事：山本勝造（山本商会）、小寺泰蔵（三菱商事）
財務理事：南米銀行、東京銀行

63年度理事会社

1. 蜂谷商会
2. 兼松
3. 鐘紡
4. 山本商会
5. 三菱商事
6. 南米銀行
7. 東京銀行
8. 東山銀行
9. ヤンマー・ジーゼル
10. 住友銀行
11. 竹中商会
12. 丸紅飯田
13. 東洋紡
14. 城島商会
15. トヨタ自動車
16. 三菱銀行

17. 物産ブラジレイラ
18. 富士銀行
19. パイロット万年筆
20. 石川島造船
21. 羽瀬商会
22. コチア産組
23. 大洋漁業
24. 大日本紡績
25. ブラジル特殊陶業
26. ブラスコット
27. 南米綿花
28. 倉紡
29. プロットーレス倉庫
30. 豊和工業

機関誌『ブラジル経済情報』（63 年主要記事）

1 月 1 日	154 号	ブラジルの繊維工業、対ブラジル外国融資一覧表
1 月 15 日	155 号	ブラジルの農地改革、1963 年度ブラジル連邦予算
2 月 1 日	156 号	予算制度の改革案—内国審議会発表による—
2 月 15 日	157 号	経済総合開発 3 ヶ年計画概要
3 月 1 日	158 号	ブラジル経済に対する楽観論—イギリス財界筋の見解—
3 月 15 日	159 号	工具機械工業の促進—C E P A L の調査とその見通し—
4 月 1 日	160 号	3 ヶ年計画に対する新聞論評
4 月 15 日	165 号	1962 年度におけるブラジルの電力事情
5 月 1 日	162 号	1962 年度ブラジルの貿易収支、ブラジルのインフレと経済伸展度
5 月 15 日	163 号	ブラジルの鉱業情勢
6 月 1 日	164 号	SUMOC 指令 239 号—発令とその影響—
6 月 15 日	165 号	ブラジル各州の電力事情
7 月 1 日	166 号	1962 年度日伯貿易の概況
7 月 15 日	167 号	ラテン・アメリカ自由貿易連合—創立より現在まで

のバランス—

8 月 1 日	168 号	ブラジルのインフレと経済成長
8 月 15 日	169 号	ブラジルの水産漁業—その後進性と近代化への意欲
9 月 1 日	170 号	港湾の非能率性—ブラジル海運界の癌—
9 月 15 日	171 号	ブラジル銀行年次報告による 1962 年度伯国財政経済概観（1）
10 月 1 日	172 号	ブラジル銀行年次報告による 1962 年度伯国財政経済概観（2）
10 月 15 日	173 号	ブラジル銀行年次報告による 1962 年度伯国財政経済概観（3）
11 月 1 日	174 号	外国為替換算率及びその諸手続について
11 月 15 日	175 号	1963 年度上半期のブラジル経済の展望
12 月 1 日	176 号	ブラジルにおける飲料工業
12 月 15 日	177 号	化学肥料工業の現況

1964年

突如として起った三月民主革命により経済混乱が予想されたが、奇跡的に無血革命に成功して短期間に秩序を回復しことは幸いなことだった。

政府は、諸補助金政策の是正、所得税、消費税法の改正、資産再評価の実施、輸入抑制・輸出振興を図るなど経済安定化へ努力しているが、一方、対外信用回復のため、外債の支払期限延期交渉に成功し、外資法の改正、政府経済計画のため各種国際金融機関による援助要請などが続けられ、かつて前政権に足踏みしていた世銀は今や積極的援助に乗り出すようになった。

1964年1～10月のブラジル向け輸出は前年同期の4943万ドルから2288万ドルへと半減した。ブラジルはインフレの高進、相次ぐ金融引き締め、64年4月の政変前後の政情不安などから工業生産が停滞したため、輸入環境が悪化した。

ブラジルではクバトン石油コンビナートの一部としてエチレンを生産するための工場が目下建設中である。59～60年頃からエチレン、プロピレン、アンモニア、アンモニア・ニトريتなどが生産されており、さらに62年には合成ゴム（SBR）の生産が開始されている。合成ゴムの生産能力は年4万トンで、63年には2万9900トンが生産され、うち1480トンが中南米諸国に輸出されている。

ブラジルの自動車生産は、62年の19万1194台から63年の17万4126台に低下した（うち乗用車だけは15%の増産を示した）。主因は、販売価格の大幅上昇もあって、長期販売に対するクレジットが不足したことによるものである。さらに64年1～6月の生産は前年同期に比べて3%減の8万8771台で、その車両別内訳は乗用車4万5891台、ユーティリティカー、ジープ、ワゴン2万6696台、トラック、ローリー1万5796台、バス388台となっている。自動車の国産化はほぼ達成されており、最近では需要の増加に応じて主に既存設備の拡張計画がみられる。

例えば64年には、フォルクスワーゲン社は生産能力を4年間に倍増（日産300台から450台に引き上げ）するため1億ドルの投資計画を発表した。

ブラジルは商品の輸入に対して63年10月から高率の供託金が課せられてきた。しかも64年3月には、一般カテゴリー中、約500品目の為替発給がブラジル銀行だけで行なわれるようになり、一部輸入制限が強化されたため、コーヒー、ラジオ部品、テレビ用受像機など当該品目の輸入は減少を余儀なくされた。

64年1～10月の日本のブラジル向け輸出は前年同期の4943万ドルから2288万ドルへと半減した。ブラジルはインフレの高進、相次ぐ金融引き締め、

64 年 4 月の政変前後の政情不安などから工業生産が停滞したことにより輸入環境が悪化したためだった。

日本の対伯輸出は、64 年 1～10 月で前年同期比 4943 万ドルから 2288 万ドルへと半減。ブラジルでは、インフレの高進、相次ぐ金融引き締め、さらに 64 年 4 月の政変直後の政情不安などから工業生産が停滞し、輸入環境が悪化した。

64 年末に行なわれたサンパウロ州政府の鉄道ディーゼル電気機関車（26 億 1500 万ドル）の国際入札では、日本が一番札をとりながら、延べ払い条件に交渉がまとまらず断念した。ブラジルでは、資本財の延べ払い条件は、2 年据え置き、5 年払いを最低とするという措置が取られていた。

役員名簿（64 年 6 月 15 日現在）

理事会

会 頭：蜂谷専一（蜂谷商会）
副 会 頭：広川郁三（兼松江商）、延満三五郎（鐘紡）
専任理事：山本勝造（山本商会）、小寺泰蔵（三菱商事）
財務理事：南米銀行、東京銀行

64 年度事業報告

主な行事

3 月 6 日 中南米経済合同会議（於・リマ——ペルー）

機関誌『ブラジル経済情報』（64 年主要記事）

1 月 1 日	178 号	ブラジルのインフレと政情
2 月 1 日	179 号	連邦道路の新計画—予算総額 2,470 億クルゼイロ
2 月 15 日	180 号	ブラジルの設備機械現況、1964 年度の連邦予算
3 月 15 日	181 号	ブラジルの農業政策、ブラジルの鉱産資源
4 月 1 日	182 号	ラ米諸国工業化の進展、北東地域の未完成鉄道
4 月 15 日	183 号	ブラジル経済 1963 年の回顧—経済問題委員会の報告書—
5 月 1 日	184 号	北東地域の社会・経済開発問題—有望な進出企業の

		新舞台一
5 月 15 日	185 号	ブラジルの政変—ゴラール政権の崩壊—
6 月 1 日	186 号	ラ米投資保険に関する一考察—北米外国保険協会会長の講演—
6 月 15 日	187 号	1963 年度ブラジル経済概観、1963 年度ブラジル対外貿易概要
7 月 1 日	188 号	新大統領の就任と施政方針、ブラジル革命の真相
7 月 15 日	189 号	輸出振興とその問題点、連邦政府の義務公債
8 月 1 日	190 号	東北伯及び北伯地方視察報告（特集号—1）
8 月 15 日	191 号	東北伯及び北伯地方視察報告（特集号—2）
9 月 1 日	192 号	北大河州概観、マラニョン州の将来
9 月 15 日	193 号	世界の綿業界とブラジル綿、ブラジルの軍部
10 月 1 日	194 号	ブラジル銀行年次報告による 1963 年度伯国財政経済概観（1）
10 月 15 日	195 号	ブラジル銀行年次報告による 1963 年度伯国財政経済概観（2）
11 月 1 日	196 号	ブラジル銀行年次報告による 1963 年度伯国財政経済概観（3）
11 月 15 日	197 号	A L A L C の経済統合—第 3 会議の内容—
12 月 1 日	198 号	ブラジルの地下資源
12 月 15 日	199 号	ブラジルの航空事情、ブラジルの自動車工業、自動車部品工業

1965年

1964年3月にカステロ・ブランコ元帥が革命政府を樹立して以来、政治面においては軍政令を公布して左翼系政治家の追放、汚職の肅清を敢行し、政治組織の再編成、果敢な経済的政策を強力に推し進めている。

結果として政治は軌道に乗り、経済面では物価の統制、最低賃金の固定化、金融引き締め等悪性インフレ抑制の徹底化により健全財政への移行を強引に推進した。

革命政府の経済政策は諸外国にも評価され、北米を始め欧州諸国よりも積極的協力の申し出があり、現に融資の供与契約を得た金額は既に9億ドルに達し、うち昨年度に実際に受け取った金額は4億5千万ドルに達した。

63年末、日本使節団の答礼の意味で、全伯工業連盟総裁マセード・ソアレス氏を団長とし、ブラジルの大手企業人約70人による経済使節団が派遣された。日伯貿易市場に特筆すべき事業となった。

ブラジルはカステロ・ブランコ政権で強力なインフレ抑制策を推し進めてきたが、ようやくその効果が表れ始めてきた。生計費の年間上昇率をみると、63年の80.7%から64年には87%に跳ね上がったが、65年に入ると物価上昇の波もようやく鈍り始め65年1～9月の上昇率は39.2%と前年同期の59.6%を大幅に下回った。64年に経済の根本的な立て直しを図るため、カンポス経済企画相の指導のもとに「革命政府の実行計画（64～66年）」を作成、実施に移した。政府は税制改革を行なって税収入の増加を図る一方、石油などに対する特惠為替レートの廃止や補助金の削減など財政支出の節減に努めた。その結果、65年1～9月の財政赤字額（推定）は5410億クルゼイロと前年同期の5580億クルゼイロを下回り、年間を通じて7000億クルゼイロ以下に抑えられる見通しとなった。

また、物価安定を狙いとしたPORTARIA 71号を65年2月に公示した。これは、65年中に15%以上の製品値上げをしないと約束した民間企業に対して、輸入及び対外送金制限の緩和、手形割引やブラジル銀行の金融緩和、消費税支払い方法の優遇などの恩典を与えるとするものである。

インフレ抑制、消費抑制の結果、65年中間までの産業界は深刻な不況に見舞われた。65年1～6月の工業生産は前年同期に比べて約3.4%の減少を見せた。政府は産業界全般の不振打開のために、耐久消費財の消費税を軽減するなどの措置を一定期間実施し、自動車産業や電気機器産業に適用した。明るい材料としてはブラジルで初めて合成ゴム工場がレシーフェに建設され、稼働を始めた。

64年の国際収支が約7000万ドルの黒字に転じ、それは65年に入っても続

き、上半期の国際収支は 1 億 5000 万ドルの黒字に終わるものと推定されている。中でも貿易収支は、輸出が前年同期をわずかに上回って 6 億 6400 万ドルであるのに対し、輸入が 4 億 2700 万ドルと前年同期比約 18%減となり、2 億 3700 万ドルの黒字となっている。しかし、こうした貿易バランスは、あくまでも国内のインフレ抑制、市況の停滞を背景にした縮小均衡の形を取ったもので、輸出伸張を図ることが急務となっている。

政府は 65 年 11 月 13 日、為替レートを従来の 1 ドル＝1.825 クルゼイロ（買）、1.850 クルゼイロ（売）から 2200 クルゼイロ（買）、2220 クルゼイロとすることを決定し、16 日より実施した。同時に、一連の物価安定、経済成長促進政策の一環として輸入預託金、財政賦課金の撤廃、PORTARIA 71 号の 1 年延長などを定め、レート改訂の物価への跳ね返りを最小に止め、インフレ再発を防止すべく周到な配慮を示した。

役員名簿（65 年度 5 月 28 日現在）

常任理事会

会 頭：広川郁三
副 会 頭：藤平正義、山本三郎
専任理事：加藤仁、後藤隆
財務理事：東京銀行、東山銀行

65 年度理事会社

資料なし

65 年度監事会

監 事（65 年 9 月 9 日選出）

1. 門脇広行	サンパウロ東京銀行
2. 竹中正	竹中商会
3. 加藤安友	加藤精機工業会社

65 年度事業報告

総 会

- 5月21日 第15回定期総会
 ・ 1964年度事業報告及び会計報告、理事及び役員選挙
- 9月9日 臨時総会、役員会
 ・ 定款改正の件
 ・ 監事3名の選出

常任理事会

- 9月28日 常任理事会兼役員会
 ・ 日本輸出入銀行総裁森永貞一郎氏スケジュール及び歓迎会に関する件
 ・ 加藤専任理事後任の件
 ・ 中部産業連盟派遣中南米産業調査団来伯の件
 ・ 会費調整の件
 ・ 会員証作成の件

理 事 会

- 8月3日 役員会及び、理事会
 ・ 定款改正の件
 ・ 中南米経済使節団来伯に関する件
- 10月25日 第2回理事会
 ・ ブラジルの経済使節団訪日の件

主な行事

- 5月20日 工業部会の工場見学会
 見学先：NGK、豊和工業
- 5月28日 役員選任
- 6月15日 役員会
- 6月15日 ジョアオン・バチスタ・ピニェイロ前駐日ブラジル大使歓迎晩餐会（於・キンコン飯店）
- 7月1日 定款改正委員会会議
- 7月5日 講演会
 テーマ：「ブラジル現政府の経済政策と立法」
 ：「ブラジル現政府の外資政策と立法」
 ：「再投資に関わる日伯両国の立法」
 講 師：櫻井雅夫（アジア経済研究所海外派遣員在リオデジャネイロ）
- 7月7日 定款改正委員会会議

- 7 月 27 日 役員会
・ 官民合同貿易会議（8 月 14 日、於・リオ）の件に関して
- 8 月 10 日 工業部会会議
- 8 月 30 日 中南米経済使節団歓迎懇談会
- 10 月 8 日 日本輸出入銀行総裁森永貞一郎氏歓迎懇談会（於・サンパウロ商業協会）
- 10 月 15 日 中部産業連盟派遣中南米産業調査団歓迎晩餐会（於・日本文化センターサロン）
- 11 月 4 日 全伯経済懇談会（於・サンパウロ日本文化協会サロン）
- 11 月 19 日 ブラジル経済ミッション訪日壮行カクテルパーティー（於・文化センター、日系諸団体共催）

機関誌『ブラジル経済情報』（65 年主要記事）

1 月 1 日	200 号	ブラジルの銀行組織の発展
1 月 15 日	201 号	1964 年度上半期ブラジル経済概況
2 月 1 日	202 号	1964 年度上半期ブラジルの国際収支、
2 月 15 日	203 号	ブラジルの電気・通信工業、電話およびその他通信機器
3 月 1 日	204 号	ブラジル経済現下の状況、サンタ・カタリーナ州の経済概況
3 月 15 日	205 号	コーヒーの生産と輸出
4 月 15 日	206 号	ブラジルの製鉄工業 1963～1964 年度（Ⅰ）
5 月 1 日	207 号	ブラジルの製鉄工業 1963～1964 年度（Ⅱ）
5 月 15 日	208 号	ブラジルの製鉄工業 1963～1964 年度（Ⅲ）
6 月 1 日	209 号	経済発展に不可欠輸出貿易の振興—クーニャ外相の講演要旨—
6 月 15 日	210 号	ブラジル経済概観 1964 年、1964 年度日伯貿易
7 月 1 日	211 号	価格管理—通牒第 71 号の施行とその対策
7 月 15 日	212 号	ブラジル銀行年次報告による 1964 年度伯国財政経済概観（1）
8 月 1 日	213 号	ブラジル銀行年次報告による 1964 年度伯国財政経済概観（2）
8 月 15 日	214 号	ブラジル銀行年次報告による 1964 年度伯国財政経

済概観（3）

9月1日	215号	ブラジルの景気後退について、ブラジルの土木建築事情
9月15日	216号	工業融資の概況、経済使節団の照会事項に対する回答
10月1日	217号	石油政策と国際収支—ペトロプラス 64 年度報告書より—
10月15日	218号	ブラジルの原子力開発、ブラジル民間航空発達史
11月1日	219号	電力開発計画とその財源
11月15日	220号	革命後の経済政策とその成果—経済企画相ロベルト・カンボスの演説要旨—
12月1日	221号	65年上半期経済展望

1966年

ブラジル経済は65年後半から目覚ましい回復を見せ、全般に経済の立ち直りが遅い中南米諸国にあって、特に注目されてきている。GNPの伸び率は64年の3.1%から65年には一躍7.3%に上昇し、逆に物価上昇率は85%から45%に鈍化した。66年の明るい材料としては、①鉱工業生産が依然順調に推移していること、②連邦政府の財政赤字幅が小さくなっていること、③輸出が好調に推移していることなどが挙げられる。

例えば、鉱工業生産についてみると66年1～6月の自動車生産（トラクターを除く）は11万5000台（前年同期7万5000台）、セメント288万トン（同261万トン）、電力消費量109億3500万KWH（同103億6700万KWH）とそれぞれ増加している。また同期間の財政赤字額は前年同期の3640億クルゼイロから2210億クルゼイロに縮小している。

一方貿易については、65年の輸出が前年比11.5%増の15億9500万ドルと伸びたのに対し、輸入が10億9600万ドルと前年に比べて13.2%減少したため、貿易黒字は前年の1億6700万ドルから4億9900万ドルと飛躍的な拡大をみた。

66年1～6月の輸出もコーヒー輸出の好調に支えられて8億700万ドル（前年同期6億4900万ドル）、輸入は6億4100万ドル（同5億1300万ドル）となり、差引き1億6600万ドルの出超となっている。また、金・外貨保有高は64年末の3億6800万ドルから65年末には6億8800万ドルに著増し、66年央には7億ドル台に達したものと推定されている。

ブラジルは、65年12月末の第1次リストから第4次リストまでに約900品目を輸入禁止に近い特別カテゴリーから比較的輸入規制の緩やかな一般カテゴリーに移行した。これまでもカテゴリー間の品目移行は行われてきたが、あくまでも部分的な域を出なかったことからすると、こうした大幅な品目移行を行なったことは近年にない緩和措置といえよう。

このような輸入規制を緩和するに至った背景としては、（1）国際収支の改善に伴って外貨ポジションが好転してきたこと、（2）工業発展のために原料確保が必要となってきたこと、（3）対外競争に対する過度の保護をはずして国内メーカーに合理化を迫り、国際競争力を高める必要が生じてきたことなどが挙げられる。

この品目移行と同時に、輸入業者の資金負担を軽減する措置も講じた。政府は65年11月16日の預託金、財政賦課金の撤廃に引き続き、66年4月29日には輸入保証積立金（25%）も廃止した。さらに5月31日は1社当たりの週間輸入限度枠（5万ドル）も撤廃し、9月17日には一般輸入の際必要なCCC

(為替予約証明書)をもなくし、輸入代金の全額前払い制度の廃止に踏み切った。

しかし、66年11月21日付大統領令第63号および中銀回章第41号で政府は「67年3月から特別カテゴリーを廃止し、現行関税を改訂する」ことを発表したが、自由化を進める反面、関税面での操作によって国内産業への影響はできるだけ小さくなるよう配慮していることは注目する必要があるだろう。

4月18日付で会議所事務所をサンパウロ市 Riachuelo 街 67 番より新事務所：同市 Barão de Itapetininga 街 140 番 10 階 104 号室に移転した。

役員名簿（66 年度）

顧問弁護士：植木茂彬

常任理事会

会 頭：広川郁三
副 会 頭：藤平正義、山本三郎
専任理事：加藤仁、後藤隆
財務理事：東京銀行、東山銀行

66 年度理事会

資料なし

66 年度事業報告

総 会

- 6 月 3 日 第 16 回定期総会
- ・ 1965 年度事業報告の件
 - ・ 1965 年度会計報告の件
 - ・ 来年度事業計画の件
 - ・ 会費値上げの件
- 6 月 24 日 第 2 回臨時総会、第 3 回理事会
- ・ 会議所本部事務所購入の件

常任理事会

5 月 6 日 第 8 回常任理事会

- ・ 定期総会の件
- 5月20日 第9回常任理事会
- ・ 文協基金に関する件
- 9月6日 第10回常任理事会
- ・ 新事務所設計に関する件
- 9月29日 第11回常任理事会
- ・ 椎名外相の要望事項
- 10月10日 第12回常任理事会
- ・ 新事務所の設営プロジェクト討議
- 10月13日 第13回常任理事会
- ・ チリー・サンチアゴにおける貿易合同会議に関する打ち合わせ
- 10月24日 第14回常任理事会
- ・ アブレウ・ソドレ知事訪日に関する件
- 11月8日 第15回常任理事会
- ・ ラ米貿易合同会議への要望事項検討
- 12月16日 第16回常任理事会開催
- ・ 文協基金に関する件
- 2月10日 第17回常任理事会
- ・ 事務所購入基金の件
- ・ 在日代理人後任の件
- ・ 経済事典の発刊に関する収支計算の件
- ・ 会議所収入源強化に関する件
- ・ 文協基金に関する件

理 事 会

- 8月12日 緊急理事会
- 訪日する Abreu Sodré 氏に提出する要望事項の討議
- 2月17日 第6回理事会
- ・ 事務所購入基金の件
- ・ 在日代理人後任の件
- ・ 経済事典の発刊に関する収支計算の件
- ・ 会議所収入源強化に関する件
- ・ 文協基金に関する件

主な行事

- 5月23日 監事会
- ・ 定期総会に提出する会計書類の検査及び意見書の作成

- 6 月 3 日 春の叙勲者九氏の祝賀会（於・文協サロン、日系諸団体共催）
- 6 月 23 日 プラスチック調査団歓迎経済懇談会（於・サンパウロ商業協会
サロン）
- 7 月 6 日 電気通信企業提携調査団歓迎昼餐会
- 7 月 25 日 日伯シンポジウム
- 8 月 5 日 アブレウ・ソドレ サンパウロ州知事を囲む経済懇談会（於・
ナショナルクラブ）
- 9 月 5 日 海外技術者研修協会専務理事の島谷氏を迎えての懇談会
- 9 月 15 日 三菱銀行常務取締役長谷川徳治氏歓迎経済懇談会
- 9 月 23 日 山形県経済視察団を迎えた経済懇談会
- 9 月 30 日 椎名外相歓迎会（於・文協サロン、日系諸団体共催）
- 10 月 20 日 矢ヶ崎会計理事帰国送別昼食会（於・中巴飯店）
- 12 月 6 日 前監事門脇広行氏の追悼ミサ（東銀と共催）
- 12 月 9 日 秋の叙勲者 7 氏の祝賀会（於・文協サロン、日系諸団体共催）
- 1 月 27 日 第 1 回ベアリング輸入業者の打ち合わせ会（於・当所サロン）
- 1 月 30 日 第 2 回ベアリング輸入業者の打ち合わせ会
- 2 月 24 日 笠戸丸第 1 回移民の訪日壮行会（文協との共催）
- 3 月 23 日 日本輸出入銀行理事立花恭治氏を囲む経済懇談会
- 3 月 23 日 皇太子殿下ご夫妻歓迎委員会発刊の「ブラジル案内」編集会議、
当所より阿部総務出席
- 4 月 18 日 当所事務所：サンパウロ市 Riachuelo 街 67 番より、新事務所：
同市 Barão de Itapetininga 街 140 番 10 階 104 号室に移す

機関誌『ブラジル経済情報』（66 年主要記事）

- 1 月 1 日 222 号 工作機械の市場開拓について
- 1 月 10 日 223 号 ブラジルの化学肥料、1965 年度上半期における A L
A L C 貿易
- 1 月 20 日 224 号 65 年上半期経済展望
- 2 月 1 日 225 号 革命後の経済、工業融資基金
- 2 月 15 日 226 号 ブラジルにおける保険業、ブラジルの製薬工業、砂
糖産業の危機
- 3 月 1 日 227 号 65 年度の回顧
- 3 月 15 日 228 号 企業の海外進出、ブラジルの漁業
- 4 月 1 日 229 号 砂糖、アルミニウム

4 月 15 日	230 号	自動車工業
5 月 1 日	231 号	1965 年度工業界、運輸
5 月 15 日	232 号	1965 年度のブラジル経済概観、日伯貿易概況
6 月 1 日	233 号	65 年度の対外貿易、国際収支と為替
6 月 15 日	234 号	工作機械工業、アマゾンとその開発（1）
7 月 1 日	235 号	電力開発状況、
7 月 15 日	236 号	ブラジルの地域開発、アマゾンとその開発（2）
8 月 1 日	237 号	ブラジルの対外経済（I）
8 月 15 日	238 号	ブラジルの対外経済（II）
9 月 1・15 日	239 号	66 年上半期経済展望
10 月 1・15 日	240 号	工業基金について
11・12 月	241 号	金融経済政策批判への回答—経済企画相ロベルト・カンポス—

1967年

1967年のブラジル経済動向は、前政権の経済政策を基盤としてデルフィン蔵相の新財政政策に移行されたが、基本的には依然としてインフレ抑制と経済成長率の引き上げだった。そして、税制、通貨、信用部門の調整が行なわれ、特に民間企業の流動性と運転資金の円滑化、清算能力増大には画期的な措置がとられた。

この結果、経済成長率は5%に伸長、前年度の4.4%を上回る好成績を収めた。また、生活費指数も25%に留まり、昨年同期の41%と比較して15%以上の差が現れ、経済成長率を高度に維持しながらインフレを収束させるという目標が達成されたといえる。

国家財政では、歳入が60億2000万新クルゼイロ、歳出が74億2700万新クルゼイロで赤字。国際収支では、輸出が16億5400万ドル、輸入は14億4100万ドルだった。

輸出が減少し輸入が増大したことは、前政権から貿易の自由化が進み、国内工業の競争力が増すとともに、工業品の値上げを阻止することによってインフレを抑制しようとする特別カテゴリーの廃止及び関税の20%軽減という重要措置を取ったことに起因している。

日伯貿易は、ブラジルから日本への輸出が8563万3000ドル、日本からの輸入が5455万6000ドルとなり、往復の貿易額は1億4018万9000ドルとなった。長らく低迷していた両国間の貿易が一大飛躍を遂げ、56年の1億5000万ドルのラインに再び接近しようとしつつあった。

こうした中で商工会議所は67年度の当初の活動方針を①日伯貿易の拡大、②企業進出及び対伯投資の促進、③商社並びに工業に対する融資拡大に関する要望、④伯国政府への要請、⑤当商工会議所の日常活動の強化と定めて実行した。

その結果、①に関しては、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された中南米官民合同会議に代表を送り、強力な要請を行なった。また、日伯経済合同委員会の会議に対する本商工会議所の意見の開陳及び国際入札に関する審議などを通じて貿易促進を図った。②に関しては、日本の関係省庁などに意見書並びに要望書を提出。さらに、対伯政策の積極的な推進を要請した。③については、サンパウロ商業会議所の法人会員として代表者を送り、外国商業会議所審議会を通じて輸出の促進、通関手続きの簡素化などについて意見を提出した。④については会員アンケートを実施、定款の改正などを実施した。

役員名簿（６８年度４月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：石井正巳（三井物産）、藤平正義（豊和工業）

専任理事：藤原英三、後藤隆（ヤンマージーズル）

財務理事：樋口博三（富士銀行）、今沢正嘉

６７年度理事会社及び監事会

理事会社

1. 兼松江商
2. 三井物産
3. 豊和工業
4. ヤンマージーズル
5. 南米銀行
6. 住友銀行
7. 丸紅飯田
8. 三菱商事
9. 鐘紡
10. 久保田鉄工
11. トヨタ自動車
12. 東洋紡
13. NGK
14. ブラジル三菱銀行
15. 蜂谷商会
16. 伊藤忠
17. 富士銀行
18. コチア産組
19. 日綿
20. 南伯産組
21. 日紡
22. プロツトーレス倉庫

- 23. サドキン電球
- 24. 大阪商船三井船舶
- 25. 竹中商会
- 26. 倉敷紡績
- 27. 山本商会
- 他 3 社、不詳

監 事

- 1. 城島慶次郎
- 2. 加藤安友

※役員名簿は 1967 年度事業報告（1967 年 5 月 1 日～1968 年 4 月 30 日）による

67 年度事業報告

総 会

- 6 月 27 日 第 17 回定期総会
 - ・ 1966 年度事業報告
 - ・ 同会計報告
 - ・ 新理事会員選挙結果発表
 - ・ 新監事の選任

常任理事会

- 5 月 17 日 常任理事会
 - ・ 故・松本清三氏の後任の件
 - ・ 「ブラジル経済事典」収支決算報告、定期総会の日取りについて
- 7 月 25 日 第 8 回常任理事会
- 8 月 22 日 第 2 回常任理事会 & 電線ミッションとの懇談会
- 8 月 29 日 常任理事会及び第 3 回理事会
 - ・ 会員アンケート集計
 - ・ 会費値上げ
 - ・ 定款の一部改正
 - ・ 運営の基本方針及び 1967 年度事業予算検討
- 2 月 8 日 第 5 回常任理事会
- 4 月 9 日 第 6 回常任理事会

理 事 会

- 6 月 13 日 第 7 回理事会
・ 定期総会の準備事項について
7 月 4 日 第 1 回理事会

主な行事

- 5 月 6 日 税法研究会
5 月 11 日 農工合同委員会の産業展開催
5 月 12 日 工業出品者打ち合わせ会
5 月 25 日 コロニア産業展開場式——皇太子殿下御来訪
6 月 3 日 税法研究会
6 月 16 日 当会議所本部事務所落成式
6 月 19 日 田付景一大使送別会（於・文協サロン、文協との共催）
6 月 21 日 九州・山口経済連合会中南米視察団歓迎経済懇談会
6 月 30 日 CIOS 調査団歓迎昼餐会
7 月 27 日 リオ日本大使館松尾一等書記官を迎え経済懇談会
8 月 1 日 日伯経済合同委員会に関する審議会
8 月 8 日 「最近の日伯海運事情」についての経済懇談会
ゲスト：喜多豊治氏
9 月 20 日 石田輪銀総裁、柳田経済協力基金総裁の歓迎会
9 月 22 日 原東京銀行頭取の歓迎会
10 月 2 日 宇佐美日銀総裁歓迎午餐会
10 月 27 日 小林大使を招待した経済懇談会
12 月 6 日 千葉大使との昼餐会
12 月 7 日 千葉大使歓迎会（文協との共催）
12 月 28 日 ブラジルにおける国際入札に関する懇談会
3 月 18 日 日伯合同経済委員会の結果報告会
ゲスト：平林氏（外務省ラテンアメリカ課）
4 月 30 日 四国生産性本部中南米市場調査団歓迎会

機関誌『ブラジル経済情報』（67 年主要記事）

- 1 月 1 日 242 号 I F C の投融資—内容と対ブラジル供与—
1 月 15 日 243 号 石油工業、経済政策批判
2 月 1 日 244 号 最近の石油化学工業、中部ブラジルの牧畜
2 月 15 日 245 号 日伯租税条約の調印について
3 月 1 日 246 号 中小企業への融資、サンタ・カタリーナ州

3月15日	247号	SUDENEと民間企業
4月1日	248号	66年度の回顧
4月15日	249号	1966年度財政経済概観（1）
5月1日	250号	1966年度財政経済概観（2）
5月15日	251号	1966年度財政経済概観（3）
6月1日	252号	1966年度財政経済概観（4）
6月15日	253号	ブラジル経済概観（1）
7月1日	254号	ブラジル経済概観（2）
7月15日	255号	ブラジル経済概観（3）
8月1・15日	256号	現政府の行動計画
9月1・15日	257号	ブラジル経済概観（4）
10月1日	258号	最近の金利問題
10月15日	259号	為替問題、資本市場
11月1日	260号	最近の景気問題、東北伯開発の過去現在及び未来
11月15日	261号	国産類似品施行細則について
12月1日	262号	農業融資について
12月15日	263号	日本・ブラジル二重課税防止条約

1968年

67年7月頃より景気回復の兆候を見せ始めたブラジル経済は、68年に入っても着実に景気回復基調を辿った。商工業界の生産、荷動きは活発化しており、工業用電力消費量の増加、雇用の増大が顕著で、機械工業の受注高も活発な設備投資を反映して目立って増えている。68年1～10月の工業生産動向をみると、鋼塊12%増、鋼板19%増、自動車20%増、電力生産13%増などと67年の実績を大幅に上回っている。

建設部門も国立住宅銀行の民間住宅建設向け融資が活発化しているため好調で、建築数は前年比21%増に達する見込みである。前述銀行は年に入って2万軒の住宅に融資、建築している。これに伴い、セメントその他の建設用資材の需要と生産も強く刺激され、品不足も生じている。こうした工業生産高や建設活動の上昇傾向に支えられて、68年の経済成長率は67年の5%を上回り6%、260億ドルに達するものと見込まれている。

発表された施策目標である経済・社会開発3カ年計画（68～70年）によると経済成長率は年6%と策定され、経済自立のため、基礎部門の拡充、農業の近代化、教育、衛生・住宅部門に重点が置かれている。このような開発計画には巨額の公共投資を要し、これがまた経済に大きな浮揚力を与えるものとみられる。

経済活動の活発化に伴い、銀行貸付も増大している。68年1～10月で見ると、銀行貸付は47%増、銀行預金も28%増の伸びを見せた。ただ10月以降、年央ほどではないが、金融逼迫の兆しが表れた。

物価上昇率は、前政権以来のインフレ抑制策で年々減少してきている。しかし、68年には10月で21.3%と昨年同期の22.6%を下回ったものの、賃金上昇や間接税の増額などが悪要因となって25%を多少上回るものと推測される。

貿易動向をみると、67年の輸出は16億5400万ドル、輸入は16億6700万ドルで1300万ドルの入超を記録し、64年以来の黒字基調が崩れ、国際収支も2億3700万ドルの赤字を示した。この輸入増の原因は67年3月の特別カテゴリー制撤廃による輸入自由化と関税引下げに加え、商工業界が活況を取り戻したことにある。68年に、入っても景気回復過程を反映して輸入需要は依然旺盛で、1～10月の輸出は15億ドルで、13%増であるのに比し、輸入（CIF）は17億ドルで27%増と伸びている。68年の貿易収支の赤字幅はかなりの上ると予測されるが、資本収支の黒字により幾分緩和されるものとみられている。なお金・外貨準備高は68年8月現在2億5400万ドルとなっている。

68年8月には平価切り下げと同時に従来のもろ替制度を変更し、新たに為替相場の短期調整を導入したが、それ以来、9月、11月、12月、2月と4回の平

値切り下げを行なった。

68年の日伯貿易をみると、輸出・輸入ともに過去最高を上回り、総額1億9,000万ドルに達した（従来記録は61年の1億5,000万ドル）。特に、日本からブラジルへの輸出が前年の5,455万ドルから初めて1億ドルの大台に乗り、1億206万ドルへと対前年比87%の増加を示した。一方、分日本のブラジルからの輸入は対前年比2%の微増にとどまった。これは、花棉766万ドル増、解体用船舶460万ドル増、馬肉144万ドル増にもかかわらず、日本国内の鉄鋼需要の落ち込みから銑鉄が1,042万ドルも減少したことによるもの。

役員名簿（69年度4月末日現在）

顧問：蜂谷専一（蜂谷商会）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：広川郁三（兼松江商）

副会頭：石井正巳（三井物産）、藤平正義（豊和工業）、宮本邦弘（プロジトーレス倉庫）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマージーゼル）、八木徹（三菱商事）

財務理事：樋口博三（南米銀行）、加太邦男（住友銀行）

委員会

渉外委員会 藤平正義（豊和工業）

時事問題研究委員会 石井正巳（三井物産）

機関誌委員長 後藤隆（ヤンマージーゼル）

相互啓発委員会：別役道昌（鐘紡）

経済調査委員会：八木徹（三菱商事）

法令研究委員長：樋口博三（南米銀行）

68年度理事会社及び監事会

理事会社

1. 兼松江商
2. 三井物産

3. 豊和工業
4. プロツトーレス倉庫
5. 鐘紡
6. ヤンマージーゼル
7. 三菱商事
8. 南米銀行
9. 住友銀行
10. 東山銀行
11. 東京銀行
12. 大阪商船三井船舶
13. 富士銀行
14. 伊藤忠
15. 久保田鉄工
16. ユニチカ
17. 東洋紡績
18. NGK
19. コチア産組
20. 味の素
21. 丸紅飯田
22. 城島商会
23. ブラジル三菱銀行
24. 日綿
25. 竹中商会
26. 南伯中央産組
27. 加藤精機
28. サンパウロ東京銀行
29. 三菱重工
30. 蜂谷商会

監 事

1. 高橋時中	ウジミナス
2. 花城清和	花城商会
3. 羽瀬太一	羽瀬商会

機関誌『ブラジル経済情報』（68 年主要記事）

1 月 1 日	264 号	68 年の問題点
1 月 15 日	265 号	ブラジル経済の一つの視点
2 月 1 日	266 号	最近の金融政策、パラナ州の急速な発展
2 月 15 日	267 号	日伯貿易上の問題点、伯国工業製品の輸出
3 月 1 日	268 号	最近の為替制度の変更、電力
3 月 15 日	269 号	特惠関税とブラジル、石油、北伯、東北伯の印象
4 月 1 日	270 号	支払手段が膨張、原子力発電、運輸
4 月 15 日	271 号	現下の金融情勢、製鉄工業
5 月 1 日	272 号	実質所得の低下、ブラジル経済概観（1）
5 月 15 日	273 号	外国旅行者手荷物の通関規定施行細則、
6 月 1 日	274 号	珈琲事情、ブラジル経済概観（2）
6 月 15 日	275 号	均衡基調の 1967 年貿易、ブラジル経済概観（3）
7 月 1 日	276 号	流動性の低下
7 月 15 日	277 号	ブラジルに対する邦人の経済観、1967 年度財政経済概観（1）
8 月 1 日	278 号	3 ヶ年計画について、1967 年度財政経済概観（2）
8 月 15 日	279 号	為替相場の変更と新制度採用、今日のサンパウロ・市及び州
9 月 1 日	280 号	品目別輸入依存度について、1967 年度の日伯貿易概況と日伯経済合同委員会の報告
9 月 15 日	281 号	経済発展と産児制限、1967 年度財政経済概観（3）
10 月 1 日	282 号	新為替制度の活動開始と金融事情
10 月 15 日	283 号	68 年上半期の国際収支と貿易動向
11 月 1 日	284 号	L A F T A の問題点と伯国の立場、ブラジルの経済事情
11 月 15 日	285 号	年末の金融情勢、外務省派遣メキシコ・ブラジル経済使節団の照会事項に対する回答
12 月 15 日	286 号	対伯投資と進出企業

1969年

1969年はコスタ前大統領病氣辞任後、メジシ現大統領に交代。インフレ率は24%と前年と同水準で、GNP成長率は9%、国民一人当たりの実質成長率は6%となった。外貨保有高は9億ドルだった。

輸出が初めて20億ドル台に乗り22億6900万ドル、輸入22億33万ドルとなり、当国史上最大の貿易額を記録した。

ブラジルの経済は68年以来一般に好調で、69年上半期の国民総生産の伸びは、前年同期に対して6~7%増となっている。しかし、多くの企業がほぼ完全操業に近い水準にあるので、69年における工業生産の上昇率は、68年の約15%に比較してやや低い8~10%の水準に落ち着くものとみられる。

工業生産の拡大にもかかわらず金融引き締めのため、需要の低下による在庫の圧迫が現れ始めている部門がある。69年上半期の工業生産をリードしてきた自動車工業は、1~9月で68年1年分の生産高(27万4000台)をあげているため、在庫圧迫が大きく、フォルクス・ワーゲンなどは生産調整を行なった。

しかし、8月に通貨増発、市中銀行に対する再割引枠の拡大などから、9月に入ってから景気はやや上向きに転じている。

インフレは68年以降小康状態を保っており、68年が24%にとどまったことから、69年は20%以内に抑えられると期待されたが、11月12日のゼツリオ・バルガス経済研究所の発表によると、同生計費は1~10月で20.3%と、20%台の大台を突破した。

物価上昇が予想以上に激しかったのは、何十年ぶりという干ばつと降霜で農産物の被害が大きく、食料品が高騰したこと(1~10月で24.1%の上昇、前年同期14.1%)が主な原因である。

なお、新クルゼイロ貨の対米ドル相場は、69年1月の3.805(売り)／3.80(買い)から4.350／4.325(12月18日改訂)へと13%切り下げられているが、これは前期の生計費上昇率よりはるかに低い。

財政収支の赤字も69年上半期は2億6000万新クルゼイロで、前年同期の8億8200万新クルゼイロに比較すると、著しく改善されている。69年1年間の財政赤字は、68年の12億2700万新クルゼイロの半分の6億新クルゼイロと見込まれている。

貿易についてみると、69年1~9月の輸出は14億2000万ドルで、前年同期比18.8%の伸びを示し、このうち工業製品が1億6400万ドル(対前年同期比31%増)と大きく伸びたのが目立っている。特に、機械、自動車、化学製品などが大きな比重を占めている。現在、69年の年間輸出は総額22億ドルに

達するものと期待されている。

一方、輸入は69年1～8月にFOBで13億9900万ドル(対前年同期比1.2%増)、69年の年間輸入は総額19億ドルが見込まれている。

金・外貨準備高は、69年6月現在3億7700万ドルで、68年末の2億5700万ドルに比較して、著しい改善を見せている。

69年9月30日、コスタ・イ・シルバ大統領の後任にエリミオ・ガラタス・メジシ将軍が就任したが、新大統領は前大統領の路線を継続すると発表したことから、当面経済・貿易政策に大きな変更はなく推移すると見られている。

役員名簿（70年度4月末日現在）

顧問：蜂谷専一（蜂谷商会）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：石井正巳（三井物産）、藤平正義（豊和工業）、宮本邦弘（プロゾトールス倉庫）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマージーゼル）、八木徹（三菱商事）

財務理事：樋口博三（南米銀行）、加太邦男（住友銀行）

委員会

渉外委員会 藤平正義（豊和工業）

時事問題研究委員会 石井正巳（三井物産）

機関誌委員長 後藤隆（ヤンマージーゼル）

相互啓発委員会：別役道昌（鐘紡）

経済調査委員会：八木徹（三菱商事）

法令研究委員長：樋口博三（南米銀行）

69年度理事会社及び監事会

理事会社

1. 兼松江商
2. 三井物産

3. 豊和工業
4. プロツトーレス倉庫
5. 鐘紡
6. ヤンマージーゼル
7. 三菱商事
8. 南米銀行
9. 住友銀行
10. 東山銀行
11. 東京銀行
12. 大阪商船三井船舶
13. 富士銀行
14. 伊藤忠
15. 久保田鉄工
16. ユニチカ
17. 東洋紡績
18. NGK
19. コチア産組
20. 味の素
21. 丸紅飯田
22. 城島商会
23. ブラジル三菱銀行
24. 日綿
25. 竹中商会
26. 南伯中央産組
27. 加藤精機
28. サンパウロ東京銀行
29. 三菱重工
30. 蜂谷商会

監 事

1. 高橋時中	ウジミナス
2. 花城清和	花城商会
3. 羽瀬太一	羽瀬商会

69年度事業報告

総 会

- 6 月 27 日 臨時総会
 - ・ 定款改正の件
- 6 月 27 日 第 19 回定期総会
 - ・ 1968 年度事業報告、会計報告及び 69 年度予算の提出
 - ・ 理事会の互選
- 10 月 2 日 臨時総会
 - ・ 新事業計画の検討

常任理事会

- 5 月 30 日
 - ・ 日本輸出入銀行の対ブラジル開発銀行借款の構想について
- 6 月 16 日
 - ・ 1968 年度事業報告、会計報告及び 69 年度予算の提出
 - ・ 第 19 回定期総会における理事会の互選方式について
- 7 月 24 日
 - ・ 本年度事業計画の検討
- 8 月 20 日
 - ・ 理事会に提出する事業計画について
- 9 月 24 日
 - ・ 修正事業、予算案の審議、専門委員会の内規について
- 1 月 8 日
 - ・ 日本経済の紹介誌の発行計画について
- 2 月 17 日
 - ・ 日本国際経営協力委員会より派遣された講師の受け入れ態勢に関して

理 事 会

- 6 月 16 日
 - ・ 68 年度の事業並びに会計報告の承認
 - ・ 理事選出方式の承認、定期総会の日程の決定
- 7 月 8 日
 - ・ 1969～70 年度新役員の選出
- 8 月 27 日
 - ・ 会員会費の値上げ、専務制の設定及び職員給与の引き上げについて
 - ・ 部会制度と委員会制度について
- 10 月 2 日
 - ・ 会費値上げについて

共催・後援・協力行事

- 9 月 29 日 大口総領事歓迎昼食会（於・テラッソインペリアル）
- 10 月 15 日 日本繊維機械輸出メーカー視察団との懇談会
- 12 月 11 日 中南米経済担当官会議出席者とのカクテルパーティー
- 3 月 20 日 日本 CIOS（国際経営協力委員会）派遣の講師らとの懇談会
- 4 月 15 日 ウジミナスの現況報告会
- 4 月 28 日 日本経済協力基金理事の高木広一氏との懇談会

委員会・部会の主な活動

一経済調査委員会

- 10月7日 第1回会合
- ・ 調査活動について
- 11月20日 クバトンのペトロブラス製油所見学会
- 12月11日 ピアサゲーラのパウリスタ製鉄（COSIPA）工場見学会

一機関誌委員会

- 10月10日 会合
- ・ 編集方針について

一法令研究委員会

- 10月13日 第1回委員会
- ・ 法令関係の資料整備などについて

一時事問題研究委員会

- 1月8日 年頭経済時事懇談会
- ① 本年度ブラジル政界の動向 = 平田連邦議員
 - ② 70年度金融・為替の動き = 加太伯国住銀頭取
 - ③ ブラジル海運界の現状と問題点 = 船尾三井 OSK 首席駐在員
 - ④ 69年末の中南米経済担当官会議の内容 = 安部経済担当領事
- 2月20日 SUDENE 及び SUDAM 管内事情説明懇談会
- 講師：中川レシーフェ総領事、尾戸ポルト・アレグレ総領事、串田領事

一サンパウロ日本産業見本市協力委員会

ジェットロ主催サンパウロ産業見本市に対し全面協力をし、総入場者数36万人を数えるに至り成功裏に終えることができた。9月15日に発会式を行なった。

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル外国人法

機関誌『ブラジル経済情報』（69 年主要記事）

1 月 1 日	287 号	ブラジルの人口問題
1 月 15 日	288 号	軍政令と経済政策
2 月 1 日	289 号	最近の輸入抑制措置について
2 月 15 日	290 号	軍政下の金融事情、金融資本市場における競争
3 月 1 日	291 号	経済成長とインフレ、製鉄工業
3 月 15 日	292 号	ブラジルの輸出振興策について、ブラジル経済概観 1968 年度（1）
4 月 1 日	293 号	今回の金詰りの原因について、ブラジル経済概観 1968 年度（2）
4 月 15 日	294 号	株式市場の育成、ブラジル経済概観 1968 年度 （3）
5 月 1 日	295 号	SUDENE の第 4 次計画と企業誘致策、ブラジ ル経済概観 1968 年度（4）
5 月 15 日	296 号	金利引下げの断行（1）、1968 年度の日伯貿易
6 月 1 日	297 号	金利引下げの断行（2）、1968 年度財政経済概観 （1）
6 月 15 日	298 号	新学説の体現—ブラジルのインフレ抑制—、 1968 年度財政経済概観（2）
7 月 1 日	299 号	アマゾン地域開発と SUDAM、1968 年度財政 経済概観（3）
7 月 15 日	300 号	漁業開発奨励策と SUDEPE、1968 年度財政 経済概観（4）
8 月 1 日	301 号	上半期を経て、1968 年度財政経済概観（5）
11 月 1 日	302 号	融和による充実と発展＝ブラジル日本商工会議 所に臨む＝大口信夫・聖総領事
12 月 1 日	303 号	動き出した新政府路線、

1970年

好況のうちに終わった69年の後を受けて、ブラジル経済は70年も順調に推移した。前年の経済成長率は9%と高水準を記録したが、70年上半期では工業部門、輸出の好調を背景にすでに前年同期比9%の成長を達成した。政府は経済成長をさらに促進する政策を取っており、70年全体としても前年並みの9%の伸びを維持した。

70年の農業生産は干ばつによる綿花、とうもろこしなどの減産、コーヒーの奇病発生などのマイナス要因が生じているため、年初予想されたほどの生産増は見込めなかった。ただ、砂糖が例年より大幅な増産と政府が農民向けの低利の融資、租税上の優遇策などを講じて農業生産の増大に努めていることなどから、農業生産全体としては8%程度（69年6%）の伸びが見込まれている。

工業生産は69年以来目覚ましい伸びを見せているが、この趨勢は70年に入っても変わらず、上半期では前年同期比10%増となっている。全体の産業動向の行方を決定する指標となる自動車産業は70年1～9月では29万8492台（前年同期比8.8%増）の生産を記録し、販売高も高水準を続けている。インゴット銀、セメントなどの生産も依然伸び続け、70年1～9月ではそれぞれ396万6000トン（前年同期比8.5%増）、644万6000トン（同14.7%増）を記録した。

投資動向をみると、自動車部門ではGM、クライスラー、フォルクス・ワーゲンなどの主要メーカーが8億4000万クルゼイロの設備拡張融資を行なう予定である。製鉄部門では民間会社による投資のほか、ウジミナス、コジッパ、CSNの三大国営製鉄所が総額7億2800万ドルの投資を予定している。石油化学部門では、6500万ドルを投じてエチレンなどを生産予定のユニオン・カーバイド・ド・ブラジル社のプロジェクトが70年6月に開始され、7月には7工場を擁する肥料コンビナートがピアサゲラで稼働を始めており、政府としても石油化学産業の育成に熱心に取り組んでいる。

物価面では状況は依然厳しく、70年の物価上昇率は20%以下に抑えらるゝ政府のインフレ抑制策は、後退を余儀なくされた。70年1～9月の生計費上昇率は16.7%（前年同期比17.4%）となっているが、毎年末の紙幣増発という季節的要因を考慮すると、インフレ率は24%近くに達するものと予想されている。これは政府の物価審議会も認めており、食品価格は騰貴を抑制し等とのキャンペーンに一層の協力を呼び掛けている。

貿易動向をみると、輸出は前年に引き続き好調。70年1～9月では前年同期比22%増の20億3000万ドル（推定）を記録した。輸出品の中では、コーヒー、製造品、鉄鉱石の増加が著しい。要因は輸出の簡素化、租税上の優遇策などに現れた政府の輸出振興努力が大いに貢献したとみられる。

一方輸入は70年1～9月の輸入は17億3100万ドル（推定）と前年同期比の16億6400万ドルに比べ比較的緩慢な増加を示した。この水準は、活発な国内経済活動から生ずる内需を満たすには十分であったといわれる。輸入品には、機械・同部品、原材料（主に石油化学）、化学、医薬品などがある。

役員名簿（70年度12月末日現在）

顧問：蜂谷専一（蜂谷商会）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：石井正巳（三井物産）、藤平正義（豊和工業）、宮本邦弘（プロゾトーレス倉庫）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマージーゼル）、八木徹（三菱商事）

財務理事：樋口博三（南米銀行）、加太邦男（住友銀行）

委員会

渉外委員会 藤平正義（豊和工業）

時事問題研究委員会 石井正巳（三井物産）

機関誌委員長 後藤隆（ヤンマージーゼル）

相互啓発委員会：別役道昌（鐘紡）

経済調査委員会：八木徹（三菱商事）

法令研究委員長：樋口博三（南米銀行）

69年度理事会社及び監事会

その他理事会社

1. 東山銀行
2. 東京銀行
3. 大阪商船三井船舶
4. 富士銀行
5. 伊藤忠
6. 久保田鉄工

7. ユニチカ
8. 東洋紡績
9. NGK
10. コチア産組
11. 味の素
12. 丸紅飯田
13. 城島商会
14. ブラジル三菱銀行
15. 日綿
16. 竹中商会
17. 南伯中央産組
18. 加藤精機
19. サンパウロ東京銀行
20. 三菱重工
21. 蜂谷商会

監 事

1. 高橋時中	ウジミナス
2. 花城清和	花城商会
3. 羽瀬太一	羽瀬商会

機関誌『ブラジル経済情報』（70 年主要記事）

1 月 1 日	304 号	年末年始の金融事情、ブラジルの輸出振興策、留保益金の資本組入れ課税
1 月 15 日	305 号	年頭経済時事懇談会
2 月 1 日	306 号	北伯開発計画の進行状況、工業化の進展と推進機関の再編成
3 月 1 日	307 号	アメリカの対ブラジル投資、サンパウロ市の労働者階級の生活費指数
3 月 15 日	308 号	第 8 回全伯貿易振興会議、対伯プラント輸出の現状とその将来
4 月 1 日	309 号	伯国工業製品の輸出展望（1）
4 月 15 日	310 号	最新ブラジル経済展望（1）、伯国工業製品の輸出展望（2）

5月1日	311号	最新ブラジル経済展望（2）、海外における日本の悪評について（1）
5月15日	312号	最新ブラジル経済展望（3）、海外における日本の悪評について（2）
6月1日	313号	ブラジルの開発と外国資本
6月15日	314号	金融事情の一つの観方、好調に推移した昨年輸出
7月15日	315号	外国資本とブラジルの経済開発一元企画相ロベルト・カンポスー
8月1日	316号	最近の農業政策、関税課税指示価格制度を設定、1960年代の南米経済事情
9月1日	317号	ブラジル・コーヒー生産の現状と見通し（1）
9月15日	318号	ブラジル・コーヒー生産の現状と見通し（2）、伯・米繊維交渉の妥結
10月1日	319号	ブラジル・コーヒー生産の現状と見通し（3）、出現する化学工業王国
10月15日	320号	米伯インスタント・コーヒー問題、「国家活動の基本と目標」内容
11月1日	321号	ブラジル・コーヒー回復の道、輸入に関する伯銀通達310号
11月15日	322号	前途洋々、アルミ工業、ブラジルの鉄鉱石生産
12月1日	323号	鉱物資源の全国調査ーロンドニア錫は世界第一
12月15日	324号	先進国との断層深まるブラジルの肥料工業

1971年

71年に入っても経済の活況は依然持ち越されており、ブラジル経済は今や4年越しの高度経済成長を謳歌している。メジシ政権は、財政引き締めと賃金・物価の統制等によるインフレ抑制と経済成長の加速化を経済政策の2本柱とし、これを一層促進させることにより、経済情勢の改善に目覚ましい成果を収めつつある。

最近のブラジルは一方でインフレ抑圧を図りつつ、同時に高度成長をも実現しており、こうした経済の推移は「ブラジル経済の奇跡」として国際的にも高い評価を受けている。

経済好調の要因は、政府の税制改革や行政改革、各種の優遇措置の供与などが効果を収めたことも挙げられるが、より根本的には政情安定化を背景とするブラジルの経済発展に対する内外の信頼感の存在が大きいといえよう。経済の先行きに対するこうした信頼感に支えられて、スイスその他の諸国に逃避しがちな地場資本が国内の生産部門に続々と投資されていることは大きなプラス要因となっており、これに加え、米国、ヨーロッパ、日本からの進出外国企業も次々に新規設備投資を行なっている。さらに、チリをはじめ南米諸国からの資本流入が特徴となっている。

自動車産業は現在もなお全産業動向の行方を決定する重要産業の位置を占めており、依然目覚ましい発展を続けている。70年の自動車生産は41万6000台を記録したが、71年には少なくとも前年比10%増の45万台に達するものと期待されている。同部門ではGMが今後3年間に1億4000万ドルの設備投資を予定しており、首位を走るフォルクス・ワーゲンに迫ろうとしている。こうした情勢を背景に、工業生産は68年13.2%、69年10.6%、70年11%と躍進を続けており、71年も11%程度の伸びが期待されている。

内外資本による活発な投資と並んで、69年8月にデルフィン・ネット蔵相の導入した為替レートの短期調整方式（クローリング・ベック）が、現在の経済好調をもたらすうえで果たした役割を見逃すことができないといえる。68年以降ブラジルは飛躍的に輸出を伸ばしてきたが、これには種々の輸出促進措置もあずかっているものの、第一次的にはこのクローリング・ベックのもたらした恩恵といえよう。71年は30億ドルのラインに達するのではないかと期待されている。政府もその政策目標に掲げるように高度成長を持続し、ブラジルの先進国への仲間入りを早急に達成するには輸出が唯一の道であるとの認識に立って、輸出促進に非常に熱意を傾けている。

中でも、コーヒーへの依存度を軽減し経済基盤の多角化を図る意味からも、政府は工業製品の輸出に特に力を入れており、71年1～9月の工業製品輸出は

前年同期比 42%増の 4 億 6500 万ドルに達したと推定される。輸出総額に占める工業製品輸出のシェアも、71 年には 20%に上昇するものと予測される。

ニクソンの新経済政策の発表に引き続き 8 月末にとられた円の変動制移行措置、さらには年末の大幅な延期利上げ実施は、ブラジルの対日輸入業者にも相当のショックを与えた。円の切り上げ率が 16.88%と予想以上のものであった上に、ブラジル市場は米国品、西欧諸国品、一部国産品の入り乱れる競争の激しい市場であるだけに、多くの商品分野で日本品の今後の競争条件にかなりの影響を及ぼすことが予想される。

アクリル短繊維、PVC、ポリエチレン、ポリプロピレンなどの品目はこれまでも欧米諸国との価格競争が非常に激しく、たとえ小幅の切り上げが行われても大きな影響を受けるとみられていたが、今回の大幅な円切り上げにより後退を余儀なくされるだろう。

役員名簿（71年度12月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：青木修三（三井物産）、藤平正義（豊和工業）、宮本邦弘（プロツトーレス倉庫）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、外山従道（東洋紡）

財務理事：加美山節（東銀）、熊谷一彌（住銀）

委員会

経済セミナー委員会：外山従道

事業運営委員会：青木修三

日伯経済交流促進委員会：広川郁三

71年度理事会社及び監事会

その他理事会社

1. 東山銀行
2. 三菱商事
3. 南米銀行

4. 久保田鉄工
5. 三井 OSK
6. NGK
7. 伊藤忠
8. 竹中商会
9. ユニチカ
10. 富士銀行
11. コチア産組
12. 丸紅
13. トヨタ自動車
14. 日本航空
15. ブラジル三菱銀行
16. 城島商会
17. 三菱重工
18. 東京海上保険
19. 味の素
20. 南伯産組
21. 南米保険

監 事

1. 高橋時中	ウジミナス
2. 大堀義信	石川島造船
3. 柚木栄一	南米保険

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 工業所有権法典制定に関する法律
2. 企業的造林の手引き
3. 北伯開発懇話会 調査報告書

機関誌『ブラジル経済情報』（71 年主要記事）

1 月 15 日	325 号	ブラジル主要統計表、鉄鉱を年産 2000 万トンへ
2 月 1 日	326 号	ブラジルにも到来したコンピューター時代、国際収

支黒字 5 億 7600 万ドル

2 月 15 日	327 号	転機に立つラ米域内貿易、政府の輸出振興措置一覧 (1)
3 月 1 日	328 号	160 万トン目標：造船 5 ヵ年計画、政府の輸出振興 措置一覧 (2)
3 月 15 日	329 号	コーヒー政策、画期的な転換、輸出工業の設備免税 輸入状況
4 月 1 日	330 号	C D I 機構改革の意味、動き出した F M R I 基金— 繊維企業 8 社の初合併—
4 月 15 日	331 号	対伯評価高め資金協力で前向き—中南米経済担当 官・貿易合同リマ会議—
5 月 1 日	332 号	リオ・ドセ採鉱会社躍進—昨年の鉄鉱石輸出量 2405 万トン—
5 月 15 日	333 号	工業プロジェクト 830 件—北東伯投資、合わせて約 65 億 C R \$—
6 月 1 日	334 号	急増する民間投資—再投資を合わせ 20 億ドル台超 過、三大製鉄所の設備拡張計画
6 月 15 日	335 号	農工融資特別諸基金のすべて (1)
7 月 1 日	336 号	世界の G N P とブラジル、農工融資特別諸基金のす べて (2)
7 月 15 日	337 号	ブラジル経済便覧
8 月 1 日	338 号	外資導入に多くの難点—サンパウロ商業協会、蔵相 に建議書—
8 月 15 日	339 号	株式会社法改正への検討進む、北東伯進出の主要工 業プロフィール
9 月 1 日	340 号	アルゼンチン情勢の分析—経済成長の芽つむ政情不 安—
9 月 15 日	341 号	米の課徴金とラ米への影響
10 月 1 日	342 号	ドル防衛による変動相場制
10 月 15 日	343 号	株式市場の推移と分析
11 月 1 日	344 号	輸出と企業投資にみる伯国の底力
11 月 15 日	345 号	地域 (国) 別輸出入額

- 12 月 1 日 **346 号** 成長率世界一となるか—旺盛な投資意欲と工業発展—
- 12 月 15 日 **347 号** 保証金と利益金を比較—アメリカの民間資本海外投下—

1972年

1972 年は、あらゆる政策が計画通りに推進され、全国民の信頼を勝ち取ったメジシ政権の力強さがうかがわれた。国家統合プラン（PIN）、社会統合プラン（PIS）が初期の目標通り実施された。しかし、SUDENE（東北伯開発庁）地域への投資減少、また SUDAM（アマゾン開発庁）、SUFRAMA（マナウス・フリー・ゾーン）、SUDECO（中部西伯開発庁）の 3 長官の更迭などテクノクラートに旋回気味の諸政策に問題がないわけではない。

72 年の経済成長は GNP10.4%。工業部門については 13.9%。国際収支は 72 年末時点で黒字 24 億ドル、外貨準備高は 42 億 2 百万ドルと急速に増えた。

工業部門では、操業率も 90% 近くに達しており高度成長の原動力となった。また GDP の 20% を占める農業生産も 71 年には対前年比 11.4% 増と、69 年の 6.0% 増、70 年 5.6% 増に比べ著しい伸びを見せた。72 年 7 月にパラナ州を襲った霜害もそれほど大きくなく、前年並みの生産が見込まれている。

活発な国内経済を反映して輸出入とも著しい伸びを見せた。まず輸出をみると、71 年は 29 億ドルと対前年比 5.9% 増加し、さらに 72 年 1～6 月では前年同期比 31.1% 増の 24 億ドルを記録した。これまでのコーヒーに依存するという輸出商品構造は徐々に改善され（71 年のコーヒーのシェアは 28.3%）、機械類、化学製品などの工業製品のウエイトが高まり、輸出構造の高度化が注目される。

一方、輸入は高度成長に伴う旺盛な資本財重要と輸入制限の緩和により輸出を上回る増加を見せ、71 年には対前年比 28.6% 増の 32 億 2500 万ドルに達した。72 年に入ってもこの増勢は衰えず、上半期では 19 億 3500 万ドルと前年同期比 28.6% 増を記録し、このうち、機械、設備類輸入の比重が大きく、全体の 33.3% のシェアを占め、前年同期比の伸び率も 41.2% と高水準を示した。

成長を支える設備投資の拡大が輸入の急増を引き起こし貿易収支の赤字をもたらしたが、加えて増大する旺盛な資金需要から外資の流入が激増し、対外債務はついに 70 億ドルを超えるに至った。このため政府は 72 年初頭よりとくに短期外資の導入に対し制限を行ない始めていたが、72 年 10 月になって本格的な制限に乗り出し、外貨借入れに対してその 25% を中銀に預託することを義務付けた。その背景にはインフレ抑制があったとはいえ、国内資金のコスト高に悩まされてきた企業家がさらに高いコストの資金を使用しなければならない結果、インフレを抑える効果に結びつかないのではないかと批判も起こった。

輸出振興策として、71 年以降にとられた輸出拡大のための重要施策として、

①港湾施設、鉄道、農産物の中間サイロおよび加工工場など輸出関係インフラストラクチャーを今後 4～5 年で 50 億ドルの資金を投入して整備しようという「輸出回路」計画、②日本の総合商社を目指した「Trading Company」を設立し、これに税制など種々の恩恵を与える、③輸出製品用中古プラントの無税輸入、④輸出製品を作るための輸出特別プログラムが承認された企業に対する資本財の無税輸入、⑤工業製品輸出の対前年比増加分 10%分に対する機械、設備の無税輸入などである。

また 72 年初めにブラジルの蔵相、企画相の訪日、さらに再度の蔵相の訪日に見られるように、日本に対し資本と技術の導入を強く要請してきている。

ブラジルへの進出してきた日本企業は約 100 社。特にここ 1～2 年の企業進出ラッシュには目を見張るものがある。しかし、ブラジルの民間投資前残高に占める日本のシェアは 5%足らずと依然少ない。

役員名簿（73 年度 4 月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：青木修三（三井物産）、藤平正義（豊和工業）、宮本邦弘（プロゾトーレス倉庫）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、外山従道（東洋紡）

財務理事：加美山節（東銀）、熊谷一彌（住銀）

委員会

経済セミナー委員会：外山従道

事業運営委員会：青木修三

日伯経済交流促進委員会：広川郁三

72 年度理事会社及び監事会

その他理事会社

1. 東山銀行
2. 三菱商事
3. 南米銀行

4. 久保田鉄工
5. 三井 OSK
6. NGK
7. 伊藤忠
8. 竹中商会
9. ユニチカ
10. 富士銀行
11. コチア産組
12. 丸紅
13. トヨタ自動車
14. 日本航空
15. ブラジル三菱銀行
16. 城島商会
17. 三菱重工
18. 東京海上保険
19. 味の素
20. 南伯産組
21. 南米保険

監 事

1. 高橋時中	ウジミナス
2. 大堀義信	石川島造船
3. 柚木栄一	南米保険

7 2 年度事業報告

総 会

- 6 月 22 日 第 22 回定期総会
- ・ 1971 年度事業・会計報告
 - ・ 1972 年度事業予算
 - ・ 定款改正の承認

常任理事会

- 5 月 25 日 第 1 回常任理事会
- ・ 定期総会の予備審議
- 8 月 11 日 第 2 回常任理事会
- ・ 日本産業見本市について

- 10月24日 第3回常任理事会
 - ・ 植村経団連ミッションに対する要望事項の予備審議
- 11月19日 第4回常任理事会
 - ・ 日本産業見本市に関する業務内容の審議
- 12月22日 第5回常任理事会
 - ・ ブラジル経済・経営事典再版の件審議・承認
- 1月12日 第6回常任理事会
 - ・ サンパウロ州政府・民間訪日ミッションについて
- 3月20日 第7回常任理事会
 - ・ 日本産業見本市現地協力会事業予算収支現況説明

理 事 会

- 6月15日 第1回理事会
 - ・ 71年度事業・会計報告並びに、72年度予算案、定款改正審議
- 10月31日 第2回理事会
 - ・ 植村経団連ミッション受け入れ態勢についての審議

共催・後援・協力行事

- 7月24日 鐘紡本社長、伊藤忠本社社長の両氏歓迎経済懇談会（於・ナショナルクラブ）
- 8月10日 兵庫県南米使節団を囲む歓迎懇談会を開催
- 9月15日 日本産業見本市協力委員会発開式
- 10月26日 財団法人海外貿易開発協会派遣の本多業務部長を囲む歓迎懇談会
- 11月6日 興業銀行、大蔵省企業調査団を囲む懇談会
- 11月13日 経済懇談会リオ大会及び帝人大屋杯争奪ゴルフ大会
- 2月12日 中南米投融资調査団歓迎懇談会（於・ヒルトン・ホテル）、大阪商工会議所歓迎懇談会（於・中巴飯店）
- 2月26日 日本生産性本部中南米経済使節団との懇談会
- 3月26日 藤山愛一郎氏、原吉平氏一行歓迎懇談会（於・文協、当所共催）
- 4月24日 日本産業見本市現地協力会解散式（於・テラス・インペリアル）

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

5月10日	エルドラード。パウリスタの鍾乳洞及びレジストロのシャ・リベイラ製茶工場見学
8月17日	国際経営協力委員会（IMCC）より派遣された西堀氏、三浦氏、平塚氏の諸氏を講師に迎えての歓迎経済懇談会 テーマ：「ブラジルの IDORT を主体とした品質管理」
9月4日	神戸市会議員一行歓迎会
9月19日	海外投資問題調査団を迎えた経済懇談会 テーマ：「ブラジルにおける進出企業受入れ事情」
10月24日	静岡県経済ミッションを迎えた経済懇談会
10月26日	海外貿易開発協会メンバーを迎えた懇談会

一経済セミナー委員会

9月27日	横田パウロ中銀理事による第1回セミナー「ブラジル貿易の課題と現政策」
3月23日	アルカンタラ・マッシャード社長によるセミナー「ブラジルに対していかに投資すべきか」

一日伯経済交流促進委員会

6月5日	第1回委員会 ・ 日本側、ブラジル側の委員の人選について
7月4日	第2回委員会
7月14日	第3回委員会
9月25日	日伯経済交流委員会を開催

一サンパウロ日本産業見本市協力委員会

ジェトロ主催サンパウロ産業見本市に対し全面協力をし、総入場者数 36 万人を数えるに至り成功裏に終えることができた。9月15日に開会式を行なった。

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 公式式典の規則及び一般席次を定める政令

機関誌『ブラジル経済情報』（72 年主要記事）

1 月 15 日	348 号	積極果敢な拡大戦略を一予想遥かに上回った伯国 71 年の経済実績―
2 月 1 日	349 号	今度こそ、日本側は画期的な協力態勢打出せ
2 月 15 日	350 号	今年度の金利引下げ決定、ヘリコプター製作、世界で 7 番目
3 月 1 日	351 号	コーヒー国内取引に有力外資
3 月 15 日	352 号	ブラジルの生産企業における短期・中期総合計画、販売計画
4 月 1 日	353 号	ブラジル砂糖の「当たり年」―今年 3 億ドルの外貨稼げそう―
4 月 15 日	354 号	ブラジルの対外負債主要項目一覧
5 月 1 日	355 号	ブラジル銀行の対企業融資一覧（1）
5 月 15 日	356 号	I C M と消費州・生産州（1）、ブラジル銀行の対企業融資一覧（2）
6 月 1 日	357 号	I C M と消費州・生産州（2）、ブラジルの国土、人口、経済、労働、教育便覧
6 月 15 日	358 号	1971 年度日本の対伯輸出品別表（1）
7 月 1 日	359 号	1971 年度日本の対伯輸出品別表（2）
7 月 15 日	360 号	1971 年度日本の対伯輸出品別表（3）、1971 年度日本の対伯輸入品別表（1）
8 月 1 日	361 号	1971 年度日本の対伯輸入品別表（2）
8 月 15 日	362 号	サンパウロ州開発銀行の対工業融資一覧（1）
9 月 1 日	363 号	サンパウロ州開発銀行の対工業融資一覧（2）、揺れる開発庁、機構改革へ
9 月 15 日	364 号	輸出回廊の整備が先決―T r a d i n g 問題への当初初の投石―
10 月 1 日	365 号	1971 年度ブラジルの輸出概況（1）
10 月 15 日	366 号	1971 年度ブラジルの輸出概況（2）
11 月 1 日	367 号	ブラジルに於ける外資・対外債務（1）

11月15日	368号	ブラジルに於ける外資・対外債務（2）
12月1日	369号	ブラジルに於ける外資・対外債務（3）
12月15日	370号	ブラジルに於ける外資・対外債務（4）

1973年

1973年のGNPの実質伸び率は11.4%を記録。貿易収支は1億8220万ドルの黒字。国際収支23億ドルの黒字となった。

日本からの対伯新規プロジェクトが相次ぎラッシュ現象を呈するなど、日本においてブラジルブームが現出するに及んだ。

73年のブラジルの政治情勢は引き続き安定を保ち、国内経済は64年の軍事革命政権樹立以来最高の充実期を迎えている。73年の国民総生産は570億830万ドル（一人あたりの国民所得565ドル）に達し、実質11.4%の高度成長を達成した。

国民総生産がこのように好調に推移したのは、工業部門の伸びが大きかったためであり、前年比約15%増と推定される。目覚ましい発展を示した工業部門の中でも、とくに製造業部門（15.8%）および建設業部門（15.4%）が大きく、電気、ガス、水道等公共サービス業部門も12.5%の伸びを示した。顕著な伸びを示した工業部門では、当然のことながら活発な設備投資が行なわれた。73年11月末現在の商業銀行および通貨当局による民間企業向け貸付総額（1073億クルゼイロ）のうち、工業部門が34.8%で第1位を占め、前年同期比38%の増加を示し、同部門の活況を裏付けている。

農業の伸び率は工業に比べ年々低下。農業の不振は天候の不順などによることが多いが、73年は穀物の不足から全国的に「大豆熱」をまきおこし、コーヒー、綿花などの耕作意欲が減退したことも大きく影響したものとみられる。

インフレは、10年来の最低の数値である13.7%に抑えることに成功。73年初頭にデルフィン・ネット蔵相はインフレ率を12%（グアナバラ州標準）に抑えると公表したが、第4次中東戦争の勃発による石油危機、世界的な原料不足などの影響によって結果的にはこの目標を若干上回った。

インフレ抑制の成功は、通貨価値修正、クローリング・ベック（小刻みの為替レート改訂）のほかに、国内配給局（SUNAB）および内閣価格審議会（CIP）による食料品、工業製品の価格統制の強化、特定製品の輸出規制（例：原綿、大豆、牛肉）および輸入税の暫定引下げ（例：肥料、すず、製紙用パルプ、紙、レジン等）などの一連の措置が効果をあげたためである。ほかに注目すべき措置としては、外国からの借入金に対する40%の強制預託制の設定（73年8月末）がある。

73年のブラジルの貿易は、往復で122億ドル（輸出62億、輸入60億ドル）を突破し、3年間で倍増した。貿易収支も黒字に転換した。日本との貿易も輸出入ともに大幅な伸張を見たが、往復9億2700万ドルで、そのシェアは7～8%にすぎない。

一方、貿易外収支は前年に引き続き大幅な赤字（15 億ドル）となり、経常収支は移転収支の黒字分を入れても 12 億 9000 万ドルの赤字となった。しかし、資本収支が前年に引き続き大幅な黒字を更新しているため、総合収支では 23 億ドルの黒字となった。このような順調な資金調達と外貨増大は、国際石油危機、同材料不足などの問題が山積しているにもかかわらず、ブラジル経済の将来に楽観論と自信を与える根拠となっている。

日本の進出企業数は、72 年に一挙に 75 社増え、総計 197 社となったが、73 年も月 10 件の割合で増えているとみられ、ブラジルブームが続いた年となった。

役員名簿（74 年度 4 月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：橘富士雄（南米銀行）、瀬古和男（三菱商事）、加美山節（東京銀行）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、山本勝造（サドキン電球工業）

財務理事：伊藤通（住友銀行）、宮本邦弘（プロゾトールス倉庫）

委員会

行動基準推進委員会：瀬古和男

経済セミナー委員会：加美山節

事業運営委員会：橘富士雄

日伯経済交流促進委員会：広川郁三

73 年度理事会社及び監事会

理事会社

1. 兼松江商
2. 南米銀行
3. 三菱商事

4. 東京銀行
5. 鐘紡
6. ヤンマー
7. サドキン電球工業
8. 住友銀行
9. ブロツトーレス倉庫
10. 三井物産
11. 豊和工業
12. トヨタ自動車
13. 東洋紡
14. アメリカ・ラチーナ
15. 東山銀行
16. コチア産組
17. 三井 OSK
18. ブラジル・トーメン
19. 伊藤忠
20. 竹中商会
21. 丸紅
22. 石川島造船
23. 三菱重工
24. 久保田鉄工
25. NGK
26. ユニチカ
27. 城島商会
28. 住友商事
29. 南米保険
30. ブラジル三菱銀行

監 事

1. 佐々木達	味の素
2. 高橋時中	ウジミナス
3. 大久保睦夫	日本航空

7 3 年度事業報告

総 会

6 月 26 日 第 23 回定期総会

- ・ 1972 年度事業報告承認
- ・ 1972 年度会計報告承認
- ・ 新理事会当選報告（73／74 年度）

常任理事会

6 月 5 日	第 4 回常任理事会
	・ 日本の総合商社活動に関し、インタビューを通じブラジル側の一専門氏との間に生じた紛糾問題 ・ 1972 年度決算報告書作成承認 ・ 会議所事務局職員の待遇改善問題 ・ 常任理事会の選挙方法審議 ・ 選挙管理委員の選出
7 月 17 日	第 1 回常任理事会
	・ 組織拡充 ・ 会議所の目的、性格の再検討 ・ 対伯企業進出の秩序維持対策の行動基準推進委員会の設置 ・ 委員会活動の活発化 ・ 会員とのコミュニケーションの充実 ・ 1973 年度収支予算案について
9 月 21 日	第 2 回常任理事会
	・ 当所事務室移転の件 ・ 当所会員会社の実態調査
1 月 24 日	第 3 回常任理事会
4 月 2 日	第 4 回常任理事会
	・ 新事務所移転の見通しについて ・ 行動基準委員会の今後の事業及び各委員会の現況報告 ・ ウジミナス 1800 万ドル（民間 50%、政府 50%）の日本側割り当て要請に対する件 ・ 横田パウロ中銀理事の件 ・ ブラジル経済・経営事典（改訂版）の経過報告
4 月 30 日	第 5 回常任理事会
	・ 日伯民間経済合同委員会ブラジル側委員会発会式の報告 ・ 1974 年度総会日並びに 1973 年事業報告及び会計報告の日程について ・ 経済情報刷新の件

理 事 会

- 6 月 5 日 第 4 回理事会
- ・ 1972 年度事業報告承認
 - ・ 1972 年度会計決算報告審議承認
 - ・ 理事会社選挙方法と選挙管理委員 2 名選出の承認
- 7 月 6 日 第 1 回理事会
- ・ 新常任理事選挙、選出し承認。選挙管理委員は高逵虎二郎氏、柚木栄一氏。
 - ・ 日伯民間経済合同委員会の経過報告を広川会等より行なわれた。
 - ・ 日本商工会議所より送られた日本の経済五団体でまとめられた外国における経済行動の具体的指針について後藤隆専任理事より説明が行われる。
- 7 月 19 日 第 2 回理事会
- ・ 組織拡充
 - ・ 企業進出の秩序維持対策
 - ・ 会員とのコミュニケーションの充実
 - ・ 1973 年度収支予算案についての承認

共催・後援・協力行事

- 5 月 18 日 澄田輸銀総裁歓迎会
- 6 月 25 日 新理事会 30 社選出のため開票
- 6 月 29 日 熊谷一弥氏（住友銀行）、青木修三氏（三井物産）、外山従道氏（東洋紡）の三氏送別会
- 7 月 11 日 中村茂大使送別会（於・文協サロン、日系諸団体共催）
- 8 月 15 日 日本政府農務省派遣 9 人との経済懇談会
テーマ：「ブラジル農林、食品事情、一次産品事情について」
- 8 月 15 日 大来佐武郎経済協力基金総裁との経済懇談会
- 8 月 20 日 田中竜夫代議士歓迎会（於・文協、日系諸団体共催）
- 8 月 29 日 宇山厚新大使歓迎懇談会
- 9 月 5 日 北九州・山口経団連を迎えての経済懇談会
- 9 月 11 日 財団法人アジア貿易開発協会専務理事外山素彦氏、真山代議士を迎えての経済懇談会
- 1 月 15 日 日本輸出入銀行武山氏による「BNDE・バンクローンの説明会」
- 4 月 25 日 日伯民間経済合同委員会ブラジル側第 1 回会議

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

9月13日	通常会議
10月19日	ソロカバ市視察 見学先：アソ・パウリスタ工場、アミテックス社の工事 現場など
1月23日	通常会議
2月19日	オリベッチイ社・ファイザー社工場見学会
4月18～20日	サルバドール工場見学 見学先：ペトロブラス工場、シブラ工場、サフォン帝人 工場、ウジバ工場など

一経済セミナー委員会

10月17日	講演会（於・南米銀行講堂） テーマ：「ブラジル社会と進出企業」 講 師：加美山節（ブラジル東京銀行頭取）
10月24日	講演会 テーマ：「ブラジルの企業経営と合融」 講 師：塚本雄一（FGV 教授）
10月31日	講演会 テーマ：「ブラジルの社会・経済構造と国民性」 講 師：斉藤広志（USP 教授）
11月7日	講演会 テーマ：「ブラジルの農畜生産と輸出問題」 講 師：畑中ワシントン（弁護士）
11月14日	講演会 テーマ：「ブラジルの企業経営をめぐる諸問題」 討論者：山本勝造、橘富士雄、延満三五郎、今井繁義、天 野賢治
3月13日	講演会 テーマ：「ブラジルの政府機構と特殊性」 講 師：脇坂勝則
3月20日	講演会 テーマ：「ブラジルの資本市場と資金運用」

- 3 月 27 日 講 師：若松孝司（ソールナッセンテ経済研究所代表）
講演会
テーマ：「ブラジルの税制、特に輸出に対する税務特典」
- 4 月 3 日 講 師：佐伯ジョルジ（弁護士）
講演会
テーマ：「ブラジルの労働市場と労働問題」
- 4 月 10 日 講 師：芳賀幸雄（前労働省サンパウロ地方支局長）
講演会
テーマ：「ブラジル社会の適応について」
討論者：藤平正義、吉田揚助、鈴木悌一、半田知雄

一 行動基準推進委員会

- 9 月 12 日 通常会議
・ 「ブラジル国における経済活動の具体的方針」を作成する
・ 外国多国籍企業上位 15 社の実態調査をする
- 10 月 23 日 通常会議
・ 「ブラジル国における経済活動の具体的方針」の内容をつめる

一 日伯経済交流促進委員会

- 11 月 9 日 日伯民間経済合同委員会発会式（於・東京）
——広川委員長がブラジル側委員のメンバーとして出席

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 海外投資問題調査団報告書

機関誌『ブラジル経済情報』（73 年主要記事）

1 月 15 日	371 号	1973 年のブラジル—年頭所感・メジシ大統領—
2 月 1 日	372 号	1973 年のブラジル—年頭所感・メジシ大統領—
2 月 15 日	373 号	ブラジルの投資環境（1）、外国既設工場の無税輸入に関する手続き

3月1日	374号	ブラジルの投資環境（2）、秩序ある進出と二世間の反日感情
3月15日	375号	ブラジルに於ける外資・対外債務（5）
4月1日	376号	ブラジルに於ける外資・対外債務（6）、ブラジルの対外負債及び償還一覧
4月15日	377号	ブラジルに於ける外資・対外債務（7）
5月1日	378号	サンパウロ州経済企画局工業地方分散化を進める
5月15日	379号	一括的な特惠関税とブラジル（1）、C D I の工業振興新部門一覧（1）
6月1日	380号	C D I の工業振興新部門一覧（2）
6月15日	381号	一括的な特惠関税とブラジル（2）
7月1日	382号	一括的な特惠関税とブラジル（3）、対外債務遂に 100 億ドル台へ
7月15日	383号	商社の特別登録受付けを開始—ブラジルの「トレーディング・カンパニー」
8月1日	384号	パラナ州産桐の対日輸出
8月15日	385号	ブラジルの大豆事情—積出港湾設備不足に問題点—
9月1日	386号	ブラジルの国土、人口、経済、社会便覧
9月15日	387号	対伯経済協力への一考察—中南米貿易官民合同会議から—
10月1日	388号	ブラジルと日本の比較（1）
10月15日	389号	ブラジルと日本の比較（2）
11月1日	390号	半数は米系、多国籍企業解析、ブラジルの対外負債推移一覧
11月15日	391号	G N P の成長と所得の配分—貧富の格差ますます拡大の傾向—
12月1日	392号	今年のインフレ約 17%か—蔵相、遂に 12%超過を認める—
12月15日	393号	家電製造の推移と現況

1974年

1974年3月、石油危機に端を発する国際的スタグフレーションの中で発足したガイゼル政権は、前政権から高度経済成長政策を継続し、74年目標として10%の伸び率を掲げていたが、国民総生産（GDP）は結局743億1900万ドルで9.6%の成長にとどまった。しかし、前メジシ政権が策定した第1次国家開発計画の最終年度74年のGDP目標537億ドルを38.4%上回り、世界的な不況時代の中でブラジル経済は健闘したといえる。

国際的要因による輸出環境の悪化と輸入の激増により、貿易収支はかつて例を見ない45億6300万ドルという貿易赤字を記録し、総合収支では10億4900万ドルの赤字を計上した。総合収支で赤字となったのは、軍事政権成立以来67年に次いで2度目である。

また、73年には13.7%と年々収まってきたインフレは74年に入って再び上昇し、33.8%増と、67年以来の最高を示した。

このようなインフレ再熱に対して政府は通貨供給量を制限したため、一般企業は金詰まりに苦しんだが、それでも鉱業8.2%、商業10.9%の成長を示した。74年はインフレ再熱と国際収支悪化という難問題に直面したが、第2次国家開発計画（75～79年）の策定とともに、カンポス沖のガロウバ油田の発見という朗報もあり暗いムードも和らいで、むしろ期待感にあふれた。

74年の輸出は79億6770万ドル（前年比28.5%増）で政府目標80億ドルに近づき記録を更新した。中でも工業製品は前年比54.1%の大幅な増加を示し、輸出増に大きな貢献をした。

輸入は種々の輸入規制措置にもかかわらず総額は125億3050万ドル（前年比102.4%増）と2倍になった。しかし重量ではわずかに13.5%増となった程度であり輸入価格の高騰ぶりがうかがえる。

エネルギー危機の発生以来、ブラジル政府は従来採ってきたアラブとイスラエルに対する等距離外交をアラブ寄り外交へと軌道修正し、サウジアラビアのサカフ外相の訪伯を機にアラブ色を鮮明に打ち出した。また、11月には閣僚レベルで第1回ブラジル・サウジアラビア調整混合委員会が開催。また、74年8月にはレバノン、サウジアラビア、クウェート等の投資銀行、商工会議所メンバー等で構成されるアラブ・ミッションが訪伯した。

74年はブラジルにとって共産圏諸国との関係が緊密化した年であったが、中でも中国との国交樹立と通商の正常化は注目される。75年年初にはポーランドとの通商協定、ソ連、ルーマニアとの間にも同種の協定が締結されたと伝えられる。社会主義国との経済関係が進展したのは、①米新通商法の成立等で輸出市場の多角化に迫られていること、②対米、対EC、対日本の貿易は一定

の限度があること、③コメコン諸国は輸出拡大が期待されること等の理由によるものとみられる。

74年のブラジルの対日貿易は輸出4億5420万ドル、輸入8億5770万ドルで大幅な入超となったほか、伸び率でも輸出は前年比6.8%増、輸入は同59.4%増と貿易バランスはますます拡大する方向にある。

8月には、第1回日伯民間経済合同委員会がリオで開かれ、日本から60人ものトップクラスの財界人が来伯し、ブラジル側と意見交換をかわした。

9月には、田中角栄首相が来伯。「アマゾン地域の水力発電及びアルミニウム精錬計画（ALBRAS）」、「森林パルプ開発事業（FLONIBRAS）」などブラジルの経済開発に協力することになり、日伯間の友好ムードが高まった。

74年12月末現在の日本の対伯貿易投資許可累計額はブラジル中央銀行の統計によると5億9802万ドル。新規投資は2億7500万ドルと同年の新規投資額全体の25.8%を占め、第1位となった。日本企業は主要企業を中心に進出件数は72年3月末の120件から74年12月末には448件とわずか3年足らずの間に4倍近くに激増した。10月30日に会議所事務局がパウリスタ大通りの協栄パウリスタビルに移転した。

役員名簿（75年度4月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：橘富士雄（南米銀行）、瀬古和男（三菱商事）、
鈴木重之（三井物産）、宇佐美鍊（東京銀行）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：伊藤通（住友銀行）、藤井素介（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、宮本邦弘（プロットーレス倉庫）

委員会

行動基準推進委員会：瀬古和男

経済セミナー委員会：宇佐美鍊

事業運営委員会：橘富士雄

日伯経済交流促進委員会：広川郁三

7 4 年度理事会及び監事会

理 事

1.	アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
2.	安宅ブラジル	浜田敬助
3.	コチア産業組合	井上忠志
4.	第一勸業銀行	小林一策
5.	富士銀行	渡里成美
6.	富士写真フィルム	白崎武男
7.	初田工業	今井繁義
8.	豊和工業	藤平正義
9.	石川島造船所	生方泰二
10.	鐘紡	別役道昌
11.	兼松江商	広川郁三
12.	小松ブラジル	神崎勇
13.	久保田鉄工	宮地良
14.	協栄保険	渡辺正司
15.	丸紅ブラジル	郡司不二夫
16.	松下電器	巽富三郎
17.	三菱銀行	正岡芳朗
18.	三菱重工業	勝賀瀬正
19.	ブラジル三菱銀行	藤井素介
20.	三菱商事	瀬古和男
21.	三井物産	鈴木重之
22.	三井 OSK	大石舜
23.	南米銀行	橘富士雄
24.	南米投資銀行	相場真一
25.	南米安田保険	柚木栄一
26.	日本電気	柿田潔
27.	ブラジル特殊陶業	塚本一郎
28.	日商岩井	須浪正夫
29.	プロゾトーレス倉庫	宮本邦弘
30.	サドキン電球	山本勝造
31.	サフロン帝人	窪田真
32.	三和銀行	田中信

33.	新日本製鉄	伊豆和能
34.	住友銀行	伊藤通
35.	住友商事	杉本碩也
36.	竹中商会	竹中正
37.	戸田建設	平沢克彦
38.	東京銀行	宇佐美鍊
39.	東芝・ド・ブラジル	樋口次郎
40.	東洋紡	池田澄
41.	トヨタ	酒巻和男
42.	ユニチカ	青山清三
43.	ヤンマー	後藤隆
44.	トーメン	原田竜彦
45.	川崎重工	秦英司
46.	倉紡	人見博
47.	城島商会	城島慶次郎
48.	帝人事務所	桑原昭
49.	味の素	高原照男
50.	伊藤忠	村上正雄

監 事

1.	榊原純平	都築繊維
2.	高橋時中	ウジミナス
3.	木村健次	大正海上火災

7 4 年度事業報告

共催・後援・協力行事、会議、昼食会

1 月 21 日	名古屋商工会議所使節団
1 月 21 日	第 1 回昼食懇談会
1 月 21 日	第 8 回常任理事会
	・ 篠又財務理事は行動基準推進委員
	・ 月例昼食懇談会は事業運営委員会が統括する
	・ 業種別分科会は、必要性の強いものから煮詰めるべく努力する
2 月 18 日	第 2 回昼食懇談会
2 月 26 日	第 9 回常任理事会
	・ ナテル知事感謝パーティーの件

- ・ 対伯貿易交流促進使節団の件
- ・ 官民合同会議の件
- 3月10日 対伯貿易交流促進使節団歓迎昼食会
- 3月11日 ナテル知事感謝パーティー
- 3月19日 中南米南部貿易官民合同会議
- 3月26日 宇山大使との懇談会
- 4月15日 第4回昼食懇談会
- 4月25日 第10回常任理事会
 - ・ 総会日程の件
 - ・ 岩瀬主席領事、鈴木副会頭歓送の件
- 4月25日 第1回日伯民間経済合同委員会（於・リオ）
- 9月20日 田中角栄首相歓迎日伯経済人昼食会（於・ヒルトンホテル）
- 10月30日 当所事務局、パウリスタ大通りの協栄パウリスタビルに移転

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル外国人法
2. ブラジル経済における日本の投資
3. 日伯間経済合同委員会
4. 第1回日伯合同委員会報告書
5. 国家化学肥料及び農業用石灰プログラム

機関誌『ブラジル経済情報』（74年主要記事）

1月15日	394号	年頭所感 メジシ大統領
2月1日	395号	ガイゼル次期大統領の当選演説
2月15日	396号	史上最高のGNP成長率、鉄鋼720万トンの生産を記録
3月1日	397号	ブラジルの賃金と雇用
3月15日	398号	ブラジルの港湾開発と海運事情、今年の大豆収穫700万トンを予想
4月1日	399号	73年度観光赤字2億7000万ドル、ブラジルの輸出制限品目
4月15日	400号	木材・造林事情、しばむ南伯の免税投資、ブラジルの輸出税務特典（1）
5月1日	401号	73年度日伯貿易、主要品別輸出入額、ブラジルの輸

出税務特典（２）

5 月 15 日	402 号	バイア州アラツー工業用地見学記
6 月 1 日	403 号	1973 年度ブラジルの輸出（１）
6 月 15 日	404 号	1973 年度ブラジルの輸出（２）
7 月 1 日	405 号	国産類似機会問題について
7 月 15 日	406 号	輸入約四百品目に関税大幅引上げ
8 月 1 日	407 号	ブラジルとアフリカ諸国の新関係、製造業種別十大会社における外資会社
8 月 15 日	408 号	アルミ精錬と電源—アマゾンのボーキサイト開発— （１）
9 月 1 日	409 号	日系企業の進出推移、現況および当面する問題点
9 月 15 日	410 号	最近のブラジル経済発展概況
10 月 15 日	411 号	日本の対伯投資へアドバイス
11 月 1 日	412 号	ブラジルの対外債務一覧、ブラジルの外国貿易（１） アマゾンのボーキサイト開発（２）
11 月 15 日	413 号	ブラジルの主要経済指標（１）、ブラジルの外国貿易 （２）
12 月 1 日	414 号	ブラジルの主要経済指標（２）
12 月 15 日	415 号	原油危機とブラジル—植木鉱山動力相大いに語る—

1975年

1974年に9.6%の成長率を誇ったが、75年は高度成長に見切りをつけざるを得なくなった。しかし、それでも年間4%の成長率を挙げた。

石油価格の高騰により国際収支が赤字となった。ブラジルのエネルギーの石油依存率はこの年46%だったが、10年後には37%に削減することを画策していた。

アマゾン・アルミ開発問題は、福田副総理の訪伯で日本の参加が決定したが、新日鉄のイタキ製鉄所への参加延期が伝えられるなど、日伯経済関係は絶えず不協和音を奏でがちである。

75年に入っても上半期においては霜害によるコーヒー減産を除けば大方堅調に推移したが、下半期に入って大きく落ち込んだ。景気後退と気象条件の悪化から農業（2%減）、工業（4%増）両部門のペースダウンが大きく、産業界のみならず市民生活にも大きな影響を及ぼしたものとみられる。

石油部門において、ペトロブラスが33億クルゼイロの巨費を投入し、積極的な探鉱が行なわれた結果9油田が発見されたが、原油生産は前年比わずか2.6%増、天然ガスは前同9.2%増にとどまった。

国際収支は74年を大幅に上回る10億9500万ドルの赤字を記録したが、その主因は貿易外収支の赤字が10億ドルも増え、そのうえ資本収支の黒字幅が2億7000万ドルも減少したためである。貿易収支は継続的な輸入規制が功を奏して輸出増（86億5500万ドル、前年比8.9%増）、輸入減（121億6900万ドル、前同2.9%減）と政府の思惑通りに推移し、赤字幅はかなり縮小された。

75年はオイルショックを契機とする世界的なスタグフレーションの中でブラジルは国際収支の悪化とインフレ再熱に悩まされ続けたが、一方ではガロウバ油田の発見という長期的には明るいニュースも見られた。

貿易収支の赤字を資本収支の黒字で補うというパターンは、対外債務の増大（75年220億ドル）に直結しているため、今後に大きな問題を残す可能性がある。

75年の対外政策において特筆すべきことは、対ヨーロッパ関係の重視政策であり6月に西独との間に締結された「核エネルギー開発協定」は、その端緒として内外の注目を浴びた。また、米国からの過剰投資を警戒しつつ、日欧からの資本投下の促進、資源の確保と市場の拡大を狙ったアラブ諸国や中国等への接近、さらには周辺諸国対策といわれるボリビア、パラグアイ、アルゼンチン、ウルグアイへのアプローチなどブラジルの対外関係は拡大・緊密化の方向で実ろうとしている。

75年には対日輸出（CIF）が8億8318万ドルで前年比34.4%の増となり、

一方対日輸入(FOB)は9億2713万ドルと前年比33.3%の大幅減となった。ブラジル側から見れば、結果的に74年の7億3000万ドル以上という対日貿易アンバランスが大きく改善されたことになる。

75年の日伯貿易の特徴は、日本からブラジルへの輸出については、鉄鋼が前年比32.8%減の3億4500万ドル、化学製品4856万ドル(47%減)、金属加工機械4325万ドル(7.2%減)など軒並み減少。船舶は74年の1億280万ドルから一転10万ドルへと急激に落ち込みを示した。逆に原動機(3150万ドル、14%増)、テレビ受像機(2110万ドル、63%増)、科学光学機器(2079万ドル、41.9%増)など機械機器類はよく健闘した。

75年の日伯経済関係は、従来の拡大テンポが貿易並びに投資いずれの面においてもスローダウンしたが、これは世界経済の不況によるものであり、今後とも両国間の経済関係は緊密化と拡大の方向を目指すものと考えられる。

役員名簿（76年度4月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：橘富士雄（南米銀行）、川久保信行（三菱商事）、村松太郎（三井物産）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：伊藤通（住友銀行）、藤井素介（三菱銀行）、篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、柚木栄一（南米安田保険）

委員会

渉外委員会：広川郁三（兼松江商）

行動基準推進委員会：山本勝造（サドキン）

経済セミナー委員会：伊藤通（住友銀行）

日伯租税問題委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）

事業運営委員会：橘富士雄（南米銀行）

日伯経済交流促進委員会：広川郁三（兼松江商）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）

金融保険証券部会：西田寧（東京銀行）
 貿易部会：村松太郎（三井物産）
 機械金属鉄鋼部会：後藤隆（ヤンマー）
 電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
 化学部会：柴田力（富士写真フィルム）
 繊維部会：別役道昌（鐘紡ブラジル）
 食品部会：高原照男（味の素）
 建設・不動産部会：平沢克彦（戸田建設）

7 5 年度理事会及び監事会

理 事

1. ブラジル味の素	高原照男
2. アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
3. 安宅ブラジル	沼田文助
4. ブラセイコー商工	羽瀬太一
5. コチア産業組合	井上忠志
6. 第一勧業銀行	小林一策
7. 富士銀行	渡里成美
8. 富士写真フィルム	柴田力
9. 初田工業	今井繁義
10. 日立製作所	藤井治之
11. 豊和工業	藤平正義
12. イシブラス	金木克夫
13. 伊藤忠商事——伯国	村上正雄
14. 鐘紡	別役道昌
15. 兼松江商	広川郁三
16. 川崎重工業	中井善夫
17. 小松ブラジル	神崎勇
18. 久保田鉄工	宮地良
19. 協栄保険	吉成晃
20. 丸紅ブラジル	郡司不二夫
21. 松下電器	関 淳
22. 三菱銀行	下田昭
23. 三菱重工業	戸野本時彦
24. ブラジル三菱銀行	藤井素介

25. 三菱商事
26. 三井物産
27. 大阪商船三井船舶
28. 南米銀行
29. 南米投資銀行
30. 南米安田保険
31. 南伯農業協同組合
32. 日本電気
33. ブラジル特殊陶業
34. 日本航空
35. 日商岩井
36. プロゾトーレス倉庫
37. サドキン電球
38. サフロン帝人
39. 三和銀行
40. 新日本製鉄
41. 住友銀行
42. 住友商事
43. 竹中商会
44. 戸田建設
45. 東京銀行
46. 東芝・ド・ブラジル
47. 東洋紡
48. トヨタ
49. ユニチカ
50. ヤンマー

川久保信行
村松太郎
大石舜
橘富士雄
相場真一
柚木栄一
中沢源一郎
柿田潔
塚本一郎
立花譲
河原敬一
宮本邦弘
山本勝造
窪田真
田中信
伊豆和能
伊藤通
杉本碩也
竹中正
平沢克彦
西田寧
樋口次郎
難波慶二
酒巻和男
青山清三
後藤隆

監 事

1. 榊原純平
2. 若松孝司
3. 坂口孟

都築繊維
ソール・ナッセンテ経済研究所
クレアズール南米信託

補充監事

1. 鴨川茂夫
2. 有田哲哉

ブラスメントール・カサバーバ
日本鉄塔

75年度事業報告

総 会

- 6月12日 第26回定期総会（於・協栄パウリスタビル・サロン）
「74年度事業報告・同会計報告、同監査報告、76年度理事選挙結果報告」

常任理事会

- 5月28日 ・ 74年度事業報告
・ 74年度会計報告
・ 倉石前農相・元労相歓迎会の件
・ 福田副総理来伯の件
- 7月3日 ・ 75年度事業計画
・ 75年度予算
・ 会員区分け見直しの件
・ 南伯経済視察団の件
- 9月5日 ・ 副会頭補充の件
・ 日伯民間経済合同委員会の件
・ 宇山大使送別会の件
・ パラグアイ経済視察団の件
- 11月10日 ・ 業種別部会の件
・ 日伯租税条約の件
- 12月17日 ・ 通産省経済功労者表彰
・ 12月初旬に取られた輸入規制について
- 1月12日 ・ 日伯民間経済合同委員会の件
・ ウエキ鉱山動力大臣招待の件

理 事 会

- 5月28日 ・ 74年度事業・決算報告の件
- 6月20日 ・ 75～76年度常任理事選挙実施
- 7月15日 ・ 75年度事業計画・予算案の承認
- 9月16日 ・ 副会頭選出の件

共催・後援・協力行事

- 6月16日 倉石代議士歓迎懇談会（於・ヒルトン・ホテル）
- 6月27日 ラプラタ経済使節団歓迎会
- 8月23日 福田副総理歓迎昼食会

3月29日 植木鉦山動力大臣の訪日成果についての講演

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

- 6月17日 ウルブブンガ発電所見学会
8月7～9日 南伯経済視察団
見学先：DREHEL 社（ワイン工場）、EBERLE 社、
ラニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル工場など
10月1日 福田副総理トロフィー争奪ゴルフ大会
10月16～19日 パラグアイ経済使節団
4月9～10日 ミナス・ジェライス州経済視察団
見学先：ウジミナス社、セニブラ社、FIAT 社など
4月28日 山下杯争奪ゴルフ大会

一経済セミナー委員会

- 9月8日 会社法セミナー
・ テーマ：「法律的地見から見た自会社法改正の眼目」
講 師：田子森健二（弁護士）
・ テーマ：「会社法改正の帰趨とその問題点」
講 師：塚本雄一（FGV 教授）
10月6日 時局セミナー
テーマ：「日本経済の現状と見通し——不況からの脱出・
安定成長への道」
講 師：穴戸寿雄（日興リサーチセンター理事長）

一日伯租税問題委員会

- 7月25日 説明会
テーマ：「日伯租税条約改定交渉の現状」
講 師：松川書記官（ブラジリア日本大使館）

一コンサルタント部会

- 2月19日 テーマ：「CDI 機構について」
講 師：山田唯資（アイコン）
3月23日 テーマ：「最近の CDI の方針について」
講 師：山田唯資（アイコン）

4月27日 テーマ：「連結決算について」
講 師：山崎彰三（等松青木ドレイファス会計事務所）

一金融・保険・証券部会

1月22日 講演会
 テーマ：「金融情勢——75年の回顧と76年の展望」
 講 師：パウロ・ヨコタ（USP教授）
3月25日 講演会
 テーマ：「ブラジルにおけるリース業」
 講 師：小林良美、橋田隆靖

一繊維部会

2月3日 講演会
 テーマ：「ブラジル合繊業界の現状と展望」
 講 師：窪田真

一建設・不動産部会

1月20日 講演会
 テーマ：「サンパウロ市の都市計画」
 講 師：セルソ・マツダ（市議会議員）
5月19日 講演会
 テーマ：「サンパウロ市及びサンパウロ州の電話事情と事業計画」
 講 師：Dr.LEVY KAUFMAN（TELESP 重役）

一電気電子部会

2月26日 テーマ：「ブラジルにおける電気・電子の検査機構について」
 講 師：シゲハロ・デヤマ（USP教授）
4月30日 テーマ：「最近の外資政策と通信業界の動き」
 講 師：柿田潔

一化学部会

5月28日 講演会
 テーマ：「新公害防止法について」
 講師：ジヘイ・ノダ（州議員）
6月9日 講演会

テーマ：「ブラジルの石油化学工業」

講師：ガイゼル・フィーリョ（PETROQUISA）

一食品部会

2月10日 テーマ：「ブラジルにおける農産加工の歴史——コチア産業組合の経験」

5月7日 CEAGESP 見学会

定例昼食会

5月13日 定例会（於・協栄サロン）岩瀬主席領事・鈴木副会頭送別会

6月12日 定例会（於・テラソ・イタリア）

7月15日 定例会（於・テラソ・イタリア）和田主席領事歓迎会

8月23日 定例会（於・buffe・コロニアル）福田副総理歓迎会

9月16日 定例会（於・協栄サロン）

10月21日 定例会（於・協栄サロン）平野総領事歓迎会

11月18日 定例会（於・協栄サロン）

12月17日 忘年会（於・buffe・コロニアル）

1月20日 新年会（於・協栄サロン）

2月17日 定例会（於・テラソ・イタリア）

3月16日 定例会（於・テラソ・イタリア）吉田大使歓迎会

4月20日 定例会（於・協栄サロン）宇佐美副頭取送別会

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 国家非鉄金属開発計画
2. 伯・西独原子力エネルギー平和利用
3. セラード開発法
4. 技術移転契約規則
5. 統一労働法改正原案のあらまし

機関誌『ブラジル経済情報』（75年主要記事）

1月15日 417号 年頭所感 エルネスト・ガイゼル大統領

2月1日	418号	ガイゼル政権 10 ヶ月と特色、74 年度ブラジル経済早見表 (10 月まで)
2月15日	419号	74 年度の製鉄事情—今年は大きな伸びを期待—
3月1日	420号	主要国の対伯直接投資・再投資 1.アメリカ
3月15日	421号	主要国の対伯直接投資・再投資 2.西ドイツ、3. カナダ
4月1日	422号	74 年度ブラジルの国際収支
4月15日	423号	「多国籍企業活動調査委」と政府
5月1日	424号	ブラジル 74 年の外国貿易分析
5月15日	425号	急を要する国会承認—通貨価値修正と最低賃金分離
6月1日	426号	石油開発に外資企業の参加
6月15日	427号	外資企業の石油開発参加見送る
7月1日	428号	第 5 回国際ビジネス会議
7月15日	429号	主要経済指標
8月1日	430号	ブラジルの鉄道整備計画、今世紀最大の霜害とその経済的波紋
8月15日	431号	ブラジル社会各層に見る「多国籍企業」への態度とその将来
9月1日	432号	F o b 相当額をクルゼイロ貨で積立—中銀決定 331 号で揺れる輸入業界—
9月15日	433号	テクノロジー移入政策手直しの背景、会社の払う社会福祉のお値段
10月1日	434号	通貨価値修正に新方式—インフレ要因を二分し是正へ—
10月15日	435号	大詰め近づく多国籍企業調査—M D B の院外行動活発化—
11月1日	436号	ブラジルのアルコール問題—エネルギー問題の新主役の現状と将来
11月15日	437号	多難なカフェー王国再建、日伯租税条約改定の要望
12月1日	438号	野心的な多目的計画—発足したアルコール基本政策の概要
12月15日	439号	業種別部会いよいよスタート

1976年

1976年のブラジル経済はGDP8.8%（推定）の成長率を記録。インフレの高進と国際収支の危機はこの年もブラジル経済最大の問題であった。しかし、国際収支は好転した。貿易収支の赤字縮小、資本収支の大幅な黒字によって外貨保有高の増加を得た。

インフレ抑制は引き続いて重要な政策課題であったが、全般に超過需要が強く、その抑制に失敗した。75年後半からの物価の上昇傾向はその後騰勢を続けた結果、76年のインフレ率は前年29.3%から66年以来最高の46.3%増を記録するに至った。最近のブラジルのインフレは、引き続き輸入統制で供給減が生じ、その一方で信用の拡大や第2次国家開発計画の推進で需要が喚起され、それが超過需要となってもたらされているとする見方が一般的である。76年にはこれに加え、供給不足による食料品価格の高騰、賃金の大幅引き上げ（76年5月最低賃金44%引き上げ）、担保金制度（FOB価格の100%事前預託）による輸入コストの増大、農業への緊急融資、高金利（通貨調整分も加え年利55%）による銀行貸し出しの増加などの要因がインフレを一層高進させたとみられる。

76年の国際収支は、貿易バランスの大幅改善と資本収支が引き続いて好調であったことにより、4年ぶりに黒字に転換した。

輸出は前年比16.8%増の101億3040万ドルに達し、輸入は0.9%増の122億7750万ドルとほぼ75年の水準にとどまり、貿易バランスは輸入抑制が効果を上げる一方、輸出はコーヒーや大豆の国際価格の急騰で増加し、赤字幅は21億4700万ドルと75年の35億ドル、74年の46億ドルの赤字に比べ大幅に縮小した。逆に貿易外収支は、累積債務などによる支払い増加で赤字は75年の32億ドルから39億1900万ドルへとさらに増えた。

76年も経済協力を求めるブラジル要人の訪問外交は活発であった。

9月15日から5日間、ガイゼル大統領が日本を公式訪問し、アマゾン・アルミ開発、セラード開発、ツバロン製鉄所建設などでの協力関係強化を盛り込んだ日伯共同声明（詳細は、『ブラジル日本商工会議所1976年度事業・決算報告書』を参照）を発表。また英国訪問では、アリミナス製鉄所建設計画（所要資金18億ドル、86年粗鋼年産800万トン）や鉄鉱石運搬鉄道建設用などで6億ドル相当の資金協力を獲得。フランスからもツクルイ、イタパリカ両発電プラント、その他で援助を取り付けることに成功した。このほか、植木鉱山動力相らによる米国（リオ・ドセ国营鉱山会社などに4億ドルの借款）や西独（原子力協定）訪問も行なわれ、自国経済のポテンシャルを背景に、ブラジル政府が示した先進各国からの援助取り付けへの意欲は依然衰えを見せなかつ

た。

一方で、76 年初めに行なわれたキッシンジャー米国务長官の訪伯で一時修復されていた対米関係は、人権、各問題でカーター米政権と対立し、ブラジルが 77 年 3 月に米国との相互防衛条約（52 年締結）を破棄するに及んで両国の関係は再び悪化した。

76 年末で、日本の対伯投資残高は 10 億 59 万ドルに達し、75 年末の水準から 19.5%、1 億 6474 万ドルの増加を見た。76 年に日本の対伯投資の伸び率が鈍化した理由は、日本の対伯投資がここ数年で一巡したこと、外資に対する規制が強化されてきたことなどが挙げられる。73～75 年頃に対伯投資ブームを呼び起こした環境は、今や日伯両国で変容を見せ始めている。

役員名簿（76 年度 12 月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：橘富士雄（南米銀行）、川久保信行（三菱商事）、
西田寧（東京銀行）、村松太郎（三井物産）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：伊藤通（住友銀行）、藤井素介（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、柚木栄一（南米安田保
険）

委員会

渉外広報委員会：広川郁三（兼松江商）

行動基準推進委員会：山本勝造（サドキン）

経済セミナー委員会：伊藤通（住友銀行）

日伯租税問題委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）

事業運営委員会：橘富士雄（南米銀行）

日伯経済交流促進委員会：広川郁三（兼松江商）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）

金融保険証券部会：西田寧（東京銀行）

貿易部会：村松太郎（三井物産）
 機械金属鉄鋼部会：後藤隆（ヤンマー）
 電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
 化学部会：柴田力（富士フィルム）
 運輸サービス部会：大石舜（三井 OSK）
 繊維部会：別役道昌（鐘紡ブラジル）
 食品部会：高原照男（味の素）
 建設・不動産部会：平沢克彦（戸田建設）

76年度理事会及び監事会

理 事

1. ブラジル味の素	高原照男
2. アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
3. 安宅ブラジル	吉川浩三
4. ブラセイコー商工	羽瀬太一
5. コチア産業組合	井上忠志
6. 第一勧業銀行	原田能男
7. 富士銀行	武田一男
8. 富士写真フィルムブラジル	柴田力
9. ハツタ・スズキ工業	今井繁義
10. 日立製作所	小今井扇治
11. 豊和工業	藤平正義
12. イシブラス	金木克夫
13. 伊藤忠商事——伯国	村上正雄
14. 鐘紡	別役道昌
15. 兼松江商	広川郁三
16. 川崎重工業	中井善夫
17. 小松ブラジル	神崎勇
18. 久保田鉄工	宮地良
19. 協栄保険	吉成晃
20. 丸紅ブラジル	郡司不二夫
21. 松下電器	関 淳
22. ブラジル三菱銀行	田尻兼男
23. 三菱重工業	戸野本時彦
24. ブラジル三菱銀行	藤井素介

25.	三菱商事	川久保信行
26.	三井物産	村松太郎
27.	大阪商船三井船舶	大石舜
28.	南米銀行	橘富士雄
29.	南米投資銀行	相場真一
30.	南米安田保険	柚木栄一
31.	南伯農業協同組合	中沢源一郎
32.	日本電気	柿田潔
33.	ブラジル特殊陶業	塚本一郎
34.	日本航空	立花譲
35.	日商岩井	河原敬一
36.	プロゾトーレス倉庫	宮本邦弘
37.	サドキン電球	山本勝造
38.	サフロン帝人	大倉史郎
39.	三和銀行	田中信
40.	新日本製鉄	伊豆和能
41.	住友銀行	伊藤通
42.	住友商事	杉本碩也
43.	竹中商会	竹中正
44.	戸田建設	平沢克彦
45.	東京銀行	西田寧
46.	東芝・ド・ブラジル	樋口次郎
47.	東洋紡	難波慶二
48.	トヨタ	酒巻和男
49.	ユニチカ	青山清三
50.	ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	榊原純平	都築繊維
2.	若松孝司	ソール・ナッセンテ経済研究所
3.	坂口孟	クレアズール南米信託

補充監事

1.	鴨川茂夫	ブラスメントール・カサバーバ

76年度事業報告

総 会

- 6 月 22 日 第 26 回定期総会（於・協栄パウリスタビル・サロン）
「75 年度事業報告・同会計報告、同監査報告、76 年度事業計画案、予算案を審議、承認」
- 6 月 22 日 臨時総会（於・協栄パウリスタビル・サロン）
「第 6 回常任理事会案通りに定款改正」

常任理事会

- 5 月 27 日 ・ ガイゼル大統領訪日の件
・ 宇佐美副会頭後任の件
・ ウジミナス増資に関する件
・ 昭和 51 年度経済協力貢献者表彰の件
・ 2 世グループとの懇談会の件
・ 定款改正の件
- 6 月 15 日 ・ 1975 年度事業報告の件
・ 1975 年度決算報告の件
・ 1976 年度予算及び事業計画の件
・ 自衛隊練習艦隊歓迎費用の件
- 8 月 19 日 ・ 日伯民間合同委員会の件
・ マスコミによるガイゼル大統領訪日特集に関する件
・ 渉外広報委員会の件
・ 日本商工会議所よりの事務所借用依頼の件

理 事 会

- 6 月 15 日 ・ 75 年度事業・決算報告の件
・ 第 4 副会頭補充の件
・ 76 年度事業計画・予算の件

共催・後援・協力行事

- 7 月 5 日 河本通産大臣歓迎会（於・テラソ・イタリア）
- 7 月 20 日 岩動海外日系人協会会長との懇談会
- 9 月 3 日 2 世懇談会

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

- 7 月 15～16 日 リオ経済視察団

見学先：イシブラス・カンポグランデ工場、同造船所、
VERLOME 造船所、アングラ・ドス・レイス
原子力発電所

10月7～9日 レシーフェ視察団
見学先：ウジナ・サンタ・テレーザ（砂糖工場）、コペ
スブラ社クジラ解体作業、レシーフェ中央市場

一 渉外広報委員会

8月27日 同委員会発足、第1回顔合わせ

一 コンサルタント部会

5月25日 講演会
テーマ：「日伯会計制度の比較」
講 師：山崎彰三（等松青木会計事務所）
7月22日 講演会
テーマ：「Equity Method & Tax Allocation」
講 師：山崎浩之（プライス・ウォーターハウス・ビート
会計事務所）
9月16日 講演会
テーマ：「ブラジルの多国籍企業」
講 師：エミリオ・マツモト（VEJA 誌）
10月28日 講演会
テーマ：「CDI を通すには」
講 師：山田唯資（アイコン）
11月16日 講演会
テーマ：「会計面から見た新会社法」
講 師：山崎彰三（等松青木会計事務所）

一 金融・保険・証券部会

5月27日 講演会
テーマ：「株式市場と資金運用」
講 師：若松孝司（ソールナッセンテ）
7月27日 講演会
テーマ：「会社法その後」
講 師：マリオ・タゴモリ（弁護士）
9月23日 講演会
テーマ：「ブラジル多国籍企業」

講 師：ロベルト・ドレイファ（ドレイファ会計事務所）

一貿易部会

9月14日

講演会

テーマ：「ブラジルの外国貿易と対日貿易」

講 師：ルシオ・テイシェイラ・デ・アルメイダ（CACEX）

一繊維部会

10月19日

講演会

テーマ：「ブラジルの繊維業界の展望」

講 師：ルイス・アメリコ・メディロス（州繊維工業組合
会長）

一建設・不動産部会

5月19日

講演会

テーマ：「サンパウロの電話事業と事業計画」

講 師：レヴィ・カウフマン（TELESP）

一電気電子部会

7月16日

講演会

テーマ：「国産化及び国産化率」

講 師：セルジオ・シャビエル・フェロール（CTA）

9月29日

NGK モジ工場見学

一運輸サービス部会

8月12日

講演会

テーマ：「国外旅行規則について」

講 師：立花譲（JAL）

一化学部会

5月28日

講演会

テーマ：「新公害防止法について」

講師：ジヘイ・ノダ（州議員）

6月9日

講演会

テーマ：「ブラジルの石油化学工業」

講師：ガイゼル・フィーリョ（PETROQUISA）

一食品部会

5月7日

CEAGESP 見学

定例昼食会

6月22日	定例会（於・協栄サロン）
7月5日	定例会（於・テラソ・イタリア）
8月24日	定例会（於・協栄サロン）
10月15日	定例会（於・協栄サロン）
12月21日	定例会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル語略語辞典
2. 株式会社法改正政府原案ノート
3. 76年度経済基本方針
4. 公害規制法令集成
5. ブラジル石油化学の現状と将来
6. マナウス自由区をめぐる租税特別措置法集成
7. 第2回日伯経済合同委員会
8. ブラジルの政府系企業——その系譜と問題点
9. ブラジル政府系企業の現状と民間企業育成要綱

機関誌『ブラジル経済情報』（76年主要記事）

1月15日	440号	シモンセン75年を締めくくる
2月1日	441号	全訳 労災防止のための省令第3460号
2月15日	442号	政府、民族系企業優遇を確信—経企庁長官、ブラジル経済モデルを語る—
3月1日	443号	電気部会講演：ブラジルの工業試験と工業規格
3月15日	444号	滑り出し不調の76年経済—政府、インフレ抑制を目指し金融引き締め—
4月1日	445号	ブラジルの闇ドル市場—公定レートとの差が繁栄をもたらす—

4 月 15 日	446 号	日伯租税条約の改定—解説
5 月 1 日	447 号	ブラジルの原綿事情—有史以降初めての原綿輸入か?—
5 月 15 日	448 号	A B I N E E の組織と役割 (電気電子部会報告)
6 月 1 日	449 号	ブラジルの会計—固定資産再評価制度について (山崎彰三)
6 月 15 日	450 号	政府、国営企業議論にケリー根底にある外資拡大への憂慮—
7 月 1 日	451 号	カンポス油田開発の進展とブラジルの石油政策
7 月 15 日	452 号	政府、輸出入の個別的規制に乗り出す (中銀示達第 559 号と業者登録制度)
8 月 1 日	453 号	フィアット・ブラジル進出 (一致した国と多国籍企業の利害)
8 月 15 日	454 号	電気電子部会 : 国産と国産化率
9 月 1 日	455 号	ガイゼル訪日と日伯経済合同委員会—日伯関係に新時代来る—
9 月 15 日	456 号	1977 年予算国会へ : 均衡、拡大、増税なし
10 月 1 日	457 号	訪日成功で威信上る政府 : 貿易収支改善と対伯投資拡大
10 月 15 日	458 号	外貨保有高増加へ—ブラジル政府前途を楽観—
11 月 1 日	459 号	経済パターン再検討を : 波紋呼んだゴーマス商工相談話
11 月 15 日	460 号	カーター氏の勝利とブラジル—再検討迫られる米伯両国関係—
12 月 1 日	461 号	政府、77 年投資を縮小—国際収支改善、インフレ抑制めざし—
12 月 15 日	462 号	11 月までのインフレ指数と分析

1977年

1977年のブラジル経済は政府の掲げる「経済の減速化」という観点からはほぼ満足すべき成果をあげた。インフレは76年の46.3%から38.8%へと収束に向かい、貿易収支は若干ながらも黒字に転じた。4.7%という経済成長率は、76年の8.8%に比べ大幅な落ち込みではあるが、金融引き締め、公共投資の削減、輸入規制などの政策を通じた政府の意図を反映したものとなった。

77年の国民総生産（GDP）の動きを部門別にみると、まず鉱工業生産の伸び率がわずかに2.08%と振るわなかったことが目につく。とりわけ鉱業は前年比マイナス4.7%へと落ち込んだ。その主な理由は、世界的な鉄鋼不況の影響で鉄鉱石の生産と輸出が不振だったこと、石油生産が既存油田の枯渇化から減少しているうえに、新油田の開発が期待通り進まなかったことなどによるもの。国営企業リオ・ドセ社の77年鉄鉱石生産は前年比15.9%減、ベレット生産でも31%減少した。鉄鉱石の輸出は同じく8.0%減であった。また、原油生産は74年の1030万m³をピークに年々減少を辿っているが、77年には933万m³（前年比3.8%減）と落ち込んでいる。金融引き締めにより400億クルゼイロにのぼる公共投資削減の影響をもろに受けた自動車、トラクター、通信機器などの業種では、前年実績を下回る結果となった。このうち自動車産業では、割賦販売規制や金利の上昇などで販売が落ち込み、生産台数は91万9441台と前年比4.7%減となった。

77年のブラジル経済にとって明るい話題の一つは貿易収支の黒字転換であった。77年初めにはコーヒー、大豆などの国際市況高騰から、黒字幅30億ドルという強気の見通しもあったが、結果的には1億4000万ドルの小幅黒字にとどまった。

これに対し、貿易外収支は対外利息の支払いと利潤送金が増加し、経常収支では依然として42億8500万ドルもの赤字となった。これを49億4500万ドルの資本収支黒字で埋めあわせ、総合収支は4億6000万ドルの黒字を計上した。

77年の輸出は前年比19.9%増の121億3940万ドル。主にコーヒーや大豆など国際市況高騰と工業製品の輸出増大によるもの。一方輸入は、119億9900万ドルと前年比2.8%の減少を示した。これは、消費財や国産化品などを対象とした輸出ライセンスの発給停止、100%相当額を1年間凍結する輸入預託金の徴収といった輸入規制措置が引き続き講じられたほか、経済減速化による資本財の需要停滞を反映したものである。

なお、ミニ・デバリュエーション制を採用している為替レートは、77年に14回の対ドル切り下げを実施、77年末現在1ドル＝16.05クルゼイロ（売

り)と、年間切り下げ率は30%に達した。

77年のブラジルの対日輸出は前年比15.7%増の9億4680万ドル、輸入は4.8%減の8億3975万ドルで、71年以降初めてブラジル側の出超となった。特に対日輸入は、ブラジルの輸入規制強化を反映して74年の13億9000万ドルをピークに年々減少を辿っているのが特徴である。

77年下期以降の急激な円高による日本品の競争力低下も、輸入規制強化、需要低迷と並ぶ不振の要因として無視できない。

円高の影響については、1ドル=220円台に突入した78年3月末すでに日本品の対ブラジル輸出はかなり厳しい事態に直面していた。現地日系商社ではブラジル産品の第三国取引を強化するなど、新たな対応で事態の克服に努めている。

役員名簿（77年度12月末日現在）

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：広川郁三（兼松江商）

副 会 頭：橘富士雄（南米銀行）、川久保信行（三菱商事）、
小川章（東京銀行）、村松太郎（三井物産）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：伊藤通（住友銀行）、中村敏之（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、武田一男（富士銀行）

委員会

渉外広報委員会：広川郁三（兼松江商）

行動基準推進委員会：山本勝造（サドキン）

経済セミナー委員会：伊藤通（住友銀行）

日伯租税問題委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）

事業運営委員会：橘富士雄（南米銀行）

日伯経済交流促進委員会：広川郁三（兼松江商）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）

金融保険証券部会：小川章（東京銀行）

貿易部会：川久保信行（三菱商事）
 機械金属鉄鋼部会：後藤隆（ヤンマー）
 電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
 化学部会：柴田力（富士フィルム）
 運輸サービス部会：大石舜（三井 OSK）
 繊維部会：別役道昌（鐘紡ブラジル）
 食品部会：吉川皓三（味の素）
 建設・不動産部会：平沢克彦（戸田建設）

77年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素	吉川皓三
2. アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
3. ブラセイコー商工	羽瀬太一
4. C B C 重工（株）	原雅敏
5. コチア産業中央会	井上忠志
6. 第一勧業銀行	原田能男
7. 富士銀行	武田一男
8. 富士写真フィルムブラジル	柴田力
9. 豊和工業	藤平正義
10. イシブラス	金木克夫
11. 伊藤忠商事——伯国	中山嘉英
12. ジェトロ	本多秀久
13. 鐘紡	別役道昌
14. 兼松江商	広川郁三
15. 川崎重工業	平田幸広
16. 川崎製鉄	多賀谷秀夫
17. 小松ブラジル	神崎勇
18. 久保田鉄工	宮地良
19. 丸紅ブラジル	福永一臣
20. 松下電器	関 淳
21. 三菱銀行	田尻兼男
22. 三菱重工業	安田勝造
23. ブラジル三菱銀行	中村敏之
24. 三菱商事	川久保信行

25.	三井物産	村松太郎
26.	三井肥料	山口龍男
27.	三井 OSK	十束公司
28.	南米銀行	橘富士雄
29.	南米投資銀行	相場真一
30.	南米安田保険	岡本均
31.	日本電気	鈴木忠
32.	NGK 特殊陶業	塚本一郎
33.	日本航空	秋元博
34.	日商岩井	河原敬一
35.	プロツトーレス倉庫	宮本邦弘
36.	サドキン電球	山本勝造
37.	三和銀行	田中信
38.	新日本製鉄	伊豆和能
39.	住友銀行	伊藤通
40.	住友商事	西浦勁
41.	竹中商会	竹中正
42.	帝人ブラジル	嶋倉圭一
43.	戸田建設	平沢克彦
44.	東京銀行	小川章
45.	東芝	樋口次郎
46.	東洋紡	難波慶二
47.	トーメン	酒井栄造
48.	トヨタ	酒巻和男
49.	ユニチカ	青山清三
50.	ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コン サルタント・アソシエイト
2.	若松孝司	ソール・ナッセンテ経済研究所
3.	藤村騰	三井銀行

補充監事

1.	坂口孟	クレアズール南米信託
2.	中山健次	トーメン製油

77年度事業報告

総 会

- 3月8日 第27回定期総会
「76年度事業・決算報告、77／78年度理事及び監事選挙結果」
- 4月5日 臨時総会
「77年度事業計画・予算につき審議し、承認」

常任理事会

- 1月18日 77／78年度役員選挙につき、日程・投票方法を決定、選挙管理委員に坂口、鴨川、江見、太田の各氏に依頼
- 2月17日 1976年度事業・決算報告を審議、理事会に提出
- 3月22日 77年度事業計画・予算につき審議
- 5月10日
- ・ 77年度経済協力貢献者表彰に橘富士雄氏を推薦
 - ・ 定例昼食会の管轄は事業運営委員会から常任理事会に移される
 - ・ 移民70周年委員会につき、広川会等より報告
- 6月21日
- ・ 日本の関係方面にウジミナス増資協力依頼を打電することに決定
 - ・ 日本航空企画によるブラジル・シンポジウムの東京開催に協力することを承認
- 7月5日
- ・ 第2回移住者オリンピックに1口500クルゼイロ、サンゴンサロ協会改修に1口800クルゼイロの協力を呼びかけることが決定
 - ・ 外国商業会議所審議会の公害防止委員会に当所代表として中野博氏を委嘱
- 9月6日
- ・ 帰国する西田副会頭の後任に小川章氏の推薦を決定
 - ・ 永田職員の次長昇格を決定
 - ・ 旧事務所貸付の件につき篠又理事に一任すること
- 12月8日
- ・ ガイゼル大統領の70年祭委員会名誉総裁受諾御礼訪問につき、広川会頭より報告
 - ・ 日本航空企画のブラジル・シンポジウムは、ブラジル政府が公式行事でとの旨報告
 - ・ 人文研ポ語出版物協力の件が承認
 - ・ 会費徴収につき、次年度よりの銀行振込方式導入を総会に提案する

理 事 会

- 2月17日 76年度事業・決算報告を審議、承認
3月15日 常任理事選挙実施
3月22日 77年度事業計画・予算につき審議、承認
10月25日 西田副会頭の後任に小川章氏を選出。BRASIL EXPO 及び弓場バレー団訪日への協力が決定

監 事 会

- 2月15日 76年度業務・財産状況並びに会計帳簿の監査を、若松、坂口の両監事が行なった

共催・後援・協力行事

- 1月28日 九経連ミッションとの懇談会
3月7日 77/78年度役員選挙開票
5月30日 コスタ大使歓送会（於・レストラン・サントリー）
7月27日 在ブラジル公館長懇談会
9月11日 岸元首相歓迎会（於・協栄サロン、文協との共催）
10月7日 京都商工会議所との懇談会
11月14日 日外協との懇談会
12月3日 業種別部会長懇談会
「76年/77年ブラジル経済・回顧と展望」
・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）司会
・ 金融・保険・証券部会長 西田寧（東京銀行）
・ 運輸サービス部会長 大石舜（三井OSK）
・ 食品部会長代理 中山健次（トーメン製油）
・ 繊維部会長 別役道昌（鐘紡）
・ 化学部会長 白崎武男（富士写真工業）
・ 電気・電子部会 山本勝造（サドキン電球）
・ 機械・金属・鉄鋼部会長 後藤隆（ヤンマー）
・ 建設・不動産部会長 平沢克彦（戸田建設）
・ 貿易部会副部会長 川久保信行（三菱商事）

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

3月3～5日 北パラナ州経済視察団

- 見学先：松原精綿工場、鐘紡シルク、イグアス・コーヒー、アサイ日本人会、東洋繊維ラミー工場、ロンドリーナ文化体育協会、ブラスウェイ社大豆工場等
- 8月5～7日 南パラナ州経済視察団
見学先：ペトロブラス、雪印、フィリップ・モリス、古河電工、マキブラス、倉敷綿紡工場、播磨化成、コチア大豆倉庫、ブロズトーレス倉庫など
- 11月17～19日 アマゾン経済視察団
見学先：EMBRAPA、日本冷蔵、ブラジル永大、大洋漁業、CIA社、マナウス工業団地など

一経済セミナー委員会

- 2月28日 講演会
テーマ：「ブラジルの外資政策とその対応策」
講師：ペコラ（元大蔵次官）
- 7月6日～
8月24日 ブラジル入門セミナー（人文研、日外協と共催）
- ・ テーマ：「ブラジル国家の成り立ち」（7月6日）
講師：脇坂勝則（人文研理事）
 - ・ テーマ：「革命政権成立の歴史的背景」（同13日）
講師：脇坂勝則（人文研理事）
 - ・ テーマ：「体験的に見たブラジル社会の体質」（同20日）
講師：半田知雄（人文研研究員）
 - ・ テーマ：「ブラジルにおける各国移民と日系コロニア」（同27日）
講師：鈴木悌一（USP教授）
 - ・ テーマ：「ブラジル経済地理——その地方的特色」（8月3日）
講師：若松孝司（ソールナッセンテ代表）
 - ・ テーマ：「ブラジル農業の展望」（同10日）
講師：宮尾進（人文研理事・「ブラジルの農業」編集長）
 - ・ テーマ：「ブラジルの財閥と企業系列」（同17日）
講師：鈴木与蔵（人文研理事・「実業のブラジル」社長）
 - ・ テーマ：「日本人とブラジル人」（同24日）

講 師：斉藤広志（USP 教授）
9 月 27 日 金融・保険・証券部会との共催講演会
テーマ：「新株式会社法による決算」
講 師：山崎彰三（等松青木ドレイファス会計事務所）

ー渉外広報委員会

10 月 17 日 バンデイランテス局見学

ー行動基準推進委員会

11 月 17 日 コンサルタント部会との共催講演会
テーマ：「ブラジル側から見た日伯合弁企業の問題点」
講 師：塚本雄一（FGV 教授）

ーコンサルタント部会

1 月 27 日 講演会
テーマ：「外資ローン等に対する会計上の実務処理」
講 師：Hiromi Higuchi（サンパウロ地区連邦州税監督局）
2 月 25 日 講演会
テーマ：「ブラジルにおける金融」
講 師：山田保（三和銀行）
3 月 24 日 講演会
テーマ：「文化と技術論の間」
講 師：斉藤広志（USP 教授）
4 月 14 日 講演会
テーマ：「新株式会法の経過措置」
講 師：田子森マリオ（弁護士）
4 月 26 日 講演会
テーマ：「ブラジル多国籍企業」
講 師：Carlos Von Doelinger（IPEA）
5 月 31 日 講演会
テーマ：「技術移転に関する諸問題」
講 師：Ubirajara Cabral（INPI 事務局長）
8 月 12 日 講演会
テーマ：「ブラジルにおける外国投資と CDI の役割」
講 師：Guilherme Hatab（CDI 事務局長）
9 月 26 日 講演会
テーマ：「ガイゼル案件及びその他のナショナル・プロジ

エクトの進捗状況について」
講 師：Frabio Pecora（元大蔵次官）
11 月 17 日 行動基準推進委員会との共催講演会
テーマ：「ブラジル側から見た日伯合弁企業の問題点」
講 師：塚本雄一（FGV 教授）

一金融・保険・証券部会

3 月 28 日 講演会
テーマ：「新株式会社法」
講 師：内山良文（南米銀行）
6 月 27 日 講演会
テーマ：「ブラジルの経済政策」
講 師：Adroaldo Moura e Silva（USP）
9 月 27 日 経済セミナー委員会との共催講演会
テーマ：「新株式会社法による決算」
講 師：山崎彰三（等松青木ドレイファス会計事務所）
12 月 2 日 講演会
テーマ：「ブラジルの外国為替制度について」
講 師：西川悦治（南米銀行）

一機械金属部会

3 月 23 日 V.W. GM 見学会
5 月 13 日 講演会
テーマ：「鉄鋼・非鉄金属政策と Consider の役割」
講 師：Aluisio Marins（Consider 事務局長）

一繊維部会

6 月 28 日 講演会
テーマ：「年次有給休暇について」
講 師：芳賀幸男（弁護士）

一建設・不動産部会

5 月 19 日 荘園建物見学会
11 月 10 日 地下鉄工事現場見学会

一電気電子部会

3 月 11 日 講演会

テーマ：「ブラジルにおけるテレコミュニケーション組織
の近代化について」

講師：Roberto Kresch（通信省企画局長）

一運輸サービス部会

5月15日 サントス港湾見学

一化学部会

9月22日 講演会

テーマ：「日本の公害とブラジルの公害」

講師：半谷高久（東京都立大学教授）

定例昼食会

1月18日	新年会（於・協栄サロン）
3月8日	定例会（於・協栄サロン）
4月5日	定例会（於・テラソ・イタリア）
5月24日	定例会（於・協栄サロン）
6月21日	定例会（於・協栄サロン）
7月19日	定例会（於・テラソ・イタリア）
8月16日	定例会（於・協栄サロン）
9月6日	定例会（於・テラソ・イタリア）
10月25日	定例会（於・協栄サロン）
11月29日	定例会（於・テラソ・イタリア）
12月20日	忘年会（於・ブッフエ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル新株式会社法
2. ブラジル・テレコミュニケーション組織の近代化について
3. BNDE の 1978—1981 事業活動計画
4. 新年次有給休暇法について
5. ブラジルにおける外国投資と CDI の投資
6. ブラジルの有限会社法
7. ブラジルにおける多国籍企業

機関誌『ブラジル経済情報』（77 年主要記事）

1976/1977 年 越年特別号	76 年／77 年ブラジル経済・回顧と展望 業種別部会長懇談会
1 月 15 日	463 号 過熱経済の教訓と経済政策の見直し（オ・エスタード紙・経済部長 ロベルト・アビイ）
2 月 1 日	464 号 サムライ、敵か見方か―日伯経済交流における問題点―
2 月 15 日	465 号 セベロー・ゴーマス閣外に去る（サンパウロ財界の自由化要求鎮圧）
3 月 1 日	466 号 輸出は好調、国内市場は不安―1977 年のブラジル経済―
3 月 15 日	467 号 1976 年主要輸出品統計
4 月 1 日	468 号 多国籍企業よりする意見と批判―外国人企業家 16 氏の見たブラジル経済―
4 月 15 日	469 号 アルコール計画はなぜ遅れるのか―それでもエネルギー解決の切り札―
5 月 1 日	470 号 ブラジルのインフレ論総まくり―フェランテからエコノミストまで―
5 月 15 日	471 号 第 9 回全国輸出会議開く―ガイゼル、輸入抑制の維持を示唆―
6 月 1 日	472 号 1974 年以来最悪の落ち込み―低迷続ける自動車業界―
6 月 15 日	473 号 76 年日伯貿易は往復 17 億ドル
7 月 1 日	474 号 ブラジルの自動車工業はどこへ行く―ビッグ 4 の占う史上初の危機―
7 月 15 日	475 号 資本財新投資はストップを―蔵相、国内有力代表招き勧告―
8 月 1 日	476 号 1977 年ブラジル主要経済指標
8 月 15 日	477 号 上半期の輸出は 62 億ドル―カフェー好調、原糖低落―
9 月 1 日	478 号 難航する鉄鋼計画：ツバロンは日本次第

9 月 15 日	479 号	第 2 のサンパウロ目指すミナス : C D I 認可プロジェクト全国首位に
10 月 1 日	480 号	動き出した労働組合運動—賃金調整から労働基本権の確立へ—
10 月 15 日	481 号	セニブラ操業開始、だが輸出の先行きは不安
11 月 1 日	482 号	フロッタ陸相解任事件
11 月 15 日	483 号	量よりも「質」へと転換—C D I の工業プロジェクト審査基準—
12 月 1 日	484 号	ペレス・ベネズエラ大統領訪伯—技術経済協力を約す—
12 月 15 日	485 号	急減する民間企業の投資

1978年

ガイゼル政権の締めくくりの年、1978年のブラジル経済はインフレの高進と対外債務の膨張といった難問を抱えながらも、前年の4.7%を上回る6.0%の経済成長を達成した。

最大の課題であるインフレについては、干害による食料品価格の高騰のほか、賃金調整、通貨供給の抑制失敗などインフレ対策面での緩みも原因して40%を越す物価上昇を招いた。反面、厳しい引き締め政策の採られなかったことが、工業、サービスといった経済活動に好影響をもたらしたともいえる。

政府予測を上回る経済成長は、主として工業部門の成長率8.1%によるもので、このうち製造業は7.6%、建設業9.7%、鉱業6.2%、電力を始めとする公共事業12%の成長であった。

78年上期の干ばつによる穀物の減収は1300～1400万トンにのぼったといわれる。従来はとうもろこしの輸出国であったブラジルが逆に500万トンの輸入を余儀なくされたこと、コーヒーと並ぶ輸出農産物の大豆が300万トンの減収となり、これらが食料品価格の高騰を招き、貿易収支の赤字をもたらした。このほか、不十分な農業融資、農産物の最低保証価格制度の不振といった農業政策面での問題も浮き彫りにされた。

77年に1億ドル弱とはいえ念願の黒字を達成したブラジルの貿易収支は、わずか1年で再び10億ドル近い赤字を計上するに至った。

78年の輸出は工業製品が順調に伸びたものの、干害による大豆の減収やコーヒー輸出価格の下落など農産物の不振が大きく響き、前年比4.4%増の126億5000万ドルにとどまった。一方輸入は、穀物類や79年1月からの値上げを見越した原油の輸入増などから、同13.4%増の136億3900万ドルへ拡大した。この結果、78年の貿易収支は前年の9680万ドルの黒字から一転して9億8900万ドルの赤字となった。

輸出の特徴としてはまず、一次産品が前年より10億ドル減少して59億6900万ドルにとどまったのに対し、工業製品が前年比約16億ドル増の65億ドルに達し、初めて輸出の主役を果たしたことが挙げられる。ブラジルの総輸出に占める工業製品のシェアは、10年前の68年にわずか20%、77年ですら40%にすぎなかったが、78年は一次産品の不振という要因が重なったにしても前年より33%も増えたため、一挙に過半(51.4%)のシェアを制したものである。

輸入の特徴としては、輸入増加分の大半が穀物、鉱物性燃料、機械設備の拡大によるもので、とくに値上がり予想から買い急ぎ要素の加わった原油輸入と天候不順による生産不振を補うための穀物輸入が貿易収支の大きな赤字要因となった。

次に国際収支面では、約 10 億ドルの貿易収支赤字に加えて、貿易外収支でも 49 億 7500 万ドルの赤字となったため、78 年の経常収支赤字は前年を大幅に上回る 58 億 9100 万ドルとなった。

78 年の日本の対ブラジル輸出は前年比 49.2%増の 12 億 5254 万ドル、ブラジルからの輸入は 16.9%減の 7 億 8699 万ドルで、日本側の輸出超となった。ブラジル側の発表によると対日入超が前年の 1 億 5980 万ドルから 6 億 1250 万ドルへと 3.8 倍も増大し、ブラジルの全入超額の 6 割以上も占めたことが問題視されている。

役員名簿（78年度12月末日現在）

名誉会頭：広川郁三

顧問：蜂谷専一

羽瀬作良

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：広川郁三（兼松江商）

副会頭：橘富士雄（南米銀行）、川久保信行（三菱商事）、
小川章（東京銀行）、中邑松太郎（三井物産）

専任理事：別役道昌（鐘紡）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：佐藤正幸（住友銀行）、中村敏之（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、武田一男（富士銀行）

委員会

渉外広報委員会：広川郁三（兼松江商）

行動基準推進委員会：山本勝造（サドキン）

経済セミナー委員会：武田一男（富士銀行）

日伯租税問題委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）

事業運営委員会：橘富士雄（南米銀行）

日伯経済交流促進委員会：広川郁三（兼松江商）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）

金融保険証券部会：小川章（東京銀行）

貿易部会：川久保信行（三菱商事）

機械金属鉄鋼部会：後藤隆（ヤンマー）
 電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
 化学部会：柴田力（富士フィルム）
 運輸サービス部会：大石舜（三井 OSK）
 繊維部会：別役道昌（鐘紡ブラジル）
 食品部会：吉川皓三（味の素）
 建設・不動産部会：平沢克彦（戸田建設）

78年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカーナ	吉川皓三
2. アメリカ・ラチーナ保険（株）	篠又幸市郎
3. アトラス商工	羽瀬太一
4. C B C 重工（株）	寺山泰雄
5. コチア産業中央会	井上忠志
6. 第一勧業銀行	原田能男
7. 富士銀行	武田一男
8. 富士写真フィルムブラジル	柴田力
9. 豊和機械	藤平正義
10. 石川島ブラジル造船所	生方泰二
11. 伊藤忠商事——伯国	中山嘉英
12. ジェトロ	本多秀久
13. 鐘紡	別役道昌
14. 兼松江商	広川郁三
15. 川崎重工業	平田幸広
16. 川崎製鉄	白石隆
17. 小松ブラジル	冠木善彦
18. 久保田鉄工	原田正美
19. 協栄保険ブラジル	石原友三郎
20. 丸紅ブラジル	福永和生
21. 松下電器	関 淳
22. 三菱銀行	田尻兼男
23. 三菱重工業	瓜生巖
24. ブラジル三菱銀行	中村敏之
25. 三菱商事	川久保信行

26.	三井物産	中邑松太郎
27.	三井肥料	山口龍男
28.	南米銀行	橘富士雄
29.	南米投資銀行	相場真一
30.	南米安田保険	岡本均
31.	日本電気	鈴木忠
32.	日本航空	秋元博
33.	日商岩井	河原敬一
34.	大阪商船三井船舶	十束公司
35.	プロゾトーレス倉庫	宮本邦弘
36.	サドキン電球	山本勝造
37.	三和銀行	谷本健治
38.	新日本製鉄	森口円二
39.	住友銀行	佐藤正幸
40.	住友商事	西浦勁
41.	竹中商会	竹中正
42.	帝人ブラジル	戸張幸孝
43.	戸田建設	平沢克彦
44.	東京銀行	小川章
45.	特殊陶業	藤井重信
46.	東芝	樋口次郎
47.	東洋紡	難波慶二
48.	トーメン	酒井栄造
49.	トヨタ	酒巻和男
50.	ユニチカ	菅原利郎
51.	ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサルタント・アソシエイト
2.	若松孝司	ソール・ナッセンテ経済研究所
3.	坂口孟	クレアズール南米信託

補充監事

1.	中山健次	トーメン製油

78年度事業報告

総 会

- 3月7日 第28回定期総会
「77年度事業・決算報告、78年度事業計画・予算案につき審議、承認」

常任理事会

- 1月26日 第28回定期総会関係の日程を決めたほか、移民70周年記念に際しての広告に関し、各部会ごとにまとめられるところは、まとめて広告することになった。
- 2月16日
- ・ 1977年事業・決算報告、78年事業計画・予算事務局案につき検討、理事会に送付することとなった。
 - ・ 対外国商業会議所審議会への当所代表が山本専任理事、麦職員より、篠又財務理事、広瀬職員に交代することとなった。
 - ・ 渉外広報委員会小委員会としてポルトガル語に堪能な若手スタッフを会員会社より推薦いただき、当委員会の別動隊とすることとなった。
- 4月18日
- ・ 70年祭記念、毎日新聞主催ゼミナール協力につき、海外広報委員会予算より5万クルゼイロ支出することとなった。
 - ・ 東京にて開催されるブラジル経済セミナーに関し、経団連からの連絡が報告された。
 - ・ FINAME問題に関し、会員会社より提出された要望書をまとめ、日本の関係方面に協力依頼することとなった。
- 8月14日
- ・ 昭和53年度経済協力貢献者表彰の件につき、当所としては、山本勝造氏を推薦することとなった。
 - ・ 下院における利潤送金制限法につき、外国商業会議所審議会での対応が話し合われた。
- 10月24日 帰国された村松副会頭後任に、中邑松太郎氏を推すこととなった。

理 事 会

- 2月16日 常任理事会提案による77年度事業・決算報告、78年度事業計画・予算、渉外広報委員会小委員会作りが検討され、総会へ送付されることとなった。
- 6月8日 帰国された伊藤財務理事の後任に、佐藤正幸氏（住友銀行）が

選出された。

10月24日 持ち回り理事会にて、帰国された村松副会頭の後任に中邑松太郎氏（三井物産）が選出された。

監事会

2月14日 1977年度事業活動及び決算につき、若松、山田両監事が監査を行なった

共催・後援・協力行事

1月26日 国際資金循環調査団との懇談会
2月23日 大阪商工会議所「中南米親善経済使節団」との懇談会
5月30、31日 ブラジル経済セミナー ※詳細は、「ブラジル経済情報 496号、497号」を参照
(於・東京、在日ブラジル大使館・経団連共催、当所後援)
6月8～10日 毎日新聞主催日伯交流シンポジウム
6月18日 ブラジル日本移民70年記念式典（於・パカエンブー競技場）
7月21日 平野文夫総領事送別会
8月18日 シモンセン蔵相歓迎昼食会
9月19日 ガイゼル大統領への御礼訪問——70年記念式典への協力に対するもの
11月8日 早川勝元日経連専務理事一行歓迎昼食会
11月14日 土光敏夫経団連会長一行歓迎昼食会
11月16日 静岡県知事一行歓迎昼食会
11月16日 セラード開発関係会社懇談会
12月13日 業種別部会長懇談会
「77年／78年ブラジル経済・回顧と展望」
・ 経済セミナー委員長 伊藤通（住友銀行）司会
・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）
・ 金融・保険・証券部会長 小川章（東京銀行）
・ 食品部会長代理 植木俊康（日清食品）
・ 繊維部会長 別役道昌（鐘紡）
・ 建設・不動産部会長 平沢克彦（戸田建設）
・ 貿易部部会長 川久保信行（三菱商事）

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

- 5月25～27日 セラード視察団
見学先：ノムラブラス農場、北興農場、コチア産組員農場など
- 10月19～21日 サンタ・カタリーナ州視察団
見学先：ツピー社鋳物工場、移民博物館、工業展示場、アルテックス社、ヘリング社、レノ社、イタジャイ湾など

一経済セミナー委員会

- 6月20日 講演会
テーマ：「1978年後半のブラジル経済の見通し」
講師：横田パウロ（サンパウロ大学教授）
- 8月8日 講演会
テーマ：「国立経済開発銀行の組織と機能」
講師：ルイス・ロドリゲス（BNDE 取締役）
- 8月17日 講演会
テーマ：「伯日経済協力の現状と問題」
講師：ミゲール・コラスオノ（連邦府企画庁特別補佐官）
- 11月8日 講演会
テーマ：「農漁業並びに関連加工業における伯日民間企業協力の将来性について——サンパウロ州農務長官訪日の成果を中心として」
講師：山中イシドロ農務大臣特別補佐官

一渉外広報委員会

- 6月6日 臨時運営会議、実行委員選出（任期3ヶ月）定款作成
講演会
テーマ：「ブラジルにおける企業経営について」
講師：ジェラルド・バーナス

一日伯租税問題委員会

- 2月10日 「日伯租税条約修正議定書に関する説明会」
講師：小林慈（在ブラジリア日本大使館書記官）

一日伯経済交流促進委員会

5月30、31日 ブラジル経済セミナー ※詳細は、「ブラジル経済情報
496号、497号」を参照
(於・東京、在日ブラジル大使館・経団連共催、当所後
援)

ーコンサルタント部会

2月23日 講演会
テーマ：「新株式会社法における法人税と会計処理」
講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計
事務所）、C・C・ジャコメチ（同）

4月6日 講演会
テーマ：「決算における通貨価値修正」
講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）、
ルイス・カルロス・ヴァイン（同）

6月1日 講演会
テーマ：「日本企業の最近の動向」
講 師：宇野滋夫（日本在外企業協会）

7月11日 講演会
テーマ：「最近の労働問題について」
講 師：松本エミリオ（ベージャ誌）

8月4日 講演会
テーマ：「ブラジルの国際収支と対外債務」
講 師：ジャイメ・ガルシア・ドス・サントス（ラール・
ブラジレイロ銀行）

9月20日 講演会
テーマ：「国際協力事業団の企業貸付制度について」
講 師：吉川智昭（国際協力事業団）ほか

10月16日 講演会
テーマ：「今後の日伯経済関係」
講 師：中川文雄（筑波大学助教授）

12月21日 講演会
テーマ：「フィゲイレード次期大統領のプロフィール」
講 師：フラビオ・ペコラ（元大蔵次官）

ー金融・保険・証券部会

1月19日 講演会
テーマ：「ブラジルの証券とその利用」

- 9 月 4 日 講 師：若松孝司（ソールナッセンテ）
講演会
テーマ：「ブラジルの企業厚生年金について」
- 10 月 17 日 講 師：リオ・ノゲイラ（保険計理人協会会長）
講演会
テーマ：「ブラジルの通商政策の輸出」
- 12 月 12 日 講 師：アフォンソ・セルソ・バスターレ（サンパウロ大
学経済経営部長）
講演会
テーマ：「ブラジルのリース業について」
- 講 師：小林良美（リーシング・ブラデスコ）
橋田龍靖（リーシング・インターナショナル）

一機械金属部会

- 2 月 2 日 講演会
テーマ：「FINAME の登録問題について」
- 5 月 16 日 講 師：鮫島豪太郎（三菱重工）
CBC、デジーニ社工場見学

一繊維部会

- 9 月 29 日 講演会
テーマ：「最近の伯国繊維機械の動向について」
- 講 師：佐藤弘之（ホーワ機械）

一建設・不動産部会

- 10 月 6 日 パラ・ボニータ水門、CESP ダム、発電所見学会

定例昼食会

- 1 月 10 日 新年会（於・協栄サロン）
- 3 月 7 日 定例会（於・テラソ・イタリア）
- 4 月 18 日 定例会（於・協栄サロン）
- 5 月 15 日 定例会（於・テラソ・イタリア）
- 6 月 8 日 日伯交流シンポ講師歓迎会（於・協栄サロン）
- 7 月 17 日 伊藤領事歓送（於・ヒルトンホテル）
- 8 月 22 日 定例会（於・協栄サロン）
- 9 月 20 日 和田主席領事歓送（於・協栄サロン）

- 10月24日 伊藤総領事歓迎会（於・テラソ・イタリア）
 11月14日 政財界人歓迎会（於・協栄サロン）
 12月19日 忘年会（於・ブッフエ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル経済最近の成果
2. ブラジル経済の回顧と展望
3. 企業年金基金と社会保障財団
4. セラード開発と日伯協会の現状と将来
5. 変動するブラジルの労働環境

機関誌『ブラジル経済情報』（78年主要記事）

- 77年/78年 越年特別号 77年／78年ブラジル経済・回顧と展望
 業種別部会長懇談会
- 1月15日 486号 正しい戦略で一路前進—ガイゼル大統領の越年演説
- 2月1日 487号 78年度の最優先事項—企画長官ら指針とともに明確化—
- 2月15日 488号 本年度通貨政策大筋の決定—経済成長・国際収支・インフレとにらみ合せ—
- 3月1日 489号 C D I、国産化への監視を強化—技術・規格・輸出の三面にも厳しい新規則—
- 3月15日 490号 ガイゼル大統領年頭教書—経済報告、社会開発、内外両政治など—
- 4月1日 491号 連邦政府の抜き打ち措置に愕然—「大サンパウロ圏工業の分散化」と工業連盟—
- 4月15日 492号 カーター大統領の来伯
- 5月1日 493号 開発銀行、業界別診断を発表—国内企業肩入れの姿勢歴然—
- 5月15日 494号 B N D E総裁が重工業内国化について語る、通信機器業界の不況と内資化の圧力

6 月 1 日	495 号	金属労組傘下にスト広がる―無力化した規正法と慎重な政府―
6 月 15 日	496 号	レイス・ベローゾ企画長官講演：新時代迎えた世界最長の橋
7 月 1 日	497 号	ブラジル企業家マニフェストを発表―経済・政治改革を主張―
7 月 15 日	498 号	政府、体制民主化に乗り出す―活発なフィゲイレード将軍キャンペーン―
8 月 1 日	499 号	中銀、外国資本を凍結―期間 120 日、上半期の通貨膨張 12.1%に―
8 月 15 日	500 号	ツバロン融資の細目決定―反発する国内重工業―
9 月 1 日	501 号	100%アルコール・モーター車市場に―1982 年には生産の 6 分の 1―
9 月 15 日	502 号	ブラジルの肥料工業その過去と将来
10 月 1 日	503 号	財界、政府と和解―企業家代表の民主化論議総論のみ―
10 月 15 日	504 号	果然！ツバロンをやり玉に―内国有力経済団体の正面批判―
11 月 1 日	505 号	次期大統領に堂々当選―革命政府五代目のフィゲイレード将軍
11 月 15 日	506 号	金属工業労組スト終る―第二地方労裁、労働協約を確認―
12 月 1 日	507 号	新労働環境の模索しきり―スト以後、賃金調整構造改革を中心に―
12 月 15 日	508 号	次農年への作付けと収穫予想

1979年

ブラジルにとって1979年は政治、経済、社会面で重要な転換の年であった。

第2次石油価格の急騰、対外債務の累積などの難問を抱えて79年3月15日、フィゲレド新大統領は6年にわたる政権のスタートを切った。大統領は、「政治開放」を通じて85年には民政移管を行なうことを公約に掲げた。これに呼応した形で民主化の波が押し寄せている。

それらは、64年に解体された全国学生連盟（UNE）の再建（79年6月）、政治犯の特赦（同8月）、特赦による政治亡命者の帰国、2大政党制の解体と新党結成の自由を認めたこと（同11月）などに現れた。また、78年まで規制されていたストライキが、政治開放の進められる中で頻発した。大統領就任後の5ヶ月間だけで83件のストが発生、12州にまたがり約120万人の労働者の参加が見られた。

新政権による金融、流通、物価統制など一連のインフレ抑制策も十分な効果を挙げ得ず、貿易収支の大幅赤字、利払い増加による国際収支の急激な悪化、新たなエネルギー危機といった問題が深刻化する中で、企画相の交代（79年8月、シモンセン→デルフィン）もあり、79年のブラジルは経済運営の多難さを浮き彫りにした。

フィゲレド政権下の農業重視策には注目すべきものがある。

これまで工業に重点が置かれてきたものを農業の振興により貿易収支の改善とインフレの鎮静化を図ろうとするもので、一連の農業融資の拡充や災害保険の設定、大幅な農産物最低保証の改定、端境期の農業生産融資の調整などが行なわれた。しかし78年に天候不順により1.7%のマイナス成長を記録した農業は79年にも牧畜の不振に悪天候が重なり、3.2%の低成長にとどまった。

農産物の収穫は78、79の両年でわずかに1.5%の成長にとどまり、人口の増加（年率2.8%）をカバーするには極めて乏しい水準であり、これが食糧輸入の大幅増と農産物輸出外貨の伸び悩みという大きな問題をもたらした。

79年のインフレは過去15年間で最高の77.2%を記録。デルフィン企画相はこのインフレ要因として、①農作物の不作、②原油価格上昇による輸入インフレ、③大幅賃上げ、④政府系企業の赤字、補助金などによる膨大な国庫赤字をあげている。こうした高率のインフレに対処し、貿易収支改善を図るため、クルゼイロの切り下げは79年12月7日に実施された30%の大幅切り下げを含め、年に18回に及び、年間切り下げ率は103.7%という高率を記録した。

79年の貿易収支は27億1700万ドルの大幅赤字となった。輸入は石油価格の高騰などにより31.3%増加したため。貿易外収支赤字が前年比約56%増の77億8000万ドルとなった。

79 年 8 月にサンパウロで日伯閣僚協議会が開催され、76 年のガイゼル大統領訪日の際に合意を見た「ガイゼル案件」①アマゾン・アルミ精錬プロジェクト、②ツバロン製鉄所プロジェクト、③プライアモーレ湾建設計画、④日伯紙パルプ資源開発計画、⑤セラード開発などを予定通り推進していくことが確認された。

79 年の日本の対ブラジル輸出は前年比 10.1%減の 11 億 2500 万ドルにとどまった。中心となる商品グループは重化学工業品で、特に機械・機器と鉄鋼への集中傾向は多少弱まることがあっても基調の変化は見られない。

役員名簿（79 年 12 月末日現在）

名誉会頭：広川郁三
顧問：蜂谷専一
羽瀬作良
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：橘富士雄（南米銀行）、
副会頭：武田一男（富士銀行）中邑松太郎（三井物産）、
別役道昌（鐘紡）、後藤徹（三菱商事伯国）
専任理事：後藤隆（ヤンマー）、山本勝造（サドキン電球工業）、竹中
正（竹中商会）、酒巻和男（トヨタ自動車ブラジル）
財務理事：佐藤正幸（住友銀行）、中村敏之（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、山口保（東京銀行）

79 年度理事会及び監事会

理 事

1.	味の素インテルアメリカーナ	吉川皓三
2.	アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
3.	アトラス商工	羽瀬太一
4.	C B C 重工	寺山泰雄
5.	コチア産業中央会	井上忠志
6.	第一勧業銀行	原田能男

7.	富士銀行	武田一男
8.	富士写真フィルムブラジル	柴田力
9.	豊和機械	藤平正義
10.	石川島ブラジル造船所	生方泰二
11.	伊藤忠商事——伯国	中山嘉英
12.	ジェトロ	本多秀久
13.	鐘紡	別役道昌
14.	兼松江商	広川郁三
15.	川崎重工業	平田幸広
16.	川崎製鉄	白石隆
17.	小松ブラジル	冠木善彦
18.	久保田鉄工	原田正美
19.	協栄保険ブラジル	石原友三郎
20.	丸紅ブラジル	福永和生
21.	松下電器	関 淳
22.	三菱銀行	田尻兼男
23.	三菱重工業	瓜生巖
24.	ブラジル三菱銀行	中村敏之
25.	三菱商事	川久保信行
26.	三井物産	中邑松太郎
27.	三井肥料	山口龍男
28.	南米銀行	橘富士雄
29.	南米投資銀行	相場真一
30.	南米安田保険	岡本均
31.	日本電気	鈴木忠
32.	日本航空サンパウロ支店	秋元博
33.	日商岩井	河原敬一
34.	大阪商船三井船舶	十束公司
35.	プロゾトーレス倉庫	宮本邦弘
36.	サドキン電球	山本勝造
37.	三和銀行	谷本健治
38.	新日本製鉄	森口円二
39.	住友銀行	佐藤正幸
40.	住友商事	西浦勁
41.	竹中商会	竹中正
42.	戸田建設	平沢克彦
43.	東京銀行	山口保

44.	特殊陶業	藤井重信
45.	東芝	樋口次郎
46.	東洋紡	難波慶二
47.	トーメン	酒井栄造
48.	トヨタ	酒巻和男
49.	ユニチカ	菅原利郎
50.	ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサル タント・アソシエイト
2.	若松孝司	ソール・ナッセンテ経済研究所
3.	深井芳朗	南米リース

補充監事

1.	加藤清	エンジン建設
2.	山崎彰三	等松青木ドレイファス会計事務所
3.	延満三五郎	ルカ染色

79年度事業報告

総 会

3月20日	第29回定期総会 「78年度事業報告、決算報告、監事報告につき審議され、承認」、 「79～80年度理事及び監事選挙につき報告、承認」
4月25日	臨時総会 「1979年度事業計画、予算、定款改正につき審議され、承認」

常任理事会

1月10日	「第29回定期総会、選挙関係の日程、及び選挙管理委員会（若松孝司氏、山田唯資氏、坂口孟氏）を決定」、「事務局人事に関し本田事務局長が囑託、永田次長が事務局長に決定」
2月22日	「1978年事業報告、決算報告につき審議し、理事会に提出することになった」
4月5日	「1979年度事業計画・予算案及び定款改正案につき審議」
6月8日	「各委員会の本年度事業計画につき報告、了承された」
7月18日	「日伯閣僚会議出席大臣一行歓迎パーティーにつき打ち合わせ」

- せ」、「9月開催予定の日伯民間経済合同委員会につき報告」
- 8月22日 常任理事会
- 10月19日 「経団連ミッションにつき打ち合わせ」
- 12月7日 「トレーディング・カンパニー法についての要望書を検討」

理 事 会

- 2月17日 「1978年度事業報告、決算報告につき常任理事会提案を審議し、総会に提出することになった」
- 3月27日 「1979～80年度常任理事選挙」
- 4月25日 「1979年度事業計画、予算案、定款改正案につき常任理事会提案を審議し、臨時総会に提出へ」
- 8月16日 「常任理事補充選挙を行ない、副会頭に後藤徹氏（伯国三菱商事）、財務理事に山口保氏（ブラジル東京銀行）を選出した」

監 事 会

- 2月20日 「1978年度決算及び事業報告につき監査を行なった」

財務理事会

- 4月17日 「納入会費クラス区分につき審議」

共催・後援・協力行事

- 3月19日 三木前首相歓迎カクテルパーティー
——フィゲイレード大統領就任式参加のため来伯された三木前首相を迎え、シーザー・パーク・ホテルにて催された。
- 4月18日 吉田健三大使歓送会（日系諸団体共催）
- 5月 業種別部会長座談会
「79年上半期の回顧と下半期の展望」
- ・ 司会 別役道昌（カネボウ）
 - ・ 金融部会 中村敏之（三菱銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会 近沢美雄（南米ツリズモ）
 - ・ 紡績・繊維部会 難波慶二（東洋紡ブラジル）
 - ・ 電気・電子部会 鈴木忠（ブラジルNEC）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会 酒巻和男（伯国トヨタ）
 - ・ 建設・不動産部会 平沢克彦（戸田建設）
 - ・ 貿易部会 中山嘉英（伊藤忠商事）
 - ・ コンサルタント部会 本多秀久（ジェトロ）
- 5月31日 宮城県知事一行歓迎懇談会

- 7月18日 川久保副会頭、小川財務理事歓送会
- 8月17日 三大臣歓迎パーティー
——日伯閣僚協議会ご出席の園田外相、江崎通産相、森山運輸相の歓迎パーティーを諸団体共催で開催
- 8月18日 江崎通産相、森山運輸相歓迎昼食会
- 11月8日 経団連ミッション歓迎会（リオデジャネイロ日本商工会議所主催、於・リオ）

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

- 7月14～15日 サンパウロ州地方視察団
見学先：東洋紡アメリカーナ工場、味の素リメイラ工場、
グアタパラ移住地、オランブラ移住地
- 11月21～25日 アマゾン経済視察団
見学先：ブラジル永大産業、CATA社、コペラズラ社、
ホンダ社、シャープ社、ベータ社、アマゾン河
周遊など

一経済セミナー委員会

- 1月24日 講演会
テーマ：「ブラジルは工業化を進める上で外国企業に何を期待するか」——外資導入、技術援助、合弁等のあり方を中心として
講 師：ルイス・エウラリオ・デ・ブエノ・ヴィディガル・フィーリョ
(コブラズマ社重役、自動車部品工業会会長)
- 6月12日 講演会
テーマ：「現下の金融情勢とそのパコッテ——先般発表された金融引き締め策パコッテの影響を中心として」
講 師：カルロス・ジェラルド・ランゴーニ（FGV大学院教授）
- 7月7日 講演会
テーマ：「ブラジルにおける多国籍企業の貢献」
講 師：アントニオ・テイシェイラ・ダ・シルバ（FIESP副会頭）

8月7日 講演会
テーマ:「ブラジルにおける労働法並びに労働問題と今後の動向」
講師: アルベルト・ヴィラーレス・デ・ノーヴァ・ゴメス (FIESP 理事)

一 渉外広報委員会

2月18日 講演会
テーマ:「ブラジルにおける日系企業とそのコミュニケーション問題」
講師: マウロ・ヴァント・ディアス・サーレス (グローボ社副社長)

5月22日 「BNDE 総裁歓迎昼食会」(外国商業会議所主催)
ゲスト: ルイス・サンデ BNDE 総裁

8月2日 講演会
テーマ:「日系企業と人材」
講師: ジョルジ・シヤビロ (コンサルタント)

8月30日 ラミーロ・S・グレイロ外相歓迎昼食会 (サンパウロ外国商業会議所主催)

一 輸出促進委員会

11月8日 経団連ミッション宛要望書
——詳細は、「ブラジル日本商工会議所 1979 年度事業・決算報告書及び 1980 年度予算並びに事業計画 4~6 頁」を参照

一 中小企業委員会

7月4日 中小企業委員会が発足

- ① 中小企業セミナー・パネルディスカッション
- ② 企業交流
- ③ 経営コンサルタント招聘
- ④ 中小企業懇談会、宣伝
- ⑤ 中小企業名簿作成

一 コンサルタント部会

7月6日 講演会
・テーマ:「特許、商標の基本法規の開設と登録手続

きの実際」

講 師：寺田ラモン（シンボロ S／C 代表）

- ・テーマ：「技術移転の基本法規の開設と許可申請手続きの実際」

講 師：山田唯資（アイコン・インターナショナル代表）

- ・テーマ：「フィゲイレード新政権の外国よりの技術導入についての基本方針」

講 師：アルツール・カルロス・バンデイレ（工業所有権院総裁）

8 月 24 日

講演会

テーマ：「フィゲイレード政権の工業開発政策と外資系企業」

講 師：ゼッツリオ・ラマルチーネ・パウラ・フォンセッカ（工業開発審議会事務局長）

一金融・保険・証券部会

2 月 19 日

講演会

テーマ：「ブラジルの資本主義——FUNDC157 など税制恩典を中心として」

講 師：ダヴィ・カシミロ・モレイラ（ブラジル資本市場分析家協会 AVAMEC 会長）

7 月 12 日

講演会

テーマ：「最近のオープンマーケットと問題点——現下の経済問題の焦点」

講 師：若松孝司（ソールナッセンテ証券代表）

12 月 20 日

講演会

テーマ：「新経済政策について」

講 師：エミリオ・マツモト（ヴェージャ誌編集部）

一機械金属部会

8 月 9 日

ABC 工業地区工場見学会

見学先：VW 社、TRW 社、瑞穂植民地

10 月 24 日

ロミ社工場見学会

一繊維部会

12 月 5 日

講演会

テーマ：「繊維原料の現状について」

講師：鬼頭正彦（伊藤忠商事取締役繊維原料本部長）

定例昼食会

1 月 10 日	新年会（於・協栄サロン）
2 月 22 日	定例会（於・協栄サロン）
3 月 20 日	定例会（於・協栄サロン）
4 月 25 日	定例会（於・協栄サロン）
5 月 24 日	定例会（於・テラソ・イタリア）
6 月 19 日	定例会（於・ヒルトン・ホテル）
7 月 24 日	定例会（於・テラソ・イタリア）
8 月 18 日	定例会（於・ヒルトン・ホテル）
9 月 18 日	定例会（於・ヒルトン・ホテル）
10 月 23 日	定例会（於・協栄サロン）
11 月 20 日	定例会（於・ブラジルトン・サンパウロ）
12 月 17 日	忘年会（於・ブッフエ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. BEFIEX 制度のあらましと法規
2. ブラジルの貿易
3. 第 3 次国家開発計画

機関誌『ブラジル経済情報』（79 年主要記事）

1 月 15 日	509 号	次期政権の政経課題を憂う：ガイゼル大統領越年演説
2 月 1 日	510 号	早くも次期政府の方針で輸出入制度に重要な改革実施
2 月 15 日	511 号	フィゲイレード政権閣僚決まる
3 月 1 日	512 号	政府、予算 350～400 億をカット：インフレ抑制に本腰
3 月 15 日	513 号	ガイゼル政権の総決算—権威主義的スタイルによる

体制民主化

4 月 1 日	514 号	フィゲイレード政権発足する
4 月 15 日	515 号	大蔵省、商工省の基本活動方針—強調される民族企業への傾斜
5 月 1 日	516 号	フィゲイレード労政、次第に硬化：労相と軍、組合に警告
5 月 15 日	517 号	大統領、メーデーに労働者の協力を請う—不当な圧力には法の発動を示唆—
6 月 1 日	518 号	アルコールブラス設立の見込み強まる
6 月 15 日	519 号	業種別部会長座談会「79 年上半期の回顧と下半期の展望」
7 月 1 日	520 号	農業融資大幅拡大—デルフィン農政いよいよ具体化
7 月 15 日	521 号	「非常時経済の前夜迎える」大統領、重大なエネルギー見解
8 月 1 日	522 号	上半期の経済・金融・財政回顧、下半期の通貨政策の見通し
8 月 15 日	523 号	シモンセン企画長官、突然辞任
9 月 1 日	524 号	第 2 回日伯閣僚協議会（1）
9 月 15 日	525 号	第 2 回日伯閣僚協議会（2）
10 月 1 日	526 号	第 2 回日伯閣僚協議会（3）
10 月 15 日	527 号	9 月のインフレ遂に 7.7%
11 月 1 日	528 号	ブラジル経済の問題点：デルフィン政策の分析と展望
11 月 15 日	529 号	厳しいブラジルの国際収支面—対外債務を増やして切り抜けはかる
12 月 1 日	530 号	サンパウロ金属労組スト始末
12 月 15 日	531 号	80 年度への政府大英断—大統領、一連の重大措置を発表

1980年

1979 年末の大幅為替切り下げ、各種補助金の削減などインフレ、国際収支改善を主眼とした「新経済政策」の後、80 年連邦予算カットが続き、さらに 80 年初めにはインフレ低下を目指した年間通貨価値修正率及び為替切り下げ率の前決め（45%、40%）、支払い手段の増加規制（年率 50%）などが設定された。

その後、さらに銀行の民間貸し出し規制（年 45%増）、金融取引税の増税、高所得者の強制積立て、政府企業の投資・輸入カット等が打ち出された。しかし、80 年の後半に至り国際収支不安の増加とインフレの急騰（1～6 月で 40%）により政府目標と実体経済との乖離が増大し、81 年からの為替切り下げ率などの「前決め」の廃止を決める一方、輸入時の為替取引の際の金融取引税（IOF）の継続、長期輸入ユーザンスの義務付けによる輸入規制を強化、さらに金利制限の撤廃や物価統制の段階的解除など経済自由化の政策も打ち出された。このように経済政策は多岐にわたったものの、整合性に欠ける点も多く引き締め政策は浸透せず、逆に経済成長は 8%と過熱化し、インフレは史上最高の 110%、国際収支は総合収支で 35 億ドルの赤字で 79 年より事態は悪化した。

80 年の経済成長は大方予想に反して 8%の高成長を達成した。景気が過熱した背景には、①79 年からの景気の波の持続、②国営企業等の計画以上の支出、③賃金の自動調整による一般大衆の所得水準の維持、④インフレ急騰下での換物需要の高まり、⑤工業品を中心とした輸出の急増などであった。

80 年の貿易収支は前年並みの 28 億ドルの赤字、サービス収支は利子支払いの急増（63 億ドル）等で赤字合計は 100 億ドルを突破し、経常収支は 129 億ドル（79 年は 107 億ドル）の赤字を記録するに至った。一方、資本収支は外国投資（15 億 6000 万ドル）、中・長期借款（110 億 7000 万ドル）ともに 79 年の水準を下回ったことから、償還分（50 億ドル）と経常収支の赤字をカバーするために 79 年に続き外貨準備の大幅取り崩し（28 億ドル）が行なわれた。この結果、外貨準備は昨年比 29%減の 69 億ドルに、また対外債務は前年比 7.9%増の 538 億ドルとなった。

80 年の引き締め政策の不徹底から工業、サービスを中心に高成長が実現し、反面インフレの高騰、国際収支が大幅に悪化したという反省から政府は実体経済に沿った政策への切り替えを行ない、財政の緊縮化、銀行の貸出制限など景気鎮静化に全力をあげている。

日伯関係においては、石油危機の悪環境下でありながら懸案のガイゼル案件など大型経済協力プロジェクトが予想外に進展。また、80 年年央の対伯長期ローンの解禁、貿易不均衡改善のための日伯交流ミッション（7 月）の成功な

ど、問題点は残しつつも全体としては着実な前進を見たといえる。

「アマゾン・アルミ」は必要資金が膨張、81年5月にプロジェクト続行の政治的解決が図られた。「ツバロン製鉄所」は、80年6月に第一高炉起工式を終え、順調に進行。「プライアモーレ港」は伯側から円借款（1億ドル）をツバロン港拡張計画等へ転用する要請があり、日本側は80年10月に同意。「紙・パルプ・プロジェクト」は、クラフト・パルプ生産のセニブラ事業は79年後半より生産が軌道に乗り（年産26万トン）、日本側の製品引き取りも順調である。

役員名簿（80年度予算並びに事業計画案より）

名誉会頭：広川郁三

顧問：蜂谷専一、羽瀬作良

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：橘富士雄（南米銀行）

副会頭：別役道昌（鐘紡）、後藤徹（三菱商事）、
武田一男（富士銀行）、中邑松太郎（ブラジル三井物産）

専任理事：酒巻和男（トヨタ自動車）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：佐藤正幸（住友銀行）、中村敏之（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、山口保（東京銀行）

委員会

渉外広報委員会：篠又幸市郎（アメリカ・ラチーナ保険）

行動基準推進委員会：酒巻和男（ブラジル・トヨタ）

経済セミナー委員会：武田一男（富士銀行）

日伯法律問題委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）

輸出促進委員会：中邑松太郎（三井物産）

中小企業委員会：山本勝造（サドキン）

事業運営委員会：後藤徹（三菱商事）

連絡委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：本田秀久（ジェトロ）

金融保険証券部会：中村敏之（ブラジル三菱銀行）
 貿易部会：中邑松太郎（ブラジル三井物産）
 機械金属鉄鋼部会：酒巻和男（トヨタ・ド・ブラジル）
 電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
 化学部会：山口龍男（三井肥料）
 運輸サービス部会：秋元博（日本航空）
 繊維部会：別役道昌（鐘紡ブラジル）
 食品部会：吉川皓三（味の素）
 建設・不動産部会：平沢克彦（戸田建設）

80年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカナ	吉川皓三
2. アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
3. ブラデスコ銀行	谷本健治
4. C B C 重工	寺山泰雄
5. コチア産業中央会	井上忠志
6. 第一勧業銀行	原田能男
7. 富士銀行	武田一男
8. 富士写真フィルムブラジル	柴田力
9. 古河電工	藤波義英
10. ホーワ機械	藤平正義
11. 石川島ブラジル造船所	谷 興
12. 伊藤忠商事——伯国	中山嘉英
13. ジェトロ	本多秀久
14. 鐘紡ブラジル	別役道昌
15. 鐘紡テキスタイル	岩中英和
16. 兼松江商ブラジル	武田晃一
17. 国際協力事業団	平尾文司
18. 小松ブラジル	冠木善彦
19. 久保田鉄工ブラジル	原田正美
20. 協栄保険ブラジル	石原友三郎
21. 丸紅・ド・ブラジル	福永和生
22. ブラジル三菱銀行	中邑敏之
23. 三菱重工業伯国	瓜生巖

24.	三菱商事伯国	後藤徹
25.	三井銀行ブラジル	浅生力
26.	三井物産ブラジル	中邑松太郎
27.	三井肥料	山口龍男
28.	南米銀行	橘富士雄
29.	南米投資銀行	竹原順三郎
30.	南米信託・クレアズール	坂口孟
31.	南米安田保険	岡本均
32.	日本電気——NEC	鈴木忠
33.	日本航空	秋元博
34.	日商岩井ブラジル	前田操
35.	大阪商船三井船舶	十束公司
36.	プロツトーレス倉庫	宮本邦弘
37.	サドキン電球工業	山本勝造
38.	三和銀行	谷本健治
39.	住友銀行ブラジル	佐藤正幸
40.	住友商事伯国	西浦勁
41.	竹中商会	竹中正
42.	戸田建設ブラジル	平沢克彦
43.	東京銀行ブラジル	山口保
44.	特殊陶業ブラジル	藤井重信
45.	東芝・ド・ブラジル	樋口次郎
46.	東洋紡ブラジル	難波慶二
47.	トーメン社ブラジル	酒井栄造
48.	トヨタ自動車ブラジル	酒巻和男
49.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50.	ヤンマー・ブラジル	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コン サルタント・アソシエイト
2.	若松孝司	ソール・ナッセンテ証券
3.	深井芳朗	南米リース

補充監事

1.	加藤清	エンジン建設
2.	山崎彰三	等松・青木・ドレイファス会計事務所

80年度事業報告

総 会

- 3月18日 第30回定期総会
「79年度事業・決算・監事報告を審議、承認の件」「80年度事業計画・予算案につき審議、承認」

常任理事会

- 1月29日 「第30回定期総会開催日程につき審議」、「大口大使歓迎会につき審議」
「欠員理事会社に選挙時時点のカネボウ・テキスタイル社昇格が承認」
- 3月4日 「ペコラ企画庁次官訪日に際し、貿易問題に関する対伯政府宛要望書を作成」
- 5月15日 「日伯経済交流促進ミッション来伯につき審議」、「事業運営委員会ビトリア・サルバドール視察団につき審議、承認」、「叙勲推薦につき審議」
- 6月25日 「中小企業委員会主催中小企業セミナーにつき審議、承認」、「移民70年史出版協力につき審議、承認」
- 9月1日 「新外国人法について審議」、「ブラジル国における企業行動の具体的指針につき審議」
- 10月7日 「デルフィン・ネット企画大臣訪日に際し経団連宛手紙作成」
- 12月12日 「査証問題につき、申請手続き社の査証取得状況調査を行なうこととなった」
「会費納入時期の変更が承認」

理 事 会

- 3月4日 「1979年度事業・決算報告及び1980年度事業計画・予算案審議」
- 5月20日 「欠員となっていた財務理事に名取賢次郎氏（ブラジル三菱銀行）が選出された」
- 6月17日 「海上自衛隊練習艦隊歓迎費用につき、各理事会社2千クルゼイロの協力が承認」

共催・後援・協力行事

- 1月22日 業種別部会長座談会

「80 年/81 年ブラジル経済。回顧と展望」

- ・ 紡績・繊維部会長 別役道昌（カネボウ）
—— 司会
- ・ 金融・保険。証券副部会長 若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）
- ・ 運輸・サービス部会長 秋元博（日本航空）
- ・ 電気・電子部会長 山本勝造（サドキン電球）
- ・ 機械・金属・鉄鋼部会 酒巻和男（伯国トヨタ）
- ・ 建設・不動産部会 洲戸昌（清水建設）
- ・ 貿易部会長 中邑松太郎（三井物産）
- ・ コンサルタント部会長 本多秀久（ジェトロ）
- ・ 化学部会 内田昭男（三井肥料）

2 月 14 日 大口大使歓迎昼食会（於・ヒルトンホテル）

3 月 28 日 土光経団連会長歓迎昼食会（於・ブッフエ・コロニアル）

7 月 21 日～ 日伯貿易交流促進ミッションが来伯

8 月 1 日 ——総額 7 億 3250 万ドルの成約を見る

9 月 26 日 リオデジャネイロ日本商工会議所創立 25 周年パーティー

委員会・部会の主な活動

一事業運営委員会

- 3 月 1 日 カンポス・ド・ジョルドン視察団
見学先：州知事公邸、鱒養殖場、NESTLE 社（ミネラルウォーター工場）、援協サナトリウムなど
- 10 月 15～18 日 ビトリア・サルバドール視察団
見学先：グランデ・ビトリア工業センター、バーレ・ド・リオ・ドーセ社ペレット工場、ツバロン製鉄所（建設中）、日立造船ビトリア工場、カンデイアス油田、アラツー港、アラツー工業団地など

一経済セミナー委員会

- 1 月 22 日 講演会
テーマ：「新経済政策下における 1980 年の経済見通し」
講 師：アドロアルド・モウラ・ダ・シルバ（サンパウロ大学経済調査研究所調査部長）
- 5 月 27 日 講演会
テーマ：「年初予想との対比における現下ブラジル経済

の問題及び今後の見通し」
講 師：アドロアルド・モウラ・ダ・シルバ（サンパウロ大学経済調査研究所調査部長）
8 月 8 日 講演会
テーマ：「ブラジルのインフレ及び国際収支対策について」
講 師：アキヒロ・イケダ（経済企画庁特別補佐官）

一 渉外広報委員会

3 月 6 日 講演会
テーマ：「1979 年の決算」
講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
ルイス・パッソス氏（同）
3 月 6、7 日 パラナ日本商工会議所主催「日伯貿易シンポジウム」
（於・クリチーバ）
4 月 10 日 ブルカブラス及び鐘紡テキスタイル工場見学
8 月 12～29 日 セミナー「日本文化と企業活動におけるその影響」
・講演会
テーマ：「日本企業の経営管理」
講 師：水野一（上智大学）
・講演会
テーマ：「日本企業における意思決定のプロセス」
講 師：塚本雄一（FGV）
・講演会
テーマ：「日本の宗教における経営倫理と近代化」
講 師：リカルド・ゴンサルベス（USP 教授）
・講演会
テーマ：「日本——自然と芸術」
講 師：フランジスカ・カヴァリ（USP 教授）
・講演会
テーマ：「日本文学と西洋文学」
講 師：鈴木悌一（USP 教授）

一 輸出促進委員会

11 月 20 日 「ブラジル輸出見本市」ブラジル・EXPO 80 見学会

一 日伯法律問題委員会

5月23日 講演会
テーマ：「ブラジルの給与政策」
講師：フラビオ・ゴーリ（労働省補佐官）

一中小企業委員会

7月21、22日 中小企業セミナー

- ・テーマ：「中小企業金融制度と下期の企業資金対策」
講師：井上輝重（ブラジル住友銀行）
- ・テーマ：「労働対策：人員整理と問題点」
講師：中橋ヨシノブ（弁護士）
- ・テーマ：「企業経営管理の基礎知識——インフレ化の経理システムと経営の諸問題」
講師：山下日彬（ヤコン・インターナショナル）
- ・テーマ：「能率はどうすれば上がるか——生産性向上の問題点」
講師：河西淳雄（久保田鉄工）
- ・テーマ：「ブラジルの中小企業発展のあり方」
講師：所助信（サンスイ・プラスチック）

一連絡委員会

8月28日 「日本赤軍派活動の警戒喚起」回章発送

一コンサルタント部会

3月6日 講演会

- ・テーマ：「1979年の決算」
講師：平島大器氏（アーサー・アンダーセン会計事務所）、ルイス・パッソス（同）

8月25日 講演会

- ・テーマ：「インフレに対するCIPの役割」
講師：ルイス・フェリシオ・デ・サー（各省連絡物価審議会コーディネーター）

一金融・保険・証券部会

6月19日 講演会

- ・テーマ：「ブラジル工業界におけるナショナリズムについて」
講師：ジョゼ・I・ミンドリン（メタル・レーベ社長、

日伯民間経済合同委員会幹事長)

- 7月24日 講演会
・テーマ：「新外国人法案について」
講師：野村ジョーゴ（連邦下院議員）

一機械金属部会

- 7月23日 EMBRAERサンジョゼ工場、CTA、フォルクス・ワーゲン社タウバテ工場見学
9月25日 IPT工場（聖州技術研究所）、エネルギー原子力研究所、コブラズマ社オザスコ工場見学

一食品部会

- 11月7日 講演会
・テーマ：「アグロインダストリーの投資の可能性」
講師：アジデ・ゴルガッチ・ネット（ブラジル農畜産研究会社員）

定例昼食会

- 1月8日 新年会（於・サロン協栄）
2月14日 大口大使歓迎会（於・ヒルトン・ホテル）
3月18日 定例会（於・buffet・コロニアル）
4月22日 定例会（於・テラソ・イタリア）
5月20日 定例会（於・マックス・プラザ・ホテル）
6月17日 定例会（於・ブラジルトン・ホテル）
7月15日 定例会（於・テラソ・イタリア）
7月25日 日伯経済交流促進ミッション歓迎会（於・buffet・コロニアル）
8月19日 定例会（於・サロン協栄）
9月23日 定例会（於・サロン協栄）
10月21日 定例会（於・ブラジルトン・ホテル）
11月18日 定例会（於・サロン協栄）
12月18日 忘年会（於・buffet・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル経済の回顧と展望

2. Atividade Empresarial
3. 80 年 10 月 22 日付け CMN 決定関連規則
4. 企業行動の具体的指針

機関誌『ブラジル経済情報』（80 年主要記事）

1 月 15 日	532 号	「パコッテ」と国家通貨審議会の発表要約
2 月 1 日	533 号	80 年度ブラジル経済展望
2 月 15 日	534 号	国家企業体 80 年の支出と輸入決まる—総額 30 億 Cr \$、投資・経営費同時計上
3 月 1 日	535 号	デルフィン企画長官ら訪米—米側の輸入関税引下げに成功—
3 月 15 日	536 号	80 年度の通貨予算決定さる—輸出振興と農業振興を優先—
4 月 1 日	537 号	荒れたサントス港湾大型スト
4 月 15 日	538 号	工業心臓部、ストで止まる—争議長引く、労裁判決かえってアダに—
5 月 1 日	539 号	ブラジル商工省に対する商議所の要望
5 月 15 日	540 号	輸入為替決済にも新たに適用—通貨政策から数種の金融取引税引き上げ
6 月 1 日	541 号	金融取引税引き上げでインフレ抑止
6 月 15 日	542 号	年初の予想との対比における現下のブラジル経済問題及び今後の見通し
7 月 1 日	543 号	国内経済現情勢の分析
7 月 15 日	544 号	国内経済現情勢の分析（続）
8 月 1 日	545 号	新・外国人法案の背景と底流（1）
9 月 15 日	548 号	輸出促進に特別臨時資金 300 億クルゼイロス
10 月 1 日	549 号	外資企業独自の「従業員代表制度」へ
10 月 15 日	550 号	通貨審議会、輸入延べ払いを義務付け
11 月 1 日	551 号	大カラジャス開発プロジェクト（1）
11 月 15 日	552 号	大カラジャス開発プロジェクト（2）
12 月 1 日	553 号	大カラジャス開発プロジェクト（3）
12 月 15 日	554 号	大カラジャス開発の総合開発に投資促進特別措置の

基本を打出す

1981年

1981年は高インフレと国際収支危機に対処するため当初から厳しい総需要抑制策が実施された。補助金の削減、連邦予算、政府系企業予算における投資抑制など財政の緊縮化、金融引き締め、金利自由化による高金利政策、企業ごとの輸入割当による輸入規制の強化などであった。

これらの効果は早くも81年2～3月頃から現れ、鉱工業生産は81年上半期にはすでに前年同期比マイナス3.3%にまで落ち込み、経済全体の成長率はマイナス3.8%と史上最低水準にとどまった。投資の実質的低下と個人消費の冷え込みに伴う工業品需要の落ち込みと生産の低下は時の経過とともに自動車、テレビなど耐久消費財分野（81年の成長率マイナス27.2%）から中間財（同マイナス10.5%）、資本財（同マイナス18.7%）へと進み、81年の製造業の前年比成長率はマイナス9.9%の大幅な落ち込みとなった。工業部門の生産の不振を反映し、81年10月時点の同部門の平均操業率は80年10月の84%から74%へと低下し、また81年4月頃から増加し始め、7月頃にはピークに達した。

80年に12.6%増と高成長を示した工業も、石油生産が好調だったものの、鉄鉱石、マンガンが減産となったことから全体としては2.2%の低成長にとどまった。

農業は79年に打ち出された各種の農業振興策が継続されたことと、81年7月の大降霜の被害が同年の収穫には大きく響かなかったことなどから全体で6.8%とほぼ80年並みの成長を維持した。

栽培農業の好調は80年比88%増、史上4番目というコーヒーの豊作に大きく依存し、穀物は80年比3.9%増の5370万トンの増産にとどまった。

第三次産業も製造業、建設業などの不振のあおりを受け、商業はマイナス6%、運輸・通信は0.8%と不振であった。

主要業種の不振から81年7月の6大都市失業者は、前年同月比で26%増の92万人へと急増（失業率8.2%）、81年のブラジル全体の失業者は150万人程度に達した模様で社会面への影響も懸念されている。

国際収支は、石油価格の高騰と国際金利の上昇などから相当な困難が予想され、IMFへの援助要請も不可避との観測が80年末には国際金融筋で強まった。81年に入ると、国際石油価格の上昇率の鈍化と輸入規制の強化が功を奏して、貿易収支は第1四半期には大幅な改善を示したほか、中東戦争やポーランド問題などからトータルで見たブラジルのカントリーリスクが見直されるとともにブラジル向けにはピーク時で、スプレッド2～2 1/8%という最高水準での貸し付けができるといううまみもあって、国際金融筋による対外貸し付け姿勢が

積極化。国内的には金融引き締め強化と金利自由化による高金利政策から外貨借り入れを促進した。この結果、総合収支は前年の約 35 億ドルの赤字から 6 億ドルの黒字へと大幅な改善となった。また貿易収支も 12 億ドルの黒字へ大幅に改善した。

81 年の輸出は、前年比 15.7% 増の 232 億 9300 万ドル、輸入は前年比 3.8% 減の 220 億 800 万ドルへと後退した。この結果貿易収支は 12 億 1300 万ドルという史上最高額の黒字額を計上した。

日本の対ブラジル輸出総額は 80 年の 11 億 1500 万ドルから 23% 増の 13 億 6700 万ドルとなった。輸出が伸びた経済的背景は、81 年の工業成長が大幅に落ち込み、特に資本財についてはツバロンなど特殊大型プロジェクト向け需要を除けば一般に設備投資が手控えられたことから見て、追加分のかかなりについてはツバロン向けの設備・機械などの輸出による特殊要因といえる。

役員名簿（81 年 12 月末日現在）

名 誉 会 頭：広川郁三

顧 問：蜂谷専一、羽瀬作良

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：橘富士雄（南米銀行）

副 会 頭：別役道昌（鐘紡）、小林元常（三菱商事）、
山口保（東京銀行）、八木竜郎（三井物産）

専任理事：酒巻和男（トヨタ自動車）、後藤隆（ヤンマー）、
山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：佐藤正幸（住友銀行）、名取賢次郎（三菱銀行）、
篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）、武田一男（富士銀行）

委員会

渉外広報委員会：篠又幸市郎（アメリカ・ラチーナ保険）

行動基準委員会：酒巻和男（ブラジル・トヨタ）

社会経済委員会：山口保（東京銀行）

日伯法律委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）

輸出促進委員会：八木竜郎（三井物産）

中小企業委員会：山本勝造（サドキン）

事業連絡委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）
金融部会：名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）
貿易部会：八木竜郎（ブラジル三井物産）
機械金属部会：酒巻和男（トヨタ・ド・ブラジル）
電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
化学部会：内田昭男（三井肥料）
運輸サービス部会：井沢徹郎（商船三井）
繊維部会：菅原利郎（ユニチカ）
食品部会：江坂雅雄（イグアス・コーヒー）
建設部会：平沢克彦（戸田建設）

8 1 年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	篠又幸市郎
2. 南米リース	深井芳郎
3. 南米銀行	橘富士雄
4. ブラデスコ銀行	田中信
5. 南米投資銀行	竹原順三郎
6. ブラジル三菱銀行	名取賢次郎
7. ブラジル住友銀行	佐藤正幸
8. ブラジル東京銀行	山口保
9. C B C 重工	貝原孝明
10. 伊藤忠ブラジル	中山嘉英
11. ブラジル特殊陶業	成富武典
12. クレアズール南米信託	坂口孟
13. プロットーレス倉庫	延満三五郎
14. 南米安田保険	大川宏幸
15. コチア産業中央会	井上ゼルヴァジオ忠志
16. 三井肥料	内田昭男
17. 鐘紡ブラジル	別役道昌
18. 古河電気工業	新井道夫
19. 日立造船メタルメカニカ	沢村宏亮
20. 伯国日綿	森川崇

21.	サドキン電球工業	山本勝造
22.	石川島ブラジル造船所	中村行男
23.	日本航空サンパウロ支店	北島猪一郎
24.	ジェットロ	新倉隆
25.	伯国川崎重工業	世羅昭男
26.	ブラジル川崎製鉄	白石隆
27.	小松ブラジル	冠木善彦
28.	ブラジル久保田鉄工	原田正美
29.	丸紅ブラジル	服部美雄
30.	伯国三菱重工	瓜生巖
31.	伯国三菱商事	小林元常
32.	ブラジル三井物産	八木竜郎
33.	伯国三井不動産	坂本典雄
34.	大阪商船三井船舶	井沢徹郎
35.	三井吉岡農産加工	清水邦保
36.	伯国日本電気	相川修治
37.	日商岩井ブラジル	沢田嘉元
38.	三友保険代理店	野村義人
39.	ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
40.	伯国住友商事	西浦勁
41.	竹中商会	竹中正
42.	三和銀行	田中信
43.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	武田一男
44.	三井銀行サンパウロ駐員事務所	浅生力
45.	東芝・ド・ブラジル	木村勝男
46.	東洋紡ブラジル	村松雅
47.	ブラジル・トーマン	岡多加之
48.	トヨタ・ド・ブラジル	酒巻和男
49.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50.	ブラジル・ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサル タント・アソシエイト
2.	加藤清	エンジン建設
3.	神宮司逸朗	安田信託銀行駐在員事務所

補充監事

1. 網野弥太郎	アミノ商会
2. 堤佳史	等松・青木・ドレイファス会計事務所
3. 平沢克彦	ブラジル戸田建設

8 1 年度事業報告

総 会

- 3 月 17 日 第 31 回定期総会
「81 年度事業・決算報告を審議、承認の件」、「81／82 年度理事・監事選挙結果を承認」
- 4 月 23 日 臨時総会
「1981 年度事業計画・予算を審議、承認」

常任理事会

- 1 月 20 日 「第 31 回定期総会及び選挙関係日程につき審議」、「査証問題につき審議」
「パラグアイ日本商工会議所来所につき審議」
- 4 月 2 日 「1981 年事業計画案及び予算案を審議」
- 6 月 25 日 「1981 年度委員会活動につき審議」
- 12 月 15 日 「1982 年度上半期会費調整に就き審議、承認」

理 事 会

- 2 月 17 日 「1981 年度事業・決算報告案の件」
- 3 月 24 日 「1981／82 年度常任理事選挙を実施」
- 4 月 23 日 「1981 年度事業計画・予算を審議、承認」
- 9 月 22 日 「欠員となった副会頭に八木竜郎氏（ブラジル三井物産）を選出」
- 12 月 15 日 「1982 年度上半期会費調整に就き審議、承認」

監 事 会

- 2 月 26 日 「1980 年度事業活動・決算につき監査」

選挙管理委員会

- 2 月 26 日 1981／82 年度役員選挙につき打ち合わせ

共催・後援・協力行事

- 3月9日 後藤副会頭（三菱商事）送別昼食会
- 4月 パラグアイ日本商工会議所ブラジル経済調査団来伯。懇談会、
- 9～10日 歓迎パーティーなどを開催
- 6月16日 伊藤義文総領事送別昼食会
- 7月26日 田中六助通産大臣歓迎昼食会
- 7月28日 業種別部会長懇談会
「81年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 事業連絡委員会委員長 別役道昌（カネボウ）
 - ・ 紡績・繊維部会長 難波慶二（東洋紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険。証券副部会長 名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）
 - ・ 運輸・サービス副部会長 井沢徹郎（OSK）
 - ・ 電気・電子部会長 山本勝造（サドキン電球）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 酒巻和男（伯国トヨタ）
 - ・ 建設・不動産部会長 平沢克彦（戸田建設）
 - ・ 貿易副部会長 小林元常（三菱商事）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）
 - ・ 化学部会長 内田昭男（三井肥料）
 - ・ 食品副部会長 尾関與之助（コチア産業組合）
- 8月4日 園田外務大臣歓迎会
- 8月12日 中邑副会頭（三井物産）送別昼食会
- 9月15日 「日伯経済シンポジウム」（日本経済新聞、ガゼッタ・メルカンチウ社共催、当所協力）
- 9月16日 当所創立30周年記念講演会「世界経済の今後の見通し」
講演者：大来佐武郎（対外経済関係担当日本政府代表）
- 10月20日 藪総領事歓迎会
- 10月 パラナ日本商工会議所主催「日伯経済シンポジウム」
- 23～24日

委員会・部会の主な活動

一事業連絡委員会

- 8月20～22日 リオ・グランデ・ド・スール視察団
見学先：CELUPA 社製紙工場、OLVEBRA 社（大豆加工工場）、ERLO 社など

一社会経済委員会

- 4月6日 講演会
テーマ：「企業内人間関係論」
講 師：平野仁（松下政経塾専任講師）
- 6月15日 講演会
テーマ：「ブラジル経済最近20年の動向」
講 師：ヴェンツォラ（アメリカ商工会議所副会頭）
- 7月7日 講演会
テーマ：「ブラジルにおける多国籍企業の貢献」
講 師：アントニオ・テイシェイラ・ダ・シルバ（FIESP副会頭）
- 10月16日 講演会
テーマ：「1982年のブラジル経済」
講 師：ビビアン・モーガン（ボストン銀行）
- 11月20日 講演会
テーマ：「大カラジャス開発計画」
講 師：オジエル・カルネイロ（大カラジャス開発庁長官）

一渉外広報委員会

- 2月4日 講演会
テーマ：「1980年の決算」
講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）、ルイス・パッソス（同）
- 10月7日 パネル討論会
テーマ：「ブラジルの賃金政策の現状」
講 師：A・クリシーノ（ゼネラル・モーター）
L・ロベルテラ（USP）
R・ルドヴィセ（ピニエイロ・ネット法律事務所）
- 10月8～
23日 セミナー「日本文化と企業活動におけるその影響」
・講演会
テーマ：「日本企業の意思決定プロセス」
講 師：塚本雄一（FGV）
・講演会
テーマ：「日本企業家の行動様式」
講 師：斉藤広志（USP）
・講演会

テーマ：「日本の対伯投資とその経営」

講師：西 功（弁護士）

・講演会

テーマ：「ブラジル人の見た日本企業家の行動様式」

講師：F・リマ（ベルガモ社）

・講演会

テーマ：「古典文学に見る日本人の特性」

講師：脇坂ジェニ（USP 教授）

一輸出促進委員会

12月18日

講演会「ブラジルの輸出政策」

テーマ：「輸出特典について」

講師：J・C・ブリット（CACEX サンパウロ事務所）

一中小企業委員会

8月5日

勉強会

テーマ：「日本の中小企業振興制度」

講師：水本彬（日本商工会議所）

9月2日

勉強会

テーマ：「CEAG（中小企業振興センター）の活動」

講師：スガワラ・マサヒロ（サンパウロ CEAG 代表）

10月8日

勉強会

テーマ：「原価計算について」

講師：佐々木寛（ブラジル三豊）

11月5日

勉強会

テーマ：「ブラジルの労務管理」

講師：岡野修平（ヴァルジニア・モンタージェン社）

12月10日

勉強会

テーマ：「企業内書類整理」

講師：沢村宏亮（日立造船）、古庄雄二郎（FK 事務機器）

一コンサルタント部会

2月11日

講演会

テーマ：「BIEFIEX-CIEX 制度の現状」

講師：マウロ・メンデス・デ・リマ（BEFIEX プログラム管理部長）

- 4月14日 講演会
 テーマ：「日本企業の多国籍化－現状と問題点」
 講師：竹田志郎（大東文化大学）
- 8月6日 講演会
 テーマ：「ブラジルの品質管理」
 講師：オレギ・グレスユナー（ジョンソン・アンド・ジョンソン社）
- 8月24日 講演会
 テーマ：「日本の品質管理」
 講師：遠山誠（サクラ・フィルム社）
- 11月9日 講演会
 テーマ：「企業会計－インフレと資産勘定」
 講師：A・M・トレヴィザン、中村ラウロ（プライス・ウォーター・ハウス会計事務所）

ー金融部会

- 8月25日 講演会
 テーマ：「ブラジルの経済金融情勢」
 講師：エドワルド・デ・カルバーリョ（BANESPA 総裁）

ー機械金属部会

- 8月13日 工場見学会
 見学先：メタル・レーベ社、キャタピラー社、ピラーレス社

ー繊維部会

- 8月4日 講演会
 テーマ：「合繊材料より見た日本及び世界の繊維事情」
 講師：中村滝平（丸紅）

ー化学部会

- 6月12日 勉強会
 テーマ：「QC手法シリーズ－特製要因図」
 講師：西川卓慶（三井肥料）
- 8月10日 勉強会
 テーマ：「ブラジルの石油化学」
 講師：倉田龍夫（三菱商事）

10月15日 勉強会
テーマ：「ブラジルの松ヤニ産業」
講師：荒木久雄（播磨化成パラナ）

一建設不動産部会

10月6日 講演会
テーマ：「ビル火災の防止と非難について」
講師：ファビオ・オラーノ・ペイラ（サンパウロ消防署
大尉）、篠又幸市郎（ア・ラチーナ保険）

一食品部会

10月23日 講演会
テーマ：「プロアルコールの現状と展望」
講師：ジョゼ・デ・リマ・アシオリ（商工省工業技術補
佐官）

定例昼食会

1月15日 新年会（於・テラソ・イタリア）
2月17日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
3月17日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
4月23日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
5月19日 定例会（於・テラソ・イタリア）
6月16日 定例会・伊藤総領事歓送会（於・協栄サロン・パウリスタ）
7月21日 定例会（於・ブラジルトン・ホテル）
8月18日 定例会（於・ホテル・カドーロ）
9月22日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
10月20日 定例会・藪総領事歓迎会（於・ホテル・カドーロ）
11月17日 定例会（於・日系パラセホテル）
12月22日 忘年会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. As Sogo Shosha
2. 新株式会社法関連法規集成
3. 改正法人税法
4. 国家アルコール計画

5. 1980年12月17日付け国家通貨審議会決定一括措置
6. 国家通貨審議会1981年1月21日付け決定に基づく中銀決定
7. 新株式会社法（改訂版）
8. 外国人労働者呼寄せ申請の手引き
9. 環境保護法
10. A Cultura Japão e Influencia na Ativ. Empres.
11. ブラジルのアルコール計画とエネルギー問題の現状と将来
12. 第2次国家開発計画（1975—1979）
13. 日系企業とコミュニケーション問題
14. ブラジルの輸出制度

機関誌『ブラジル経済情報』（81年主要記事）

1月15日	555号	政府系企業の予算決定—6兆8441億C r \$ で実質減少
2月1日	556号	通貨審議会、遂に金利を自由化
2月15日	557号	業種別部会長座談会（1980～1981年）「ブラジル経済。回顧と展望」
3月1日	558号	工業関係税制恩典利用の手引き（1）
3月15日	559号	「多国籍企業の民主的監査法案」、工業関係税制恩典利用の手引き（2）
4月1日	560号	東北伯ひでり緊急対策を焦点に
4月15日	561号	80年度ブラジルの主要商品別輸出概況
5月1日	562号	輸出税インセンチブを再び適用
5月15日	563号	新最低賃金、純I N P C数値で
6月1日	564号	フィゲイレード大統領西独記録（1）
6月15日	565号	フィゲイレード大統領西独記録（2）
7月1日	566号	農業融資拡大や輸出促進融資
7月15日	567号	伯の海外依存度、大いに減る—企画長官・経済再整備の順序を明確化
8月1日	568号	F i e s p 専門委でまとめた外資系企業の対政府要望13項目
8月15日	569号	業種別部会長懇談会「81年上期回顧と下期展望」

9 月 1 日	570 号	革命の設計者、歴代大統領の黒幕・ゴルベリィ文官長の退陣劇
9 月 15 日	571 号	4.47 兆クルゼイロス 82 年度連邦一般予算
10 月 1 日	572 号	まず国営系 50 社を民間に払下げ
10 月 15 日	573 号	フィゲイレード大統領病気休職
11 月 1 日	574 号	フィゲイレード大統領、近く復職
11 月 15 日	575 号	社会保険改正、国会で修正成立
12 月 1 日	576 号	来年は 5%の経済成長を期す—外国貿易改善踏まえる政府の自信
12 月 15 日	577 号	熱くなる大カラジャス鉱山—日本の対伯資金協力 5 億ドル—

1982年

1982年も前年に続き基本的には引き締め策がとられたものの、総選挙を同年11月に控えて住宅建設の促進や個人消費の刺激といった部分的な景気対策が実施された。この結果、実質経済成長率（GDP）は81年の1.9%減から82年は1.4%のプラス成長へと転換したが、全体としては回復感に乏しかった。

景気は82年の初めを底とし、自動車、家電など81年不況で同年末にかけ在庫整理が進んでいた耐久消費財の一部では緩やかな回復を示した。ただその一方で、引き締めに伴う財政難や高金利から政府企業、民間企業とも投資の減少が顕著で資本財や中間財の多くが後退を続けたこと、更に輸出が過去10数年で初めて減少に転じたことなどが82年経済の伸びを停滞させた。また、債務返済危機が表面化した82年9、10月にかけて、急遽銀行預金準備率の引き下げや輸入規制、為替管理の強化が打ち出され、産業界の回復期待を吹き飛ばしてしまった感がある。

産業別には、農業が前年比2.5%減、商業がゼロ成長にとどまり、81年に大幅に落ち込んだ工業（第2次産業）が前年比1.2%増とわずかながら回復した。サービス部門はGDPの半分以上を占めるが、運輸・通信が前年比4.0%増、政府サービス同6%増、金融同4%増と比較的好調だった。

82年は各種補助金、政府系企業の経営不振などに伴う膨大な政府赤字、輸入インフレ、高金利政策等を背景としてインフレは前年比99.7%へ約4ポイント上昇した。また、6大都市の失業率は82年1～3月に8～9%台とピークに達した後、同年末には4%台と低下した。

82年の国際収支は前年の6億ドルの黒字から一転して89億ドルの大幅赤字に転落した。このため政府は82年9月頃から輸入規制や為替規制を強化するとともに、外貨準備を大幅に取り崩したが、結局外貨不足で債務返済危機に陥った。この危機は、10月頃から年末にかけての米国政府、BIS、IMF、外国民間銀行等の緊急融資40数億ドルで何とかしのいだ。

今回の債務返済危機は、利払い増による経常収支赤字の急増に対して、外国銀行の警戒感が強まったことから、この経常赤字をカバーするには必要な借入れが十分でなかったことが最大の要因である。まず、経常収支では、貿易黒字が約4億ドル縮小したのに加え、高金利の下で833億ドル（82年末）にのぼる対外債務累積に伴う利払いが前年比20%増の126億ドルに膨れ上がった。これに加え、運賃、利益送金等の貿易外サービスの支払いも増えたため、経常収支の赤字は前年比39%増の163億ドルへと急増した。

資本収支では、債務償還、中長期借入が前年比30億ドル減の125億ドルに縮小、資本収支黒字全体では前年比49億ドルの減少を記録した。

債務返済危機に際し、82年12月半ばには政府赤字の縮小、経営収支赤字の縮小、インフレ抑制などを条件として、IMF融資54億ドル（83から85年供与）が大筋で合意された。

82年の貿易は輸出入とも減少し前年を約4億ドル下回る7億7500万ドルの黒字となった。82年の輸出は前年比13.4%減の201億7500万ドルと前年を下回った。輸出不振の原因は、先進国の不況や一次産品市況の低迷、近隣諸国の信用不安など外部要因のほか、輸出恩典の縮小、平価の過大評価などが挙げられる。

日本の対伯貿易もほぼ同じ流れを辿った。日本側統計で対伯輸出は前年比24%減の10億4276万ドルと大きく落ち込み、輸入はわずか前年比1.5%増の16億274万ドルと停滞。入超幅は約5億6000万ドルへと拡大を見た。また、82年はカラジャス鉄鉱石開発に日本側の積極的参加（融資）が決定した。

役員名簿（82年12月末日現在）

名誉会頭：広川郁三
顧問：羽瀬作良
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：橘富士雄（南米銀行経営審議会会長）
副会頭：別役道昌（鐘紡ブラジル）、小田敏夫（伯国三菱商事）、
渡辺寿男（ブラジル東京銀行）、八木竜郎（ブラジル三井物産）
専任理事：酒巻和男（ブラジルトヨタ自動車）、後藤隆（ブラジルヤンマー）、山本勝造（サドキン電球工業）、竹中正（竹中商会）
財務理事：佐藤正幸（ブラジル住友銀行）、名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）、
篠又幸市郎（アメリカ・ラチーナ保険）、武田一男（富士銀行）

委員会

渉外広報委員会：篠又幸市郎（アメリカ・ラチーナ保険）
行動基準委員会：酒巻和男（ブラジル・トヨタ）
社会経済委員会：渡辺寿男（ブラジル東京銀行）

日伯法律委員会：後藤隆（ブラジルヤンマー）
輸出促進委員会：八木竜郎（ブラジル三井物産）
中小企業委員会：山本勝造（サドキン）
事業連絡委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）
金融部会：名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）
貿易部会：八木竜郎（ブラジル三井物産）
機械金属部会：酒巻和男（トヨタ・ド・ブラジル）
電気電子部会：山本勝造（サドキン電球工業）
化学部会：内田昭男（三井肥料）
運輸サービス部会：北島猪一郎（日本航空）
繊維部会：菅原利郎（ユニチカ）
食品部会：江坂雅雄（イグアス・コーヒー）
建設不動産部会：平沢克彦（戸田建設）

8 2 年度理事会及び監事会

理 事

1.	アメリカ・ラチーナ保険	廿千哲夫
2.	南米リース	深井芳郎
3.	南米銀行	橘富士雄
4.	ブラデスコ銀行	田中信
5.	南米投資銀行	竹原順三郎
6.	ブラジル三菱銀行	綿辺文紹
7.	ブラジル住友銀行	佐藤正幸
8.	ブラジル東京銀行	渡辺寿男
9.	伊藤忠ブラジル	網野皓偉
10.	C B C 重工	米倉邦彦
11.	ブラジル特殊陶業	成富武典
12.	クレアズール南米信託	倉持紀
13.	プロゾトーレス倉庫	延満三五郎
14.	南米安田保険	大川宏幸
15.	コチア産業中央会	井上ゼルヴァジオ忠志
16.	三井肥料	古賀功

17. 鐘紡ブラジル	別役道昌
18. 古河電気工業	新井道夫
19. 日立造船メタルメカニカ	沢村宏亮
20. 伯国日綿	森川崇
21. サドキン電球工業	山本勝造
22. 石川島ブラジル造船所	中村行男
23. 日本航空サンパウロ支店	北島猪一郎
24. ジェトロ	新倉隆
25. 伯国川崎重工業	森 務
26. ブラジル川崎製鉄	白石隆
27. 小松ブラジル	冠木善彦
28. ブラジル久保田鉄工	原田正美
29. 丸紅ブラジル	服部美雄
30. 伯国三菱重工業	米倉邦彦
31. 伯国三菱商事	小田敏夫
32. ブラジル三井物産	八木竜郎
33. 伯国三井不動産	坂本典雄
34. 大阪商船三井船舶	岩崎仁志
35. 三井吉岡農産加工	森田兼輔
36. 伯国日本電気	愛川修治
37. 日商岩井ブラジル	沢田嘉元
38. 三友保険代理	野村義人
39. ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
40. 伯国住友商事	加藤治男
41. 竹中商会	竹中正
42. 三和銀行	田中信
43. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	武田一男
44. 三井銀行サンパウロ駐在員事務所	浅生力
45. 東芝・ド・ブラジル	木村勝男
46. 東洋紡ブラジル	村松雅
47. ブラジル・トーメン	岡多加之
48. トヨタ・ド・ブラジル	酒巻和男
49. ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50. ブラジル・ヤンマー	後藤隆

監 事

1. 山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサ

	ルタント・アソシエイト
2. 加藤清	エンジン建設
3. 神宮司逸朗	安田信託銀行駐在員事務所

補充監事

1. 網野弥太郎	アミノ商会

8 2 年度事業報告

総 会

- 3 月 16 日 第 32 回定期総会
「81 年度事業/決算報告の件」、「82 年度事業計画/予算の件」

常任理事会

- 1 月 19 日 「第 32 回定期総会開催の件」、「定款改正の件」
 3 月 31 日 「総領事公邸新築記念プレゼントの件」
 5 月 4 日 「鈴木総理来伯の件」、「ビジガル FIESP 会長訪日の件」
 6 月 23 日 「鈴木総理大臣杯ゴルフ大会の件」、「通産省経済協力貢献者推薦の件」
 8 月 17 日 「浩宮殿下御来伯の件」、「関西生産者本部ミッション来伯の件」、
 「IKK ミッション来伯の件」、「査証問題の件」
 9 月 21 日 「浩宮殿下御来伯の件」、「ヴィゾン誌主催日本企業経営セミナーの件」、
 「定款改正の件」
 11 月 17 日 「日伯民間経済合同委員会の件」、「大口大使歓送会の件」、「選挙規則の件」
 12 月 21 日 「選挙規則の件」

理 事 会

- 2 月 16 日 「1981 年度事業・決算報告の件」、「1982 年度事業計画・予算の件」、「会費調整の件」
 4 月 13 日 「副会頭補充選挙の件」
 8 月 17 日 「副会頭補充選挙の件」

監 事 会

- 3 月 12 日 「1981 年度決算」

共催・後援・協力行事

- 1 月 業種別部会長懇談会
「81 年回顧と 82 年の展望」
- ・ 司会 事業連絡委員会委員長 別役道昌（カネボウ）
 - ・ 紡績・繊維部会長 菅原敏郎（ユニチカ）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 井沢徹郎（大阪三井商船）
 - ・ 電気・電子部会長代理 藤原靖司（日本電気）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 酒巻和男（伯国トヨタ）
 - ・ 建設・不動産部会長 平沢克彦（戸田建設）
 - ・ 貿易部会長 八木竜朗（三井物産）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）
 - ・ 化学部会長 内田昭男（三井肥料）
 - ・ 食品副部会長 尾関與之助（コチア産業組合）
 - ・ オブザーバー 岡本和之（経済担当領事）
- 2 月 17 日 大来佐武郎元外務大臣歓迎懇談夕食会
- 3 月 10 日 園田外務大臣杯ゴルフ大会最終日
- 6 月 12 日 鈴木善幸内閣総理大臣来伯歓迎会（日系諸団体共催）
- 7 月 9 日 小林副会頭歓送会
- 8 月 10 日 業種別部会長懇談会
「82 年上半期回顧と下半期展望」
- ・ 司会 事業連絡委員会委員長 別役道昌（カネボウ）
 - ・ 紡績・繊維部会長 菅原敏郎（ユニチカ）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 北島猪一郎（日本航空）
 - ・ 電気・電子部副会長 相川脩治（日本電気）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 酒巻和男（伯国トヨタ）
 - ・ 建設・不動産部会長代理 阿部久弥（清水建設）
 - ・ 貿易部会長 八木竜朗（三井物産）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）

- ・ 化学部会長 内田昭男（三井肥料）
 - ・ 食品部会長 江坂雅雄（イグアスー
ー・カフェ・ソルベール）
- 9月15日 鈴木総理大臣杯ゴルフ大会最終日
- 10月7日 浩宮殿下御来伯歓迎会（日系諸団体共催）
- 12月8日 大口大使ご夫妻歓送会

委員会・部会の主な活動

一事業連絡委員会

- 4月1～3日 イタリアー水力電源開発プロジェクト現状視察
- 11月25～26日 大カラジャス開発プロジェクト視察

一社会経済委員会

- 2月18日 講演会
テーマ：「現政府による国営企業の民間委譲」
講 師：パウロ・ニコリ（企画庁国営企業民間委譲委員会委員長）
- 3月26日 講演会
テーマ：「インクラと対伯投資」
講 師：横田パウロ（インクラ総裁）
- 7月29日 講演会
テーマ：「大カラジャスプロジェクトにおける鉄鋼・非鉄開発計画」
講 師：ファウスト・A・アギール氏（バーレ社企画コーディネーター）

一渉外広報委員会

- 1月27日 講演会
テーマ：「1981年の決算」
講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
ジョアン・アルフレッド・ブランコ氏（同）
- 5月11～27日 ブラジル紹介セミナー
・ 講演会（5月11日）
テーマ：「ブラジルの儀礼習慣」
講 師：ムリーロ・アンツォネス・アルベス（サンパウロ州議会儀典長）

- ・講演会（同 13 日）
 テーマ：「ブラジルの歴史」
 講師：平沢克彦（ブラジル戸田建設取締役社長）
 - ・講演会（同 18 日）
 テーマ：「ブラジルの労働者」
 講師：押切フラビオ壮（CBC 重工業取締役）
 - ・講演会（同 20 日）
 テーマ：「ブラジルの政治を理解するために」
 講師：斉藤広志（サンパウロ大学教授）
 - ・講演会（同 25 日）
 テーマ：「ブラジルの政治・経済」
 講師：若松孝司（ソールナッセンテグループ代表）
 - ・講演会（同 27 日）
 テーマ：「ブラジル人の考え方」
 講師：篠又幸市郎（アメリカ・ラチーナ保険専務取締役）
 - ・講演会（同 27 日）
 テーマ：「ブラジルのポピュラー音楽」
 講師：坂尾英矩氏（音楽評論家）
- 7 月 21 日 渉外広報委員会・金融部会共催講演会
 テーマ：「社会投資基金の概要」
 講師：シデネイ・サライバ・アポカリプセ（ピニエイロ・ネット弁護士事務所）
- 7 月 22 日 工場見学会
 見学先：アトラス・プラスチック（株）、カステーロ製酢（有）、セレゼール醸造（株）
- 9 月 23 日～10 月 4 日 セミナー「日本文化と企業活動」
- ・講演会（9 月 23 日）
 テーマ：「日本の歴史」
 講師：山城ジョゼ（FIESP 機関誌前編集長）
 - ・講演会（同 28 日）
 テーマ：「日本企業の意思決定プロセス」
 講師：塚本雄一（FGV 教授）
 - ・講演会（同 30 日）
 テーマ：「日本企業の経営システム」
 講師：フランシスコ・パウラ・リマ・フィーリョ（ベルガモ社取締役）

- ・講演会（10月5日）
 テーマ：「日本の経営者」
 講師：田中信（三和銀行取締役）
 - ・講演会（同7日）
 テーマ：「技術移転」
 講師：平田エレナ（CEBRAP 教授）
 - ・講演会（同14日）
 テーマ：「能」
 講師：村上ジロー・サカエ（USP 教授）
- 10月6日 工場見学会
 見学先：ネススル・チョコレート工場、エンジエーザ兵器製造工場

一中小企業委員会

- 2月9日 勉強会
 テーマ：「ブラジル日系企業の経営分析」
 講師：大森弘（近畿大学教授）
- 3月3日 勉強会
 テーマ：「ブラジルの証券と資金運用」
 講師：若松孝司（ソールナッセンテ・グループ代表）
- 5月3日 勉強会
 テーマ：「セラード開発の現状」
 講師：山本勝造（セラード農業開発代表）
 瀬尾正弘（コチア青年パラカツ農牧代表）
- 6月3日 勉強会
 テーマ：「訪日報告」
 講師：鈴木与蔵（実業のブラジル社）
- 7月13日 勉強会
 テーマ：「最近の各業界の動向」
 レポーター：岩本（東洋紡）、成富（NGK）、所（サンスイ）、原田（久保田鉄工）、岸本（サントリー）、大橋（センプ東芝）、窪田（エンジン建設）、佐藤（住友銀行）
- 9月8日 勉強会
 テーマ：「国産小型コンピューターの利用」
 レポーター：加藤（ホンダ・モトール）
- 10月13日 勉強会

- 11月10日
 テーマ：「中京地方の企業経営から学ぶもの」
 ゲスト：酒巻（トヨタ自動車）、成富（NGK）、駒田（東海銀行）、鈴木（OSG）、斉藤（NHK）
 勉強会
 テーマ：「不況を乗り切る生産システム」
 講師：原田正美（ブラジル久保田鉄工）
- 12月16日
 勉強会
 テーマ：「1983年の経済見通しと国際収支」
 講師：武田一男（富士銀行）

ーコンサルタント部会

- 2月8日
 講演会
 テーマ：「81年度法人税申告の手引き」
 講師：プリーニオ・ジョゼ・マラフォン（等松青木ドレイフアス会計事務所）
- 3月24日
 講演会
 テーマ：「ブラジルにおけるQC活動の適用について」
 講師：酒巻和男（トヨタ・ド・ブラジル社長）
- 4月12日
 講演会
 テーマ：「マナウス自由区の税務特典について」
 講師：ワグネル・カマルゴ氏、カルロス・マルセロ（プライスウォーターハウス会計事務所）
- 5月20日
 講演会
 テーマ：「固定資産再評価と不動産売却時における税制」
 講師：ワグネル・カマルゴ、カルロス・マルセロ（プライスウォーターハウス会計事務所）
- 8月17日
 講演会
 テーマ：「最近のブラジル政治・経済状況」
 講師：松本エミリオ（ISTOE 誌）
- 9月1日
 コンサルタント部会、金融部会共催講演会
 テーマ：「米国進出企業から日本企業の経済戦略」
 講師：竹中征夫（ピート・マーウィック・ミッチャル会計事務所）
- 9月3日
 講演会
 テーマ：「外資登録と利潤送金」
 講師：プリーニオ・マラフォン（等松青木ドレイフアス会計事務所）星野清（同）花岡五十二（同）

一金融部会

- 3月8日 講演会
テーマ：「日伯租税条約による利潤送金システム」
講師：ネルソン・マニスキ（プライス・ウォーター・ハウス会計事務所）
- 3月23日 講演会
テーマ：「ブラジルのリース業」
講師：青森誠一（オリエントリース）
- 7月21日 渉外広報委員会・金融部会共催講演会
テーマ：「社会投資基金の概要」
講師：シデネイ・サライバ・アポカリプセ（ピニエイロ・ネット弁護士事務所）

一貿易部会

- 4月22日 講演会
テーマ：「ブラジルの貿易と問題点」
講師：ロベルト・フエンジッテ（FUNCEX 理事、FGV 教授）

一機械金属部会

- 8月4日 講演会
テーマ：「ブラジルのエネルギー転換政策」
講師：エドアルド・セレスチーノ・ロドリゲス（国家エネルギー委員会副委員長）
- 9月22日 工場見学会
見学先：小松、三豊スザノ工場、アッソ・アニアンゲーラ、NGK モジ工場
- 10月28日 講演会
テーマ：「産業用ロボットについて」
講師：林茂雄（伯国川崎重工営業担当重役）

一食品部会

- 5月15日 東山農産加工工場見学会

一化学部会

- 1月20日 勉強会

テーマ：「ブラジルにおける香料事情」
レポーター：小野光喬（高砂商工）
7月16日 勉強会
テーマ：「ブラジルの農薬」
講師：小川温樹（イハラプラス）

定例昼食会

1月11日 新年会（於・ヒルトン・ホテル）
2月16日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
3月16日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
4月13日 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
5月13日 定例会（於・ホテル・カドーロ）
6月15日 定例会（於・ブラジルトンホテル）
7月20日 定例会（於・ホテル・カドーロ）
8月17日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
9月21日 定例会（於・ブラジルトン・ホテル）
10月26日 定例会（於・協栄サロンパウリスタ）
11月17日 定例会（於・マックスロード・プラザ・ホテル）
12月23日 忘年会（於・buffet・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 1982年ブラジル輸入計画
2. 1982年ブラジル輸出振興政策
3. 葡日会計用語集
4. 新外国人法
5. 大カラジャス計画のあらまし
6. ブラジル紹介セミナー
7. Perfil do Brasil 1982
8. Japão 1982
9. マナウス自由区に事業所を置く企業に対し供与される租税特別措置について
10. ブラジルにおける日本からの投資先企業リスト

機関誌『ブラジル経済情報』（82年主要記事）

1月15日	578号	フィゲイレード大統領越年演説 企業会計—インフレと資産勘定
2月1日	579号	国家通貨審議会 82年度方針 社会保険赤字問題の周辺
2月15日	580号	業種別部会長懇談会「ブラジル経済 1981年の回顧と82年の展望」
3月1日	581号	国営、国有企業の民間譲渡
3月15日	582号	ブラジルの外国貿易概況 大来佐武郎元外務大臣来伯歓迎懇談会 マナウス自由区の現況
4月1日	583号	中銀発行 1981年報概要 ブラジルの利潤、配当送金制度①
4月15日	584号	INCRA と対伯投資——横田パウロ インクラ総裁講演会より①
5月1日	585号	INCRA と対伯投資② イタイプー電源開発プロジェクト視察記
5月15日	586号	フィゲイレード大統領メーデーメッセージ ブラジルにおける日系企業の輸出入実績
6月1日	587号	サンベルナルド地区ポップコーン・ストライキ概要 マナウス自由区をめぐる租税特別措置① 利潤、配当送金制度②
6月15日	588号	デルフィン・ネット企画長官講演主要内容（於・リオ市陸軍大学） 81年度ブラジルの主要商品別輸出概況
7月1日	589号	社会投資基金概要 鈴木総理来伯にみる今後の日伯経済協力 マナウス自由区をめぐる租税特別措置②
7月15日	590号	ブラジルのインフレ高進と下半期の経済見通し 1981年度ブラジル主要商品別輸入概況
8月1日	591号	ブラジルの対外債務と外国大口債権者
8月15日	592号	企業の社会投資基金負担と法律①

9 月 1 日	593 号	業種別部会長懇談会「1982 年上半期の回顧と下半期の展望」
9 月 15 日	594 号	1983 年度連邦一般予算 企業の社会投資基金負担と法律②
10 月 1 日	595 号	機械、設備、原料等の輸入禁止 CACEX 第 26 号
10 月 15 日	596 号	フィゲイレード大統領国連演説 国営企業体の周辺（対外リース契約と BANDES 増資）
11 月 1 日	597 号	国家通貨審議会決定 1983 年対外経済目標プログラム①
11 月 15 日	598 号	IMF 借款取り入れの可能性 1983 年対外経済目標プログラム みなし配当——非課税の通達と解説——
12 月 1 日	599 号	総選挙結果と勢力分布 州都地区金属労組賃上げ交渉
12 月 15 日	600 号	対外債務支払い繰延べの可能性 法人税法、所得税法の一部改正① カラジャス大鉱区視察記

1983年

1982年末の債務返済危機、その後のIMF介入による緊縮策強化を背景として、83年の実質経済成長率（GDP）はマイナス3.3%と不況が深まった。

しかし、この間、国際収支は大きく改善した。経常収支赤字は約62億ドルと前年比58%も大幅縮小し、IMFとの合意目標を上回った。211%というインフレ急騰の問題を残すものの、公共投資や政府系企業予算のカット、各種補助金削減など公共赤字の縮小策も実施に移され、ブラジル経済は再建への道を歩み始めている。

83年のGDPを部門別でみると、落ち込みが激しかったのは全体の約3分の1を占める鉱工業部門（第2次産業）で前年比3.7%減を記録した。農業など第1次産業は2.2%のプラス成長に転じたものの、GDPのほぼ半分を占めるサービス部門は金融部門（3.7%増）を除き、商業（3.5%減）、運輸・通信、政府サービス（ゼロ成長）などおおむね不振であった。

83年に211%までインフレが急騰した背景には、インデクセーション制度による潜在的なインフレ圧力に加え、過度の輸入抑制による物不足、通貨切り下げの加速、高金利、補助金カットに伴う公共料金値上げなどによると考えられる。

IMF融資再開の条件となった賃金調整率については、難航の末83年11月にINPC（全国消費者物価指数）上昇の87%に抑制することで決着した。購買力の中心をなす中上流階級については、近年インフレを大幅に下回る給与調整しか認められなくなってきており、これが自動車や高級家電など高額消費財の需要減退を招いていることは否定できない。

83年の経常収支赤字の大幅削減をテコとして総合収支赤字が前年の89億ドル弱から33億ドル余りへと急減し、債務危機回避へと足がかりとなった。中でも輸入の大幅削減などにより、貿易収支黒字が前年比8.3倍増の64億7000万ドルに急増した。さらに、貿易外収支のうち利払い額が前年比18億ドル減の約96億ドルに縮小したこともプラスして、経常収支赤字は61億7100万ドルと大幅に縮小し、IMFとの合意目標を上回った。

主な債務救済の動きを追うと、まず83年1月の民間銀行との新規44億ドル、再融資40億ドルのフェーズⅠの調印。IMFとの合意目標未達成から5月末にIMFが融資を中断し、これに民間銀行も追随したためデフォルト危機に陥った。9月下旬に至り、西側政府の資金協力45億ドル、民間銀行の新規ローン65億ドルを柱とするフェーズⅡの総合的な救済が合意され、その後IMFおよび民間銀行の融資再開でようやく危機を回避した。

84年1月下旬に、民間銀行による84年分の再融資54億ドルが調印され、

3 月には先の 65 億ドル新規ローン引き出しが始まった。この結果、83 年末に 23 億ドルに達した返済遅延債務が解消され、外貨繰りはひとまず安定。これに伴い、83 年 8 月以降採られた中銀の為替管理は 3 月 19 日に原則撤廃となった。

貿易収支は、前年比 8.3 倍増の 64 億 7000 万ドルへ激増。要因は、①インフレを上回る通貨切り下げの加速 (289%)、②企業ごとの輸入抑制強化、③8 月以降の中銀による対外支払いコントロール、④先進諸国による対伯輸出保険の停止などがあげられる。

日本の対伯輸出は前年比 29.2%減の 7 億 3800 万ドルへと縮小。ブラジルからの輸入は前年比 4.1%増の 16 億 6900 万ドルへとやや拡大した。対伯貿易の入超幅は 9 億 3100 万ドルとなり 82 年の 5 億 6000 万ドルから急増した。入超額急増の背景は、①ブラジル側の極端な輸入規制と国産化推進、②大型プロジェクト向けなど需要の大幅後退、③日本側の対伯輸出保険停止、④ブラジル側の輸出ドライブ、⑤進出日系企業から親会社向け輸出の増大などが指摘される。

役員名簿（83 年 12 月末日現在）

名 誉 会 頭：広川郁三
顧 問：羽瀬作良
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：橘富士雄（南米銀行経営審議会会長）
副 会 頭：別役道昌（鐘紡ブラジル）、小田敏夫（伯国三菱商事）、
渡辺寿男（ブラジル東京銀行）、八木竜郎（ブラジル三井物産）
専任理事：田中信（三和銀行）、佐藤正幸（ブラジル住友銀行）、
武田一男（富士銀行）、竹中正（竹中商会）
財務理事：北島猪一郎（日本航空）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、
難波慶二（豊和機械）、綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）

委員会

渉外広報委員会：田中信（三和銀行）
行動基準委員会：小田敏夫（伯国三菱商事）

社会経済委員会：渡辺寿男（ブラジル東京銀行）
日伯法律委員会：佐藤正幸（ブラジル住友銀行）
輸出促進委員会：八木竜郎（ブラジル三井物産）
事業委員会：武田一男（富士銀行）
中小企業委員会：竹中正（竹中商会）
総務委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）
金融部会：綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）
貿易部会：八木竜郎（ブラジル三井物産）
機械金属部会：米倉邦彦（伯国三菱重工、C B C 重工）
電気電子部会：後藤田信行（ローム電子工業）
化学部会：古賀功（三井肥料）
運輸サービス部会：岩崎仁志（大阪商船三井船舶）
繊維部会：村松雅（東洋紡ブラジル）
食品部会：江坂雅雄（イグアス・コーヒー）
建設不動産部会：坂本典雄（伯国三井不動産）

83年度理事会及び監事会

理 事

1. 南米リース	深井芳郎
2. アメリカ・ラチーナ保険	廿千哲夫
3. アミノ商会	網野弥太郎
4. 南米銀行	橘富士雄
5. ブラデスコ銀行	田中信
6. 南米投資銀行	鈴木潤
7. ブラジル三菱銀行	綿辺文紹
8. ブラジル住友銀行	佐藤正幸
9. ブラジル東京銀行	渡辺寿男
10. 伊藤忠ブラジル	網野皓偉
11. C B C 重工	米倉邦彦
12. ブラジル特殊陶業	成富武典
13. クレアズール南米信託	倉持紀
14. イグアス・コーヒー	江坂雅雄

15.	南米証券	戸谷湊
16.	プロツトーレス倉庫	延満三五郎
17.	南米安田保険	柏木信郎
18.	コチア産業中央会	井上ゼルヴアジオ忠志
19.	コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル	富田虎男
20.	三井肥料	古賀功
21.	鐘紡ブラジル	別役道昌
22.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	武田一男
23.	古河電気工業	新井道夫
24.	豊和機械	難波慶二
25.	ブラジル・ニチメン	大原惇
26.	サドキン電球工業	原田博
27.	日本航空サンパウロ支店	北島猪一郎
28.	兼松江商ブラジル	武田晃一
29.	ブラジル久保田鉄工	高木聡
30.	丸紅ブラジル	沢田哲男
31.	メタルルジカ・シンクロナイズ	岡本文郎
32.	伯国三菱重工業	米倉邦彦
33.	三菱コーポレーション・ド・ブラジル	小田敏夫
34.	三井銀行サンパウロ駐在員事務所	香西啓助
35.	ブラジル三井物産	八木竜郎
36.	大阪商船三井船舶	岩崎仁志
37.	ブラジル日本電気	川辺勝
38.	日商岩井ブラジル	酒井宏介
39.	ブラジル日清繊維工業	横溝弘史
40.	N S K・ド・ブラジル	後藤金昭
41.	三和銀行	田中信
42.	ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
43.	ブラジル住友商事	加藤治男
44.	サントリー・ド・ブラジル	岸本允侃
45.	竹中商会	竹中正
46.	東芝・ド・ブラジル	木村勝男
47.	東洋紡ブラジル	村松雅
48.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
49.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50.	ブラジル・ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサル タント・アソシエイト
2.	太田達男	三井信託銀行
3.	古庄雄二朗	F. K. 事務器

補充監事

1.	岩崎進	住友信託銀行

83年度事業報告

総 会

2月8日	臨時総会 「選挙規則の件」、「定款改正の件」
3月7日	第33回定期総会 「82年事業・決算報告案審議の件」、「理事、監事選挙の件」

常任理事会

2月8日	「選挙規則の件」、「82年度事業及び決算報告案審議の件」
3月16日	「常任理事選挙の件」
4月5日	「83年度事業計画及び予算案審議の件」
7月5日	「経団連ミッション歓迎昼食会の件」
10月18日	常任理事会
12月9日	常任理事会

理 事 会

1月11日	「選挙規則の件」、「会費調整の件」
2月24日	「82年度事業及び決算報告案審議の件」
3月18日	「83／84年度常任理事選出の件」
4月19日	「83年度事業計画及び予算案審議の件」

監 事 会

3月3日	「82年度会計監査の件」

共催・後援・協力行事

1月21日	業種別部会長懇談会

「82 年の回顧と 83 年の展望」

- ・ 司会 事業連絡委員会委員長 別役道昌（カネボウ）
- ・ 紡績・繊維部会長 菅原敏郎（ユニチカ）
- ・ 金融・保険、証券部会長 名取賢次郎（ブラジル三菱銀行）
- ・ 運輸・サービス部会長 北島猪一郎（日本航空）
- ・ 電気・電子部副会長 相川脩治（日本電気）
- ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 酒巻和男（伯国トヨタ）
- ・ 建設・不動産部副会長 三宮守（滝田・三宮建設）
- ・ 貿易部会長 八木竜朗（三井物産）
- ・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）
- ・ 化学部副会長 水野淳正（インパーザ・インドウキミカ・パウリスタ）
- ・ 食品部会長 江坂雅雄（イグアス・カフェ・ソルベール）

- 2 月 1 日 日系諸団体共催伊達邦美大使ご夫妻歓迎会
- 2 月 24 日 池田アキヒロ企画庁特別補佐官との懇談会
- 3 月 4 日 中部生産性本部ミッションとの懇談会
- 6 月 21 日 イグアペ地方水害罹災者救援を会員各位へ呼びかけ
- ～30 日
- 7 月 13 日 経団連ミッション歓迎昼食会開催
- 7 月 30 日 渡辺美智雄前大蔵大臣歓迎会（日系諸団体共催）
- 7 月 31 日 渡辺美智雄杯争奪ゴルフ大会（於・アルジャーゴルフ場）
- 8 月 9 日 業種別部会長懇談会

「83 年上半期回顧と下半期展望」

- ・ 司会 総務委員会委員長 別役道昌（カネボウ）
- ・ 紡績・繊維部会長 富田寅男（コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル）
- ・ 金融・保険、証券部会長 綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）
- ・ 運輸・サービス部会長 岩崎仁志（大阪商船三井船舶）
- ・ 電気・電子部会長 後藤田信行（ローム電

	子工業)
・ 機械・金属・鉄鋼部会長	米倉邦彦（三菱重工業）
・ 建設・不動産部会長	坂本典雄（三井不動産）
・ 貿易部会長	八木竜朗（三井物産）
・ コンサルタント部会長	田中信（三和銀行）
・ 化学部会長	古賀功（三井肥料）
・ 食品部会長	江坂雅雄（イグアスー・カフェ・ソルベール）
8 月 13 日	セーラ大統領補佐官と懇談会
10 月 14 日	戴総領事ご夫妻歓送会（於・文協、日系諸団体共催）
10 月 20 日	大川財務理事歓送昼食会
12 月 21 日	色摩力夫総領事ご夫妻歓迎会（日系諸団体共催）

委員会・部会の主な活動

一社会経済委員会

- 12 月 14 日 講演会
 テーマ：「84 年のブラジル経済見通し」
 講 師：塚本雄一（F G V 大学教授）

一事業委員会

- 8 月 25～26 日 北パラナ視察
 見学先：鐘紡シルク社、イグアス・コーヒー社、丸紅コロラドコーヒー精選工場、アサイ移住地、東洋繊維、ローランジャ移民博物館、プラスウェイ社（大豆搾油）
- 11 月 17～19 日 東北伯視察
 見学先：マラビーリヤ製糖工場、コベスブラ社、マリャリア・ド・ノルデステ繊維工場、サンブラ植物油工場、ペルナンブコ州知事及び S U D E N E 表敬訪問

一渉外広報委員会

- 1 月 31 日 講演会
 テーマ：「法人税、所得税の一部改正」
 講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
 ジョアン・アルフレッド・ブランコ（同）

- 7月25日 講演会
 テーマ：「ブラジルの労使関係」
 講師：ワルテル・サツカ（機会業者組合会長）
- 9月16～29日 セミナー「日本文化と企業活動」
- ・テーマ：「日本的経営の特異性——その構造と機能——」（9月16日）
 講師：フランシスコ・パウラ・リマ・フィーリョ（サンパウロ州立取締役補佐）
 - ・講演会（同20日）
 テーマ：「日本的企業経営の効率——その虚構と現実——」
 講師：モトムラ・オスカル（FGV教授）
 - ・講演会（同22日）
 テーマ：「日本的企業経営とブラジルにおける適応」
 講師：中谷アンセルモ（古河電工副社長）
 - ・講演会（同27日）
 テーマ：「日本の労働事情」
 講師：戴忠綱（在サンパウロ日本国総領事）
 - ・講演会（同29日）
 テーマ：「日本人の人格形成におけるある種の文化的要因」
 講師：ベネジット・フエリ・デ・バーロス（エスタード・デ・サンパウロ紙記者）
- 9月30日 パウリスタ製鉄所（COSIPA）見学会
- 10月27日 講演会
 テーマ：「企業と報道機関」
 講師：マウロ・ベント・ジラス・サーレス（国家宣伝審議会委員長）
- 11月28日 CICA社及びDURATEX社工場見学会

一 中小企業委員会

- 1月12日 勉強会
 テーマ：「法人税法改正について」
 講師：星野清（等松青木会計事務所）
- 2月9日 勉強会
 テーマ：「幹部養成集団研修合宿」

- 講 師：コガ・トシユキ（南米銀行人事部）
 スミダ・ジョージ（同）
 サトウ・マリオ（同）
- 5 月 25 日 勉強会
 テーマ：「ブラジルの流通事情」
 講 師：若林輝男（ヤクルト商工社長）
- 6 月 22 日 勉強会
 テーマ：「パコッテとその影響」
 講 師：佐藤正幸（ブラジル住友銀行頭取）
 菅原利郎（ユニチカ・ド・ブラジル社長）
 富森敏夫（南伯産業共同組合専務理事）
- 7 月 22 日 勉強会
 テーマ：「最近の政治情勢」
 講 師：野村丈吾（連邦下院議員）
- 8 月 18 日 勉強会
 テーマ：「最近の為替事情」
 講 師：西川悦治（南米銀行取締役）
- 9 月 22 日 勉強会
 テーマ：「最近の穀物価格の高騰」
 講 師：尾関興之助（コチア産業組合中央会）
 小田切武（トーメン製油）
- 11 月 8 日 勉強会
 テーマ：「東洋人街の商店経営」
 講 師：水本毅（リベルダーデ商工会会長）

ーコンサルタント部会

- 2 月 10 日 講演会
 テーマ：「所得税法の主な改正点」
 講 師：プリーニオ・ジョゼ・マラフォン（等松青木ドレイフアス会計事務所）星野清（同）
 花岡五十二（同）
- 3 月 22 日 講演会
 テーマ：「最近の日本経済の動向」
 講 師：山本雄二郎（サンケイ新聞コラムニスト）
- 4 月 19 日 講演会
 テーマ：「最近の社会経済状勢」

- 5月3日 講師：松本エミリオ（イストエ誌）
講演会
テーマ：「中高年層の健康管理」
- 5月31日 講師：林義貢（日本カイロプラクチック協会副会長）
講演会
テーマ：「アメリカと日本におけるコンピューターの犯罪」
講師：小早川ヒサヨシ（プライス・ウォーター・ハウス
会計事務所）
- 6月14日 講演会
テーマ：「1970年代以降のブラジル経済の基本的問題点」
講師：西島章次（神戸大学助教授）
- 11月30日 講演会
テーマ：「ブラジルの商品市場」
講師：ジョフリー・グリーマン（リオデジャネイロ証券
取引所審議会役員）

一金融部会

- 2月24日 講演会
テーマ：「1983年のブラジル経済見通し」
講師：池田アキヒロ（企画庁特別補佐官）
- 9月5日 講演会
テーマ：「最近の経済情勢と今後の展望」
講師：エデル・ルイール・コグチ（サンパウロ商業会議
所理事）

一機械金属部会

- 7月14日 ソロカバ工場見学会
見学先：ヤシカ・ド・ブラジル、吉田工業、Z・F・ド・
ブラジル、ファブリカ・デ・アッセ社
- 8月31日 講演会
テーマ：「CETESB（聖州環境衛生公社）の役割と方
針」
講師：ウエルネル・エウジェニオ・ツラフ（CETESB
総裁）
- 10月26日 講演会
テーマ：「ニューセラミックについて」
講師：松原新太郎（ブラジル特殊陶業）

一食品部会

- 1月13日 勉強会
テーマ：「最近の金融情勢」
講師：武田一男（富士銀行）
- 5月12日 勉強会
テーマ：「最近の金融情勢と外貨問題」
講師：森村大作（ブラジル東京銀行）
- 9月8日 勉強会
テーマ：「労務管理に関する情報交換」
講師：押切フラビオ（CBC重工）
- 11月24日 勉強会
テーマ：「最近の為替情勢」
講師：西川悦治（南米銀行）

一運輸サービス部会

- 8月8日 勉強会
テーマ：「引越し荷物の輸入手続きについて」
レポーター：平井逸郎（ツニブラ・ジャベックス）
青島孝雄（セントラル・ブラジレイラ）
- 10月11日 懇談会
テーマ：「引越し荷物の輸入について」
講師：笛木正也（ユニベル西濃貨物）
- 12月1日 サントス港及び貨物船ばなま丸見学会

定例昼食会

- 1月11日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2月8日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
- 3月7日 定例会（於・協栄サロン・パウリスタ）
- 4月19日 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
- 5月17日 定例会（於・ホテル・カドーロ）
- 6月14日 定例会（於・ブラジルトンホテル）
- 7月19日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 8月16日 定例会（於・サンパウロ・ヒルトン・ホテル）
- 9月20日 定例会（於・日系パレスホテル）
- 10月18日 薮総領事歓送昼食会（於・協栄サロンパウリスタ）

11 月 17 日 定例会（於・協栄サロンパウリスタ）

12 月 23 日 忘年会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. ブラジル日本商工会議所会員名簿
2. 輸出の手引き C A C E X N° 9
3. 1983 年通貨予算
4. マキシ切り下げ関連法規集
5. 代理商に関する法律と判例
6. ブラジルのリーシング法規
7. 1983 年 6、7、8 月経済一括措置集成
8. 労働安全と医療に関する法規
9. I M F 提出趣意書及び覚書
10. ブラジル経済統計—PERFIL DO BRASIL
11. JAPÃO 83 ポ語版
12. 企業と報道機関
13. A Cultura e o Sistema Administrativo Japones

機関誌『ブラジル経済情報』（83 年主要記事）

1 月 15 日	601 号	伯、インテンションレター提出、法人税法所得税法一部改正②
2 月 1 日	602 号	ブラジル経済業種別部会長懇談会
2 月 15 日	603 号	賃金法改正 法人税法、所得税の一部改正・完
3 月 1 日	604 号	クルゼイロ 30%のマキシ切り下げ、一斉にそっぽ向く外国銀行
3 月 15 日	605 号	通貨大幅切り下げと 83 年見通し—池田企画庁補佐官講演会より
4 月 1 日	606 号	経済困難、国民の正しい理解を——2 月 28 日大統領演説より
4 月 15 日	607 号	サント・アマーロ地区暴動、労働・経済不安時代の企業経営
5 月 1 日	608 号	異常高金利

募る社会不安・経済開放こそ急務①——松本エミリオ
氏講演会より

5月15日	609号	新最低賃金発表、募る社会不安・経済開放こそ急務②
6月1日	610号	ブラジル事実上のモラトリアム
6月15日	611号	CMN 発表経済パコッテ、賃金法改正
7月1日	612号	デスインデクセーション始まる ブラジル経済の基本的問題点——西島章次神戸大学 助教授講演会より——
7月15日	613号	ブラジル経済調整実績と分析
8月1日	614号	経済難局、賃金抑制に理解求む——大統領演説より——
8月15日	615号	中銀の為替集中管理を強化、7月2大ストの性格と背景を 探る
9月1日	616号	ブラジル経済 83 年上半期回顧と下半期展望
9月15日	617号	中銀総裁更迭、後任にパストーレ氏
10月1日	618号	修正インテンションレター、ブラジルにおける日系企 業の輸出入実績
10月15日	619号	中銀の外貨支払い優先順位、84 年度連邦予算案、ブ ラジルの経済危機——大来佐武郎元外相レポートよ り
11月1日	620号	大統領令 2065 号公布される。藪忠綱総領事離任ご挨拶
11月15日	621号	ハイパーインフレへの戦い、新最低賃金制決定
12月1日	622号	IMF 融資再開、債務繰延べ決定、2065 号による法人 税の改正点
12月15日	623号	貿易黒字 64 億ドル台へ、本年インフレ 210%強へ、 ニューセラミックについて

1984年

1984年のブラジルの実質国民総生産は前年比4.5%増（暫定）と3年続きの交代・低迷から一転し、予想以上の成果を達成した。その主な要因は好調な輸出を背景とした製造業の急回復、農産物生産の増大及び鉱業の拡大にある。

83年末から200%に達したインフレは騰勢が衰えず、84年末には223.4%と史上最高となった。83年には比較的落ち着いていた工業製品の値上がりが大きく、またガソリン、燃料油、小麦など統制価格の300%前後の引き上げも響いている。さらに慢性的な公共部門の赤字を補てんする通貨増発に加え、84年には大幅な貿易黒字による国内流動性の増大も一因となっている。通貨膨張率は、通貨ベースでは243.8%とインフレを上回った。失業率は83年末の5.6%から84年末には4.8%へと低下している。84年前半は7～8%台と比較的高水準にあったが、後半に入り景気回復を反映し改善を見せた。

84年の輸出は前年比23.3%増の270億500万ドルを記録、同年の経済回復の牽引力となった。他方輸入は前年比9.7%減の139億1600万ドルとさらに落ち込み、84年の貿易黒字幅は前年の記録的ともいわれた64億7000万ドルから130億8900万ドルへと倍増した。輸出増の要因としては、米国をはじめとする先進国の持続的成長と輸出促進策により工業製品が32%も急増したこと、農産物市況が比較的堅調であったことが挙げられる。

一次産品では、コーヒーが市況にも恵まれ23%増の28億5000万ドル、大豆も前年並みの25億7000万ドルに達し、オレンジジュースは米国フロリダ州の霜害により2.3倍の14億ドルへ急伸した。しかし、金属鉱物は市況の軟化により0.4%の微減となった。

一方輸入は、その半分を占める石油の輸入が国産石油の増産と価格の低位安定により、前年比16%減の68億6600万ドルとなったことから、前年に引き続き減少した。また長引く不況で国内需要が低迷したうえ、輸入品の国産代替化が進んできたことも影響している。84年9月には輸入規制緩和措置が取られたが、際立った輸入増は見られなかった。石油以外の輸入品の中では、資本財は前年比15%減の21億8500万ドルと低下傾向が続いているが、化学品、石炭などの原材料は増加傾向をたどり始め、9%の伸びとなっている。

貿易外収支は、利払いが金利の上昇もある6.8%増の102億300万ドルに達したが、運賃等その他の支払は減少し、全体では前年並みの127億3400万ドルの赤字に収まった。このため経常収支は、前年の61億4200万ドルの赤字から5億1700万ドルへ転換し、大幅な改善を見せた。

80年代に入り初めて総合収支で70億3400万ドルの黒字を記録、外貨準備も119億9500万ドルとなり、輸入（財、サービスの合計）の40%を賄うま

で拡大している。

日本のブラジル向け輸出は、84年に輸入部品の国産代替化の進展もあり、前年比13.4%減の6億4000万ドルとピークとなった81年の半分以下に減少した。ブラジルから日本への輸入は増加基調にあり、84年は前年比19.3%増の19億9100万ドルへと急増を見せた。このため、日本の入超額は83年の9億3100万ドルから、84年には13億5100万ドルへとさらに拡大している。

役員名簿（84年10月16日現在）

名誉会頭：広川郁三
顧問：羽瀬作良
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：橘富士雄（南米銀行経営審議会会長）
副会頭：別役道昌（鐘紡ブラジル）、小田敏夫（伯国三菱商事）、
渡辺寿男（ブラジル東京銀行）、池田昌之（ブラジル三井物産）
専任理事：田中信（三和銀行）、佐藤正幸（ブラジル住友銀行）
成富武典（ブラジル特殊陶業）、竹中正（竹中商会）
財務理事：加藤治男（ブラジル住友商事）、柏木信郎（南米安田保険）、
難波慶二（豊和機械）、綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）

委員会

渉外広報委員会：田中信（三和銀行）
行動基準委員会：小田敏夫（伯国三菱商事）
社会経済委員会：渡辺寿男（ブラジル東京銀行）
日伯法律委員会：佐藤正幸（ブラジル住友銀行）
輸出促進委員会：小田敏夫（伯国三菱商事）
事業委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）
中小企業委員会：竹中正（竹中商会）
総務委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（三和銀行）
金融部会：綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）

貿易部会：小田敏夫（伯国三菱商事）
 機械金属部会：米倉邦彦（伯国三菱重工、C B C 重工）
 電気電子部会：後藤田信行（ローム電子工業）
 化学部会：古賀功（三井肥料）
 運輸サービス部会：岩崎仁志（大阪商船三井船舶）
 繊維部会：村松雅（東洋紡ブラジル）
 食品部会：江坂雅雄（イグアス・コーヒー）
 建設不動産部会：坂本典雄（伯国三井不動産）

8 4 年度理事会及び監事会

理 事

1. 南米リース	坂口 孟
2. アメリカ・ラチーナ保険	廿千 哲夫
3. アミノ商会	網野 弥太郎
4. 南米銀行	橘 富士雄
5. ブラデスコ銀行	田中 信
6. 南米投資銀行	瀬川 正文
7. ブラジル三菱銀行	綿辺 文紹
8. ブラジル住友銀行	酒井 醇
9. ブラジル東京銀行	小林 利郎
10. 伊藤忠ブラジル会社	本庄 谷礼介
11. C B C 重工	米倉 邦彦
12. ブラジル特殊陶業	成富 武典
13. クレアズール南米信託	鈴木 明
14. イグアス・コーヒー	江坂 雅雄
15. 南米証券	戸谷 湊
16. プロットーレス倉庫	延満 三五郎
17. 南米安田保険	柏木 信郎
18. コチア産業中央会	井上 忠志
19. コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル	洲崎 宏通
20. 三井肥料	古賀 功
21. 鐘紡ブラジル	別役 道昌
22. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	布施 尚一
23. 古河電気工業	新井 道夫
24. 豊和機械	難波 慶二

25.	ブラジル・ニチメン	大原惇
26.	サドキン電球工業	原田博
27.	日本航空サンパウロ支店	山下陽平
28.	兼松江商ブラジル	田畑浩司
29.	ブラジル久保田鉄工	高木聡
30.	丸紅ブラジル	沢田哲男
31.	メタルルジカ・シンクロナイズ	岡本文郎
32.	伯国三菱重工業	米倉邦彦
33.	三菱コーポレーション・ド・ブラジル	小堀清次
34.	三井銀行サンパウロ駐在員事務所	香西啓助
35.	ブラジル三井物産	池田昌之
36.	大阪商船三井船舶	岩崎仁志
37.	ブラジル日本電気	川辺勝
38.	日商岩井ブラジル	佐々木敬
39.	ブラジル日清紡	横溝弘史
40.	NSK・ド・ブラジル	後藤金昭
41.	三和銀行	田中信
42.	ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
43.	ブラジル住友商事	加藤治男
44.	サントリー・ド・ブラジル	大西康之
45.	竹中商会	竹中正
46.	東芝・ド・ブラジル	木村勝男
47.	東洋紡ブラジル	村松雅
48.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
49.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50.	ブラジル・ヤンマー	後藤隆

監 事

1、	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサルタント・アソシエイト
2、	太田達男	三井信託銀行
3、	古庄雄二朗	F. K. 事務器

補充監事

1、	岩崎進	住友信託銀行

84年度事業報告

総 会

- 3月20日 第34回定期総会
「83年事業・決算報告の件」、「84年度事業計画・予算案審議の件」

常任理事会

- 2月14日 「83年事業・決算報告の件」、「84年度事業計画・予算の件」、
「現代ポ語辞典の件」
3月14日 「ガルベアス蔵相訪日の件」、「EXPOブラジルー日本の件」、
「商工会議所事務局長交代の件」
4月24日 「専任理事補充選挙の件」、「日伯経済合同委員会の件」、「US
P創立50周年記念事業の件」
5月9日 「日伯経済合同委員会の件」、「輸出保険再開要請の件」
6月8日 「財務理事補充の件」、「1984年度下期会費調整の件」
7月10日 「通産省海外経済協力貢献者表彰の件」
8月10日 「ツクバ化学万博の件」、「ベレンーマナウス地方視察の件」
8月21日 「財務理事補充選挙の件」
9月24日 「副会頭補充選挙の件」、「日伯青年交流の件」
10月8日 「選挙規則の件」
10月16日 「選挙規則改正の件」
11月12日 「事務局職員増員の件」
11月20日 「ツクバ科学万博の件」
12月11日 「85年度第1四半期スケジュールの件」

理 事 会

- 1月10日 「84年度上期会費調整の件」
2月21日 「83年度事業・決算報告の件」、「84年度事業計画・予算の件」
5月15日 「専任理事補充選挙の件」
6月19日 「財務理事補充の件」、「84年度下期会費調整の件」
9月11日 「財務理事補充選挙の件」
10月16日 「副会頭補充選挙の件」

監 事 会

- 3月13日 「83年度事業・決算報告の件」、「84年度事業計画・予算の件」
8月13日 「定例監査の件」

11 月 13 日 「定例監査の件」

共催・後援・協力行事

1 月 31 日 業種別部会長懇談会

「83 年の回顧と 84 年の展望」

・ 司会 総務委員会委員長	別役道昌（カネボウ）
・ 紡績・繊維部会長	村松雅（東洋紡）
・ 金融・保険、証券部会長	綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）
・ 運輸・サービス部会長	岩崎仁志（大阪商船三井船舶）
・ 電気・電子部会長	後藤田信行（ローム電子工業）
・ 機械・金属・鉄鋼部会長	米倉邦彦（三菱重工業）
・ 建設・不動産部会長	坂本典雄（三井不動産）
・ 貿易部会長	八木竜朗（三井物産）
・ コンサルタント部会長	田中信（三和銀行）
・ 化学部会長	古賀功（三井肥料）
・ 食品部副会長	岸本允侃（サントリー・ド・ブラジル）

5 月 21 日 日伯経済合同委員会（於・東京）

一当初より小田副会長が出席

7 月 27 日 業種別部会長懇談会

「83 年の回顧と 84 年の展望」

・ 司会 総務委員会副委員長	難波慶二（豊和機械）
・ 紡績・繊維部会長	村松雅（東洋紡）
・ 金融・保険、証券部会長	綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）
・ 運輸・サービス部会長	岩崎仁志（大阪商船三井船舶）
・ 電気・電子部会長	後藤田信行（ローム電子工業）
・ 機械・金属・鉄鋼部副会長	難波慶二（豊和機械）
・ 建設・不動産部会長	坂本典雄（三井不動産）
・ 貿易部会長	八木竜朗（三井物産）
・ コンサルタント部副会長	上杉一雄（ジェトロ）
・ 化学部会長	古賀功（三井肥料）
・ 食品部会長	江坂雅雄（イグアスエ・

ソルベール)

- 7月31日 対日輸出促進セミナー（於・日銀講堂）
ーブラジル貿易管理局（CACEX）サンパウロ市部主催、
ジェトロ、当所協力
- 8月15日 第2回渡辺美智雄元大蔵大臣杯ゴルフ大会開催
- 9月5日 海上自衛隊練習艦隊歓迎会（於・文協、日系諸団体共催）
- 9月7日 石川要三、野上徹代議士来伯、常任理事と懇談
- 9月19日 小此木通産大臣歓迎昼食会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 11月6日 経団連ミッション歓迎昼食会（当所主催）
- 12月11日 常任理事による渡辺副会頭、佐藤専任理事歓送昼食会

委員会・部会の主な活動

一社会経済委員会

- 2月3日 講演会
テーマ：「本年度のブラジル経済の問題点と見通し」
講 師：アドロアルド・モウラ・ダ・シルバ（USP経済学部教授）

一輸出促進委員会

- 7月31日 対日輸出促進セミナー（於・日銀講堂）
ーブラジル貿易管理局（CACEX）サンパウロ支部主催、ジェトロ、当所協力
- 11月24日 講演会
テーマ：「ブラジルの輸出奨励制度の概要と最近の動向」
講 師：栗田諭（SECOMEX社役員）

一事業委員会

- 5月1日 ポッソ・デ・カウダス地方視察旅行
見学先：三井肥料社、セラネーゼ科学繊維、イタリアガラス工場、アルコアルミ精錬工場
- 10月24～27日 ベレン・マナウス地方視察旅行
見学先：AMASA、永大産業、アルブラス・アルノルテ、スプリングー・ナショナル、ホンダ・モーター

一渉外広報委員会

- 1月27日 講演会
 テーマ：「1983年の決算」
 講師：ジョアン・アルフレッド・ブランコ（アーサー・アンダーセン会計事務所）
- 3月15日 VASP社（サンパウロ航空会社）見学会
- 5月8～24日 ブラジル紹介セミナー開催
- ・開会式（5月8日）
 テーマ：「ブラジル人の生活様式」
 ゲスト：篠又幸市郎氏（アメリカラチーナ保険専務取締役）、青木チエコ氏（シーザー・パーク・ホテル役員）、大原ジゼーラ氏（伯国ニチメン社社長夫人）
 - ・映写会（同10日）
 テーマ：「ブラジルの経済」
 ゲスト：塚本雄一氏（FGV教授）
 - ・映写会（同15日）
 テーマ：「ブラジルの労働者」
 ゲスト：サトウヒロユキ氏（ブラジル機械工業協会、機械工業組合役員）
 - ・映写会（同17日）
 テーマ：「ブラジルの政治・社会構成」
 ゲスト：大原毅氏（サンパウロ日本国総領事館顧問弁護士）
 - ・映写会（同22日）
 テーマ：「ブラジル人の国民性」
 ゲスト：脇坂勝則氏（サンパウロ人文科学研究所理事）
 - ・閉会式（同24日）
 テーマ：「ブラジルの自然と社会」
 ゲスト：醍醐麻沙夫氏（作家）
- 8月10日 リメイラ地方工場見学会
 見学先：CITRO-SUCU オレンジジュース工場
- 9月13～27日 日本文化と企業活動セミナー
- ・開会式（9月13日）
 テーマ：「日本的経営の神話と現実」
 講師：塚本雄一（FGV教授）

- ・テーマ：「日本的経営システム私見」（同 18 日）
講 師：フランシスコ・デ・パウラ・リマ・フィー
リョ（BANESPA取締役補佐）
- ・テーマ：「神々の語る日本文化」（同 20 日）
講 師：中牧弘允（国立民族学博物館研究員）
- ・テーマ：「ブラジルにおけるQCサークル」
講 師：セルジユ・デイヒチアレフ（同 25 日）
（ブラジル・フォルクスワーゲンQCサークル・コーディネーター／サンパウロQCC
協会会長）

ー中小企業委員会

- 2 月 24 日 三豊社見学会
- 3 月 28 日 勉強会
テーマ：「最近の経済状況」 講師：田中信（三和銀行）
テーマ：「最近の和議倒産について」 講師：木多喜八郎
（弁護士）
- 4 月 27 日 勉強会
テーマ：「野村証券のバイタリティー」
講 師：東田直彦（ノムラプラス）
- 5 月 11 日 ユニチカ・テキスタイル工場見学会
- 7 月 25 日 勉強会
テーマ：「輸出景気を探る」
講 師：高村章介（丸紅）、小高孝一（三菱商事）、田内
裕（三井物産）
- 8 月 28 日 勉強会
テーマ：「住友銀行の効率経営」
講 師：佐藤正幸（ブラジルの住友銀行）
- 10 月 26 日 勉強会
テーマ：「ブラジルの政治の現状と見通し」
講 師：マリオ・羽藤（連邦下院議員）、赤嶺尚由（ソー
ルナッセンテ人材銀行代表）

ーコンサルタント部会

- 2 月 23 日 講演会
テーマ：「日本企業の海外戦略」
講 師：竹中征夫（ビート・マーウィック会計事務所）

- 6月29日 講演会
 テーマ：「民間専門家派遣に関する説明」
 講師：菅沼光城（海外貿易開発協会調査役）
- 8月29日 講演会
 テーマ：「経営と健康」
 講師：阿久津邦男（日本健康増進研究会会長）
- 8月31日 講演会
 テーマ：「経営と道德」
 講師：松波禧六（松波研究所所長）
- 9月14日 講演会
 テーマ：「外国人法と日系企業」
 講師：高田フェルナンド（リベルコン社社長）
- 10月3日 懇談会
 テーマ：「発展途上国における開発戦略」
 講師：村上敦（神戸大学経済経営研究所教授）

一金融部会

- 5月23日 講演会
 テーマ：「ブラジルの株式」
 講師：若松孝司（ソールナッセンテグループ代表）

一貿易部会

- 7月31日 対日輸出促進セミナー（於・日銀講堂）
 ーブラジル貿易管理局（CACEX）サンパウロ市部主催、
 ジェトロ、当所協力

一機械金属部会

- 5月29～30日 IBMスマレー工場見学会
- 6月20日 電気・電子部会との共催講演会
 テーマ：「輸出特典制度について」
 講師：プリモ・ロベルト・セガッテ（SETTEC社社長）

一電気・電子部会

- 9月26日 部会勉強会
 テーマ：「ブラジル労働法と解雇問題」
 講師：麦喜久男（会議所事務局編集部）

一繊維部会

- 4月4日? 講演会
テーマ：「ブラジルの繊維業界の現状」
講 師：ルイス・アメリコ・メディロス（ブラジル繊維工業審議会会長）

一食品部会

- 1月26日 勉強会
テーマ：「1983年の決算と税務対策」
講 師：星野清（等松青木会計事務所）
- 9月13日 部会勉強会
テーマ：「最近の労働事情」
講 師：佐藤弘之（豊和機械）

定例昼食会

- 1月10日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2月21日 定例会（於・カドーロ・ホテル）
- 3月20日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 4月17日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 5月15日 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
ゲスト：ジョゼ・エリ阿斯・ネット（外務省貿易促進局長代理）
- 6月19日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 7月17日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 8月21日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
ゲスト：エンダ・ダ・ノブレガ氏（パラツール総裁）
- 9月11日 定例会（於・日系パレスホテル）
ゲスト：シルビオ・M・バーロス（エマンツール代表）、
伊達邦美日本国大使
- 10月16日 定例会（於・カドーロ・ホテル）
ゲスト：水島義輝（広島日伯協会専務理事）
カルメン・ブルデンテ（ガン病院総裁）
- 11月20日 定例会（於・マックス・プラザ・ホテル）
ゲスト：セーザー・カルス・鉱山動力大臣
- 12月19日 忘年会（於・ブッフエ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 労働安全医療施行規則（１）
2. 労働安全医療施行規則（２）
3. マナウス自由地域基本法令集
4. ブラジル紹介セミナー
5. 外国人法と入国査証
6. ブラジルにおける外資規制
7. A CULTURA E O SISTEMA ADMINISTRATIVO JAPONES
8. JAPÃO – 1983–日本経済統計（ポ語版）
9. JAPÃO – TERRA E POVO（ポ語版実業のブ社）
10. ブラジル基礎情報集（JETRO）
11. 日本人語（ポ語版—caju）
12. ブラジルにおける日系進出企業・同投資先企業リスト

機関誌『ブラジル経済情報』（84 年主要記事）

1 月 15 日	624 号	史上最高の貿易黒字 64.91 億ドル、1984 年度ブラジル経済見通し
2 月 1 日	625 号	83 年度のブラジル国際収支、サンパウロ市 83 年度の拒絶証書・和議・倒産の統計、輸出特別金融の対象となるブラジルからの輸出商品リスト①、 ÚLTIMAS DECISÕES ECONÔMICAS E REPERCUSSÕES PARA 1984
2 月 15 日	626 号	ブラジル経済、83 年の回顧と 84 年の展望、商工会議所業種別部会長懇談会、LISTA DE ASSOCIADOS
3 月 1 日	627 号	CIP、ついに厳重な価格統制へ、ブラジル次期大統領選、なお流動的、輸出特別金融の対象となるブラジルからの輸出商品リスト②、 COMERCIALIZAR NO JAPÃO
3 月 15 日	628 号	高率インフレ抑制問題、実業界、企画庁の協力要望

に反発、高炉の火落ちる、コジッパ製鉄スト始末記、輸出特別金融の対象となるブラジルからの輸出商品リスト③、**A EDUCAÇÃO CIENTÍFICA E TECNOLÓGICA NO JAPÃO**

4月1日	629号	ブラジル、IMFに第5回目の趣意書、中銀、為替の集中管理を解除、ブラジル経済明暗こもごもの滑り出し、 A EDUCAÇÃO CIENTÍFICA E TECNOLÓGICA NO JAPÃO
4月15日	630号	4月、労働攻勢高まる、ブラジルの国際収支、通貨審、農業融資枠を決定、最近のブラジル経済状況、 A EDUCAÇÃO CIENTÍFICA E TECNOLÓGICA NO JAPÃO
5月1日	631号	ダンテ・オリベイラ案（大統領直選）葬られる、数字に見るBNHの危機、所感、日商会頭永野重雄、 PREIDENTE FIGUEIREDO NO JAPÃO
5月15日	632号	零細企業法、国会上程、新最低賃金、カンポス上議の情報産業自由化案、ポッソス・カルダス地方工業見学記、 O GERENCIAMENTO JAPONÊS EM PAÍSES ESTRANGEIROS
6月1日	633号	CMN、通貨引締め策の続行を確認、オープン、株式市場には刺激策も、ラ米4カ国、借金国のOPEC目指す、大統領選、中道を軸に動く、 INVESTIMENTOS JAPONESES INTERESSAM A PERNAMBUCO
6月15日	634号	フィゲイレード大統領の訪日成果、ペルナンブコ州と東北の経済、IBMスマレー工場見学記、 VIAGEM DO PRESIDENTE AO JAPÃO
7月1日	635号	借金国OPECは一応見送り、タンクレードとマルフSEI新長官、国内情報産業政策を明確化、ミニコンとマイコンには100年の国内市場保護も、 COMITE EMPRESARIAL MISTO BRASIL-JAPÃO
7月15日	636号	農産物輸出入の自由化打ち出す、 上半期出超記録

的 60.26 億ドル、ユニチカ・アメリカーナ工場見学記、O JAPÃO (TRES PODERES)

8 月 1 日	637 号	年内インフレ抑制は望み薄、賃金法は死文化、 国内市場保護 8 年、政府情報産業法案を国会に上程、 O JAPÃO – A ECONOMIA – TSUKUBA EXPO’ 85
8 月 15 日	638 号	ブラジル経済、84 年の上半期回顧と下半期の展望、 商工会議所の業種別部会長懇談会、 O JAPÃO, ECONOMIA, CIENCIA E TECNOLOGIA
9 月 1 日	639 号	85 年度連邦一般予算案、82 兆 3163 億 CR \$、 部 会長懇談会の続き、RELAÇÃO ENTRE BRASIL E O JAPÃO – DIPLOMATICAS
9 月 15 日	640 号	前バイア州知事、公然とマルフと軍部を批判、 CMN 一括措置、通貨引締め、輸入規制緩和、輸出 補助は漸減、RELAÇÃO ENTRE O BRASIL E O JAPÃO – ECONOMICAS
10 月 1 日	641 号	陸・空相、反対派に警告、マルフの挽回、 賃金調 整法 DL2065 号の終わり、難航する国家情報産業計 画案、経済デスインデクセーションの興隆と没落、 RELAÇÃO ENTRE O BRASIL E O JAPÃO – CIENTIFICO, CULTURAL
10 月 15 日	642 号	下院、賃金調整法案を可決、INPC の 100% と 80% の二層に絞る、上院両院、国家情報産業基本政策案 を 可 決 、 REVISTA EXAME, MELHORES E MAIORES – KANEBO E NGK
11 月 1 日	643 号	年内に輸入全面自由化を図る、企業の不安にも政府 は強行の構え、CULTURA E TECNOLOGIA – CÂMARA COLABORANDO COM USP
11 月 15 日	644 号	最低賃金 CR\$166.560、全国一律に、RELAÇÕES GERENCIAIS TRABALHISTAS NO JAPÃO
12 月 1 日	645 号	石油とカラジヤス総合開発計画、カルス鉱動相の講 演、GRUPO EMPRESARIAL DE CÂMARA EM VISITA A BELEM-MANAUS

12月15日 646号 来年の効率インフレ見込み企業、85年度ブラジル輸入指針定まる、REFLETINDO - FUJIO TACHIBANA

1985年

1985年1月、21年ぶりに実施された民政移管選挙で、野党側タンクレード・ネーベス候補が当選した。同氏は有能かつ誠実な政治家として、国民の間で高い人気を得ており、新しい共和国の発足にふさわしい大統領が誕生したかに見えた。しかし、新大統領は3月の就任前日に病に倒れ、4月21日、7回の手術も甲斐なく死去した。翌日新大統領にはサルネイ副大統領が昇格したが、新大統領は前与党から分派した勢力の代表で支持基盤は弱く、新政権は発足早々重大な試練に立たされた。

各政党や軍部はサルネイ政権への支持を表明しており、また新大統領も人望の厚いネーヴェス故大統領の選んだ閣僚をそのまま任命するとともに、国民の最大関心ごとの一つである直接国民選挙に向けて、6年から4年への大統領任期の短縮を発表するなど柔軟な姿勢を見せているが、群政権下での開発成長路線のひずみから生じた社会的不均衡の是正や対外債務問題の処理など、新政権の前途は厳しい。また民政移管とともにストライキが頻発。サンパウロの金属労働者が四半期ごとの賃金引き上げと労働時間短縮の要求を掲げたストライキは、郵便、運輸、農業など他分野へも広がりを見せ、85年6月初めまで約40日間以上も続くかつてない大規模なものになった。政府は最低賃金を約2倍に引き上げ、下層階級を優遇する一方、労働相の精力的な調整活動によりストライキは沈静化した。

債務問題は、「成長と両立する返済」を交渉の基本に据えるとともに、IMFの経済政策モニタリングの排除という強硬路線を打ち出した。85年8月にはIMFとの協調を進めようとしたドルネイレズ蔵相を更迭し、合意間近とみられた外国銀行団との多年度一括繰り延べも暗礁に乗り上げた。ブラジル側は金利の返済を履行していることもあり、85年8月、86年1月に外銀団から短期クレジットライン（約160億ドル）の維持を取り付けた。

85年のGDPは農業生産増大と旺盛な内需に対応した製造業活動により8.3%（中銀暫定値）の急成長となった。最低賃金は85年5月以降上昇に転じ、12月には前年同期比7.4%増となった。失業率も84年12月4.8%、85年1月6.1%から着実に低下し、85年12月には3.2%となった。この消費ブームから製造業は前年比9%増と続伸、生産指数ベースでみると、耐久消費財は84年の7.4%減から15.1%増へと大きく回復した。

一方インフレは新政権になり価格統制を強化し、また通貨価値修正法式を前3カ月の平均インフレ率とするなどの政策が奏功し、一時月間7%台まで鎮静化。しかし、統制が緩和され公共料金の値上げが相次ぐ一方通貨供給が拡大。85年末で前年比233.6%だった。

85年の輸出入は前年比5.1%減、5.4%減と下回ったが、124億7100万ドルの貿易黒字を計上。貿易外収支は金利の低下により利子支払いが前年比6.0%減の95億8900万ドルとなった。経常収支の黒字は84年を46.8%下回ったが、2億7500万ドルを維持した。資本収支は84年に64億ドルが計上された外国商業銀行による新規ローンが皆無となったため、黒字幅は84年の61億1400万ドルから2億6800万ドルへと縮小した。

85年の日本の対ブラジル輸出は前年比3.9%減の6億1488万ドルと、82年以降の縮小傾向が続いた。輸入も一次産品市況の低迷やブラジルの内需回復などにより同7.6%減の18億4022万ドルにとどまった。日本の入超幅は同9.3%減の12億2500万ドルとなった。

役員名簿（85年12月末日現在）

名誉会頭：橘富士雄

顧問 問：羽瀬作良、広川郁三、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：別役道昌（鐘紡ブラジル）

副 会 頭：後藤隆（ブラジル・ヤンマー）、小林利郎（ブラジル東京銀行）、池田昌之（ブラジル三井物産）、吉田揚助（南米銀行）

専任理事：柏木信郎（南米安田保険）、甘千哲夫（アメリカ・ラチーナ保険）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：加藤治男（ブラジル住友商事）、難波慶二（豊和機械）、大原惇（ブラジル・ニチメン）、小堀元爾（ブラジル三菱銀行）

委員会

渉外広報委員会：池田昌之（ブラジル三井物産）

行動基準委員会：甘千哲夫（アメリカ・ラチーナ保険）

社会経済委員会：小林利郎（ブラジル東京銀行）

日伯法律委員会：吉田揚助（南米銀行）

輸出促進委員会：小田敏夫（三菱コーポレーション・ド・ブラジル）

事業委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）

中小企業委員会：竹中正（竹中商会）

総務委員会：後藤隆（ヤンマー・ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：山田唯資（アイコン・インターナショナル）
金融部会：小堀元爾（ブラジル三菱銀行）
貿易部会：小堀清次（伯国三菱商事）
機械金属部会：中村行男（石川島ブラジル造船所）
電気電子部会：本田睦友（ソニー・ド・ブラジル）
化学部会：古賀功（三井肥料）
運輸サービス部会：本永群起（ツニブラ日伯交通社）
繊維部会：村松雅（東洋紡ブラジル）
食品部会：小山豊（味の素・インテル・アメリカーナ）
建設不動産部会：逸見村（ボビエル協和電設）

85年度理事会及び監事会

理 事

1. 南米リース	坂口 孟
2. アメリカ・ラチーナ保険	廿千 哲夫
3. アミノ商会	網野 弥太郎
4. 南米銀行	吉田 揚助
5. ブラデスコ銀行	徳永 和弘
6. 南米投資銀行	瀬川 正文
7. ブラジル三菱銀行	小堀 元爾
8. ブラジル住友銀行	酒井 醇
9. ブラジル東京銀行	小林 利郎
10. 伊藤忠ブラジル	本庄 谷礼介
11. C B C 重工	押切 フラビオ 壮
12. ブラジル特殊陶業	成富 武典
13. クレアズール南米信託	鈴木 明
14. 南米安田保険	柏木 信郎
15. コチア産業中央会	井上 忠志
16. コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル	洲崎 宏通
17. 大同コーポレーション・ド・ブラジル	久晃 一
18. ダイワボウ・ブラジル	瀬口 芳穂
19. 三井肥料	古賀 功
20. 鐘紡ブラジル	別役 道昌
21. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	布施 尚一

22.	古河電気工業	新井道夫
23.	豊和機械	難波慶二
24.	東山農産加工	田中福蔵
25.	サドキン電球工業	原田博
26.	日本航空サンパウロ支店	山下陽平
27.	ジェトロ	福岡衛
28.	兼松江商ブラジル	田畑浩司
29.	丸紅ブラジル	沢田哲男
30.	メタルジカ・シンクロナイズ	岡本文郎
31.	伯国三菱重工業	原田義太郎
32.	三菱コーポレーション・ド・ブラジル	小堀清次
33.	三井銀行サンパウロ駐在員事務所	香西啓助
34.	ブラジル三井物産	池田昌之
35.	大阪商船三井船舶	矢部浩
36.	ブラジル日本電気	川辺勝
37.	ブラジル・ニチメン	大原惇
38.	日商岩井ブラジル	佐々木敬
39.	ブラジル日清紡	横溝弘史
40.	N S K・ド・ブラジル	後藤金昭
41.	三和銀行	徳永和弘
42.	ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
43.	スバル商工	中村和右
44.	ブラジル住友商事	加藤治男
45.	竹中商会	竹中正
46.	東芝・ド・ブラジル	山崎章
47.	東洋紡ブラジル	村松雅
48.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
49.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50.	ブラジル・ヤンマー	後藤隆

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・ コンサルタント・アソシエイト
2.	東島信明	安田信託銀行
3.	山田洋右	大正・ド・ブラジル

85年度事業報告

総 会

- 2月21日 臨時総会
「選挙規則の件」
- 3月19日 第35回定期総会
「84年度事業報告並びに決算報告の件」、「監事報告の件」、「理事・監事選挙結果発表及び任命」
- 4月22日 臨時総会
「85年度事業計画並びに予算案審議」、「その他の件」

常任理事会

- 1月18日 「選挙規則改正の件」、「臨時総会開催の件」
- 2月7日 「タンクレード新大統領祝賀会開催に関する件」
- 2月15日 「84年度事業報告及び決算報告案審議の件」
- 3月19日 「84年度事業・決算報告案に関する監事意見書の件」
「常任理事選挙管理委員選出の件」
- 3月25日 「85年度予算指数の審議」、「設備、備品拡充の件」
- 4月8日 「85年度事業計画並びに予算案審議」、「理事会提案事項審議」
- 5月21日 「新入退会員審議」、「ユニバーシアード神戸大会スポンサー協力の件」
- 6月18日 「新入退会員審議」、「サルネイ大統領招請の件」
- 7月16日 「新入退会員審議」、「通産大臣表彰の件」
- 8月6日 「新入退会員審議」、「通産大臣表彰の件」、「副会頭補充の件」
- 9月17日 「新入退会員審議」、「本年度上期決算報告」
- 10月15日 「新入退会員審議」、「財務理事補充の件」、「本年度上半期決算報告」、「事務所家賃調整の件」
- 11月1日 「バジアノット労相歓迎会の件」、「当所所有不動産整理の件」
- 11月19日 「表彰制度の件」、「事務局担当理事の件」、「職員給与の件」
- 12月13日 「新入退会員審議」、「会費調整方法改正案審議」、「事務局人事の件」、「公認会計士に関する件」

理 事 会

- 1月22日 「選挙規則改正の件」、「臨時総会開催の件」
- 2月21日 「84年度事業報告及び決算報告案審議の件」
- 4月22日 「85年度事業計画並びに予算案審議」
- 9月17日 「副会頭補充の件」

- 小田敏夫（伯国三菱商事）の後任副会頭として後藤隆氏（ヤンマー・ド・ブラジル）が就任
- 10月15日 「専任理事補充の件」
 ——後藤隆氏（ヤンマー・ド・ブラジル）、綿辺文紹氏（ブラジル三菱銀行）の後任専任理事として、柏木信郎氏（南米安田保険）、甘千哲夫氏（アメリカ・ラチーナ保険）が就任
- 11月19日 「財務理事補充の件」
 ——柏木信郎氏（南米安田保険）の後任財務理事として小堀元爾氏（ブラジル三菱銀行）が就任
 「会議所不動産物件整理の件」

監 事 会

- 2月28日 「84年度会計報告監査並びに監事意見書作成の件」
- 8月30日 「定例会計監査の件」
- 12月9日 「定例会計監査会」

そ の 他

- 1月11日 選挙規則再検討チーム打ち合わせ
- 1月15日 会計資料並びに会計監査のシステム化検討会議

共催・後援・協力行事

- 1月28日 「生産管理セミナー」
 （海外技術研修協会及び松下電気グループ共催、当所後援）
- 1月31日 業種別部会長懇談会
 「84年の回顧と85年の展望」
- | | |
|---------------|----------------|
| ・ 司会 総務委員会委員長 | 難波慶二（豊和機械） |
| ・ 紡績・繊維部副会長 | 富永悦夫（ファンテックス） |
| ・ 金融・保険、証券部会長 | 綿辺文紹（ブラジル三菱銀行） |
| ・ 運輸・サービス部会長 | 岩崎仁志（大阪商船三井船舶） |
| ・ 電気・電子部会長 | 後藤田信行（ローム電子工業） |
| ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 | 米倉邦彦（三菱重工業） |
| ・ 建設・不動産部会長 | 坂本典雄（三井不動産） |
| ・ 貿易部副会長 | 上杉一雄（ジェトロ） |

- ・ コンサルタント部会長 田中信（三和銀行）
- ・ 化学部会長 古賀功（三井肥料）
- ・ 食品部副会長 尾関與之助（コチア産業組合）

- 2月1日 インダストリーツアー実施
見学先：東洋紡アメリカナ工場
- 3月12日 時局講演会（於・マックスロード・プラザ・ホテル）
 - ・ テーマ：「今後の世界情勢と日米伯の関係」
講 師：那須聖（外交評論家）
 - ・ テーマ：「中南米における日本人の役割」
講 師：小山田秀生（文明評論家）
- 3月19日 福田赳夫元総理御一行歓迎会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 3月22日 作家・三好徹氏を囲む夕食懇談会（於・サントリー・レストラン）
- 3月26日 ジョージ・パッカード氏（北米ジョン・ポプキンス大学学長）との懇談会（日系諸団体共催）
- 5月2日 リーラ・コーパスサンパウロ市長夫人主宰チャリティーディナーショー
（於・ブッフエ・コロニアル）
- 5月2日 フジテレビ番組『世相を斬る』のビデオ録画撮り（於・カンピーナス東山農場）——竹村健一氏、堺屋太一氏、渡部昇一氏、牛尾治郎氏とともに、当所から広川顧問、別役会頭が出席
- 5月3日 竹村健一氏、堺屋太一氏、渡部昇一氏、牛尾治郎氏の4氏による文化講演会（JAL、フジテレビ共催、当所後援）
- 5月8日 パラー日系商工会議所創立記念パーティー
- 7月31日 業種別部会長懇談会
「85年上半期回顧と下半期展望」
 - ・ 司会 総務委員会委員長 後藤隆（ヤンマー）
 - ・ 紡績・繊維部会長 村松雅（東洋紡）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 綿辺文紹（ブラジル三菱銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 岩崎仁志（大阪商船三井船舶）
 - ・ 電気・電子部会長 本田睦友（ソニー）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 中村行男（石川島ブラジル造船所）

- ・ 建設・不動産部会長 逸見村（ボビエル協和電設）
 - ・ 貿易部会長 小堀清次（三菱商事）
 - ・ コンサルタント部会長 山田唯資（アイコン・インターナショナル）
 - ・ 化学部会長 古賀功（三井肥料）
 - ・ 食品部会長 小山豊（味の素・インテルアメリカナ）
- 8月9日 渡辺元大蔵大臣杯ゴルフコンペ（於・PLGC）
- 10月1日 安部外務大臣御夫妻一行来伯歓迎会（於・サロン協栄、日系4団体共催）
- 11月27日 水処理セミナー（CETESB、日本造水促進センター共催、ジェトロ、当所後援）

委員会・部会の主な活動

一事業委員会

- 6月21～22日 「上期地方視察旅行」
見学先：フィアット社（ミナス・ダ・セーラ・ジエラル）等

一渉外広報委員会

- 2月1日 講演会
テーマ：「1985年の税制改正点」
講師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
- 7月25日 工場見学会
見学先：スザノセルローズ、行徳セラミック
- 9月24日～ 日本文化と企業活動セミナー
- 10月4日 「日本の文化と経営」セミナー最終回
講師：色摩総領事
- 12月5日 工場見学会
見学先：味の素、プラーダ工商

一中小企業委員会

- 2月26日 月例勉強会
テーマ：「零細企業法について」
講師：鈴木信男（会議所事務局）
- 4月29日 月例勉強会

- 5月23日
 テーマ：「日本的経営のブラジルへの適応」
 講師：成富武典（ブラジル特殊陶業）
 月例勉強会
 テーマ：「大企業経営と中小企業経営」
 講師：菅原利郎（ユニチカ・ド・ブラジル、ブラスコット・リミターダ）
- 6月26日
 月例勉強会
 テーマ：「三豊の経営理念とブラジルの実践」
 講師：佐々木寛（ブラジル三豊）
- 8月28日
 月例勉強会
 テーマ：「リース取引の利用について」
 講師：坂口孟（南米リース）
- 9月27日
 月例勉強会
 テーマ：「電子部品工業のQCC及び輸出に関する懇談会」
 講師：後藤田信行（ローム電子工業）
- 10月31日
 月例勉強会
 テーマ：「日本政府は中小企業をどう育成しているか」
 講師：若松孝司（ソールナッセンテグループ）

ーコンサルタント部会

- 7月31日
 金融部会との共催による講演会
 テーマ：「ブラジル日系企業に期待するもの」
 講師：大森弘（近畿大学教授）
- 8月9日
 講演会
 テーマ：「多国籍企業の外国人に対する移民局のポジションについて」
 講師：ニバルド・ジョゼ・ポージオ（労働省移民局長）
- 9月26日
 講演会
 テーマ：「ブラジル東洋紡の経営を通じて得た体験から、現在の進出企業のトップに贈る」
 講師：大谷一二（元ブラジル東洋紡社長、現東洋紡相談役）

ー金融部会

- 7月31日
 コンサルタント部会との共催による講演会
 テーマ：「ブラジル日系企業に期待するもの」

11月25日 講師：大森弘（近畿大学教授）
講演会
テーマ：「日本経済の現状と展望」
講師：内藤暁彦（三菱銀行本社調査部長）

一機械金属部会

8月15日 工場見学会
見学先：ジャネラル・モータースサンジョゼ工場
9月26日 講演会
テーマ：「ブラジル自動車産業の現状と将来」
講師：ウォルフ・ガング・サウエル（フォルクスワーゲン・ド・ブラジル社長）

一繊維部会

3月5日 講演会
テーマ：「日本及び世界の繊維業界動向」
講師：浜口光弘（大阪繊維情報）

一食品部会

9月4日 サンパウロ穀物取引所見学会
11月20日 ワイン入門セミナー
「オリエンテーションと賞味の仕方」
講師：大西康之（サントリー・ド・ブラジル）

定例昼食会

1月10日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月21日 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
4月12日 定例会（於・マックスード・プラザ・ホテル）
5月21日 定例会（於・カドーロ・ホテル）
6月18日 定例会（於・マックスード・プラザ・ホテル）
ゲスト：森田三夫氏（大阪国際見本市委員会国際部業務計画部長）
7月16日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
8月20日 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
ゲスト：中村健自氏（東海TV社長）
9月17日 定例会（於・buffet・コロニアル）

	ゲスト：篠原三代平氏（アジア経済研究所会長）
10月15日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
11月22日	定例会（於・トランス・アトランチカ・クラブ）
12月17日	忘年会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. O MÉTODO JAPONES
2. ミクロ・エンプレザ法
3. 新政権のプロフィール
4. 情報産業基本法
5. プロトコール儀典・席次のきまり
6. 新共和国第1次経済開発計画概要
7. 最新ブラジル輸入の手続き
8. サンパウロに暮らす

機関誌『ブラジル経済情報』（85年主要記事）

1月15日	647号	タンクレード候補大統領当選、零細企業法国会を通過、RETROSPECTIVA 84
2月1日	648号	第7次インテンションレター、59年度経済協力貢献者被表彰者紹介、A EXPANSÃO ECONÔMICA CONTINUA NO JAPÃO
2月15日	649号	業種別部会長懇談会、ブラジル経済84年回顧と85年の展望、A EXPANSÃO ECONÔMICA CONTINUA NO JAPÃO
3月1日	650号	対伯再建多年度交渉は新政府と、第7次インテンションレター続、A ELEIÇÃO DEMOCRÁTICA DO COLEGIO ELEITORAL-15/01/85
3月15日	651号	タンクレード民主政権の発足、ブラジルの84年貿易、MONETARISMO NO PROXIMO GOVERNO
4月1日	652号	金融投機の封じ込め、ブラジル日本商工会議所85/86年度理事及び監事紹介、家庭電気・電子製品売り上げ事情、CONTAS EXTERNAS DO BRASIL - 1984年

4 月 15 日	653 号	団体労働契約の改定交渉、ブラジル日本商工会議所会 頭交代挨拶、1985／86 年度常任理事紹介、NOVA DIRETORIA EXECUTIVA
5 月 1 日	654 号	サルネイ政権の実質的発足、タンクレードの死と情報 操作、ブラジル日本商工会議所受け入れ文献目録
5 月 15 日	655 号	4 月インフレ 7.2%の背景、発展途上国に対する投資 行動指針の再確認、新最低賃金、FUJIO TACHIBANA: UMA VIDA DE CONQUISTAS
6 月 1 日	656 号	経済政策基本指針探求、新労働関係調整法原案、 EXPORTAÇÕES BRASILEIRAS – 84
6 月 15 日	657 号	国営企業体の投資カット案、サルネイ政権安定の秘 密、インフレの分析、A ERA DOS ROBOS - TSUKUBA
7 月 1 日	658 号	経済全体を包む圧縮ムード、ペロ・オリゾンテ企業視 察記、RESUMO DA ENTREVISTA COLETIVA DO PRESIDENTE SARNEY
7 月 15 日	659 号	IMF 交渉に関わる下半期、日本油脂協会の南米大豆調 査団報告、INVESTIMENTOS EXTERNOS NO BRASIL
8 月 1 日	660 号	価格統制の緩和、7 月のインフレ 8.9% NAS PEQUENAS CAUSAS “A NOVA JUSTIÇA”
8 月 15 日	661 号	ブラジル経済 85 年上半期回顧と下半期展望、業種別 部会長懇談会、VISITA AS INDÚSTRIAS DE SUZANO
9 月 1 日	662 号	内閣改造、蔵相更迭、新蔵相の横顔、COMENTARIOS SOBRE A PRORROGAÇÃO CONTRATUAL E O REAJUSTAMENTO DO ALUGUEL NAS LOCAÇÕES RESIDENCIAIS
特別号		業種別部会長懇談会続
9 月 15 日	663 号	フナロ蔵相の抱負、ニューマネー導入論、政府エコノ ミストの学閥の意見調整こそ試練、TENDÊNCIA E PERSPECTATIVA DA ECONOMIA BRASILEIRA(1)
10 月 1 日	664 号	工業製品輸出通減の問題化、ブラジルの学閥、日伯青

		年指導者交流計画参加者報告、TENDÊNCIA E PERSPECTATIVA DA ECONOMIA BRASILEIRA
10月15日	665号	IMFのコンフィデンシアル情報、日伯青年指導者交流計画参加者報告、入国査証に関する移民局長からの審査基準説明、INDICADOR ECONOMICO DO SETOR ELETRO- ELETRONICO
11月1日	666号	政府支出の節約と増税、入国査証に関する移民局長からの審査基準説明続、鉱産物と製鉄、O BRASIL E A INDÚSTRIA AUTOMOBILISTICA
11月15日	667号	86年度国内経済計画の骨子、入国査証に関する移民局長からの審査基準説明完、O BRASIL E A INDÚSTRIA AUTOMOBILISTICA
12月1日	668号	中銀による3銀行強制清算指定、清算指定を受けた銀行の63号債務責任、新最低賃金、CONTAS EXTERNAS DO BRASIL
12月15日	669号	広範囲消費者物価指数 IPCA、リメイラ市の2工場見学記、VISITA DO MINISTRO ABE AO BRASIL

1986年

インフレは、価格統制の強化や通貨価値修正法の見直し、新指標の設定などを講じたものの、1985年末から86年初にかけ高騰し、1月には月間16%と最悪となり、新政権は抜本的な対応を迫られた。

86年2月28日にクルザード・プランが発表された。価格凍結、賃金の抑制、通貨価値修正法式の廃止、デノミ、為替の固定などの施策を打ち出したもの。国民は政策を支持し、労働組合も一次実質賃金切り下げに反発したものの示威行動に移らなかった。結局施策は失敗し、87年2月には債務利払い停止に追い込まれた。また、85年11月の市長選における重要州都での与党の敗北や86年2月の内閣改造などから、与党連合内で生じていた不和が解消され、早期直接大統領選などを要求していた左翼政党の動きも鎮静化した。

ブラジル経済は、85年の8.3%に続いて86年も8.2%（暫定）の高成長を遂げた。これは実質賃金の上昇と雇用の拡大による消費の拡大が主因である。サンパウロ工業地帯の実質賃金は平均して前年を6～8%前後上回り、また主要6大都市の失業率は前年の平均5.3%～3.6%へ改善した。これにより国民の消費購買力は拡大し、全国の商業売上高は実質26.7%増大した。

86年のインフレ率は58.6%と前年の239%を大きく下回った。この成果から、86年11月14日に実施された制憲議会議員および州知事選挙では、与党のPMDBが両院で過半数、知事では23州中22州を制するほどの圧勝につながった。しかし、国庫財政収支は公共料金凍結などの歳入の減少が見込まれた中で実効のある歳出縮減策が打ち出されず、前年の黒字から86年は1061億クルザードの赤字に転落した。

86年後半から市場では物不足や闇値の横行などの弊害が顕著となった。自動車産業などは部品不足から生産に大きな支障が生じ、過熱需要と相まって物価凍結対象外の中古車価格が新車価格を上回る現象が生じた。政府は、86年7月に消費抑制、財政改善策を発表したが、過熱消費は沈静化せず、選挙後の11月24日に公共料金や自動車価格の大幅な引き上げ及び賃金改定の指標となるインフレ算定方式の変更などを発表した。しかし、この措置はかえって国民の政府への信頼感を失わせることになり、インフレの先行き更新を予想させる中で、貸出金利は年率1000%を超える状況が出現した。

86年の輸出は前年比12.7%減の223億9300万ドルであったが、年前半の月間20億ドル台から10月以降13億ドル前後に急落した。輸入は140億4400万ドルと、同6.8%増に拡大したため、貿易黒字は33.1%減の83億4900万ドルへ急減した。輸出急落の要因としては、一次産品市況の全般的な停滞や農産物の減産と内需過熱による輸出品の品不足、為替レートの固定による競争力

の低下などが挙げられる。しかし、10月以降を見ると一次産品、工業製品ともに前年同期比約46%減と同率で落ち込んでおり、為替面での影響がみられる。

貿易外収支は対外債務の利払いは金利の低下により、85年の112億3900万ドルから100億5400万ドルに減少した。貿易外収支の赤字は1%増の124億6300万ドルと前年並みとなった。

86年の日本の対ブラジルへの輸出は前年比58.3%増の9億7311万ドルへ急増した。円ベースでも11.3%増であり、円高によるドル価格の膨張に加えて現地経済の活況が輸出拡大をもたらした。日本の輸出は現地子会社との取引が多いこと、品質面などで日本製品への依存が高いことなどから、86年中は円高による輸出減退の影響は現れなかった。他方、日本の輸入は前年比1.9%増の18億7463万ドルとほぼ横ばい。貿易収支は日本側の入超が続いているが、86年の入超幅は26.4%減の9億152万ドルへと縮小した。

役員名簿（86年12月末日現在）

名誉会頭：橘富士雄

顧問：広川郁三、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：別役道昌（鐘紡ブラジル）

副会頭：後藤隆（ブラジル・ヤンマー）、小林利郎（ブラジル東京銀行）、小堀清次（伯国三菱商事）、吉田揚助（南米銀行）

専任理事：小堀元爾（ブラジル三菱銀行）、難波慶二（豊和機械）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：古賀功（三井肥料）、加藤治男（ブラジル住友商事）、大原惇（ブラジル・ニチメン）、竹原順三郎（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）

委員会

渉外広報委員会：小林利郎（ブラジル東京銀行）

行動基準委員会：難波慶二（豊和機械）

社会経済委員会：小堀清次（伯国三菱商事）

日伯法律委員会：吉田揚助（南米銀行）

輸出促進委員会：大原惇（ブラジル・ニチメン）

事業委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）
中小企業委員会：竹中正（竹中商会）
総務委員会：後藤隆（ヤンマー・ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：山田唯資（アイコン・インターナショナル）
金融部会：小堀元爾（ブラジル三菱銀行）
貿易部会：小堀清次（伯国三菱商事）
機械金属部会：久晃一（大同コーポレーション）
電気電子部会：本田睦友（ソニー・ド・ブラジル）
化学部会：古賀功（三井肥料）
運輸サービス部会：本永群起（ツニブラ日伯交通社）
繊維部会：村松雅（東洋紡ブラジル）
食品部会：小山豊（味の素・インテル・アメリカーナ）
建設不動産部会：逸見村（ボビエル協和電設）

8 6 年度理事会及び監事会

理 事

1. 南米リース	坂口 孟
2. アメリカ・ラチーナ保険	三瓶 昭一
3. アミノ商会	網野 弥太郎
4. 南米銀行	吉田 揚助
5. ブラデスコ銀行	小宮 武夫
6. 南米投資銀行	瀬川 正文
7. ブラジル三菱銀行	小堀 元爾
8. ブラジル住友銀行	酒井 醇
9. ブラジル東京銀行	小林 利郎
10. 伊藤忠ブラジル	本庄 谷礼介
11. C B C 重工	押切 フラビオ 壮
12. ブラジル特殊陶業	成富 武典
13. クレアズール南米信託	伝田 耕平
14. 南米安田保険	西井 国雄
15. コチア産業中央会	井上 忠志
16. コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル	洲崎 宏通
17. 大同コーポレーション・ド・ブラジル	久晃 一

18.	ダイワボウ・ブラジル	瀬口芳穂
19.	三井肥料	古賀功
20.	鐘紡ブラジル	別役道昌
21.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	竹原順三郎
22.	古河電気工業	柴田幸次郎
23.	豊和機械	難波慶二
24.	東山農産加工	田中福蔵
25.	サドキン電球工業	原田博
26.	日本航空サンパウロ支店	山下陽平
27.	ジェトロ	福岡衛
28.	兼松江商ブラジル	田畑浩司
29.	丸紅ブラジル	沢田哲男
30.	メタルジカ・シンクロナイズ	岡本文郎
31.	伯国三菱重工業	原田義太郎
32.	伯国三菱商事	小堀清次
33.	三井銀行サンパウロ駐在員事務所	香西啓助
34.	ブラジル三井物産	船橋銓
35.	大阪商船三井船舶	矢部浩
36.	ブラジル日本電気	菊池久英
37.	ブラジル・ニチメン	大原惇
38.	日商岩井ブラジル	佐々木敬
39.	ブラジル日清紡	横溝弘史
40.	NSK・ド・ブラジル	後藤金昭
41.	三和銀行	八尋一洋
42.	ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
43.	スバル商工	中村和右
44.	ブラジル住友商事	加藤治男
45.	竹中商会	竹中正
46.	東芝・ド・ブラジル	山崎章
47.	東洋紡ブラジル	村松雅
48.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
49.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎
50.	ブラジル・ヤンマー	後藤隆

監 事

1、 山田唯資

アイコン・インターナショナル・
コンサルタント・アソシエイト

- 2、 東島信明
3、 山田洋右

安田信託銀行
大正・ド・ブラジル

8 6 年度事業報告

総 会

- 3 月 21 日 第 36 回定期総会
「85 年事業報告並びに決算（案）審議・承認の件」
「86 年事業計画並びに予算（案）審議・承認の件」

常任理事会

- 1 月 10 日 「総会までの行事日程（案）審議の件」、「新年度予算の経済指数設定（案）審議の件」
「機関誌—ブラジル経済情報発刊責任者指名の件」、「下期会費調整に関する件」
「日伯経済合同委員会開催日程調整の件」
- 2 月 18 日 「85 年事業報告並びに 86 年事業計画（案）審議の件」
「86 年度予算（案）審議の件」、「事務局職員給与調整（案）審議の件」
「経団連ミッション歓迎会スケジュールの件」
- 3 月 11 日 「1986 年度予算修正（クルザード計画実施に伴う）案審議の件」
- 4 月 15 日 「新入退会員審議の件」、「事務局職員給与調整の件」
- 5 月 20 日 「新入退会員審議の件」、「企画庁要請事項に関する部会長会議実施日程案審議の件」
「通産大臣 61 年度表彰に関する被推薦者選考の件」、「下期会議調整案審議の件」
- 6 月 17 日 「新入退会員審議の件」、「NEC DO BRASIL 問題の件」、「日健問題の件」
「コロニア諸団体共催事項の件」
- 6 月 26 日 「NEC DO BRASIL 対策の件」、「中南米大使会議歓迎会開催の件」
- 7 月 15 日 「サルネイ大統領表敬訪問に関する件」、「NEC DO BRASIL 問題結果報告に関する件」
- 8 月 15 日 「入退会員審議の件」、「常任理事補充選挙日程案審議の件」、「上期決算報告」
- 9 月 5 日 「常任理事補充選挙の件」、「委員会委員長人事の件」、「常陸宮

- 妃殿下御来伯歓迎の件」
「上田神戸名誉領事来伯歓迎会共催の件」、「神戸大学学術調査団の件」
9月30日 「会費調整法改訂の件」、「委員会委員長人事の件」、「事務局担当理事人事の件」
「日系物産展後援の件」
10月21日 「サヤジ企画大臣訪日と対日本政府要望事項に関する件」
12月15日 「新入退会員審査の件」、「工業移住者協会からの要望に関する件」
「日系コロニア 80 周年記念祝典挙行企画準備委員会の件」
「日伯中小企業協会（仮称）設立案に関する件」

理 事 会

- 2月18日 「1985 年度事業報告並びに決算報告審議の件」
「1986 年度事業計画並びに予算案審議の件」
3月21日 「81986 年度予算修正案（クルザード計画実施に伴い）審議の件」
6月16日 「常任理事補充選挙の件」
—— 池田昌之副会頭（ブラジル三井物産）の後任として、小堀清次氏が就任。甘千哲夫専任理事（アメリカラチーナ保険）並びに柏木信郎専任理事（南米安田保険）の後任として、小堀元爾氏（ブラジル三菱銀行）並びに難波慶二（豊和機械）が就任
9月30日 「常任理事補充選挙の件」
—— 小堀元爾、難波慶二財務理事の後任として古賀功氏（三井肥料）並びに竹原順三郎氏（富士銀行サンパウロ駐在事務所）が就任
11月18日 「新年度会費調整の件」

監 事 会

- 3月11日 「1985 年度会計報告監査並びに監事意見書作成の件」
4月22日 「第 1 四半期の会計監査並びに監査方法検討の件」

共催・後援・協力行事

- 1月30日 業種別部会長懇談会
「85 年回顧と 86 年展望」
・ 司会 総務委員会委員長 後藤隆（ヤンマー）

	・ 紡績・繊維部会長 ・ 金融・保険、証券部会長 ・ 運輸・サービス部会長 ・ 電気・電子部会長 ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 ・ 建設・不動産部会長 ・ 貿易部会長 ・ コンサルタント部会長 ・ 化学部会長 ・ 食品部会長	村松雅（東洋紡） 小堀元爾（ブラジル三菱銀行） 本永群起（ツニブラ日伯交通社） 本田睦友（ソニー） 中村行男（石川島ブラジル造船所） 逸見村（ボビエル協和電設） 小堀清次（三菱商事） 山田唯資（アイコン・インターナショナル） 古賀功（三井肥料） 小山豊（味の素・インテルアメリカナ）
2月21日	ツーマ氏連邦警察長官就任祝賀会（日系四団体共催）	
3月12日	会員親睦ゴルフ大会（当所と水曜会による共催）	
3月12日	伊達大使夫妻送別会（日系四団体共催）	
6月11日	会員親睦ゴルフ大会（当所と水曜会による共催）	
6月17日	小村大使夫妻歓迎会（日系四団体共催）	
7月29日	業種別部会長懇談会 「86年上期回顧と下期展望」	
	・ 司会 総務委員会委員長 ・ 紡績・繊維副部会長 ・ 金融・保険、証券部会長 ・ 運輸・サービス部会長 ・ 電気・電子部会長 ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 ・ 建設・不動産部会長 ・ 貿易部会長 ・ コンサルタント部会長	後藤隆（ヤンマー） 富永悦夫（ファンテックス） 小堀元爾（ブラジル三菱銀行） 本永群起（ツニブラ日伯交通社） 本田睦友（ソニー） 久晃一（大同コーポレーション） 逸見村（ボビエル協和電設） 小堀清次（三菱商事） 山田唯資（アイコン・イン

	・ 化学部会長	ターナショナル)
	・ 食品部会長	古賀功 (三井肥料)
		小山豊 (味の素・インテル アメリカナ)
8 月 5 日	「輸出に関する特別講演会」ブラジル貿易協会に協力	
8 月 8 日	ブラジル日本青年会議所設立 4 周年記念パーティー	
8 月 19 日	特別行事講演会 テーマ:「輸出市場としての、また投資のパートナーとしての 日本経済との関係から見た C V R D グループ経済活 動と展望」 講 師: ライムンド・ペレイラ・マスカレンニヤ氏 (バーレ・ ド・リオ・ドセ社長)	
8 月 28 日	ブラジル日本語普及センター作成アンケート 「企業内での日本語意識調査」に協力	
9 月 15 日	神戸大学調査団の「ブラジルにおける日本進出企業の実態調 査」に協力	
10 月 4 日	常陸宮同妃両殿下御来伯歓迎会 (日系四団体共催)	

一社会経済委員会

一事業委員会

一 涉外広報委員会

- 講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
 ジョン・アルフレッド・ブランコ（同）
- 4月15～24日 「第3回ブラジル紹介セミナー」開催
- 5月28日 講演会（於・南米銀行本店）
 テーマ：「新経済政策（DECRETO LEI n° 2284/86）に伴う会計制度の改正について」
 講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
 ジョン・アルフレッド・ブランコ氏（同）
- 8月7日 会社見学会
 見学先：エディトーラ・アブリル出版、エスタード・デ・サンパウロ紙
- 10月9日 講演会
 テーマ：「企業経営の原動力」
 講 師：オットン・セザル・バーロス・アルメイダ教授（伯国人材開発院）
- 10月23日 講演会
 テーマ：「労働争議対策に関して」
 講 師：ジーン・ピエール・マーラス

ー中小企業委員会

- 5月28日 月例勉強会
 テーマ：「パコッテ後の自動車部品工業の現状と過熱景気」
 講 師：成富武典（ブラジル特殊陶業）、浜岡康夫（スーパー・ドン）
- 7月28日 月例勉強会
 テーマ：「農村の購買力を探る」
 講 師：後藤隆（ブラジル・ヤンマー）
 遠藤正三郎（南伯産業組合）
 木原好規（竹中商会）
- 10月1日 勉強会
 テーマ：「最近の政治情勢」
 講 師：松本エミリオ（ブラジル日本電気）

ーコンサルタント部会

- 10月2日 講演会
 テーマ：「海外における日本企業の在り方」
 講 師：片野（神戸大学教授）、池本（同）、加護野（同）

一金融部会

- 1月29日 講演会
テーマ：「1986年の経済展望」
講師：池田アキヒロ（元企画庁特別補佐官）
- 5月6日 講演会
テーマ：「クルザード・プラン直前直後の対比と今後の見通し」
講師：香西啓助（三井銀行サンパウロ駐在員事務所）
- 6月26日 見学会
見学先：サンパウロ証券取引所（参加者21人）
- 7月24日 講演会
テーマ：「中南米における危機構造」
講師：細野昭雄（筑波大学助教授）、中川文雄（同）

一電気電子部会

- 2月21日 建設不動産部会との共催による講演会
テーマ：「日本における公社の民営化——電電公社の民営化と通信建設業界の対応」
講師：浅原巖（元電電公社理事、現協和電設（株）専務）
- 9月19日 講演会
テーマ：「現在の政策下で電気電子業界はどのように活動すべきか」
講師：Dr. Aldo Alberto Lorenzetti（ABINEE 会長）

一建設不動産部会

- 2月21日 電気電子部会との共催による講演会
テーマ：「日本における公社の民営化——電電公社の民営化と通信建設業界の対応」
講師：浅原巖（元電電公社理事、現協和電設（株）専務）

定例昼食会

- 1月 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月 定例会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
3月 経団連ミッション来伯歓迎会（於・シーザー・パーク・ホテル）
4月 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）

- 5 月 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
ゲストスピーカー：田中信氏
- 6 月 小林大使来聖歓迎会（於・ホテル・カドーロ）
ゲストスピーカー：福岡衛氏
- 7 月 定例会（於・ブラジルトン・ホテル）
ゲストスピーカー：相場真一氏
- 8 月 中南米大使会議出席者御来伯歓迎会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 9 月 定例会（於・クラブ・トランス・アトランチカ）
ゲストスピーカー：小野総領事、山下暁美氏
- 10 月 定例会（於・マックス・プラザ・ホテル）
ゲストスピーカー：広川郁三氏
- 11 月 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
ゲストスピーカー：赤嶺尚由氏
- 12 月 忘年会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行

1. ブラジル銀行法
2. ブラジル基礎情報集
3. 情報産業基本法令集
4. 国内金融システムに対する犯罪に関する法律
5. クルザード計画修正一括措置
6. ブラジルの公共赤字白書
7. 農業目標計画
8. 情報産業基本法令集（その3）CONIN 決定
9. クルザード計画対外部門修正一括措置（CMN10 月 30 日決定）
10. ブラジル日系企業年鑑 87 年度版
11. 第2次クルザード計画概要（その1）政府発表及び記者会見全文
12. はるか彼方は日本の空かよ・・・民謡使節団訪日の記録
13. 第3回ブラジル紹介セミナー講義録
14. 第7回ブラジル紹介セミナー講義録
15. 第2次クルザード計画（その2）法律、政令、決定集成（前編）
16. ブラジル工業所有権関係法令（特許及び商標登録の分類）
17. MADE IN JAPAN (AKIO MORITA E SONY)
18. 新共和国第1次国家開発プラン
19. 第2次クルザード計画（その3）

機関誌『ブラジル経済情報』（86 年主要記事）

1 月 15 日	670 号	初の連邦統一予算——国家予算（1）、賃金・需要インフレを警戒（3）、ORÇAMENTO DA UNIÃO 1986
2 月 1 日	671 号	空転する社会協約構想（1）、租税一括改正で連邦税庁の指導①(3)、A LTERAÇÃO NA LEGISLAÇÃO DO IMPOSTO DE RENDA(1)
2 月 15 日	672 号	業種別部会長懇談会、ブラジル経済 85 年回顧と 86 年の展望（1～20）
3 月 1 日	673 号	サルネイ大改造内閣発足（1）、租税一括改正で連邦税庁の指導②（3）、ALTERAÇÃO NA LEGISLAÇÃO DO IMPOSTO DE RENDA(2)
3 月 15 日	674 号	指数経済に断！インフレ・ゼロ目論む大改革（1）サルネイ大改造内閣発足（3）、A DIVIDA MOBILIARIA INTERNA FEDERAL
4 月 1 日	675 号	最近のブラジル労働情勢（1）、大統領令第 2284 号とブラジル経済（2）、A NOVA ECONOMIA(1)
4 月 15 日	676 号	経済パコッテの影響下で深刻（1）、租税一括改正で連邦税庁の指導③（2）、A NOVE ECONOMIA(2)
5 月 1 日	677 号	パコッテ以後のブラジル経済転換（1）、SUFRAMAに連邦の介入、A NOVA ECONOMIA(3)
5 月 15 日	678 号	経済安定法を完備する政令（1）、最近のブラジル経済（2）、A NOVA ECONOMIA(4)
6 月 1 日	679 号	経済安定政策と政府方針（1）、大統領令 2284 号と賃金調整、A NOVA ECONOMIA (FINAL)
6 月 15 日	680 号	経済政策の行方に暗影・企画庁・大蔵省に重大見解差①（1）、経済安定法を完備する政令完（2）、REGULAMENTAÇÃO DE SEGURO DESEMPREGO, DECRETO n° 92608 DE 30 DE ABRIL DE 1986
7 月 1 日	681 号	国会、雇用安定法 2 件を可決（1）、経済政策の行方に暗影②（2）、REGULAMENTAÇÃO DE SEGURO DESEMPREGO(2)

7月15日	682号	クルザード・プランの軌道修正 (1)、経済政策の行方に暗影完 (2)、REGULAMENTAÇÃO DE SEGURO DESEMPREGO(3)
8月1日	683号	消費抑制と政府目標プラン (1)、外国労働力の一時的・永久呼び寄せ、労働省移民局通達 34 号に見る手続き (2)、CHAMADA DE MÃO DE OBRA ESTRANGEIRA(1)
8月15日	684号	業種別部会長懇談会、ブラジル経済 86 年上期回顧と下期展望 (1～13)、CHAMADA DE MÃO DE OBRA ESTRANGEIRA(2)
9月1日	685号	国営製鉄所の不採算性 (1)、外国労働力の一時的・永久呼び寄せ② (2)、アブリル総合出版・エスタード・デ・サンパウロ新聞社見学記 (3) CHAMADA DE MÃO DE OBRA ESTRANGEIRA(3)
9月15日	686号	1987 年度連邦統一国家予算 (1)、国営製鉄所の不採算性 (2)、ブラジルの対外債務①、REEMPRESTIMO INTERNO DOS RECURSOS EXTERNOS(1)
10月1日	687号	対伯直接投資は急減 (1)、ブラジルの対外債務②、REEMPRESTIMO INTERNO DOS RECURSOS EXTERNOS(2)
10月15日	688号	CZ\$ = 物価指標のあるインフレ、CZ\$ = 指標に出ないインフレ (1)、昭和 61 年度中南米大使会議提言 (2)、FIESP: AMATO TOMA POSSE
11月1日	689号	アウストラル・プランとクルザード・プラン (1)、新憲法の方に警戒する外資 (3)、O PLANO CRUZADO E A ECONOMIA
11月15日	690号	対伯投資減退の要因 (1)、アウストラル・プランとクルザード・プラン② (3)、SUDENE – NOVO RUMOS(1)
12月1日	691号	第 2 次クルザード・プラン (1～3)、ビトリア地方工業見学記 (5)、SUDENE – NOVOS RUMOS(2)
12月15日	692号	国民の理解求め労組非難、大統領、クルザード・プ

ラン演説 (1)、第 2 クルザード・プランの狙い (2)、
次期制憲議会を動かす人々 (3)、SUDENE –
NOVOS RUMOS(3)

1987年

クルザード・プランの挫折による後遺症の中、モラトリアムに始まり、フナロ前蔵相の失脚を受け登場したブレッセル蔵相のマクロ経済統制計画は国内消費抑制、輸出促進及び財政赤字削減による伯国経済の立て直しを図ったが、貿易収支好調の半面、国内経済の停滞を招き、財政好転の効果も上がらず、第二クルザード・プランは失敗し、さらに公共支出および政府系企業の経費削減、資本収益税変更案、資産税新設案を大統領令で実施しようとしたがサルネイ大統領の同意を得られず、蔵相辞任という結果に終わった。

高所恐怖症と呼ばれた株価は、10月にニューヨーク市場での暴落を契機に、「世界恐慌」を連想させる全世界的な大暴落につながり、円高促進、投資偏重、債務国問題等の国際金融経済の諸問題が浮き彫りにされた。

87年の公式インフレ率は前年の58.6%を大幅に上回る366%を記録した。凍結解除後の相対価格の調整、貿易黒字・財政赤字の拡大による通貨供給の増加などを要因とすることができるとは、政府の赤字削減策が進捗しない中で、経済界でインフレ心理が再燃したことも影響している。87年4月に就任したブレッセル蔵相は、6月に新クルザード・プランを導入、再び物価凍結に踏み切った。新プランでは前回の失敗を避けるため、賃金凍結期間の限定、解除後の価格調整方式の明示、財政赤字の削減などを講じた。これにより7～9月のインフレは月間3～6%台に沈静化した、その後は再び高進を続けた。

高インフレの下で実質賃金は低下し、生産活動は大きく後退した。87年の実質GDP（暫定）成長率は2.9%（前年8.0%）に留まり、84年以降の高成長過程から反転した。87年の成長を支えたのは農牧畜業で、15.5%（前年7.9%減）へと大きく回復した。

87年の輸出（暫定）は為替の切り下げ、内需の低下、一次産品価格の上昇などにより、前年比17.1%増の262億1300万ドルと84年に次ぐ記録となった。小幅な為替切り下げ方式が86年11月に復活し、87年の切り下げ幅は383.6%（欧州方式）とインフレ率を上回った。他方、輸入も同7.2%増の150億5200万ドルに増加したが、貿易黒字は同33.7%増の111億6100万ドルに拡大した。

貿易外収支では、返済金利水準の低下による利払いの減少、旅行収支赤字の縮小、利潤配当金送金の縮小などにより、赤字幅は3.6%減の120億1800万ドルに減少した。このため、経常収支の赤字幅は80.5%減の7億8700万ドルへと大きく改善した。

しかし、資本収支は前年の9億3900万ドルの黒字から17億300万ドルの赤字に転落した。これは、直接投資純額が前年の1億800万ドルの流出から4

億 8800 万ドルの流入に転じたが、中長期融資（輸入ファイナンス）が新規資金、リファイナンスとともに縮小したことなどによるもの。総合収支は 17.7% 減の 29 億 8700 万ドルの赤字だった。87 年末の対外債務残高は前年末比 9.2% 増の 121 億 6400 万ドル（暫定）に達した。87 年 2 月にブラジルは外国銀行への中長期債務の利子返済停止を発表。しかし、11 月に米国政府のブラジル向け債権の格付け再引き下げを前に、延滞分 45 億ドルのうち銀行が我が 30 億ドルを融資することで暫定合意が成立、87 年末から 88 年にかけてブラジルは一部利払いを再開した。

87 年の日本のブラジルへの輸出は現地の景気後退などにより前年比 9.7% 減の 8 億 7884 万ドル、日本の輸入は同 8.4% 増の 20 億 324 万ドルと史上最高に達した。輸入増加の要因は開発輸入プロジェクトの進展と一次産品価格の上昇によるもの。

役員名簿（87 年 1 2 月 3 1 日現在）

名 誉 会 頭：橘富士雄

顧 問：広川郁三、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：別役道昌（鐘紡ブラジル）

副 会 頭：後藤隆（ブラジル・ヤンマー）、小林利郎（ブラジル東京銀行）、

小堀元爾（ブラジル三菱銀行）、吉田揚助（南米銀行）

専任理事：加藤治男（ブラジル住友商事）、難波慶二（豊和機械）、
成富武典（ブラジル特殊陶業）、竹中正（竹中商会）

財務理事：古賀功（三井肥料）、原田義太郎（伯国三菱重工業）、
瀬口芳穂（ダイワボウ・ブラジル）、竹原順三郎（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）

委員会

渉外広報委員会：小林利郎（ブラジル東京銀行）

行動基準委員会：難波慶二（豊和機械）

社会経済委員会：小堀元爾（ブラジル三菱銀行）

日伯法律委員会：吉田揚助（南米銀行）

輸出促進委員会：加藤治男（ブラジル住友商事）

事業委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）
中小企業委員会：竹中正（竹中商会）
総務委員会：後藤隆（ヤンマー・ブラジル）
制憲議会特別委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：山田唯資（アイコン・インターナショナル）
金融部会：小林利郎（ブラジル東京銀行）
貿易部会：船橋銓（ブラジル三井物産）
機械金属部会：久晃一（大同コーポレーション）
電気電子部会：原田博（サドキン電球）
化学部会：古賀功（三井肥料）
運輸サービス部会：矢部浩（大阪商船三井船舶）
繊維部会：横溝弘史（ブラジル日清紡）
食品部会：大西康之（サントリー・ド・ブラジル）
建設不動産部会：金森勲（ブラジル竹中工務店）

87年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	三瓶昭一
2. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
3. 伊藤忠ブラジル会社	松永和康
4. N S K ・ ド ・ ブラジル	後藤金昭
5. 大阪商船三井船舶	矢部浩
6. 鐘紡ブラジル	別役道昌
7. 兼松江商ブラジル	田畑浩司
8. クレアズール南米信託	伝田耕平
9. コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル	洲崎宏通
10. サドキン電球工業	原田博
11. 三和銀行	八尋一洋
12. ジェトロ	福岡衛
13. C B C 重工業	押切フラビオ壮
14. ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
15. 大同コーポレーション・ド・ブラジル	久晃一
16. ダイワボウ・ブラジル	瀬口芳穂

17.	竹中商会	竹中正
18.	東山農産加工	田中福蔵
19.	東芝・ド・ブラジル	山崎章
20.	東洋紡ブラジル	村松雅
21.	南米銀行	吉田揚助
22.	南米投資銀行	瀬川正文
23.	南米安田保険	西井国雄
24.	南米リース	坂口孟
25.	日本航空サンパウロ支店	山下陽平
26.	N E C ・ ド ・ ブラジル	斉藤敏雄
27.	伯国三菱重工業	原田義太郎
28.	伯国三菱商事	小原康正
29.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	竹原順三郎
30.	ブラジル久保田鉄工	小山豊樹
31.	ブラジル住友銀行	酒井醇
32.	ブラジル住友商事	加藤治男
33.	ブラジル東京銀行	小林利郎
34.	ブラジル特殊陶業	成富武典
35.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
36.	ブラジル日商岩井	佐々木敬
37.	ブラジル日清紡	横溝弘史
38.	ブラジル・ニチメン	南直昌
39.	ブラジル三井物産	船橋銓
40.	ブラジル三菱銀行	小堀元爾
41.	ブラジル・ヤンマー	後藤隆
42.	ブラデスコ銀行	小宮武夫
43.	古河電気工業	柴田幸次郎
44.	プロツトーレス倉庫	延満三五郎
45.	豊和機械	難波慶二
46.	丸紅ブラジル	沢田哲男
47.	三井銀行サンパウロ駐在員事務所	香西啓助
48.	三井肥料	古賀功
49.	ヤシカ・ド・ブラジル	笠原睦生
50.	ユニチカ・ド・ブラジル	菅原利郎

監 事

1. 山田唯資

アイコン・インターナショナル・

2. 東島信明
3. 山田洋右

コンサルタント・アソシエイト
安田信託銀行
大正・ド・ブラジル

87年度事業報告

総 会

- 3月17日 第37回定期総会（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ）
「1987／88年度新理事会社50社発表」、「1986年事業及び決算報告」
- 4月14日 臨時総会（於・ヒルトン・ホテル）
「87年事業計画案並びに87年収支予算案の承認」

常任理事会

- 3月17日 （於・クラウンプラザ・ホテル）
- 4月7日 （於・当所）
- 4月10日 （於・当所）
- 5月19日 （於・当所）
- 6月9日 定例会
- 6月19日 定例会
- 7月21日 （於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 8月7日 定例会
- 9月14日 定例会
「常任理事補充選挙」、「制憲議会特別委員会の中間報告」、「第4四半期会費調整案審議」
- 10月20日 定例会
- 11月17日 定例会
- 12月15日 定例会

理 事 会

- 2月17日 「1986年の事業報告並びに決算報告審議と承認」（於・マクソード・プラザ・ホテル）
- 3月27日 「87／88年新常任理事選出」
- 6月16日 「第3四半期の会費調整案審議」
- 8月18日 「常任理事補充選挙」、「制憲議会特別委員会の中間報告」
- 9月1日 「常任理事補充選挙」（於・当所）
- 12月15日 「1988年第1四半期会費調整の審議」

監 事 会

- 2 月 23 日 「1986 年の決算報告の監査」
6 月 2 日 「第 1 四半期の会計監査」
8 月 13 日 監事会
8 月 21 日 「第 2 四半期の会計監査」
12 月 2 日 監事会

共催・後援・協力行事

- 1 月 7 日 6 団体共催・渡辺美智雄代議士来伯歓迎会（於・文協貴賓室）
1 月 30 日 業種別部会長懇談会
「86 年回顧と 87 年展望」
- | | |
|---------------|----------------------|
| ・ 司会 総務委員会委員長 | 後藤隆（ヤンマー） |
| ・ 紡績・繊維部会長 | 村松雅（東洋紡） |
| ・ 金融・保険、証券部会長 | 小堀元爾（ブラジル三菱銀行） |
| ・ 運輸・サービス部会長 | 本永群起（ツニブラ日伯交通社） |
| ・ 電気・電子部会長 | 本田睦友（ソニー） |
| ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 | 久晃一（大同コーポレーション） |
| ・ 建設・不動産部会長 | 逸見村（ボビエル協和電設） |
| ・ 貿易部会長 | 小堀清次（三菱商事） |
| ・ コンサルタント部会長 | 山田唯資（アイコン・インターナショナル） |
| ・ 化学部会長 | 古賀功（三井肥料） |
| ・ 食品副部会長 | 大西康之（サントリー・ド・ブラジル） |
- 2 月 17 日 カステロ・ブランコ商工大臣を囲む懇談会（於・マックソード・プラザ・ホテル）
3 月 17 日 アメリカ商業会主催「外資企業のイメージアップ会合」に協力
6 月 26 日 中野ヨシアキ大蔵省経済局長講演会（於・南米銀行講堂）
「新経済計画について」
7 月 18 日 「日系移民 80 年祭」準備委員会発足（出席：橘名誉会頭、後藤副会頭）

- 7 月 30 日 業種別部会長懇談会
「87 年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 後藤隆（ヤンマー）
 - ・ 紡績・繊維部会長 横溝弘史（ブラジル日清紡）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 小林利郎（ブラジル東京銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 矢部浩（大阪商船三井船舶）
 - ・ 電気・電子部会長 原田博（サドキン電球）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 久晃一（大同コーポレーション）
 - ・ 建設・不動産部会長 金森勲（ブラジル竹中工務店）
 - ・ 貿易部会長 船橋銓（三菱商事）
 - ・ コンサルタント部会長 山田唯資（アイコン・インターナショナル）
 - ・ 化学部会長 古賀功（三井肥料）
 - ・ 食品副部会長 大西康之（サントリー・ド・ブラジル）
- 11 月 11 日 武田豊経団連日伯経済委員会杯争奪ゴルフコンペ（当所・水曜会共催）

委員会・部会の主な活動

一社会経済委員会

- 7 月 28 日 中小企業委員会共催講演会
テーマ：「87 年におけるブラジル政治の分析と展望」
講 師：花城ゼツリオ（サンパウロ州都市圏局長）

一事業委員会

- 6 月 12～16 日 「南マットグロッソ州地域経済視察産業旅行」
見学先：ボルドン社食肉工場、コパーザ社大豆集荷場並びに食用油工場
- 10 月 29 日～ 「カラジャス鉱山並びに東北伯地域産業視察旅行開催」
- 11 月 1 日 見学先：カラジャス鉱山、サンルイス輸出回廊、アルコア社工場、マラニョン州商工展

一 渉外広報委員会

- 2月6日 講演会（於・南米銀行講堂）
講 師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計事務所）
- 8月24日 会社見学会開催
見学先：セントロ・エンプレザリアル、サンパウロ中央郵便局

一 中小企業委員会

- 6月18日 勉強会
テーマ：「ブラジルの制憲議会について」
講 師：赤嶺尚由（ソールナッセンテ人材銀行）
- 7月28日 社会経済委員会共催講演会
テーマ：「87年におけるブラジル政治の分析と展望」
講 師：花城ゼツリオ（サンパウロ州都市圏局長）

一 コンサルタント部会

- 5月12日 講演会
テーマ：制憲議会の背景と現状勢及び見通し
講 師：渡部和夫（ストロエステル・トレンチ・エ・ベイラーノ法律事務所）
- 9月15日 公開セミナー開催（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ・ホテル）
大テーマ：「ブラジル対外債務の投資化」
 - ・テーマ：「ブラジルの対日債務とその投資化」
講 師：塚本雄一（U S P、F G V）
 - ・テーマ：「外債転換の過去の経験と方策」
講 師：Sr. Genecio Carvel Filch（サンベスト証券重役）
 - ・テーマ：「投資を目的とする生産コンドミニウムとそのケース・スタディ」
講 師：Sr. Ode Raja（A B R I N Q会長）
 - ・テーマ：「多角経営における組織と税務の骨子」
講 師：Sr. James M Botts（Coopers & Lybrand 社重役）

一 金融部会

- 1 月 16 日 経済講演会
 テーマ：「円高・ドル安下での日本経済及び産業のゆくえ」
 講 師：西村厚（日本長期信用銀行調査部主席部員）
- 11 月 3 日 経済講演会
 テーマ：「最近の国際金融トピックス」
 講 師：鳴沢宏英（東京銀行参与）

一電気電子部会

- 6 月 5 日 講演会
 テーマ：「ブラジルの政治と経済」
 講 師：植木シゲアキ（元鉱山動力相・元ペトロブラス総裁）
- 8 月 28 日 講演会
 テーマ：「最近の家電業界」
 講 師：山田利郎（ナショナル・ド・ブラジル社長）
- 10 月 9 日 講演会
 テーマ：「伯国における通信の現況」
 講 師：菊池久英（NEC・ド・ブラジル社長）

定例昼食会

- 1 月 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2 月 定例会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
 テーマ：「対伯投資に関する伯国の現状と将来性」
 講演者：カステロ・ブランコ（商工大臣）
- 3 月 定例会（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ）
- 4 月 定例会（於・ヒルトン・ホテル）
- 5 月 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「コロニアよもやま話」
 講演者：橘富士雄（名誉会頭）
- 6 月 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
 テーマ：「政界よもやま話」
 講演者：野村丈吾（連邦下院議員）
- 7 月 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
 テーマ：「日伯関係と移民 80 年祭」
 講演会：小野純男サンパウロ総領事
- 8 月 定例会（於・プロモセンター）

- テーマ：「最近の経済状勢」
講演者：田中信（等松青木会計監査事務所代表）
- 9 月 定例会（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ・ホテル）
テーマ：「ブラジルの対外債務の投資化について」
講演者：塚本雄一（U S P、F G V教授）
- 10 月 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「ブラジル日本間海上輸送の歴史及び定期船航路運営と海
運同盟について」
講 師：矢部浩（大阪商船三井船舶サンパウロ事務所首席在勤員）
- 11 月 定例会（於・ホテル・ブラジルトン）
テーマ：「地方都市における工業開発の勧めーウベランジャ市工業
団地の紹介」
講 師：ザイレ・レゼンデ（ミナス州ウベランジャ市長）
オラボ・ビエイラ・ダ・シルバ（同市商工農局長）
- 12 月 忘年会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行

1. ブラジル日本商工会議所会員名簿
2. 1986 年 12 月 30 日、1987 年 1 月 14 日付け CMN 決定
3. 1987 年 1 月 28 日付け国家通貨審議会決定
4. 新共和国ブラジル工業部門別計画
5. 1987 年 3 月 19 日通貨審議会決定
6. ブラジル経済開発融資計画
7. 第 2 次国家鉄鋼計画
8. 文化事業贈与投資減税計画
9. 新クルザード計画（1）
10. 新クルザード計画（2）
11. 農業融資規則
12. 新クルザード計画大統領インタビュー
13. マクロ経済統制計画（国内計画、対外部門計画）
14. ブラジル新憲法草案（経済関係条文）
15. CACEX 通達第 173 号

機関誌『ブラジル経済情報』（87 年主要記事）

1 月 15 日	693 号	クルザード・プランに波高し、年頭の辞（別役会頭）、 ALTERAÇÃO NA LEGISLAÇÃO TRIBUTARIA
2 月 1 日	694 号	現政府の社会開発計画、大統領演説－樂觀に終止、 RESUMO DO SEMINÁRIO PROMOVIDO PELA CÂMARA AMERICANA DE COMÉRCIO PARA O BRASIL
2 月 15 日	695 号	業種別部会長懇談会・ブラジル経済 86 年の回顧と 87 年の展望
3 月 1 日	696 号	対伯投資協力呼びかけ、商工大臣の熱弁、 ALTERAÇÃO NA LEGISLAÇÃO TRIBUTARIA
3 月 15 日	697 号	遂にモラトリアム宣言、ALTERAÇÃO NA LEGISLAÇÃO TRIBUTARIA
4 月 1 日	698 号	金利とインフレの動向、新州知事のプロフィール、 ALTERAÇÃO NA LEGISLAÇÃO TRIBUTARIA
4 月 15 日	699 号	財界要望盛る経済 5 カ年計画、景気停滞顕著に、 DIRETORIA – BIENIO 87/88
5 月 1 日	700 号	本年の経済政策第三弾、貿易審議会の復活と為替問 題、伯国の経済成長説に傾く、O ANTEPROJETO DO GOVERNO SOBRE ALUGUEIS
5 月 15 日	701 号	ブレッセル新蔵相の登場、フナロ蔵相辞任まで、O ANTEPROJETO DO GOVERNO SOBRE ALUGUEIS
6 月 1 日	702 号	IMF ミッション来伯、大統領に圧力・軍部の支持は、 制憲議会草案出始める、O ANTEPROJETO DO GOVERNO SOBRE ALUGUEIS
6 月 15 日	703 号	閣内融和・協調を期待、投資について考える・内外 5 社の企業戦略、JAPÃO 87 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
7 月 1 日	704 号	新改革後のサルネイ大統領、大統領令第 2336 号、ク

		ルザードと価格の変化、JAPÃO 87 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
7 月 15 日	705 号	マクロ経済計画構想・中野大蔵相新経済局長に聞く、JAPÃO 87 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
7 月 17 日	速報	「目標達成目指すマクロ計量経済プラン」
8 月 1 日	706 号	疑問点を解く省令・決議（１～６）、JAPÃO 87 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
8 月 15 日	707 号	業種別部会長懇談会・ブラジル経済 87 年上期の回顧と下期の展望（１～１８）
9 月 1 日	708 号	基礎素材産業拡張プログラム（１～２）鉦工業生産上期伸び率 8%（３）、花城局長を迎えて（８）
9 月 15 日	709 号	具体的な財政赤字対策（１）、訪墨のサルネイ大統領（１）、IMF の調整プログラム（５）、JAPÃO 87 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
10 月 1 日	710 号	債務交渉延長戦へ（１）、債権もののリストを公開（２）、対外債務の投資化
10 月 15 日	711 号	国民総生産及び財政赤字（１）、対外債務交渉におけるブラジル案（３）、JAPÃO 87 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
11 月 1 日	712 号	株価急落に関する財界人・エコノミストの見解（１）、物価政策（１） 価格調整申請の規則（２～３）、SANAB 指令集
11 月 15 日	713 号	債務交渉・情報産業摩擦（１）、新製品・サービスの値段（２）、通貨審議会決定に基づく中銀決議と回章、SANAB 指令集
11 月 17 日	速報	最近の制憲議会動向
12 月 1 日	714 号	ソフトウェア法案・上院で可決（１）、
12 月 15 日	715 号	外資の必要性は認める、だが、依存は最低限に（中野大蔵省経済局長）、SEI ソフトウェアで軟化 ソフトウェア法案・上院で可決（２）

1988年

ブレッセル蔵相辞任後、ノブレガ次官が臨時蔵相に昇格したものの、正蔵相不在のまま新年を迎えた年だった。制憲議会対策に迫られたのみでなく、政治、経済とともに内外共に問題の多い年であった。

1988年のIPC（全国消費者物価上昇率）は87年の365.96%を大きく上回る933.62%と大幅に悪化した。インフレを抑制するため88年11月に政・労・使の問題で「社会協約」が締結されたが、2ヶ月も経たずに破局を迎えた。

インフレが高進する中、賃金抑制や公共投資の削減と相まって景気の後退は一層顕著となり、スタグフレーションの様相が強まった。88年の実質GDP成長率（暫定）は前年比0.3%減と83年以来3度目のマイナス成長を記録した。これは、鉱工業生産が輸送機械部門を除いて全般的に不調で、同部門が2.5%減となったこと、また農牧畜部門が88年5～6月にかけての霜の被害とそれに引き続く干ばつのため、前年の15%増から88年に0.4%減と大きく後退したことが原因である。

88年10月5日、懸案となっていた新憲法が發布された。新憲法の制定議会は87年2月から開かれていたが、与党PMDBの内部での意見対立、超党派の中道勢力の活発化など政治情勢は大きく揺れ動いた。

新憲法の内容はかなりナショナリズム、ポプリズムの色合いの濃いものとなっている。貸付金利の上限設定（実質年間12%）、労働者の権利拡大（労働時間の短縮、時間外手当の増額など）や鉱物資源開発・新規石油開発への外資進出制限など、左派的な考えが大幅に取り入れられた。88年11月に実施された全国市長選挙では左派勢力が躍進し、サルネイ政権と与党PSDBに対する国民の厳しい審判が下されている。

88年の輸出は前年比28.8%増の337億8100万ドル、輸入は2.4%減の146億8800万ドルで貿易収支は190億9600万ドル（70.9%増）と史上最高を記録した。輸出は内需の不振、1次産品の国際市況の好調、為替の切り下げなどで史上最高となった。

88年の国際収支は87年の29億8700万ドルから一挙に69億7700万ドルの黒字に転じた。経常収支も48億1900万ドルと大幅な黒字となった。88年は国際金利の上昇と為替調整を主因とする利払い増加などにより、貿易外収支の赤字は前年比19.1%増となった。直接投資については、92%にあたる20億5100万ドルが債務の資本化によるものである。貿易黒字の増大で当初外貨準備はかなり増えて来たとされていたが、100億ドルに及ぶ利払い、ファイナンス付きの輸出入や延べ払い条件による輸出などで貿易によるネットの流入が伸び悩んだため、88年末現在の外貨準備高は前年末の44億ドルを10億ドル

上回る 54 億ドル程度と試算されている。

政府は貿易自由化への動きを一層強めている。88 年 5 月に発表した「新工業政策」のなかで、輸出入手続きが簡素化されたのを皮切りに、9 月に信用状による輸入限度額の引き上げ、輸入時の国産品類似品審査基準の緩和、11 月には I/L (Import License、輸入許可書) 発給一時停止品目を大幅縮小 (89 年 1 月から適用)、また 5 月と 11 月に輸入代金決済期間が短縮された。

88 年の日本のブラジルへの輸出は前年比 13.6%増の 9 億 9809 万ドルと前年の減退 (9.7%減) から回復した。輸入は 45.2%増の 29 億 5036 万ドルと史上最高となった。

88 年 7 月にノブレガ蔵相が来日。日伯間の通商問題などについて関係閣僚と意見交換を行なった。また 88 年はブラジル日本移民 80 周年にあたり、国際シンポジウムが行われるなど両国の友好関係は一層拡大した。

役員名簿 (88 年 1 2 月 3 1 日現在)

名 誉 会 頭：橘富士雄

顧 問：広川郁三、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：別役道昌 (鐘紡ブラジル)

副 会 頭：後藤隆 (ブラジル・ヤンマー)、小林利郎 (ブラジル東京銀行)、小堀元爾 (ブラジル三菱銀行)、吉田揚助 (南米銀行)

専任理事：加藤治男 (ブラジル住友商事)、難波慶二 (豊和機械)、成富武典 (ブラジル特殊陶業)、竹中正 (竹中商会)

財務理事：古賀功 (三井肥料)、小原康正 (伯国三菱商事)、瀬口芳穂 (ダイワボウ・ブラジル)、竹原順三郎 (富士銀行サンパウロ駐在員事務所)

委員会

渉外広報委員会：小林利郎 (ブラジル東京銀行)

行動基準委員会：難波慶二 (豊和機械)

社会経済委員会：小堀元爾 (ブラジル三菱銀行)

日伯法律委員会：吉田揚助 (南米銀行)

輸出促進委員会：加藤治男 (ブラジル住友商事)

事業委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）
中小企業委員会：竹中正（竹中商会）
総務委員会：後藤隆（ヤンマー・ブラジル）
制憲議会特別委員会：別役道昌（鐘紡ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：山田唯資（アイコン・インターナショナル）
金融部会：小林利郎（ブラジル東京銀行）
貿易部会：船橋銓（ブラジル三井物産）
機械金属部会：久晃一（大同コーポレーション）
電気電子部会：原田博（サドキン電球）
化学部会：古賀功（三井肥料）
運輸サービス部会：本永群起（ツニブラ日伯交通社）
繊維部会：横溝弘史（ブラジル日清紡）
食品部会：大西康之（サントリー・ド・ブラジル）
建設不動産部会：鎌田和政（ブラジル竹中工務店）

8 8 年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	三瓶昭一
2. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
3. 伊藤忠ブラジル会社	松永和康
4. N S K ・ ド ・ ブラジル	後藤金昭
5. 大阪商船三井船舶	井川末富
6. 鐘紡ブラジル	別役道昌
7. 兼松江商ブラジル	田畑浩司
8. クレアズール南米信託	伝田耕平
9. コトニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル	寺農一清
10. サドキン電球工業	原田博
11. 三和銀行	八尋一洋
12. ジェトロ	福岡衛
13. C B C 重工業	押切フラビオ壮
14. ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
15. 大同コーポレーション・ド・ブラジル	久晃一
16. ダイワボウ・ブラジル	瀬口芳穂

17. 竹中商会	竹中正
18. 東山農産加工	田中福蔵
19. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
20. 東洋紡ブラジル	村松雅
21. 南米銀行	吉田揚助
22. 南米投資銀行	瀬川正文
23. 南米安田保険	西井国雄
24. 南米リース	坂口孟
25. 日本航空サンパウロ支店	佐相登志夫
26. N E C ・ ド ・ ブラジル	斉藤敏雄
27. 伯国三菱重工業	久米康夫
28. 伯国三菱商事	小原康正
29. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	竹原順三郎
30. ブラジル久保田鉄工	小山豊樹
31. ブラジル住友銀行	酒井醇
32. ブラジル住友商事	加藤治男
33. ブラジル東京銀行	小林利郎
34. ブラジル特殊陶業	成富武典
35. ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
36. ブラジル日商岩井	浅井宏一
37. ブラジル日清紡	横溝弘史
38. ブラジル・ニチメン	南直昌
39. ブラジル三井物産	船橋銓
40. ブラジル三菱銀行	小堀元爾
41. ブラジル・ヤンマー	後藤隆
42. ブラデスコ銀行	小宮武夫
43. 古河電気工業	柴田幸次郎
44. プロツトーレス倉庫	延満三五郎
45. 豊和機械	難波慶二
46. 丸紅ブラジル	松村弘
47. 三井銀行サンパウロ駐在員事務所	杉浦文雄
48. 三井肥料	古賀功
49. ヤシカ・ド・ブラジル	笠原睦生
50. ユニチカ・ド・ブラジル	土川昭

監 事

1. 山田唯資

アイコン・インターナショナル・

2. 竹内伸二

コンサルタント・アソシエイト
安田信託銀行サンパウロ駐在員事
務所

3. 古庄雄二郎

F. K. 事務器

88年度事業報告

総 会

3月11日 第38回定期総会（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ）
「1987年度事業報告」、「1987年決算報告」、「1988事業計画」、
「1988年予算計画」

常任理事会

2月11日 定例会
3月11日 定例会
4月19日 定例会
5月17日 定例会
6月21日 定例会
7月14日 定例会
8月11日 定例会
9月16日 定例会
11月22日 定例会

理 事 会

2月23日 「1987年の事業報告並びに収支決算書審議」、「1988年の事業
計画並びに収支予算案審議」（於・マクソード・プラザ・ホテル）
6月21日 「常任理事補充選挙」（於・シーザー・パーク・ホテル）

監 事 会

2月29日 「1987年の決算報告監査並びに監事意見書作成」
5月20日 監事会
11月3日 監事会

共催・後援・協力行事

1月29日 業種別部会長懇談会
「87年回顧と88年展望」
・ 司会 総務委員会委員長 後藤隆（ヤンマー）

	・ 紡績・繊維部会長	横溝弘史（ブラジル日清紡）
	・ 金融・保険、証券部会長	小林利郎（ブラジル東京銀行）
	・ 運輸・サービス部会長	矢部浩（大阪商船三井船舶）
	・ 電気・電子部会長	原田博（サドキン電球）
	・ 機械・金属・鉄鋼部会長	久晃一（大同コーポレーション）
	・ 建設・不動産部会長	金森勲（ブラジル竹中工務店）
	・ 貿易部会長	船橋銓（三菱商事）
	・ コンサルタント部会長	山田唯資（アイコン・インターナショナル）
	・ 化学部会長	古賀功（三井肥料）
	・ 食品副部会長	大西康之（サントリー・ド・ブラジル）
2月9日	ミナス州 ALIPO CASTELO BRANCO 企画長官を囲む懇談会（特別行事）	
6月12～15日	「日本移民 80 年祭記念日伯交流国際シンポジウム」（於・文協講堂）	
6月18日	日本移民 80 年祭記念式典（於・パカエンブー競技場）	
7月25日	「小野在サンパウロ総領事歓送会」（於・文協貴賓室、日系 17 団体共催）	
7月28日	業種別部会長懇談会 「88 年上期回顧と下期展望」	
	・ 司会 総務委員会委員長	後藤隆（ヤンマー）
	・ 紡績・繊維副部会長	絹川公耕（フィエルテックス）
	・ 金融・保険、証券部会長	小林利郎（ブラジル東京銀行）
	・ 運輸・サービス部会長	矢部浩（大阪商船三井船舶）
	・ 電気・電子部会長	原田博（サドキン電球）
	・ 機械・金属・鉄鋼副部会長	成富武典（ブラジル特殊陶業）
	・ 建設・不動産副部会長	大庭一元（丸紅ブラジ

- ・ 貿易部会長
 - ・ コンサルタント副部会長
 - ・ 化学部会長
 - ・ 食品副部会長
- ル不動産)
船橋銓（三菱商事）
福岡衛（ジェトロ）
古賀功（三井肥料）
大西康之（サントリー・ド・
ブラジル）

11 月 17 日 「丸山駐サンパウロ総領事歓迎会」（於・文協貴賓室）

委員会・部会の主な活動

一社会経済委員会

- 3 月 23 日 中小企業委員会、コンサルタント部会共催講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「ブラジル日系企業の活きる道」
講 師：大森弘（近畿大学教授）
- 6 月 3 日 経済講演会
テーマ：「円高後の日本経済」
講 師：竹内宏（日本長期信用銀行専務取締役調査グループ総括部長）

一事業委員会

- 5 月 26～28 日 「三角ミナス地方産業視察旅行」
訪問地：ウベランジャ、カルダス・ノーバス、ゴイアニア
見学先：工業団地並びに工業展（ウベランジャ）、野村
プラス農場（カルダス・ノーバス）、農畜産展
（ゴイアニア）
- 10 月 27～ 「リオ・グランデ・ド・スール州産業視察旅行」
29 日 訪問先：ポルト・アレグレ、サブカイア・ド・スール、
トリウンフォ、ポルトン、ベント・ゴンサルベ
ス、カシアス・ド・スール
見学先：ラニフィシオ・クラシキ社（サブカイア・ド・
スール）、
コペ・スール社（トリウンフォ）、ニッシェ社
（ポルトン）、
アウロラ社（ベント・ゴンサルベス）

一 渉外広報委員会

- 2月10日 講演会（於・南米銀行講堂）
テーマ：「1987 会計年度に適用できる租税措置と税制パッケージ」
講 師：ジョン・アルフレッド・ブランコ（アーサー・アンダーセン会計監査法人）
- 3月23日 労働問題検討分会
テーマ：「従業員に対する間接的な特典について」
ゲスト：ルイス・アントニオ・シオキ氏（APARH-パウルスタ人的資源管理協会会長）
- 4月13日 新聞記者を囲む昼食懇談会（於・シーザー・パーク・ホテル）
ゲスト：アントニオ・コスタ・フィーリョ氏（ガゼッタ・メルカンチル紙） アパリスオ・スケーラ・ステファニ氏（同） ロナルド・デルコレ氏（同）
- 6月23日 労働問題検討分会
テーマ：「団体交渉の傾向」
講 師：ジャイメ・ガンボア（FIESPシンジケート協力部部会長）
- 8月25日 労働問題検討分会
テーマ：「従業員の福利厚生費について」
講 師：ベルシオ・林（タワーズ・ベリン・フォスター&クロスビー社上級コンサルタント）
- 11月10日 労働問題検討分会主催講演会
テーマ：「企業の警備並びに出勤コントロールの自動化」
講 師：オルランド・ボンファンチ（テレマチカ・システムス・インテリジェンテス役員）、エルネスト砂古（ミツコン・インフォルマチカ）
- 11月24日 日本移民 80 年記念行事「論文コンクール」受賞式・表彰式（於・ブッフエ・コロニアル）
- 11月30日 見学会
見学先：CETESB（サンパウロ州環境衛生技術公社）、USP（サンパウロ州立総合大学）
- 12月9日 講演会
テーマ：「新憲法－これまでのシステムと新憲法発布後のものとの比較－」
講 師：ベルナルド・リベイロ・デ・モラエス（マッケン

ジー大学法学部教授)

一 中小企業委員会

- 3月23日 社会経済委員会、コンサルタント部会共催講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「ブラジル日系企業の活きる道」
講師：大森弘（近畿大学教授）
- 10月20日 講演会
テーマ：「工業移住再開と永住権取得に関する説明会」
講師：ナバーロ・ゴンジン（ブラジル工業移住者協会顧問弁護士）

一 制憲議会特別委員会

- 9月20日 「新憲法に関するセミナー」（於・南米銀行本店講堂）
講師：上野アントニオ（連邦下院議員）、
渡部和夫（ストロエテル・トレンテ・エ・ベイラーノ法律事務所代表）、
二宮正人（二宮正人弁護士事務所代表）
大原毅（サンパウロ総領事館顧問弁護士）
押切フラビオ壮（CBC重工副社長）
伝田耕平（南米銀行副社長）
- 9月20日 解散式（於・レストランつばき）

一 コンサルタント部会

- 2月23日 セミナー
テーマ：「日本の経済発展の原因」
講師：福岡衛（ジェトロ・サンパウロ・センター所長）
- 3月16日 セミナー
テーマ：「企画サイドから見たブラジルの特許制度並びに技術提携契約の実情」
講師：山口正邦（NGK企画部長）
- 3月23日 中小企業委員会、社会経済委員会共催講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「ブラジル日系企業の活きる道」
講師：大森弘（近畿大学教授）
- 11月25日 セミナー
テーマ：「日本人社会の特徴＝主にブラジルとの対比」

講 師：福岡衛（ジェトロ・サンパウロセンター所長）

一機械金属部会

6月9日 工場見学会
見学先：フォルクス・ワーゲン社サンベルナルド・ド・カ
ンポ本社工場、小松ブラジル（株）スザノ本社工
場

一電気電子部会

4月7日 工場見学会
見学先：NEC・ド・ブラジル社グアリュウリョス工場
8月29日 講演会
テーマ：「最近の日本経済・社会」
講 師：石山四郎（経済評論家）

定例昼食会

1月12日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月23日 定例会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
テーマ：「88年の経済見通し」
講演者：田中信（等松青木会計監査事務所代表）
3月11日 定例会（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ）
テーマ：「ミナス州開発計画セミナー」
講演者：アリビオ・カステロ・ブランコ（ミナス州企画長
官）
4月19日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「サンパウロ州地方都市工業化並びにサンパウロ大
都市圏の地方分散化」
講演者：ジョゼ・チアッセイ・キルステン（サンパウロ州
商工長官）
5月17日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
テーマ：「全国並びに地域社会経済でのゾーナ・フランカ・
デ・マナウス」
講演者：ジャジール・カルバレード・マガリャエンス（S
UFRAMA長官）
6月21日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「ブラジルから見た日本の実像、虚像－日本の弱み

とブラジルの強み」

- 講演者：福岡衛（ジェトロ・サンパウロセンター所長）
- 7月19日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
- 8月16日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
テーマ：「ブラジルにおける企業経営を考える」
講演者：朝田静夫（日本航空（株）相談役）、山本勝造（当
所顧問）
- 9月20日 定例会（於・テラッソ・イタリア）
テーマ：「最近のブラジルの政治の動きについて」
講演者：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行
取締役）
- 10月18日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 11月22日 定例会（於・ホリデー・イン・クラウン・プラザ）
- 12月20日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）

経済資料・文献刊行

1. ソフトウェア法
2. 税制一括措置
3. 対照・ブラジル憲法草案 I
4. 対照・ブラジル憲法草案 II
5. 対照・ブラジル憲法草案 III
6. 対外債務投資転換規則
7. 外資企業の葉
8. ブラジル工業所有権院制定商標、契約モデル書状
9. 対照・ブラジル憲法草案 IV
10. ブラジル経済調整計画
11. 対外債務投資転換実施規則
12. ソフトウェア法施行規則
13. 対照・ブラジル憲法草案 V
14. 88/89年経済近代化計画
15. 1988ブラジル・ビジネス・インフォメーション
16. 新工業政策
17. 新輸入関税政策一括措置（1988年）
18. 輸出加工地域設置法
19. 新外国貿易政策一括措置（1988年）国家貿易新議会決定 157-160号
20. サンパウロ州統計資料集

21. 88/89 年輸出規則改正 (CACEX 通達 193 号)
22. 1989 年連邦一般予算案
23. 内国工業所有権庁・商標に係る施行規則
24. あなただけがどのような試験にもパスする法
25. ブラジル連邦共和国憲法
26. 輸出加工地域 (Z P E) 法細則
27. 新工業政策細則

機関誌『ブラジル経済情報』(88 年主要記事)

1 月 15 日	716 号	ノーブレガ=ミリエ路線スタート、制憲議会におけるセントロンの腹案
2 月 1 日	717 号	ブラジル第二の工業地帯—サンパウロ州内地方都市、アブレウ新企画長官就任でオーソドックス経済に、 JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
2 月 15 日	718 号	ブラジル経済 87 年回顧と 88 年展望業種別部会長懇談会
3 月 1 日	719 号	財政赤字対策 給料目減りカバー、企業・労働界の意見、 JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
3 月 15 日	720 号	財政赤字・インフレ対策に州工連も一役、対外債務交渉、 UMA UNIÃO VANTAJOSA (ABRAM SZAJMAN)
4 月 1 日	721 号	IMF 協定でリセッション回避、伯経済の国際化進む、 JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
4 月 15 日	722 号	給与に比重かかる財政再建、ゴールデン・シェア型公社の民営化法案、A PARTICIPAÇÃO DO JAPÃO NA VIDA BRASILEIRA
5 月 1 日	723 号	亜伯統合気運もり上がる、科学技術政策、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
5 月 15 日	724 号	制憲議会経済秩序編草案可決、対外債務の投資転換とメリット、A SAGA DA IMIGRAÇÃO (FABIO MEIRELLES)
6 月 1 日	725 号	技術・投資促進・規制緩和、SUFRAMA 長官のマナ

		ウス自由商業区説明、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
6 月 15 日	726 号	上場企業に業績好転の兆し、新工業政策、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
7 月 1 日	727 号	経済方針明らかな変化、日伯国際交流シンポジウム、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
7 月 15 日	728 号	経済路線に軌道修正、アマト会長が社長協定を提案
8 月 1 日	729 号	大統領、経済安定に意志固める、工業燃料問題、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
8 月 15 日	730 号	ブラジル経済 88 年上期回顧と下期展望業種別部会懇談会
9 月 1 日	731 号	新閣僚、既定路線を踏襲か、 シュルツ長官伯の経済方針を支持、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
9 月 15 日	732 号	新憲法にナショナリズムの流れ顕著、新憲法発布で予想される変化
10 月 1 日	733 号	新憲法のそこが知りたい・・・
10 月 15 日	734 号	社会協定に向け一歩前進、新憲法・政府は対応に大わらわ、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
11 月 1 日	735 号	所信を曲げないノブレガ蔵相、モラトリアム撤回と投資見通し、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
11 月 15 日	736 号	物価に歯止めか、社会協定一債務の投資転換で蔵相が説明、JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL
12 月 1 日	737 号	左翼勝利で中道派反省、情報産業 35 億ドル市場へ
12 月 15 日	738 号	公的の税特典廃止・消滅方策、通貨審決議の要点 JAPÃO 1988 COMPARAÇÃO INTERNACIONAL

1989年

1989年は天皇陛下の崩御で昭和から平成に移り、国内ではサルネイ政府三度目の凍結令“サマー・プラン”の実施により、金融界は大荒れ。その後、高金利政策に伴うハイパーインフレが起った。

ソ連ゴルバチョフ議長のペレストロイカの影響を受け共産党独裁体制は崩壊、民主開放の激しい変革運動が各地で展開された。6月の天安門広場の大虐殺、11月のベルリンの壁の崩壊、年末にはルーマニアの独裁首相チャウシェスク夫妻の銃殺処刑などがその象徴的事件として世界の人々に強いショックを与えた。

国内では、11月に実施された大統領選挙第1回投票では22人が立候補。12月17日の決選投票ではフェルナンド・コロール氏が勝利に輝き希望の星となった。

88年のハイパーインフレを受けて89年1月に発表されたサマー・プランの骨子は物価・給与の凍結、通貨価値修正の廃止、公債・通貨発行の大幅な制限、1000分の1のデノミ（新通貨単位は新クルザード）、為替の切り下げ並びに固定化、金利の引き上げ、公務員の人員整理を含む行政改革の実施などであった。これは、86年2月に実施したクルザード・プランおよび87年のブレッセル・プラン後の弊害を補うべく、給与・物価・為替を凍結するとともに、財政赤字の拡大を抑え通貨供給をタイトにするというショック療法とオーソドックスな手法をミックスした政策であった。

サマー・プランの実施及び消費者物価指数の算定期間の変更により、89年2月のインフレは1月の70.3%から3.6%へと一時的に鎮静化。しかし、その後政府による物価管理が困難な品目を中心に値上がりが見られたほか、一部品目の凍結解除、公共料金を含む価格改定により、インフレ率はジリ高に推移してきた。

サマー・プランはインフレのハイパー化を一時的に回避するにとどまり、財政赤字の削減など構造的な調整は全く行われないまま、政府は6月中旬に暫定措置を発表し、為替のミニ切り下げの復活および通貨価値修正の復活にあたりBTN（長期国債）フィスカル（通貨価値修正にインデックス化される）を導入することを発表した。

89年の経済成長率は実質3.6%の伸びを記録し、一人当たりのGDP成長率も1.5%伸びた。実質3.6%の成長は、鉱工業部門が3.9%伸びたことが大きく寄与している。またインフレは、89年12月に前年同月比1,765%と近年にない高い数字となった。

89年の貿易収支は、輸出は343億9200万ドル（前年比1.8%増）、輸入182

億 8100 万ドル（前年比 25.2%増）で 161 億 1000 万ドルの黒字となり年初の目標をкаろうじて達成した。

輸入が顕著な増加を示す一方で輸出が鈍化。輸入急増は、主として為替切り下げの遅れによるものであるが、関税率の引き下げや、I/L(Import License、輸入許可書) 発給一時停止品目の縮小、国産類似品審査の緩和など一連の輸入規制緩和政策の実施、国内需要回復も輸入拡大要因として挙げられる。輸出の鈍化は為替要因、緊縮財政のあおりを受けて制度金融が停止状態に陥ったことが大きく影響した。

89 年の日本の対ブラジル輸出額は 13 億 1000 万ドル（前年比 31.3%増）、輸入額は 29 億 9900 万ドル（1.7%増）であった。この結果、貿易収支は 16 億 8900 万ドルの赤字を記録し、日本側の圧倒的な入超が続いている。89 年は円安の進行にもかかわらず 30%強も輸出が増加。現地通貨の切り下げの遅れと内需の回復がより強く反映した結果とみられる。

役員名簿（89 年 12 月 31 日現在）

名 誉 会 頭：別役道昌

顧 問：広川郁三、橘富士雄、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：後藤隆（ヤンマー・ド・ブラジル）

副 会 頭：小林利郎（ブラジル東京銀行）、西村隆男（ブラジル三井物産）、吉田揚助（南米銀行）、小原康正（伯国三菱商事）

専任理事：加藤治男（ブラジル住友商事）、難波慶二（豊和機械）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、
竹原順三郎（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）

財務理事：小宮武夫（ブラデスコ銀行）、三瓶昭一（アメリカラチーナ保険）、若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）

委員会

日伯経済交流促進委員会：小林利郎（ブラジル東京銀行）

労働問題研究委員会：難波慶二（豊和機械）

機関誌委員会：竹原順三郎（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）

相互啓発委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）

日伯法律委員会：吉田揚助（南米銀行）
渉外広報委員会：加藤治男（ブラジル住友商事）
行動基準委員会：西村隆男（ブラジル三井物産）
中小企業委員会：若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）
総務委員会：小原康正（伯国三菱商事）

業種別部会

コンサルタント部会：山田唯資（アイコン・インターナショナル）
金融部会：小林利郎（ブラジル東京銀行）
貿易部会：松村洋（丸紅ブラジル）
機械金属部会：久晃一（大同コーポレーション）
電気電子部会：柴田幸次郎（古河電気工業）
化学部会：渡辺豊比古（ブラジル・スリーボン）
運輸サービス部会：井川末富（大阪商船三井船舶）
繊維部会：瀬口芳穂（大和紡ブラジル）
食品部会：矢野時義（日清味の素アリメントス）
建設不動産部会：大庭一元（丸紅ブラジル不動産）

89年度理事会及び監事会

理 事

1.	味の素インテルアメリカナ	小山豊
2.	アメリカ・ラチーナ保険	三瓶昭一
3.	イグアス・コーヒー	江坂雅雄
4.	伊藤忠ブラジル会社	松永和康
5.	NSK・ド・ブラジル	高橋克也
6.	大阪商船三井船舶	井川末富
7.	鐘紡ブラジル	別役道昌
8.	兼松ブラジル	田端浩司
9.	サントリー・ド・ブラジル	石井亘
10.	三和銀行	小宮武夫
11.	ジェトロ	小島襄
12.	CBC重工業	押切フラビオ壮
13.	ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
14.	大同コーポレーション・ド・ブラジル	久晃一
15.	ダイワボウ・ブラジル	瀬口芳穂

16.	竹中商会	竹中正
17.	東山農産加工	田中福蔵
18.	東芝・ド・ブラジル	山崎章
19.	東洋紡ブラジル	村松雅
20.	南米銀行	吉田揚助
21.	南米安田保険	西井国雄
22.	南米リース	坂口孟
23.	ニチメン・ド・ブラジル	南直昌
24.	日本航空サンパウロ支店	佐相登志夫
25.	N E C・ド・ブラジル	斎藤敏雄
26.	伯国三菱重工業	久米康夫
27.	伯国三菱商事	小原康正
28.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	竹原順三郎
29.	ブラジル久保田鉄工	小山豊樹
30.	ブラジル住友銀行	植田義昭
31.	ブラジル住友商事	加藤治男
32.	ブラジル東京銀行	小林利郎
33.	ブラジル特殊陶業	成富武典
34.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
35.	ブラジル日商岩井	浅井宏一
36.	ブラジル日清紡	永井正明
37.	ブラジル富士写真フィルム	白崎武男
38.	ブラジル松下電器	乾政明
39.	ブラジル三井物産	西村隆男
40.	ブラジル三菱銀行	永井博
41.	ブラデスコ銀行	小宮武夫
42.	古河電気工業	柴田幸次郎
43.	プロツトーレス倉庫	延満三五郎
44.	豊和機械	難波慶二
45.	丸紅ブラジル	松村洋
46.	三井銀行サンパウロ駐在員事務所	杉浦文雄
47.	三井肥料	杉浦弘輝
48.	ヤシカ・ド・ブラジル	笠原睦生
49.	ヤンマー・ド・ブラジル	後藤隆
50.	ユニチカ・ド・ブラジル	土川昭

監 事

1. 山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサル タント・アソシエイト
2. 竹内伸二	安田信託銀行サンパウロ駐在員事務所
3. 河内 裕	ブラジル大正海上火災

89年度事業報告

総 会

- 3月22日 第39回定期総会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1988年度事業報告提出並びに承認」「1988年決算書提出並びに承認」、「1989／90年理事・監事選任」、「監事意見書提出」
- 4月18日 臨時総会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1989／90年事業計画案提出並びに承認」、「1989年収支予算案提出並びに承認」

常任理事会

- 1月30日 定例（於・当所会議室）
- 2月17日 定例（於・当所会議室）
- 4月14日 定例（於・当所会議室）
- 5月11日 定例（於・当所会議室）
- 6月9日 定例（於・当所会議室）
- 7月18日 定例（於・ブッフエ・コロニアル）
- 8月30日 定例（於・当所会議室）
- 12月5日 定例（於・当所会議室）

理 事 会

- 2月21日 「1988年度事業報告審議の件」、「1988年収支決算書審議の件」、「監事意見書提出」（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 4月11日 「1989／90年度常任理事選挙結果報告並びに任命」（於・当所会議室）
- 4月18日 「1989／90年事業計画案審議の件」、「1989年予算案審議の件」、「委員会改造計画案提出並びに承認」（於・ブッフエ・コロニアル）
- 8月1日 「常任理事補充選挙結果報告並びに新常任理事任命」（於・当所会議室）
- 9月19日 「第4四半期会費調整率審議の件」（於・ホテル・ブラジルトン）

監 事 会

- 3 月 1 日 「1988 年収支決算書監査」、「監査報告作成並びに監事意見書作成」(於・当所会議室)
- 5 月 26 日 「第 1 四半期会計監査」(於・当所会議室)
- 9 月 12 日 「第 2 四半期会計監査」(於・当所会議室)
- 11 月 24 日 「第 3 四半期会計監査」(於・当所会議室)

共催・後援・協力行事

- 1 月 31 日 業種別部会長懇談会
「87 年回顧と 88 年展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 後藤隆 (ヤンマー)
 - ・ 紡績・繊維部会長 横溝弘史 (ブラジル日清紡)
 - ・ 金融・保険、証券部会長 小林利郎 (ブラジル東京銀行)
 - ・ 運輸・サービス部会長 本永群起 (ツニブラ日伯交通社)
 - ・ 電気・電子部会長 原田博 (サドキン電球)
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 久晃一 (大同コーポレーション)
 - ・ 建設・不動産部会長 鎌田和政 (ブラジル竹中工務店)
 - ・ 貿易部会長 船橋銓 (三菱商事)
 - ・ コンサルタント部会長 山田唯資 (アイコン・インターナショナル)
 - ・ 化学部会長 古賀功 (三井肥料)
 - ・ 食品副部会長 大西康之 (サントリー・ド・ブラジル)
- 2 月 1 日 「小村康一駐ブラジル特命全権大使歓送会」(於・文協貴賓室、日系諸団体共催)
- 4 月 4～5 日 中南米官民合同会議 (於・カラカス・ベネズエラ)
- 4 月 12 日 「賀陽治憲駐ブラジル特命全権大使歓迎会」(於・文協貴賓室、日系諸団体共催)
- 7 月 30 日 業種別部会長懇談会
「88 年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 後藤隆 (ヤンマー)

・ 紡績・繊維部会長	横溝弘史（ブラジル日
・ 清紡）	
・ 金融・保険、証券部会長	小林利郎（ブラジル東
	京銀行）
・ 運輸・サービス部会長	本永群起（ツニブラ日
	伯交通社）
・ 電気・電子部会長	原田博（サドキン電球）
・ 機械・金属・鉄鋼部会長	久晃一（大同コーポレー
	ーション）
・ 建設・不動産部会長	鎌田和政（ブラジル竹
	中工務店）
・ 貿易部会長	船橋銓（三菱商事）
・ コンサルタント部会長	山田唯資（アイコン・イ
	ンターナショナル）
・ 化学部会長	古賀功（三井肥料）
・ 食品副部会長	大西康之（サントリー・
	ド・ブラジル）

10月6～7日 「パラナ日伯商工会議所設立 10 周年記念式典」、「第 3 回日伯経済シンポジウム」（於・ロンドリーナ）

委員会・部会の主な活動

一日伯経済交流促進委員会

- 5月8日 コンサルタント部会共催講演会（於・南米銀行本店講堂）
 テーマ：「世界的なグローバル経済の中での日本の将来」
 講師：大前研一（マッケンジー日本支社長）
- 9月28日 ジェトロ・サンパウロ・センター共催昼食懇談会（於・当
 所会議室）
 テーマ：「日本の対ブラジル経済協力に関して」
 ゲスト：糟谷晃（通商産業省通商政策局経済協力部部長）
 他 2 名

一労働問題研究委員会

- 9月28日 勉強会
 テーマ：「賃金の支払い状況における源泉課税解釈」
 講師：西エドワルド弁護士（アーサー・アンダーセン会計監査法人）

一相互啓発委員会

- 6月14～16日 「パラグアイ国首都アスンシオン周辺産業視察旅行」
見学先：サンスイ、プラスチック、シロサワ商工、人作りセンターほか
- 11月7～11日 「アマゾン地域産業視察ツアー」
見学先：モトホンダ、永大、ニチレイ、アルブラスほか

一日伯法律委員会

- 5月30日 新法令説明会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「I CMS（商品流通サービス税）納税について」
講師：ベルナルド・リベイロ・デ・モライス法学博士（マッケンジー大学法学部教授、アルバレス・マッシャード大学法学部教授）

一涉外広報委員会

- 2月16日 税制セミナー（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「1988 会計年度に適用できる租税措置と夏季プランの租税措置について」
講師：平島大器（アーサー・アンダーセン会計監査法人）、ジョアン・アルフレッド・ブランコ（同）
- 5月5日 工場見学会
見学先：ヴィラーレス社エレベーター工場
- 6月6日 ブラジル紹介セミナー（第1日）
テーマ：「ブラジルの民族構成とその影響力」、「パンタナルとアマゾンの自然環境と開発」
講師：中隅哲郎（ユニベルツール社取締役）
- 6月13日 税務セミナー（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「利益配当に関する源泉課税制度の改正について」
講師：都築真一（KPMG ピート・マーウィック・ドレイファス会計監査法人、ディオゴ・エルナンデス・ルイス（同）
- 6月13日 ブラジル紹介セミナー（第2日）
・テーマ：「日本人先輩が見るブラジル」
講師：別役道昌（鐘紡ブラジル社社長）、小林利郎（ブラジル東京銀行頭取）、

- 篠又幸一郎氏（アメリカ・ラチーナ社副社長）
 ・テーマ：「ブラジルの音楽とダンス」
 講 師：坂尾英矩（サンパウロ日本国総領事館文化班）
- 9 月 6 日 税務セミナー（於・南米銀行本店講堂）
 テーマ：「新価値修正制度化の決算時における税務処理に関して」
 講 師：伊藤マウロ（等松青木会計監査法人）、
 ジョゼ・カミーロ・サントス（同）
 ジルマール・コスタ・デ・バーロス（同）
- 11 月 29 日 税務セミナー（於・南米銀行本店講堂）
 テーマ：「利益配当の対外送金に関わる税務対策」
 講 師：ラウロ・ナカモト（プライス・ウォーターハウス
 会計監査法人）、セルジオ・ルペルシオ（同）

ーコンサルタント部会

- 4 月 14 日 講演会
 テーマ：「日本の経済・社会」
 講 師：福岡衛（ジェトロ・サンパウロセンター所長）
- 5 月 8 日 日伯経済交流促進委員会共催講演会（於・南米銀行本店講堂）
 テーマ：「世界的なグローバル経済の中での日本の将来」
 講 師：大前研一（マッケンジー日本支社長）

ー機械金属部会、繊維部会、食品部会

- 10 月 5 日 機械金属部会、繊維部会、食品部会共催工場見学会
 「ジュンジャイ地区工場見学会」
 見学先：C I C A、鐘紡ブラジル、C B C 重工

ー電気電子部会

- 4 月 4 日 講演会
 テーマ：「ブラジルの政治経済」
 講 師：植木シゲアキ（元鉱山動力大臣）
- 5 月 23 日 講演会
 テーマ：「電気電子業界の現状と展望」
 講 師：パウロ・ベリンニョ（A B I N E E 会長）
- 9 月 26 日 パネルディスカッション
 テーマ：「部会内二世経営陣に聞くブラジルの日本企業と展

望」

司 会：勝田敏也（S P州通信審議会会長）

パネラー：松本エミリオ（NEC・ド・ブラジル取締役）、
中谷アンセルモ（古河電工ブラジル社長）、篠原
宇一（ブラジル松下電器常務取締役）

11月29日 工場見学会

見学先：CPQD（テレプラス研究所）、ブラジル三豊

定例昼食会

1月10日	新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月21日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
3月22日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル） テーマ：「プラノ・ベロンの現状と見通し」 講演者：田中信（等松青木会計監査法人）
4月18日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
5月16日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
6月20日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
7月18日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
8月15日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル） テーマ：「SP州憲法の重要性」 講 師：トニコ・ラーモス（SP州議会議長）
9月19日	定例会（於・ホテル・ブラジルトン）
10月17日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル） テーマ：「イビチンガ市の紹介と企業誘致」 講演者：サトウ・ヤスオ（イビチンガ市長）
11月21日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル） テーマ：「日伯両国関係について」 講演者：アリソン・パウリネイリ（下院議員）
12月18日	忘年会（於・マクソード・プラザ・ホテル）

経済資料・文献刊行

1. 内国工業所有権庁・特許権に係る施行規則
2. 企業利益社会負担金法
3. インフレ抑制夏期一括措置
4. 夏期インフレ抑制計画補足措置

5. 日ポ対訳ブラジル憲法
6. 第2次夏期インフレ抑制政策（3）
7. 暫定措置 50 号
8. ICM 基本法
9. ブラジル経済再インデクセーション
10. TQC の基本
11. 賃金政策法、ストライキ法、社会保険負担改正法
12. 1990 年予算編成方針
13. 輸出者便覧
14. TQC 推進チェックリスト
15. 1990 年連邦予算案教書
16. 日本移民 80 年祭記念論文コンクール入選論文集
17. 新勤続期間保証基金法（FGTS Lei 7839/12/10/89）
18. コラリーニョ・ブランコ犯罪法（Lei 7492/16/06/86）
19. ブラジル外国人法令集成（ブラジルにおける外国人の法的地位）
20. ハイパーインフレ（アルゼンチンの検証とブラジルの対応）
21. ブラジルはいま（21 世紀の大国への挑戦）

機関誌『ブラジル経済情報』（89 年主要記事）

1 月 15 日	739 号	大統領国家予算を縮小、89 年経済予測
2 月 1 日	740 号	改造内閣の横顔、主要決議集一行政改革、経済改革ほか
2 月 15 日	741 号	業種別部会長懇談会特集号「ブラジル経済 1998 年の回顧と 1989 年の展望」
3 月 1 日	742 号	ミッテランの債務軽減構想、物価解凍案の周辺、
3 月 15 日	743 号	ラ米の外債と農業、新法令決議集一農業融資ほか
4 月 1 日	744 号	給与政策検討状況、風向き変わる外債問題
4 月 15 日	745 号	政府、夏季プラン手直しを示唆、新法令決議集一半製品輸入の I C M S
5 月 1 日	746 号	経済政策部分修正、暫定措置法 48 号の内容
5 月 15 日	747 号	民主体制擁立のシナリオ、暫定措置法 48 号の内容
6 月 1 日	748 号	政府、エネルギー問題再検討、講演会内容録一大前研一マッキンゼー日本支社長「世界的なグローバル経済の中での日本」
6 月 15 日	749 号	G D P 民間部門の底力示す

7月1日	750号	夏季プラン崩壊、インフレ再熱
7月15日	751号	政治経済危機打開への各界の意見、スト法成立
8月1日	752号	解凍ショックと下期の見通し、短期金融投資額激増
8月15日	753号	業種別部会長懇談会特集号 「ブラジル経済 1989 年上期の回顧と下期の展望」
9月1日	754号	財界フォーラム提言要約、大統領教書
9月15日	755号	インフレ対策の焦点
10月1日	756号	ラ米のデモクラシー脅かす経済危機
10月15日	757号	連邦総合予算案国会審議へ
11月1日	758号	政務引き継ぎに備える政府、コロール候補の経済方針
11月15日	759号	業種別協議会ひとまずハイパーインフレ歯止めに強調
12月1日	760号	1990 年経済は冷え込みか大荒れか
12月15日	761号	民間主導の自力投資時代へ

1990年

1990年は、共産主義社会の組織的自壊作用による東欧諸国の自由化の進展、東西ドイツの合併などが東西冷戦の終息への歴史的変革に発展。イラクのクウェート侵攻などの中東情勢の影響による原油価格の乱高傾向で年末を迎えた。

ブラジルでは、30年ぶりに直接選挙によってコロール政権が誕生。預金封鎖、増税、需要抑制など国民に大きな犠牲を強要し、インフレ抑制策では金融抑制と高金利策の一点張り。9月以降、景気が後退し、工場操短、人員整理、和議倒産が多発した。

厳しい経済環境の下で会議所手持預金も封鎖されて、会議所の諸活動は制約を受けて必ずしも十分な成果を挙げることができなかった。

日伯関係においては、90年1月に就任前のコロール大統領が訪日、海部俊樹首相と会談し、対ブラジル投資や経済協力の促進を要請した。また、同月にマナウス輸出加工区への企業誘致のためアマゾナス州の投資セミナーが開催された。

90年のGDPは4%のマイナス成長となった。90年3月にコロール政権がインフレ撲滅を主眼とした「コーロル・プラン」を発表。同プランは預金凍結による通貨供給制限、その後の高金利という引き締め政策の結果、国内消費、投資とも落ち込み、また国内通貨不足によるドル安／クルゼイロ高で外需も縮小した。同プランの中でも通貨流動性の制限は同プラン最大の柱で、預金凍結により80%の流動性がカットされた。この結果、多くの企業は給与支払い困難と運転資金の逼迫に直面した。政府が、凍結預金の引き出し緩和を行なったこと、給与調整を労使の自由交渉に任せたこと、物価も一部必需品を除いて自由化されたことから、一時的にゼロに抑えられたインフレは、7月以降月間10%台に達し、90年通年では1,765%となった。

90年の国際収支は、89年の33億9100万ドルを上回る72億700万ドルの大幅赤字となった。貿易外収支が金利の低下による利払い減少、また移転収支は18億ドルの赤字に転落した。資本収支も前年に引き続き48億ドルの赤字となった。90年末の外貨準備高は87億5500万ドル、対外債務残高は1222億ドルとなった。

コロール政権は、90年6月にブラジル経済の近代化を目指した「新工業・貿易政策」を発表。輸入の自由化、外資の導入といった市場開放を通じてブラジル工業製品の生産性と品質の向上、最新技術の導入・開発、国民生活水準の向上を図ろうとするものである。また、90年12月には「品質・生産性向上プログラム」を打ち出した。

90年の貿易は輸出313億9000万ドル（前年比8.7%減）、輸入203億6300

万ドル（同 11.5%増）となり、貿易黒字は 110 億 2700 万ドル（31.2%減）となった。コーロル・プランによる国内通貨不足からのドル安／クルゼイロ高が大きく響き、鉄鋼製品、輸送機械、産業用機械などの輸入主要品目が軒並み大幅減となった。

日本の対ブラジル輸出額は 12 億 2512 万ドル（前年比 6.5%）、輸入額は 31 億 7325 万ドル（同 5.8%増）であった。

役員名簿（90年12月31日現在）

名 誉 会 頭：別役道昌

顧 問：広川郁三、橘富士雄、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：後藤隆（ヤンマー・ド・ブラジル）

副 会 頭：小林利郎（ブラジル東京銀行）、西村隆男（ブラジル三井物産）、吉田揚助（南米銀行）

専任理事：加藤治男（ブラジル住友商事）、難波慶二（豊和機械）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、竹原順三郎（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）

財務理事：久米康夫（伯国三菱重工業）、土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）、若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）

委員会

日伯経済交流促進委員会：小林利郎（ブラジル東京銀行）

労働問題研究委員会：難波慶二（豊和機械）

機関誌委員会：竹原順三郎（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）

相互啓発委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）

日伯法律委員会：吉田揚助（南米銀行）

渉外広報委員会：加藤治男（ブラジル住友商事）

行動基準委員会：西村隆男（ブラジル三井物産）

中小企業委員会：若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）

総務委員会：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：山田唯資（アイコン・インターナショナル）
金融部会：小林利郎（ブラジル東京銀行）
貿易部会：松村洋（丸紅ブラジル）
機械金属部会：久晃一（大同コーポレーション）
電気電子部会：乾政明（パナソニック・ド・ブラジル）
化学部会：渡辺豊比古（ブラジル・スリーボンド）
運輸サービス部会：原昌久（ブラジル日本通運）
繊維部会：寺農一清（コトニフィッシオ・クラシキ）
食品部会：遠藤敏之（帝人ブラジル輸出入）
建設不動産部会：黒山明彦（ホビエル・ヤマト）

90年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカナ	小山豊
2. アメリカ・ラチーナ保険	速水明憲
3. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
4. 伊藤忠ブラジル会社	筒井茂樹
5. N S K・ド・ブラジル	高橋克也
6. 大阪商船三井船舶	仁後賢治
7. 鐘紡ブラジル	伊藤禎二
8. 兼松ブラジル	田端浩司
9. サントリー・ド・ブラジル	石井亘
10. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	石田常治郎
11. ジェトロ	小島襄
12. C B C重工業	押切フラビオ壮
13. ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
14. 大同コーポレーション・ド・ブラジル	久晃一
15. 太陽神戸三井銀行サンパウロ駐在員事務所	杉浦文雄
16. ダイワボウ・ブラジル	山岸瑛治
17. 竹中商会	竹中正
18. 東山農産加工	田中福蔵
19. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
20. 東洋紡ブラジル	日比志郎
21. 南米銀行	吉田揚助

22.	南米安田保険	西井国雄
23.	南米リース	坂口孟
24.	ニチメン・ド・ブラジル	南直昌
25.	日本航空サンパウロ支店	佐相登志夫
26.	NEC・ド・ブラジル	斎藤敏雄
27.	伯国三菱重工業	久米康夫
28.	伯国三菱商事	村瀬宏
29.	パナソニック・ド・ブラジル	乾政明
30.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	竹原順三郎
31.	ブラジル久保田鉄工	小山豊樹
32.	ブラジル住友銀行	植田義昭
33.	ブラジル住友商事	加藤治男
34.	ブラジル東京銀行	小林利郎
35.	ブラジル特殊陶業	成富武典
36.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
37.	ブラジル日商岩井	浅井宏一
38.	ブラジル日清紡	永井正明
39.	ブラジル富士写真フィルム	白崎武男
40.	ブラジル三井物産	西村隆男
41.	ブラジル三菱銀行	永井博
42.	ブラデスコ銀行	石田常治郎
43.	古河電気工業	藤田欣也
44.	プロツトーレス倉庫	延満三五郎
45.	豊和機械	難波慶二
46.	丸紅ブラジル	松村洋
47.	三井肥料	杉浦弘輝
48.	ヤシカ・ド・ブラジル	笠原睦生
49.	ヤンマー・ド・ブラジル	後藤隆
50.	ユニチカ・ド・ブラジル	土川昭

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コン サルタント・アソシエイト
2.	竹内伸二	安田信託銀行サンパウロ駐在員事務所
3.	河内 裕	ブラジル大正海上火災

90年度事業報告

総 会

- 3月20日 第40回定期総会（於・ブッフェ・コロニアル）
「1989年度事業報告、収支決算報告審議の件」、「1990年事業計画、収支予算案審議の件」、
「監事意見書報告の件」

常任理事会

- 1月9日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月20日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
3月8日 特別会（於・当所会議室）
3月12日 定例会（於・当所会議室）
3月30日 臨時会（於・当所会議室）
4月17日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
4月26日 臨時会（於・当所会議室）
6月19日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
7月4日 定例会（於・当所会議室）
7月26日 臨時会（於・サントリー）
8月21日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
9月18日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
11月20日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）

理 事 会

- 2月20日 「小宮山財務理事帰国退任に伴う財務理事補充選挙」
——ユニチカ・ド・ブラジルの土川昭代表を新財務理事に選出
（於・ブッフェ・コロニアル）
3月20日 「1989年事業報告書審議の件」、「1989年収支決算報告書審議の件」、「1990年事業計画（案）審議の件」、「1990年収支予算（案）審議の件」（於・ブッフェ・コロニアル）
8月21日 「三瓶財務理事の帰国退任に伴う財務理事補充選挙」
——伯国三菱重工業の久米康夫代表を新財務理事に選出（於・シーザー・パーク・ホテル）

監 事 会

- 2月15日 「1989年第4四半期会計監査」、「1989年収支決算報告書監査」、「監事意見書作成」（於・当所会議室）

- 6 月 7 日 「1990 年第 1 四半期会計監査」(於・当所会議室)
 9 月 19 日 「1990 年第 2 四半期会計監査」(於・当所会議室)
 11 月 28 日 「1990 年第 3 四半期会計監査」(於・当所会議室)

共催・後援・協力行事

- 2 月 1 日 業種別部会長懇談会
 「89 年回顧と 90 年展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 小原康正 (三菱商事)
 - ・ 紡績・繊維副部会長 絹川公耕 (フィエルテックス)
 - ・ 金融・保険、証券部会長 小林和郎 (ブラジル東京銀行)
 - ・ 運輸・サービス部会長 本永群起 (ツニブラ日伯交通社)
 - ・ 電気・電子部会長 柴田幸次郎 (古河電気工業)
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 久晃一 (大同コーポレーション)
 - ・ 建設・不動産部会長 鎌田和政 (ブラジル竹中工務店)
 - ・ 貿易部会長 松村洋 (丸紅)
 - ・ コンサルタント部会長 山田唯資 (アイコン・インターナショナル)
 - ・ 化学部会長 渡辺豊比古 (ブラジル・スリーボン)
 - ・ 食品部会長 遠藤敏之 (帝人ブラジル)
- 2 月 1 日 F I E S P 主催、当所、文協後援
 「国際花と緑の博覧会ブラジル参加準備状況説明会」「記念カクテルパーティー」
 (於・F I E S P)
- 3 月 17 日 「竹下登特派大使歓迎昼食会」(日系四団体主催)
- 5 月 15 日 第 2 回全伯日系商工会議所代表者会議 (於・シーザー・パーク・ホテル)、「平成二年度海外経済協力貢献者表彰候補者推薦」
- 5 月 23 日 「平成 2 年在伯叙勲者祝賀会」(日系四団体主催、於・文協貴賓室)——当所の山本勝造顧問が勲 4 等瑞宝章を受章
- 6 月 19 日 丸山総領事歓送昼食会 (於・シーザー・パーク・ホテル)

- 7月11日 「全伯日系商工会議所親睦竹下特派大使杯争奪ゴルフコンペ」
(当所水曜会主催、於・P L)
- 7月31日 業種別部会長懇談会
「90年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 小原康正 (三菱商事)
 - ・ 紡績・繊維部会長 寺農一清 (コトニフィシオ・クラシキ)
 - ・ 金融・保険、証券副部会長 竹原順三郎 (富士銀行サンパウロ駐在員事務所)
 - ・ 運輸・サービス部会長 井川末富 (大阪商船三井船舶)
 - ・ 電気・電子部会長 柴田幸次郎 (古河電気工業)
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 久晃一 (大同コーポレーション)
 - ・ 建設・不動産部会長 黒山明彦 (ボビエル・ヤマト)
 - ・ 貿易部会長 松村洋 (丸紅)
 - ・ コンサルタント部会長 山田唯資 (アイコン・インターナショナル)
 - ・ 化学部会長 渡辺豊比古 (ブラジル・スリーボンド)
 - ・ 食品部会長 遠藤敏之 (帝人ブラジル)
- 9月4日 自民党中小企業調査会海外視察団を囲む夕食懇談会 (於・バsshier)
- ゲスト： 中島源太郎衆議 (党中小企業調査会会長)、斉藤栄三郎衆議 (同副会長)、福田宏一参議 (同副会長)、杉本栄一氏 (政務調査会事務副部長)、小林憲明氏 (中小企業庁地域中小企業振興室長)、中島隆太郎氏 (中島議員付秘書)、石垣総領事、大野首席領事、下保移住班担当領事、小島 J E T R O サンパウロ事務所所長
- 参 加： 後藤会頭、小林副会頭、若松財務理事
- 9月18日 石垣泰司新総領事歓迎昼食会 (於・ブッフエ・コロニアル)
- 10月5日 「日伯経済セミナー」
(当所、F I E S P、ジェトロ・サンパウロ、サンパウロ総領事館共催、於・F I E S P 講堂)
テーマ：「経済・技術開発と日本の経験」 講師：西島章次助

教授（神戸大学経済経営学研究所）

- 10月25日 「労働統計・政策セミナー」
（JICAサンパウロ事務所、FIESP共催、当所協力、於・FIESP講堂）
テーマ：「日本における管理と労働統計」 講師：黒沢博（労働省統計局長）
テーマ：「日本における労働統計調査システム」 講師：大元宗広（労働省データ処理室長）

委員会・部会の主な活動

一日伯経済交流促進委員会

- 1月31日 経済講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「日本を中心とする内外情勢の展望」
講師：森岡正憲（伊藤忠商事経済研究所所長）
- 9月4日 講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「新工業・通商政策について」
講師：ジョアン・ロドリゲス・ダ・クーニャ経済省経済局長代理
- 9月25日 懇談会（於・ブラジリア大統領府）
「ブラジル政府関係者との日伯経済交流に関する第1回会合」
参加者：当所側、小林委員長ほか8名
政府側：セルソ・マルコス大統領経済補佐官ほか10名

一相互啓発委員会

- 3月5日 TQC講演会（於・南米銀行本店講堂）
・テーマ：「日本におけるTQC活動」
講師：武川洋三教授（中央大学工学部、デミング賞指導委員）
・テーマ：「東北日本電気におけるTQC活動の実際」
講師：菊池久英社長（東北日本電気、前NEC・ド・ブラジル社副社長）
- 11月7～10日 「サンタ・カタリーナ、クリチバ産業視察旅行」実施
訪問地：チジュッカ、ブルメナウ、ジョインヴィレ、クリチバ、
見学先：ポルト・ベロー社タイル工場、アルテックス社

繊維工場、クリスタル・エリング社クリスタル工場、ツビー社鋳物工場、ヴォルヴォ社トラック・バス工場、古河電気工業社電線工場

一日伯法律委員会

6月22日

新ブラジル・プラン解説セミナー（於・南米銀行本店講堂）

総合テーマ：「新ブラジル・プランの企業に与える影響」

- ・「新ブラジル・プラン」

（講師：マルコス・ジャネッチ・ダ・フォンセッカ経済省企画局長）

- ・「伯国の貿易政策の現状」

（講師：ロベルト・ジャネッチ・ダ・フォンセッカABECE会長）

- ・「貿易－為替と金融－」

（講師：関根実ブラジル東京銀行取締役、水越稔南米銀行外国部長）

- ・「税制－輸出税並びに輸入税－金融操作税」

（講師：①トーマス・ウリセス・デ・アンドラーデ・ギマラエンス・デロイト・ロス等松会計監査法人取締役、②ロベルト・キロガーマットス・フィーリョ・スシオルドスキ弁護士事務所パートナー）

- ・「税制－法人税並びに所得税」

（講師：①プリーニオ・ジョゼ・マラフォンーKPMG・ピート・マーウィック・ドレイファス会計監査法人パートナー、②カルロス・アルベルト・デ・ソーザ・ロッシーストロエテル・トレンチ・ベイラーノ弁護士事務所パートナー）

- ・「外資－登録、利益送金並びに資本送還－」

（講師：①砂入りカルドージレットリース会計監査法人取締役、②デビット・ディアス・デ・ソウザーアーンスト・ヤング・インターナショナル社法人税担当取締役）

- ・「外資－特許権使用料、技術移転、市場確保」

（講師：①ニコラウ・アブド・フィーリョ・シモンセン・アソシアード・コンサルタント社取締役、②エリディッチ・パウマ・ビファープライス・ウォーターハウス会計監査法人税制部マネージャー）

- ・「契約条項並びに法的解釈」
(講師：①西山スミコー西山スミコ弁護士事務所パートナー、②マルセロ・アントニオ・ムリエルーピニエイロ・ネット弁護士事務所)
- 10月2日 法律セミナー（於・南米銀行本店講堂）
総合テーマ：「消費者保護法について」
 - ・「消費者保護法の大筋」
(講師：渡部和夫ーストロエテル・トレンチ・ベイラーノ弁護士事務所パートナー)
 - ・「市民・商業面から見た消費者保護法」
(講師：マルセロ・アントニオ・ムリエルーピニエイロ・ネット弁護士事務所)
 - ・「消費者保護法の罰則面」
(講師：吉賀パウロー古河電気工業、プリーニオ・ジョゼ・マラフォンーKPMG・ピート・マーウィック・ドレイファス会計監査法人パートナー)
 - ・「消費者保護法とQC」
(講師：押切フラビオCBC重工業副社長)

一 渉外広報委員会

- 2月15日 税制セミナー（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「1989年決算における所得税に関して」
講師：砂入りカルド（ジレットリース会計監査法人パートナー）、松永タカノブ（同）
- 5月24日 経済セミナー（於・当所会議室）
テーマ：「90年代の経済管理及び国際品質に関して」
講師：ジョゼー・ルイス・バセット（アーサー・ヤング会計監査法人取締役）、イエナガ・セルソ（同）、セイノ・ススム（同）

一 中小企業委員会

- 3月29日 経済講演会（於・ブラジル三菱銀行本店8階大サロン）
テーマ：「コーロル・プランとブラジル経済—その見通しと企業の対応策—」
講師：アントーニョ・マルモ・トレヴィザン（トレヴィザン総合コンサルタント社代表）、アントニオ・マルチンス・コルターダ（同社主任エコノミスト）

ト)、ジョアン・アントニオ・ロペス (同社金融部長)

一電気電子部会

3月19日 講演会 (於・当所会議室)
テーマ:「スタート直後のコロール政権」
講師:植木シゲアキ (元鉱山動力大臣、元ペトロブラス
総裁)

定例昼食会

1月9日 新年会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
2月20日 定例会 (於・buffet・コロニアル)
テーマ:「ビデオによるセアラ州紹介」
講演者:ジュリオ・コアシ・ペレイラ (ZPE (輸出加工区) セアラ社長)
3月20日 定例会 (於・buffet・コロニアル)
テーマ:「コロール・プランの概要と今後の見通し」
講演者:田中信 (デロイト・ロス等松会計監査法人)
4月17日 定例会 (於・buffet・コロニアル)
5月15日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
6月19日 丸山総領事歓送会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
7月17日 定例会 (於・buffet・コロニアル)
テーマ:「パンタナル観光案内」
講演者:ルイス・カルロス (エルドラド・ホテル・クイアバ営業部長)
8月21日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
9月18日 石垣総領事歓迎会 (於・buffet・コロニアル)
10月16日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
テーマ:「国家の安全と陸軍の貢献」
講演者:ペードロ・ルイス・デ・アラウージョ・ブラーガ (陸軍大将・伯南東軍団長)
11月20日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
テーマ:「マリンガ市の開発計画」
講演者:リカルド・ジョゼ・バーロス (マリンガ市長)
12月13日 忘年会 (於・マクソード・プラザ・ホテル)

1990年

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 90-I サンパウロ州新憲法
2. 90-II 失業保険法
3. 90-III 所得税法改正
4. 90-IV CLT
5. 90-V コーロル経済安定計画
6. 90-VI 国会修正コーロル経済安定計画
7. 90-VII ブラジル労働災害保険法
8. 90-VIII 新工業・外国貿易政策
9. 90-IX 労働法補足法（2）
10. 90-X アンチトラスト法
11. 90-XI コーロル農業経済政策詳報
12. 90-XII 経済規則緩和一括措置
13. 90-XIII SUFRAMA（マナウス自由地域監督庁）決定 406/89 号
14. 90-XIV 消費者擁護法
15. 90-XV ブラジル工業技術振興一括措置
16. 90-XVI 労働法補足法規（3）
17. 90-XVII 証券取引委員会指令 134 号
18. 90-XVIII ブラジル品質・生産性計画
19. 90-XIX 技術用例文集

機関誌『ブラジル経済情報』（90 年主要記事）

1 月 15 日	762 号	次期政府の経済政策に注目、蔵相、各業界との対話に成功、インフレ退治に具体的方針
2 月 1 日	763 号	コロール次期大統領全体把握、熟考の姿勢、株式市場今年は活況の予想、企業経営参加や週給制（労働関係）
2 月 15 日	764 号	業種別部会長懇談会特集
3 月 1 日	765 号	新政府の経済政策にさぐり、100 万都市の Z P E（輸出加工区）、新経済政策はリベラルショックで
3 月 15 日	766 号	期待を担いコロール大統領就任、亜国再建策第 3 弾、政権交代を目前に品不足
4 月 1 日	767 号	新ブラジル・プランの今後、Z P E（輸出加工区）廃止、関税及び I P I 減免税、新政策関係の中銀回章と

		経済省省令
4 月 15 日	768 号	流動性緩和待つ産業界、国会承認済み暫定措置 この ように変わる新ブラジル・プラン後の税金と特典
5 月 1 日	769 号	新ブラジル・プランの評価、各業界の置かれた状況、 経済法務局新設
5 月 15 日	770 号	経済安定化政策推進、輸入自由化、新ブラジル・プラ ンの影響
6 月 1 日	771 号	新ブラジル・プラン成果は予想以上と大統領、21 世 紀目指す近代民主国家建設案、政府企業民営化を強調 シルバ基幹事業大臣
6 月 15 日	772 号	就任 100 日目を迎える新政府、不況乗り切り策を披露 電電部会、中銀回章集
7 月 1 日	773 号	官労使 3 者会談不成功、後藤会頭、経済省を訪問 国 会一次補正予算案を可決
7 月 15 日	774 号	新産業・貿易政策と米州自由貿易圏、新給与政策盛り 込む暫定措置 193 号、価格自由化と政府の狙い
8 月 1 日	775 号	I M F と交渉開始、ラ米経済に新しい動き、中銀当局 と為替
8 月 15 日	776 号	業種別部会長懇談会特集
9 月 1 日	777 号	経済構造改革に第一歩、公社民営化の細則出る 給料 ひとまずインデクセーション阻止
9 月 15 日	778 号	対外債務一伯なお利払い渋る、91 年度連邦予算案 輸 出入手続き、通関簡素化
10 月 1 日	779 号	対外債務交渉ー10 月再開めどにした準備、対 I M F 趣意書、工業近代化方針の要点
10 月 15 日	780 号	政府、カルテル打破と取り組む、スタグフレーション 間近、伯国の要求通るー国際コーヒー会議
11 月 1 日	781 号	対外債務まだ交渉以前の段階、新ブラジル・プラン成 否をかける金融政策、新州税 A I R（付加所得税）
11 月 15 日	782 号	企業のスタグフレーション対策、会社更生法につい て、ゼリア経済相と 8 つの問題
12 月 1 日	783 号	品質・生産性向上を目指す P C I（工業競合プログラ ム）、難しい日本の自動車メーカー誘致、破産・会社 更生法を変更、暫定措置 266 号
12 月 15 日	784 号	西半球の経済統合、輸出鈍化に警鐘、コーロル・プラ ンについて、中銀総裁の説明

1991年

1991 年年初早々に米国がイラクに侵攻し、湾岸戦争に突入した。8 月のソ連政変はソ連邦解体にまで至った。

ブラジルでは、2 月初めに第 2 次コーロル・プランが発令され、インフレ抑制のため再度の物価・賃金の凍結が実施されたが、一時的な効果と多大な犠牲混乱を残して失敗に終わったエトロドックスなものと大差はなく、3 ヶ月後にはゼリア経済相グループが失脚。モレイラ新経済相は厳しい通貨抑制と高金利による需要抑制でインフレ抑制策を堅持したため、工業は操業短縮、人員解雇、和議倒産など全く見通しのきかない不安感を持って越年した。一方、ウジミナスの民営入札が 10 月に実施。年内に国営 4 社が民営化された。

90 年から続いた高インフレは 91 年に入っても収まらず、1 月には前月比 20.2%とコロール政権発足以来最高に達した。政府はインデクセーション方式がインフレの原因として 1 月末に同方式の廃止を含む第 2 次コーロル・プランを発表。これによりインフレは 4 月には 5%に低下した。しかし、公共料金の値上げ、食料品の便乗値上げなどで再上昇を始め、8 月の封鎖預金の解除、9 月の物価凍結解除、為替の 16%切り下げ等で 10 月以降は 20%を超え、結局 91 年の消費者物価上昇率は 475%となった。

91 年 5 月に就任したマルシリオ経済相は通貨引締め、高金利政策を継続し、国内経済は深刻なりセッションに突入した。このためほとんどの業種が大きな打撃を受け、91 年のサンパウロ州内の企業倒産件数は約 7000 社と前年の 1.2 倍、解雇者数は約 16 万人となった。91 年の経済成長率は年半ばの金融緩和による一時的回復があり、前年のマイナス 4%から 1.21%となった。

91 年 6 月末で 1157 億ドルと最大の債務を抱えるブラジルにとって債務問題の解決が重要課題となっている。コロール政権は国際金融機関、銀行などとの協調を基本的スタンスとしつつも、成長を犠牲にしてまでの利払いは否定してきた。しかし、国際金融界からの孤立を避けるために 91 年 4 月に延滞払いに合意した。92 年 1 月には IMF 理事会でブラジル政府の経済調整計画を盛り込んだインテンションレターが承認された。

91 年の貿易は、輸出は 316 億 6400 万ドル（前年比 0.7%増）、輸入 210 億 100 万ドル（同 3.2%増）となり、貿易黒字は 106 億 2200 万ドル（同 1.2%減）となった。

輸出は、1 次産品（87 億 4300 万ドル）が前年横ばい、工業製品（224 億 6500 万ドル）が同 1.6%増と低い伸びとなった。これは、現地通貨高や米国の景気後退、またインセンチブ廃止、干ばつなどによる農産物生産の減少などが大きく影響した。

輸入は、自由化政策に関わらず国内経済のリセッションにより原油輸入が減少した一方で、小麦、米を中心とした農産物の輸入が増加した。

日本の対ブラジル輸出額は 12 億 2600 万ドル（前年比 0.1%増）、輸入額は 31 億 8000 万ドル（同 0.2%増）であった。この結果、貿易収支は 19 億 5400 万ドルの赤字を記録し、日本側の圧倒的な入超が続いている。

役員名簿（91 年 12 月 31 日現在）

名 誉 会 頭：別役道昌

顧 問：広川郁三、橘富士雄、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：後藤隆（ヤンマー・ド・ブラジル）

副 会 頭：小林利郎（ブラジル東京銀行）、伝田耕平（南米銀行）、西村隆男（ブラジル三井物産）、久米康夫（伯国三菱重工業）

専任理事：加藤治男（ブラジル住友商事）、難波慶二（豊和機械）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）

財務理事：永井博（ブラジル三菱銀行）、土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）、若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）、西井国雄（南米安田保険）

委員会

日伯経済交流促進委員会：小林利郎（ブラジル東京銀行）

労働問題研究委員会：久米康夫（伯国三菱重工業）

機関誌委員会：山崎章（東芝・ド・ブラジル）

相互啓発委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）

日伯法律委員会：伝田耕平（南米銀行）

渉外広報委員会：伝田耕平（南米銀行）

行動基準環境問題委員会：委員長・西井国雄（南米安田保険）

中小企業委員会：若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）

総務委員会：西村隆男（ブラジル三井物産）

経済年鑑発刊準備委員会（特設）：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジ

ル)

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（デロイト・ロス等松会計監査法人）
金融部会：植田義昭（ブラジル住友銀行）
貿易部会：筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）
機械金属部会：久米康夫（伯国三菱重工業）
電気電子部会：乾政明（パナソニック・ド・ブラジル）
化学部会：井上喬夫（出光ケミカル・ド・ブラジル）
運輸サービス部会：原昌久（ブラジル日本通運）
繊維部会：伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
食品部会：鈴木恵雄（ノムラプラス）
建設不動産部会：北村惇（ブラジル清水建設）

9 1 年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	速水明憲
2. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
3. 伊藤忠ブラジル会社	筒井茂樹
4. N S K・ド・ブラジル	高橋克也
5. 大阪商船三井船舶	仁後賢治
6. 鐘紡ブラジル	伊藤禎二
7. クボタ・ブラジル	小山豊樹
8. サントリー・ド・ブラジル	桜井文生
9. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	石田常治郎
10. C B C 重工業	押切フラビオ壮
11. ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
12. 太陽神戸三井銀行サンパウロ駐在員事務所	蓮久雄
13. 竹中商会	竹中正
14. 第一勧業銀行サンパウロ駐在員事務所	田中博
15. ダイワボウ・ブラジル	山岸瑛治
16. 東山農産加工	田中福蔵
17. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
18. 東洋紡ブラジル	日比志郎
19. 南米銀行	伝田耕平
20. 南米安田保険	西井国雄

21.	南米リース	花田好二
22.	南米旅行社	竹下康義
23.	ニチメン・ド・ブラジル	南直昌
24.	日本航空サンパウロ支店	佐相登志夫
25.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	石井英樹
26.	N E C・ド・ブラジル	斎藤敏雄
27.	伯国三菱重工業	久米康夫
28.	伯国三菱商事	村瀬宏
29.	パナソニック・ド・ブラジル	乾政明
30.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
31.	ブラジル住友銀行	植田義昭
32.	ブラジル住友商事	加藤治男
33.	ブラジル東京銀行	小林利郎
34.	ブラジル特殊陶業	成富武典
35.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
36.	ブラジル日商岩井	喜多創平
37.	ブラジル日清紡	永井正明
38.	ブラジル日本通運	原昌久
39.	ブラジル富士写真フィルム	白崎武男
40.	ブラジル三井物産	西村隆男
41.	ブラジル三菱銀行	永井博
42.	古河電気工業	藤田欣也
43.	プロツトーレス倉庫	勝屋岩雄
44.	豊和機械	難波慶二
45.	丸紅ブラジル	高田純一
46.	丸紅ブラジル不動産	乗友正昭
47.	三井肥料	杉浦弘輝
48.	ヤシカ・ド・ブラジル	笠原睦生
49.	ヤンマー・ド・ブラジル	後藤隆
50.	ユニチカ・ド・ブラジル	土川昭

補欠理事

1.	味の素インテルアメリカーナ	小山豊
2.	ブラジル兼松	津村雅一

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コン

- サルタント・アソシエイト
安田信託銀行サンパウロ駐在員事務所
ブラジル三井海上火災

1. 田中 信

デロイト・ロス等松会計監査法人

総 会

- 3月19日 第41回定期総会
「1990年度事業報告、収支決算承認の件」、「91/92年度理事
および監事選任の件」
- 4月16日 91年第1回臨時総会
「1991年度事業計画決議の件」、「1991年収支予算決議の件」

1月11日	定例会	(於・シーザー・パーク・ホテル)
2月8日	臨時会	(於・当所会議室)
2月19日	定例会	(於・マックスード・プラザ・ホテル)
3月19日	定例会	(於・シーザー・パーク・ホテル)
4月2日	臨時会	(於・当所会議室)
4月11日	臨時会	(於・当所会議室)
4月16日	臨時会	(於・シーザー・パーク・ホテル)
4月30日	臨時会	(於・当所会議室)
6月11日	定例会	(於・当所会議室)
7月16日	定例会	(於・ブッフエ・コロニアル)
8月20日	定例会	(於・シーザー・パーク・ホテル)
9月19日	定例会	(於・ブッフエ・コロニアル)
10月15日	定例会	(於・マックスード・プラザ・ホテル)
11月19日	定例会	(於・ブッフエ・コロニアル)
12月10日	定例会	(於・当所会議室)

2月19日 定例会（於・マックスロード・プラザ・ホテル）
「1990年事業報告審議」、「1990年収支決算報告審議」
4月2日 臨時会（於・当所会議室）

- 「1991／92 年度常任理事任命」
 4 月 16 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 「1991 年度事業計画（案）審議」、「1991 年収支予算（案）審議」、「経済年鑑発刊準備委員会特別設置承認」

監 事 会

- 2 月 15 日 定例会（於・当所会議室）
 「1990 年事業報告書監査」、「1990 年収支決算報告書監査」、「監事意見書作成」
 5 月 22 日 定例会（於・当所会議室）
 「1991 年第 1 四半期会計監査」
 8 月 9 日 定例会（於・当所会議室）
 「1991 年第 2 四半期会計監査」
 10 月 25 日 定例会（於・当所会議室）
 「1991 年第 3 四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1 月 14 日 サンパウロ日本国総領事館主催説明会（於・当所会議室）
 「安全対策に関する緊急連絡並びに緊急連絡網作成協力要請」
 ——グループ幹事会社の担当者会議実施「調査手順の確認」（9 月 27 日）、調査開始（10 月 7 日）
 1 月 24 日 サンパウロ日本国総領事館大野俊作首席領事歓送会・中村裕新首席領事歓迎会（於・文協貴賓室、4 団体共催）
 1 月 31 日 業種別部会長懇談会
 「90 年回顧と 91 年展望」
- | | |
|---------------|--------------------|
| ・ 司会 総務委員会委員長 | 土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル） |
| ・ 紡績・繊維部会長 | 寺農一清（コトニフィシオ・クラシキ） |
| ・ 金融・保険、証券部会長 | 小林利郎（ブラジル東京銀行） |
| ・ 運輸・サービス部会長 | 原昌久（ブラジル日本通運） |
| ・ 電気・電子部会長 | 乾政明（パナソニック・ブラジル） |
| ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 | 久米康夫（三菱重工業） |
| ・ 建設・不動産部会長 | 黒山明彦（ボビエル・ヤマト） |

- ・ 貿易部会長 松村洋（丸紅）
 - ・ コンサルタント副部会長 田中信（デロイト・ロス・等松）
 - ・ 化学部会長 渡辺豊比古（ブラジル・スリーボンド）
 - ・ 食品部会長 遠藤敏之（帝人ブラジル）
- 3月19日 1991／92年度理事・監事選挙結果発表（第41回定期総会席上）
——日伯農牧が理事を辞任、次点の豊和機械が理事就任（3月21日）
- 4月2日 1991／92年度常任理事選挙結果発表
——理事会席上にて選挙を実施
- 4月7日 小原康正副会頭歓送会（於・後藤会頭私邸）
- 4月26日 小林秀雄日本ウジミナス社長一行との懇談会
ゲスト：石垣泰司サンパウロ総領事一行
- 4月26日 第3回全伯日系商工会議所代表者会議
テーマ：「『平成三年度通産大臣による海外経済協力貢献者表彰』被推薦候補者選出」「今後の日伯経済交流促進に関する件」
- 4月26日 全伯日系商工会議所代表者の歓迎夕食会（於・サントリー）
歓迎ゴルフコンペ（於・P L G C、同27日）
- 4月30日 サンパウロ日本国総領事館移住班担当・下保暢彦領事歓送会、
石井俊道新領事歓送会（於・文協貴賓室、4団体共催）
- 5月21日 第1回全伯官民合同会議（於・ブッフエ・コロニアル）
「ブラジル経済の現状と見通し」、「日伯経済関係の現状と今後の展開」
- 6月11日 F I E S Pのアントニオ・テイシェイラ・ダ・シルバ外資企業部会長と中谷アンセルモ外資企業部会アジア地域担当が来所
- 7月9日 マナウス日本国総領事館・アマゾナス日系商工会議所共催
「日伯経済交流促進セミナー」（於・ホテル・マナウス）
——小林利郎副会頭を講師として派遣：講演テーマ「ブラジルと日本」
- 7月10日 S U F R A M A主催「日伯経済交流促進セミナー」（於・S U F R A M A講堂）
——小林利郎副会頭を講師として派遣：講演テーマ「世界経済と90年代の日伯関係」

- 7月26日 ルイス・フェルナンド・ヴェルシ経済省大蔵局長講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「公共部門の財政調整並に財政政策」
- 7月31日 業種別部会長懇談会
「91年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 西村隆男（ブラジル三井物産）
 - ・ 日伯経済交流促進委員会委員長 小林利郎（ブラジル東京銀行）
 - ・ 紡績・繊維部会長 伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 植田義昭（ブラジル住友銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 原昌久（ブラジル日本通運）
 - ・ 電気・電子部会長 乾政明（パナソニック・ブラジル）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 久米康夫（三菱重工業）
 - ・ 建設・不動産部会長 北村惇（ブラジル清水建設）
 - ・ 貿易部会長 筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）
 - ・ コンサルタント副部会長 山田唯資（アイコン・インターナショナル）
 - ・ 化学部会長 渡辺豊比古（ブラジル・スリーボンド）
 - ・ 食品部会長 鈴木恵雄（野村畜産研究所）
- 8月14日 パラー日系商工会議所主催「日伯経済交流促進セミナー」（於・ベレン）
——小林利郎副会頭を講師として派遣：講演テーマ「世界経済と90年代の日伯関係」
- 8月15日 賀陽治憲駐ブラジル特命全権大使歓送会（於・サントリー、4団体共催）
- 8月28日 金融財政事情研究会主催南米金融調査団との懇談会（於・当所会議室）
- 11月8日 （財）日本及び太平洋諸国研究協会主催「日本及び太平洋諸国研究セミナー」（於・F G V講堂）

——伝田耕平副会頭を講師として派遣：講演テーマ「プロモーションメント」

- 11 月 12 日 経団連首都移転問題委員会派遣首都機能問題に関する海外調査団との懇談会（於・当所会議室）
- 11 月 26 日 日本国政府派遣ラテン・アメリカ経済ミッション歓迎会（於・サントリー）
ゲスト：「佐波正一経団連副会長一行」

加盟団体行事への参加

- 1, 『外資企業グループ』
対伯投資問題委員会（1 月 28 日 － アメリカ商工会議所）
昼食懇談会（7 月 17 日 － ブラジリア）
- 2, 『サンパウロ商業協会外国商工会議所委員会』
昼食懇談会（8 月 8 日、11 月 27 日 － とともにサンパウロ商業協会本部）
定例会議（9 月 11 日、10 月 24 日 － とともにサンパウロ商業協会本部）

委員会・部会の主な活動

一行動基準環境問題委員会

- 9 月 5 日 会員企業の環境問題対策意識調査アンケート実施

一日伯経済交流促進委員会

- 3 月 12 日 経済省高官の講演会（於・南米銀行本店講堂）
- ・ テーマ：「現在の貿易政策について」
講演者：ジョゼ・アルトゥール・デノー・メデイロス（経済省企画局国際部長）
 - ・ テーマ：「現在の工業政策について」
講演者：ルイス・パウロ・ヴェローゾ・ルーカス（経済省国家政策局商工部部長）
- 8 月 14 日 経済大臣との昼食懇談会（於・ブラジリア）
テーマ：「日伯経済交流促進の問題点について」
ゲスト：マルシリオ・マルケス・モレイラ（経済大臣）、セルソ・マルコス・ヴィエイラ・デ・ソウザ（大臣官房長）、ジョゼ・アルトゥール・デノー・メデイロス（経済省企画局国際部長）、ペドロ・ルイス・

ロドリゲス（大臣官房広報部長）、フランシスコ・
R. A. グロス（ブラジル中央銀行総裁）

一相互啓発委員会

11月6日 ミナス・ジェライス州視察旅行
主な訪問先：「F I A T社自動車工場」、「ウジミナス社本
社」、「I N D I（州開発公社）」、「バーレ・
ド・リオ・ドーセ社イタビラ鉄山」、「セニ
ブラ社パルプ工場」、「マキネー鍾乳洞」、「レ
イ・ド・マッット鍾乳洞」、「オーロ・プレッ
ト」

一日伯法律委員会

12月13日 ブラジル法律セミナー「法律 8200/91 号における財務諸
表の通貨価値修正」
（於・南米銀行本店講堂）
・ テーマ：「通貨価値修正法について」
講演者：エジソン・ペレイラ・デ・カルバーリョ
（デロイト・ロス等松会計監査法人パー
トナー）
・ テーマ：「1990 年決算の通貨価値修正について」
講演者：アントニオ・マルコス・オルランド（K
PMG ピート・マーウィーク・ドレイフ
ァス会計監査法人パートナー）
・ テーマ：「耐久資産における特別の通貨価値修
正及び法律 8200/91 号の法制面」
講演者：プリーニオ・ジョゼ・マラフォン（ブラ
ガ・マラフォン弁護士事務所パートナー）

一渉外広報委員会

1月16日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「日本の現状と将来」
講 師：吉田エルネスト（フォーリャ・デ・サンパウロ前
東京特派員）
2月20日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「世界の新技术」
講 師：ジョンソン・シュワルツ（U N I C A M P 教授）

- 3月13日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「テクノ・ボーロ工業団地の将来像」
 講演者：ウアル・フリッド・デル・カルロ（U S P 教授）
- 4月24日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジルの新聞の政治記事とオ・エスタード・デ・サンパウロの政治記事について」
 講演者：ランドルフ・ロバート（オ・エスタード・デ・サンパウロ政治部記者）
- 7月31日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジルTV界の現状」
 講演者：ムリーロ・アンツーネス・アルベス（TVレコードレコルデ・ノティシア製作局長）
- 8月8日 I N C O R（心臓病専門病院）、サンパウロ医科大学見学会
- 8月30日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「環境管理について」
 講演者：加藤マサト・エドアルド（C E T E S B環境分析技師）
- 9月24日 ブラジル紹介セミナー
 テーマ：「治安と防犯」
 講演者：柳田コージ（サンパウロ州軍警中佐）、篠又幸市郎（アメリカ・ラチーナ保険副社長）
- 9月25日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「日本・太平洋研究協会について」
 講演者：ジルソン・シュワルツ（U N I C A M P 教授）
- 9月26日 ブラジル紹介セミナー
 テーマ：「ブラジルの歴史ーブラジルの人種構成ー」
 講演者：佐藤常蔵（歴史家）
- 10月1日 ブラジル紹介セミナー
 テーマ：「ブラジルの労働力」
 講演者：押切フラビオ（C B C 重工業副社長）
- 10月3日 ブラジル紹介セミナー
 テーマ：「ブラジルの礼儀作法」
 講演者：川村万里子（松柏学園園長）
- 10月30日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジル米穀商業会議所の組織説明と活動紹介」
 講演者：ジョゼ・ソアレス・マルコンデス（ブラジル米国商業会議所顧問）

- 11 月 20 日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「統一後のドイツ経済」
 講演者：ウォルフ・ガング・ミリエル経済担当一等書記官
 （在伯独大使館）
- 11 月 26 日 EMBRAEL（ブラジル航空公社）見学会

一中小企業委員会

- 8 月 15 日 懇談会（於・当所会議所）
 テーマ：「ブラジルの農業」
 講師：高野実（CAC専務）

一経済年鑑発刊準備委員会（特別委員会）

- 4 月 16 日 発会
- 6 月 14 日 運営会議：「活動計画作成」、「64 年、67 年、74 年版年間の
 内容確認」、「発刊準備手順確認」
- 6 月 15 日 製本費用調査開始
- 7 月 16 日 常任理事会で報告
- 7 月 30 日 運営会議：「常任理事会の要請・協力内容連絡」、「調査状況
 中間報告」
- 8 月 15 日 運営会議：「発刊準備手順再確認」、「製本費用検討」、「年間
 内容準備」
- 8 月 20 日 常任理事会で状況報告
- 8 月 20 日 運営会議：「8 月 15 日の委員会議事録確認」
- 10 月 15 日 運営会議：「編集組織編成準備の手配」
- 11 月 22 日 アジア経済研究所の小坂允理事宛「協力要請書」発状
- 11 月 27 日 アジア経済研究所の小池洋一所員宛「進行状況説明書」発
 状
- 11 月 27 日 運営会議：「編集主幹人選」
- 12 月 13 日 アジア経済研究所の小池洋一所員より「協力受諾書」受取

一電気電子部会

- 4 月 5 日 勉強会（於・当所会議室）
 テーマ：「1991 年のブラジル経済の展望」
 講演者：植木シゲアキ（元鉱山労働大臣、元ペトロブラス
 総裁）
 講演者：サルバドール・ペロッチ（第 15 回 FEE/AB
 INEETEC 実行委員長）

- 5月27日 勉強会（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジルの現状と生産性」
 講演者：千坂征彦会長（INSTITUTO DE ENGENHARIA
 会長）
- 10月1日 勉強会（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジル政治経済の現状と展望」
 講演者：塚本雄一（U S P、F G V教授）

定例昼食会

- 1月11日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2月19日 定例会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
- 3月19日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「コーロル・プラン一年後」
 講演者：田中信（デロイト・ロス等松会計監査法人パートナー）
- 4月16日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
 テーマ：「ロライマ州紹介」
 講演者：オットマール・デ・ソウザ・ピント（ロライマ州知事）
- 5月21日 平成三年度在伯公館長会議参加者歓迎昼食会兼定例昼食会
 （於・ブッフェ・コロニアル）
 テーマ：「ミナス・ジュライス州紹介」
 講演者：フランシスコ・アントニオ・デ・メーロ・レイス
 （同州商工局長）
- 6月18日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「マクロ経済－現状と今後」
 講演者：アンジェロ・カルモン・デ・サー（エコノミコ銀行頭取・元商工大臣）
- 7月16日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
 テーマ：「新経済政策下におけるマナウス・フリー・ゾーンの見通し」
 講演者：ジルベルト・メストリーニョ・デ・メデイロス・ラポーゾ（アマゾナス州知事）
- 8月20日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「環境と開発：アクレ州の選ぶモデル」
 講演者：エヂムンド・ピント・デ・アルメイダ・ネット（ア

- クレ州知事)
- 9 月 19 日 定例会 (於・ブッフェ・コロニアル)
テーマ:「州政府と民間企業の繋がり再検討ーサンパウロ州
産業開発フォーラム」
講演者: ルイス・アントニオ・フレウリ・フィーリョ (サ
ンパウロ州知事)
- 10 月 15 日 定例会 (於・マクソード・プラザ・ホテル)
テーマ:「ブラジルにおける外資企業」
講演者: 小林利郎 (ブラジル東京銀行副頭取・日伯経済交
流促進委員長)
- 11 月 20 日 定例会 (於・ブッフェ・コロニアル)
テーマ:「ブラジル経済の展望」
講演者: ジョン・サヤジ頭取 (マントラスト銀行頭取)
- 12 月 13 日 忘年会 (於・マクソード・プラザ・ホテル)

1991年

経済資料・文献刊行 (委託販売含む)

1. 新・勤続期間保障基本法
2. ブラジル労働安全医療法 (下)
3. 新ブラジル独占禁止法・法律 8158
4. 第Ⅱコーロル経済計画 暫定措置編
5. 第Ⅱコーロル経済計画 政令編
6. 第Ⅱコーロル経済計画 FNDÃO 規則
7. 国会修正第Ⅱコーロル計画 (D)
8. ブラジル国家再建計画
9. 工業競争力
10. 国立工業所有権院決定第 20 号
11. ブラジル農業政策法 (Lei 8171/17/01/91)
12. 91 年経済規制緩和措置
13. 国立経済社会開発銀行の新規制
14. 株式市場の外資自由化措置 (中銀決議 1832)
15. Medida Provisoria 297 (中銀回状 1985)
16. 貿易用語辞典
17. ブラジル輸出金融計画 (PROEX)

18. 憲法大改正案
19. ブラジル人労働者の外国勤務法令
20. 財務諸表の価値修正について定める法令
21. 第Ⅱ国家情報産業計画（Ⅱ PLANIN）

機関誌『ブラジル経済情報』（91 年見出し）

1 月 15 日	785 号	緊縮財政下に迎えた信念
2 月 1 日	786 号	曲がり角のコーロール・プラン
2 月 15 日	787 号	特集「業種別部会長懇談会」
3 月 1 日	788 号	第 2 次コーロール・プラン 1 か月後
3 月 15 日	789 号	工業効率化プログラム
4 月 1 日	790 号	メルコスール共同体市場具体化
4 月 15 日	791 号	大詰め迎える対外債務問題
5 月 1 日	792 号	業種別協議会
5 月 15 日	793 号	モレイラ新経済相と産業界の現状
6 月 1 日	794 号	凍結物価解除を迎える
6 月 15 日	795 号	南・北経済交流に期待
7 月 1 日	796 号	物価解凍でインフレ再熱を懸念
7 月 15 日	797 号	産業構造改革
8 月 1 日	798 号	沈滞から脱出
8 月 15 日	799 号	特集「業種別部会長懇談会」
9 月 1 日	800 号	800 号記念特集号
9 月 15 日	801 号	各界に大同団結呼びかける
10 月 1 日	802 号	形勢不利なコロール大統領
10 月 15 日	803 号	対 I M F 交渉進むがインフレも共に
11 月 1 日	804 号	州工連、金融緩和を政府に働きかけ
11 月 15 日	805 号	政府姿勢が様変わりの印象
12 月 1 日	806 号	佐波経団連ミッション団長語る
12 月 15 日	807 号	対 I M F 趣意書と伯政府の基本線

1992年

1992年は、旧共産圏諸国の新しい政治経済体制の模索、宗教的民族的地域紛争の持続、欧州、北米、南米各地域での経済ブロック化の進展など世界各国がそれぞれより良い秩序を求めた模索の年であった。

ブラジルでは、91年10月の農業パコッテが好感をもって迎えられ、天候に恵まれれば2年続きの不作から立ち直り、食糧6500万トン、約15%の増産が見込まれた。92年の年初にはIMFのスタンバイ21億ドルが承認、3月にはパリクラブとの間で公的債務リスクの合意が成立し、市場開放の進展、メルコスール市場の拡大による好調な輸出、貿易収支の黒字が堅調で対外経済信用の好転が見込まれていた。しかし、高金利と通貨抑制というモレイラ経済大臣の下で、前年に引き続き月率20%を超える高いインフレの中で内需激減、景気後退が一層顕著となった。

92年の上半期経済は、債務銀行団との債務繰り延べ合意により懸案の債務問題の解決のめどがついたことから、景気が回復し活況を呈した。株式市場を通じて海外資金が大量に流入、外貨準備高は一時200億ドルを超えた。

しかし、年央のコーロルゲートの発生と泥沼化で経済政策の長期不在が続き、一時的に上向きかけた経済は再び下降、92年の国民総生産の伸び率は結局マイナス0.9%となった。インフレ率は前年の458%から1,130%へと再騰、通貨引締めと高金利政策の継続で鉱工業生産は3年連続のマイナス生産となり、完全失業率も前年の4.8%から5.7%に上昇した。

他方、上半期の好景気と外貨流入により、92年9月時点の経常収支は42億ドルの黒字となり、同年末の外貨準備高は190億ドルに達した。

92年12月に正式就任したフランコ大統領は、国家の近代化と経済の安定化を掲げ、インフレ抑制と貧困の撲滅を最優先課題にすると強調。生活苦にあえぐ低所得者の救済策を重視し、公共料金引き上げ幅の圧縮、最低賃金の大幅引き上げ、失業対策事業の実施、低価格大衆車の生産再開のための融資などポピュリズムを志向する政策を展開している。

国営企業の民営化プログラムは91年10月のウジミナス製鉄所の民営化から始まり、92年10月までに総額約40億ドルで17社を売却した。

92年の貿易は、輸出362億700万ドル(前年比14.5%増)、輸入205億4200万ドル(同2.2%減)となり、貿易黒字は156億6500万ドルとなった。この黒字幅は80年以降では3番目に高い数字で、ブラジルは日本、ドイツに次ぐ世界で3番目の貿易黒字国となった。

92年の往復貿易額は前年比9.5%減少し、日本の入超額もやや減り17億ドル余りとなった。日本の輸出は90%が工業製品であるが、ブラジル経済の低

迷で前年比減少した。しかし、自動車・同部品の輸出は輸入自由化と関税引き下げで急増した。

役員名簿（92年12月31日現在）

名 誉 会 頭：別役道昌

顧 問：広川郁三、橘富士雄、山本勝造

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：後藤隆（ヤンマー・ド・ブラジル）

副 会 頭：難波慶二（豊和機械）、伝田耕平（南米銀行）、村瀬宏（伯国三菱商事）

専任理事：植田義昭（ブラジル住友銀行）、土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）、成富武典（ブラジル特殊陶業）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）

財務理事：鈴木孝憲（ブラジル東京銀行）、鈴木義也（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）、若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）、速水明憲（アメリカ・ラチーナ保険）

委員会

日伯経済交流促進委員会：鈴木孝憲（ブラジル東京銀行、委員長代行）

労働問題研究委員会：難波慶二（豊和機械）

機関誌委員会：山崎章（東芝・ド・ブラジル）

相互啓発委員会：成富武典（ブラジル特殊陶業）

日伯法律委員会：伝田耕平（南米銀行）

渉外広報委員会：伝田耕平（南米銀行）

行動基準環境問題委員会：村瀬宏（伯国三菱商事）

中小企業委員会：若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）

総務委員会：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル、委員長代理）

経済年鑑発刊準備委員会（特設）：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（デロイト・ロス等松会計監査法人）

金融部会：植田義昭（ブラジル住友銀行）
 貿易部会：筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）
 機械金属部会：富江新次（ブラジルトヨタ自動車）
 電気電子部会：乾政明（パナソニック・ド・ブラジル）
 化学部会：井上喬夫（出光ケミカル・ド・ブラジル）
 運輸サービス部会：仁後賢治（大阪商船三井船舶）
 繊維部会：伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
 食品部会：鈴木恵雄（ノムラプラス）
 建設不動産部会：北村惇（ブラジル清水建設）

9 2 年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	速水明憲
2. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
3. 伊藤忠ブラジル会社	筒井茂樹
4. N S K ・ ド ・ ブラジル	高橋克也
5. 大阪商船三井船舶	仁後賢治
6. 鐘紡ブラジル	伊藤禎二
7. クボタ・ブラジル	小山豊樹
8. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	逢久雄
9. サントリー・ド・ブラジル	桜井文生
10. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	石田常治郎
11. C B C 重工業	押切フラビオ壮
12. ソール・ナッセンテ証券	若松孝司
13. 竹中商会	竹中正
14. 第一勧業銀行サンパウロ駐在員事務所	田中博
15. ダイワボウ・ブラジル	山岸瑛治
16. 東山農産加工	岡正躬
17. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
18. 東洋紡ブラジル	日比志郎
19. 南米銀行	伝田耕平
20. 南米安田保険	諏方敏明
21. 南米リース	花田好二
22. 南米旅行社	山中ススム
23. ニチメン・ド・ブラジル	南直昌

24.	日本航空サンパウロ支店	宮武忠博
25.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	石井英樹
26.	N E C ・ ド ・ ブラジル	斎藤敏雄
27.	伯国三菱重工業	五月女隆
28.	伯国三菱商事	村瀬宏
29.	パナソニック ・ ド ・ ブラジル	乾政明
30.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
31.	ブラジル住友銀行	植田義昭
32.	ブラジル住友商事	松沢耕太郎
33.	ブラジル東京銀行	鈴木孝憲
34.	ブラジル特殊陶業	成富武典
35.	ブラジル ・ トヨタ自動車	富江新次
36.	ブラジル日商岩井	喜多創平
37.	ブラジル日清紡	永井正明
38.	ブラジル日本通運	北島浩之
39.	ブラジル富士写真フィルム	白崎武男
40.	ブラジル三井物産	中村勉
41.	ブラジル三菱銀行	青木誠
42.	古河電気工業	藤田欣也
43.	プロツトーレス倉庫	勝屋岩雄
44.	豊和機械	難波慶二
45.	丸紅ブラジル	高田純一
46.	丸紅ブラジル不動産	乗友正昭
47.	三井肥料	杉浦弘輝
48.	ヤシカ ・ ド ・ ブラジル	田村加寿雄
49.	ヤンマー ・ ド ・ ブラジル	後藤隆
50.	ユニチカ ・ ド ・ ブラジル	土川昭

補欠理事

1.	味の素インテルアメリカナ	山本正樹
2.	ブラジル兼松	津村雅一

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コン サルタント・アソシエイト
2.	竹内伸二	安田信託銀行サンパウロ駐在員事務所
3.	河内 裕	ブラジル三井海上火災

補充監事

1. 田中 信

デロイト・トウシュ等松会計監査法人

9 2 年度事業報告

総 会

3 月 17 日 第 42 回定期総会

「1991 年度事業報告、収支決算承認の件」、「1992 年度事業計画承認の件」、「1992 年予算決議の件」、「監事意見書報告書」

常任理事会

1 月 9 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2 月 18 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
3 月 10 日 定例会（於・当所会議室）
4 月 28 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
5 月 19 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
6 月 11 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
7 月 21 日 定例会（於・マックソード・プラザ・ホテル）
8 月 18 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
9 月 15 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
10 月 20 日 定例会（於・マックソード・プラザ・ホテル）
11 月 17 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
12 月 11 日 定例会（於・当所会議室）

理 事 会

2 月 18 日 臨時会（於・ブッフエ・コロニアル）
「専任理事補充選挙」、「財務理事補充選挙」
——土川ユニチカ・ド・ブラジル代表を新専任理事に選出
——植田ブラジル住友銀行代表を新財務理事に選出
3 月 10 日 定例会（於・当所会議室）
「1991 年事業報告審議」、「1991 年収支決算審議」、「1992 年度事業計画（案）審議」
「1992 年収支予算（案）審議」、「財務理事補充選挙」
——速水アメリカ・ラチーナ保険代表、鈴木富士銀行サンパウロ駐在員事務所代表の 2 名を
新財務理事に選出

- 4月28日 臨時会（於・buffet・コロニアル）
「副会頭補充選挙」
——村瀬伯国三菱商事代表を新副会頭に選出
- 7月21日 定例会（於・マックス・プラザ・ホテル）
「副会頭補充選挙」、「専任理事補充選挙」、「財務理事補充選挙」
——難波豊和機械代表を新副会頭に選出
——植田ブラジル住友銀行代表を新専任理事に選出
——鈴木ブラジル東京銀行代表を新財務理事に選出

監事会

- 3月16日 定例会（於・当所会議室）
「1991年事業報告書監査」、「1991年収支決算報告書監査」、「監事意見書作成」
- 5月26日 定例会（於・当所会議室）
「1992年第1四半期会計監査」
- 8月25日 定例会（於・当所会議室）
「1992年第2四半期会計監査」
- 10月30日 定例会（於・当所会議室）
「1991年第3四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1月7日 新年祝賀会（於・文協講堂）
- 1月10日 加藤専任理事歓送会（於・サントリー）
- 1月31日 業種別部会長懇談会
「91年回顧と92年展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 西村隆男（ブラジル三井物産）
 - ・ 日伯経済交流促進委員会委員長 小林利郎（ブラジル東京銀行）
 - ・ 紡績・繊維部会長 伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 植田義昭（ブラジル住友銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 原昌久（ブラジル日本通運）
 - ・ 電気・電子副部会長 山崎章（東芝・ド・ブラジル）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 久米康夫（三菱重工業）

- ・ 建設・不動産部会長 北村 惇（ブラジル清水建設）
 - ・ 貿易部会長 筒井 茂樹（伊藤忠ブラジル）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（デロイト・ロス・等松）
 - ・ 化学部会長 井上 喬夫（出光ケミカルズ・ド・ブラジル）
 - ・ 食品部会長 鈴木 恵雄（野村畜産研究所）
- 2 月 24 日 永井財務理事歓送会（於・サントリー）
- 4 月 2 日 西井財務理事歓送会（於・サントリー）
- 4 月 6～9 日 第 7 回日伯経済合同委員会会議
（6 日・開会式、7 日・カラジャス鉱山（CVRD 社）見学、8 日・懇談会、9 日・閉会式）
- 4 月 10 日 日本経済新聞社主催「日経シンポジウム」（於・リオデジャネイロ）
——小林利郎副会頭を講師として派遣
- 4 月 22 日 村角泰駐ブラジル日本国特命全権大使来聖歓迎会（於・文協貴賓室、コロニア諸団体共催）
- 4 月 30 日 「経済セミナー」（於・サンパウロ州工業連盟本部、共催：ブラジル日本青年会議所）
テーマ：「ラテン・アメリカにおける経済安定化政策」
講演者：ジョン・サヤジ（マントラスト銀行社長）
講演者：ジルソン・シュワルツ（カンピーナス大学教授）
- 4 月 30 日 久米副会頭歓送会（於・サントリー）
- 5 月 8 日 第 4 回全伯日系商工会議所代表者会議（於・リオデジャネイロ）
テーマ：『平成 4 年度通産大臣による海外経済協力貢献者表彰』
被推薦候補者選出」
「今後の日伯経済交流促進に関して」
- 5 月 27 日 日本政府春の生存者叙勲祝賀会（於・文協貴賓室、コロニア諸団体共催）
- 5 月 30 日 小林副会頭歓送会（於・会頭私邸）
- 7 月 28 日 カルロス・ルイス・コウチーニョ・ペレス駐日本ブラジル国特命全権大使来聖歓迎会（於・日系パレスホテル、コロニア諸団体共催）
- 8 月 4 日 業種別部会長懇談会

「92 年上期回顧と下期展望」

・ 司会 総務委員会委員長	西村隆男（ブラジル三井物産）
・ 紡績・繊維部会長	伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
・ 金融・保険、証券部会長	植田義昭（ブラジル住友銀行）
・ 運輸・サービス部会長	仁後賢治（大阪商船三井船舶）
・ 電気・電子副部会長	山崎章（東芝・ド・ブラジル）
・ 機械・金属・鉄鋼部会長	富江新次（ブラジル・トヨタ自動車）
・ 建設・不動産部会長	北村惇（ブラジル清水建設）
・ 貿易部会長	筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）
・ コンサルタント部会長	田中信（デロイト・ロス・等松）
・ 化学部会長	井上喬夫（出光ケミカルズ・ド・ブラジル）
・ 食品部会長	鈴木恵雄（野村畜産研究所）

10 月 14 日 ゴルフ大会「鈴木宗男前外務政務次官杯争奪戦」（共催：水曜会）

10 月 27 日 （財）日本及び太平洋諸国研究協会主催「日本及び太平洋諸国研究セミナー」（於・F G V 講堂）
——伝田耕平副会頭を講師として派遣

12 月 3 日 西村副会頭歓送会（於・サントリー）

加盟団体行事への参加

1. 『サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会』
定例会議（2 月、6 月、8 月、10 月、12 月の年間 5 回出席）
2. 『サンパウロ大阪姉妹都市委員会』（於・サンパウロ市役所）
月例会（2 月に二度、4 月、5 月、6 月、7 月の年間 6 回出席）

委員会・部会の主な活動

一日伯経済交流促進委員会

- 2月25日 意見交換会（会場・当所会議室）
テーマ：「外資規制に関して」
ゲスト：ネイ・ロペス（連邦下院議員、PFL-RN）
上野アントニオ（連邦下院議員、PFL-PR）
- 3月12日 懇談会（於・当所会議室）
テーマ：「日伯経済交流促進の問題点について」
講演者：エグベルト・バチスタ（大統領府地方開発局）

一相互啓発委員会

- 7月29～30日 視察旅行（地域：サンパウロ周辺）
訪問先：「シトロスッコ社オレンジジュース工場」、「ウ
ジーナ・サンマルチャーニョ社砂糖アルコール工
場」、「三井肥料社ヨーリン工場」（30日）
- 11月23～26日 視察旅行（地域：チリ国サンチアゴ市）
主なスケジュール：23日・日本大使館表敬訪問、日智
商工会議所会員との懇談夕食会、チリ経済レクチャー、
24日・エル・テニエンテ銅山見学、昼食懇談会（コデ
ルコ・チリ銅公社主催）、コンチャ・イ・トーロ社ワイ
ン工場見学、25日・サンチアゴ市内見学、ヴァルパラ
イゾ港湾見学、ビーニャ・デル・マール市内見学

一日伯法律委員会

- 3月25日 ブラジル法律セミナー「法律8383／91号における所
得税変更」（於・南米銀行本店講堂）
- ・ テーマ：「自然人所得税について」
講演者：ドリバル・ドス・サントス（プライス・
ウォーターハウス会計監査法人パートナ
ー）
 - ・ テーマ：「法人所得税について」
講演者：エヂソン・ペレイラ・デ・カルバーリョ
（デロイト・ロス等松会計監査法人パート
ナー）
 - ・ テーマ：「金融市場と所得税」
講演者：ジョン・アルフレッド・ブランコ（アー
サー・アンダーセン会計監査法人パート
ナー）、花田エリオ（同法人税務課長）

- ・ テーマ：「そのほか」

講演者：プリーニオ・ジョゼ・マラフォン（ブラーガ・マラフォン法律事務所パートナー）

一 渉外広報委員会

- 2月26日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「エコ 92 グローバルフォーラムについて」
 講師：ジョゼ・メンドザ・ベセラ（連邦下院議員、PFL-PE）、ペドロ・コレア（連邦下院議員、PFL-PE）、パウロ・ポルトガル（連邦下院議員、PDT - RJ）、ロベルタ・マタラーゾ（エコ 92 会議国際委員会）、
- 3月24日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「伯イタリア商工会議所の活動紹介」
 講師：ジアコモ・グアルネラ（伯イタリア商工会議所技術顧問）、シルビア・ジェラシ（同所事務局長）
- 5月27日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「1990 年代の TV グローボ・ネットワーク」
 講演者：オクタビオ・フロリスバル（TV グローボ専務）
- 8月13日 大学視察（於・ピラシカーバ）
 「サンパウロ大学農学部」
- 8月26日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「アブリル出版社の歴史と現状」
 講演者：エリオ・ベルゲイロ（アブリル出版社ベージャ誌宣伝担当）
- 9月30日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「経営陣の活性化について」
 講演者：グスタボ・アドルファ・アヤラ（FGV 教授）
- 10月28日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジルの発展における日本の重要性」
 講演者：チャールス・バーンスレイ・ホランド（アーンスト・ヤング会計監査事務所パートナー）
- 11月25日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「有料テレビの将来」
 講演者：アントニオ・ビセンテ・アウストレゼリオ・デ・アタイジ（グローボ・サッチ社社長）

一 経済年鑑発刊準備委員会（特別委員会）

1月8日 92年度第1回企画会議 ※同年更に9回の企画会議を実施

一金融部会

5月11日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「経済の現状と展望」
講演者：カルロス・アントニオ・ロッカ（伯国通貨審議会、マッピン社社長）

一コンサルタント部会

3月12日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「高インフレ、リセッション下の企業経営」
講演者：山下日彬（ヤコン・インターナショナル社長）
6月25日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「ブラジルの企業及び企業グループ企業の活動が経済に与える影響」
講演者：小池洋一（アジア経済研究所研究員、USP 経済研究所客員研究員）

一電気電子部会

4月14日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「電気電子工業界の展望とブラジルの製品規格」
講演会：ネルソン・ペイショット・フレイレ（ABINEE 会長）

一貿易部会

3月12日 懇談会（於・当所会議室）
テーマ：「日伯経済交流促進の問題点について」
講演者：エグベルト・バチスタ（大統領府地方開発局）
12月1日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「ABECE（ブラジル貿易協会）の活動説明」
講演者：ジョゼフ・M・ツツンジャン（ABECE 会長）

定例昼食会

1月9日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月18日 定例会（於・buffet・コロニアル）

- テーマ：「ブラジル経済の現状と 1992 年の展望」
 講演者：アフォンソ・セルソ・パストーレ（USP 教授、元
 中銀総裁）
- 3 月 17 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「IMF 管理下、ブラジルの現状と展望」
 講演者：田中信（デロイト・ロス等松会計監査法人パート
 ナー）
- 4 月 28 日 定例会（於・buffet・コロニアル）
 テーマ：「日伯経済合同委員会について」
 講演者：小林利郎（ブラジル東京銀行副会頭、日伯経済合
 同委員会委員長）
- 5 月 19 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「現況下におけるブラジルの政治と経済」
 講演者：下本八郎（サンパウロ州議）
- 6 月 11 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「国際協力事業団と環境関連プロジェクト」
 講演者：堀口進一（国際協力事業団サンパウロ事務所所長）
- 7 月 21 日 定例会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
 テーマ：「マラニョン州紹介」
 講演者：エヂソン・ロボン（マラニョン州知事）
- 8 月 18 日 定例会（於・buffet・コロニアル）
 テーマ：「ブラジルが立ち上がれる条件」
 講演者：塚本雄一（セナーリオ社社長）
- 9 月 15 日 定例会（於・buffet・コロニアル）
 テーマ：「ブラジルの政治・経済」
 講演者：田中信（デロイト・ロス等松会計監査法人パート
 ナー）
- 10 月 20 日 定例会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
 テーマ：「最近の輪銀の活動状況と対伯 3 億ドル融資の概
 要」
 講演者：田中四郎（日本輸出入銀行リオ駐在員事務所所長）
- 11 月 17 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「最近のブラジル政治・経済」
 講演者：アントニオ・デルフィン・ネット（連邦会員議員、
 PDS）
- 12 月 16 日 忘年会（於・マクソード・プラザ・ホテル）

1992年

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 92年所得税法改正（法律8383号、連邦収税局通達126号、30/12/91）
2. 法人財務諸表通貨価値修正規則の補足
3. 改正輸出加工地域設置法
4. 92年3月貿易振興一括措置
5. 推定課税に基づく法人税（連邦収税局通達21号、26/02/92）
6. ブラジル行政府の新組織
7. 国家農業計画（1992年）
8. ブラジル基礎情報集92年版
9. 最近の主要法規集
10. 逆引き貿易用語集
11. ブラジル輸出金融計画細則第2号（Proex II）
12. ブラジル商業登記法
13. イタマール政権税制改革案
14. イタマール政権政府全組織図
15. 外国貿易統合組織（SISCOMEX）
16. 商品投資信託法

機関誌『ブラジル経済情報』（92年見出し）

1月15日	808号	コロール大統領、今年も苦戦を強いる
2月1日	809号	国会ニラミの内閣改造
2月15日	810号	特集「業種別部会長懇談会」
3月1日	811号	外債交渉順調、景況は回復待ち
3月15日	812号	2月インフレ鈍化、正常化進み日米伯間往来ひんばん
4月1日	813号	産業近代化、地球サミットに関する所信
4月15日	814号	閣僚人事終えたが議会对策楽観できず
5月1日	815号	現行政策にIMFの評価得たが国家逼迫、軍人家族デモ る
5月15日	816号	台所苦しく野党州知事が政府を応援
6月1日	817号	癒着問題で再び政情不安へ、経済政策変わらずと経済 相言明
6月15日	818号	税制改革に対する政府の姿勢
7月1日	819号	政情不安で経済活動停滞

7月15日	820号	現行経済政策を続行
8月1日	821号	コーロルゲート事件の核心に迫る
8月15日	822号	特集「業種別部会長懇談会」
9月1日	823号	混迷深まるコーロル政権
9月15日	824号	日の目を見るか2010年計画
10月1日	825号	IMFは伯国経済政策支持
10月15日	826号	新政権、堅実経済路線を志向
11月1日	827号	政府×国会、税制改革案で意見擦り合わせ
11月15日	828号	政府の税制改革案国会へ
12月1日	829号	NAFTA、MERCOSUL 合併説浮上
12月15日	830号	議院内閣制で政界地図変豹の見通し

1993年

1992年の旧共産圏諸国の政治・経済体制の崩壊、宗教的民族的地域紛争、欧州、北米、南米、各地域での経済ブロック化等により一般的に不況が続いた。しかし、93年1月に米国でクリントン大統領就任、8月に日本では細川首相就任等、二大経済国において若い指導者が誕生し、さらに米国経済回復の兆しも見られ世界の期待が高まった。

ブラジルでは、イタマル・フランコ新政権の下、政界汚職追及が国会で行われ93年の政治を印象付けた。このため重要な憲法見直し作業が遅れ、政情不安定が続いたものの、国内経済は公社民営化の促進もあって、民間主導型で回復基調化傾向を辿った。93年のブラジル経済は、ブラジル地理統計院の試算では5%成長を遂げ、4年越しの経済低迷を克服。自動車、トラクター、自転車、家電品、繊維などが好調で、鉱工業生産も3年続いたマイナス生産から93年は一転して9.7%増加した。サンパウロ州の商業売り上げも3年連続のマイナスから11.7%増へ転じ、投資目的の住宅建築ラッシュで景気回復の波は建設部門にも及んだ。93年1～11月の完全失業率は5.4%で、前年同期を下回った。

景気回復の要因は、①輸入自由化に伴う競争激化による、自動車、家電品など国産品のドルベース価格の低下、②92年に好調だった農業部門の所得増加、③海外逃避資産を中心とする外貨流入の増加などにより、消費と生産が拡大し、民間部門が堅調に推移したことである。

一方財政赤字の拡大、公共料金の引き上げ、ショック政策を見越した値上げなどで、93年の消費者物価上昇率は、サンパウロ大学経済研究所によると、過去最高の2,491%を記録した。外貨準備高は93年末で259億ドルとなったが、新規融資の減少や利払いの増加で、93年末の経常収支は6億ドルの赤字となった。

93年5月に就任したカルドーズ蔵相は6月、財政支出の削減、民営化の加速などを骨子とする、財政再建計画（第1次カルドーズ・プラン）を発表。12月には経済安定化計画（第2次カルドーズ・プラン）を打ち出した。第2次プランは、インフレ克服と経済再建を目的に、①増税と支出削減により財政の均衡を図る、②新指数として実質価値単位（URV）を創設、③URVが経済システムに浸透した段階で新通貨を発行する、の3段階の政策体系で構成される。

93年の貿易（FOB）は、輸出が前年比8.2%増の387億8300万ドル、輸入が同25.1%増の257億1100万ドルとなり、貿易黒字は130億7200ドルとなった。貿易黒字は、92年より14.6%減少したが、輸出入とも過去最高を記録した。日本の通関統計によると、93年の日伯貿易は往復で44億7200万

ル、前年比 12.2%減となり、日本側の入超額も同 28.3%減の 12 億 2400 万ドルとなった。日本の輸入は、大豆が前年比 31.6%増加し、コーヒー豆も同 6.3%増加した。輸出は、前年比 42.5%増加。輸送機械が 92 年の 3.5 倍、乗用車、トラック 3.8 倍、オートバイ 2.7 倍、自転車 5.2 倍と急増した。

役員名簿（93 年 12 月 31 日現在）

名 誉 会 頭：後藤隆

顧 問：広川郁三、橘富士雄、山本勝造、別役道昌

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：伝田耕平（南米銀行）

副 会 頭：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）、植田義昭（ブラジル住友銀行）、村瀬宏（伯国三菱商事）、中村勉（ブラジル三井物産）

専任理事：高田純一（丸紅ブラジル）、筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）、鈴木孝憲（ブラジル東京銀行）

財務理事：森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥトリア）、乾政明（パナソニック・ド・ブラジル）、赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）、速水明憲（アメリカ・ラチーナ保険）

委員会

日伯経済交流促進委員会：鈴木孝憲（ブラジル東京銀行）

労働問題研究委員会：乾政明（パナソニック・ド・ブラジル）

機関誌委員会：山崎章（東芝・ド・ブラジル）

相互啓発委員会：高田純一（丸紅ブラジル）

日伯法律委員会：植田義昭（ブラジル住友銀行）

渉外広報委員会：中村勉（ブラジル三井物産）

行動基準環境問題委員会：村瀬宏（伯国三菱商事）

中小企業委員会：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）

総務委員会：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）

経済事典発刊準備委員会（特設）：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）

業種別部会

コンサルタント部会：遠山景孝（K.TOYAMA コミュニケーション・コンサルタント）

金融部会：鈴木孝憲（ブラジル東京銀行）

貿易部会：松沢耕太郎（ブラジル住友商事）

機械金属部会：富江新次（ブラジルトヨタ自動車）

電気電子部会：森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア）

化学部会：杉浦弘輝（三井肥料）

運輸サービス部会：仁後賢治（大阪商船三井船舶）

繊維部会：伊藤禎二（鐘紡ブラジル）

食品部会：山本正樹（味の素インテルアメリカナ）

建設不動産部会：乗友正昭（丸紅ブラジル不動産）

9 3 年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	速水明憲
2. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
3. 伊藤忠ブラジル会社	筒井茂樹
4. インドゥストゥリア日立	児玉岩男
5. N S K ・ ド ・ ブラジル	高橋克也
6. 大阪商船三井船舶	仁後賢治
7. 鐘紡ブラジル	伊藤禎二
8. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	逢久雄
9. サントリー・ド・ブラジル	桜井文生
10. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	石田常治郎
11. C B C 重工業	押切フラビオ壮
12. ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	森本昌義
13. ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
14. 第一勧業銀行サンパウロ駐在員事務所	松元宗孝
15. ダイワボウ・ブラジル	山岸瑛治
16. 東山農産加工	岡正躬
17. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
18. 東洋紡ブラジル	日比志郎

19.	南米銀行	伝田耕平
20.	南米安田保険	諏方敏明
21.	南米リース	花田好二
22.	ニチメン・ド・ブラジル	南直昌
23.	日本航空サンパウロ支店	宮武忠博
24.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	石井英樹
25.	NEC・ド・ブラジル	斎藤敏雄
26.	伯国三菱重工業	五月女隆
27.	伯国三菱商事	村瀬宏
28.	パナソニック・ド・ブラジル	乾政明
29.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
30.	ブラジル兼松	津村雅一
31.	ブラジル住友銀行	植田義昭
32.	ブラジル住友商事	松沢耕太郎
33.	ブラジル東京銀行	鈴木孝憲
34.	ブラジル・トヨタ自動車	富江新次
35.	ブラジル日商岩井	喜多創平
36.	ブラジル日清紡	永井正明
37.	ブラジル日本通運	北島浩之
38.	ブラジル富士写真フィルム	埋田晴夫
39.	ブラジル三井物産	中村勉
40.	ブラジル三菱銀行	青木誠
41.	古河電気工業	藤田欣也
42.	プロツトーレス倉庫	勝屋岩雄
43.	豊和機械	難波慶二
44.	丸紅ブラジル	高田純一
45.	丸紅ブラジル不動産	乗友正昭
46.	三井肥料	杉浦弘輝
47.	ヤクルト商工	貞方賢彦
48.	ヤシカ・ド・ブラジル	田村加寿雄
49.	ヤンマー・ド・ブラジル	田村亨
50.	ユニチカ・ド・ブラジル	土川昭

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コン サルタント・アソシエイト
2.	田中信	デロイト・トウシュ等松会計監査法人

3. 荻野仁

東芝メヂカル・ド・ブラジル

補充監事

1. ソール・ナッセンテ証券

若松孝司

93年度事業報告

総 会

- 3月16日 第43回定期総会（buffet・コロニアル）
「1992年度事業報告、収支決算承認の件」、「1993/94年度理事・監事選挙結果報告の件」、
「監事意見書報告書」
- 4月27日 臨時総会（於・シーザー・パーク・ホテル）
「1993年事業計画審議の件」、「1993/94年度常任理事選挙結果報告の件」

常任理事会

- 1月7日 定例会
- 2月16日 定例会（於・マックスード・プラザ・ホテル）
- 3月16日 定例会（於・buffet・コロニアル）
- 3月29日 臨時会（於・当所会議室）
- 4月20日 定例会（於・当所会議室）
- 5月18日 定例会（於・buffet・コロニアル）
- 6月14日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 6月25日 臨時会（於・当所会議室）
- 7月20日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 8月17日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 9月21日 定例会（於・buffet・コロニアル）
- 10月25日 定例会（於・buffet・コロニアル）
- 11月16日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 12月14日 定例会（於・当所会議室）

理 事 会

- 2月16日 臨時会（於・マックスード・プラザ・ホテル）
「1992年事業報告審議の件」、「1992年収支決算報告審議の件」
- 3月29日 定例会（於・当所会議室）
「93/94年度常任理事選挙の件」

- 4月27日 臨時（於・シーザー・パーク・ホテル）
「1993年事業計画審議の件」、「1993／94年度常任理事選挙結果報告の件」

監 事 会

- 2月9日 定例会（於・当所会議室）
「1992年第4四半期会計監査の件」
- 3月1日 臨時会（於・当所会議室）
「1992年事業報告監査の件」、「1992年収支決算報告監査の件」、
「1992年監事意見書作成の件」
- 5月20日 定例会（於・当所会議室）
「第1四半期会計監査」
- 8月19日 定例会（於・当所会議室）
「第2四半期会計監査」
- 11月22日 定例会（於・当所会議室）
「第3四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1月6日 コロニア5団体共催新年会（於・文協講堂）
- 1月29日 業種別部会長懇談会
「92年回顧と93年展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）
 - ・ 紡績・繊維部会長 伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 植田義昭（ブラジル住友銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 仁後賢治（大阪商船三井船舶）
 - ・ 電気・電子副部会長 乾政明（パナソニック・ド・ブラジル）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 富江新次（ブラジル・トヨタ自動車）
 - ・ 建設・不動産部会長 北村惇（ブラジル清水建設）
 - ・ 貿易部会長 筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（デロイト・ロス・

- ・ 化学部会長 等松)
 - ・ 食品部会長 井上喬夫 (出光ケミカルズ・ド・ブラジル)
 - 鈴木恵雄 (野村畜産研究所)
- 3 月 12 日 1993/94 年度理事・監事選挙、開票 (於・当所会議室)
- 3 月 29 日 1993/94 年度常任理事選挙
——常任理事 13 名を選出
- 5 月 11 日 田中新総領事歓迎会 (於・文協貴賓室、コロニア 5 団体共催)
- 6 月 4 日 第 5 回全伯日系商工会議所代表者会議 (於・当所会議室)
テーマ:『平成 5 年度通産大臣による海外経済協力貢献者表彰』
被推薦候補者選出
- 6 月 18 日 ブラジル日本移民 85 周年記念祭 (於・セ大聖堂、文協) (共催・コロニア 5 団体)
- 7 月 5 日 国会議員を囲む懇談会 (於・当所会議室)
テーマ:「憲法改正の動向」
ゲスト:伊波コーユ (連邦下院議員-PSDB)
- 8 月 19～ 日系諸団体の海上自衛隊練習艦隊来聖歓迎会 (共催・コロニア
20 日 5 団体)
- 7 月 30 日 業種別部会長懇談会
「93 年上期回顧と下期展望」
 - ・ 司会 総務委員会委員長 土川昭 (ユニチカ・ド・ブラジル)
 - ・ 紡績・繊維部会長 伊藤禎二 (鐘紡ブラジル)
 - ・ 金融・保険、証券部会長 鈴木孝憲 (ブラジル東京銀行)
 - ・ 運輸・サービス部会長 仁後賢治 (大阪商船三井船舶)
 - ・ 電気・電子副部会長 森本昌義 (ソニーコメルシオ・エ・インドウストリア)
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 富江新次 (ブラジル・トヨタ自動車)
 - ・ 建設・不動産部会長 乗友正昭 (丸紅ブラジル不動産)
 - ・ 貿易部会長 松沢耕太郎 (ブラジル住友商事)

- ・ コンサルタント部会長 遠山景孝 (K.遠山コミュニケーション)
 - ・ 化学部会長 杉浦弘輝 (三井肥料)
 - ・ 食品部会長 山本正樹 (味の素インテルアメリカーナ)
- 9月16日 ステパネンコ企画大臣との昼食懇談会 (於・マルケス・デ・マリアルバ)
- 9月17日 第2回全伯官民合同会議 (於・シーザー・パーク・ホテル)
- 10月21日 伯ポルトガル会議所主催昼食会 (於・カーザ・デ・ポルトガル)
- 11月8日 宇川大使来聖歓迎会 (於・文協貴賓室、コロニア諸団体共催)
- 11月17日 伯ポルトガル商工会議所共催「記念昼食会」 (於・カーザ・デ・ポルトガル)
- 11月26日 環境リスクセミナー (於・ホリデイイン)
- 12月20日 植田副会頭歓送会 (於・サントリー)

加盟団体行事への参加

- 1, 『サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会』
定例会議 (3月、5月、6月、8月、9月、10月、12月の年間7回出席)
- 2, 『サンパウロ大阪姉妹都市委員会』
定例会議 (11月の年間1回出席)

委員会・部会の主な活動

一 行動規準環境問題委員会

11月25日 環境リスクセミナー

- ・ テーマ：「地球環境時代の企業経営」
講演者：山口光恒 (東京海上火災保険企業リスクコンサルティング室長)
- ・ テーマ：「ブラジルにおける環境法の適用と企業の対応」
講演者：渡部和夫 (弁護士)

一日伯経済交流促進委員会

5月7日 意見交換会 (会場・当所会議室)

- ゲスト：フェルナンド・エンリッケ・カルドーゾ（外務大臣）野村ジョーゴ（連邦下院議員）
- 12月13日 懇談会（於・当所会議室）
テーマ：「日伯経済交流促進の問題点について」
講演者：エグベルト・バチスタ（大統領府地方開発局）

一相互啓発委員会

- 8月3～4日 北パラナ地方産業視察旅行
訪問先：イグアス・コーヒー、カネボウシルク（コルネリオプロコピオ）、東洋繊維（ロンドリーナ）、ACEMA、愛光園（マリンガ）
- 10月20～ ビトリア、サルバドール産業視察旅行
23日 訪問先：CST、アラクルス（ビトリア）、コペネ、ポリアルデン（サルバドール）

一中小企業委員会

- 6月23日 政経時局放談会
ゲスト：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）、若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）
- 10月14日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「ローヂア社のテルセイリザソンについて」
講演者：フェルナンド・セザル・デ・バスコンセイロス（ローヂア社資材部部長）
- 12月9日 テーマ：「上手な切符の買い方、旅行の仕方」
講演者：本永群起（ツニブラトラベル専務）、山下一（ユニベルツール前社長）

一日伯法律委員会

- 3月25日 ブラジル法律セミナー「1992年の所得税（法令 8541/92条）税制改革について」
（於・南米銀行本店講堂）
- ・ テーマ：「月次利益の調整率について」
講演者：プリーニオ・ジョゼ・マラフォン（ブラーガ・マラフォン法律事務所パートナー）、リカルド・ヨシアキ・スナイリ（ジレットリース会計監査法人取締役）
 - ・ テーマ：「社会分担金について」

講演者：ドリバル・ドス・サントス（プライス・ウ
ォーターハウス会計監査法人パートナ
ー）、ジルマール・ペドロ・デ・リマ（デ
ロイト・トウシュ・トーマツ会計監査法人
パートナー）

- ・ テーマ：「金融利益について」

講演者：エリオ・ハナダ（アーサー・アンダーセン
会計監査法人部長）

一 渉外広報委員会

- 1 月 27 日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「情報交換」
講 師：石井領事（サンパウロ総領事館文化班）
- 2 月 17 日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「エスタード・デ・サンパウロ新聞社紹介」
講 師：ロベルト・クリシウマ・メスキッタ（エスタード・
デ・サンパウロ新聞社営業担当取締役）
- 5 月 27 日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「中小企業のグローバリゼーションについて」
講演者：ジルソン・シュワルツ（UNICAMP 教授）
- 6 月 30 日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「病院の現状と展望」
講演者：横田パウロ（サンタクルス病院理事長）
- 9 月 9 日 見学会
訪問先：SENAI、中田工商
- 9 月 29 日 定例会議（於・当所会議室）
ゲスト：マウロ・サーレス（サーレス広告宣伝会社）

一 経済年鑑発刊準備委員会（特別委員会）

- 7 月 27 日 経済事典当所会員執筆者謝恩会（於・サントリー）

一 運輸サービス部会

- 6 月 4 日 シェラトンホテル見学会、ポートワイン試飲会
7 月 19 日 サントス港湾見学会

一 繊維部会

- 7 月 19 日 サントス港湾見学会

一電気電子部会

- 3月4日 勉強会（於・当所会議室）
ゲスト：植木シゲアキ（元鉱山動力大臣、元ペトロブラス
総裁）
- 5月25日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「最近のブラジルの経済情勢と将来の見通し」
講演者：ジョン・サヤジ（SRL 銀行社長、元大蔵大臣）
- 9月28日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「FIESP の活動紹介」
講演者：中谷アンセルモ（古河電気工業社長、FIESP 国際
部アジア地域担当）

定例昼食会

- 1月7日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2月16日 定例会（於・マキスージ）
テーマ：「悩める大国ブラジルー不可解政治経済の実態をど
う見るべきかー」
講演者：水野一（上智大学外国語学部教授）
- 3月16日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
講演者：田中信（デロイト）
- 4月20日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 5月18日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
テーマ：「イタマール政権の経済計画」
講演者：田中信（デロイト）
- 6月14日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
村角大使歓迎会
- 7月20日 定例会（於・トランス・アメリカ）
テーマ：「ノン・リセッションについて」
講演者：ジョゼー・ヴィエイラ商工大臣
- 8月17日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「ブラジル経済の現状」
講演者：エデイソン・ムーザ（Rhodia 社長）
- 9月21日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
テーマ：「ブラジルの政治と経済の現状」

- 講演者：パウロ・シメネス前中銀総裁
 10月25日 定例会（於・ブッフェ・コロニアル）
 テーマ：「メルスコール」
- 講演者：ルーベンス・バルボーザ大使
 11月16日 定例会（於・トランス・アメリカ）
 テーマ：「サンタカタリーナ州の紹介」
 講演者：ビルソン・クレインベルグ サンタカタリーナ州知事
- 12月16日 忘年会（於・マキスージ）

1993年

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 法人所得税法改正
2. 国営企業民営化計画新規則
3. ブラジル協同組合法
4. 港湾近代化法
5. 新農地改革法と外国法人と自然人の農地取得
6. 暫定金融移転税法案
7. 情報産業法施工細則—政令第792号
8. イタマール政権経済計画Ⅰ
9. イタマール政権経済計画Ⅱ
10. ブラジル不動産登記法
11. エンリック・ガルドーン緊急行動計画
12. 消費者擁護法細則
13. 不動産投資信託法
14. IPMF 法及び細則

機関誌『ブラジル経済情報』（93年見出し）

- 1月15日 831号 経済安定は政治協定がカギ
 2月1日 832号 政府、経済安定化計画を模索
 2月15日 833号 特集「業種別部会長懇談会」
 3月1日 834号 蔵相交代、大統領の経済干渉強まる
 3月15日 835号 大統領制決まれば国民投票後に政治不安か
 4月1日 836号 新経済政策研究中

4月15日	837号	次期大統領選挙運動始まる
5月1日	838号	大統領、連邦統合予算を裁可
5月15日	839号	レゼンデ蔵相辞任の危機去る
6月1日	840号	ガルドーズ新蔵相、政府活動計画を推進
6月15日	841号	日系商工会議所代表者会議
7月1日	842号	ブラジルの取るべき手段
7月15日	843号	南米はどうすべきか
8月1日	844号	ガルドーズ蔵相所信を述べる
8月15日	845号	特集「業種別部会長懇談会」
9月1日	846号	次の目標は財政再建
9月15日	847号	政府、最大党の支持失うか
10月1日	848号	注目の的は財調ショック
10月15日	849号	自動車大売れ異変がもたらした残業問題
11月1日	850号	予算委不正でゆれる国会
11月15日	851号	汚職、CPI、改憲
12月1日	852号	第2次ガルドーズ経済計画のベース発表
12月15日	853号	新経済計画（FHCプラン）発表

1994年

1994年は、ボスニア・ヘルツェゴビナ等の局地紛争、先進国経済の低迷、途上国への市場経済への移行、難民、人口、貧困という地球規模の問題等課題を多く抱えながらも各国それぞれが新しい世界の平和と繁栄の構築へと努力を傾注した。

ブラジルでは、94年前半から高インフレが執拗に続き、政治経済とも前途に不安感をもたらし、後半はレアル・プランの導入によるインフレの著しい減退、カルドーズ大統領の圧倒的国民支持による勝利等により良い方向に進んでいることを国内外に印象付けるといふ、前後半際立った対照を成した年であった。

94年10月の大統領選挙でのカルドーズ候補勝利の要因は、93年12月に当時のカルドーズ蔵相が策定した経済安定化政策（レアル・プラン）が成功したためである。94年初に増税と歳出削減で財政の均衡を図り、3月1日には新価格表示指数（URV、実施価値単位）の導入で物価の安定を実現。7月1日には、新通貨レアルを発行した。レアル・プランで月間40%超のインフレ率は急速に収束し、8月までは残存インフレが影響したが、その後インフレ率は毎月2%前後で推移している。95年5月のインフレ率（IPC-r）は2.57%で、レアル発行後の累積インフレ率は32.88%。

物価の安定が低所得者層の購買力を相対的に向上させ、名目金利の低下が割賦購入による中所得者層の消費拡大をもたらし、国内市場が劇的に拡大。消費財需要の増大に誘引された製造業の活況は、家電品、自動車などの耐久消費財から化学品などの中間財生産にも波及し、さらには90年以降の市場開放を契機とするリストラに直面して低迷を続けていた産業用機械機器などの資本財部門の回復を牽引した。新通貨発行後の消費拡大は雇用にも好影響を及ぼし、サービス業と製造業の雇用増により、94年の失業率は5.1%と2年連続して低下した。94年の実質GDP伸び率は5.7%で、一人あたりGDPも3,452ドルとなった。

94年の貿易は、輸出が前年比12.9%増の435億6000万ドル、輸入が同30.2%増の331億7000万ドルとなった。貿易黒字は103億9000万ドルと同20.8%減少したが、輸出入とも過去最高を記録した。

新通貨レアルの過大評価の中、輸出が増加した背景には輸出業者による輸出前貸し資金の高利運用が実質的な輸出補助金となっていることに加え、主要輸出品の国際価格上昇、先進国経済の回復、メルコスール域内輸出の増加などがある。

対伯貿易は往復で前年比15%増。日本側の入超額は同12.7%増の13億8000

万ドルとなった。

役員名簿（94年12月31日現在）

名 誉 会 頭：後藤隆

顧 問：広川郁三、橘富士雄、山本勝造、別役道昌

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：伝田耕平（南米銀行）

副 会 頭：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）、村瀬宏（伯国三菱商事）、中村勉（ブラジル三井物産）

専任理事：鈴木義也（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）、筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）、速水明憲（アメリカ・ラチーナ保険）、森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥトリア）

財務理事：松沢耕太郎（ブラジル住友商事）、田中紘一（ブラジル東京銀行）、赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）、田中亨（ヤンマー・ド・ブラジル）

委員会

日伯経済交流促進委員会：筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）

労働問題研究委員会：田中亨（ヤンマー・ド・ブラジル）

機関誌委員会：山崎章（東芝・ド・ブラジル）

相互啓発委員会：速水明憲（アメリカ・ラチーナ保険）

日伯法律委員会：森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア）

渉外広報委員会：中村勉（ブラジル三井物産）

行動基準環境問題委員会：村瀬宏（伯国三菱商事）

中小企業委員会：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）

総務委員会：土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）

日伯修好 100 周年記念事業準備委員会（特設）：伝田耕平（南米銀行）

業種別部会

コンサルタント部会：遠山景孝（K.TOYAMA コミュニケーション・コンサルタント）

金融部会：田中紘一（ブラジル東京銀行）

貿易部会：松沢耕太郎（ブラジル住友商事）

機械金属部会：富江新次（ブラジルトヨタ自動車）

電気電子部会：森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア）

化学部会：杉浦弘輝（三井肥料）

運輸サービス部会：宮武忠博（日本航空サンパウロ支店）

繊維部会：伊藤禎二（鐘紡ブラジル）

食品部会：山本正樹（味の素インテルアメリカーナ）

建設不動産部会：乗友正昭（丸紅ブラジル不動産）

9 4 年度理事会及び監事会

理 事

1. アメリカ・ラチーナ保険	速水明憲
2. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
3. 伊藤忠ブラジル会社	筒井茂樹
4. インドゥストゥリア日立	児玉岩男
5. N S K ・ ド ・ ブラジル	高橋克也
6. 大阪商船三井船舶	富屋政紀
7. 鐘紡ブラジル	伊藤禎二
8. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	加藤伸大
9. サントリー・ド・ブラジル	熊倉俊彦
10. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
11. C B C 重工業	押切フラビオ壮
12. ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	森本昌義
13. ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
14. 第一勧業銀行サンパウロ駐在員事務所	松元宗孝
15. ダイワボウ・ブラジル	山岸瑛治
16. 東山農産加工	岡正躬
17. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
18. 東洋紡ブラジル	日比志郎
19. 南米銀行	伝田耕平
20. 南米安田保険	諏方敏明

21.	南米リース	花田好二
22.	ニチメン・ド・ブラジル	南直昌
23.	日本航空サンパウロ支店	宮武忠博
24.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	六田裕行
25.	NEC・ド・ブラジル	本郷達郎
26.	伯国三菱重工業	白石耀穂
27.	伯国三菱商事	村瀬宏
28.	パナソニック・ド・ブラジル	藤田晟太
29.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
30.	ブラジル兼松	津村雅一
31.	ブラジル住友銀行	山内直哉
32.	ブラジル住友商事	松沢耕太郎
33.	ブラジル東京銀行	田中紘一
34.	ブラジル・トヨタ自動車	長岡徳治
35.	ブラジル日商岩井	福島澄信
36.	ブラジル日清紡	永井正明
37.	ブラジル日本通運	北島浩之
38.	ブラジル富士写真フィルム	埋田晴夫
39.	ブラジル三井物産	中村勉
40.	ブラジル三菱銀行	加藤勝彦
41.	古河電気工業	藤田欣也
42.	プロツトーレス倉庫	勝屋岩雄
43.	豊和機械	難波慶二
44.	丸紅ブラジル	新名浩
45.	丸紅ブラジル不動産	乗友正昭
46.	三井肥料	杉浦弘輝
47.	ヤクルト商工	貞方賢彦
48.	ヤシカ・ド・ブラジル	小川秀雄
49.	ヤンマー・ド・ブラジル	田村亨
50.	ユニチカ・ド・ブラジル	土川昭

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・ コンサルタント・アソシエイト
2.	田中信	リベルコン M&A
3.	荻野仁	東芝メヂカル・ド・ブラジル

補充監事

1. ソール・ナッセンテ証券

若松孝司

9 4 年度事業報告

総 会

3 月 15 日 第 44 回定期総会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
「1993 年度事業報告、収支決算承認の件」、「1994 年度事業計画承認の件」、「1994 年予算決議の件」、「監事意見書報告書」

常任理事会

1 月 10 日 定例会（於・マシモ）
2 月 8 日 定例会（於・当所会議室）
3 月 10 日 定例会（於・当所会議室）
4 月 12 日 定例会（於・buffet・コロニアル）
5 月 10 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
6 月 17 日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
7 月 19 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
8 月 19 日 定例会（於・buffet・コロニアル）
9 月 30 日 定例会（於・buffet・コロニアル）
10 月 25 日 定例会（於・当所会議室）
12 月 5 日 定例会（於・当所会議室）

理 事 会

2 月 8 日 定例会（於・当所会議室）
「常任理事補充選挙」
3 月 10 日 定例会（於・当所会議室）
「1993 年事業報告審議」、「1993 年収支決算審議」、「1994 年度事業計画（案）審議」
「1994 年収支予算（案）審議」
6 月 21 日 定例会（於・当所会議室）
「常任理事補充選挙」

監 事 会

2 月 18 日 定例会（於・当所会議室）
「1993 年第 4 四半期会計監査」
6 月 1 日 定例会（於・当所会議室）

- 「1994 年第 1 四半期会計監査」
 8 月 24 日 定例会（於・当所会議室）
 「1994 年第 2 四半期会計監査」
 11 月 3 日 定例会（於・当所会議室）
 「1994 年第 3 四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1 月 6 日 新年祝賀会（於・文協講堂、コロニア諸団体共催）
 1 月 10 日 政府関係者を招いての昼食懇談会（於・マシモ）
 ゲスト：アレクシス・ステパネンコ（企画庁長官）
 2 月 1 日 業種別部会長懇談会
 「93 年回顧と 94 年展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）
 - ・ 紡績・繊維部会長 伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 田中紘一（ブラジル東京銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 仁後賢治（大阪商船三井船舶）
 - ・ 電気・電子副部会長 森本昌義（ソニーコメルシオ・エ・インドウストリア）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長代理 田中享（ブラジル・ヤンマー）
 - ・ 建設・不動産部会長 乗友正昭（丸紅ブラジル不動産）
 - ・ 貿易部会長 松沢耕太郎（ブラジル住友商事）
 - ・ コンサルタント部会長 遠山景孝（K.遠山コミュニケーション）
 - ・ 化学部会長 杉浦弘輝（三井肥料）
 - ・ 食品部会長 山本正樹（味の素インテルアメリカーナ）
 - ・ 総務委員会委員 津村雅一（ブラジル兼松）
 - ・ 総務委員会委員 若松孝司（ソール・ナッセンテ証券）
 - ・ オブザーバー 田中総領事、小林領事

- 5月18日 第6回全伯日系商工会議所代表者会議（於・ポルト・アレグレ）
テーマ：「平成6年度通産大臣による海外経済協力者貢献者表彰」被推薦者選出、「メルコスールについて」
- 5月19日 スピーカーの参加協力 — 南伯日本商工会議所主催「メルコスール・セミナー」（協力事業）
——アンケートの発送・回収協力（4月5～19日）
- 5月26日 第3回官民合同会議（於・リオ・シーザー・パーク・ホテル）
- 5月30日 ボリビア・ブラジルガスパイプライン説明会（於・当所会議室）
ゲスト：ルイス・C・L・コスタミラン（ペトロブラス専務理事）
- 6月23～ バイア州視察旅行
26日
- 8月2日 業種別部会長懇談会
「94年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 土川昭（ユニチカ・ド・ブラジル）
 - ・ 紡績・繊維部会長 伊藤禎二（鐘紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 田中紘一（ブラジル東京銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 宮武忠博（日本航空サンパウロ支店）
 - ・ 電気・電子副部会長 森本昌義（ソニーコメルシオ・エ・インドウストリア）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 富江新次（ブラジル・トヨタ自動車）
 - ・ 建設・不動産部会長 乗友正昭（丸紅ブラジル不動産）
 - ・ 貿易部会長 松沢耕太郎（ブラジル住友商事）
 - ・ コンサルタント部会長 遠山景孝（K.遠山コミュニケーション）
 - ・ 化学部会長 杉浦弘輝（三井肥料）
 - ・ 食品部会長 山本正樹（味の素インテルアメリカーナ）
 - ・ 総務委員会委員 津村雅一（ブラジル兼松）

- ・ 総務委員会委員 若松孝司（ソール・ナッ
センテ証券）
 - ・ 総務委員会委員 田中信（リベルコン・ビ
ジネス）
 - ・ オブザーバー 田中総領事、本田、阿部
領事
- 8 月 30 日 田中総領事主催「河野洋平副総理兼外相との懇談会」（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 10 月 10 日 政府関係者を招いて昼食懇談会（於・ファザーノ）
ゲスト：アレクシス・ステパネンコ（前鉱山動力大臣）
- 11 月 10 日 ペルー日本商工会議所サンパウロ産業視察団との夕食懇談会
（於・サントリー）

加盟団体行事への参加

1. 『日本ブラジル修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会』
発会式（7 月 30 日、於・南米銀行本店）、記念事業発表会（12 月
13 日、於・南米銀行本店）そのほか、総務委員会（7 回）、代表者
会議（2 回）、事務局長会議（1 回）を実施
2. 『サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会 ― 担当・筒井常任理事』
100 周年記念式（5 月 16 日、於・S P 商業協会）
定例会議（3 月、4 月、5 月、9 月、11 月の年間 5 回出席）
3. 『サンパウロ大阪姉妹都市委員会』
定例会議（1 月、2 月に 2 度、3 月、5 月の年間 5 回出席）
マルフ市長主催パーティー（8 月 8 日、於・L ホテル）
大阪市長主催パーティー（8 月 9 日、於・シーザー・パーク・ホテル）
4. 『外資企業グループ ― 担当・筒井常任理事』
総会（8 月 4 日、於・サンパウロアメリカ商業会議所）
5. 『ブラジル貿易協会 ― 担当・筒井常任理事』
理事会（3 月、6 月、7 月、9 月の年間 4 回出席）

委員会・部会の主な活動

一相互啓発委員会

- 5 月 18～22 日 リオ・グランデ・ド・スール州産業視察旅行
訪問先：ラニフィッシオ・クラシキ社羊毛工場、リオグ

ランデンセ社製鉄、コエンザ社発電機工場、リ
オセル社パルプ工場、エレバドールスル社エレ
ベーター工場、アウロラ社ワイン工場

10月27～30日 北伯産業視察旅行

訪問先: CVRD 社カラジャス鉱山・サンルイス積出し港、
アルマール社アルミナ・アルミニウム精錬工
場、AMASA 社エビ加工工場、永大ド・ブラジ
ル社合板工場

一総務委員会

9月29日 安全対策に関する講演会（於・当所会議室）
テーマ：「防犯対策及び危機管理について」
講演者：ワンデルレイ 司令官（サンパウロ州軍警察）、佐伯
武（JSS 取締役）

一中小企業委員会

2月24日 勉強会（於・当所会議室）
ゲスト：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）、若松孝
司（ソール・ナッセンテ証券）
5月17日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「企業へのコンピューター導入に関して」
講演者：釜石徹（協栄ファコム計算センター専務取締役）
8月25日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「ブラジルでのより良い広告宣伝について」
講演者：ライムンド・ローリン（ジュンコ宣伝企画取締役）
10月25日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「国際水準の商品をテコにした会社再建の体験談」
講演者：森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インダスト
リア社長）

一日伯法律委員会

12回の月例会議を実施

一労働問題研究委員会

2月17日 月例会議（於・当所会議室）
テーマ：「人材のリエンジニアリング」
講演者：ワルテル・レルネル（コンサルタント）

- 4月14日 月例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジル経済」
 講演者：永井忍（週刊 FAX ニュース代表）
- 8月18日 月例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ヤンマー・インダィアツバ工場における医療保険、食堂の管理」
 講演者：ジョゼー・ドニゼッチ（ヤンマー・ド・ブラジル経営総支配人）

一 渉外広報委員会

- 1月26日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「品質」
 講師：ジュリオ・ロボス（コンサルタント）
- 2月23日 定例会議（於・当所会議室）
 ゲスト：続政剛（元衛生大臣）、渡部重雄（日系人研究者協会会長）
- 3月30日 定例会議（於・当所会議室）
 ゲスト：アルイジオ・ファルコン・フィーリョ（VEJA 誌・EXAME 誌特別企画担当取締役）
- 4月27日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「日本経済は大変化を遂げるか」
 講演者：フランシスコ・パウラ・リマ・フィーリョ（CGT 相談役）
- 6月29日 定例会議（於・当所会議室）
 ゲスト：アルナルド・カザリ（APP 会長）
- 8月31日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「潜在市場における金融事業」
 講演者：マルセロ・リリオ（ING 銀行上級副社長）
- 9月28日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「ブラジルの技術、品質、生産性」
 講演者：ルイス・カルロス・バルボーザ（CNI 中小工業支援部長）

一 経済年鑑発刊準備委員会（特別委員会）

- 1月14日 最終購入依頼
- 2月8日 企画会議（於・当所会議室）
 「販売経過及び決算報告」、「委員会解散」

一日伯修好 100 周年特別委員会

- 6 月 15 日 委員長・副委員長会議（於・当所会議室）
「日本ブラジル修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力
委員会への登録者選出」
- 9 月 12 日 常任委員会議（於・当所会議室）
- 11 月 8 日 常任委員会議（於・シーザー・パーク・ホテル）

一食品部会

- 3 月 16 日 主催講演会（於・当所会議室）
テーマ：「ブラジル農業の現状と将来」
講演者：石井俊道（領事）

一電気電子部会

- 5 月 13 日 勉強会（於・当所会議室）
テーマ：「ブラジル政治経済の現状と展望」
講演者：植木シゲアキ（元鉱山動力大臣、元ペトロブラス
総裁）

定例昼食会

- 1 月 7 日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
ゲスト：フェルナンド・エンリッケ・カルドーゾ大蔵大
臣
- 2 月 10 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
ゲスト：ルイス・イナシオ・ダ・シルバ PT 党首
- 3 月 15 日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
テーマ：「カルドーゾプランの動向」
講演者：田中信（デロイト・トウシュ・トーマツ会計監査
法人）
- 4 月 12 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
テーマ：「伯国工業と経済調整」
講演者：カルロス・エドワルド・モレイラ・フェレイラ
（FIESP 会長）
- 5 月 10 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「電力セクターにおける開発計画」
講演者：アレクシス・ステパネンコ（鉱山動力大臣）

6 月 17 日	定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ） ゲスト：ペドロ・サンパイオ・マラン（ブラジル中央銀行 総裁）
7 月 19 日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル） ゲスト：オレステス・クエルシア（PMDB 大統領候補）
8 月 19 日	定例会（於・ブッフェ・コロニアル） テーマ：「リアル・プランと物価の安定」 講演者：ジョゼ・ミルトン・ダラリ（大蔵大臣特別補佐官）
9 月 30 日	定例会（於・ブッフェ・コロニアル） テーマ：「次期政権における、ブラジルの政治・経済・社会 の見通し」 講演者：ポリバル・ラモウニエル（政治学者）
10 月 26 日	定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ） テーマ：「リアル・プランにおける為替政策」 講演者：ルイス・パウロ（ローゼンベルグ・コンサルタン ト社代表）
11 月 8 日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
12 月 15 日	忘年会（於・マクソード・プラザ・ホテル）

1994年

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. FHC 第 2 次プラン
2. 技術移転行為、契約の法的手続き規定（Ato Normativo 120/93 do INPI）
3. 暫定措置 434 号
4. 暫定措置 542 号

機関誌『ブラジル経済情報』（94 年見出し）

1 月 15 日	854 号	会頭挨拶
2 月 1 日	855 号	憲法見直しは先送り、国会は財政調整法案を可決
2 月 15 日	856 号	業種別部長懇談会特集
3 月 1 日	857 号	URV 採用にあたり頭ひねる商工業界
3 月 15 日	858 号	第 2 次カルドーゾプラン支持率高いが物価狂乱が心配
4 月 1 日	859 号	悪性インフレを抑えアルゼンチン経済の信頼回復

4月15日	860号	リクペロ新蔵相の所信
5月1日	861号	サンパウロ会議開催、リオグループと欧州連合
5月15日	862号	次はレアル・プラン
6月1日	863号	メルコスール・セミナーに商工会議所代表者参加
6月15日	864号	レアルの後は構造改革
7月1日	865号	通貨改革「レアル計画」発表
7月15日	866号	レアル計画下の経済状況
8月1日	867号	メルコスールの今後、共通関税、パテント、情報機器
8月15日	868号	業種別部会長懇談会特集
9月1日	879号	メルコスール 2001 年をメドに 95 年 1 月に発足
9月15日	870号	レアル経済計画を守ろう
10月1日	871号	輸出好調 8 月は 42,82 億ドルと史上最高
10月15日	872号	次期政府の経済計画
11月1日	873号	相互啓発委員会主催「北伯産業視察旅行」旅行記①
11月15日	874号	カルドーズ次期大統領に有利な新国会
12月1日	875号	西半球自由貿易圏形成、米州 33 か国の代表会議
12月15日	876号	次期政府の経済政策骨子、マラン中銀総裁 NY で講演

ーポルトガル語版機関誌の発行

- 6月 業種別部会長懇談会特集
- 11月 業種別部会長懇談会特集

1995年

レアル・プランにより月間 40%台の執拗なインフレを 2%に鎮静化させたカルドーズ政権は、1994 年は経済成長 4%（推定）、それも経済開放、インフレ封じ込めによる経済安定化と並行させながらの成長達成を成し遂げた。

95 年は、日伯修好 100 周年という両国間にとって大きな節目となった。各種セミナー、展示会、学生訪日等当会議所共催あるいは支援事業が多く、日伯経済交流に大きく裨益したといえる。

95 年 1 月に発足したカルドーズ政権にとり、95 年は試練と挑戦の年であった。経済安定化政策（レアル・プラン）の継続でインフレは沈静化。国内景気は内需抑制の強化で減退し、95 年の実質 GDP 伸び率は 94 年の 5.7%から 4.2%に低下した。

94 年末のメキシコ通貨危機の影響を受けて、外貨準備高は 95 年 4 月末には 300 億ドルを割り込んだ。政府は金融を引き締めて内需を抑制し、中央銀行は為替変動幅によるレアルの緩やかな切り下げを開始したため、94 年 11 月に赤字転落していた月間貿易収支は、95 年 7 月以降黒字基調に復調した。

カルドーズ政権は 95 年 6 月に価値修正の段階的廃止による経済の脱インフレ指数化を進め、11 月までには経済開放関連の憲法改正 5 法案（外資差別の撤廃、通信部門の独占解禁、石油部門の独占緩和、都市ガス供給の独占解禁、沿岸海運の独占緩和）の国会承認を得た。しかし、国家財政再建に必須の年金改革、行財政改革、税制改革のための憲法改正法案の国会審議は、96 年 10 月の全国市長・市議選挙を前に難航している。

マクロ経済の安定化に伴う競争原理の回復、レアルの過大評価、経営のグローバル化などを背景に、企業のリストラが広がり、失業率は 95 年 1 月の 4.4%から 96 年 2 月には 5.7%に上昇した。

カルドーズ政権は貿易収支の黒字構造を強化するために、①暫定的な輸入抑制と輸出促進、②関税引き下げ計画の見直し、③輸出金融の拡充、④自動車関連産業の輸出・投資振興策などを実施し、通商政策の調整と再編を進めている。

95 年の貿易は輸出が前年比 6.8%増の 465 億 600 万ドル、輸入が同 50.1%増の 496 億 6300 万ドルと、輸出入とも 94 年実績を上回ったが、貿易収支は 94 年の 104 億 6600 万ドルの黒字から 31 億 5700 万ドルの赤字となった。

赤字転落の要因は、①94 年 7 月のレアル導入以降為替が安定化し、95 年末までレアル高ドル安が進行したこと、②インフレがドルベースで蓄積し、レアルの過大評価が進行したこと、③経済の安定化で内需が拡大し、輸入に拍車がかかったことである。

95 年の対伯貿易は日本の輸出が前年比 38%増の 25 億 9600 万ドル、日本

の輸入が同 21.3%増の 39 億 5400 万ドルとなり、日本の入超額は同 1.6%減少して 13 億 5800 万ドルとなった。日本の輸入増加はアルミ地金の輸入が同 59.8%増と急増したためで、この背景には国際市況が堅調だったうえに、日本アマゾン・アルミ社との合弁企業アルブラスから出資比率に応じて引き取る製品の大半を、合弁相手のリオ・ドセ社が対日輸出に振り向けた事情がある。

役員名簿（95 年 12 月 31 日現在）

名 誉 会 頭：後藤隆

顧 問：広川郁三、橘富士雄、別役道昌

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：伝田耕平（南米銀行）

副 会 頭：筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）、森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア）、中村勉（ブラジル三井物産）

専任理事：鈴木義也（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）、松沢耕太郎（ブラジル住友商事）、田中紘一（ブラジル東京銀行）、赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）

財務理事：加藤勝彦（ブラジル三菱銀行）、福島澄信（ブラジル日商岩井）、押切フラビオ壮（CBC 重工業）、田中亨（ヤンマー・ド・ブラジル）

委員会

日伯経済交流促進委員会：筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）

労働問題研究委員会：田中亨（ヤンマー・ド・ブラジル）

機関誌委員会：山崎章（東芝・ド・ブラジル）

相互啓発委員会：鈴木義也（アメリカ・ラチーナ保険）

日伯法律委員会：森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア）

渉外広報委員会：福島澄信（ブラジル日商岩井）

行動基準環境問題委員会：加藤勝彦（ブラジル三菱銀行）

中小企業委員会：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）

総務委員会：松沢耕太郎（ユニチカ・ド・ブラジル）

日伯修好 100 周年記念事業準備委員会（特設）：伝田耕平（南米銀行）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（リベルコン・ビジネス・M&A）
 金融部会：田中紘一（ブラジル東京銀行）
 貿易部会：須賀禎之（伯国三菱商事）
 機械金属部会：坂田一彦（モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア）
 電気電子部会：藤田晟太（パナソニック・ド・ブラジル）
 化学部会：埋田晴夫（富士写真フィルム）
 運輸サービス部会：富屋政紀（大阪商船三井船舶）
 繊維部会：日比志郎（東洋紡ブラジル）
 食品部会：山本正樹（味の素インテルアメリカーナ）
 建設不動産部会：長田俊雄（竹中工務店）

9 5 年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカーナ	山本正樹
2. アメリカ・ラチーナ保険	原大児
3. イグアス・コーヒー	江坂雅雄
4. 伊藤忠ブラジル会社	筒井茂樹
5. インドゥストゥリア日立	児玉岩男
6. N S K ・ ド ・ ブラジル	菅野忠信
7. 大阪商船三井船舶	富屋政紀
8. 鐘紡ブラジル	金久誠
9. サントリー・ド・ブラジル	熊倉俊彦
10. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
11. C B C 重工業	押切フラビオ壮
12. ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	森本昌義
13. ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
14. ダイワボウ・ブラジル	木村武
15. 帝人ブラジル輸出入	遠藤敏之
16. 東山農産加工	赤星恒介
17. 東芝・ド・ブラジル	山崎章
18. 南米銀行	伝田耕平
19. 南米保険	伝田英二
20. 南米安田保険	諏方敏明
21. 南米リース	浅川正雄
22. ニチメン・ド・ブラジル	南直昌

23.	日本航空サンパウロ支店	加藤彰
24.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	六田裕行
25.	N E C ・ ド ・ ブラジル	本郷達郎
26.	伯国三菱商事	須賀禎之
27.	パナソニック ・ ド ・ ブラジル	藤田晟太
28.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
29.	ブラジル兼松	岸村洋
30.	ブラジル住友銀行	山内直哉
31.	ブラジル住友商事	松沢耕太郎
32.	ブラジル東京銀行	田中紘一
33.	ブラジル ・ トヨタ自動車	長岡徳治
34.	ブラジル日商岩井	福島澄信
35.	ブラジル日清紡	永井正明
36.	ブラジル日本通運	北島浩之
37.	ブラジル富士写真フィルム	埋田晴夫
38.	ブラジル三井物産	中村勉
39.	ブラジル三菱銀行	加藤勝彦
40.	古河電気工業	藤田欣也
41.	豊和機械	川島誠
42.	丸紅ブラジル	新名浩
43.	丸紅ブラジル不動産	乗友正昭
44.	三井肥料	鈴木健男
45.	モンテ ・ デステ電工	岡正躬
46.	ヤクルト商工	貞方賢彦
47.	ヤシカ ・ ド ・ ブラジル	石谷二郎
48.	ヤンマー ・ ド ・ ブラジル	田村亨
49.	ユニチカ ・ ド ・ ブラジル	木嶋恒孝

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・
2.	田中信	コンサルタント・アソシエイト
3.	田中一穂	リベルコン・ビジネス・M&A
		ブラジル三井海上火災保険

9 5 年度事業報告

総 会

- 3月10日 第45回定期総会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1994年度事業報告、収支決算承認の件」、「監事意見書報告書」
- 4月18日 臨時総会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1995年度事業・収支予算計画案承認の件」

常任理事会

- 1月10日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2月10日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 3月10日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 4月11日 臨時会（於・当所会議室）
- 4月18日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 5月18日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 6月9日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 7月14日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 8月11日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 9月15日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 10月20日 定例会（於・ホテル・メリア・サンパウロ）
- 11月24日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 12月12日 定例会（於・当所会議室）

理 事 会

- 2月10日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
「1994年事業・収支決算報告案審議」
- 3月21日 定例会（於・当所会議室）
「1995／96年度常任理事選挙」、「1995／96年度事業計画案審議」、「第2四半期会費調整審議」
- 4月18日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1995年事業・収支予算計画案審議」
- 10月31日 定例会（於・当所会議室）
「常任理事補充選挙」

監 事 会

- 1月26日 定例会（於・当所会議室）
「1994年第4四半期会計監査」
- 2月24日 臨時会（於・当所会議室）
「1994年事業・収支決算報告監査」、「監事意見書作成」
- 5月5日 定例会（於・当所会議室）

- 「1995 年第 1 四半期会計監査」
 8 月 10 日 定例会（於・当所会議室）
 「1994 年第 2 四半期会計監査」
 10 月 17 日 臨時会（於・当所会議室）
 「ブラジル日本商工会議所定款に係る件」
 11 月 21 日 定例会（於・当所会議室）
 「1995 年第 3 四半期会計監査」
 臨時会（於・当所会議所）
 「ブラジル日本商工会議所定款に係る件」
 12 月 14 日 臨時会（於・当所会議室）
 「ブラジル日本商工会議所定款に係る件」

共催・後援・協力行事

- 1 月 6 日 新年祝賀会（於・文協講堂、日系コロニア 4 団体共催）
 2 月 7 日 村瀬、土川両副会頭帰国歓送会（於・ラ・タンボイル）
 2 月 12～ 平成 6 年度臨時官民合同会議（於・ブラジリア）
 13 日
 2 月 24 日 1995／96 年度理事・監事選挙開票日
 3 月 21 日 1995／96 年度常任理事選挙
 4 月 24 日 第 7 回全伯日系商工会議所代表者会議（於・当所会議室）
 テーマ：「平成 7 年度通産大臣による海外経済協力貢献者被推薦者選考その他」
 7 月 28 日 経済セミナー（於・サンパウロ州工業連盟講堂）
 共催一日伯修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会
 8 月 29 日 品質及び生産性に関するセミナー（於・サンパウロ州工業連盟講堂）
 共催一日伯修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会
 10 月 5 日 速水副会頭帰国歓送会（於・レストラン・サントリー）
 10 月 23 日 政府関係者を招いての昼食懇談会（於・マシモ）
 ゲスト：マルコ・マシエル（副大統領）
 11 月 7 日 懇談会「日伯経済合同委員会事前調査」（於・当所会議室 一経団連経済協力部への協力）
 11 月 7～ サンパウロ日本産業技術見本市（於・イビラプエラ・ビエン
 12 日 ナーレ展示場）
 共催一日伯修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会
 11 月 8 日 紀宮様歓迎式典（於・サンパウロ州政庁バンデイランテス宮）
 共催一日伯修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会

- 11 月 9 日 日伯修好 100 周年記念式典（於・ブラジリア・イタマラチ宮
殿、ブラジル政府主催）
- 11 月 10 日 日伯経済交流セミナー（於・マクソード・プラザ・ホテル）
共催ー日伯修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会
- 12 月 1 日 平成七年度官民合同会議（於・サンパウロ）
- 12 月 14 日 政府関係者を招いて懇談会（於・当所会議室）
ゲスト：フェルナンド・ギマランエス・レイス（新駐日ブラ
ジル大使）

加盟団体行事への参加

1. 『日本ブラジル修好 100 周年記念事業サンパウロ日系協力委員会』
総務委員会（10 回）、記念福引景品引き渡し式（11 月 17 日、於・南米
銀行本店）
そのほかの同委員会共催イベントは前述を参照
2. 『阪神大震災義捐金』
日系コロニア 4 団体事務局長会議（1 月 19 日、於・文協）
義捐金募集開始（1 月 30 日）、義捐金募集終了（3 月 3 日）
3. 『サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会ー担当・筒井常任理事』
100 周年記念式（5 月 16 日、於・S P 商業協会）
定例会議（2 月、3 月、8 月、10 月、11 月、12 月の年間 6 回出席）
4. 『外資企業グループー 担当・筒井常任理事』
会議（5 月 22 日、於・ブラジリア）

委員会・部会の主な活動

ー相互啓発委員会

- 8 月 17～20 日 マナウス産業視察旅行
訪問先：ソニー社、ホンダ社、マナウス工業団地、アリ
アウジャングルタワー、オペラハウス、自然博
物館、CIGS 動物園等

ー中小企業委員会

- 2 月 21 日 講演会（於・当所会議室）
ゲスト：赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）、若松孝
司（ソール・ナッセンテ証券）
- 5 月 23 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「ISO9001 を獲得するまでの道程」

- 8月24日 講演者：佐藤賢（ケンテック・エレクトロニカ社長）
講演会（於・当所会議室）
テーマ：「日本の進出企業のトップに立つ二世経営者の考え方を聞く」
- 10月26日 講演者：石川清治（ブラジル YKK 社長）
講演会（於・当所会議室）
テーマ：「ある企業進出の在り方と考え方」
講演者：栗田誠四郎（住電東海・ド・ブラジル LTDA 社長）

一日伯経済交流促進委員会

- 12月13日 意見交換会（於・コチアトレーディング経営審議会副会長
ペドロ・カルロス・デ・ブリット氏宅）
「フェルナンド・ギマランエス・レイス氏（新駐日ブラジル大使を囲む夕食会）」

一日伯法律委員会

- 7月6日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「環境に係る権利—そのリスクと機会」
講演者：アントニオ・ジョゼ・モンテイロ（ピニエイロ・ネット法律事務所弁護士）
- 9月14日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「所得税法及び憲法改正案」
講演者：プリーニオ・ジョゼ・マラフォン（プラガ・マラフォン法律コンサルタント事務所弁護士）
- 10月5日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「日本国法務省宛訴状に係るブラジル国法務省通達、民事および刑事簡易裁判所その他」
講演者：マルセロ・アントニオ・ムリエル（ピニエイロ・ネット法律事務所弁護士）
- 11月9日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「日本の法制度展望」
講演者：矢谷通朗（アジア経済研究所副主任調査研究員兼サンパウロ大学客員教授）

一労働問題研究委員会

- 2月17日 定例会議（於・当所会議室）
テーマ：「品質向上の動機付けと人事の役割」

- 講演者：パウロ・ロジェリオ・デ・ソウザ（カテリーナ金属工業問題担当主任）
- 7月25日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「労災と職業病」
 講演者：アディルソン・サンシェス（ASTP 労働福祉コンサルタント事務所弁護士）
- 10月19日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「優良企業における経営参加」
 講演者：ワルテル・レルネル（ゼツリオ・バルガス経営大学教授）

一 渉外広報委員会

- 5月31日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「日本出張報告及び日伯修好 100 周年記念行事」
 講演者：中谷アンセルモ（ブラジル古河電工社長）
- 6月28日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「南北アメリカ・アジアネットワーク」
 講演者：ジルソン・シュワルツ（ボストン銀行チーフエコノミスト）
- 7月18日 企業見学会
 訪問先：アンタルチカ工場（ジャグアリウーナ）、東山農場（カンピーナス）
- 7月26日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「新聞の将来展望」
 ゲスト：鈴木マチナス（フォーリャ・デ・サンパウロ紙論説委員）
- 8月30日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「金融ジャーナリズム」
 講演者：ジョゼ・フックス（エザメ誌編集者）
- 9月27日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「インターネット市場—ブラジルのビジネスチャンス」
 ゲスト：牛島レイナルド（アジェンシア・ジネイロ・ビーボ及び PARXTECH 技術コンサルタント）
- 11月29日 定例会議（於・当所会議室）
 テーマ：「今日の日本経済が直面する問題」
 講演者：鈴木孝憲（デロイト・トウシュ・等松監査法人最

高顧問)

一日伯修好 100 周年特別委員会

2 月 2 日 村瀬委員長帰国退任に伴う副委員長への引き継ぎ

一金融部会

6 月 21 日 定例会議 (於・当所会議室)
テーマ:「ブラジルをめぐる最近の国際資本市場の動き」
講演者: 渡辺勝也 (野村証券サンパウロ駐在員事務所所長)

一コンサルタント部会

9 月 5 日 定例会議 (於・当所会議室)
テーマ:「中南米政治経済の最近の潮流とブラジルへの影響」
講演者: 平田喜裕 (日本経済新聞サンパウロ支局長)

一繊維部会

10 月 10 日 定例会議 (於・当所会議室)
テーマ:「ブラジルの繊維産業近代化と繊維機械産業について」
講演者: 佐藤弘之 (ABIMAQ 理事、同繊維機器全国部会長)

一電気電子部会

3 月 28 日 定例会議 (於・当所会議室)
テーマ:「ブラジル経済の現状」
講演者: ロベルト・マセード (ELETROS 会長)

定例昼食会

1 月 10 日 新年会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
ゲスト: 宇川秀幸 (駐ブラジル日本国特命全権大使)

2 月 10 日 定例会 (於・ホテル・トランスアメリカ)
テーマ:「ブラジル経済の新しい方向」
講演者: カルロス・アントニオ・ロッカ (マッピン社代表)

3 月 10 日 定例会 (於・ブッフエ・コロニアル)
テーマ:「憲法改正の動向、為替の動向」
講演者: 田中信 (リベルコン・M&A 社代表)

- 4月18日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 5月18日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「ブラジル経済の現状と変貌する世界経済の見通し」
 講演者：ドロテア・ウェルネック（商工観光大臣）
- 6月9日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
 テーマ：「ブラジル及びサンパウロ州経済の現状と見通し」
 講演者：中野ヨシアキ（サンパウロ州財務長官）
- 7月14日 定例会（於・ホテル・トランスアメリカ）
 テーマ：「現下のブラジル経済をどう見るか」
 講演者：鈴木孝憲（デロイト・トウシュ・等松監査法人最高顧問）
- 8月11日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「米州の地域統合と日本の対応ー日伯 100 周年をふまえて」
 講演者：堀坂浩太郎（上智大学外国語学部兼イベロアメリカ研究所教授）
- 9月15日 定例会（於・ホテル・トランスアメリカ）
 テーマ：「日本とブラジルの経済関係」
 講演者：横田パウロ（元ブラジル中央銀行理事及びインクラ総裁）
- 10月20日 定例会（於・ホテル・メリア・サンパウロ）
 テーマ：「ブラジル経済の見通しと日伯関係」
 講演者：アントニオ・デルフィン・ネット（元大蔵大臣及び企画大臣、現国会下院議員）
- 11月24日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「日伯経済関係」
 講演者：ペドロ・サンパイオ・マラン（大蔵大臣）
- 12月15日 忘年会（於・ホテル・トランスアメリカ）
 ゲスト：宇川秀幸（駐ブラジル日本国特命全権大使）

1995年

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 税制改正暫定措置 812 号
2. 連邦政府の多年度プラン

機関誌『ブラジル経済情報』（95 年見出し）

1 月 15 日	877 号	会頭新年挨拶
2 月 1 日	878 号	メキシコ通貨危機とブラジル
2 月 15 日	879 号	業種別部会長懇談会特集
3 月 1 日	880 号	経済構造改革の必要性、ラテン・アメリカ各国の認識 深まる
3 月 15 日	881 号	レアル経済計画支援、危機上陸阻止の水際作戦
4 月 1 日	882 号	諸外国との経済交流活発化、高官・ミッションの訪伯 相次ぐ
4 月 15 日	883 号	レアル計画防衛に迫られる政府
5 月 1 日	884 号	ブラジル売込みにつとめた 4 日間、米国公式訪問のカ ルドーゾ大統領
5 月 15 日	885 号	カルドーゾ大統領ロンドンへ、英有力企業人と積極的 に接触
6 月 1 日	886 号	ブラジルの品質管理向上を強調、ウェルネック商工観 光相
6 月 15 日	887 号	中野聖州財務長官、為替、金利政策、中銀を批判し聖 州経済方針、バネスパ対処に言及
7 月 1 日	888 号	第 2 次レアル経済計画と今後の方針
7 月 15 日	889 号	重大局面を迎える政府、財調を今度こそ実現
8 月 1 日	890 号	通貨審議会決議、金融市場近代化と引き締め緩和、 徐々に金利低下、インフレは月 2%以下
8 月 15 日	891 号	業種別部会長懇談会特集
9 月 1 日	892 号	南米主要国商工相会議リオで開催、インフラに年平均 600 億ドル投資必要
9 月 15 日	893 号	連邦多年度投資プラン（96～99 年）、4 年間に約 20% の経済成長を見込む
10 月 1 日	894 号	コール、カルドーゾ会談、国連安保理入り、環境保全 共同計画等
10 月 15 日	895 号	政府、外車輸入枠取り下げる、世界貿易機関の勧告を 容れ
11 月 1 日	896 号	カルドーゾ大統領国連演説とブラジルの常任理事国 入り運動
11 月 15 日	897 号	96 年度連邦予算、経済成長下向き、歳入欠陥のおそ れ

12 月 1 日 898 号 ウォールマートのブラジル上陸、小売業界の旋風
12 月 15 日 899 号 ブラジルの対外投資残、3 月末現在 50,31 億ドル

ーポルトガル語版機関誌の発行

6 月 業種別部会長懇談会特集

10 月 業種別部会長懇談会特集

1996年

ブラジルは「リアル・プラン」の成功により、1993年に年率2500%だったインフレが1995年は約10パーセントに抑えられた。経済成長は国民総生産（GDP）ベースで3.5%に達し、第3四半期に6.5%の伸びを示し、景気は回復基調が顕著な年となった。

96年のブラジル経済はインフレ低下の持続と内需回復により緩やかな成長となった。94年に導入された経済安定化政策はカルドーズ政権の最優先課題として継続され、96年のインフレ率（INPC）は前年の22%から9.1%に低下し、実質GDP伸び率は2.9%となった。

メキシコ通貨危機や貿易収支悪化を契機に、政府が95年前半に採用した金融引き締め策は、その後の長期資本流入増や96年前半の貿易収支均衡化に伴い、徐々に緩和され、消費拡大に寄与した。分割購入の普及により、家電製品、家具、自動車など高額商品の販売が増加し、生産拡大は消費財のみならず、金属、プラスチックなど関連産業に波及した。公共投資増加により、電力・通信サービス、同関連資材の生産も堅調で、国際価格が回復した鉱産物やタバコ、大豆生産も拡大した。

失業率は年後半の工業部門の生産拡大により改善傾向を示したが、年平均では5.4%と95年より0.78ポイント上昇した。96年の貿易収支の赤字幅は前年比65.2%増の55億3900万ドルに達し、対外債務利払いや海外旅行者の増加でサービス収支が悪化した結果、96年には243億4700万ドル（GDP比3.3%）に拡大した。外国直接投資受入額は94億420万ドルで前年比140%増加、総合収支は86億6500万ドルの黒字を維持した。

緩やかな経済成長を堅持する一方、財政赤字の改善と産業競争力強化策を重要課題としている。96年には石油化学5社、電力1社、鉄道5区間の公社を民営化し、財政収入は前年比約4倍の約41億ドルに達した。96年の公共政策赤字は、金利低下による負担軽減で縮小傾向にあるが、依然GDP比3.9%と大きい。

96年の輸入抑制策は、繊維、玩具産業へのセーフガードを大義名分とする暫定的措置に限られ、税制、融資部門別政策を中心とした輸出促進策が採られた。融資面では、年間融資枠10億ドルに上る工業製品輸出支援プログラム（PEPM）が96年6月に開始され、自動車部品、家具、石材、家電製品、などの輸出製造業者を対象にブラジル経済社会開発銀行（BANDES）が直接投資を行なうようになった。

96年の貿易は、輸出が前年比2.7%増の477億4700万ドル、輸入が同6.9%増の532億8600万ドルとなり、貿易赤字は前年比6.5%増の55億3900万ド

ルとなった。赤字幅拡大要因は、①内需拡大による輸入の増加、②設備投資と生産拡大の不足による輸出の伸び悩み、③国際競争力強化に向けた企業の最新設備・部品の輸入増加、④旺盛な公共インフラ投資への関連資材輸入の増加が挙げられる。

対伯貿易は、日本の輸出は前年比 14.5%減の 22 億 1900 万ドル、輸入が同 4.8%減の 37 億 6600 万ドルとなり、日本側入超額は同 13.9%増の 15 億 4700 万ドルとなっている。

日本の輸入減少は、輸入全体の 3 割強相当を占めるコーヒー、パルプ、鉄鋼中間品、アルミ地金の輸入額が国際価格低下により、前年比 10.9%～28%減少したため。

役員名簿（96 年 12 月 31 日現在）

名 誉 会 頭：後藤隆
顧 問：別役道昌
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：伝田耕平（南米銀行）
副 会 頭：中村勉（ブラジル三井物産）、筒井茂樹（伊藤忠ブラジル）、山崎章（東芝・ド・ブラジル）、森本昌義（ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア）
専任理事：鈴木義也（富士銀行サンパウロ駐在員事務所）、田中紘一（ブラジル東京銀行）、田中亨（ヤンマー・ド・ブラジル）、赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）
財務理事：福島澄信（ブラジル日商岩井）、押切フラビオ壮（CBC 重工業）、須賀禎之（伯国三菱商事）、山内直也（ブラジル住友銀行）

96 年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	原大児
3. 南米安田保険	諏方敏明

4.	伊藤忠ブラジル会社	堤茂樹
5.	インドゥストゥリア日立	児玉岩男
6.	NSK・ド・ブラジル	菅野忠信
7.	大阪商船三井船舶	富屋政紀
8.	イグアス・コーヒー	江坂雅雄
9.	キリンビール代表事務所	赤星恒介
10.	鐘紡ブラジル	金久誠
11.	サントリー・ド・ブラジル	熊倉俊彦
12.	三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
13.	CBC重工業	押切フラビオ壮
14.	ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	森本昌義
15.	ダイワボウ・ブラジル	木村武
16.	帝人ブラジル輸出入	靴金邦明
17.	富士銀行駐在員事務所	鈴木義也
18.	東芝・ド・ブラジル	山崎章
19.	東洋紡ブラジル	日比志郎
20.	南米銀行	伝田耕平
21.	豊和機械	川島誠
22.	南米リース	浅川正雄
23.	ニチメン・ド・ブラジル	南直昌
24.	日本航空サンパウロ支店	加藤彰
25.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	六田裕行
26.	NEC・ド・ブラジル	本郷達郎
27.	伯国三菱商事	須賀禎之
28.	パナソニック・ド・ブラジル	藤田晟太
29.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
30.	ブラジル兼松	岸村洋
31.	ブラジル住友銀行	山内直也
32.	ブラジル住友商事（株）	後藤芳信
33.	ブラジル東京三菱銀行	田中紘一
34.	ブラジル・トヨタ自動車	長岡徳治
35.	ブラジル日商岩井	福島澄信
36.	ブラジル日清紡	永井正明
37.	ブラジル日本通運	北島浩之
38.	ブラジル富士写真フィルム	埋田晴夫
39.	ブラジル三井物産	中村勉
40.	古河電気工業	村尾俊夫

41.	丸紅ブラジル	新名浩
42.	丸紅ブラジル不動産	乗友正昭
43.	三井肥料	鈴木健男
44.	モト・ホンダ・ダ・アマゾンア	近藤広一
45.	モンテ・デステ電工	岩崎透
46.	ヤクルト商工	貞方賢彦
47.	ヤシカ・ド・ブラジル	石谷二郎
48.	ユニチカ・ド・ブラジル	木嶋恒孝
49.	東山農産加工	赤星恒介
50.	ソールナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・ コンサルタント・アソシエイト
2.	田中一穂	ブラジル三井海上火災保険
3.	田中信	リベルコン・ビジネス・M&A

共催・後援・協力行事

1 月 30 日	業種別部会長懇談会 「95 年回顧と 96 年展望」	
	・ 司会 総務委員会委員長	松沢耕太郎（ブラジル住 友商事）
	・ 紡績・繊維部会長	日比志郎（ブラジル東洋 紡）
	・ 金融・保険、証券部会長	田中紘一（ブラジル東京 銀行）
	・ 運輸・サービス部会長	富屋政紀（大阪商船三井 船舶）
	・ 電気・電子部会長	藤田晟太（パナソニッ ク・ド・ブラジル）
	・ 機械・金属・鉄鋼副部会長	大沢勇四郎（OSG 精密 工具）
	・ 建設・不動産部会長	長田俊雄（ブラジル竹中 工務店）
	・ 貿易部会長	須賀禎之（ブラジル三菱

- ・ コンサルタント部会長
- ・ 化学部会長
- ・ 食品部会長
- ・ 総務委員会委員
- ・ 総務委員会委員
- ・ 総務委員会委員
- ・ オブザーバー

7 月 30 日

業種別部会長懇談会

「96 年上期回顧と下期展望」

- ・ 司会 総務委員会委員長
- ・ 紡績・繊維部会長
- ・ 金融・保険、証券部会長
- ・ 運輸・サービス部会長
- ・ 電気・電子副部会長
- ・ 機械・金属・鉄鋼部会長
- ・ 機械・金属・鉄鋼副部会長
- ・ 建設・不動産部会長
- ・ 貿易部会長
- ・ コンサルタント部会長

商事)

田中信 (リベルコン・ビジネス)
 埋田晴夫 (富士写真フイルム)
 山本正樹 (味の素インテルアメリカナ)
 赤星恒介 (東山農産加工)
 赤嶺尚由 (ソール・ナッセンテ人材銀行)
 藤下温雄 (ブラジル三井物産)
 田中総領事、阿部、本多領事

中村勉 (ブラジル三井物産)
 日比志郎 (ブラジル東洋紡)
 田中紘一 (ブラジル東京銀行)
 富屋政紀 (大阪商船三井船舶)
 後藤修一 (TDK・ド・ブラジル)
 長岡徳弥 (ブラジル・トヨタ自動車)
 佐藤晋弥 (ヤマハ発動機)
 長田俊雄 (ブラジル竹中工務店)
 須賀禎之 (ブラジル三菱商事)
 田中信 (リベルコン・ビジネス)

・ 化学部会長	埋田晴夫（富士写真フィルム）
・ 食品副部会長	西條豊（東食・ド・ブラジル）
・ 総務委員会副委員長	赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）
・ 総務委員会委員	木島恒孝（ユニチカ・ド・ブラジル）
・ 総務委員会委員	石谷二郎（ヤシカ・ド・ブラジル）
・ 総務委員会委員長補佐	藤下温雄（ブラジル三井物産）
・ オブザーバー	田中総領事、小林領事、長谷川副領事

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 工業所有権法
2. カルドーゾ政権工業・技術・貿易政策
3. 改定行政機関入札・競売・公募規則
4. サンパウロ州法第 9363 号
5. ソフトウェア法

機関誌『ブラジル経済情報』（96 年見出し）

1 月 15 日	900 号	諸外国の対伯投資累残957億ドル—国別では米独についで日本は3位
2 月 1 日	901 号	カルドーゾ大統領、抱負を語る、紹介シリーズ—植民農地改革院（INCRA）、ブラジルの主要経済指数
2 月 15 日	902 号	「ブラジル経済95年回顧と96年展望」業種別会長懇談会
3 月 1 日	903 号	明るい見通し、幅広く意見交換—第6回日伯経済合同委員会一、ブラジルの主要経済指数 2月28日、29日サンパウロ市のマクソード・プラザ・ホテルで開催。斎藤裕団長、室伏稔副団長以下日本から50人、ブラジル側100人計150人が参加

3月15日	904号	経団連ミッション、ブラジリアヘー大統領及び農・通信・鉱動大臣と会談、ブラジルの主要経済指数
4月1日	905号	フレイ・チリ大統領来伯—6月にもメルコスールとの自由貿易協定調印、ブラジルの主要経済指数—
4月15日	906号	メルコスール、欧米アジアにとっても重要な存在—訪亜のカルドーゾ大統領が強調、ブラジルの主要経済指数—
5月1日	907号	I M F も懸念、ブラジルの金融不安、ブラジルの主要経済指数
5月15日	908号	各州の中央政界に占める勢力—大臣数トップはサンパウロ州—、ブラジルの主要経済指数
6月1日	909号	政府の重要案件対処進む—パテント法、通信、バネSPA、伯銀増資—、ブラジルの主要経済指数
6月15日	910号	新企画大臣にアントニオ・カンジル氏、J I C A の融資制度について㊤、ブラジルの主要経済指数
7月1日	911号	政府、連邦投資予算を50%カット、J I C A の融資制度について㊦、ブラジルの主要経済指数
7月15日	912号	3年目に入ったレアル・プラン—下支えのある経済成長路線へ—、主張と提言「今後の日系企業の進出のあり方」、ブラジルの主要経済指数
8月1日	913号	諸外国の対伯直接投資—5年間に630億ドル期待—、紹介シリーズ「ブラジル科学技術省」、ブラジルの主要経済指数
8月15日	914号	「ブラジル経済96年上期回顧と下期展望」業種別部会長懇談会、ブラジルの主要経済指数
9月1日	915号	外資による内資企業吸収増—今後の対伯投資増も期待—、主張と提言「企業決算における通貨価値修正廃止の影響とその対応について」
9月15日	916号	ラ米の結束・統合を強化—第10回リオ・グループ首脳会議—、紹介シリーズ「I B A M A ①」、ブラジルの主要経済指数
10月1日	917号	見直し迫られる対米貿易—95年は16億ドルの赤字—紹介シリーズ「I B A M A ②」、ブラジルの主要経済指数
10月15日	918号	伯自動車にスーパー301条を発動—W T O の信用守るため、と米国—、96年度上期のブラジル主要経済指標（数値編）、紹介シリーズ「ブラジル税関を総統括す

11月1日	919号	る機関・税関システム統括総局（COANA）」 ブラジル製造業の生産性推移—91～95は年平均7.3% アップ—、紹介シリーズ「ブラジル政府組織図」、ブ ラジルの主要経済指数
11月15日	920号	行革に前向き—政府、任意退職実施へ—、法律コメン ト「ブラジルにおける仲裁の新展望」、日本とメルコ スールの関係強化について
12月1日	921号	主張と提言「日本の対伯直接投資の動向」
12月15日	922号	投資プロジェクト増える—2000年まで延べ941億ドル —、ブラジルの主要経済指数

—ポルトガル語版機関誌の発行

6月 業種別部会長懇談会特集

10月 業種別部会長懇談会特集

1997年

ブラジル経済は97年第3四半期まで安定成長を続けていたが、第4四半期から一転して景気調整局面を迎えた。97年9月の香港株式暴落を契機に株価が下落したブラジルは、アジア通貨危機の波及を回避すべく、金利引き上げなどの緊急措置を採用したためである。実質GDP成長率は第2四半期の3.9%から第4四半期には2.2%へと低下した。97年通年では3.2%の成長となった。

97年第3四半期までの成長は耐久消費財の生産拡大と農業の記録的豊作に支えられた。耐久消費財では家電販売が低迷したが、自動車、情報・通信機器は前年と同様に販売好調が続いた。消費者物価上昇率は96年の9.1%から97年は4.3%に低下した。また電力、通信などのインフラ部門の民営化が本格化し、ブラジル市場に生産投資ブームが起こった。耐久消費材やインフラ民営化が牽引する内需拡大により、資本財輸入は拡大傾向が続いた。貿易赤字は97年も増加し、経常収支赤字は前年の243億4700万ドルから334億4500万ドル（GDP比4.2%）となった。

香港株式暴落を契機として一時的に外貨が流出し、資本収支の黒字幅は97年第4四半期に前期比87%減少した。総合収支は、97年は78億900万ドルの赤字に転じた。

中央銀行は、10月末に中銀指標金利（TBC）を20.7%から43.4%へ、中銀援助金利（TBAN）を23.6%から46.4%へ各々引き上げるとともに、外貨ローンの最低償還期間を縮小した。また11月に所得税引き上げなど51項目の財政改善措置を発表、97年末までに大半を施行した。アジア通貨・経済危機の波及最小限にとどめられた。

97年には鉱山会社（バーレ・ド・リオ・ドセ）、鉄道1区間、港湾1か所、銀行3行、携帯電話事業5地区、ガス公社2社、輸送会社2社などを民営化し、民営化収入は約140億ドルに達した。

97年の貿易は、輸出が529億8600万ドル（前年比11%増）、輸入が613億5800万ドル（同15.1%増）となり、貿易赤字額は83億7200万ドルと前年比51.1%増加した。貿易赤字拡大の要因は、①内需拡大と関税引き下げによる自動車輸入増、②ブラジルへの進出ラッシュに伴う多国籍企業の資本財や原材料の輸入増、③通信などインフラ部門民営化始動に伴い関連資材の輸入増などが挙げられる。

日本の対伯貿易は、輸出が29億4500万ドル（前年比32.7%増）、輸入が37億6800万ドル（同0.1%増）となり、日本側入超額は8億2300万ドル（同46.8%減）となった。

対伯輸入の伸び悩みは、主力製品である骨なし鶏肉、オレンジジュース、パ

ルプ、鉄鋼半製品などの不振によるものである。

役員名簿（97年12月31日現在）

名誉会頭：伝田耕平
顧問：後藤隆、別役道昌
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：須賀禎之（伯国三菱商事）
副会頭：田中紘一（ブラジル東京三菱銀行）、倉持紀（南米銀行）、埋田晴夫（ブラジル富士写真フィルム）、新名浩（丸紅ブラジル）
専任理事：日比志郎（東洋紡ブラジル）、長岡徳治（ブラジルトヨタ自動車）、南淳一（ブラジル日商岩井）、貞方賢彦（ヤクルト商工）
財務理事：石川清治（YKK ブラジル）、後藤芳信（ブラジル住友商事）、潮隆昭（ブラジルソニー）、太田泰義（伊藤忠ブラジル）

委員会

日伯経済交流促進委員会：田中紘一（ブラジル東京三菱銀行）
労働問題研究委員会：石川清治（YKK ブラジル）
機関誌委員会：後藤芳信（ブラジル住友商事）
相互啓発委員会：新名浩（丸紅ブラジル）
日伯法律委員会：倉持紀（南米銀行）
渉外広報委員会：日比志郎（東洋紡ブラジル）
行動基準環境問題委員会：南淳一（ブラジル日商岩井）
中小企業委員会：貞方賢彦（ヤクルト商工）
総務委員会：埋田晴夫（ブラジル富士写真フィルム）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（リベルコン・ビジネス・M&A）
金融部会：田中紘一（ブラジル東京三菱銀行）
貿易部会：南淳一（ブラジル日商岩井）
機械金属部会：近藤広一（モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア）
電気電子部会：村尾俊夫（古河電工）
化学部会：藤崎誠寿（ダイカラー・ド・ブラジル）
運輸サービス部会：加藤彰（日本航空サンパウロ支店）

繊維部会：日比志郎（東洋紡ブラジル）

食品部会：鍵富信三（味の素インテルアメリカーナ）

建設不動産部会：島本昂治（青木建設サンパウロ事務所）

９７年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカーナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	原大児
3. イグアス・コーヒー	坂口逸平
4. 伊藤忠ブラジル会社	太田泰義
5. インドゥストゥリア日立	児玉岩男
6. N S K ・ ド ・ ブラジル	菅野忠信
7. 大阪商船三井船舶	富屋政紀
8. 鐘紡ブラジル	金久誠
9. キリンビール代表事務所	赤星恒介
10. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	宇佐美達夫
11. サントリー・ド・ブラジル	熊倉俊彦
12. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
13. C B C 重工業	押切フラビオ壮
14. ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	潮隆昭
15. ダイワボウ・ブラジル	木村武
16. 帝人ブラジル輸出入	谷恒彦
17. 東山農産加工（有）	赤星恒介
18. 東芝・ド・ブラジル	森信義
19. 東洋紡ブラジル	日比志郎
20. 南米銀行	倉持紀
21. 南米安田保険	諏方敏明
22. 南米リース	浅川正雄
23. ニチメン・ド・ブラジル	平野嘉伸
24. 日本航空サンパウロ支店	加藤彰
25. 日本郵船サンパウロ駐在員事務所	神武秀和
26. N E C ・ ド ・ ブラジル	江口信彦
27. 伯国三菱商事	須賀禎之
28. パナソニック・ド・ブラジル	喜多川雅彦

29.	富士銀行サンパウロ駐在員事務所	鈴木義也
30.	ブラジル兼松	岸村洋
31.	ブラジル住友銀行	長谷川信久
32.	ブラジル住友商事	後藤芳信
33.	ブラジル東京三菱銀行	田中紘一
34.	ブラジル・トヨタ自動車	長岡徳治
35.	ブラジル日商岩井	南淳一
36.	ブラジル日清紡	永井正明
37.	ブラジル日本通運	小代康孝
38.	ブラジル富士写真フィルム	埋田晴夫
39.	ブラジル三井物産	岡田茂男
40.	古河電気工業	村尾俊夫
41.	丸紅ブラジル	新名浩
42.	丸紅ブラジル不動産	小川逸人
43.	三井肥料	鈴木健男
44.	モト・ホンダ・ダ・アマゾニア	近藤広一
45.	モンテ・デステ電工	岩崎透
46.	ヤクルト商工	貞方賢彦
47.	ヤシカ・ド・ブラジル	石谷二郎
48.	ユニチカ・ド・ブラジル	木嶋恒孝
49.	リベルコン・ビジネス・M&A	田中信
50.	YKK ブラジル	石川清治

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・ コンサルタント・アソシエイト
2.	田中一穂	ブラジル三井海上火災保険
3.	高野哲夫	東芝メジカル・ド・ブラジル

97年度事業報告

総 会

- 1月10日 臨時総会（於・シーザー・パーク・ホテル）
「1997／98年度理事・監事選挙報告、承認」
- 1月24日 臨時総会（於・シーザー・パーク・ホテル）
「1996年度事業・決算報告案承認」

- 「新旧会頭挨拶、常任理事新メンバー紹介」
2月21日 第47回定期総会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1997年度事業報告、収支予算計画案」

常任理事会

- 1月10日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
2月4日 定例会（於・当所会議室）
2月21日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
3月14日 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
4月4日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
5月9日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
6月13日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
7月21日 定例会（於・ホテル・メリア・サンパウロ）
8月22日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
9月12日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
10月22日 定例会（於・ホテル・メリア・サンパウロ）
11月3日 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
12月8日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）

理 事 会

- 1月10日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
「1997／98年度常任理事選挙」実施について
1月24日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
「1997／98年度常任理事選挙」、「名誉会頭及び顧問推薦」、
7月4日 「常任理事欠員補充選挙」

監 事 会

- 5月13日 定例会（於・当所会議室）
「1997年第1四半期会計監査」
8月7日 定例会（於・当所会議室）
「1997年第2四半期会計監査」
11月5日 定例会（於・当所会議室）
「1997年第3四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1月9日 森本副会頭、山内財務理事帰国歓送昼食会（於・マシモ）
1月24日 「1997／98年度常任理事選挙」

- 1 月 28 日 経済広報センター主宰田中直毅氏講演会「日本が取り組む政治・社会・経済改革と国際社会における今後の日本の役割」、及び同氏歓迎夕食会（於・ホテル・インターコンチネンタル、レストラン・サントリー）
- 3 月 6 日 業種別部会長懇談会
「96 年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 埋田晴夫（富士写真フィルム）
 - ・ 紡績・繊維部会長 日比志郎（ブラジル東洋紡）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 田中紘一（ブラジル東京銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長代理 富屋政紀（大阪商船三井船舶）
 - ・ 電気・電子部会長 本郷達郎（NEC・ド・ブラジル）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 長岡徳弥（ブラジル・トヨタ自動車）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼副部会長 佐藤晋弥（ヤマハ発動機）
 - ・ 建設・不動産部会長 藤田正彦（ブラジル戸田建設）
 - ・ 貿易部会長 南淳一（ブラジル日商岩井）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（リベルコン・ビジネス）
 - ・ 化学部会長 藤崎誠寿（ダイカラー・ド・ブラジル）
 - ・ 食品部会長代理 西條豊（東食・ド・ブラジル）
 - ・ 総務委員会委員 赤嶺尚由（ソール・ナッセンテ人材銀行）
 - ・ 総務委員会委員 木島恒孝（ユニチカ・ド・ブラジル）
 - ・ 総務委員会委員 石谷二郎（ヤシカ・ド・ブラジル）
 - ・ 総務委員会委員 赤星恒孝（東山農産加工）

	・ オブザーバー	阿部領事
3月24日	経団連トップミッションとの懇談会、夕食会（於・シーザー・パーク・ホテル）	
4月1日	第9回全伯日系商工会議所代表者会議（於・当所会議室） テーマ：「平成九年度通産大臣による海外経済協力貢献者表彰 被推薦者選考その他」	
5月19日	堀村隆彦総領事歓迎昼食会（於・レストラン・マシモ）	
6月5日	天皇皇后両陛下歓迎式典（於・イビラプエラ室内体育館）	
6月18日	ブラジル日本移民89周年祭記念行事（於・イビラプエラ公園 内慰霊碑、文協、サンゴンサロ教会）	
6月20日	筒井副会頭、藤田専任理事帰国歓送昼食会（於・レストラン・ ラ・コック・ハルディ）	
7月4日	「常任理事欠員補充選挙」 ——潮隆昭氏、太田泰義氏の両氏を財務理事に選出	
7月16日	岡野裕労働大臣主催「懇親夕食会」（於・レストラン・サント リー）	
8月5日	業種別部会長懇談会 「97年上期回顧と下期展望」	
	・ 司会 総務委員会委員長	埋田晴夫（富士写真フイルム）
	・ 紡績・繊維部会長	日比志郎（ブラジル東洋紡）
	・ 金融・保険、証券部会長	田中紘一（ブラジル東京銀行）
	・ 運輸・サービス部会長代理	木本氏将（KDDサンパウロ駐在員事務所）
	・ 電気・電子部会長	村尾俊夫（古河電気工業）
	・ 機械・金属・鉄鋼部会長	近藤広一（モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア）
	・ 建設・不動産部会長	藤田正彦（ブラジル戸田建設）
	・ 貿易部会長	南淳一（ブラジル日商岩井）
	・ コンサルタント部会長	田中信（リベルコン・ビジネス）
	・ 化学部会長代理	本間実（播磨・ド・ブラ

・ 食品部会長

ジル)

鍵富信三(味の素インター
アメリカーナ)

・ 総務委員会副委員長

赤嶺尚由

・ 総務委員会副委員長

潮隆昭

・ 総務委員会委員

木島恒孝

・ オブザーバー

堀村総領事、渡辺領
事、長谷川領事

9月10日 平成9年度官民合同会議(於・ブラジリア、マンハッタン・フ
ラット・ホテル)

加盟団体行事への参加

1. 天皇皇后両陛下来伯歓迎準備委員会
総務委員会(4回)、財務委員会(1回)
2. サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会
定例会議(5月26日、於・サンパウロ商業協会)
3. 外資企業グループ ー 担当・筒井常任理事
会議(6月10日、於・アメリカ商工会議所) ー 田中副会頭出席

委員会・部会の主な活動

一 行動基準環境問題委員会

12月4日 講演会(於・当所会議室)

テーマ:「ブラジルにおける新事業展開に対する環境面での
法規」

講演者: ジョゼ・カルロス・デリジオ(環境問題コンサルタ
ント)

一 相互啓発委員会

8月14~17日 北東伯産業視察旅行

訪問先: セアラ州知事、セアラ州商工観光長官、北
東伯銀行、YKK 北東伯商工、北東伯ビクーニャ
他

一 総務委員会

3月7日 安全対策に関する講演会(於・当所会議室)

テーマ:「在留邦人等の安全対策について」

講演者：柊本盛治（株式会社 JSS 危機管理コンサルティング事業部門長）

- 11 月 20 日 安全対策に関する講演会（於・当所会議室）
テーマ：「軍警と安全対策について－最近の犯罪発生傾向と防犯対策」
講演者：パウロ・レージス・サルガード（サンパウロ軍警察広報渉外担当中佐）

－中小企業委員会

- 6 月 10 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「私の歩んだ道」
講演者：利根川進（ノーベル医学賞受賞者）
11 月 18 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「環境問題について」
講演者：堀村隆彦（在サンパウロ日本国総領事）

－渉外広報委員会

- 1 月 29 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「日本からの投資誘致」
講演者：エリアス・アンツーネス（企業コンサルタント）
4 月 22 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「戦後の日伯関係と日本からの投資」
講演者：横田パウロ（元ブラジル中央銀行理事）
5 月 20 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「企業とマスコミの接触のあり方」
講演者：アントニーニョ・ペレイラ・ロッシーニ（コラムニスト、マーケティング専門家）
7 月 15 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「マスコミとの交流の必要性」
講演者：イザルコ・サンデンベルグ（ベージャ誌国際政治部副部長）
8 月 20 日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「21 世紀の東南アジア」
講演者：ジルソン・シュワルツ（サンパウロ大学教授）
9 月 8 日 企業見学会
見学先：「フォーリャ・デ・サンパウロ新聞社」
10 月 21 日 講演会（於・当所会議室）

- 11月25日
 テーマ：「インターネットについて」
 講演者：カイオ・コスタ（ユニベルソ・オンライン社）
 講演会（於・当所会議室）
 テーマ：「東アジア地域経済と中国」
 講演者：アマウリ・ポルト・デ・オリベイラ（サンパウロ
 大学国際関係研究所所員）

ーコンサルタント部会

- 9月16日
 講演会（於・当所会議室）
 テーマ：「メルコスールの現状と見通し」
 講演者：野間清尚（日本経済新聞サンパウロ支局長）

ーJBネットチーム

- 5月23日
 初会合「当所情報発信機能強化のためのインターネット上
 ホームページ開設準備」（於・当所会議室）（代表・ブラ
 ジル三菱商事 田中氏） ※同年、4度の会合を実施

定例昼食会

- 1月10日
 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 2月21日
 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
 ゲスト：宇佐美鍊（元ブラジル東京銀行頭取）
 3月14日
 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
 テーマ：「ブラジルの政治経済情勢と今後の見通し」
 講演者：田中信（リベルコン・ビジネス・コンサルタント
 事務所代表）
 4月4日
 定例会（於・ホテル・トランスアメリカ）
 テーマ：「今後のブラジル経済政策」
 講演者：ジョゼ・ロベルト・メンドンサ・デ・バーロス（ブ
 ラジル大蔵省経済政策局長）
 5月9日
 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
 テーマ：「ブラジル農業の現状と今後の見通し」
 講演者：アルリンド・ポルト（ブラジル国農務大臣）
 6月13日
 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
 テーマ：「日本の対中南米政策」
 講演者：堀村隆彦（在サンパウロ日本国総領事）
 7月21日
 定例会（於・ホテル・メリア・サンパウロ）

- テーマ:「経済グローバリゼーション下におけるブラジルとサンパウロ州」
講演者: エメルソン・カパス (サンパウロ州科学技術経済開発局長官)
- 8月22日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
テーマ:「ブラジル経済について」
講演者: フランシスコ・ドルネーレス (ブラジル国商工観光大臣)
- 9月12日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
テーマ:「BNDES と新しい経済状況」
講演者: ジョゼ・ピオ・ボルジェス (BNDES—社会経済開発銀行副総裁)
- 10月22日 定例会 (於・ホテル・メリア・サンパウロ)
- 11月3日 定例会 (於・ホテル・インター・コンチネンタル)
テーマ:「国会内から見た三大改革」
講演者: アントニオ上野 (パラナ州選出ブラジル国連邦下院議員)
- 12月8日 定例会 (於・シーザー・パーク・ホテル)
テーマ:「ブラジルの教育について」
講演者: マリア・エレナ・ギマランエス・デ・カストロ女史 (ブラジル国立教育研究所所長)

1997年

経済資料・文献刊行 (委託販売含む)

1. 電力事業管理法 (Lei 9427)
2. 所得税改正法 (Lei 9430)
3. ブラジル経済データ 97—1
4. ブラジル株式会社法 (Lei 6404 15/12/76)
5. ブラジル会社年報
6. ブラジルの税制体系

機関誌『ブラジル経済情報』(97年見出し)

- 1月15日 923号 伝田会頭の年頭ごあいさつ
2月1日 924号 政府、貿易赤字対策と取り組む

2月15日	925号	米伯間の意見対立くつきり 市場開放 FTAA 創設 ITA 加入
3月1日	926号	ブラジル日本商工会議所 1997 年事業方針
3月15日	927号	業種別部会長懇談会特集
4月1日	928号	メルコスールめぐり米仏が綱引き 米形勢不利、ク大 統領訪伯 10 月に延期
4月15日	929号	国際化時代迎えた電気通信業界
5月1日	930号	米州自由貿易圏設立準備とメルコスールがらみの動 き
5月15日	931号	バーレ民営化で業界に変革の兆し
6月1日	932号	第9回ブラジル全国フォーラム 今後の経済政策向け 提言
6月15日	933号	大統領再選法案成立 改憲で気になる PFL、PSDB の 見解差
7月1日	934号	レアル・プラン、経済安定で自信 ローヨラ中銀総裁、 銀行改革示唆
7月15日	935号	鉱工業生産 1～5 月に 5.7%アップ 貿易は上期に 55 億ドルの赤字
8月1日	936号	政府公約の経済改革法案成立
8月15日	937号	業種別部会長懇談会特集
9月1日	938号	ドルネイレス商工観光大臣講演会 ブラジル経済の 現状・見通しを聞く
9月15日	939号	米州自由貿易地帯構想 米、伯、亜の利害対立表面化
10月1日	940号	直接投資受入れ 途上諸国群中で伯は 2 位
10月15日	941号	クリントン、カルドーズ会談 米州自由貿易圏設立に 賛成 だがメルコスール固めが先決
11月1日	942号	通貨不安、世界同時株安、金融界も激動
11月15日	943号	通貨危機 緊急措置令で乗り切れるか
12月1日	944号	金融サービス自由化でブラジルの提案を待つ ルジ エーロ WTO 事務総長
12月15日	945号	自動車、電気電子、労使間で時短、賃金カット交渉

ーポルトガル語版機関誌の発刊

6月 業種別部会長懇談会特集

12月 業種別部会長懇談会特集

1998年

1998年は8月のロシア危機の影響でブラジルからも外貨の流出が加速、政府が高金利政策を取ったことにより、下半期は景気が急速に悪化した。こうした事態を受けて、政府は輸出促進による貿易収支の改善を目指し、輸出増強のための枠組みや、手続き簡素化などの輸出促進措置を98年8月以降立て続けに発表した。代表的なものは、2002年までの5年間にブラジルの輸出を1000億ドルまで引き上げることとし、その達成のための枠組みとして「輸出特別計画（PEE）」を策定。輸出産業56部門の中で代表者を任命し、担当部門別に輸出を阻害している要因の究明を行わせるものであった。

98年は輸出が511億2000万ドル（前年比3.5%減）、輸入は575億2900万ドル（前年比6.2%減）で、貿易収支は64億900万ドルの赤字となった。

98年の輸出をみると、航空機（70.2%増）、オレンジジュース（25.8%増）、乗用車（10.7%増）など一部の消費財の輸出が伸びたものの、一次産品の国際価格の低下による不振が大きく影響した。例えば大豆は生産量が前年比11.2%増加したにもかかわらず、輸出額は前年比11.3%減となった。

98年の輸入を財別でみると、工業生産の低迷と原油価格の下落を反映し、原油・同製品の輸入が前年比30.1%減と大きく落ち込んだ。機械、電気機器については、家電などの需要が低迷している影響を受けて前年比6.5%の減少となった。

98年のブラジルの対メルコスール貿易は、輸出が88億7700万ドルと97年に比較して1.8%減、輸入が94億2500万ドルと2%減となった。

98年7月に通信公社テレブラスの民営化が行なわれた。

日本の98年のブラジル向け輸出は、25億9979万ドルで前年比11.7%減、輸入額は28億9012万ドルと23.3%減で日本側入超額は2億9033万ドルとなった。他方、ブラジル側統計によると、ブラジル側から見た貿易相手国としての日本のプレゼンスは、輸出で97年の5.8%から98年は4.3%、輸入は同5.96%から同5.75%と若干低下している。輸入の落ち込んだ理由は、一次産品の国際価格が下落した結果による。

98年の日本からのブラジル向け輸出は電気機械や輸送機械、繊維製品などが全体的に落ち込んでいるものの、自動車・バイク部品などは大幅に伸びた。特に自動車部品については、GMやフォードへの日本製部品の納入が増加していることが要因である。

また、98年7月に通信公社テレブラスの民営化に伴い、通信関連部品の輸出は大幅に伸びた。同関連部品のブラジル国内の産業集積がほとんどないためである。

役員名簿（98年12月31日現在）

名誉会頭：伝田耕平
顧問：後藤隆、別役道昌
顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭：新名浩（丸紅ブラジル）
副会頭：埋田晴夫（ブラジル富士写真フィルム）、貞方賢彦（ヤクルト商工）
専任理事：石川清治（YKK ブラジル）、後藤芳信（ブラジル住友商事）、潮隆
昭（ブラジルソニー）、太田泰義（伊藤忠ブラジル）、
財務理事：近藤広一（ブラジル・ホンダ）、金久誠（ブラジル鐘紡）、岡田茂男
（ブラジル三井物産）、長谷川信久（ブラジル住友銀行）

委員会

日伯経済交流促進委員会：太田泰義（伊藤忠ブラジル）
労働問題研究委員会：石川清治（YKK ブラジル）
機関誌委員会：後藤芳信（ブラジル住友商事）
相互啓発委員会：原大児（アメリカ・ラチーナ保険）
日伯法律委員会：押切フラビオ壮（CBC 重工業）
渉外広報委員会：金久誠（ブラジル鐘紡）
行動基準環境問題委員会：永井正明（ブラジル日清紡、副委員長※委員長不在）
中小企業委員会：貞方賢彦（ヤクルト商工）
総務委員会：埋田晴夫（ブラジル富士写真フィルム）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（リベルコン・ビジネス・M&A）
金融部会：長谷川信久（ブラジル住友銀行）
貿易部会：岡田茂男（ブラジル三井物産、副委員長 ※委員長不在）
機械金属部会：近藤広一（モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア）
電気電子部会：村尾俊夫（古河電工）
化学部会：藤崎誠寿（ダイカラー・ド・ブラジル）
運輸サービス部会：加藤彰（日本航空サンパウロ支店）
繊維部会：金久誠（ブラジル鐘紡）
食品部会：鍵富信三（味の素インテルアメリカーナ）

建設不動産部会：島本昂治（青木建設サンパウロ事務所）

98年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカーナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	原大児
3. イグアス・コーヒー	坂口逸平
4. 伊藤忠ブラジル会社	太田泰義
5. インドゥストゥリア日立	出石峯敏
6. N S K・ド・ブラジル	菅野忠信
7. 大阪商船三井船舶	荻野敏久
8. 鐘紡ブラジル	金久誠
9. キリンビール代表事務所	渡辺英明
10. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	宇佐美達夫
11. サントリー・ド・ブラジル	玉木牧人
12. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
13. C B C重工業	押切フラビオ壮
14. ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
15. ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	潮隆昭
16. ダイワボウ・ブラジル	木村武
17. 東山農産加工	渡辺英明
18. 東芝・ド・ブラジル	和田隆司
19. 東洋紡ブラジル	名取力
20. 南米銀行	三宅敦志
21. ニチメン・ド・ブラジル	平野嘉伸
22. 日本航空サンパウロ支店	加藤彰
23. 日本郵船サンパウロ駐在員事務所	神武秀和
24. N E C・ド・ブラジル	江口信彦
25. 伯国三菱商事	今宮舜一
26. パナソニック・ド・ブラジル	喜多川雅彦
27. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	佐野一雄
28. ブラジル兼松	上野竜也
29. ブラジル住友銀行	長谷川信久
30. ブラジル住友商事	後藤芳信
31. ブラジル東京三菱銀行	三好幸彦

32.	ブラジル・トヨタ自動車	宇治嘉造
33.	ブラジル日商岩井	池川博富
34.	ブラジル日清紡	永井正明
35.	ブラジル日本通運	小代康孝
36.	ブラジル富士写真フィルム	埋田晴夫
37.	ブラジル三井物産	岡田茂男
38.	古河電気工業	村尾俊夫
39.	丸紅ブラジル	新名浩
40.	丸紅ブラジル不動産	小川逸人
41.	三井肥料	鈴木健男
42.	モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア	近藤広一
43.	モンテ・デステ電工	岩崎透
44.	ヤクルト商工	貞方賢彦
45.	ヤシカ・ド・ブラジル	河村幾之助
46.	安田保険	諏方敏明
47.	ヤンマー・ド・ブラジル	田中亨
48.	ユニチカ・ド・ブラジル	木嶋恒孝
49.	リベルコン・ビジネス・M&A	田中信
50.	YKK ブラジル	石川清治

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサルタント・アソシエイト
2.	高野哲夫	東芝メジカル・ド・ブラジル
3.	中村敏幸	アーサー・アンダーセン会計事務所

9 8 年度事業報告

総 会

2 月 13 日	第 48 回定期総会（於・ブッフエ・コロニアル） 「1997 年度事業・決算報告案承認」 「1998 年度事業報告、収支予算計画案」
9 月 11 日	臨時総会（於・ブッフエ・コロニアル） 「定款第三十二条（理事、常任理事と監事の任期）、常任理事選挙規則（附則）の改定案承認」
11 月 13 日	臨時総会（於・ホテル・グラン・メリア・サンパウロ） 「1999／2000 年度理事・監事選挙結果承認」

常任理事会

- 1月9日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2月13日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 3月13日 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
- 4月17日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 5月15日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 6月19日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 7月17日 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
- 8月3日 臨時会（於・当所会議室）
- 8月21日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 9月11日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 10月9日 定例会（於・ホテル・トランスアメリカ）
- 11月13日 定例会（於・ホテル・グラン・メリア・サンパウロ）
- 12月16日 臨時会（於・当所会議室）

理 事 会

- 2月13日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1997年度事業・決算報告案承認」、「1998年度事業報告、収支
予算計画案承認」
- 4月17日 臨時会（於・シーザー・パーク・ホテル）
「常任理事欠員補充選挙」
- 9月4日 臨時会（於・当所会議室）
「定款及び常任理事選挙規則附則改定案承認」
- 12月2日 臨時会（於・当所会議室）
「1999年度常任理事選挙」、「選挙結果承認」、「名誉会頭・顧問
選出」

監 事 会

- 2月4日 定例会（於・当所会議室）
「1997年第4四半期会計監査」
- 6月3日 定例会（於・当所会議室）
「1998年第1四半期会計監査」
- 8月18日 定例会（於・当所会議室）
「1998年第2四半期会計監査」
- 12月1日 定例会（於・当所会議室）
「1998年第3四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1月6日 1998年新年祝賀会（於・文協記念講堂、日系コロニア4団体共催）
- 2月5日 業種別部会長懇談会
「97年回顧と98年展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 埋田晴夫（富士写真フィルム）
 - ・ 紡績・繊維部会長 日比志郎（ブラジル東洋紡）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 田中紘一（ブラジル東京銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 加藤彰（日本航空サンパウロ支店）
 - ・ 電気・電子部会長 村尾俊夫（古河電気工業）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 近藤広一（モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア）
 - ・ 建設・不動産部会長 島本昂治（青木建設サンパウロ務所）
 - ・ 貿易部会長 南淳一（ブラジル日商岩井）
 - ・ コンサルタント部会長 田中信（リベルコン・ビジネス）
 - ・ 化学部会長 藤崎誠寿（ダイカラー・ド・ブラジル）
 - ・ 食品部会長 鍵富信三（味の素インターアメリカーナ）
 - ・ 総務委員会副委員長 赤嶺尚由
 - ・ 総務委員会委員 木島恒孝、石谷二郎、赤星恒介、小川逸人
 - ・ オブザーバー 堀村総領事、渡辺領事、長谷川領事
- 2月17日 日比、長岡両専任理事帰国歓送昼食会（於・レストラン・アンチケリオス）
- 4月13日 第10回全伯日系商工会議所代表者会議（於・クリチーバ市パラナ日系商工会議所）
テーマ：「平成10年度通産大臣による海外経済協力貢献者表彰

被推薦者選考その他」

- 5 月 5～8 日 第 7 回日伯経済合同委員会（於・ルネッサンス・サンパウロ、及びブラジル）
- 5 月 15 日 会頭辞任に伴う補充
——新名浩氏を新会頭に選出
- 5 月 15 日 1998 年度常任理事欠員補充選挙
——南淳一氏を新副会頭に選出
——潮隆昭氏を新専任理事に選出
——岡田茂男氏を新財務理事に選出
- 5 月 19 日 堀村隆彦総領事歓迎昼食会（於・レストラン・マシモ）
- 6 月 5 日 「天皇皇后両陛下歓迎式典」（於・イビラプエラ室内体育館）
- 6 月 21 日 ブラジル日本移民 90 周年祭記念式典（於・アニャンビ国際会議場）
- 6 月 22 日 当所常任理事による来伯日本国会議員 3 名歓迎昼食会（於・レストラン・マシモ）
- 6 月 30 日 田中副会頭帰国歓送昼食会（於・ロアンネ・レストラン）
- 7 月 17 日 副会頭辞任に伴う補充
——貞方賢彦氏を新副会頭に選出
——太田泰義氏を新専任理事に選出
——長谷川信久氏を新財務理事に選出
- 7 月 20 日 田中前副会頭夫妻帰国歓送カクテルパーティー
- 8 月 4 日 業種別部会長懇談会
「98 年上期回顧と下期展望」
- ・ 司会 総務委員会委員長 埋田晴夫（富士写真フィルム）
 - ・ 紡績・繊維部会長 金久誠（鐘紡ブラジル）
 - ・ 金融・保険、証券部会長 長谷川信久（ブラジル住友銀行）
 - ・ 運輸・サービス部会長 加藤彰（日本航空サンパウロ支店）
 - ・ 電気・電子部会長 村尾俊夫（古河電気工業）
 - ・ 機械・金属・鉄鋼部会長 近藤広一（モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア）
 - ・ 建設・不動産部会長 島本昂治（青木建設サンパウロ事務所）
 - ・ 貿易部会長 南淳一（ブラジル日商岩井）

- ・ コンサルタント部会長 田中信（リベルコン・ビジネス）
- ・ 化学部会長 藤崎誠寿（ダイカラー・ド・ブラジル）
- ・ 食品副部会長 渡辺英明（東山農産加工）
- ・ 総務委員会副委員長 赤嶺尚由
- ・ 総務委員会委員 木島恒孝、石谷二郎、出石峯敏
- ・ オブザーバー 堀村総領事、渡辺領事、長谷川領事

- 10月29日 平成10年度官民合同会議（於・サンパウロ総領事館）
- 11月13日 1999／2000年度理事・監事選挙
- 11月25日 南副会頭帰国歓送昼食会（於・レストラン・ル・コック・ハーディー）
- 12月2日 1999年度常任理事選挙

加盟団体行事への参加

1. 天皇后両陛下来伯歓迎準備委員会
総務委員会（年4回実施）
2. サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会
定例会議（年4回実施）
3. 外資企業グループ ― 担当・筒井常任理事
会議（4回）

会員企業行事

- 2月12日 アメリカ・ラチーナ保険会社創立 110 周年記念パーティー（於・ブッフエ・ローザ・ロザルン）
- 7月18日 IHI サンパウロ駐在員事務所開設記念パーティー（於・ナショナルクラブ）
- 9月18日 ブラジル・トヨタ自動車インディアツバ工場完成式（於・同工場）
- 11月6日 ブラジルヤクルト創立 30 周年記念パーティー（於・ホテル・シェラトン・モファレジ）
- 12月8日 ブラジル住友銀行創立 40 周年記念パーティー（於・マクソード・プラザ・ホテル）

委員会・部会の主な活動

一相互啓発委員会

- 3月5～7日 セラード産業視察旅行
訪問先：カンポ社事業地、パラカツ市文化会館、RPM 社、
クリスタリーナ事業地ほか
- 11月4～8日 メルコスール産業視察ツアー
訪問先：アルゼンチントヨタ社、在亜日本商工会議所、ビー
ニャ・デル・マール、バルパライソ、国営コデ
ルコ銅鉱山会社エル・テニエンテ鉱山、コンチ
ャ・イ・トーロ社ワイン醸造工場ほか

一総務委員会

- 11月27日 安全対策に関する講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「誘拐防犯対策について」
講演者：佐伯武（株式会社 JSS 取締役・危機管理コンサルタ
ント）

一中小企業委員会

- 3月4日 講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「野球と企業経営－97 ヤクルトスワローズ優勝への
道」
講演者：丸山完二（ヤクルトスワローズ球団編成マネー
ジャー）

一渉外広報委員会

- 7月27日 時局経済講演会（於・シティーバンク講堂）
講演者：カルロス・レオ・フェレイラ（サンパウロカトリ
ック大学教授）
- 8月12日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「ブラジル陸軍の現状」
講演者：小原アキラ少将（陸軍タウバテ方面空挺団司令官）
- 9月23日 企業見学会
訪問先：ホンダ自動車（スマレー市）、東山農場（カンピー
ナス市）
- 10月14日 講演会（於・当所会議室）

テーマ：「スコッチ・ウイスキーについて」

講演者：クライベ・ビーディス（ブラジルウイスキー収集家協会会長）

ーJBネットチーム

- ・ 年に3回の全体会合を実施した

定例昼食会

1月9日	新年会（於・シーザー・パーク・ホテル） テーマ：「私とブラジルとの関わり」 講演者：塚田千裕（在ブラジル日本国特命全権大使）
2月13日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル） ゲスト：堀村隆彦（在サンパウロ日本国総領事）
3月13日	定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル） テーマ：「大統領府戦略庁の役割ーブラジルの長期計画における立案を中心として」 講演者：エドムンド・ススム・フジタ（ブラジル国外務省公使）
4月17日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル） テーマ：「最近のブラジル政治経済状況」 講演者：田中信（リベルコン・ビジネス・コンサルタント事務所代表）
5月15日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル） ゲスト：堀村隆彦（在サンパウロ日本国総領事）
6月19日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
7月17日	定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
8月21日	定例会（於・シーザー・パーク・ホテル） テーマ：「最近の経済一般情勢」 講演者：アントニオ・デルフィン・ネット（連邦下院議員）
9月11日	定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
10月9日	定例会（於・ホテル・トランスアメリカ） テーマ：「行政改革」 講演者：クラウディア・マリア・コスティン行政改革相
11月13日	定例会（於・ホテル・グラン・メリア・サンパウロ） テーマ：「ブラジル経済の現状と見通し」 講演者：アフォンソ・パストーレ（元ブラジル中央銀行総

裁)

12月10日 忘年会 (於・ホテル・シェラトン・モファレジ)

1998年

経済資料・文献刊行 (委託販売含む)

1. ブラジル会社年報

機関誌『ブラジル経済情報』(98年見出し)

1月15日	946号	外準は危機前レベルに回復 輸出競争力は十分保てるーロッセ中銀金融政策局長
2月1日	947号	政府、レアル防衛に全力投球
2月15日	948号	業種別部会長懇談会特集
3月1日	949号	米州自由貿易地帯設立準備進み 34ヶ国次官級コストリカ会議終わる
3月15日	950号	穀倉地帯変貌のセラード視察
4月1日	951号	様変わりの米州自由貿易圏準備会議 米の態度軟化、伯は2005年以降は憂慮
4月15日	952号	内閣改造で7大臣交替ー社会、運輸部門を重視ー
5月1日	953号	EDR発行、NASDAQ、NYSE上陸 外資の脚光浴びるブラジル企業界
5月15日	954号	第7回日伯経済合同委員会開催 経済交流強化の必要性改めて認識
6月1日	955号	会議所ロビー活動の進展
6月15日	956号	クリントン×カルドーズ、キャンプ・デービッド会談
7月1日	957号	経済界に波紋巻き起こすフランコ中銀総裁の“為替発言”
7月15日	958号	ブラジルの対外債務、そのコスト
8月1日	959号	世界経済成長鈍化 中南米各国にも影響
8月15日	960号	業種別部会長懇談会特集
9月1日	961号	ブラジルの電気通信業界地図変わる 気を吐いたイベリア系オペレーターの背景
9月15日	962号	ブラジル、為替投機戦に巻き込まれ株価乱高下、外貨準備大幅減少
10月1日	963号	外資流失止まず、IMFの支援を求めるか

10月15日	964号	IMF の対伯支援骨格煮詰まる 伯の前途に厳しい構造改革がまつ
11月1日	965号	IMF 借款 米、IMF の対伯支援を後押し 在伯米企業の危機感も作用
11月15日	966号	政府、連邦統合予算修正案を再提出 99 年度－163 億レアルの黒字を見込む
12月1日	967号	財政引き締め暫定措置令の国会承認 政府に 100 億ドル節約のめど立つ
12月15日	968号	IMF 資金引き出しに影響か 経済調整暫定令の下院否決

ーポルトガル語版機関誌の発刊

- 6月 業種別部会長懇談会特集
- 11月 業種別部会長懇談会特集

1999年

1999年は年初に通貨危機が発生したが、経済はプラス成長を達成した。為替の切り下げで輸入は大幅に減少したが、輸出の増加が現れたのは、2000年に入ってからであった。また、航空機、自動車やIT関連機器の輸出が伸びるなど輸出の構成に変化が現れた。メルコスール内でアルゼンチンとの間で貿易摩擦が発生したが、両国はメルコスール重視の姿勢を貫き、最終的には統合強化の方向性を打ち出した。

実質GDP成長率は1.01%のプラスを遂げた。工業部門の成長がマイナス1.69%であったが、農牧業部門が記録的豊作のため9.49%と高成長となった。サービス部門は1.33%成長であった。

99年1月、ブラジルは一定の変動枠内に為替を調整するバンド制から変動相場制に移行した。為替は1ドル=1.21レアルから2.16レアルまで下落、インフレ再熱が懸念されたが、2月にブラガ中銀総裁が就任し、レアル下落防止のため年率45%の高金利政策を採用。しかしその後、金利は3月末移行段階的に引き下げられ、9月には19%まで戻した。これを受け、消費も回復に向かった。懸念されたインフレ再熱は起こらず、年間インフレ率は8.9%と低率に抑えられた。またレアル安で輸入品が割高となったことで、消費財を中心とする国産品の販売が伸び、これが工業生産を活性化させた。

輸出は、480億1100万ドルで前年比6.1%減、輸入は492億1000万ドルで14.8%減と輸出入とも減少。一次産品の国際価格低迷や南米主要国の景気低迷などから、レアル切り下げにより期待された輸出拡大は起こらなかった。貿易収支の赤字幅は98年の65億9000万ドルから11億9900万ドルへと大幅に縮小した。

ブラジルの一方的な為替切り下げにより大きな打撃を受けた隣国アルゼンチンは、99年7月頃より繊維製品へのセーフガード発効など、ブラジルの輸出品に対し次々と関税障壁を設け始めた。これに対し、ブラジル側もアルゼンチン側の乳製品に対する輸入許可書所得義務付けや、400品目につき従来与えていた通関優遇措置（24時間以内に輸入許可書を自動的に発行）を取り消すなどの報復措置を取るなど、メルコスール始まって以来、加盟国間で本格的な通商摩擦が展開された。

しかし、ブラジルのメルコスール重視の姿勢には変わりなく、99年末で執行する予定であったアルゼンチンとの自動車協定に関し、延長に向けた協議も同時に行なった。その結果、2000年3月、アルゼンチンとの自動車協定を2005年まで延長することで合意に達した。

その一方でブラジルは、99年7月にアンデス共同体との特惠関税協定を締

結したほか、11月からはメキシコとも同協定に関する交渉を開始、2000年4月には自動車について一応の合意を得るなど、メルコスール域外とも積極交流の姿勢をみせた。

日本のブラジル向け輸出は20億5100万ドルで前年比21.1%減、輸入額は26億7500万ドルと前年比7.4%減で入超額は6億2400万ドルとなった。99年はレアル切り下げにより価格競争力の増した鶏肉、オレンジ果汁、木材などの日本のブラジルからの輸入は伸びたほか、アルミ地銀も年後半から急激に増加した。

役員名簿（99年12月31日現在）

顧問 問：後藤隆、伝田耕平

顧問弁護士：佐伯ジョルジ

常任理事会

会 頭：三好幸彦（東京三菱銀行）

副 会 頭：太田泰義（伊藤忠）、貞方賢彦（ヤクルト）、近藤広一（ホンダ）、
岡田茂男（三井物産）

専任理事：江口信彦（日本電気）、鍵富信三（味の素）、潮隆昭（ソニー）、
田中信（リベルコン）、

財務理事：今宮舜一（三菱商事）、岡田正躬（富士写真フィルム）、水吉徹夫（日本貿易振興会）、名取力（東洋紡）

委員会

日伯経済交流促進委員会：太田泰義（伊藤忠ブラジル）

労働問題研究委員会：潮隆昭（ソニー）

機関誌委員会：鍵富信三（味の素）

相互啓発委員会：岡田正躬（富士写真フィルム）

日伯法律委員会：田中信（リベルコン）

渉外広報委員会：近藤広一（ホンダ）

総務委員会：岡田茂男（三井物産）

業種別部会

コンサルタント部会：田中信（リベルコン）

金融部会：山浦秀雄（日本興業銀行サンパウロ駐在員事務所）

貿易部会：今宮舜一（三菱商事）

機械金属部会：宇治嘉造（トヨタ自動車）
電気電子部会：江口信彦（NEC）
化学部会：矢島章（出光石油化学）
運輸サービス部会：加藤彰（日本航空サンパウロ支店）
繊維部会：木村武（大和紡）
食品部会：上原清助（日清味の素）
建設不動産部会：林恒彦（戸田建設）

９９年度理事会及び監事会

理 事

1. 味の素インテルアメリカーナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	原大児
3. スダメリス銀行	清水オリジオきよし
4. ブラジル東京三菱銀行	三好幸彦
5. ブラジル住友銀行	村岡真理
6. C B C 重工業	押切フラビオ壮
7. イグアス・コーヒー	坂口逸平
8. ブラジル清水建設	鳥羽廣明
9. ダイワボウ・ブラジル	木村武
10. 鐘紡ブラジル	渡辺英明
11. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	佐野一雄
12. ブラジル富士写真フィルム	岡田正躬
13. 古河電気工業	村尾俊夫
14. 東山農産加工	渡辺英明
15. インドゥストゥリア日立	出石峯敏
16. 石川島播磨重工業	栗原猛
17. 伊藤忠ブラジル会社	太田泰義
18. 日本航空サンパウロ支店	加藤彰
19. ジェトロ	水吉徹夫
20. キリンビール代表事務所	渡辺英明
21. ブラジル・コマツ	川辺淳郎
22. キョーセラ・ヤシカ・ド・ブラジル	河村幾之助
23. リベルコン・ビジネス	田中信
24. 丸紅ブラジル	能澤信一
25. 丸紅ブラジル不動産	高橋直之

26.	伯国三菱商事	今宮舜一
27.	ブラジル三井物産	岡田茂男
28.	三井海上共栄火災保険	大槻芳行
29.	大阪商船三井船舶	荻野敏久
30.	モト・ホンダ・ダ・アマゾン	近藤広一
31.	モンテ・デステ電気	岩崎透
32.	NEC・ド・ブラジル	江口信彦
33.	ニチメン・ド・ブラジル	平野嘉伸
34.	ブラジル日本通運	小代康孝
35.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	川手純一
36.	ブラジル日清紡	林彰一
37.	ブラジル日商岩井	池川博富
38.	NSK・ド・ブラジル	菅野忠信
39.	パナソニック・ド・ブラジル	喜多川雅彦
40.	ソニー・コメルシオ・エ・インドゥストリア	潮隆昭
41.	ブラジル住友商事	後藤芳信
42.	サントリー・ド・ブラジル	玉木牧人
43.	さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	宇佐美達夫
44.	三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
45.	東洋紡ブラジル	名取力
46.	ブラジル・トヨタ自動車	宇治嘉造
47.	ユニチカ・ド・ブラジル	木口晃男
48.	ヤクルト商工	貞方賢彦
49.	安田保険	諏方敏明
50.	YKK ブラジル	石川清治

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサル タント・アソシエイト
2.	高野哲夫	東芝メディカル
3.	中村敏幸	アーサー・アンダーセン

99年度事業報告

総 会

3月12日 第49回定期総会（於・シーザー・パーク・ホテル）

「1998 年度事業・決算報告案承認」

「1999 年度事業、収支予算計画案」

常任理事会

- 1 月 8 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 2 月 19 日 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
- 3 月 12 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 4 月 9 日 定例会（於・ホテル・シェラトン・モファレジ）
- 5 月 14 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
- 6 月 11 日 定例会（於・ホテル・グランメリア・サンパウロ）
- 7 月 8 日 定例会（於・ホテル・ソフィテル・サンパウロ）
- 8 月 13 日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
- 9 月 10 日 定例会（於・ホテル・トランス・アメリカ）
- 10 月 15 日 定例会（於・ホテル・シェラトン・モファレジ）
- 11 月 12 日 定例会（於・ホテル・グラン・メリア・サンパウロ）
- 12 月 15 日 定例会（於・当所会議室）

理 事 会

- 3 月 12 日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
「1998 年度事業・決算報告案承認」、「1999 年度事業、収支予算計画案承認」
- 12 月 15 日 臨時会（於・当所会議室）
「2000 年度常任理事選挙」、「選挙結果承認」

監 事 会

- 3 月 2 日 定例会（於・当所会議室）
「1998 年度会計監査」
- 4 月 26 日 定例会（於・当所会議室）
「1999 年第 1 四半期会計監査」
- 7 月 29 日 定例会（於・当所会議室）
「1999 年第 2 四半期会計監査」
- 12 月 21 日 定例会（於・当所会議室）
「1999 年第 3 四半期会計監査」

共催・後援・協力行事

- 1 月 15 日 埋田前副会頭歓送昼食会（於・レストラン・フレディー）
- 3 月 22 日 新名前会頭歓送昼食会（於・レストラン・ローレント）

- 4月15日 第11回全伯日系商工会議所代表者会議（於・当所会議室）
テーマ：「平成11年度海外経済協力貢献者表彰被推薦者選考
その他」、「各地域状況報告、次回開催地選定の件ほ
か」
- 5月27日 平成11年度官民合同小会議（於・ブラジル日本国大使館）
- 6月7日 長谷川専任理事及び正田財務理事歓送昼食会（於・レストラン・レジノセンツ）
- 7月1日 1999年度常任理事欠員補充選挙
——江口信彦氏を新専任理事に選出
——水吉徹夫氏を新財務理事に選出
- 7月15日 堀村隆彦総領事歓送昼食会（於・レストラン・ル・コック・
ハーディー）
- 9月24日 木嶋財務理事歓送昼食会（於・ルフィーノス・レストラン）
- 10月1日 1999年度常任理事欠員補充選挙
——名取力氏を新財務理事に選出
- 10月18日 小島高明総領事歓送昼食会（於・レストラン・ル・コック・
ハーディー）
- 12月15日 2000年度常任理事選挙

加盟団体行事への参加

1. サンパウロ商業協会外国商業会議所委員会
定例会議（6回）
2. 外資企業グループ — 担当・筒井常任理事
会議（6回）

会員企業行事

- 1月26日 ブラジル安田保険創業40周年記念パーティー（於・カーザ・
ローザ・ロザルン）
- 3月19日 Super Don Ltda 創立20周年記念パーティー（於・ブッフエ・
レジデンス）
- 3月29日 ニッケイ新聞創刊1周年記念パーティー（於・ブッフエ・コ
ロニアル）
- 4月29日 サンタクルス病院創立60周年記念パーティー（於・カーザ・
ローザ・ロザルン）
- 4月30日 ブラジルヤクルト新工場落成式（於・ロレーナ市）

委員会・部会の主な活動

－相互啓発委員会

8月19～22日 視察旅行（バイア州サンタクルス、カブラリア、ポルトセグーロ、サルバドール）
訪問先：カマサリ工業団地オクシテーノ社工場

－総務委員会

4月8日 安全対策に関する意見交換会（於・当所会議室）
ゲスト：三島健二郎（日本航空常勤顧問、元警察庁警備局長）

－中小企業委員会

3月4日 講演会（於・南米銀行本店講堂）
テーマ：「野球と企業経営－97 ヤクルトスワローズ優勝への道」
講演者：丸山完二（ヤクルトスワローズ球団編成マネージャー）

－渉外広報委員会

5月25日 講演会（於・当所会議室）
テーマ：「ブラジルの経済危機は去ったか」
講演者：ジルソン・シュワルツ（サンパウロ大学教授）
6月15日 企業見学会
訪問先：日清味の素社イビウーナ工場（イビウーナ市）
9月29日 企業見学会
訪問先：DERSA－道路開発公社（サンパウロ市）

－JBネットチーム

1月29日 全体会合（於・当所会議室）

定例昼食会

1月8日 新年会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「州行政改革：むこう4年間の優先事業」
講演者：中野ヨシアキ（サンパウロ州財務長官）
2月19日 定例会（於・ホテル・インターコンチネンタル）
3月12日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）

- テーマ：「着任のご挨拶」
講演者：鈴木勝也（駐ブラジル日本国特命全権大使）
- 4月9日 定例会（於・ホテル・シェラトン・モファレジ）
テーマ：「リアル貨の将来」
講演者：ジョアン・サヤジ（サンパウロ大学経済学部教授、元企画大臣）
- 5月14日 定例会（於・ブッフエ・コロニアル）
テーマ：「BANDESの輸出金融制度及び本年度事業計画」
講演者：ジョゼ・マウロ・メトラウ・カルネイロ・デ・クーニャ（BANDES－社会経済開発銀行副総裁）
- 6月11日 定例会（於・ホテル・グラン・メリア・サンパウロ）
テーマ：「日本輸出入銀行のブラジルにおける日系企業支援について」
講演者：岸本憲明（日本輸出入銀行首席駐在員）
- 7月8日 定例会（於・ホテル・ソフィテル・サンパウロ）
テーマ：「ブラジルの税制改革案の現状、決議可能案、並びに企業の財政へのインパクト」
講演者：エイバニ・シルバ（税務コンサルタント、元連邦国税庁長官）
- 8月13日 定例会（於・シーザー・パーク・ホテル）
テーマ：「SUFRAMA－現状と展望及び投資機会」
講演者：アントニオ・セルジオ・マルチンス・メロ（SUFRAMA 長官）
- 9月10日 定例会（於・ホテル・トランスアメリカ）
テーマ：「ブラジル経済の現状と米国の対伯投資について」
講演者：ジョン・エドウィン・メイン（ブラジル米国商工会議所会頭）
- 10月15日 定例会（於・ホテル・シェラトン・モファレジ）
テーマ：「着任ご挨拶」
講演者：小島高明（在サンパウロ日本国総領事）
テーマ：「国際協力銀行の発足について」
講演者：岸本憲明（国際協力銀行首席駐在員）
- 11月12日 定例会（於・ホテル・グラン・メリア・サンパウロ）
テーマ：「中南米諸国に係る貿易保険の現状と展望」
講演者：芳川恒志（通商産業省貿易保険部ニューヨーク事務所所長）
- 12月9日 忘年会（於・ホテル・ソフィテル・サンパウロ）

1999年

経済資料・文献刊行（委託販売含む）

1. 確定期限付き労働契約法と一時労働契約法
2. ブラジル・ドゥプリカッタ法（商業手形法）

機関誌『ブラジル経済情報』（99 年見出し）

1 月 15 日	967 号	第 2 次カルドーゾ政府スタート 商工会開発省、国防省を新設
1 月 18 日	968 号	号外 政府、為替政策変更－フロート制へ
2 月 1 日	969 号	政府、インフレ阻止に全力投球
2 月 15 日	970 号	99 年上期業種別部会長懇談会
3 月 1 日	971 号	欧州連合とメルコスールの自由貿易協定
3 月 15 日	972 号	カルドーゾ大統領、人気急落だが諸改革を断行へ
4 月 1 日	973 号	荒れる南米諸国 交差点にきたメルコスール
4 月 15 日	974 号	亜伯貿易摩擦 4 月末の首脳会談に期待
5 月 1 日	975 号	亜伯大臣級会議開催 ブラジル側が大幅譲歩
5 月 15 日	976 号	EU、メルコスール首脳会議 49 か国元首が集いーリオで 6 月末
6 月 1 日	977 号	揺れるアルゼンチン、ドル化を容認 ブラジルの為替ショック余波で
6 月 15 日	978 号	新しいアンカー模索の時期 ブラジルに対して BIS レポート
7 月 1 日	979 号	ラ米・カリブ・EU のリオサミット
7 月 15 日	980 号	ラ米、カリブ、EU サミットのリオ宣言
8 月 1 日	981 号	新閣僚とその任務
8 月 15 日	982 号	99 年下期業種別部会長懇談会
9 月 1 日	983 号	ラ米経済モデル見直しの声出る
9 月 15 日	984 号	構造改革は現下の急務 ブラジル全体が必要としている
10 月 1 日	985 号	IMF が「気を緩めるな」とブラジルに警告
10 月 15 日	986 号	米州自由貿易圏（FTAA） ラ米の対米貿易赤字ネッ

		ク	
11 月 1 日	987 号	修正段階にきたメルコスール	問題解決の制度的メ カニズム新設を
11 月 15 日	988 号	亜大統領選挙結果とメルコスールへの影響	
12 月 1 日	989 号	インフレ動向と政府の対応姿勢	
12 月 15 日	990 号	2000 年ラウンドの交渉決裂	ブラジルに与える影響 は

ーポルトガル語版機関誌の発刊

10 月 業種別部会長懇談会特集

2000年

2000年の実質 GDP 成長率は 4.46%であった。成長を押し上げた最大の要因は金利の引き下げである。指標金利として使用されている SELIC は、99 年 3 月に年率 45%に引き上げられたが、その後は一貫して引き下げられ、01 年 1 月には 15.25%となった。このため金融機関からの個人・法人向けの貸し付けは増加した。割賦払いの期間も長期化し、耐久消費財を中心に消費が拡大した。金融機関は、金利の低下により運用益が減少したことや、低インフレで貯蓄が増加したことから、リテール業務を重視。00 年の消費者物価上昇率（IPCA）は 5.97%と低率であった。

しかし、00 年 10 月以降、アルゼンチンの債務不安、米国景気の減速、原油価格の高止まりなどの外的要因により、経済の先行き懸念が広がり始めた。対ドルレートは、00 年 9 月初めまで 1 ドル=1.8 レアル前後で安定していたが、年末には同 1.95 レアルまで切り下がった。

アルゼンチン情勢は、00 年 12 月の IMF 等による 397 億ドルの融資決定で、危機を脱したかに見えたが、01 年 3 月、同国の経済運営に対する不安が高まり、レアルは一段と切り下がった。また、同 4 月に入って降雨不足による電力不足が表面化し、節電義務や罰則を含む節電プランが同 5 月に発表された。さらに政府内の汚職問題も影響して為替は下がり続け、7 月には 1 ドル=2.5 レアルまで達した。

00 年の輸出は前年比 14.7%増加し、550 億 8600 万ドルとなったが、00 年半ばから輸入も伸び、年間では 13.2%増の 557 億 8300 万ドルとなったため、貿易収支は 6 億 9700 万ドルの赤字となった。

ブラジルは従来、通商政策において WTO 重視の姿勢を取っていた。しかし、99 年末のシアトル会議の失敗からメルコスール交渉の重点を米州自由貿易地域（FTAA）に移し始め、足場固めとして、メルコスールおよび南米諸国の結束を図っている。00 年 12 月、メルコスール正式加盟に意欲を見せていたチリが、突然単独での対米 FTA 交渉の開始を発表すると同時に、FTAA 発足前倒しへの賛意を示し、アルゼンチンもこの前倒し案に同調するという一幕もあったが、ブラジルは説得にあたり一応の結束は維持された。

00 年 4 月、ブラジルは自動車に関する特惠関税協定をメキシコと締結した。一定の台数枠内で、双方が関税率を 8%に引き下げるというもので、これにより 00 年の同国向け完成車輸出は 5 億 500 万ドルと前年比 133.1%増加した。メキシコはアルゼンチンに代わり、ブラジルにとって最大の自動車輸出相手国となった。一方、00 年 12 月のメルコスール首脳会議において、従来の伯亜自動車協定をメルコスール全体に拡大したメルコスール自動車協定が締結され

た。このほか、メルコスール首脳会議では、南アフリカとの FTA 締結を前提とした交渉委員会の設置、原産地規則、検疫、セーフガード等に関する情報交換の定期開催が合意された。

00 年の日本のブラジル向け輸出は 25 億 2700 万ドルと前年比 23.2%増加し、輸入も 30 億 900 万ドルと 12.5%増加した。この結果、貿易収支は 4 億 8200 万ドルの入超となった。

上記輸出伸長の要因は、ブラジル向け輸出全体の 76.5%を占める機械・機器が軒並み増加し、25.1%の伸びを示したことである。中でも乗用車はブラジル側の消費の回復で 40.4%増加し、2 億 1000 万ドルとなった。一方、国際市況商品が中心の日本の輸入では、紙・パルプ、アルミ地金、大豆などの増加が目立った。最大の輸入品目である鉄鉱石も 13.8%増加した。

役員名簿（2000 年 1 月 1 日現在）

<u>会頭</u>	三好幸彦	ブラジル東京三菱銀行
<u>副会頭</u>	貞方賢彦	ヤクルト商工
	太田泰義	伊藤忠
	近藤広一	モト・ホンダ・ダ・アマゾン
	岡田茂男	三井物産
<u>専任理事</u>	潮隆昭	ソニー
	田中信	リベルコン
	鍵富信三	味の素
	江口信彦	N E C
<u>財務理事</u>	岡田正躬	富士写真フィルム
	水吉徹夫	ジェトロ
	名取力	ブラジル東洋紡
	岩崎透	モンテ・デステ電工

2000 年度理事会社及び監事会

理 事	代表者氏名
1. 味の素インテルアメリカーナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	原大児
3. スダメリス銀行	清水オリジオきよし
4. ブラジル東京三菱銀行	三好幸彦
5. ブラジル住友銀行	村岡真理
6. C B C 重工業	押切フラビオ壮
7. イグアス・コーヒー	坂口逸平
8. ブラジル清水建設	鳥羽廣明
9. ダイワボウ・ブラジル	木村武
10. 鐘紡ブラジル	渡辺英明
11. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	佐野一雄
12. ブラジル富士写真フィルム	岡田正躬
13. 古河電気工業	村尾俊夫
14. 東山農産加工	渡辺英明
15. インドウストゥリア日立	出石峯敏
16. 石川島播磨重工業	栗原猛
17. 伊藤忠ブラジル会社	太田泰義
18. 日本航空サンパウロ支店	加藤彰
19. ジェトロ	水吉徹夫
20. キリンビール代表事務所	渡辺英明
21. ブラジル・コマツ	川辺淳郎
22. キョーセラ・ヤシカ・ド・ブラジル	河村幾之助
23. リベルコン・ビジネス	田中信
24. 丸紅ブラジル	能澤信一
25. 丸紅ブラジル不動産	高橋直之
26. 伯国三菱商事	今宮舜一
27. ブラジル三井物産	岡田茂男
28. 三井海上共栄火災保険	大槻芳行
29. 大阪商船三井船舶	荻野敏久
30. モト・ホンダ・ダ・アマゾンニア	近藤広一
31. モンテ・デステ電工	岩崎透
32. N E C ・ ド ・ ブラジル	江口信彦

33.	ニチメン・ド・ブラジル	平野嘉伸
34.	ブラジル日本通運	小代康孝
35.	日本郵船サンパウロ駐在員事務所	川手純一
36.	ブラジル日清紡	林彰一
37.	ブラジル日商岩井	池川博富
38.	NSK・ド・ブラジル	菅野忠信
39.	パナソニック・ド・ブラジル	喜多川雅彦
40.	ソニー・コメルシオ・エ・インドウストリア	潮隆昭
41.	ブラジル住友商事	後藤芳信
42.	サントリー・ド・ブラジル	玉木牧人
43.	さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	宇佐美達夫
44.	三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
45.	東洋紡ブラジル	名取力
46.	ブラジル・トヨタ自動車	宇治嘉造
47.	ユニチカ・ド・ブラジル	木口晃男
48.	ヤクルト商工	貞方賢彦
49.	安田保険	諏方敏明
50.	YKK ブラジル	石川清治

監 事

1.	山田唯資	アイコン・インターナショナル・コンサル タント・アソシエイト
2.	高野哲夫	東芝メディカル
3.	中村敏幸	アーサー・アンダーセン

00年度事業報告

共催・後援・協力行事

2月1日	業種別部会長懇談会
	99年回顧と2000年展望
	副題「委員会・業種別部会の今後のあり方」
	・会頭 三好幸彦（ブラジル東京三菱銀行）
	・司会：総務委員会委員長 岡田茂男（ブラジル三井物産）
	・コンサルタント部会長 田中信（リベルコンビジネス M&A）
	・金融副部会長 山浦秀雄（日本興業銀行 サンパウロ事務所）

- ・貿易部会長 能澤信一（丸紅ブラジル）
- ・化学部会長 矢島章（ブラジル出光ケミカルズ）
- ・機械金属部会長 宇治嘉造（ブラジル・トヨタ自動車）
- ・運輸サービス副部会長 萩野敏久（大阪商船三井船舶）
- ・建設不動産部会長 林恒清（戸田建設）
- ・電気電子部会長 江口信彦（NEC・ド・ブラジル）
- ・食品部会長 上原清助（日清味の素食品）
- ・繊維副部会長 室元明（ラニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジル）
- ・総務委員会副委員長 後藤芳信、赤嶺尚由
- ・委員 出石峯敏、渡辺英明
- ・在サンパウロ総領事館 小島総領事、渡辺領事、玉川領事

8月3日

業種別部会長懇談会

2000年上期回顧と下期展望

副題「今、対伯投資を伸張させるために何が必要か」

- ・会頭 貞方賢彦（ヤクルト商工）
- ・司会：総務委員会委員長 後藤芳信（ブラジル住友商事）
- ・コンサルタント部会長 田中信（リベルコンビジネスM&A）
- ・金融副部会長 山浦秀雄（日本興業銀行
サンパウロ事務所）
- ・貿易部会長 能澤信一（丸紅ブラジル）
- ・化学部会長 矢島章（ブラジル出光ケミカルズ）
- ・機械金属部会長 宇治嘉造（ブラジル・トヨタ自動車）
- ・運輸サービス副部会長 萩野敏久（大阪商船三井船舶）
- ・建設不動産部会長 林恒清（戸田建設）
- ・電気電子部会長 江口信彦（NEC・ド・ブラジル）
- ・食品部会長 上原清助（日清味の素食品）
- ・繊維部会長 名取力（ブラジル東洋紡）

- ・総務委員会副委員長 赤嶺尚由（ソールナッセンテ
人材銀行）
- ・委員 出石峯敏（インドゥストリア
ス日立）
藤下温雄（ブラジル三井物産）
高橋直之（丸紅ブラジル不動
産）
- ・在サンパウロ総領事館 小島総領事、玉川領事、
花田副領事

2001年

2001 年は、アルゼンチンの経済危機とブラジル国内の電力危機で投資、消費は減少した。また、為替の急落に加え、節電対策で工業部門の生産が減少したことで中間財の輸入が抑制され、貿易収支は 7 年ぶりに黒字化した。

輸出は前年比 5.7%増加し、582 億 2300 万ドルとなった一方で、輸入は 0.5%減の 555 億 8100 万ドルだった。この結果、貿易収支は 26 億 4200 万ドルの黒字となった。貿易黒字を計上するのは 94 年以来。

輸出が増加した最大の要因は、年間を通じてレアル安基調が続いたことであり、またレアル安で新たな輸出市場が確保されたことも大きな要因である。

一方、輸入減少の主因は電力危機対策として実施された節電と、アルゼンチン経済危機の深刻化が挙げられる。後者はレアルを弱含みで推移させるとともに金利引き上げの原因ともなり、生産と消費を抑制した。通常、輸入は年末にかけて増加するが、01 年後半は前年同期比 12.8%減少した。

ブラジル中央銀行によると、01 年の対内直接投資額（国際収支ベース）は 212 億 7200 万ドルと、前年比 36.3%減少した。94 年に導入されたレアル・プラン以降、01 年にはじめてブレーキがかかる結果となった。

その主な原因としては、ブラジル国内の電力危機、アルゼンチンの経済危機、さらに先進国経済の低迷で多国籍企業を中心に対外投資そのものに関する積極性が薄れたことなどが挙げられる。

電力危機は幅広い業界に深刻な影響を及ぼした。罰則を伴う節電計画が発表され、貧困層を除く一般家庭や企業、事業所が 15～25%の節電義務を課せられた。その結果、電力を消費する家電の消費は落ちた。また、アルゼンチン経済危機については、同国がブラジルと共にメルコスールの中心国であるため、危機の伝播が懸念された。為替は急落して金利も引き上げられ、経済活動は抑制された。

サービス分野を牽引していた通信部門では、98 年のテレbras民営化以後に参入したオペレーターはほぼ必要な投資を終えている。同部門では、テレフォニカが 01 年 3 月に固定・携帯電話のシステム改善のために 45 億レアル（約 22 億ドル）の投資計画を発表したことが目立った。

01 年の日本向け輸出は 19 億 8600 万ドルで前年比 19.7%減少した。一方、輸入は 30 億 6400 万ドルと前年比 3.5%増加した。ブラジルにとり、日本は前年に引き続いて 5 番目の輸出相手国であり、4 番目の輸入相手国となった。

輸出は品目別にみると、鶏肉、大豆、トウモロコシが大幅に増加。鶏肉は中国産が鳥インフルエンザ感染の恐れから日本側の輸入停止措置があったこと、大豆は米国産と比較した場合のコストパフォーマンスの上昇や非遺伝子組み

換えであること、トウモロコシはスターリング問題でそれぞれ需要が増加したとみられる。

輸入では、ブラジルにおける I T 部門の不振や在庫増で最大の輸入品目である集積回路が 1 億 4900 万ドルと 23.7%減となったほか、通信機器関連部品などが減少した。

日本からの直接投資は 8 億 2500 万ドルと、前年比 126.6%の大幅増となった。増加の要因は、自動車部門を州新とする工業分野や、資源分野での投資が相次いだことである。自動車部門の活況の背景には、ブラジル工場を中南米向けの生産・輸出拠点にしようというメーカー側の狙いがある。

役員名簿

<u>会頭</u>	貞方賢彦	ヤクルト商工
<u>副会頭</u>	太田泰義	伊藤忠
	近藤広一	モト・ホンダ・ダ・アマゾニア
	潮隆昭	ソニー
	田中信	リベルコン
<u>専任理事</u>	鍵富信三	味の素
	江口信彦	N E C
	岡田正躬	フジフォトフィルム
	名取力	ブラジル東洋紡
<u>財務理事</u>	岩崎透	モンテ・デステ電工
	村岡真理	ブラジル住友銀行
	石川清治	Y K K ブラジル
	宮地正人	東京三菱銀行

01 年度事業報告

共催・後援・協力行事

2月1日 業種別部会長懇談会
2000年の回顧と2001年の展望
副題「ブラジル・カンントリーリスクに対し影響を与える外的要因」

- ・会頭 貞方賢彦（ヤクルト商工）
- ・司会：総務委員会委員長 村岡真理（ブラジル住友銀行）
- ・コンサルタント部会長 田中信（リベルコンビジネスM&A）
- ・金融部会長 福岡米三（ブラジル東京海上保険）
- ・貿易部会長 能澤信一（丸紅ブラジル）
- ・化学部会長 新井章夫（ブラジル北興化学）
- ・機械金属副部会長 大沢勇四朗（OSG）
- ・運輸サービス部会長 横山幹雄（日本航空サンパウロ支店）
- ・建設不動産部会長 鳥羽広明（ブラジル清水建設）
- ・電気電子部会長 江口信彦（NEC・ド・ブラジル）
- ・食品部会長 上原清助（日清味の素食品）
- ・繊維部会長 名取力（ブラジル東洋紡）
- ・総務委員会副委員長 赤嶺尚由（ソールナッセンテ人材銀行）
- ・委員 藤下温雄（ブラジル三井物産）
潮隆昭（ソニー商工）
天羽義一（インドゥストリア日立）
- ・オブザーバー 小島総領事、玉川領事、
花田領事、内田専門調査員

2001年度理事会社及び監事会

理事会社

代表者氏名

1. 味の素インテルアメリカーナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	福岡米三
3. ブラジル東京三菱銀行	宮地正人
4. ブラジル住友銀行	村岡真理
5. ブラジル・キャノン	岩崎准
6. CBC 重工業	嶋末繁
7. イグアス・コーヒー	坂口逸平
8. ブラジル清水建設	鳥羽廣明
9. 戸田建設	林恒清
10. ダイワボウ・ブラジル	高橋久照
11. 鐘紡・ド・ブラジル	渡辺亨
12. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	佐野一雄
13. フジフोटofilm・ド・ブラジル	岡田正躬
14. ブラジル富士通	西口一成
15. 古河電工	ムラオトシオ
16. 東山農産加工	渡辺英明
17. インデュストリア日立	出石峯敏
18. 石川島播磨重工	栗原猛
19. 伊藤忠ブラジル	太田泰義
20. 日本航空サンパウロ支店	横山幹雄
21. ジェトロ	水吉徹夫
22. ブラジル・コマツ	川辺淳郎
23. キョーセラ・ヤシカ・ド・ブラジル	右成勝一
24. リベルコン・ビジネス	田中信
25. 丸紅ブラジル不動産	高橋直之
26. 丸紅ブラジル	能沢信一
27. 伯国三菱商事	工藤章
28. ブラジル三井物産	大前孝雄
29. 三井海上共栄火災保険	大槻芳行
30. 大阪商船三井船舶	林 賢
31. モンテ・デステ電工	岩崎透
32. ホンダ・サウスアメリカ	近藤広一
33. NEC・ド・ブラジル	江口信彦
34. ニチメン・ド・ブラジル	太田義実
35. 日本郵船・サンパウロ駐在事務所	川手純一
36. ブラジル日清紡	林彰一
37. 日商岩井・ド・ブラジル	池川博富

38. 日清味の素アリメントス	上原清助
39. NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
40. パナソニック・ド・ブラジル	喜多川雅彦
41. ソニー・ブラジル	潮隆昭
42. ブラジル住友商事	後藤芳信
43. サントリー・ド・ブラジル	玉木牧人
44. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	宇佐美達夫
45. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
46. ブラジル東洋紡	名取力
47. ブラジル・トヨタ自動車	宇治嘉造
48. ヤクルト商工	貞方賢彦
49. 安田保険	遠藤雅清
50. ブラジル YKK 社	石川清治

監事会

山田唯資

アイコン

中村敏幸

ア・アンダーセン

高野哲夫

東芝メディカル

2002年

2002年の為替は、10月の大統領選挙に際し、左派系候補者当選懸念に伴う債務リスク上昇を受け、切り下げ基調で推移した。金利の引き上げにより、経済活動は抑制され、輸入額は前年比15%の落ち込みとなった。鉱物、農畜産物の輸出が堅調に推移したこともあり、貿易収支は93年以降で最大の黒字幅を記録した。対内直接投資は米国経済の影響と民営化派生投資終了により10%減少した。

02年のブラジルの実質GDP成長率は1.52%にとどまった。為替が切り下げ基調で推移し、輸出が伸びたが、金利引き上げで国内消費が抑制されたことが原因だ。GDPを需要項目別でみると、家計消費が前年比0.66%減、政府支出が0.98%増、総固定資本形成4.08%減、輸出7.76%増、輸入12.77%減となっている。為替切り下げの原因は、10月の大統領選挙を前に、前カルドーゾ大統領が推す中道左派の与党候補の支持率が伸びず、左派である労働党(PT)のルーラ候補が終始人気を維持したことだ。

与党候補の人气が伸びなかったのは前カルドーゾ大統領が均衡財政政策を継続したことによるものだが、同政策継続については、99年の変動相場制移行、ブラジルの財政構造が外資に対し脆弱さを増したことが背景にある。

02年の輸出額は前年比3.7%増加し603億6200万ドル、輸入額は15%減の472億3200万ドルとなった。貿易収支は131億3000万ドルの黒字を記録し、93年の132億9900万ドル以降、最大の黒字となった。

02年の貿易は、後半になっても輸入が増えず、逆に輸出が伸びたのが特徴だ。原因は為替の動向にある。レアル下落は金利上昇を招き、年末の国内消費も抑制。特に、耐久消費財向け中間財輸入を減少させた。通常なら年前半にピークを迎える大豆輸出は、相場の先高観に加え、大統領選挙戦の動向から投票日にかけてレアル下落が確実とみられていたこともあり、年後半にピークを迎えた。

輸入の急減は、為替下落の輸入抑制効果に加え、インフレ警戒のための政府・中銀による金利引き上げにより年末景気も抑制された。

02年の対内直接投資額は、187億5400万ドルで前年比11.2%減となった。原因は、先進国経済の停滞とブラジルのカントリーリスクの上昇がある。加えて、90年代後半の通信部門や金融、小売りなどのサービス分野の大型投資、特に通信民営化に派生する投資が終盤を迎え、一方的減少に転じていることも要因となった。

02年の日本向け輸出は前年比5.6%増の20億9800万ドルとなった。一方、輸入は23.4%減の23億4700万ドルだった。ブラジルにとって日本は7番目

の輸出国であり、4 番目の輸入国である。

輸出を品目別にみると鶏肉、オレンジジュースがそれぞれ 29.4%増、21.7%増と大きく増加した。鶏肉については、中国の鳥インフルエンザ問題以降、ブラジル産鶏肉が日本市場に定着したこと、レアル下落で相対的に価格競争力が上昇したこと、メーカー側の努力で高付加価値化を進めていることも要因といえる。

輸入では、日系アセンブラーの生産設備拡大に伴い、自動車関連品目の輸入額が増加した。

02 年の日本からの直接投資は 5 億 400 万ドルで前年比 38.9%の大幅減となった。要因は、01 年の投資額大幅に増加したことへの反動といえる。02 年も製造業分野を中心に継続的な投資がみられた。02 年 5 月からトヨタが新型カローラの生産を開始。ホンダも 03 年 4 月からフィットの生産を開始した。自動車産業の投資活発化に伴い、自動車部品企業の進出も見られた。

役員名簿

<u>名誉会頭</u>	貞方賢彦
<u>顧問</u>	後藤隆
<u>顧問弁護士</u>	佐伯ジョルジ

常任理事会

<u>会頭</u>	工藤章	起業家委員長	三菱商事
<u>副会頭</u>	近藤広一		ホンダ
	田中信		リベルコン
	鍵富信三	広報委員長	味の素
	岡田正躬		フジフィルム
<u>専任理事</u>	名取力	相互啓発委員長	東洋紡
	村岡真理	総務委員長	三井住銀

	石川清治	労働問題研究委員長	YKK ブラジル
	能澤信一	企画戦略委員長	丸紅
財務理事	大前孝雄	G I E 委員長	三井物産
	金岡正洋	日伯経済交流促進委員長	伊藤忠
	宮地正人	財務委員長	東銀
	福岡米三		東京海上
			(6月10日就任)
	能沢信一	企画戦略委員長	丸紅

2002 年度理事会社及び監事会

理事会社	代表者氏名
1. 味の素インテルアメリカーナ	鍵富信三
2. アメリカ・ラチーナ保険	福岡米三
3. ブラジル東京三菱銀行	宮地正人
4. ブラジル住友銀行	村岡真理
5. ブラジル・キャノン	岩崎准
6. CBC 重工業	嶋末繁
7. イグアス・コーヒー	坂口逸平
8. ブラジル清水建設	鳥羽廣明
9. 戸田建設	林恒清
10. ダイワボウ・ブラジル	高橋久照
11. 鐘紡・ド・ブラジル	渡辺亨
12. 富士銀行サンパウロ駐在員事務所	佐野一雄
13. フジフोटofilm・ド・ブラジル	岡田正躬
14. ブラジル富士通	西口一成
15. 古河電工	ムラオトシオ
16. 東山農産加工	渡辺英明

17. インデュストリア日立	出石峯敏
18. 石川島播磨重工	栗原猛
19. 伊藤忠ブラジル	太田泰義
20. 日本航空サンパウロ支店	横山幹雄
21. ジェトロ	水吉徹夫
22. ブラジル・コマツ	川辺 淳郎
23. キョーセラ・ヤシカ・ド・ブラジル	右成勝一
24. リベルコン・ビジネス	田中信
25. 丸紅ブラジル不動産	高橋直之
26. 丸紅ブラジル	能沢信一
27. 伯国三菱商事	工藤章
28. ブラジル三井物産	大前孝雄
29. 三井海上共栄火災保険	大槻芳行
30. 大阪商船三井船舶	林 賢
31. モンテ・デステ電工	岩崎透
32. ホンダ・サウスアメリカ	近藤広一
33. NEC・ド・ブラジル	江口信彦
34. ニチメン・ド・ブラジル	太田義実
35. 日本郵船・サンパウロ駐在事務所	川手純一
36. ブラジル日清紡	林彰一
37. 日商岩井・ド・ブラジル	池川博富
38. 日清味の素アリメントス	上原清助
39. NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
40. パナソニック・ド・ブラジル	喜多川雅彦
41. ソニー・ブラジル	潮隆昭
42. ブラジル住友商事	後藤芳信
43. サントリー・ド・ブラジル	玉木牧人
44. さくら銀行サンパウロ駐在員事務所	宇佐美達夫
45. 三和銀行サンパウロ駐在員事務所	河村太郎
46. ブラジル東洋紡	名取力
47. ブラジル・トヨタ自動車	宇治嘉造
48. ヤクルト商工	貞方賢彦
49. 安田保険	遠藤雅清
50. YKKブラジル	石川清治

監事会

山田唯資
中村敏幸
二宮正人

監事会議長

アイコン
ア・アンダーセン
マサト・ニノミヤ
法律事務所

02年度事業報告

共催・後援・協力行事

1月31日 業種別部会長懇談会

2001年の回顧と2002年の展望

- ・会頭 工藤章（伯三菱商事）
- ・司会：総務委員会委員長 村岡真理（ブラジル住友銀行）
- ・コンサルタント部会長 田中信（リベルコンビジネスM&A）
- ・金融部会長 福岡米三（ブラジル東京海上保険）
- ・貿易部会長 柳田武三（ジェトロ）
- ・化学部会長 新井章夫（ブラジル北興化学）
- ・機械金属部会長 杉村秀一郎（NSKブラジル）
- ・運輸サービス部会長 横山幹雄（日本航空サンパウロ支店）
- ・建設不動産部会長 鳥羽広明（HOS S建設）
- ・電気電子部会長 北野孝明（ブラジル・ミノルタ）
- ・食品部会長 渡辺英明（東山農産加工）
- ・繊維部会長代理 林彰一（ブラジル日清紡）
- ・総務委員会副委員長 赤嶺尚由（ソールナッセンテ人材銀行）
- ・委員 藤下温雄（ブラジル三井物産）
- ・オブザーバー・監事会議長 山田唯資（アイコン・コンサルタント）
- ・オブザーバー 池田総領事代理、玉川領事、花田副領事、内田専門調査員

9月12日 業種別部会長懇談会
2002年の上期回顧と下期展望
副題「メルコスールに対する要望・提言・問題点」

- ・会頭 工藤章（伯三菱商事）
- ・司会：総務委員会副委員長 赤嶺尚由（ソールナッセン
テ人材銀行）
- ・コンサルタント部会長 田中信（リベルコンビジネ
スM&A）
- ・金融副会長 福岡米三（ブラジル東京海
上保険）
- ・貿易部会長 柳田武三（ジェトロ）
- ・化学部会長 新井章夫（ブラジル北興
化学）
- ・機械金属部会長 杉村秀一郎（NSKブラ
ジル）
- ・運輸サービス部会長 横山幹雄（日本航空サンパ
ウロ支店）
- ・建設不動産部会長 鈴木ワグネル（HOSS
建設）
- ・電気電子部会長代理 平田藤義（当所事務局長）
- ・食品部会長 渡辺英明（東山農産加工）
- ・繊維部会長代理 木口晃男（ユニチカ・ド・
ブラジル）
- ・自動車副部会長 伊藤一廣（NGK・ド・
ブラジル）
- ・総務委員会委員 藤下温雄（ブラジル三井
物産）
- ・オブザーバー・監事会議長 山田唯資（アイコン・コン
サルタント）
- ・オブザーバー 赤阪総領事、植田副領事、
花田副領事、内田専門調
査員

2003年

2003年1月に発足したルーラ政権は税制均衡のための緊縮政策を実施した。そのため、マクロ経済指標は改善したが、国内経済はインフレ抑制を念頭に置いた高金利政策のために停滞。03年のGDP成長率はマイナス0.2%となった。他方、中国をはじめとする旺盛な外需の影響で輸出が伸びた一方、輸入が国内需要停滞により横ばいだったことと相まって貿易収支黒字は過去最高となった。外国直接投資は、ルーラ新政権の経済政策を見極めるために大規模投資を控えた企業が多かったことと、不安定な国際情勢を反映して大幅減となった。

03年は記録的な輸出増加が目立った一方、国内経済は低迷したことで特徴づけられる。03年1月に発足したルーラ政権は、経済安定を優先すべくインフレ抑制を念頭に置いた高金利政策を打ち出した。金利を2003年2～5月まで年率26.5%と高水準を維持し、その結果、財政収支、インフレ率などのマクロ経済指標は改善し、徐々に国際的な信用を取り戻すことに成功した。その結果、03年4月以降、為替はレアル高に戻して、2.8～3.0レアルの間で推移した。しかし、国内景気は低迷し、失業率が前年比0.6ポイント増の12.3%と悪化したほか、就業者の平均所得も03年12月には830.10レアルと前年同月比12.5%減少。03年のGDPは、輸出が好調な農畜産部門が5.0%増となったものの、工業分野が1.0%減など全体では0.2%減と92年以来のマイナス成長を記録した。

03年の輸出は、前年比21.1%増の730億8400万ドルと大幅な増加を記録。輸入は、2.2%増の482億6000万ドルであった。その結果、貿易収支は248億2400万ドルと過去最高の黒字額を記録した。

輸出増加の主因は、①中国を始めとした旺盛な外需とそれに伴う国際価格上昇の影響をブラジル主要産品が享受、②アルゼンチン経済の回復に伴う同国市場の拡大、③国内景気の低迷で企業が輸出を志向、④アジアやアフリカなどの新規市場向け輸出拡大などが挙げられる。また、為替が02年後半から03年3月まで一貫してレアル安となり、1ドル=3.5～3.6レアル台で推移し、良好な為替環境が多く企業が輸出に駆り立てたとされる。

輸入は、内需停滞により、伸び悩む結果となった。企業の設備投資減退が原因で、資本財輸入は減少。消費財は6.3%減、食料品が14.8%減、衣料品が14.7%減少した。

03年の対内直接投資額は前年比31.3%減の129億200万ドルとなった。原因は海外投資家がルーラ新政権の経済運営を見極めるために投資を控えたとみられる。また、3月にイラク攻撃が開始され、国際情勢が不安定だったことも影響している。

業種別にみると、製鉄分野では欧州の鉄鋼会社アルセローラがツバロン製鉄と合併でサンタ・カタリーナ州に自動車産業向け鋼材供給を目的としたベガ・ド・スル製鉄所を設立。パルプ産業ではスイス系のブランコセル社がロライマ州に 3 億 3000 万ドルを投じてセルロース工場の建設を発表。通信部門では携帯電話の普及が進み通信電話会社各社の競争が激化。携帯電話の保有台数は 2003 年 8 月時点で 4000 万台を突破し、固定電話 3910 万台を超えた。

03 年の日本向けの輸出は前年比 10.1%増の 23 億 1100 万ドル、輸入は 7.4%増の 25 億 2100 万ドルとなった。また今までわずかだったアルコールの輸出が 147.4%増の 1500 万ドルと輸出上位第 8 位の品目に上昇。03 年 8 月に日本で「揮発油等の品質の確保等に関する法律」および揮発油規格が改正され、ガソリンへのエチルアルコール混合許容値が 3%に設定されたことが追い風となった。

03 年の日本からの直接投資は、171.4%増の 13 億 6800 万ドルと大きく増加。要因は、三井物産が鉱物資源大手リオ・ドセ社の持ち株会社であるバレーパールの株式を、03 年 9 月に 8 億 3000 万ドルで取得したことである。三井物産は同時に、ブラジルの鉱山会社カエミ社の株式を 4 億 2600 万ドルでリオ・ドセ社に売却している。また、パイオニアが 03 年 3 月にマナウスへ新規進出し、カー・オーディオの現地生産を同年 11 月に開始した。

役員名簿

名誉会頭 工藤章

顧問 後藤隆

貞方賢彦

顧問弁護士 佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭 田中信 リベルコン・ビジネス

副会頭 岡田正躬 コロニア関係委員長 フジフィルム

近藤広一 ホンダ

	岡部裕之	トヨタ・ブラジル
		(3月26日就任)
	石川清治 労働問題研究委員長	YKK ブラジル
	金岡正洋 日伯経済交流促進委員長	伊藤忠
専任理事	能沢信一 企画戦略委員長	丸紅
	坂野正典	住友商事
		(3月26日就任)
	野崎良夫	東京三菱銀行
	遠藤雅清 総務委員長	安田保険
	林恒清 企業経営委員長	戸田建設
財務理事	福岡米三 財務委員長	東京海上
	横山幹雄 広報委員長	日本航空
	大前孝雄 G I E 委員長	三井物産
	村田俊典 日伯法律委員長	ブラデスコ

2003 年度理事会社及び監事会

	理事会社	代表者氏名
1	味の素インテルアメリカナ	鍵富信三
2	アルプス・ド・ブラジル	ハシモト アキラ
3	国際交流基金	梅宮正勝
4	ブラデスコ銀行	村田俊典
5	三菱東京銀行	野崎良夫
6	ブラジル三井住友銀行	村岡真理
7	ブルーツリーホテル・パウリスタ	広瀬純子
8	CBC 重工業	嶋末繁
9	戸田建設	林恒清
10	J I C Aサンパウロ支所	小松電玄

11	吉田サムエル弁護士事務所	吉田サムエル
12	ニシカワ エツジ（個人会員）	西川悦治
13	鐘紡・ド・ブラジル	福島良和
14	フジフォトフィルム・ド・ブラジル	岡田正躬
15	古河電工	ムラオ トシオ
16	ホッコー・ド・ブラジル	新井章夫
17	石川島播磨重工	栗原猛
18	東山農産加工	渡辺英明
19	伊藤忠ブラジル	金岡正洋
20	日本航空サンパウロ支店	横山幹雄
21	ジェトロ	柳田武三
22	ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
23	K. TOYAMA コミュニケーション	遠山景孝
24	川崎重工	佐原忠士
25	KDDI・ド・ブラジル	ナカヤマ ヒロシ
26	ケンブリッジ・コンサルタント	カワノ ケンジ
27	ブラジル・コマツ	川辺淳郎
28	リベルコン・ビジネス	田中信
29	丸紅ブラジル不動産	オサダ ケイスケ
30	丸紅ブラジル	能沢信一
31	ミノルタ・コピアドーラ・アマゾナス	キタノ タカアキ
32	伯国三菱商事	工藤章
33	ブラジル三井物産	大前孝雄
34	みずほコーポレート銀行	ヤマダ コウジ
35	商船三井	林 賢
36	ホンダ・サウスアメリカ	近藤広一
37	ムラタ・アマゾンニア	田中勤
38	ブラジル日本通運	平野候一
39	新日鉄	浅賀健一
40	ブラジル日清紡	ハヤシ ショウイチ
41	日商岩井・ド・ブラジル	フルハシ マサトシ
42	日清味の素アリメントス	ストウ ヒロシ
43	NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
44	日本郵船・サンパウロ駐在事務所	フジエ イチロウ
45	パナソニック・ド・ブラジル	瀬山雅博
46	パトリモニオ保険	ワキヤマ マサユキ
47	島津・ド・ブラジル	カキヌマ シゲマサ

48	ソニー・ブラジル	板谷稔
49	ストロエテル・ロイスター&大野弁護士事務所	押切フラビオ
50	ブラジル住友商事	坂野正典
51	スリーボンド・ド・ブラジル	板垣義実
52	ブラジル東京海上保険	福岡米三
53	ブラジル東洋紡	名取力
54	ブラジル・トヨタ自動車	岡部裕行
55	ブラジル・ユニチカ	木口晃男
56	ヤコン	山下日彬
57	ヤクルト商工	貞方賢彦
58	ブラジルヤマハモーターズ	内山徹雄
59	安田保険	遠藤雅清
60	YKKブラジル	石川清治

監事会 山田唯資 監事会議長
 中村敏幸
 牧野卓司

アイコン
 ア・アンダーセン
 アーンスト・ヤング

03年度事業報告

共催・後援・協力行事

2月6日 業種別部会長懇談会
 2002年下期回顧と2003年上期展望

- ・会頭 田中信（リベルコン・ビジネス）
- ・司会：総務委員会委員長 遠藤雅清（安田保険）
- ・コンサルタント部会長 西川悦治（個人）
- ・金融副部会長 山田浩司（ユニバンコ銀行）
- ・化学部会長 新井章夫（ブラジル北興化学）
- ・機械金属部会長 杉村秀一郎（NSKブラジル）
- ・運輸サービス部会長 横山幹雄（日本航空サンパウロ支店）
- ・建設不動産部会長 清水邦保（ブラジル竹中工務店）

- ・電気電子部会長 瀬山雅博（パナソニック・ド・ブラジル）
- ・食品部会長 渡辺英明（東山農産加工）
- ・繊維部会長 木口晃男（ユニチカ・ド・ブラジル）
- ・自動車部会長 近藤広一（モトホンダ・ダ・アマゾンニア）
- ・総務委員会副委員長 赤嶺尚由（ソールナッセンテ人材銀行）
- ・委員 藤下温雄（ブラジル三井物産）
- ・オブザーバー 赤阪総領事

7月31日

業種別部会長懇談会

2003 年上期回顧と下期展望

副題「メルコスールに対する要望・提言・問題点」

- ・会頭 田中信（リベルコン・ビジネス）
- ・司会：総務委員会委員長 遠藤雅清（安田保険）
- ・コンサルタント部会長 西川悦治（個人）
- ・金融副部会長 山田浩司（ユニバンコ銀行）
- ・貿易部会長 柳田武三（ジェトロ）
- ・化学部会長 新井章夫（ブラジル北興化学）
- ・機械金属副部会長 浅賀健一（新日鉄）
- ・運輸サービス部会長 横山幹雄（日本航空サンパウロ支店）
- ・建設不動産部会長 清水邦保（ブラジル竹中工務店）
- ・電気電子部会長 瀬山雅博（パナソニック・ド・ブラジル）
- ・食品部会長 渡辺英明（東山農産加工）
- ・繊維部会長 福島良和（ブラジル鐘紡）
- ・自動車副部会長 伊藤一廣（NGK・ド・ブラジル）
- ・オブザーバー 赤阪総領事、後藤博子参議院議員

2004年

ルーラ政権 2 年目の 2004 年、ブラジルは 4.9%の経済成長を実現し、マクロ経済の安定をより強く印象付けた。輸出は、大豆や鉄鉱石などが国際商品価格上昇の影響を受けたほか、工業製品も増加し、過去最高の 964 億 7500 万ドルを記録している。減少傾向にあった投資受入額も、前年比 57.1%増と回復を見せた。

対日輸出では、アジアで発生した鳥インフルエンザにより鶏肉が倍増し、輸入では自動車関連部品が順調に伸びた。両国間で企業ビジネス交流の拡大・再活性化を図る動きが活発化している。

04 年のブラジル経済は、輸出増加に加え家庭消費の拡大により 4.9%の実質 GDP 成長率を記録した。インフレ対策ではレアル・プランを導入した 94 年の 5.9%以来の高い伸び率である。

家庭消費は過去 2 年連続でマイナス成長であったが、04 年は 4.1%の成長となった。雇用情勢の改善、04 年上半期までの金利低下、割賦払いのクレジット増加などが要因。

04 年の輸出額は 32%増の 964 億 7500 万ドルと前年の伸び (21.1%) を上回った。輸入額も、国内経済の回復を受け 30%増の 627 億 8200 万ドルとなった。貿易収支は 336 億 9300 万ドルの黒字と最高記録を更新した。貿易額は、対 GDP 比は 04 年推計値で 26.6%、輸出額のみでは 16.1%と、それぞれ 10 年前の約 2 倍に拡大している。

輸出増加は、①米国、EU の旺盛な外需、②国際商品価格の単価上昇、③アルゼンチン、メキシコおよびベネズエラ経済の回復、④工業製品の競争力拡大などが要因。

また中国とは、04 年に首脳の相互訪問が実現した。ルーラ大統領は 5 月に政府・企業関係者 420 人とともに中国を訪問し、政府ベースでは 10 件、石油関連など民間ベースで 14 件の案件に合意した。

11 月の胡錦濤国家主席のブラジル訪問時には、将来中国がブラジル産の牛肉・鶏肉 4 万トンを輸出する議定書を交わし、ブラジル政府はその対価として中国を「市場経済国」と認めた。

04 年の対内直接投資額は 202 億 6500 万ドルと、前年比 57.1%増となった。ルーラ政権の経済運営が軌道に乗り、04 年前半まで継続した金利の低下と、好調な輸出に支えられた国内経済の回復が企業に投資を促したとみられる。工業分野が 145.7%増と際立つ。これは、中南米最大のビール・飲料メーカーであるアンベピが 04 年 8 月にベルギーの同業インターブリューと株式交換を通じた戦略的提携を実現したことによる。同案件のブラジルへの投資額は約 50

億ドルに達する。鉄鋼分野では、国内外の需要増によりナショナル製鉄とウジミナス製鉄など主要各社が過去最高益を記録。アルセローラはツバロン製鉄の株式を買い増しし、株式保有比率を 63.31%に拡大した。通信分野では、テレフォニカがサービス拡大のため約 4 億 8000 万ドルの投資を行なっている。

04 年の日本向け輸出額は 19.8%増の 27 億 6800 万ドル、輸入は 13.8%増の 28 億 6800 万ドルと、ブラジル全体の貿易に比べ低い伸び率にとどまった。

04 年の日本からの直接投資額は前年比 82.2%減の 2 億 4300 万ドルと大きく減少したが、前年の三井物産によるバレーバル社の株式取得との比較の問題で、04 年が低調というわけではなかった。個別に見ると、味の素がサンパウロ州にリジン工場新設とアミノ酸工場増設を、ブリジストン・ファイアストーンが 04 年 12 月にバイア州に自動車タイヤの第二工場設立を発表した。

また 04 年 9 月には小泉首相がブラジルを訪問し、「日・中南米新パートナーシップ構想」を発表し、中南米地域との新たな関係構築を宣言した。

役員名簿

<u>名誉会頭</u>	工藤章
<u>顧問</u>	後藤隆 貞方賢彦
<u>顧問弁護士</u>	佐伯ジョルジ

常任理事会

<u>会頭</u>	田中信	リベルコン・ビジネス
<u>副会頭</u>	遠藤雅清	日系社会関係委員長 安田保険
	岡部裕之	環境安全対策委員長 トヨタ
	石川清治	企業経営委員長/ YKK ブラジル
		労働問題研究委員長
	金岡正洋	G I E 委員長 伊藤忠
<u>専任理事</u>	大前孝雄	日伯経済交流促進 三井物産

委員長

二宮徹	企業活動委員長	東洋紡
福岡米三	財務委員長	東京海上
浅賀健一	総務委員長	新日鉄
坂野正典	企画戦略委員長	住友商事
多田稔		三菱商事
		(11月21日就任)
瀬山雅博	日伯法律委員長	パナソニック
三角岳明	相互啓発委員長	三井住銀
村田俊典	マーケティング委員長	ブラデスコ

2004年度理事会及び監事会

理事会

代表者氏名

1	味の素インテルアメリカナ	鍵富信三
2	アルプス・ド・ブラジル	ハシモト アキラ
3	国際交流基金	梅宮正勝
4	ブラデスコ銀行	村田俊典
5	三菱東京銀行	野崎良夫
6	ブラジル三井住友銀行	ムラオカ マサミチ
7	ブルーツリーホテル・パウリスタ	広瀬純子
8	CBC 重工業	シマスエ シゲル
9	戸田建設	林恒清
10	JICAサンパウロ支所	小松竜玄
11	吉田サムエル弁護士事務所	吉田サムエル
12	ニシカワ エツジ（個人会員）	西川悦治
13	鐘紡・ド・ブラジル	福島良和
14	フジフोटofilm・ド・ブラジル	岡田正躬
15	古河電工	ムラオ トシオ

16	ホッコー・ド・ブラジル	新井章夫
17	石川島播磨重工	栗原猛
18	東山農産加工	渡辺英明
19	伊藤忠ブラジル	金岡正洋
20	日本航空サンパウロ支店	横山幹雄
21	ジェトロ	柳田武三
22	ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
23	K. TOYAMA コミュニケーション	遠山景孝
24	川崎重工	佐原忠士
25	KDDI・ド・ブラジル	ナカヤマ ヒロシ
26	ケンブリッジ・コンサルタント	カワノ ケンジ
27	ブラジル・コマツ	川辺淳郎
28	リベルコン・ビジネス	田中信
29	丸紅ブラジル不動産	オサダ ケイスケ
30	丸紅ブラジル	能沢信一
31	ミノルタ・コピアドーラ・アマゾナス	キタノ タカアキ
32	伯国三菱商事	工藤章
33	ブラジル三井物産	大前孝雄
34	みずほコーポレート銀行	ヤマダ コウジ
35	商船三井	林 賢
36	ホンダ・サウスアメリカ	近藤広一
37	ムラタ・アマゾンニア	田中勤
38	ブラジル日本通運	平野候一
39	新日鉄	浅賀健一
40	ブラジル日清紡	ハヤシ ショウイチ
41	日商岩井・ド・ブラジル	フルハシ マサトシ
42	日清味の素アリメントス	ストウ ヒロシ
43	NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
44	日本郵船・サンパウロ駐在事務所	フジエ イチロウ
45	パナソニック・ド・ブラジル	瀬山雅博
46	パトリモニオ保険	ワキヤマ マサユキ
47	島津・ド・ブラジル	カキヌマ シゲマサ
48	ソニー・ブラジル	板谷稔
49	ストロエテル・ロイスター&大野弁護士事務所	押切フラビオ
50	ブラジル住友商事	坂野正典
51	スリーボンド・ド・ブラジル	板垣義実
52	ブラジル東京海上保険	福岡米三

53	ブラジル東洋紡	名取力
54	ブラジル・トヨタ自動車	岡部裕行
55	ブラジル・ユニチカ	木口晃男
56	ヤコン	山下日彬
57	ヤクルト商工	貞方賢彦
58	ブラジルヤマハモーターズ	内山徹雄
59	安田保険	遠藤雅清
60	YKKブラジル	石川清治

監事会

山田唯資 監事会議長
中村敏幸
牧野卓司
マリオ岩水

個人会員
ア・アンダーセン
アーンスト・ヤング
トレンチ、ロッシ、
渡辺弁護士事務所
(5 月 14 日就任)

04年度事業報告

共催・後援・協力行事

2 月 5 日 業種別部会長懇談会
2003 年下期回顧と 2004 年上期展望

- ・ 会頭 田中信 (リベルコン・ビジネス)
- ・ 司会：総務委員会委員長 浅賀健一 (新日鉄)
- ・ コンサルタント部会長 桜井悌司 (ジェトロ)
- ・ 金融副部会長 村田俊典 (ユニバンコ銀行)
- ・ 貿易部会長 中村純一 (ブラジル丸紅)
- ・ 化学部会長 板垣義実 (スリーボン)
- ・ 機械金属部会長 松永和彦 (日立製作所)
- ・ 運輸サービス部会長 横山幹雄 (日本航空サンパウロ支店)
- ・ 建設不動産部会長 清水邦保 (ブラジル竹中工務店)

・電気電子副部会長	盤若幸男（NEC・ド・ブラジル）
・食品部会長	渡辺英明（東山農産加工）
・繊維部会長	福島良和（ブラジル鐘紡）
・自動車副部会長	新沼正広（ブリジストン）
・オブザーバー	坂野企画戦略委員長（ブラジル住友商事）
	赤嶺総務副委員長（ソールナッセンテ人材銀行）
・オブザーバー	石田総領事

7月31日 業種別部会長懇談会
2003年上期回顧と下期展望

- ・会頭 田中信（リベルコン・ビジネス）
- ・司会：総務委員会委員長 浅賀健一（新日鉄）
- ・企画戦略委員長 多田稔（伯国三菱商事）
- ・コンサルタント部会長 桜井悌司（ジェトロ）
- ・金融副部会長 村田俊典（ユニバンコ銀行）
- ・貿易部会長 中村純一（ブラジル丸紅）
- ・化学部会長 板垣義実（スリーボンド）
- ・機械金属部会長 佐原忠士（川崎重工業）
- ・運輸サービス部会長 平野候一（ブラジル日通）
- ・建設不動産部会長 阿部勇（ブラジル戸田建設）
- ・電気電子部会長 瀬山雅博（パナソニック・ド・ブラジル）
- ・食品部会長 疋田和三（三井アリメントス）
- ・繊維部会長 二宮徹（東洋紡・ド・ブラジル）
- ・自動車副部会長 内山徹雄（ヤマハ・モートル）
- ・オブザーバー 石田総領事、笹本一等書記官

2005年

2005年の経済は、家計消費は好調を維持するも高金利などで投資は伸び悩んだ。輸出は政府目標の1170億ドルを上回り、前年比22.6%増の1183億800万ドルを記録した。好調な外需に加え、国際市況品の価格が高水準で推移したことなどが増加要因とみられる。靴、繊維など一部産業は、レアル高が進む中でアジアからの輸入増加に危機感を強めている。

05年の実質GDP成長率は、2.3%（暫定ベース）で政府予測を下回った。農畜産の不振や、第3四半期中頃までの高金利による投資の伸び悩みなどが要因である。需要要素別では、投資が1.6%増と低い伸びにとどまったが、家計消費は3.1%増と成長を下支えた。消費の伸びは、失業率の低下と消費者向け割賦払い融資の増加が要因とみられる。失業率（年平均）は、前年の11.5%から05年は9.8%に低下し、民間金融セクターによる個人向け融資残高は05年12月に前年同月比38.3%増（名目ベース）となった。輸出は前年比11.6%増で、輸入は9.5%増と外需は拡大しているもの、成長全体における寄与度は低下した。

05年は輸出入額ともに過去最高となった。輸出額は前年比22.6%増の1183億800万ドル、輸入額は17.1%増の735億5100万ドル、貿易黒字は33%増の447億5700万ドルであった。輸出増加の要因は、欧州各国、インドなど新興国での旺盛な外需と、それに伴う主要輸出品目の単価上昇、工業製品の輸出拡大が挙げられる。

輸出を品目別にみると、食肉は一次産品の中で顕著な増加を見せ、鶏肉は33.3%増の33億2400万ドル、牛肉が23.2%増の24億1900万ドルとなった。鳥インフルエンザの影響が長期化しており、同感染症が未発生のブラジル産鶏肉への引き合いが多い。牛肉については、05年10月に主要産地であるマットグロッソ・ド・スール州で口蹄疫が発生し、ロシアなど主要輸出相手国はブラジル産牛及び豚肉の輸入禁止措置を取った。

輸入の増加は、05年9月以降の金利の低下傾向や、雇用情勢の改善に伴う消費者の所得増加が国内消費の好調を支えたことも大きい。主要6都市の就業者の月平均所得は、06年1月時点で1012.5レアルと、03年12月を境に上昇傾向にある。

05年の対内直接投資額は前年比6.8%増の216億3800万ドル、売却などを控除したネットの対内直接投資額は16.4%減の151億9300万ドルであった。グロスベースでは、農畜産業・鉱業分野が104.9%増と増加が顕著である。これは、原油や鉄鉱石など鉱産物の国際的な需要増加に伴い、外国企業の投資が活発化したことによるもの。

日本向けの輸出額は前年比 25.6%増の 34 億 7600 万ドル、対日貿易黒字額は 6900 万ドルであった。05 年の対日輸出増加の要因は、一次産品格の上昇にあり、鉄鉱石、コーヒー豆、エタノールなどが軒並み上昇した。また、05 年 5 月のルーラ大統領訪日を契機に官民双方で継続的な協議がなされ、日本の石油連盟は 06 年 1 月、輸送用燃料におけるバイオエタノール利用について、10 年間にガソリン需要量の 20%相当分に対し一定量のバイオエタノールを E T B E（オクタン価向上剤）として導入することを目指すことを発表した。

05 年の日本からの直接投資額は、前年比 220.6%増の 7 億 7900 万ドル。大型案件としては、ミレア・ホールディングが、A B Nアムロ銀行が持つブラジルの保険会社リアル・セグーロスの株式 100%などを、9 億 6000 万リアル（451 億円）で取得したことが挙げられる。また、11 月に三井物産がブラジルの地域ガス配給事業会社 7 社の持ち株会社ガスパート社を、米国グローバル社から 2 億 5000 万ドルで買収すると発表した。

役員名簿

名誉会頭 工藤章
顧問 後藤隆
 貞方賢彦
顧問弁護士 佐伯ジョルジ

常任理事会

<u>会頭</u>	田中信	リベルコン・ビジネス
	石川清治	企業経営委員長/ 労働問題研究委員長
<u>副会頭</u>	金岡正洋	G I E 委員長
	岩村哲夫	環境安全対策委員長
	遠藤雅清	日系社会関係委員長
<u>専任理事</u>	浅賀健一	会議所 80 周年記念委員長 新日鉄

多田稔	企画戦略委員長	三菱商事
二宮徹	企画活動委員長	東洋紡
瀬山雅博	日伯法律委員長	パナソニック
板谷稔	(7月15日就任)	ソニー
村田俊典	財務委員長	ブラデスコ
大前孝雄	日伯経済交流促進委員長	三井物産
桜井悌司	マーケティング広報委員長	ジェトロ
三角岳明	相互啓発委員長	三井住銀
角田孝	(7月15日就任)	三井住友保険

2005 年度理事会及び監事会

理事会社	代表者氏名
1 味の素インテルアメリカーナ	サカイ ヨシヒコ
2 全日空	坂本エドワルド
3 国際交流基金	吉井宏
4 ブラデスコ銀行	村田俊典
5 三菱東京銀行	ノザキ ヨシオ
6 ブラジル三井住友銀行	三角岳明
7 ブルーツリーホテル・パウリスタ	広瀬純子
8 CBC 重工業	嶋末繁
9 NGK 特殊陶業	ヤマシタ シュウジ
10 ホス建設	鈴木ワグネル
11 戸田建設	阿部勇
12 クラシキ ド・ブラジル	須賀治
13 サンパウロ新聞	水本エレナ
14 JICAサンパウロ支所	石橋隆介
15 日立ブラジル	西岡勝樹
16 ホッコー・ド・ブラジル	アライ ユキオ
17 東山農産加工	尾崎 英之
18 伊藤忠ブラジル	金岡正洋

19	日本航空・サンパウロ支店	寺本久雄
20	ジェットロ・サンパウロ事務所	桜井悌司
21	ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
22	K. TOYAMA コミュニケーション	遠山景孝
23	川崎重工	佐原忠士
24	KDDI・ド・ブラジル	コジマ ヒサオ
25	ブラジル・コマツ	川辺淳郎
26	コニカ・ミノルタ・ビジネス・ソリューション	神谷功
27	リベルコン・ビジネス	田中信
28	丸紅ブラジル	中村純一
29	伯国三菱商事	多田稔
30	三井アリメントス	ヒキタ カズミ
31	ブラジル三井物産	大前孝雄
32	三井住友保険	ツノダ タカシ
33	みずほコーポレート銀行	ヤマダ コウジ
34	商船三井	アオト ショウゴ
35	ホンダ・サウスアメリカ	岩村哲夫
36	ムラタ・アマゾン	田中勤
37	ブラジル NEC	盤若幸男
38	ブラジル日本通運	平野候一
39	新日鉄	浅賀健一
40	ブラジル日清紡	イマイ タツオ
41	日清味の素アリメントス	ヒロタ タカシ
42	NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
43	日本郵船・サンパウロ駐在事務所	フジエ イチロウ
44	パナソニック・ド・ブラジル	瀬山雅博
45	パイロットペン	ゴトウ イクオ
46	島津・ド・ブラジル	ニシナカ コウジ
47	ブラジル双日	フルハシ マサトシ
48	ソニー・ブラジル	板谷稔
49	ブラジル住友商事	宮田次郎
50	スリーボンド・ド・ブラジル	板垣義実
51	ブラジル東京海上保険	フジイ リョウジ
52	東芝・ド・ブラジル	イチカワ モトヤス
53	ブラジル東洋紡	二宮徹
54	ブラジル・トヨタ自動車	岡部裕行
55	ツニブラ	大滝昌之

56	ブラジル・ユニチカ	今西暉夫
57	ヤクルト商工	貞方賢彦
58	ブラジルヤマハモーターズ	内山徹雄
59	安田保険	遠藤雅清
60	YKK ブラジル	石川清治

監事会	山田唯資	監事会議長	個人会員
	中村敏幸		デロイト・トウシュ・
			トーマツ
	都築慎一		ユシロ・ド・ブラジル
	栗原猛	(7月15日就任)	個人会員

05年度事業報告

総 会

3月11日 定期総会（於・インターコンチネンタル・ホテル）

共催・後援・協力行事

2月23日 業種別部会長懇談会
2004年回顧 2005年展望

- ・会頭 田中信（リベルコン・ビジネス）
- ・司会：企画戦略委員長 多田稔（伯国三菱商事）
- ・総務委員会委員長 浅賀健一（新日鉄）
- ・コンサルタント副部会長 赤嶺尚由（ソールナッセン
テ人材銀行）
- ・コンサルタント副部会長 山下日彬（ヤコン・インター
ナショナル）
- ・金融副部会会員 大島健一郎（東京三菱銀行）
- ・金融副部会会員 金子実（三井住友保険）
- ・貿易部会長 中村純一（ブラジル丸紅）
- ・化学部会長 板垣義実（スリーボン）
- ・機械金属部会長 佐原忠士（川崎重工業）
- ・運輸サービス部会長 平野候一（ブラジル日通）

8月3日	・建設不動産部会長	阿部勇(ブラジル戸田建設)
	・電気電子副部会長	板谷稔(ソニー)
	・食品部会長	疋田和三(三井アリメントス)
	・繊維部会長	二宮徹(東洋紡・ド・ブラジル)
	・自動車副部会長	内山徹雄(ヤマハ・モートル)
	・オブザーバー	石田総領事
	業種別部会長懇談会	
	2005年上期回顧と下期展望	
	・会頭 田中信(リベルコン・ビジネス)	
	・司会:総務委員会委員長	浅賀健一(日本スチール)
	・企画戦略委員長	多田稔(伯国三菱商事)
	・コンサルタント副部会長	遠山景孝
	・金融部会長	村田俊典(ユニバンコ銀行)
	・貿易副部会長	桜井悌司(ジェトロ)
	・化学部会長	板垣義実(スリーボンド)
	・機械金属副部会長	西岡勝樹(日立ブラジル)
	・運輸サービス部会長	平野候一(ブラジル日通)
	・建設不動産部会長	阿部勇(ブラジル戸田建設)
	・電気電子副部会長	板谷稔(ソニー)
	・食品部会長	疋田和三(三井アリメントス)
	・繊維部会長	今井達男(ブラジル日清紡)
	・自動車副部会長	内山徹雄(ヤマハ・モートル)
	・オブザーバー	丸橋次郎首席領事、田雑隆昌書記官

経済資料・文献刊行

1. 7月29日 現代ブラジル事典

2006年

06 年の実質GDP成長率は 3.7%と前年の 2.9%を上回る伸びを記録した。農畜産業では前年比 4.1%増で、05 年に大豆の国際価格低下や天候不順、口蹄疫の発生などで低成長率にとどまっていたが、回復傾向が鮮明となった。06 年は、コーヒー、サトウキビ、トウモロコシなどの生産増が顕著である。製造業は 1.6%増と伸び悩んでおり、国内市場が好調な一方、レアル高の影響で輸入品との競合にさらされている。サービス業は、順調な国内消費を反映して商業や金融仲介業などで拡大した。

需要項目別では、個人消費が前年比 4.3%増と 3 年連続で増加した。消費の伸びは、最低賃金の引き上げなど低所得者層を中心とした購買力の向上、消費者向け融資の増加などによる。政府は、06 年 4 月に最低賃金（月額）を 300 レアルから 350 レアルに引き上げた。実質引き上げ率は 13%で、96 年以降で最も高い伸び率となった。品目別の輸出額は、29.3%を占める一次産品が前年比 16%増であった。個別品目では、上位の鉄鉱石（22.6%増）、原油（65.6%増）の輸出額増が顕著。これは、新たな油田の発見や、深海油田掘削技術の進歩などにより、ブラジルが石油の純輸出国になりつつあることによる。また、鶏肉は 12.1%減の 29 億 2300 万ドルと減少しているが、これはアジアなどで発生した鳥インフルエンザの影響が一段落したためである。

国地域別輸出の第 1 位は米国で、資源関連の輸出額が増加している。これは、ペトロブラスが 06 年 9 月にテキサス州の製油所を買収して、ブラジル産原油の米国市場向け精製拠点に位置付けたことによるもの。

輸入では、耐久消費財が大きな伸びを見せた。輸入増の要因は、金利低下や雇用環境の改善、主に低所得層を中心とした所得の増加で国内市場が拡大したこと、レアル高で輸入品が割安となったこととみられる。

国地域別で特徴的なのは、ボリビアからの天然ガスが金額にして 61%増であったが、数量では 10.2%増にとどまった。ボリビア政府は、06 年 5 月に天然ガス資源国国有化を実施しており、その影響で価格が上昇している。

06 年のブラジルの対外直接投資額は、前年比 10.8 倍の 272 億 5100 万ドルを記録し、国際収支統計の発表を始めて以来、初めて対内直接投資額を上回った。対外直接投資の急増の主因は、06 年 10 月の鉄鋼大手リオ・ドーセによる、カナダのニッケル大手インコの 190 億ドル（相手会社の負債引受額を含む）での買収である。

対内直接投資額は、前年比 24.7%増の 187 億ドルであった。基礎金属業の案件では、リオデジャネイロ州に建設中のアトランチカ製鉄所（CSA）が挙げられる。

06年のブラジルの日本向け輸出額は38億8400万ドル、輸入額は38億3900万ドル、貿易収支黒字は5500万ドルであった。鉱物資源の対日輸出は好調だが、鉄鉱石は数量ベースで10.8%増（3265万トン）、アルミニウムは10.3%増（23万1300トン）で価格高騰の影響が大きい。エタノールの輸出額は微増にとどまったが、06年5月に経済産業省が発表した「新・国家エネルギー戦略」などに基づき、今後の此の分野への本格的な重点の導入に向け官民が動き始めている。

06年の日本からの直接投資額は、前年比16.8%減の6億4800万ドルであった。具体的には、新日本製鉄がウジミナスの議決権株式1.7%を取得。同社はさらに、日本ウジミナスの自社株式を50.9%まで買い増ししている。

役員名簿

名誉会頭 工藤章

顧問 後藤隆

貞方賢彦

顧問弁護士 佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭 田中信 リベルコン・ビジネス

副会頭 石川清治 企業経営委員長/ YKKブラジル

日伯法律委員長

岩村哲夫 ホンダ

大前孝雄 日伯経済交流促進委員長 三井物産

多田稔 総務委員長 三菱商事

松田雅信 パナソニック

(3月10日就任)

浅賀健一 会議所80周年記念 新日鉄

委員長

専任理事 須賀治

クラシキ

(3 月 10 日就任)

金岡正洋 企画戦略委員長/
G I E 委員長

伊藤忠

福田勝美

みずほ銀行

(5 月 17 日就任)

杉村秀一郎 マーケティング広報
委員長

N S K

阿部勇 中小企業委員長

戸田建設

寺本久男 相互啓発委員長

日本航空

角田孝 財務委員

三井住友保険

窪田敏朗

三井住友銀行

(3 月 10 日就任)

竹内明 日系社会委員長

三菱東京 U F J 銀行

宮田次郎 環境委員長

住友商事

2006 年度理事会社及び監事会

理事会社

代表者氏名

- 1 味の素インテルアメリカーナ
- 2 全日空
- 3 国際交流基金
- 4 ブラデスコ銀行
- 5 三菱東京銀行
- 6 ブラジル三井住友銀行
- 7 ブルーツリーホテル・パウリスタ
- 8 CBC 重工業

サカイ ヨシヒコ
坂本エドワルド
吉井宏
村田俊典
ノザキ ヨシオ
三角岳明
広瀬純子
嶋末繁

9	NGK 特殊陶業	ヤマシタ シュウジ
10	ホス建設	鈴木 ワグネル
11	戸田建設	阿部勇
12	クラシキ ド・ブラジル	須賀治
13	サンパウロ新聞	水本エレーナ
14	JICAサンパウロ支所	石橋隆介
15	日立ブラジル	西岡勝樹
16	ホッコー・ド・ブラジル	新井章夫
17	東山農産加工	尾崎英之
18	伊藤忠ブラジル	金岡正洋
19	日本航空サンパウロ支店	寺本久雄
20	ジェトロ	桜井悌司
21	ソール・ナッセンテ人材銀行	赤嶺尚由
22	K. TOYAMA コミュニケーション	遠山景孝
23	川崎重工	佐原忠士
24	KDDI・ド・ブラジル	コジマ ヒサオ
25	ブラジル・コマツ	川辺淳郎
26	コニカ・ミノルタ・ビジネス・ソリューション	神谷功
27	リベルコン・ビジネス	田中信
28	丸紅ブラジル	中村純一
29	伯国三菱商事	多田稔
30	三井アリメントス	疋田和三
31	ブラジル三井物産	大前孝雄
32	三井住友保険	ツノダ タカシ
33	みずほコーポレート銀行	ヤマダ コウジ
34	商船三井	アオト ショウゴ
35	ホンダ・サウスアメリカ	岩村哲夫
36	ムラタ・アマゾンニア	田中勤
37	ブラジル NEC	盤若幸雄
38	ブラジル日本通運	平野候一
39	新日鉄	浅賀健一
40	ブラジル日清紡	今井達男
41	日清味の素アリメントス	廣田喬司
42	NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
43	日本郵船・サンパウロ駐在事務所	フジエ イチロウ
44	パナソニック・ド・ブラジル	瀬山雅博

45	パイロットペン	ゴトウ イクオ
46	島津・ド・ブラジル	ニシナカ コウジ
47	ブラジル双日	フルハシ マサトシ
48	ソニー・ブラジル	板谷稔
49	ブラジル住友商事	宮田次郎
50	スリーボンド・ド・ブラジル	板垣義美
51	ブラジル東京海上保険	フジイ リョウジ
52	東芝・ド・ブラジル	イチカワ モトヤス
53	ブラジル東洋紡	二宮徹
54	ブラジル・トヨタ自動車	岡部裕行
55	ツニブラ	大滝昌之
56	ブラジル・ユニチカ	今西暉夫
57	ヤクルト商工	貞方賢彦
58	ブラジルヤマハモーターズ	内山徹雄
59	安田保険	遠藤雅清
60	YKKブラジル	石川清治

監事会

山田唯資 監事会議長
中村敏幸
栗原猛

個人会員
デロイト・トウシュ・
トーマツ
個人会員

06年度事業報告

総 会

3月10日 第56回定期総会（於・マクスージ・プラザ・ホテル）

常任理事会

理 事 会

10月11日 2007/2008年度理事及び監事選挙の開票
11月24日 臨時理事会が2007年度常任理事選挙実施、選挙結果の報告並びに承認

監 事 会

- 2 月 10 日 2006 年度第 1 回目の監事会
7 月 14 日 2006 年 2 回目の監事会
10 月 17 日 2006 年 3 回目の監事会

共催・後援・協力行事

- 1 月 16 日 日伯 EPA 共同研究分科会の 2006 年度第 1 回会議
1 月 25 日 平成 17 年度官民合同会議
2 月 3 日 移転価格税制検討委員会のワーキンググループの 2 月会合
2 月 7 日 2006 年上期業種別部会長シンポジウム
- ・ 開催挨拶 田中信会頭
 - ・ コンサルタント部会長 赤嶺尚由（ソールナッセン
テ人材銀行）
 - ・ 金融部会長 福田勝美（みずほ銀行）
 - ・ 貿易部会長代理 三分一克則（島津・ド・ブ
ラジル）
 - ・ 化学品部会長 板垣義美（スリーボンド）
 - ・ 機械金属部会長 嶋末繁（C B C 重工業）
 - ・ 繊維部会長 今井達男（ブラジル日清紡）
 - ・ 食品副部会長 廣田喬司（日清味の素アリ
メントス）
 - ・ 電気電子副部会長 盤若幸雄（ブラジル N E C）
 - ・ 建設不動産部会長 阿部勇（戸田建設）
 - ・ 運輸サービス部会長 平野俣一（ブラジル日通）
 - ・ 自動車部会長 岩村哲夫（ホンダ・サウスアメ
リカ）
- 2 月 23 日 日伯交流年および日本移民 100 周年について会合
3 月 3 日 サンパウロ総領事館主催の海外法人安全対策連絡協議会
5 月 24 日 移転価格税制委員会のワーキンググループ会合が、5 月 24
日午後 4 時から開催された
6 月 6 日 会議所 70 周年委員会
※当所は、2005 年、ブラジル日本商工会議所の前身である
商工組合が設立されたのが 1926 年だったため、2006 年が創

立 80 周年にあたることから、会議所 80 周年記念委員会を設立し、検討を重ねてきた。しかし、内部の意見が集約できず、改めて商工会議所が設立した 1940 年から 70 年にあたる 2010 年を 70 周年と位置づけ、80 周年委員会を改組し会議所 70 周年委員会を設立した。

8 月 3 日

2006 年下期業種別部会長シンポジウム

・ 開催挨拶	田中信会頭
・ 挨拶	島内憲大使
・ コンサルタント部会長	渡邊裕司（ジェトロ）
・ 金融部会長	福田勝美（みずほ銀行）
・ 貿易部会長	中村純一（丸紅ブラジル）
・ 化学品部会長	板垣義美（スリーボンド）
・ 機械金属部会長	嶋末繁（C B C 重工業）
・ 繊維部会長	今西暉夫（ブラジル・ユニチカ）
・ 食品部会長	永野昇二（三栄源）
・ 電気電子部会長	松田雅信（パナソニック）
・ 建設不動産部会長	阿部勇（戸田建設）
・ 運輸サービス部会長	丸山亘（M O L）
・ 自動車部会長	岩村哲夫（ホンダ・サウスアメリカ）
・ 講評	大竹茂公使

10 月 24 日 サンパウロ総領事館主催の今年 2 回目の海外邦人安全対策連絡協議会

12 月 8 日 GIE 会議がアメリカ会議所で開催され、移転価格税制問題を提議

12 月 19 日 水曜会解散に伴う解散余剰金の日系 2 福祉団体への贈呈式

会員企業行事

8 月 24 日 関東自動車工業はブラジルに自動車部品工場を建設

12 月 5 日 平田藤義事務局長はブラステックのブラジル支社設立パーティーに参加

委員会・部会の主な活動

一日伯法律委員会

1 月 12 日

日伯法律委員会の 1 月の月例会

テーマ：「移転価格に関するソフトウェアのライセンス契約並びに技術移転、法人税、ローヤリティ、原価加算法 (CPL)、製造原価加算法 (CAP) などについて」

講 師：ガブリエル・システル弁護士

テーマ：「水使用に対する徴収権として、利用水源により連邦や州政府からの徴収先の変更や 2010 年からの井戸水利用に関する徴収権について」

講 師：アントニオ・ラウンド弁護士

テーマ：「善意の暫定措置令における技術革新投資に関する 9 種類の税制特典、ローヤリティ、パテントやクレジットについて」

講 師：ファビオ・マラネジ弁護士

テーマ：「判決の執行、差押えや履行に関する法律の新規定について」

講 師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

テーマ：「州高等仲裁裁判所について」

講 師：下元八郎弁護士（元サンパウロ州議員）

日伯法律委員会の 2 月の月例会

テーマ：「輸出に対する移転価格計算における為替調整の計算方法の変更について」

2 月 2 日

講 師：マルセロ・ロドリゲス弁護士

テーマ：「商標並びにパテント権のロイヤリティー送金、ダン・

スギオ弁護士は契約上の民事責任について」

講 師：カルロス・マルチン・ママーナ弁護士

テーマ：「アーネスト&ヤング社の移転価格調査について」

講 師：レアンドロ・スカルケッテ弁護士

3月2日

日伯法律委員会の3月の月例会

テーマ：「昨年のサンパウロ市の法規変更の回顧として、クリニックや病院関係のアウトソーシング業者のサービス税（ISS）の法人登録、登録手続きなどについて」

講 師：リカルド・トレース弁護士

テーマ：「1月11日に公布された法律第14,129号並びに14,133号での、サンパウロ市に於けるサービス税（ISS）の分割支払促進プランの変更点について」

講 師：アドリアナ・フィゲイレド弁護士

テーマ：「電話通信のローミング並びにインターコネクションの使用料徴収における社会統合基金（PIS）/社会保険融資納付金（Coffins）分配の7/05付けアナテル判決要旨について」

講 師：ルイス・バルボーザ弁護士

テーマ：「税関における輸出入手続き簡素化の最優遇レベルの獲得条件について」

講 師：マルシオ・オリベイラ弁護士

テーマ：「法律第8,620/93号での国立社会保険院（INSS）に対する会社幹部の債務責任について」

講 師：アントニオ・エステーヴェス弁護士

5月26日

日伯法律委員会並びにコンサルタント部会共催のセミナー
「2006年税制変更」

講 師：ジュリアーナ・ブリット弁護士、マルセロ・ナターレ
弁護士ほか8人

6月1日

日伯法律委員会の6月の月例会

テーマ：「労働問題の仲裁－労働裁判所での訴訟紛争予防としての仲裁裁判の活用」

講師：吉田マルシオ弁護士（サンパウロ州仲裁審議会メンバー）

7月6日

日伯法律委員会の7月の月例会

テーマ：「信用リスクを最低限にするための担保設定」

講師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

テーマ：「特急通関システム－青ライン」

講師：セルジオ・ドアルテ弁護士

テーマ：「電子監視システム」

講師：ノリアキ・ネルソン・スギモト弁護士

テーマ：「SISCOMEXの資格付与プロセス」

講師：ジョアン・パウロ・カチナット弁護士

8月10日

日伯法律委員会の8月の月例会

テーマ：「一般的な優先システム－税制恩典つき輸出」

講師：ジョアン・パウロ・カヴィナット弁護士

テーマ：「納税者による注意体勢の重要性－CNDs」

講師：カロリーナ・サユリ・ナガ弁護士

テーマ：「REFIS III」

講師：クラウジオ・ヤノ弁護士

テーマ：「消費関係での罰則」

講師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

9月14日

日伯法律委員会の9月の月例会

テーマ：「金融機関への消費者保護法の適用について」

講師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

テーマ：「擬制並びに類似輸出における税制利点について」

講師：マリーナ・モリ弁護士

テーマ：「商品流通サービス税（ICMS）クレジットの不適切な監査伝票について」

講師：エンゾ・メゴジ弁護士

テーマ：「アウトソーシングでの契約の主要状況について」

講師：ブルーノ・マエダ弁護士

10月5日

日伯法律委員会の10月の月例会

テーマ：「サンパウロ市に於ける電子伝票の違法性」

講師：アドルフォ・ベルガミーニ弁護士

テーマ：「従業員から徴収しながら、INSSへの未納入分の分割払いについて」

講師：アドリアナ・パサロ・デ・メロ弁護士

テーマ：「納税者審議会の最新決定とPRL 20方法に就いてのSRFからの回答」

講師：アドリアナ・リベイロ弁護士

テーマ：「特急通関手続きについて」

講師：ジョゼ・カブラル・ジュニオール弁護士

11月9日

日伯法律委員会の11月の月例会

テーマ：「ブラジルでの有名ブランドの認可や商標登録のプロテクションについて」

講師：レジーナ・シルヴァ弁護士

テーマ：「貿易の新しいニュースとして、CLIAと輸入関税手続きについて」

講師：フェルナンダ・バルボーザ弁護士

テーマ：「SPED(デジタル簿記公共システム)の現状並びに連邦、州の電子伝票の進展具合、利点や今後の問題解決点などについて」

講師：セルジオ・ドアルテ弁護士

一企業経営委員会

1月19日

企業経営委員会の1月の月例会

テーマ：「仲裁裁判所を通じた労働争議の早期解決」

講師：下元八郎弁護士（元サンパウロ州議員）

2月16日

企業経営委員会の2月の月例会

テーマ：「いかに不正を防ぐために従業員の教育をしていくか、賄賂、プレゼントの交換、エチケットなどについて」

講師：アデニルソン・アラウージョ講師

3月16日

企業経営委員会の3月の月例会

テーマ：「外国人従業員に海外で支払われる報酬への FGTS」

講 師：ラウロ・アゼヴェード・レイテ弁護士

- 5 月 18 日 企業経営委員会の 5 月の月例会
テーマ：「21 世紀のエグゼクティブの時間管理」
講 師：カルロス・アンドラーデ氏マネージャーコンサルタン
ト社
- 6 月 29 日 企業経営委員会の 6 月の月例会
テーマ：「従業員に与えられる恩典—給料もしくは実益」
講 師：ファービア・ベルナルデ弁護士
- 7 月 20 日 企業経営委員会の 7 月の月例会
テーマ：「企業向上への道」
講 師：シジネイ・イヴァノフ
- 8 月 17 日 企業経営委員会の 8 月の月例会
テーマ：「支出の戦略的管理」
講 師：ライムンド・デ・ソウザ弁護士
- 9 月 21 日 企業経営委員会の 9 月の月例会
テーマ：「ビジネスマナーの社員教育について」
講 師：クラウジオ・ペリザリ
- 10 月 19 日 企業経営委員会の 10 月の月例会
テーマ：「職場でのモラルハラスメント（精神的虐待）」
講 師：ファービオ・ショング・リマ弁護士
- 11 月 23 日 企業経営委員会の 10 月の月例会
テーマ：「定年後も就労している従業員の FGTS の 40%の罰金に
ついて」
講 師：ミホコ・シルレイ・キムラ弁護士

一相互啓発委員会

- 5 月 22 日 リンス天然温泉視察旅行
相互啓発委員会主催のカシャーサセミナー
- 8 月 16 日 講 師：デルフィノ・ゴルフエット（カシャーサチェーン網ア
グアドーセ社社長）

一異業種交流委員会

- 7月21日 異業種交流委員会主催の近藤健書記官による政治セミナー
テーマ：「大統領選挙と次期政権の行方」
講師：近藤健（在ブラジル日本大使館書記官）

一環境委員会

- 5月23日 CDMセミナー「CO2 キャラバン 排出権ビジネス最前線」

一コンサルタント部会

- 2月1日 セミナー「サンパウロで駐在生活を楽しむには」
講師：桜井悌司コンサルタント部会部長
- 2月10日 セミナー「企業の社会的活動実践方法」（マーケティング渉外広報委員会との共催）
講師：エトス企業・社会的責任研究所のパウロ・イタルカンビ専務理事
- 3月5日 花卉栽培見学会（コンサルタント部会主催）
見学先：木村農場（コチア郡カウカイア・ド・アウト）、杓田胡蝶ラン園、松迫農場
- 3月9日 セミナー「HAWAIIANAS のブランド確立」
講師：アンジェラ・ヒラタ（アルパルガタッス社輸出担当取締役）
- 3月10日 セミナー「今の時代を飯田流陰陽自然学で考える」（中小企業委員会との共催）
- 8月15日 安全対策ワークショップ（総務委員会との共催）
講師：清水俊昭領事、コージ・ヤナギタ（LIFESEC 社代表、元大佐）
- 8月9日 USP 医学部最先端医療現場見学会
- 8月29日 エタノール工場見学（コンサルタント部会 2006年8月）
- 9月20日 セミナー「大学実習生活用の勧め」（マーケティング渉外広報委員会との共催）
講師：ルイズ・ゴンザガ（産学連携センター（CIEE）理事長）、ルイス・グスタヴォ同渉外理事

一電気電子部会

- 8月28日 デジタルテレビ説明会

講 師：三好康敦（PRIMOTECH 社長）

一貿易部会

8 月 30 日 「ブラジルのテレビ地上波デジタル化」セミナーが 8 月 30 日午後 4 時から 10 人が参加して開催された
講 師：三好康敦プリモテック社長

一金融部会

8 月 31 日 英語経済セミナー
テーマ：「ブラジル経済の見通し」
講 師：マルセ ロ・サロマン（ウニバンコ銀行チーフエコノミスト）

10 月 27 日 金融犯罪セミナー
講 師：ジョエル・スカラブリニ（ブラデスコ銀行調査部）

11 月 13 日 JBIC 銀行セミナー（コンサルタント部会との共催）
テーマ：「貿易立国から投資立国へ 今後のわが国の長期対外経済戦略」
講 師：百瀬泰（JBIC 銀行米州地域担当審議役）、井本裕（同行企業金融部長）

12 月 21 日 JBIC の日本企業への海外進出サポート向け融資・保証業務説明会
テーマ：「日本企業の海外進出をサポートする海外投資金融を中心とした融資・保証業務」
講 師：磯部貢一（国際協力銀行企業金融部第 1 班課長）

一建設不動産部会

7 月 30 日 『アルディア・ダ・セーラ住宅地、アルファビレ見学会』

定例昼食会

4 月 19 日 ブラジル日本商工会議所の 4 月定例昼食会
12 月 14 日 ブラジル日本商工会議所の忘年会

2007年

2007 年の実質GDP成長率は、個人消費が好調であったことに加え、企業の設備投資なども活発に行なわれた結果 5.4%となった。輸出は 1606 億 4900 万ドルで前年比 16.6%増であったが、消費市場の拡大、レアル高などにより輸入は 32%増を記録し、貿易黒字は 13.8%減となっている。直接投資では、資源エネルギー関連に加え、消費財などの国内販売をにらんだ案件も増加している。

GDPを分野別にみると、サービス業で金融仲介・保険が 13%で第 1 位であった。ブラジルの民間銀行はサブプライムローン（米国の信用力の低い個人向け住宅融資）問題関連の損失もなく、各行とも 07 年の業績は好調だった。

需要項目別では、個人消費が 4 年連続のプラス成長を記録して 6.5%となった。これは労働者の給与水準の上昇と、クレジット販売の増加の影響とみられる。07 年のGDP総額は 2 兆 5588 億レアルで、需要要素別に見たシェアは、個人消費が前年比 0.5 ポイント増の 60.9%であるのに対し、輸出は 0.7 ポイント減の 13.9%と、内需主導型が鮮明だ。このほか、企業の生産活発化などを受け、固定資本形成は 96 年の統計発表以降で最高の 13.4%増を記録した。

品目別の輸出額をみると、一次産品が前年比 28.1%増の 515 億 9600 万ドルで、シェアは 2.9 ポイント増の 32.1%となった。品目別の輸出額では、原油は 29.2%増と大幅に増えた。国営石油公社のペトロブラスは、07 年 11 月にリオデジャネイロ沖に埋蔵量 50～80 億バレル級の過去最大の深海油田を発見したと発表しており、順調にいけば 2015 年ごろから生産開始とされている。鉄鉱石は、バーレが生産能力の拡張を続けていることもあり、11.1%増の 2 億 6900 万トンであった。工業製品では、航空機が前年比 45.6%増の 47 億 1900 万ドルと、工業製品輸出第 1 位となった。ブラジルには、受注ベースで世界第 3 位の航空機メーカーエンブラエルがあるため。

なお、07 年 12 月にメルコスールは中南米域外国では初となる FTAをイスラエルと締結している。ブラジル外務省も、通商外交の優先度につき、WTOドーハラウンドの決着、交渉が中断した対 EU・FTAの締結、中東各国との FTAの順に高いとコメントするなど、農産品をめぐる大きな貿易摩擦が生じない中東との交渉加速を目指している。

輸入は、前年比 32%増と 06 年を上回るペースで増加し、1206 億 2100 万ドルとなった貿易黒字は 13.8%減の 400 億 2800 万ドルであった。耐久消費財、非耐久消費財とも 30%以上の増加。消費財輸入増加の要因は、07 年後半までの政策金利の引き下げ、クレジット販売の普及、雇用環境の改善やレアル高による輸入品の値下がりなどによるものとみられている。

07年の対外直接投資（国際収支ベース、フロー）は、70億6700万ドルと高水準を維持した。バーレは07年7月、オーストラリアのベルベデール石炭合弁企業の株式51%を9000万ドルで取得することを発表。同年5月には、牛肉パッカーのJBSフリボイが、米国スイフトフーズの14億ドルでの買収交渉が完了したと発表。大手ゼネコンのオデブレヒトは6月、アンゴラでサトウキビ・エタノール生産のために50億レアル（約28億ドル）の投資計画を発表した。

07年の対日輸出額は、前年比11%増の43億2100万ドル、輸入額は20.1%増の46億1000万ドルであった。また直接投資額（フロー）は、前年比22.7%減の5億100万ドルであった。07年8月にホンダロックがサンパウロ州に四輪自動車用のキーセット工場の起工式を行なった。同年3月、パイオニアがマナウスのカー・オーディオ工場の増産を行なうと発表。三井物産は7月に、同社100%出資によるシャープ製の音響・映像、家電製品、事務機器を販売する現地法人を設立した。

役員名簿

名誉会頭 工藤章

顧問 後藤隆
貞方賢彦

常任理事会

<u>会頭</u>	田中信	リベルコン・ビジネス
<u>副会頭</u>	石川清治	企業経営委員長/ YKKブラジル
	日伯法律委員長	
	岩村哲夫	移転価格税制委員長 ホンダ・サウスアメリカ
	長谷部省三	トヨタ・ブラジル (6月15日就任)
	松田雅信	総務委員長 パナソニック

	大前孝雄	日伯経済交流促進委員長	三井物産
専任理事	田中一男	環境委員長	伊藤忠ブラジル
	窪田敏朗	日系社会委員長	ブラジル 三井住友銀行
	押切壮	日伯法律委員長	OHNO & OSHIKIRI 弁
	フラビオ		護士事務所
	渡邊裕司	マーケティング広報	ジェトロ
		委員長/会議所 70 周年	
		記念委員長	
	寺本久男	相互啓発委員長	日本航空サンパウロ支店
	宮田次郎	企画戦略委員長	ブラジル住友商事
	福田勝美	財務委員長/G I E 委員長	みずほコーポレート銀行
	阿部勇	異業種交流委員長	ブラジル戸田建設

2007 年度理事会社及び監事会

	理事会社	代表者氏名
1	味の素インテルアメリカーナ	新谷道治
2	国際交流基金	西田和正
3	ブラデスコ銀行	山崎展生
4	三菱東京 UFJ 銀行	竹内明
5	ブラジル三井住友銀行	窪田敏朗
6	ブルーツリーホテル・パウリスタ	広瀬純子
7	CBC 重工業	原口正辰
8	NGK 特殊陶業	濱田隆男
9	ホス建設	鈴木ワグネル
10	戸田建設	阿部勇
11	日立ブラジル	西岡勝樹
12	イハラ プラス	工藤英博
13	東山農産加工	尾崎英之
14	伊藤忠ブラジル	田中一男

15	日本航空サンパウロ支店	小西弘恭
16	ジェトロ	佐々木光
17	K. TOYAMA コミュニケーション	遠山景孝
18	川崎重工	渋谷吉雄
19	ブラジル・コマツ	川辺淳郎
20	コニカ・ミノルタ・ビジネス・ソリューション	神谷功
21	クラシキ ド・ブラジル	須賀治
22	リベルコン・ビジネス	田中信
23	丸紅ブラジル	前田一郎
24	ブラジル メタル ワン	赤木浩
25	伯国三菱商事	佐々木修
26	三井アリメントス	島田武彦
27	ブラジル三井物産	中山立夫
28	三井住友保険	宮原弘幸
29	みずほコーポレート銀行	堀内勝
30	商船三井	廣瀬隆
31	ホンダ・サウスアメリカ	峯川尚
32	ムラタ・アマゾン	田中勤
33	ブラジル NEC	藤原智明
34	ブラジル日本通運	和田亮
35	新日鉄	杉山俊美
36	ブラジル日清紡	金原章
37	日清味の素アリメントス	斉藤孝之
38	NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
39	日本郵船・サンパウロ駐在事務所	片山真人
40	オーノ & オシキリ 弁護士事務所	押切フラビオ
41	パナソニック・ド・ブラジル	松田雅信
42	パイロットペン	辻井可和
43	島津・ド・ブラジル	三分一克則
44	ブラジル双日	山田小次郎
45	ソニー・ブラジル	田村正博
46	ブラジル住友化学	松尾新一郎
47	ブラジル住友商事	伊藤友久
48	タカタ ペトゥリ	長瀬周治
49	ブラジル・東京海上保険	原島朗
50	ブラジル東洋紡	河本暢夫
51	ブラジル・トヨタ自動車	長谷部省三

52	ツニブラ	大滝昌之
53	ブラジル・ユニチカ	今西暉夫
54	ヤコン コンサルタント	山下日彬
55	ヤクルト商工	貞方賢彦
56	ブラジル・ヤマハ	足立雅人
57	安田保険	米倉立二郎
58	YKKブラジル	石川清治

監事会	山田唯資	監事会議長	個人会員
	中村敏幸		デロイト・トウシュ・トーマツ
	藤井敏晴		KPMG

07年度事業報告

総 会

3月9日 定期総会（於・インターコンチネンタル・ホテル）

常任理事会

1月12日 定例常任理事会（於・ブルーツリー・モルンビーホテル）
2月9日 定例常任理事会（於・ソフィテル・ホテル）
3月9日 定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
4月13日 定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
5月10日 定例常任理事会（於・グラン・ハイヤット・ホテル）
6月15日 定例常任理事会（於・クラウン・プラザ・ホテル）
7月13日 定例常任理事会（於・シーザー・ビジネス・ホテル）
8月10日 定例常任理事会（於・グランメリア・モファレジ・ホテル）
9月14日 定例常任理事会（於・ソフィテル・ホテル）
11月9日 定例常任理事会（於・クラウン・プラザ・ホテル）
12月7日 定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）

理 事 会

- 6 月 19 日 臨時理事会で常任理事補充選挙
- 11 月 23 日 臨時理事会で 2008 年度常任理事選出

監 事 会

- 1 月 17 日 2007 年度第 1 回目の監事会
- 5 月 9 日 監事会
- 8 月 15 日 監事会で第 2 四半期の会計監査を実施
- 11 月 7 日 監事会で第 3 四半期会計監査を実施

共催・後援・協力行事

- 1 月 1 日 総領事館及び日系五団体主催の新年祝賀会
- 1 月 7 日 衆議院議員歓迎懇談会
- 1 月 11 日 今年第 1 回目の日本移民 100 周年記念協会の執行委員会
- 2 月 23 日 2007 年度上期の業種別部会長シンポジウム

開催挨拶 田中信会頭

挨拶 島内憲大使

コンサルタント部会 渡邊裕司部会長（ジェトロ）

金融部会 米倉立二郎部会長（南米安田保険）

貿易部会 中村純一部会長（ブラジル丸紅）

化学品部会 松尾新一郎部会長（ブラジル住友化学）

機械金属部会 嶋末繁部会長（C B C 重工業）

繊維部会 今西暉夫部会長（ブラジル・ユニチカ）

食品部会 酒井芳彦部会長（味の素）

電気電子部会 盤若幸男部会長（ブラジル N E C）

建設不動産部会 阿部勇部会長（戸田建設）

運輸サービス部会 丸山亘部会長（N Y K）

自動車部会 長瀬周治副部会長（タカタ・ペトリ）

講評 丸橋次郎首席領事

- 3 月 1 日 田中信会頭は移民 100 周年祭典協会の会議に出席
- 3 月 6 日 経団連、C N I 共催の第 12 回日本ブラジル経済合同委員会
- 3 月 26 日 窪田日系社会委員長が 100 周年実行委員会に参加
- 3 月 28 日 第 2 回総領事館-会議所間定期会合
- 4 月 12 日 田中信会頭移民 100 周年祭典協会執行委員会臨時会合に出席
- 4 月 19 日 近藤健書記官の政治セミナーが 4 月 18 日に開催された
講 師：近藤健（ブラジル日本大使館政務班書記官）

- 4月22日 田中信会頭は緒方貞子 JICA 理事長との夕食懇談会に出席
- 4月30日 経済産業省の細野製造産業局長が来聖、4月30日に公邸夕食会に会頭や副会頭などが出席した
- 5月2日 来聖中の松岡利勝農林水産大臣の歓迎夕食会が5月2日にサンパウロ総領事公邸で開催
- 6月21日 移転価格税制委員会のWG 会合開催
- 7月6日 窪田日系社会委員長が100周年実行委員会に参加
- 7月27日 第19回在伯日系商工会議所代表者会議開催
- 8月2日 田中会頭は永岡農林水産大臣政務官との懇談夕食会に出席
- 8月2日 窪田日系社会委員長が移民100周年祭典協会の会合に参加
業種別部会長シンポジウムに104人が参加して開催
開催挨拶 田中信会頭
- 8月3日 コンサルタント部会 渡邊裕司部会長（ジェトロ）
金融部会 米倉立二郎部会長（南米安田保険）
貿易部会 佐々木修部会長（伯国三菱商事）
化学品部会 板垣義実部会長（スリーボンド）
機械金属部会 嶋末繁部会長（CBC 重工業）
繊維部会 須賀治部会長（クラシキ・ド・ブラジル）
食品部会 尾崎英之部会長（東山農産加工）
電気電子部会 松田雅信部会長（パナソニック）
建設不動産部会 阿部勇部会長（ブラジル戸田建設）
運輸サービス部会 寺本久男部会長（日本航空）
自動車部会 長谷部省三部会長（ブラジル・トヨタ自動車）
移転価格税制 鍋島直裕コーディネーター（ホンダ・サウスアメリカ）
講評 西林万寿夫総領事
- 8月18日 総領事公邸で菅義偉総務相歓迎昼食会
- 8月20日 麻生太郎外務大臣の歓迎夕食会に田中会頭が参加
- 8月30日 移民100周年協会実行委員会に参加
- 10月4日 田中会頭が移民100周年祭典会議に出席
- 10月5日 新井辰夫公使を囲んで懇親昼食会
- 10月25日 100周年祭典執行委員会臨時会議開催
- 11月8日 田中会頭は日本移民100周年祭典協会の会合に参加
- 11月22日 平成19年度官民合同会議が聖市内ホテルで開催
- 12月2日 田中会頭は地上デジタル日本方式の放送開始式典に出席

会員企業行事

- 4月12日 自動車部品製造のユタカ・ド・ブラジル社は4月12日午前10時から定礎式を行なった
- 5月3日 ニッシン・ブレーキ・ド・ブラジル（有）は5月3日にブレーキ新工場の定礎式を行なった
- 5月7日 半世紀を迎え躍進続ける KURASHIKI DO BRASIL
- 6月1日 第一実業ブラジルがサンパウロに事務所を開設
- 6月15日 川崎汽船、サンパウロ市に “ K ” LINE BRASIL を設立
- 8月21日 ホンダロックが新工場の定礎式を行なった
- 11月8日 田中会頭はアンリツ・ブラジル社の創立 30 周年記念パーティーに出席
- 11月13日 田中会頭はYUSEN創立 10 周年式典に参加

委員会・部会の主な活動

一日伯法律委員会

2月7日

日伯法律委員会の2月月例会

テーマ：「民法での誠実な受託者の解釈について」

講師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

テーマ：「環境コントロール並びに管理税について」

講師：アントニオ・ラウンド弁護士

テーマ：「州令第 51.520 号の I C M S 関連の税制恩典の廃止について」

講師：ロビンソン・ラモス弁護士

テーマ：「2002 年発令の民法における過剰な負担について」

講師：ギウリアナ・ボナンノ弁護士

3月8日

日伯法律委員会の3月月例会

テーマ：「2002年の上院法案第243号の変更について」

講師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

テーマ：「職務上の罰金に関する新制度」

講師：アドルフォ・ベルガミーニ弁護士

テーマ：「法律第1,1452号のソフトウェア使用のライセンス料送金に関する免税について」

講師：ルイス・バルボーザ弁護士

テーマ：「経済成長加速プログラム（PAC）の主要税務措置—暫定令240号、348号、349号、351号、352号、法律6003号、6024号、6025号について」

講師：クラウジオ・ヤノ弁護士

4月12日

日伯法律委員会の4月定例会

テーマ：「トレーディングカンパニーによる商品輸入とオーダー輸入に対する課税の違いについて、各州での税率の違いによるクレジットなどについて」

講師：ワイネ・ペロン弁護士

テーマ：「消費財購入におけるICMSクレジットについて」

講師：レオナルド・コルデイロ弁護士

テーマ：「抱き合せ販売について」

講師：アレサンドラ・クリハラ弁護士

テーマ：「外資登録のない資本について」

講師：アドリアーノ・ムナリ弁護士

4月23日

2007年度税制変更セミナーが4月20日に100人以上が参加し

て開催された

講 師：ロドリゴ・ムニョス弁護士、アドルフォ・ベルガミーニ
ニ弁護士ほか 12 人

5 月 14 日

日伯法律委員会が 5 月 9 日に 26 人が参加

テーマ：「電子商業伝票と SPED の概要」

講 師：リカルド・アメリコ弁護

テーマ：「スーパーレセイタの主要点」

講 師：ラッケル・アパレシーダ・ジェジュス弁護士

テーマ：「商品の腐敗又は紛失ケースに於ける ICMS クレジット
ト返済の不能性」

講 師：アドルフォ・ベルガミーニ弁護士

6 月 15 日

6 月月例会

テーマ：「日伯間の協定に合せた二重課税防止協定」

講 師：エリクソン・アマラウ弁護士

テーマ：「供託金及び財産目録作成の違憲宣言効果」

講 師：マルクス・アンジェロ弁護士

テーマ：「デジタル会計の公共システム」

講 師：ファビオ・フロレンチーノ弁護士

テーマ：「株式会社の総会における過ち」

講 師：タチアナ・ネーヴェス弁護士

7 月 12 日

7 月定例会

テーマ：「スーパーシンプレス税法の主な目新しいポイント」

講 師：レオナルド・コルデイロ弁護士

テーマ：「サービス輸入におけるローヤリティの支払い及び送
金」

講 師：ムリロ・メロ弁護士

テーマ：「ブラジルにおける金融投資に関する税制」

講 師：ジアンカルロ・マタラーズ弁護士

テーマ：「暫定令 MP-351 号-支払い遅延は罰金を伴わない」

講 師：アントニオ・エステーヴェス弁護士

8 月 10 日

8 月定例会

テーマ：「法令 5.798/06 号-技術革新への免税インセンチブ」
 講 師：エリエッチ・リベイロ弁護士
 テーマ：「インセンチブ・マーケティング-納税及び社会福祉
 面での効果について」
 講 師：ルイス・バルボーザ弁護士
 テーマ：「行政促進財団（FUNDAP）を通しての輸入-ICMS 納税
 におけるサンパウロ州の税務期間状況」
 講 師：ヴィトール・ゴメス弁護士
 テーマ：「移転価格税制のセーフ・ハーバー輸出の証明書類免
 除の見通し」
 講 師：ジュリアナ・ロペス弁護士
 テーマ：「一般税制・管理財務執行法について」
 講 師：マルコス・メンデス弁護士

9 月 14 日

9 月定例会

テーマ：「司法外証書執行に関する新法規」
 講 師：アレサンドラ・クリハラ弁護士
 テーマ：「法律第 8.212.91 号、条項 45 の違憲性-5 年間
 の徴税期限について」
 講 師：アレサンドロ・カラフィ弁護士
 テーマ：「サンパウロ州-10 月より商品流通サービス税
 (ICMS) 30%返還実施」
 講 師：ロベルト・パイヴァ弁護士
 テーマ：「行政プロセス-360 日の決断発表期限について」
 講 師：ノリアキ・スギモト弁護士

10 月 1 日 外国人労働者に関するビザセミナー（コンサルタント部会との
 共催）

講 師：アウド・カンジド・コスタ・フィーリョ（労働・雇
 用省移住課コーディネーター）

10 月 15 日 10 月定例会

テーマ:「海外オーダー販売に関する商品流通税やサービス税などの課税システムについて」

講 師: タイナ・ペレイラ弁護士

テーマ:「労働省労務関係局の 2007 年 7 月 19 日付け規則令 5 号ー臨時雇用の契約延長について」

講 師: ルイス・フェルナンド・ミランダ弁護士

テーマ:「州内への工場誘致のための税制戦争による ICMS クレジット注釈の現状について」

講 師: エリオ・ホンダ弁護士

テーマ:「管理プロセスに於ける緊急保護令について」

講 師: サンドリア・メデイロ弁護士

一企業経営委員会

- 1 月 31 日 企業経営委員会の 1 月月例会
テーマ:「人格無視の労働法の適用」
講 師: ヴォルネイ・フェレイラ弁護士
- 2 月 15 日 企業経営委員会の 2 月月例会
テーマ:「職場でのモラル及びセクハラ」
講 師: ジョアナ・オリベイラ弁護士
- 3 月 15 日 企業経営委員会の 3 月月例会
テーマ:「企業並びに個人の社会的責任」
講 師: ルーベンス・マザーニ委員長 (アメリカ商工会議所社会責任戦略委員会)
- 4 月 19 日 企業経営委員会の 4 月月例会
講 師: カリーナ・ロベルタ弁護士
- 5 月 17 日 企業経営委員会の 5 月月例会
テーマ:「勤務評価、人材育成、能力開発の鍵」
講 師: ミルトン・リマ・アラウジョ・ジュニオール (味の素人事部長)
- 6 月 21 日 企業経営委員会の 6 月月例会
テーマ:「アウトソーシング」
講 師: ファービア・ベルナルデ (プライスウオーターハウスクーパー社労働・社会保障部門上級部長)

- 7月20日 企業経営委員会の7月月例会
 テーマ：「派遣社員制度について議論すべき問題」
 講師：ルーヴィア・ソウザ講師、マルセラ・マサーリ講師
- 8月17日 企業経営委員会の8月月例会
 テーマ：「企業の競合性と引越しの管理」
 講師：ジャイメ・マルケス・フィリョ（カロイ社副社長）
- 9月21日 企業経営委員会の9月月例会
 テーマ：「イメージと世評-その影響範囲と限度」
 講師：クリスチーナ・パネジャ（CDN教育調査社代表）

一相互啓発委員会

- 6月1日 サルバドール歴史視察旅行

一異業種交流委員会

- 7月4日 警備員養成学校見学会が7月4日に開催
 見学先：Emforvigil 警備員養成学校

一コンサルタント部会

- 1月23日 コンサルタント部会の経済セミナー
 テーマ：「ブラジル経済とビジネスの可能性を検証する」
 講師：鈴木孝憲
- 2月14日 セミナー「中南米政権左傾化の潮流」
 講師：渡邊裕司（コンサルタント部会部会長）
- 3月14日 セミナー「日智EPA発効でどうなる」（日伯経済促進交流委員会との共催）
 講師：杉本孝信（在チリ日本大使館一等書記官）
 大久保敦（ジェトロ・サンチアゴ所長）
- 5月17日 デザイナーセミナー開催
 テーマ：「デザインと新たな広告領域」

講 師：緒方信行（クリエイター）

- 5 月 29 日 第二弾安全ワークショップ「その時、どうする」
講 師：唐木田光男
- 9 月 20 日 内部統制の J-SOX 法セミナー
講 師：都築慎一（デロイト日系企業サービス部取締役）
ロナルド・フラゴーズ（同社企業リスクサービス分野
パートナー）
- 9 月 21 日 砂糖キビ・エタノール工場見学会
見学先：COSAN 社ダ・バーハさとうきび農場・エタノール工場
- 10 月 29 日 焼酎・梅酒蔵元見学ツアー
見学先：焼酎・梅酒蔵元 MN プロボリス社
- 11 月 7 日 ミナス・ジェライス州産業視察ツアー
見学先：ウジミナス製鉄所、リオ・ドセ社のブルクツ鉄鉱山、
コンセイソン鉄鉱山、フェルナンド・ピメンテルベ
ロオリゾンチ市長との会見
- 12 月 5 日 岡本行夫元首相補佐官の国際問題の講演会に 100 人以上が参加
（異業種交流委員会との共催）
テーマ：「福田政権の課題、日本の技術の将来」
講 師：岡本行夫（国際問題専門家）

一 繊維部会

- 5 月 22 日 繊維部会は「遺伝子組換え綿花」の研修会

一 食品部会

- 5 月 23 日 食品部会主催の味の素工場見学
- 6 月 17 日 東山農場コーヒー収穫見学会
（コンサルタント部会との共催）

一 金融部会

- 9 月 11 日 金融セミナー（コンサルタント部会との共催）

テーマ：「ブラジルの金持ちに学ぼう、金融資産の増やし方と守り方」

講師：ジョアン・アルビーノ（ブラデスコ・プライベートバンキング取締役）

一建設不動産部会

11月6日 最先端医療設備病院見学会
見学先：ポルトガル慈善病院系列のサン・ジョゼ病院

定例昼食会

- 1月17日 新年会、西林総領事や田中会頭の新年の挨拶
- 2月12日 定例昼食会
テーマ：「ブラジルの穀物生産、インフラ、輸送並びに輸出の見通し」
講演者：セルジオ・メンデス（穀物輸出連盟会長（ANEC））
- 3月9日 定例昼食会
テーマ：「ブラジルに於けるアグロビジネス」
講演者：プラティニー・デ・モラエス（FIESP農業部門上級審議会メンバー）
- 4月13日 定例昼食会
テーマ：「農業とブラジルに於けるアグリエネルギー」
講演者：ルイス・カルロス・ゲーデス・ピント（元農相）
- 5月10日 定例昼食会
テーマ：「我が相撲人生と角界」
講演者：若東関（元関取）
- 6月15日 定例昼食会
テーマ：「GIE活動と第2次ルーラ政権に期待する事、カラム移転価格税制委員会からの陳情進捗状況」
講演者：ジョエル・コールン（GIE委員会の総コーディネーター）
- 7月13日 定例昼食会

テーマ:「サンパウロ州西部に於けるバイオエネルギー部門の成長の見通し」

講演者: ジョゼ・カルロス・トレード (バイオエネルギー生産者連合 (UDOP) 会長)

8 月 10 日 定例昼食会

テーマ:「良い老後を過ごすには」

講演者: 千馬寿夫 (医学博士)

9 月 14 日 定例昼食会

10 月 19 日 定例昼食会

テーマ:「社会平和に向けた、市民、企業、社会、司法がいどむべき事」

講演者: マサミ・ウエダ高等判事

11 月 9 日 定例昼食会

テーマ:「経済について」

講演者: ジェラウド・アウキミン (元聖州知事)

12 月 14 日 忘年会

2008年

2008年の実質GDP成長率は、金融危機の影響で第4四半期に失速したが、9月までの旺盛な内需と、建設、自動車、金融部門などの高成長の結果、5.1%を記録した。5%を超える成長率を記録したのは00年以降では04年、07年に続き3回目となった。輸出は前年比23.2%増、輸入は消費市場の拡大などにより43.6%となり、貿易収支は38.2%減少した。直接投資は資源エネルギー関連分野の投資増により、前年比3割増を記録、投資先としてブラジルの魅力は衰えていない。

サービス業のGDP成長を分野別にみると、金融仲介・保険が9.1%で1位であった。ブラジルの銀行業界では、競争の激化と金融危機などでM&Aが一層加速している。08年11月、国内資産総額2位のイタウと6位のユニバンコが合併を発表し、資産総額3000億ドルを超える中南米最大のメガバンクの誕生が決まった。

需要項目別の成長率を見ると、リーマンショック以来の消費者クレジットの拡大、現ルーラ政権によって創設された貧困世帯への直接補助金制度（ボウサ・ファミリア）や給与水準の上昇などにより、個人消費が5年連続のプラス成長となる5.4%を記録した。

品目別輸出額を見ると、一次産品が前年比41.5%増の730億2800万ドル、半製品が24.2%増の270億7300万ドル、工業製品が10.4%増の926億8300万ドルと、全てのカテゴリーで最高記録を更新した。一次産品の主要輸出品目は軒並み増加しており、主に価格上昇の影響によるものとみられる。また、アルゼンチン向けは22.1%増で、自動車関連や携帯電話など工業製品を中心に好調を維持。08年5月には、アルゼンチンとの自動車協定交渉が決着し、2014年7月から完成車の完全自由貿易が実現する予定。

輸入は、第3四半期までの旺盛な内需により、前年比43.6%増の1731億9700万ドルとなった。金融危機による輸出の減少があったため、貿易黒字は2年連続で減少し、38.2%減の247億4600万ドルとなった。所得の向上によるブラウン管テレビから薄型テレビへの買い替え増を受け、中国からのLCD輸入が増加。また韓国からは、乗用車が2.4倍の7億4700万ドルで品目別1位となった。主に、現代車、起亜車の輸入が増加している。

対外直接投資は、前年比2.9倍の204億5700万ドルとなった。バーレは08年12月、コロンビアのセメントス・アルゴスが保有する石炭鉱山を3億ドルで買収すると発表。バーレはモザンビークにも所有する石炭鉱山で、28億ドルを投じて石炭による火力発電所の建設プロジェクトを実施するとしている。

対内直接投資は前年比30.2%増の438億8600万ドル。アルセロール・ミタ

ルは08年8月、ミナス州のイタチアイウスのロンドンマイニングブラジルの鉄鉱石鉱山を8億1000万ドルで買収すると発表。同年10月には、新日鉄、ポスコなど日韓企業連合が鉄鉱石鉱山を有するナミザの株式40%を31億2000万ドルで取得することを発表している。

08年の対日輸出額は、前年比41.5%増の61億1500万ドル、輸入額は47.7%増の68億700万ドルとなり、民政移管（85年）後では対日往復貿易額が初めて100億ドルを突破した。

08年の直接投資額は前年比8.8倍の40億9900万ドルとなった。この大幅増は前述のナミザの株式取得によるもの。また伊藤忠商事は08年9月、穀物メジャー・ブング傘下のエタノール生産企業への20%の資本参加を決め、投資総額8億ドルを見込んでいる。

08年7月に甘利経済産業相が訪伯した際、開発商工省と「日伯貿易投資促進合同委員会」の立ち上げに合意した。

役員名簿

名誉会頭 工藤章

顧問 後藤隆

貞方賢彦

顧問弁護士 佐伯ジョルジ

常任理事会

会頭 田中信 リベルコン・ビジネス

副会頭 石川清治 企業経営委員長/ YKKブラジル

日伯法律委員長

大前孝雄 日伯経済交流促進委員長 三井物産

新谷道治 マーケティング委員長 味の素

(4月11日就任)

峯川尚 移転価格税制委員長 ホンダ・サウスアメリカ

松田雅信	総務委員長	パナソニック
専任理事 渡邊裕司		ジェトロ
田中一男	企画戦略委員長	伊藤忠
		(4月11日就任)
阿部勇	異業種交流委員長	戸田建設
米倉立二郎	財務委員長	南米安田保険
宮田次郎	企画戦略委員長	住友商事
杉山俊美		新日鉄
		(4月就任)
佐々木修	G I E 委員長	三菱商事
窪田敏朗	日系社会委員長	三井住友銀行
前田一郎	環境委員長	丸紅
和田亮	相互啓発委員長/	ブラジル日本通運
	会議所 70 周年記念委員長	

2008 年度理事会社及び監事会

理事会社	代表者氏名
1 味の素インテルアメリカナ	新谷道治
2 国際交流基金	西田和正
3 ブラデスコ銀行	山崎展生
4 三菱東京 UFJ 銀行	竹内明
5 ブラジル三井住友銀行	窪田敏朗
6 ブルーツリーホテル・パウリスタ	広瀬純子
7 CBC 重工業	原口正辰
8 NGK 特殊陶業	濱田隆男
9 ホス建設	鈴木ワグネル
10 戸田建設	阿部勇
11 日立ブラジル	西岡勝樹

12	イハラ ブラス	工藤英博
13	東山農産加工	尾崎英之
14	伊藤忠ブラジル	田中一男
15	日本航空・サンパウロ支店	小西弘恭
16	ジェトロ	佐々木光
17	K. TOYAMA コミュニケーション	遠山景孝
18	川崎重工	渋谷吉雄
19	ブラジル・コマツ	川辺淳郎
20	コニカ・ミノルタ・ビジネス・ソリューション	神谷功
21	クラシキ ド・ブラジル	須賀治
22	リベルコン・ビジネス	田中信
23	丸紅ブラジル	前田一郎
24	ブラジル メタル ワン	赤木浩
25	伯国三菱商事	佐々木修
26	三井アリメントス	島田武彦
27	ブラジル三井物産	中山立夫
28	三井住友保険	宮原弘幸
29	みずほコーポレート銀行	堀内勝
30	商船三井	廣瀬隆
31	ホンダ・サウスアメリカ	峯川尚
32	ムラタ・アマゾン	田中勤
33	ブラジル NEC	藤原智明
34	ブラジル日本通運	和田亮
35	新日鉄	杉山俊美
36	ブラジル日清紡	金原章
37	日清味の素アリメントス	斉藤孝之
38	NSK・ド・ブラジル	杉村秀一郎
39	日本郵船・サンパウロ駐在事務所	片山真人
40	オーノ & オシキリ 弁護士事務所	押切フラビオ
41	パナソニック・ド・ブラジル	松田雅信
42	パイロットペン	辻井可和
43	島津・ド・ブラジル	三分一克則
44	ブラジル双日	山田小次郎
45	ソニー・ブラジル	田村正博
46	ブラジル住友化学	松尾新一郎
47	ブラジル住友商事	伊藤友久
48	タカタ ペトウリ	長瀬周治

49	ブラジル・東京海上保険	原島朗
50	ブラジル東洋紡	河本暢夫
51	ブラジル・トヨタ自動車	長谷部省三
52	ツニブラ	大滝昌之
53	ブラジル・ユニチカ	今西暉夫
54	ヤコン コンサルタント	山下日彬
55	ヤクルト商工	貞方賢彦
56	ブラジル・ヤマハ	足立雅人
57	安田保険	米倉立二郎
58	YKK ブラジル	石川清治

監事会	山田唯資	監事会議長	個人会員
	中村敏幸		デロイト・トウシ
			ユ・トーマツ
	藤井敏晴		KPMG

08年度事業報告

総 会

- 3月14日 定期総会（於・マクスージ・プラザ・ホテル）
- 10月10日 臨時総会の理事選挙結果承認による2009/2010年度理事・監事リスト

常任理事会

- 1月11日 定例常任理事会（ブルーツリー・モロンビーホテル）
- 2月15日 定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
- 3月14日 定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
- 4月11日 定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
- 5月9日 定例常任理事会（グランメリア・モファレジ・ホテル）
- 6月13日 定例常任理事会（於・当所大会議室）
- 7月11日 定例常任理事会（於・ソフィテル・ホテル）
- 8月15日 定例常任理事会（於・グランド・ハイヤット・ホテル）
- 9月12日 定例常任理事会（於・ソフィテル・ホテル）

- 10月10日 定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
 11月14日 定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
 12月9日 定例常任理事会（於・当所大会議室）

監 事 会

- 2月22日 前年第4四半期の会計監査で監事会開催
 4月15日 第1四半期の会計監査で監事会開催
 8月13日 第2・四半期の会計監査で監事会開催
 10月1日 2009/2010年度理事・監事選挙の開票を実施
 10月17日 第3四半期会計監査で監事会開催

共催・後援・協力行事

- 1月15日 サンパウロ総領事館主催の日伯交流年オープングレセプション開催
 1月17日 満員御礼の日本・ブラジル経済シンポジウムは交流年の開催に相応しい、素晴らしいシンポジウムとなった
 1月17日 日伯交流年オープング式がイタマラチー宮で開催
 1月22日 総領事公邸で新旧役員との夕食会開催
 2月8日 日伯友好交流促進協会の臨時会合
 2月13日 サンパウロ州の日本移民100周年記念行事オープングセレモニー開催
 2月13日 2008年度上期の業種別部会長懇談会に110人が詰めかけ、急遽補助イスを用意した

開催挨拶

田中信会頭

挨拶

西林万寿夫総領事

・コンサルタント部会長代理	高山直己（ジャパン・デスク）
・金融部会長	藤井良治（東京海上保険）
・貿易部会長	佐々木修（伯国三菱商事）
・化学品部会長	松尾新一郎（ブラジル住友化学）
・機械金属部会長	嶋末繁（C B C 重工業）
・自動車部会長	峯川尚（ホンダ・サウスアメリカ）
・食品部会長	尾崎英之（東山農産加工）

	・電気電子部会長	松田雅信（パナソニック）
	・建設不動産部会長	阿部勇（戸田建設）
	・運輸サービス副部会長	森田透（三九ド・ブラジル）
	・繊維部会長	須賀治（クラシキ・ド・ブラジル）
	・講評	三田紀之経済産業省通商政策局米州課長
2月14日	田中信会頭は日本移民100周年協会の実行委員会に出席	
2月18日	渡邊裕司専任理事の帰国送別会に多数参加	
2月21日	日伯修好100周年基金助成承認プロジェクトの通知書・覚書の授与式	
2月21日	100周年記念実行委員会の臨時会議に田中信会頭が参加	
3月3日	田中会頭はサンパウロ経済視察団との懇親昼食会に出席	
3月5日	ジョゼ・セーラ聖州知事との夕食会開催	
3月6日	田中会頭は100周年実行委員会に出席	
3月7日	商議所改築お披露目パーティーに50人が参加	
3月25日	日伯修好100周年記念基金の助成会議開催	
3月31日	工藤名誉会頭、大前副会頭の合同送別会開催	
4月16日	青木保文化庁長官との懇談夕食会	
4月24日	【日本】日本ブラジル交流年/日本移民100周年記念式典に天皇、皇后両陛下、皇太子殿下が出席されて開催	
4月28日	【日本】日伯交流年・ブラジル移住100周年記念式典に皇太子殿下が出席	
5月16日	サライバ出版社がブラジル日本移民100周年関連で田中会頭にインタビュー	
6月5日	日本移民100周年記念実行委員会に田中会頭、窪田日系社会委員長が参加	
6月12日	日本移民100周年記念祝賀の宴に平田事務局長が参加	
6月14日	日伯交流シンポジウム開催式・講演会に平田事務局長が参加	
6月14日	日本青年会議所訪問団祝賀夕食会に田中会頭が出席	
6月16日	SBPNとの合同夕食会・講演会に竹中平蔵元経済財政政策大臣を迎え開催	
6月18日	海上自衛隊練習艦隊歓迎式に田中会頭が出席	

- 6 月 18 日 「移民の日」先駆者慰霊ミサに 1,000 人が参加してセー大聖堂で営まれた
- 6 月 18 日 皇太子殿下が大統領官邸で開催された移民 100 周年・日伯交流年式典にご出席
- 6 月 19 日 皇太子殿下が文協・移民史料館をご見学
- 6 月 20 日 衆議院議員慶祝団歓迎夕食会が開催
- 6 月 20 日 20 日にグラン・メリアホテルで皇太子殿下とのご接見
- 6 月 21 日 皇太子殿下ご臨席のもと、21 日のブラジル日本移民 100 周年記念式典に 3 万人が参加して盛大に開催された
- 6 月 21 日 西村康稔代議士との朝食会が 6 月 21 日にグラン・メリアホテルで開催された
- 6 月 21 日 皇太子殿下はセーラ知事主催の晩餐会にご出席
- 6 月 24 日 石川清治副会頭は日系社会貢献で名誉証と金メダルを授与
- 6 月 28 日 甘利明経済産業大臣との夕食会を総領事公邸で開催
- 6 月 30 日 甘利明経済産業大臣と企業家との夕食会開催
- 6 月 30 日 在伯日本企業とブラジル企業との合同会議を F I E S P で開催
- 8 月 7 日 業種別部会長シンポジウムに会場一杯の 98 人が参加

- ・司会の言葉 松田雅信総務委員長
- ・開催挨拶 田中信会頭
- ・コンサルタント部会長 佐々木光（ジェトロ）
- ・金融副部会長 須田一夫（東京海上保険）
- ・貿易副部会長 三分一克則（島津・ド・ブラジル）
- ・化学品部会長 松尾新一郎（ブラジル住友化学）
- ・機械金属部会長 西岡勝樹（ブラジル日立）
- ・自動車部会長 峯川尚（ホンダ・サウスアメリカ）
- ・食品部会長 新谷道治（味の素インテルアメリカナ）
- ・電気電子部会長 松田雅信（パナソニック）
- ・建設不動産部会長 阿部勇（戸田建設）
- ・運輸サービス部会長 和田亮（ブラジル日通）
- ・繊維部会長 本間昭一郎（オーミジロー・ロー

	レンゼッチ)
・ 講評	宮下匡之総務参事官
・ 講評	丸橋次郎首席領事
・ 閉会の辞	松田雅信総務委員長
8 月 26 日	2008 年自民党県議南米調査団一行と意見交換会
9 月 10 日	日伯友好交流促進協会の臨時会合開催
9 月 19 日	パラナ日伯商工会議所 30 周年記念式典シンポジウム開催
9 月 30 日	アメリカ商工会議所職員と 100 周年記念イベント開催で会合
10 月 9 日	ブラジル韓国商工会議所 25 周年式典開催
10 月 15 日	六本木男声合唱団倶楽部の歓迎パーティー開催
10 月 15 日	六本木男声合唱団・ブラジル公演に会議所会員が詰め掛けた
11 月 7 日	群馬経済同友会の南米経済視察団一行と意見交換
11 月 11 日	アメリカ商工会議所で開催された“ハッピー・マンデイ・ジャパン”に 300 人近くが参加
11 月 27 日	活発な意見交換が行なわれた官民合同会議は今までにない素晴らしい会合となった
12 月 4 日	西林万寿夫総領事/阿部勇理事歓送会開催
12 月 19 日	西林万寿夫総領事の送別会が文協貴賓室で盛大に開催

会員企業行事

1 月 30 日	田中会頭はトヨタ創立 50 周年記念式典に出席
5 月 6 日	前川製作所のアルジャ新工場披露パーティーに平田事務局長が参加
6 月 25 日	自動車部品メーカーのカンジコ・ド・ブラジルのサルト工場開所式が盛大に開催
10 月 3 日	スミデンソー・ブラジル 30 周年記念パーティー開催
10 月 10 日	カワサキ・モトーレス・ブラジル社設立記念パーティー開催
10 月 13 日	ブラジル三井住友銀行 50 周年設立パーティー開催
10 月 30 日	横河が創立 35 周年記念パーティー開催
11 月 24 日	ブラジル NEC 創立 40 周年パーティー開催
11 月 24 日	東京三菱 UFJ 銀行の 75 周年記念パーティー開催

委員会・部会の主な活動

一日伯法律委員会

- 2月18日 日伯法律委員会に31人が参加
テーマ：「法令11638/07号の株式会社法の変更について」
講師：矢野クラウジオ（日伯法律委員会副委員長）
テーマ：「会計基準法令について」
講師：チアゴ・ロウロ弁護士
テーマ：「法令11,196/05号で定められた技術イノベーションに対する優遇税についてそれぞれ」
講師：シジネイ・スタハル弁護士
テーマ：「輸出用包装材料のPIS及びCofinsの免除について」
講師：ペドロ・アンデレス弁護士
- 3月13日 日伯法律委員会に29人が参加
テーマ：「PAC プロジェクトのインフラ整備優遇税（REIDE）の特例について」
講師：ルイ・ロペス弁護士
テーマ：「税クレジットの補填、元本に対する利子優先について」
講師：サンドリア・ヴァルマニャ弁護士
テーマ：「工業化の推定利益に関する法人税及び純益に対する社会納付金について」
講師：チアゴ・ガルベロッチ弁護士
テーマ：「サンパウロ州の新製品に対する代替商品流通税について」
講師：アニー・マツムラ弁護士
- 4月11日 日伯法律委員会に40人が参加
テーマ：「M&A - 資産売買と新社主 - 申告と保障に関する条項について」
講師：マリア・カロリーナ・アラウージョ弁護士
テーマ：「商品流通サービス税 - サンパウロ州における新商品への課税代替について」
講師：ラッケウ・ジェジュス弁護士
テーマ：「税制改革の主要点として課税対象の税の種類の削減及び簡素化、連税と州税の付加価値税（IVA）の違いについて」

- 講 師：マウリシオ・バーロス弁護士
 テーマ：「法令 6339/08 号成立後の金融取引税（IOF）の改正
 では、廃案になった CPMF 税カバーのための税率ア
 ヅプ、特に個人に対する増税となっている現状」
- 講 師：ロベルト・コウチヤマ弁護士
 テーマ：「リコールとブラジルに於ける消費者権利では消費
 者保護法、キャンペーンの義務付け」
- 講 師：マクシミリアン・パスコアル弁護士
- 5 月 12 日 日伯法律委員会に 24 人が参加
 テーマ：「北東地域のリゾートホテルやコンドミニウムなど
 の共有財産所有について」
- 講 師：パトリシア・ロウレイロ弁護士
 テーマ：「連邦国税庁 600/2005 号の第 29 条-相殺申告認可に
 ついて」
- 講 師：ネルソン・スギモト弁護士
 テーマ：「企業組合について」
- 講 師：クラウジオ・ヤノ弁護士
 テーマ：「税制改革と税務闘争」
- 講 師：ジョージ・ザニネッテ弁護士
 テーマ：「労働者給食プログラム（PAT）の控除限度額解除に
 ついて」
- 講 師：アントニオ・エステーヴェス弁護士
- 5 月 14 日 税制変更セミナーに 93 人が参加（コンサルタント部会との共
 催）
 テーマ：「デジタル会計方式（ECB）及び法人の公共デジタル
 会計システム（SPED）」
- 講 師：ネルソン・スギモト弁護士
 テーマ：「税制改革の主要点」
- 講 師：マウリシオ・バーロス弁護士
 テーマ：「ICMS のリフォーム並びに IVA-F の導入」
- 講 師：ジョージ・ザニネッチ弁護士
 テーマ：「新しいセクターへの新税制 ICMS/SP」
- 講 師：アニー・マツムラ弁護士
 テーマ：「PIS/COFINS の基礎計算と ICMS との関連」
- 講 師：シジネイ・スタール弁護士
 テーマ：「ソフトウェア税制」
- 講 師：ジェオルジオス・アナスタシアジス弁護士

テーマ：「純益に対する社会納付金（CSLL）、PIS/COFINS について等」

講師：マルセロ・ロドリゲス弁護士

テーマ：「革新技術に対する優遇税」

講師：エリエッチ・リベイロ弁護士

テーマ：「法令 11638/2007 の変更として、株式会社改正法による会計、財務諸表の変更、国際会計基準に合わせるための変更点、会計監査純益の計算方法、吸収・合併、社債発行のプレミアム法人税、PIS/COFINS での効果などについて」

講師：エヴァニ・オリベイラ・パセ弁護士

6 月 12 日 日伯法律委員会に 33 人が参加

テーマ：「商品流通サービス税（ICMS）の金融面でのインパクト-税徴収代替システムとして、サービス税の比較や承認などについて」

講師：フェルナンダ・バルボーザ弁護士

テーマ：「暫定措置令 MP-428 号/2008 で規定されている IT 分野向け恩典について、解りづらい IT 分野範疇の解釈、ブラジル労働法（CLT）、減税恩典範囲などについて」

講師：アドリアナ・メロ弁護士並びにフェルナンド・リマ弁護士

テーマ：「暫定措置令 MP428 号/2008 の税制恩典政策について」

講師：クラウジオ・ヤノ副委員長

テーマ：「2008/2007 年度における法人税（DIPJ）の申告についての新规定で、変更点や注意点などについて」

講師：ロベルト・コウチャマ弁護士

テーマ：「サービス税（ISS）変更点や規定、契約書のチェックポイントなどについて」

講師：エドアルド・ロッカ弁護士

7 月 10 日 日伯法律委員会に 31 人が参加

テーマ：「法律第 11,727 号/2008 の第 22 及び 23 条、移転価格について」

講師：矢野クラウジオ副委員長

テーマ：「デジタル会計の公共システムについて」

講師：ファビオ・フロレンチーノ弁護士

- テーマ：「支払い請求書と賠償の相殺」
 講 師：パウロ・エンリケ弁護士
 テーマ：「投資基金への資本参加での税制面」
 講 師：ロベルト・コウチャマ弁護士
- 8 月 18 日 日伯法律委員会には 43 人が参加
 テーマ：「経理のデジタル化に係る公共システム」
 講 師：エルソン・ブエノ弁護士
 テーマ：「仕事場での電子メールの秘守とインターネット操作」
 講 師：ルイス・アロウシェ弁護士
 テーマ：「輸送サービスに対する商品流通サービス税の免除」、ジョナタン・ヴィタ弁護士は「商品流通サービス税-同税徴収代替」
 講 師：レオナルド・コルデイロ弁護士
 テーマ：「ブラジルから海外への送金方法」
 講 師：ロベルト・コウチャマ弁護士
- 9 月 11 日 日伯法律委員会に 47 人が参加
 テーマ：「社会統合基金 (PIS) / 社会保険融資納付金 (Cofins) - 会社間輸送料クレジットについて」
 講 師：アリニ・パラジニ弁護士
 テーマ：「インフラプロジェクトへのリスクの割当について等」
 講 師：ジュリオ・セザール・ブエノ弁護士、アレサンドラ・クリハラ弁護士
 テーマ：「輸送サービスに対する商品流通税 (ICMS) 免除について等」
 講 師：ロビンソン・ラモス弁護士
 テーマ：「税制上のデジタル簿記の公共システム (SPED) の難点について等」
 講 師：セルジオ・シルバ弁護士
- 10 月 30 日 日伯法律委員会に 38 人が参加
 テーマ：「法律 11638 号/2007 の税務面について」
 講 師：クラウジオ・ヤノ弁護士
 テーマ：「外国労働者の出国時の税務面とビザ手続きに関する課題」
 講 師：ロソーノ・デアン弁護士
 テーマ：「残業手当に対する社会保障負担金」

- 講師：ファービオ・ベルベル弁護士
 テーマ：「ブルーラインの迅速通関処理について」
 講師：エルソン・ブエノ弁護士
- 11月13日 今年最後の日伯法律委員会の月例会に30人が参加
 テーマ：「省令222号/08-移転価格税率に対する割合とマー
 ジンの変更について」
 講師：ダニエル・アントニオ・ペリン弁護士
 テーマ：「商品流通サービス税徴収代替適用新商品-税制、財
 政面での影響について」
 講師：フェルナンダ・バルボーザ弁護士
 テーマ：「法令11.638号/07-株式会社法の税務面、特に投資
 醸成金の変更について」
 講師：フェリッペ・ロッシヤ弁護士
 テーマ：「労働契約の守秘と比競合についての条項の法律面
 について」
 講師：ルイス・アロウシェ弁護士
 テーマ：「法令6.613号/08-金融取引税（IOF）の変更につい
 て」
 講師：ロベルト・コウチャマ弁護士

一企業経営委員会

- 2月22日 労働問題研究会に22人が参加
 テーマ：「収益性アップの管理方式」
 講師：ジュリオ・セザール・オリベイラ（ABS社）
- 3月28日 労働問題研究会に39人が参加
 テーマ：「アウトソーシング契約における労働・福祉面での
 義務履行の検証」
 講師：フェルナンド・アザール（デロイト社労働・福祉部
 門マネージャー）
- 4月3日 ビザセミナーに97人が参加
 テーマ：「外国でのブラジル人労働者について&ブラジルの
 外国人労働者-入国管理政策の現状」
 講師：パウロ・セルジオ・デ・アルメイダ（労働雇用省移
 住審議会会長）、吉岡黎明（救済会会長）、渡部和夫
 （文協評議会会長）、
- 4月17日 労働問題研究会開催

- テーマ：「経営戦略とバランス・スコアカード」
 講師：ダヴィジ・カラス（IBMEC 大学教授、Kallas コンサルタント社共同経営者）
- 6 月 18 日 労働問題研究会に 22 人が参加
 テーマ：「ソフトウェア輸出企業への社会福祉税率の引下げ」
 講師：ラウロ・レイテ（アーネスト&ヤング社労働・社会保障関係担当部長）
 テーマ：「どのように人材流出を防ぐか」
 講師：ネリ・バルボーザ（マネージャー・リクルート社コンサルタント部門部長）
- 7 月 21 日 労働問題研究会に 20 人が参加
 テーマ：「法律事務所内部の経営・管理」
 講師：クライトン・ムネヒロ・フルゲン弁護士
- 8 月 25 日 労働問題研究会に 29 人が参加
 テーマ：「管理職に関係する司法問題」
 講師：リカルド・キヨシ・ササキ弁護士
 テーマ：「GFIP に伝える情報に対する企業責任と社会保証金徴収コントロールへのインパクト」
 講師：アドリアナ・ソアレス・ロッジ弁護士
- 9 月 19 日 労働問題研究会に 51 人が参加
 テーマ：「外国人労働者のビザ、就業規定」
 講師：ファービア・ベルナルデ（プライス・ウォーターハウス社労働部門ディレクター）
 フラビア・フェルナンデス（同社上級部長）
- 10 月 17 日 労働問題研究会に 37 人が参加
 テーマ：「ブラジル国内での外国人雇用に関する一般的な過ち」
 講師：ロサーノ・ジアン弁護士

一環境委員会

- 9 月 4 日 環境セミナー
 テーマ：「地球温暖化ガス排出削減の現状と今後の見通し」
 講師：内田肇（ブラジル三井住友銀行地球環境部長）

一コンサルタント部会

- 4 月 1 日 株式会社法改正会計、財務諸表基準変更セミナー開催

- 講 師：中村敏幸（デロイト監査法人パートナー）
都築慎一（同社ディレクター）
- 5 月 29 日 「知的財産権保護に関する勉強会」に（財）知的財産研究所ワシントン事務所の澤井智毅所長を招いて開催した（企画戦略委員会との共催）
- 7 月 29 日 第 2 回知的財産権保護に関する勉強会に 35 人が参加（企画戦略委員会との共催）
- 講 師：吉村一元（在ブラジル日本大使館一等書記官）
岡本正紀（経済産業省模倣品対策・通商室専門官）
- 8 月 14 日 会計セミナー「在外子会社会計方針統一について」に 45 人が参加
- 講 師：中村敏幸（デロイト監査法人パートナー）
都築慎一（同社ディレクター）
- 8 月 28 日 デジタルTVセミナーに 35 人が参加（企画戦略委員会との共催）
- 講 師：山中強司（中京テレビ専務取締役）、横尾忠晃（電波産業会理事）
- 9 月 24 日 近藤健書記官の政治セミナーに 27 人が参加して開催

一建設不動産部会

- 11 月 26 日 建設不動産部会の UFFICIO MACKEY IND DE MOVEIS LTDA 社の家具工場見学会に 16 人が参加

定例昼食会

- 1 月 11 日 新年会に 140 人が参加
- 2 月 15 日 懇親昼食会
テーマ：「矯正レーザー手術について」
講演者：飛田雄史リチャード（眼科医）
- 3 月 17 日 懇親昼食会に 134 人が参加
・テーマ：「ブラジルと日本の観光業の傾向」
講演者：カイオ・カルバーリョ（サンパウロ市観光公社総裁）
・テーマ：「ベロ・オリゾンテ市について」
講演者：フェルナンド・ピメンテル（ベロ・オリゾンテ市市長）

- 4月11日 懇親昼食会に134人が参加
- 5月9日 懇親昼食会
テーマ：「トカンチンス州への投資チャンス」
講演者：マルセロ・ミランダ（トカンチンス州州知事）
- 7月11日 懇親昼食会
テーマ：「工業所有権の戦略的な利用-在ブラジル企業の強化と普及における INPI の役割」
講演者：リタ・ピニエイロ・マシャード（国立工業所有権院情報テクノロジー部門担当理事）
- 8月15日 懇親昼食会に105人が参加
テーマ：「リーダーになるためのリーダーシップ」
講演者：斉藤準一（空軍総司令官）
- 9月15日 懇親昼食会に135人が参加
テーマ：「鉄鋼業界の現状、ウジミナスのプロジェクトと挑戦」
講演者：マルコ・アントニオ・カステロ・ブランコ（ウジミナス社長）
- 10月10日 懇親昼食会で橋本宏元駐オーストリア大使が講演
- 11月17日 懇親昼食会に120人が参加
テーマ：「最近のブラジル沖岩塩下海底大油田と天然ガスの発見について」
講演者：シゲアキ・ウエキ（元鉦山動力大臣）
- 12月19日 西林万寿夫総領事歓送会を兼ねた忘年会に190人が参加

2009年

2008 年後半以降の世界的な金融危機と同時不況に対処すべく、政府は耐久消費財や建築資材の暫定的な減税や融資枠の増大など、大規模な財政出動を要する景気対策を実施してきた。このような政府の積極的な施策により、ブラジルは世界の中でも相対的に早く不況から脱することができたといえる。

2009 年のブラジル経済は、政府・中銀は、経済成長回復に向けた取組に力を注ぎ、世界経済・金融危機の影響によるリセッションからの脱却を目指した。金融危機直後の資金流動性不足対策（強制預託金解除、外貨準備を活用した外貨資金提供等）、急激な通貨（レアル）安に対する為替介入など、財政・金融政策がうまく機能した。

また、欧米と比較しても健全とされる国内金融システムとも相俟って、過去のグローバルな経済危機とは異なりブラジル経済に大きな混乱が生じることはなかった。

景気後退が進行する中、政府は、消費刺激策、雇用情勢の悪化防止策として、自動車、白物家電、建設資材などにかかる IPI（工業製品税）減税を実施。2010 年 1 月末に期限が来る自動車に対する工業製品税（IPI）の減税措置をフレックス対応車に限り 3 月末まで延長。また、建築資材に関しては、今年の年末が期限であった減税措置をさらに 6 ヶ月間延長することに加え、新規の減税措置として新たな建築資材の品目に対し、工業製品税を来年 3 月末まで免税するというものである。しかし今回の一連の減税策に対しては、連邦政府よりも州と市の地方政府の負担がより大きい点や、来年の大統領選挙との関連性を批判する声も上がった。

政府は、国庫から BNDES への 1000 億レアルの資金融資（2010 年には更に 800 億レアル追加）のほか、BNDES による低金利融資、中小企業向けの融資制度の強化を図るなど、消費刺激策とともに投資促進を図る政策も実施した。

一方、中央銀行は金融緩和による経済活動の活性化を一つの目的として、政策誘導金利（Selic）を今年に入ってから 13.75% から 8.75% まで引き下げた。9 月以降はその効果を見極めるとして据え置きが続いたが、金利水準は二桁を割り込み史上最低水準にまで低下することとなった。

また金融危機発生直後の海外資金の引き上げの進行が要因となり、中央銀行は急激に進んだレアル安への対応を迫られたが、徐々に世界の景気が回復に向かい海外資金の流入が再開。ブラジル経済に対する今後への高い期待感の表れとなったものの、結果として中銀によるドル買い為替介入、政府は海外からの証券投資に対して 2% の IOF（金融取引税）課税を開始するなど、一転してレアル高対策を余儀なくされることとなった。結果的に 2009 年の取引は

US\$1=R\$1.7404（買値）で終え、2009年の為替市場では1年を通してドル安レアル高が進み、レアルは対ドルで2008年末比25.5%の上昇となった。

ブラジル経済は、旺盛な国内消費に支えられ成長を継続。雇用情勢は09年後半になってから回復の勢いを強め、失業率も史上最低水準にまで低下した。09年12月に最低賃金が465レアルから510レアルに引き上げられ、10年1月から実施された。

09年は、国際金融におけるブラジルの存在感が高まった1年ともなった。金融危機下において、G20の枠組みが国際経済協力を担うフォーラムとして重要度を増しつつある中で、新興国の代表としてブラジルは発言力を強めていった。6月にはIMFへの100億ドルの資金提供を表明し、初めてIMF債権国の仲間入りを果たした。11月にはIMFのNAB（新規借入取決）への40億ドルの貢献も表明。世界8位のGDP、2300億ドルを超える外貨準備を抱えるブラジルの国際経済・金融界におけるプレゼンスはますます高まることが予想される。

役員名簿

<u>顧問</u>	後藤隆		
	貞方賢彦		
<u>会頭</u>	田中信	リベルコン・ビジネス	
<u>副会頭</u>	中山立夫	日伯経済交流促進委員長	三井物産
	長谷部省三		トヨタ
	新谷道治	日系社会関係委員長	味の素(6月退任)
	松田雅信	日伯法律委員長	パナソニック
	前田一郎	相互啓発委員長	丸紅
<u>専任理事</u>	伊藤友久	マーケティング広報委員長	住友商事
	佐々木光	会議所70周年委員長	ジェトロ
	近藤正樹	総務委員長	三菱商事
	和田亮	異業種交流委員長	ブラジル日本通運

杉山俊美 環境委員長
米倉立二郎 財務委員長
田中一男 企画戦略委員長

新日鐵
南米安田保険
伊藤忠（4月退任）

2009 年度理事会社及び監事会

理事会社（ABC 順）	代表者名
1 味の素	高藤悦弘
2 ブラデスコ	山崎展生
3 三菱東京UFJ銀行	竹内明
4 三井住友銀行	窪田敏朗
5 ホテル ブルーツリー	広瀬純子
6 CBC重工	原口正辰
7 ブラジル特殊陶業NGK	林恭平
8 チガミ保険	地上弥須夫
9 ホス建設	ワグネル鈴木
10 戸田建設	林恒清
11 ダイカラー	大澤巖
12 ダイワ紡	高木博
13 ブラジル日立	西岡勝樹
14 ホンダ	峯川尚
15 イハラプラス化学工業	工藤英博
16 東山農工	岡橋亮輔
17 伊藤忠	鷺巣寛
18 日本航空サンパウロ支店	小西弘恭
19 ジェトロ	佐々木光
20 川崎重工	渋谷吉雄
21 ブラジル・コマツ	櫻井直之

22	コニカ ミノルタ	神谷功
23	クラシキ	上野秀雄
24	リベルコン・ビジネス	田中信
25	リベルコン 人材コンサルタント	フェルナンド高田
26	丸紅ブラジル	前田一郎
27	マエカワ ブラジル	大井直樹
28	メタル ワン	赤木浩
29	三菱商事	近藤正樹
30	三井物産	中山立夫
31	三井食品	島田武彦
32	三井住友保険	宮原弘幸
33	みずほ銀行	堀内勝
34	商船三井	寺元清隆
35	N E C	藤原智明
36	ニアグロニチレイ	セヴェリーノ・マルセ
		リーノ・ダ・シルバ
37	ブラジル日本通運	和田亮
38	新日鐵	杉山俊美
39	日清紡	金原彰
40	N S K ド・ブラジル	村田一成
41	日本郵船	今井達也
42	大野・押切弁護士事務所	フラビオ押切
43	パナソニック	松田雅信
44	パイロットペン	佐野典久
45	プリモテック 21	三好康敦
46	ブラジル島津	加藤彰彦
47	ソニー	筒井隆司
48	ブラジル住友化学	松尾新一郎
49	ブラジル住商	伊藤友久
50	タカタ ペトリ	大竹茂

51	ブラジル東京海上	原島朗
52	ブラジル・トヨタ自動車	長谷部省三
53	ユービック	ルイス岐部
54	ユニチカ	岡田幸平
55	ヤコン	山下日彬
56	ヤクルト	貞方賢彦
57	ヤマハ モーターズ	久米豊
58	安田保険	米倉立二郎
59	YKKブラジル	河本眞一

監事会	山田唯資	監事会議長	個人会員
	中村敏幸		デロイト・トウシュ・
			トーマツ
	藤井敏晴		KPMG

09年度事業報告

総 会

3月13日 定期総会（於・マクソード・プラザ・ホテル）

常任理事会

1月9日	定例常任理事会（於・ブルーツリー・モロンビーホテル）
2月13日	定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
3月13日	定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
4月17日	定例常任理事会（於・グランド・ハイヤット・ホテル）
5月8日	定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
6月19日	定例常任理事会（於・ブッフエ・コロニアル）
7月17日	定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）
8月14日	定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
9月11日	定例常任理事会（於・マクソード・プラザ・ホテル）

- 10月9日 定例常任理事会（於・チボリ・ホテル）
 11月13日 定例常任理事会（於・インターコンチネンタル・ホテル）
 12月8日 定例常任理事会（於・当所大会議室）

理 事 会

- 11月19日 臨時理事会で2010年度常任理事選挙実施及び結果承認

監 事 会

- 1月16日 昨年の最終四半期の会計監査で監事会開催
 4月27日 09年第1四半期監事会開催
 8月7日 今年第2四半期の業務・会計監査で監事会開催
 10月21日 今年第3四半期の業務・会計監査で監事会開催

共催・後援・協力行事

- 1月6日 新年祝賀会に400人が参加
 1月15日 南米自然保護プロジェクト視察ミッション団と環境問題について意見交換会を開催
 1月16日 経団連環境保護協議会の視察団歓迎夕食会開催
 1月22日 大部一秋総領事の常任理事による歓迎昼食会がレストラン新鳥で開催
 1月23日 大部一秋総領事御夫妻歓迎祝賀会が文協貴賓室で盛大に開催
 2月5日 大部総領事主催懇親会開催
 2月17日 09年度上期の業種別部会長シンポジウムに120人が参加

・司会	近藤正樹総務委員長
・主催挨拶	田中信会頭
・コンサルタント部会長	都築慎一（デロイト・トウシュ・トーマツ）
・金融部会長	山崎展生（ブラデスコ）
・貿易部会長	伊藤友久（ブラジル住友商事）
・建設不動産部会長代理	大滝守（ホス建設）
・機械金属部会長	西岡勝樹（ブラジル日立）
・自動車部会	長谷部省三（ブラジル・トヨタ自動車）

	・電気電子副部長	三好康敦（プリモテック 21）
	・化学品部会長	松尾新一郎（ブラジル住友化学）
	・食品部会長	尾崎英之（東山農産加工）
	・運輸サービス部会長	和田亮（ブラジル日通）
	・繊維部会長	本間昭一郎（オーミジロー・ローレンゼッチ）
	・講評	大部一秋総領事
	・コメント	経済産業省通商政策局 赤星 康 米州課長
	・閉会の辞	近藤正樹総務委員長
2月20日	第1回日伯貿易投資促進委員会が2月19日から20日までブラジリアで開催	
3月12日	大部一秋総領事の着任レセプション開催	
3月24日	移転価格税制問題の意見交換会開催	
5月13日	島内憲大使の講演会「世界経済・金融危機と日伯関係について」に100人近くが参加して開催	
5月14日	JBN TV局と総領事公邸で懇親会	
6月17日	大使館で地上デジタルTV日伯方式デモ	
7月1日	第1回日伯貿易投資促進合同委員会の報告会開催	
7月1日	第3回知的財産権保護に関する勉強会に38人が参加、開催	
7月15日	移転価格税制ワーキンググループ会合では大いに意見交換	
7月29日	丸橋次郎首席領事夫妻送別会開催	
8月18日	業種別部会長シンポジウムに114人が参加	
	・司会	近藤正樹総務委員長
	・開催挨拶	田中信会頭
	・コンサルタント部会長	都築慎一（デロイト・トウシュ・トーマツ）
	・金融部会長	山崎展生（ブラデスコ）
	・貿易部会長	伊藤友久（ブラジル住友商事）
	・建設不動産部会長代理	大滝守（ホス建設）
	・機械金属部会長	西岡勝樹（ブラジル日立）
	・自動車部会長	長谷部省三（ブラジル・トヨタ自動車）
	・電気電子副部長	三好康敦（プリモテック 21）
	・化学品部会長	松尾新一郎（ブラジル住友化

	・食品部会長	学) 斎藤孝之（日清味の素アリメントス）
	・運輸サービス部会長	畠山研治（K ライン）
	・繊維部会長	金原彰（ブラジル日清紡）
	・講評	島内憲大使
	・コメント	大部一秋総領事
	・閉会の辞	近藤正樹総務委員長
9 月 8 日	大阪・サンパウロ姉妹都市提携 40 周年記念事業の大阪市ミッションとの意見交換会	
9 月 15 日	第 2 回日伯貿易投資促進合同委員会の会合が東京で開催	
9 月 25 日	ノンフィクション作家山根一真氏の「環業革命～エコ時代の日本のモノづくりと世界貢献」に 100 人以上が参加して開催	
9 月 28 日	ブラジル日本研究者協会（SBPN）が 3 日間に亘り元総務大臣の竹中平蔵慶大教授などが講演	
10 月 19 日	平成 21 年在伯官民合同会議をブラジリアで開催	
10 月 20 日	第 23 回（平成 21 年度）貿易会議は聖市内ホテルで開催	
10 月 26 日	田中信会頭は第 17 回国際輸送展示会オープニングセレモニーに参加	
10 月 26 日	田中信会頭はサンベルナルド市役所国際課主催の第 1 回多国間国際経済・貿易フォーラムに参加	
10 月 29 日	「日本移民 100 周年評価シンポジウム」に島内憲大使はじめ多数参加して開催	
11 月 3 日	国土交通省主催のサンパウロ都市交通・都市整備セミナー開催	
11 月 9 日	田中信会頭はアレンカール副大統領の F I E S P 名誉総裁就任式に出席	
11 月 25 日	田中信会頭の勇退挨拶並びに中山立夫新会頭の就任挨拶で記者会見	
12 月 8 日	会頭交替懇親夕食会がレストラン新鳥で開催	
12 月 15 日	島内憲大使との懇談会がブラジリアの大使公邸で開催	

会員企業行事

3 月 6 日 ブラジル N G K 創立 50 周年パーティーがモジ市で盛大に開催

- 5 月 22 日 南米安田保険は創立 50 周年記念式典を盛大に開催
- 6 月 3 日 CGC GEOTECNICA E CONSTRUÇÕES LTDA がオープニング式
- 8 月 7 日 三菱電機ブラジル FA センター開所記念セミナーに田中会頭、平田事務局長が参加
- 8 月 24 日 ブラジル日本通運、創立 30 周年記念式典を開催
- 10 月 14 日 ブラジルアステラス製薬がオープン式
- 11 月 12 日 ウジミナスグループ新会社ソルソンエス・ウジミナス設立イベント
- 11 月 18 日 スポットライトホテルオープニング式開催
- 11 月 18 日 ヤチョ・ド・ブラジルはリメイラ市の樹脂リメイランク工場の定礎式

委員会・部会の主な活動

一日伯法律委員会

- 1 月 22 日 日伯法律委員会に 43 人が参加
 テーマ：「社会統合基金/社会保険融資納付金課税標準における商品流通サービス税/移転価格計算からの除外」
 講 師：ジュリアナ・マクソウド弁護士
 テーマ：「法令第 243/2002 号の違法性 –このテーマについての論議のレジメと行政判断」
 講 師：フェリッペ・ロッシヤ弁護士
 テーマ：「オンライン差押えの影響について」
 講 師：アドリアナ・メロ弁護士
 テーマ：「暫定措置令 449 号 一般的租税面」
 講 師：ロベルト・コウチャマ弁護士
- 3 月 12 日 》 日伯法律委員会に 41 人が参加
 テーマ：「暫定令 449 号のインパクト」
 講 師：チアゴ・ヴィエイラ・ロッシヤ弁護士
 テーマ：「移転価格税制の C P L と P R L 60% の計算方法で再販価格比準法と原価基準法の算定方法、不合理な利益率などについて」
 講 師：エズソン・ジョゼ・ダ・コスタ弁護士

- テーマ：「過渡期の税収」
 講師：マルセロ・ロドリゲス弁護士
- 4月2日 日伯法律委員会でSPEDやワーキング・ビザについて講演
 テーマ：「技術革新-化学技術省の理解と恩典実行への障害」
 講師：グラウシオ・グロトリ弁護士
 テーマ：「デジタル簿記公共システム（SPED）への登録-主な課題」
 講師：ロザーナ・ドス・サントス弁護士
 テーマ：「海外労働者のブラジル国内勤務のワーキング・ビザ獲得の権利、期間、税制、管理職に対するパーマネント・ビザの取得注意点などについて」
 講師：レネ・ラモス弁護士
 テーマ：「新ルアネー法と対スポーツ恩典法-文化とスポーツを支援する租税メカニズム」
 講師：フェリペ・バルボーザ弁護士とアンドレ・シッカ弁護士
- 5月14日 日伯法律委員会に50人近くが参加
 テーマ：「誓定措置令449号の変更」
 講師：フェルナンド・マルチンス弁護士
 テーマ：「電子アーカイブ:納税者への通告（訓令第86号とデジタルアーカイブ規制マニュアル - 最近の連邦国税庁の召喚状）」
 講師：ロドリゴ・ムニョス弁護士
 テーマ：「コンプライアンス - 社内と企業リスク管理のベスト・プラクティス」
 講師：アナ・レゴ弁護士
 テーマ：「法人所得税と純益に対する社会納付金30%の損失補填 - 連邦最高裁判所の判決」
 講師：マルクス・ジュンケイラ弁護士
 テーマ：「最近の日本税制改革」
 講師：ヴァルテール・シミズ弁護士
- 6月18日 日伯法律委員会に48人が参加
 テーマ：「ブラジルからの輸出に於ける為替の問題：外国に資金を保持する可能性、海外融資（輸出の前払い）、レアルでの支払い」
 講師：モニカ・フェレイラ・レイチ弁護士
 テーマ：「技術革新 - 第11.196/05号法）税制恩典享受

条件等」

講 師：ルイス・アレシャンドレ・バルボーザ弁護士

テーマ：「間接輸入上の州税：注文輸入、個人・第三者輸入、
州政府間の税務戦争（Guerra Fiscal）、サンパウ
ロとエスピリト・サント間の条約」

講 師：ジョージ・エンリケ・ザニネッチ弁護士

テーマ：「税務及び会計デジタル簿記の公共システム（SPED）
－ 政策、フロー、訴訟、内部統制と組織管理」

講 師：ノマミ・ウエノ（ウエノ・プロヒット社取締役）

テーマ：「健康疾患による労働手当計算の基準」

講 師：フェルナンダ・ソウザ弁護士

7 月 16 日 日伯法律委員会に 48 人が参加

テーマ：「社会総合基金(PIS)/社会保険融資納付金(COFINS)
－ 減価償却費のクレジットについて」

講 師：アリーネ・ラヴィエリ弁護士（マラフォン弁護士
事務所）

テーマ：「技術移転：法的処理－国立工業所有権院(INPI)か
らのコメント」

講 師：フラヴィア・アマラウ弁護士（トレンチ、ロッシ
& ワタナベ弁護士事務所）

テーマ：「訓令第 949/09 - RTT と FCONT について」

講 師：ロベルト・コウチヤマ弁護士（デロイト）

テーマ：「駐在員の報酬 - 日本税務当局の最近の疑問につ
いて」

講 師：ヴァルテル・シミヅ弁護士並びにアドリアナ・
ソアーレス弁護士（K PMG）

テーマ：「移転価格税制について」

講 師：リカルド・カリル弁護士（ピニエイロ・ネット弁
護士事務所）

8 月 13 日 日伯法律委員会に 33 人が参加

テーマ：「分割払い：共同省令 PGN/RFB-2009 年 6 月」

講 師：エヴァニ・オリベイラ・パセ弁護士

テーマ：「サンパウロ州喫煙禁止法」

講 師：エリザンジェラ・ゾルゾ弁護士

テーマ：「商品流通サービス税（ICMS）－Substituição
Tributária：電子及び IT 機器操作への応用」

講 師：ルイス・バルバーザ弁護士

- テーマ：「在ブラジル日本企業で評価の高い、知名度がある有名なブランド」
 講師：エリカ・アオキ弁護士
- 9月10日 日伯法律委員会に51人が参加
 テーマ：「新権利保障令状法」
 講師：ルイス・バセッチ弁護士
 テーマ：「輸入に対する商品流通サービス税（ICMS）に関わるサンパウロ州とエスピリト・サント州間の論争の終始」
 講師：マウリシオ・バーロス弁護士
 テーマ：「運送料に対する社会統合基金（PIS）/社会保険融資納付金（COFINS）クレジットの利用：ブラジル連邦国税庁見解の矛盾」
 講師：フェリッペ・バルシメリ弁護士
 テーマ：「2009年の法律第11962号と海外へのブラジル人派遣に対する新しいルール」
 講師：ロサーノ・ジアン（デロイト）
- 10月8日 日伯法律委員会に41人が参加
 テーマ：「RAT（労働災害リスク、旧SAT（労災保険））及びFAP（災害防止ファクター）への分担金：評価と該当性の必要」
 講師：ジュリアナ・ダ・シルバ・シニア（ブラガ&マラフォン弁護士事務所役員）
 テーマ：「連邦国税庁訓令900/08号：裁判上、租税が非償弁済と決定した場合の行政相殺手続き」
 講師：カミーラ・カツンダ弁護士
 テーマ：「2009年11.941法の施行後、セキュリティ負債にて不適切な社員責任：法学での革新」
 講師：ルッカス・ブリット弁護士
 テーマ：「会計監査コントロール」
 講師：クラウジオ・ヤノ（アーネスト・ヤング法律事務所部長）
- 11月12日 日伯法律委員会に45人が参加
 テーマ：「SPED（税務及び会計デジタル簿記の公共システム）FCONT：暫定税務会計コントロール」
 講師：リカルド・パスコアル弁護士
 テーマ：「移転価格：利率の変更」

- 講 師：エジネイ・コチ弁護士
テーマ：「サービス課税伝票の電子化プロジェクト」
講 師：リヴィア・ナオミ・ヤマモト弁護士
テーマ：「金融危機における税務回復プログラム（REFIS）」
講 師：レナト・カオモ弁護士
- 11 月 18 日 外国人労働者：入国管理政策の現状に関するセミナーに 80 人が参加
講 師：ラルフィ・ピーター・ヘンデスロン（外務省入国管理課主任）
アウド・カンジド・コスタ・フィーリョ（労働省入国管理課総務コーディネーター）

一企業経営委員会

- 1 月 29 日 労働問題研究会に 37 人が参加
テーマ：「派遣社員 - 法律面でのリスク緩和」
講 師：タイス・ガロ弁護士
- 2 月 19 日 労働問題研究会に 27 人が参加
テーマ：「外国人労働者雇用-技術援助契約書 X サービス提供
契約書、主な違いと法律面での影響」
講 師：エリカ・青木弁護士
- 3 月 19 日 労働問題研究会に 22 人が参加
テーマ：「経済危機における解雇計画」
講 師：パウロ・ラクト・アルメイダ弁護士
- 4 月 16 日 労働問題研究会に 30 人が参加
テーマ：「労働法の観点からの株式会社及び有 限会社役員の
法制度と資産に対する責任」
講 師：フェルナンダ・ガルセス・ソウザ弁護士
テーマ：「プロ解雇上の社会的責任-アウトプレースメント
（再就職支援）」
講 師：リカルド・シャビエール・リクルート社のエリオ・
テーラ社長
- 6 月 25 日 労働問題研究会に 38 人が参加
テーマ：「健康保険プラン」
講 師：ミホコ・シルレイ・キムラ弁護士
テーマ：「アウトソーシング契約に於ける労働・福祉面での義
務履行の検証並びに法令 11941/09 号で導入された社

会保障法規の変更」

- 7 月 23 日 講 師：フェルナンド・アザール弁護士
労働問題研究会に 20 人が参加
テーマ：「従業員や契約社員の特許」と題して、特許の権利の
帰属や有効期間、申請方法や用、特許権侵害や間接
侵害、意匠権、商標権、特許権の効力が及ばない範
囲等」
講 師：ニュートン・シルヴェイラ弁護士とクロヴィス・シ
ルヴェイラ（エンジニア）
テーマ：「年金計画」
- 8 月 20 日 講 師：ジャナイナ・ダ・シルヴァ弁護士
労働問題研究会に 47 人が参加
テーマ：「ブラジルに駐在する外国人に適応出来る労働・福
祉・税務法」
講 師：フラービア・フェルナンデス・シニアマネージャー、
タチアナ・カルモーナ・マネージャー（プライスウォーター
社）
- 9 月 17 日 労働問題研究会に 45 人が参加
テーマ：「電子タイムレコーダーシステム」
講 師：アドリアナ・ソアレス・ロジ（KPMG シニアマネー
ジャー）
テーマ：「労働訴訟における企業の共営者並びに経営管理担当
者の責任」
講 師：チアゴ・ラモス・バルボーザ弁護士
- 10 月 15 日 労働問題研究会に 35 人が参加
テーマ：「障害者のための法律及び雇用難の件」
講 師：アナ・ヴァレリア・ロガヴァソレール弁護士
テーマ：「災害防止ファクター：社会福祉税徴収への影響」
講 師：ルシエニ・フェレイラ弁護士、マリア・カルバーリ
ョ弁護士
- 11 月 26 日 11 月の労働問題研究会に 27 人が参加
テーマ：「労働災害防止ファクター」
講 師：ファブリシオ・トガシ弁護士
テーマ：「人事課 その業務と企業戦略」
講 師：アントニオ・カエターノ（人事コンサルタント）

一 会議所 70 周年記念委員会

- 3 月 10 日 第 1 回 70 周年記念委員会に 8 人が参加
—— 会議所 70 周年史編纂のために今後のスケジュールや編纂方法、編纂作業、経費、見積、資料や写真の整理などについて
- 5 月 12 日 70 周年記念委員会に 7 人が参加
—— 記録集作成、編纂方針、予算見積、ドラフト作成のスケジュール、写真やコメントの記載などについて
- 8 月 21 日 会議所 70 周年記念委員会に 8 人が参加
—— 会議所 70 周年記録集業務委託、今後のスケジュール、予算、経費、見積、資料や写真の整理などについて
- 11 月 19 日 4 回目の 70 周年記念委員会開催
—— 編纂方法、スケジュール、実施事項、データ編への挿入、写真の選定などを説明後、参加者が削除や挿入データなどについて

一 環境委員会

- 6 月 9 日 「環境で不況を吹き飛ばせるか〜グリーン・ニューディールの挑戦」上映会開催
- 6 月 16 日 カーボンクレジット取引セミナー開催
テーマ：「カーボンクレジット取引入門」
講師：チアゴ・ロッケ（三井住友銀行部長）
テーマ：「地球温暖化効果ガス」
講師：ルイス・カルネイロ（LatAm da Lloyd's 社部長）
テーマ：「三菱コーポレーションの CDM の取組」
講師：ダイキ・ツカハラ（三菱コーポレーション部長）

一 相互啓発委員会

- 11 月 10 日 「サンフランシスコ河流域プロジェクト」セミナー開催
講師：ジョアン・レイス・サンタナ・フィーリョ（国家統合省事務次官）

一 コンサルタント部会

- 5 月 27 日 「商業代理店契約」セミナーに 44 人が参加
講師：押切フラビオ弁護士
- 6 月 17 日 証券投資セミナー

- 講 師：今井恵美（グラジュアル証券日系部担当責任者）
- 8 月 25 日 「大企業でのコスト削減」セミナーに 45 人が参加
- 講 師：ファビオ・ペレス（デロイト社戦略・オペレーション部部長）
- 3 月 18 日 「金融危機下の南米 4 カ国の政治・経済・マーケット勉強会」に 58 人が参加
（企画戦略委員会との共催）

一食品部会

- 10 月 22 日 食品部会主催の「三井アリメントス焙煎工場見学会」に 32 人が参加

一建設不動産部会

- 10 月 7 日 YKK のサッシ工場見学会

一金融部会

- 4 月 24 日 金融取引現場の BM&F B o v e s p a 見学会に 40 人が参加

定例昼食会

- 1 月 9 日 島内憲大使を迎えて 2009 年 1 月 9 日の新年会に 140 人が参加
- 2 月 13 日 大部一秋総領事歓迎会並びに 2 月の定例懇親昼食会に 115 人が参加
- 3 月 13 日 懇親昼食会に 125 人が参加
- 4 月 17 日 懇親昼食会に 123 人が参加
テーマ：「大阪市との姉妹都市提携 40 周年ミッション」
講演者：ジルベルト・カサビ（サンパウロ市長）
- 5 月 8 日 懇親昼食会に 101 人が参加
テーマ：「パラナ 港湾の現在・将来の開発とポテンシャルイ」
講演者：ルイス・アルベルト・デ・パウラ・セザール（パラナ州パラナグア・アントニーナ港湾管理公社企業開発担当取締役）

- 6月19日 懇親昼食会に特別ゲストに飯星下議とウー下議が出席して開催
- 7月17日 懇親昼食会
テーマ：「バウルー市への企業誘致」
講演者：ロドリゴ・アゴスチーニョ（バウルー市長）
- 8月17日 懇親昼食会に90人が参加
テーマ：「ブラジルの大規模メディアから見た日伯関係」
講演者：ジョアン・カルロス・サアジ（バンデイランテスコ
ミニュケーショングループ社長）
- 9月11日 懇親昼食会
テーマ：「サンパウロ州における気候変動政策－2009年法案
001号」
講演者：オズワルド・ルコン（サンパウロ州環境局補佐官）
- 10月9日 懇親昼食会
テーマ：「ブラジルにおけるハイテク企業の歴史」
講演者：横田聡（エンブラエル前副社長）
- 11月13日 懇親昼食会
テーマ：「金融危機後のブラジルの展望」
講演者：アントニオ・パロッシ（連邦下院議員）、澤田洋典参
事官（日本大使館政務班）
- 12月10日 田中会頭7年間の功績を労い大盛況の忘年会

2010年度

役員名簿

名誉会頭 田中信 リベルコン・ビジネス

顧問 後藤隆
貞方賢彦

顧問弁護士 ジョージ蜂谷佐伯

会頭 中山立夫 三井物産

副会頭 長谷部省三 自動車部会長 トヨタ
近藤正樹 総務委員長 三菱商事
杉山俊美 環境委員長 南米新日鐵
松田雅信 日伯法律委員長 パナソニック

専任理事 林恒清 企業経営委員長 戸田建設
米倉立二郎 財務委員長 南米安田保険
前田一郎 日系社会委員長 丸紅
伊藤友久 渉外広報委員長 住友商事
佐々木光 日伯経済交流促進委員長 ジェトロ(6月11日まで)
会議所70周年記念委員長

和田亮 異業種交流委員長 ブラジル日本通運
鷺巣寛 企画戦略委員長 伊藤忠
西岡勝樹 相互啓発委員長 日立ブラジル

監事会 山田唯資 監事会議長 個人会員
中村敏幸 デロイト・トウシ

藤井敏晴

ユ・トーマツ

KPMG

役員名簿（2010年9月1日付）

<u>名誉会頭</u>	島内憲		在ブラジル日本国特 命全権大使
<u>名誉顧問</u>	大部一秋		在サンパウロ日本国 総領事
<u>会頭</u>	中山立夫		三井物産
<u>副会頭</u>	長谷部省三	自動車部会長	トヨタ
	近藤正樹	総務委員長	三菱商事
	杉山俊美	環境委員長	南米新日鐵
	松田雅信	日伯法律委員長	パナソニック
<u>専任理事</u>	林恒清	企業経営委員長	戸田建設
	米倉立二郎	財務委員長	南米安田保険
	前田一郎	日系社会委員長	丸紅
	伊藤友久	渉外広報委員長	住友商事
	澤田吉啓	日伯経済交流促進委員長	ジェトロ(7月16日付)
	和田亮	異業種交流委員長	ブラジル日本通運
		会議所70周年記念委員長	
	鷺巣寛	企画戦略委員長	伊藤忠
	西岡勝樹	相互啓発委員長	日立ブラジル
<u>監事会</u>	中村敏幸	監事会議長	デロイト・トウシ ユ・トーマツ
	藤井敏晴		KPMG

山田唯資
事務局長 平田藤義
顧問弁護士 ジョージ蜂谷佐伯

個人会員

2010 年度理事会社及び監事会

理事会社	代表者名
1 味の素	高藤悦弘
2 ブラデスコ	山崎展生
3 三菱東京UFJ銀行	竹内明
4 三井住友銀行	窪田敏朗
5 ホテル ブルーツリー	広瀬純子
6 CBC重工	原口正辰
7 ブラジル特殊陶業NGK	林恭平
8 チガミ保険	地上弥須夫
9 ホス建設	ワグネル鈴木
10 戸田建設	林恒清
11 ダイカラー	大澤巖
12 ダイワ紡	高木博
13 ブラジル日立	西岡勝樹
14 ホンダ	峯川尚
15 イハラプラス化学工業	工藤英博
16 東山農工	岡橋亮輔
17 伊藤忠	鷺巢寛
18 日本航空	小西弘恭
19 ジェトロ	佐々木光
20 川崎重工	渋谷吉雄
21 ブラジル・コマツ	櫻井直之

22	コニカ ミノルタ	神谷功
23	クラシキ	上野秀雄
24	リベルコン・ビジネス	田中信
25	リベルコン 人材コンサルタント	フェルナンド高田
26	丸紅ブラジル	前田一郎
27	マエカワ ブラジル	大井直樹
28	メタル ワン	赤木浩
29	三菱商事	近藤正樹
30	三井物産	中山立夫
31	三井食品	島田武彦
32	三井住友保険	宮原弘幸
33	みずほ銀行	堀内勝
34	商船三井	寺元清隆
35	N E C	藤原智明
36	ニアグロニチレイ	セヴェリーノ・マ ルセリーノ・ダ・ シルバ
37	ブラジル日本通運	和田亮
38	新日鐵	杉山俊美
39	日清紡	金原彰
40	N S K ド・ブラジル	村田一成
41	日本郵船	今井達也
42	大野・押切弁護士事務所	フラビオ押切
43	パナソニック 21	松田雅信
44	パイロットペン	佐野典久
45	プリモテック 21	三好康敦
46	ブラジル島津	加藤彰彦
47	ソニー	筒井隆司
48	ブラジル住友化学	松尾新一郎
49	ブラジル住商	伊藤友久

50	タカタ ペトリ	大竹茂
51	ブラジル東京海上	原島朗
52	ブラジル・トヨタ自動車	長谷部省三
53	ユービック	ルイス岐部
54	ユニチカ	岡田幸平
55	ヤコン	山下日彬
56	ヤクルト	貞方賢彦
57	ヤマハ モーターズ	久米豊
58	安田保険	米倉立二郎
59	YKKブラジル	河本眞一

監 事 会

2月2日 2009年最終四半期の業務・会計監査で監事会開催

共催・後援・協力行事

1月26日 南米研究会に20人が参加して開催
2月1日 大部一秋総領事主催の新旧役員意見交換会開催
2月8日 第2回移転価格税制WG2
2月9日 今年上期の業種別部会長シンポジウムに会場一杯の130人が参加

・司会	近藤正樹総務委員長
・ブラジル日本商工会議所会頭	中山立夫（三井物産）
・コンサルタント部会長	都築慎一（デロイト・トウシュ・トーマツ）
・金融部会長	宮原弘幸（三井住友保険）
・貿易部会長	伊藤友久（ブラジル住友商事）
・機械金属部会長	西岡勝樹（ブラジル日

	立)
・自動車部会長	長谷部省三（ブラジル・トヨタ自動車）
・電気電子部会長	三好康敦（プリモテック 21）
・繊維部会長	金原彰（ブラジル日清紡）
・化学品部会長	大澤巖（ダイカラー）
・食品部会長	齋藤孝之（日清味の素アリメントス）
・運輸サービス部会長	畠山研治（K ライン）
・建設不動産部会長代理	大滝守（ホス建設）
・在サンパウロ日本国総領事館	大部一秋総領事
・経済産業省通商政策局中南米室	山下浩司課長補佐
・在ブラジル日本国大使館	吉村一元一等書記官
・日伯法律委員会 副委員長	篠原一字
2 月 20 日	国交省長安政務官との意見交換会
2 月 25 日	労働問題研究会に 39 人が参加
	・テーマ：「労働関係法案とその企業への影響」
	講 師：上野 マミ（UENO PROFIT ASSESSORIAE CONTROLADORIA S/S.LTDA 取締役）
	・テーマ：「産休延長：企業・市民間プログラム（Programa Empresa-Cidadã）」
	講 師：フェルナンダ・ロペス労働専門弁護士

委員会・部会の主な活動

一日伯法律委員会

- 1 月 21 日 日伯法律委員会に会場一杯の 50 人が参加
- テーマ：「ストックオプションの課税」
- 講 師：セルジオ・ルペルシオ弁護士
- テーマ：「サンパウロでの租税代替と全国的情景：主な変更点、企業への影響及び傾向」
- 講 師：マミ・ウエノ（Ueno Profit Assessoria em Controladoria S/S Ltda 取締役）
- テーマ：「最近の移転価格法の改定：暫定措置令 472/09 号、

476/09 号及び 478/09 号」

講 師：ブルーノ・アシオーリ 弁護士

テーマ：「SPED（税務及び会計デジタル簿記の公共システム） / E-LALUR（実際利益確定簿のデジタルシステム：訓令 898 号）」

講 師：ヴィクトール・ズッカロ 弁護士

一 会議所 70 周年委員会

- 1 月 28 日 会議所 70 周年記念委員会に 10 人が参加して開催
・2010 年の会議所創立 70 周年に際しての記念行事の実施検討
および準備
・会議所 70 年記録集の作成

一 法律委員会

- 2 月 11 日 法律委員会に 40 人が参加
テーマ：「S I S C O S E R V（国際サービス業に関する統合システム）及び国際サービス業」
講 師：フラヴィオ・シッケイラ（シニアコンサルタント）
テーマ：「移転価格税制に対する直近の法律改正の影響」
講 師：フェルナンド・マルチンス 弁護士
テーマ：「暫定措置令 472/09 号による過小資本税制の新しいルール（thin capitalization rules）」
講 師：チアゴ・ロッシヤ 租税専門弁護士
テーマ：「第 13.918/09 法による I C M S（商品流通サービス税）法に関する主な改定」
講 師：アドリアナ・フィゲイレド 弁護士
テーマ：「連邦警察によるカルテル形成事業家の収監刑要望」
講 師：エリカ・アオキ 弁護士

定例昼食会

- 1 月 15 日 今年の新年会に 170 人が参加して記録を更新する盛況となった
- 2 月 12 日 懇親昼食会へエスタード紙の著名なコラムニストであるセルソ・ミンギ記者を迎えて開催

資 料 編

◇歴代会頭

◇会員数の推移

◇経済協力貢献者表彰／歴代被表彰者一覧

◇歴代年表

歴代会頭



初代 蜂谷 専一 1940年10月～1941年12月



2代 宮坂 国人 1951年5月～1952年4月



3代 羽瀬 作良 1952年5月～1955年4月



4代 蜂谷 専一 1955年5月～1965年4月



5代 広川 郁三 1965年5月～1979年3月



6代 橘 富士雄 1979年4月～1985年3月



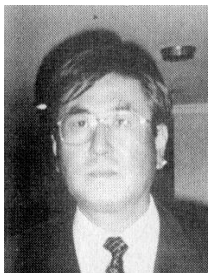
7代 別役 道昌 1985年4月～1989年3月



8代 後藤 隆 1989年4月～1993年3月



9代 伝田 耕平 1993年4月～1997年1月



10代 須賀 禎之 1997年1月～1998年5月



11代 新名 浩 1998年5月～1998年12月



12代 三好 幸彦 1999年1月～2000年4月



13代 貞方 賢彦 2000年5月～2001年12月



14代 工藤 章 2002年1月～2002年12月



15代 田中 信 2003年1月～2009年12月



16代 中山 立夫 2010年1月～

会員数の推移

年	合計				集計日	
1940	51				9 月	
1941						
1942 ↓ 1950	世界大戦勃発のため会議所活動停止					
年	合 計	正会員	備 考			
1951	74	74	会議諸活動再開		6 月	
1952	98	98			4 月	
1953						
1954	73	73	賛助会員新設			
年	合 計	正会員	賛助会員			
1955	93	57	36		4 月	
1956	111	75	36		4 月	
1957	111				4 月	
1958	133	71	62		4 月	
1959	121	69	52		4 月	
1960	140	84	56		4 月	
1961	144	88	56		4 月	
1962	102				4 月	
1963						
1964						
1965	126				4 月	
1966	118				4 月	
1967	207	115	賛助会員 2、購読会員 37、在日会員 53 ※1966 年度事業報告（1966 年 5 月 1 日～ 1967 年 4 月 30 日）の記載による		4 月	
1968	124	118	6		4 月	
1969	101				4 月	
年	合計	日本進出企業	比率	ブラジル企業/外資系企業	個人会員	集計日
1970	102	79	77%	23		4 月

1971	114					4 月
1972	145					4 月
1973	198					4 月
1974	245					4 月
1975	241	212	72%	81		12 月
1976	295					12 月
1977	302					12 月
1978	296					12 月
1979	302					12 月
1980	306	215	70%	91		12 月
1981	321					12 月
1982	327					12 月
1983	321					12 月
1984	322					12 月
1985	322	195	61%	127		12 月
1986	324					12 月
1987	325					12 月
1988	323					12 月
1989	324					12 月
1990	333	186	56%	147		12 月
1991	329	184	56%	145		12 月
1992	319	183	57%	136		12 月
1993	308	180	58%	128		12 月
1994	310	179	58%	131		12 月
1995	307	179	58%	128		12 月
1996	302	164	54%	138		12 月
1997	299	158	53%	141		12 月
1998	285	156	55%	129		12 月
1999	284	158	56%	126		12 月
2000	290	156	54%	134	3	12 月
2001	283	155	55%	128	14	12 月
2002	274	150	55%	124	14	12 月
2003	278	143	51%	135	15	12 月
2004	286	141	49%	145	13	12 月
2005	287	144	50%	143	13	12 月

2006	298	147	49%	151	12	12 月
2007	298	153	51%	145	12	12 月
2008	297	157	53%	140	10	12 月
2009	302	162	54%	140	10	12 月
2010	309	165	53%	144	10	5 月

出典元（定期総会議事録、ブラジル経済情報、ブラジル日本商工会議所ホームページ）

※ 1954 年 7 月 4 日総会で決定された賛助会員の新設は、「ブラジル国内に於いて商社を設立しあらざるも、当国に於いて日本商社を代表し経済活動に従事するものを対象」にしたものであった。

※ 空欄は記録なしにより不詳。

経済協力貢献者表彰／歴代被表彰者一覧

【海外年数（通算）、現職、年齢は表彰当時、受賞地のＳＰはサンパウロ、ＲＩＯはリオデジャネイロ】

表彰年度	氏 名	現 職	海外 年数	年 齢	受賞地
1975	生方泰二	イシブラス副社長	8	60	R I O
	高橋時中	前ウジミナス製鉄所取締役	16	65	R I O
1976	広川郁三	ブラジル日本商工会議 所会頭	38	66	S P
1977	橘富士雄	南米銀行専務取締役	45	66	S P
1978	榛葉隆一	ブラジル東京銀行 常務取締役	37	62	R I O
	山本勝造	山本商会社長	46	69	S P
1979	後藤隆	ブラジルヤンマー社長	22	55	S P
	別役道昌	鐘紡ブラジル社長	17	57	S P
	米倉照夫	ウジミナス製鉄所 取締役補佐	23	61	R I O
1980	酒巻和男	ブラジル・トヨタ自動 車工業社長	11	62	S P
	難波慶治	東洋紡ブラジル 取締役社長	25	56	S P
	西村俊治	ジャクト農機社長	48	70	S P
1981	宇佐美鍊	プロモソン・アグリコ ラ（株）取締役	19	57	R I O
	藤平正義	シブラン商事（株）社 長	51	69	S P
	若林輝男	ヤクルト商工（株）社 長	15	63	S P
1982	植木俊康	前日清アリメントス （有）社長	11	44	S P
	竹中正	竹中商会社長	53	65	S P
	三ツ矢治朗	ブラジル三菱銀行 顧問	30	54	R I O
1983	篠又幸市郎	アメリカ・ラチーナ保	31	54	S P

		険 (株) 専務取締役			
	成富武典	ブラジル特殊陶業 (株) 副社長	3 0	5 9	S P
1984	江坂雅雄	イグアスー・コーヒー (株) 専務取締役	2 3	5 1	S P
	後藤田信行	ROHM IND ELETR LTDA 社長	2 8	5 4	S P
	若松孝司	ソール・ナッセンテ企 業グループ 代表取締役	3 0	5 3	S P
	山縣富士男	山縣建設 (株) 副社長	3 5	6 8	S P
1985	坂西順	元アルプラス社 操業担当取締役	6	6 1	R I O
	水本毅	ブラジル松竹映画 社長	5 6	6 5	S P
	菅原利郎	(有) ユニチカブラジ ル取締役社長	1 3	6 5	S P
1986	稲田耕一	稲田経済コンサルタン ト代表取締役	3 2	5 6	R I O
	佐々木寛	元ブラジル三豊取締役 社長	1 1	5 9	S P
1987	斎藤勇	NHK シメブラ社、 NHK ファスナー社代 表取締役	1 0	6 4	R I O
	中川博通	雪印パラナ精肉 (株) 取締役社長	2 1	5 4	S P
	針金勝	ブラジル三洋電子工業 (株) 取締役会長	2 0	6 5	S P
1988	山田唯資	(株) アイコン・イン ターナショナル・コン サルタントアソシエイ ト取締役社長	3 3	6 3	S P
	山本勝律	南米石川島播磨社長	1 7	5 6	R I O

出典元 (山田唯資氏提供)

ブラジル年表

年	出 来 事
1937	ゼツリオ・バルガスが新国家体制（エスタード・ノーヴォ）樹立（～1945）、独裁色を強める。新憲法布告。政党解散
1938	インテグリスタの反乱。国家石油審議会を設立（石油産業の国有化開始）。移民同化政策開始、外国語学校閉鎖
1939	バルガス、ブラジルは第2次大戦に対し中立を守ると声明発表
1940	最低賃金制導入
1941	最初の一貫製鉄所となる国立製鉄所（C S N）創設。労働裁判所・組合税を導入し組合協調主義強化
1942	ブラジル商船撃沈され、対独・対イタリア宣戦布告
1943	北東部ナタールでバルガス＝ルーズベルト（米）会談。欧州派遣軍結成。
1944	イタリア戦線に派兵
1945	対日宣戦布告（6月）。日本降伏（8月）。軍部の圧力でバルガス辞任（10月）
1946	ドウトラ政権発足、新憲法制定
1947	ソ連と国交断交
1948	ドウトラ大統領が米国訪問
1949	英国がポンドを切り下げたためにブラジルのポンド資産は暴落、この後、イギリスの影響力が減少
1950	バルガスが大統領に当選。テレビ放送の開始
1951	バルガス政権発足
1952	国家経済開発銀行（B N D E）創設
1953	日本人のブラジル移住再開。石油公社ペトロブラス創設
1954	バルガス大統領自殺（8月）。副大統領カフェ・フィーリョが臨時大統領に就任
1956	クビチェック政権発足。経済開発5ヵ年計画「メタス計画」開始。日伯合弁の国営製鉄会社ウジミナス設立
1958	ブラジル日本移民50周年祭、三笠宮殿下ご夫妻が参加して挙行。
1959	クビチェック大統領が国家の尊厳をまもる立場からIMFとの交渉を打ち切り。
1960	ブラジリア遷都

1961	クアドロス大統領就任（1 月）、8 月に就任。ゴラル副大統領が昇格。議員内閣制に変更
1963	国民投票で大統領制に復帰
1964	軍事クーデター（3 月 31 日）。軍政令布告、カステロ・ブランコ将軍が大統領に就任、軍事政権発足（4 月）。キューバと外交関係断絶（5 月）
1965	米州機構（O A S）軍に参加、ドミニカ共和国に派兵（1 月）。軍政令公布により政党解散（10 月）二大政党制導入（11 月）
1966	国会一ヶ月閉鎖（10 月）
1967	年憲法発布（1 月）、皇太子殿下、ブラジルを親善訪問（5 月）
1968	軍政に強権を付与した軍政令 5 号公布国会閉鎖（12 月）
1969	コスタ・エ・シルヴァ大統領が辞任し軍事評議会が国権掌握（8 月）。1969 年憲法発布、メデジシ将軍が大統領就任（10 月）
1970	1970 都市ゲリラが駐サンパウロ日本総領事・大口信夫氏を誘拐（3 月）
1972	ブラジルとコロンビアがアマゾン共同開発計画を発表（4 月）。アマゾン横断道路の建設開始（9 月）
1974	ガイゼル将軍が大統領に就任（3 月）。田中角栄首相来伯（9 月）。総選挙で野党躍進（11 月）
1975	エタノール開発計画を開始
1976	西ドイツと原子力協定締結
1977	国会の閉鎖、選挙制度改革（4 月）
1978	ブラジル日本移民 70 年祭挙行（6 月）。軍政令廃止、政党活動規制緩和（10 月）
1979	フィゲイレード将軍が大統領に就任（3 月）。恩赦法の制定（8 月）。政党法が改正され多党制に移行（11 月）
1980	憲法改正で州知事の直接選挙制復活、上院の間接選出議員廃止（11 月）
1982	労働者党（P T）発足（2 月）
1984	フィゲイレード大統領訪日（5 月）
1985	間接選挙により文民大統領ジュリオ・ネーベス選出（1 月）、大統領就任式（3 月）直前にネーヴェスが病気で倒れのち死亡。副大統領サルネイが暫定大統領を経て大統領就任（4 月）。ブラジル・アルゼンチン両国首脳会談でイグアス宣言に調印（11 月）
1986	インフレ抑制を目指す「クルザード計画」発表（2 月）。キューバとの外交関係回復（6 月）。アルゼンチンと共同市場設立で合意（7 月）。

	「第2次クルザード計画」発表（11月）
1987	外国民間銀行に対する中期債務の利払い停止（2月）。インフレ抑制を目指す「ブレッセル計画」発表（6月）
1988	ブラジル日本移民80年祭挙行（6月）。ブラジル民主社会党（P S D B）結党（6月）。新憲法発布（10月）
1989	新インフレ抑制政策「夏計画」発表（1月）。国民の直接選挙で大統領にフェルナンド・コロール選出（12月）
1990	コロール大統領就任、「コロール計画」発表（3月）。経済自由化に向け新工業・通商政策発表（6月）。アルゼンチンとの首脳会談で94年までに共同市場を創設する事で合意（7月）。同国との共通原子力政策発表（11月）
1991	メルコスール（南米南部共同市場）創設を決定したアスンシオン条約に調印（3月）。国営製鉄会社ウジミナスの民営化（10月）
1992	リオデジャネイロで国連環境会議（地球サミット）開催（6月）。汚職疑惑でコロール大統領が弾劾裁判を受け辞任、イタマル・フランコ副大統領が大統領に就任（12月）
1993	国民投票で大統領制の存続決定（4月）。インフレ抑制政策「レアル・プラン」発表（12月）
1994	新通貨レアルを導入（7月）。大統領選でフェルナンド・エンリケ・カルドーゾが当選（10月）
1995	カルドーゾ大統領就任。メルコスール発足（1月）。日伯修好100周年記念事業が開かれる。
1996	カルドーゾ大統領訪日（3月）。橋本龍太郎首相来伯（8月）
1997	天皇皇后両陛下ご来伯（6月）。憲法修正で大統領・州知事・州都市長の再選認可（6月）
1998	通信公社テレブラスの分割民営化（7月）。ブラジル日本移民90周年祭挙行（6月）。カルドーゾ大統領再選（10月）。国際通貨基金（IMF）から総額415億円ドルの金融支援（11月）
1999	通貨危機を受け変動為替相場制へ移行（1月）。ブラジル＝ボリビア天然ガスパイプライン開通（2月）。リオデジャネイロで第1回ラテン・アメリカ＝ヨーロッパ連合（EU）首脳会議。国会が国防省創設を承認（6月）
2000	ポルトセグーロでブラジル「発見」500年記念式典（4月）。国会で財政責任法成立（5月）。ブラジリアで第1回南米首脳会議（8月）。市長選で労働者党（P T）躍進（10月）
2001	電力不足で節電を義務づけ（6月）。国際通貨基金（IMF）がブラ

	ジルに対し総額 155 億ドルの資金融資枠を決定（9 月）
2002	節電終了（3 月）。大統領・州知事・国会議員・州議会議員選挙。決選投票でレイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァが大統領に当選（10 月）
2003	ルーラ大統領就任、「飢餓撲滅プログラム」を発表（1 月）。メキシコ・カンクンでの世界貿易機構（WTO）閣僚会議で、インド、中国などと共に途上国グループ G20 を結成（9 月）。
2004	ルーラ大統領インド訪問（1 月）。同大統領訪問中、ハイチに平和維持軍派遣（5 月）、小泉首相ブラジル訪問（9 月）
2005	ルーラ大統領訪日（5 月）
2006	大統領選決選投票でルーラが 5800 万票（61%）を獲得し再選（10 月）
2007	乗員乗客合わせて 186 人が搭乗した TAM 航空機（エアバス 320 型）が、サンパウロ・コンゴニャス空港着陸に失敗し、乗客、乗員全員死亡（7 月）
2008	ブラジル日本移民 100 周年祭举行（6 月）
2009	サンパウロ市のジルベルト・カサビ市長が訪日（5 月）

出典元（現代ブラジル事典、ブラジル日本移民・日系社会史年表）

1970年代



産業見本市会場全景（於：サンパウロ市ア
ニャンビー国際見本市会場、1973年3
月26日～4月8日まで）



産業見本市オープニングのテープカット
（中央がラウド・ナテル・サンパウロ州知
事）



会場内を視察する来賓



会場内を視察する来賓



1975年パラグアイ視察
ツアー（ストロエスネル大
統領と会見する参加者一
行、10月）



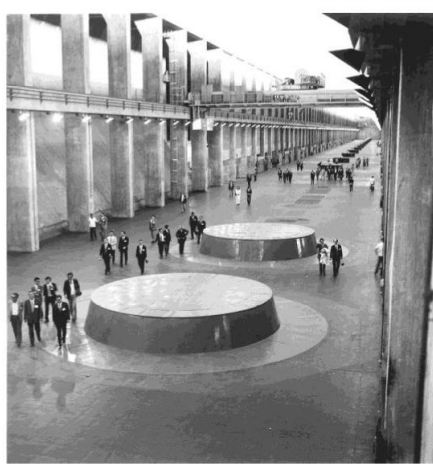
1975年パラグアイ視察
ツアー（ストロエスネル大
統領と会見する参加者一
行、10月）



1976年視察ツアー・リ
オのインプラス造船所訪問



1976年視察ツアー・ウルブプンガ発電所（飛行機から降り立った参加者たち）



ウルブプンガ発電所内部を見て回る参加者たち



ウルブプンガ発電所内部を見て回る参加者たち



ウルブプンガ発電所内部で記念撮影した参加者たち



1976年に行なった忘年会風景



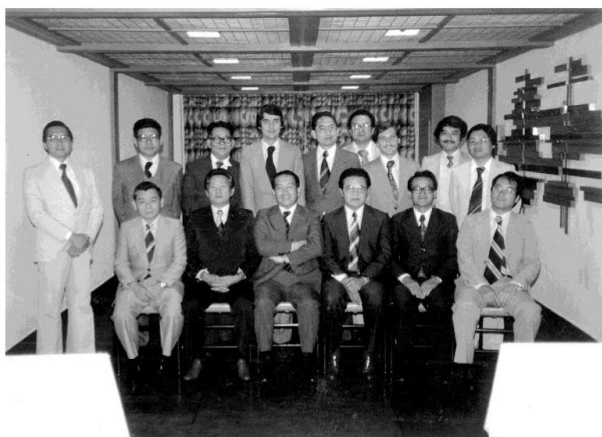
1976年に行なった忘年会風景（右端は平野総領事）



1976年に行なった忘年会風景（中央は橘富士雄南米銀行頭取）



TV RECORDのレポーターMurilo Antunes Alves氏を囲んだ昼食会（1976年12月）



1978年理事会役員の夕食会（於：サンパウロ市内DINHO' SPALACE、12月）



1979年視察ツアー・INDUSTRIAS ROMI 訪問（10月24日）



1979年視察ツアー・ベレン、マナウス訪問

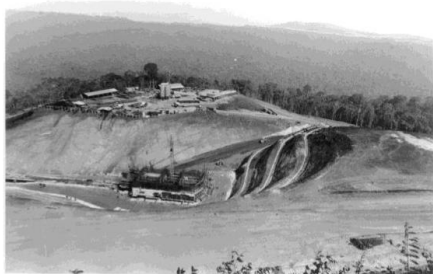
1980年代



1980年8月12日～18日セミナー「日本文化と企業活動におけるその影響」開会式



1980年8月12日～18日セミナー「日本文化と企業活動におけるその影響」参加者



1982年カラジャス鉄鉱山関係視察ツアー（11月25日～26日）



1982年カラジャス鉄鉱山関係視察ツアー（トカンチンス川のツクルイ発電所見学11月25日～26日）



1982年カラジャス鉄鉱山関係視察ツアー（ポンタ・デ・マデ이라港視察、11月25日～26日）



1982年カラジャス鉄鉱山関係視察ツアー参加者（11月25日～26日）



1983年北パラナ地方視
察ツアー（イグアスー・カ
フェ工場視察）



1984年ポツソ・デ・カ
ツダス地方の企業視察ツア
ー（5月11日、12日）



1984年モト・ホンダ工
場視察



1988年リオ・グランデ・ド・スール州視
察ツアー（10月27日～28日）



1988年リオ・グランデ・ド・スール州視
察ツアー（10月27日～28日）



1988年リオ・グランデ・ド・スール州視
察ツアー（10月27日～28日）



1988年リオ・グランデ・ド・スール州視
察ツアー（10月27日～28日）

※ 本記念集を作成するにあたり、下記の資料を参考にしました。

ブラジル日本商工会議所総会議事録

ブラジル日本商工会議所理事会議事録

ブラジル日本商工会議所機関誌『ブラジル経済情報』

ブラジル日本商工会議所ホームページ

現代ブラジル事典（2005 年ブラジル日本商工会議所刊）

ジェトロ『海外市場白書』『ジェトロ白書』

ブラジル日本商工会議所 70 年記録集

発行日：2010 年 7 月

企画・編集：ブラジル日本商工会議所
70 周年記念委員会

発行所：ブラジル日本商工会議所

Av.Paulista, 475 - 13º andar

CEP: 01311-908 São Paulo - SP

電話：+55 (11)3287-6233

FAX：+55 (11) 3284-9424
